

千歳市

キウス7遺跡(5)

—北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成9年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

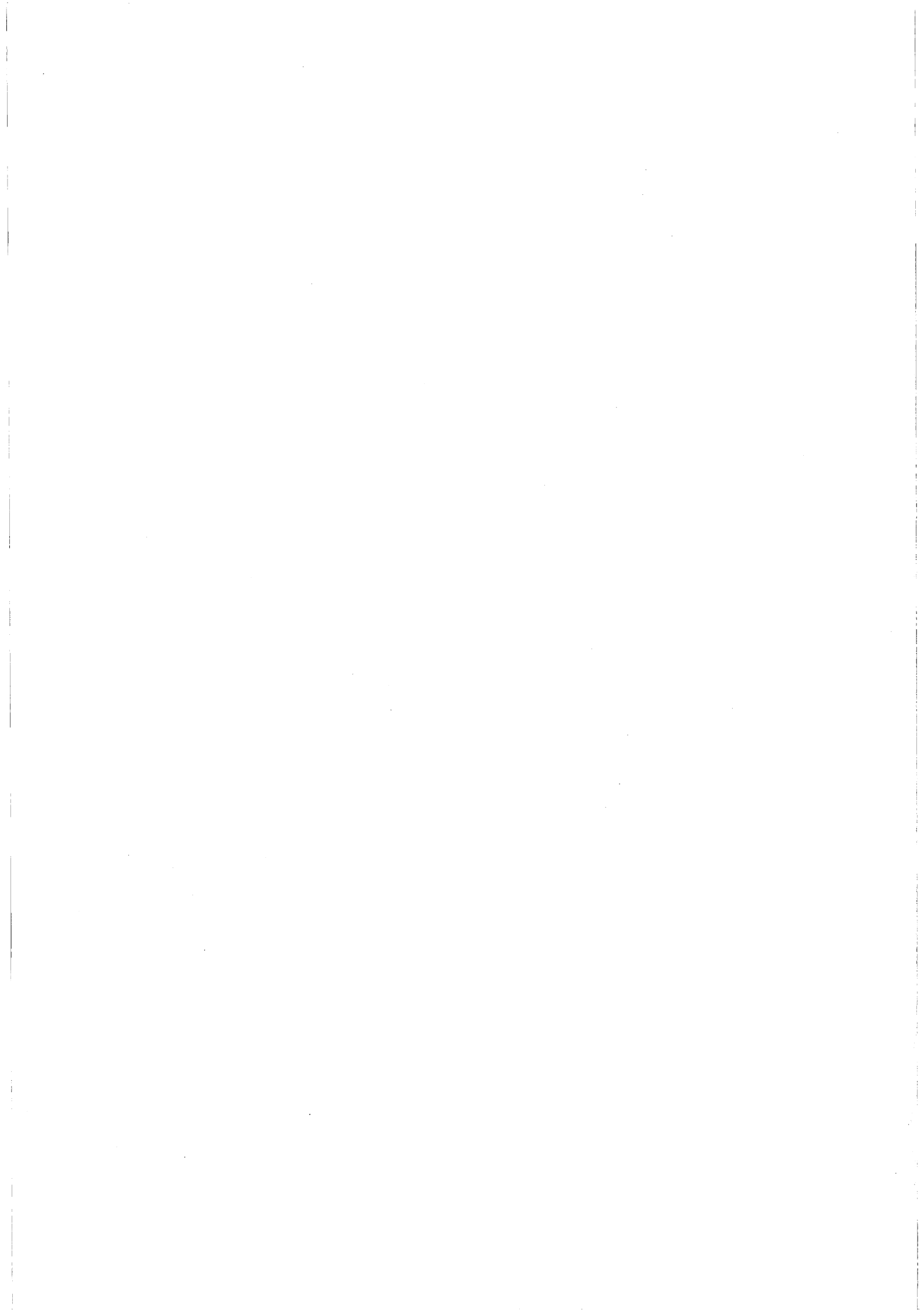
千歳市

キウス7遺跡(5)

—北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成9年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター





1. 遺跡上空からの撮影写真

口絵 2



1. LH-28

NE →



2. LH-29・38

NE →



1. 竪穴住居群

SW→

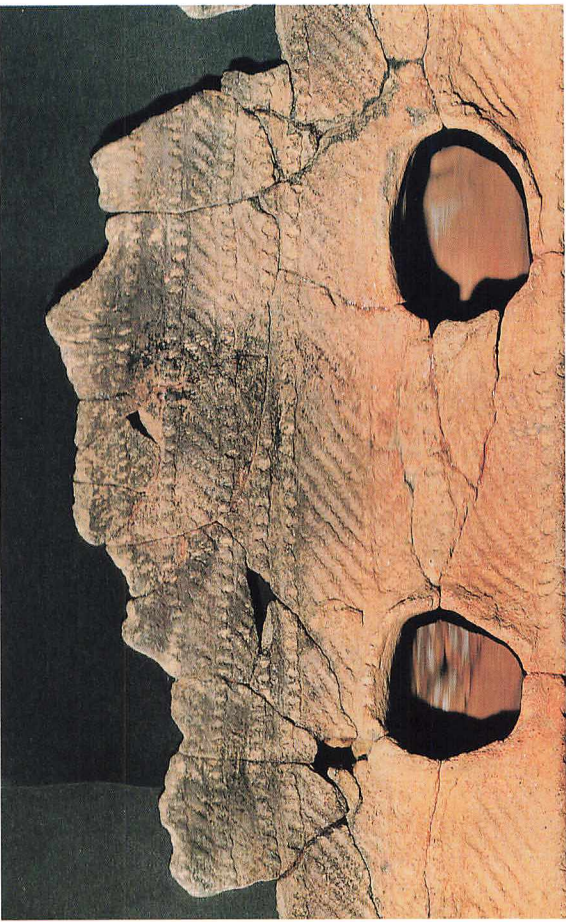
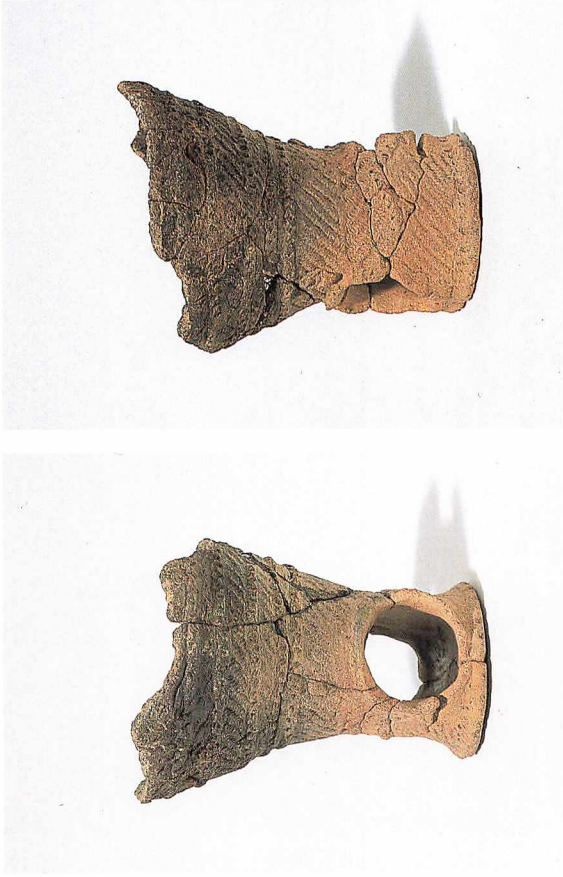


2. LH-32遺物出土状況

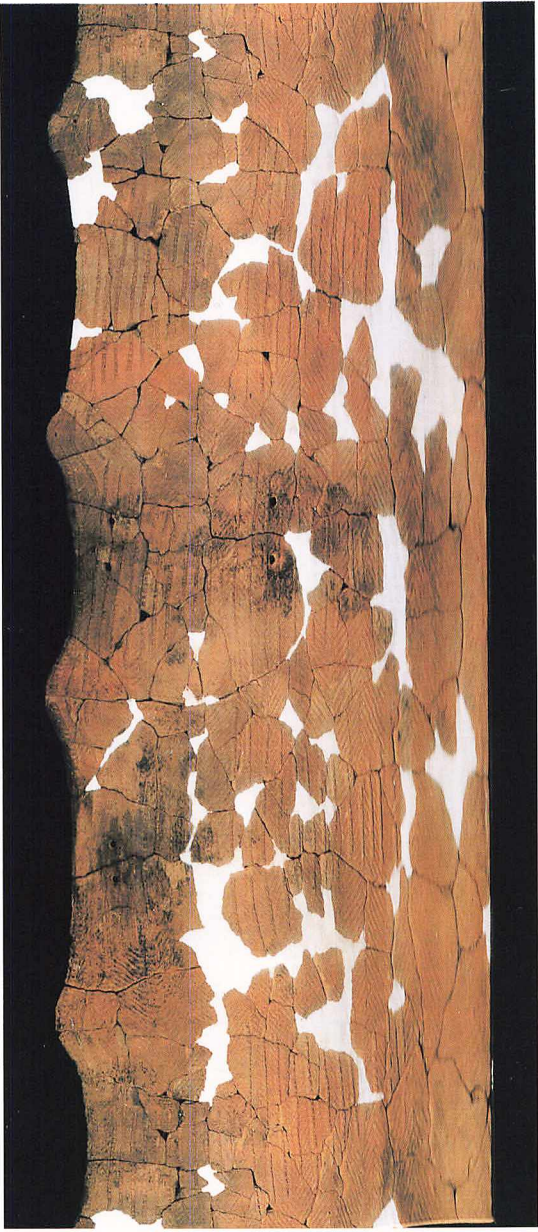


NE→ 3. LH-32コッタロ式異形土器出土状況 NE→

口絵 4



1. LH-32出土コッタロ式異形土器と展開写真



2. LH-38出土コッタロ式土器と展開写真

例 言

- 1 本書は、財団法人北海道埋蔵文化財センターが、平成9年度に実施した北海道横断自動車道（千歳～夕張）建設用地内における埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告である。
- 2 本書の執筆は皆川洋一、笠原 興、編集は皆川洋一が行った。
整理作業の担当者は下記のとおりである。
 - 遺構一皆川洋一、笠原 興
 - 遺構遺物一皆川洋一
 - 包含層土器一皆川洋一
 - 包含層石器一笠原 興
 - 包含層石・土製品一皆川洋一
 - 写真一皆川洋一、笠原 興文責者は文末に記した。
- 3 各種分析等は下記に依頼した。
 - E PMA分析 (株)ジオサイエンス社（次年度以降掲載予定）
 - 黒曜石原産地同定 京都大学原子炉実験所 藁科哲夫
 - 水和層測定 京都大学原子炉実験所 藁科哲夫
 - ¹⁴C年代測定 (株)地球科学研究所
 - 炭化種子同定 札幌国際大学 吉崎昌一
- 4 調査にあたっては、下記の諸機関、各氏から指導・助言をいただいた。（順不同・敬称略）
 - 千歳市教育委員会 高橋 理
 - 京都大学原子炉実験所 藁科哲男
 - 北海道大学 椿坂恭代
 - 札幌国際大学 吉崎昌一
 - 北海道開拓記念館 山田悟郎
 - 仙台市教育委員会 斎野裕彦

記号等の説明

1. 遺構とそれに関わる遺物の表記には以下に示す記号を用いた。
H：住居跡 HP：住居跡に伴うピット HF：住居跡に伴う焼土もしくは炉 P：土壇 S
P：土壇に伴うピット F：焼土 C：炭化物集中 S：集石 なお Ta-c 火山灰より上位の
遺構はU、Ta-cより下位の遺構にはLの文字を遺構記号に冠して遺構の形成された層位を区別
した。
2. 遺構図中の細数字は標高（単位m）である。
3. 平面図の方位記号は真北を示す。遺構や遺物出土状況の平面図は調査方格（グリッド）を縦横の
基準としてA（英字）ラインが図の天、1（数字）ラインが図の左に来るように作成した。
4. 平面図中の+は調査方格（グリッド）の交点を示す。交点の傍らに記した記号（X-73、Y-75-
a、Z-71-b-4など）はその交点の右下に位置する区画の名称に一致している。
5. 図の縮尺は概ね次のように統一し、またスケールバーを添えて縮尺を明らかにしてある。
土層断面図・遺構図：40分の1 遺物出土状況詳細図：20分の1または40分の1 土器実測図・
拓影：3分の1 剥片石器類・石斧・土製品・石製品実測図：2分の1 石斧を除く礫石器類実
測図：3分の1または4分の1 復元土器写真：3分の1 拓影土器写真：2分の1 剥片石器
類・石斧・土製品・石製品写真：5分の3 石斧を除く礫石器類写真：2分の1または3分の1
スケール付加のものはそれを参照。
6. 遺構図・遺物出土状況図では次のような記号によって説明を行った。
F：焼土 C：炭化物 P：土器 S：剥片石器・礫石器・礫・礫片
なお、遺物の出土状況図については必要に応じて図中に凡例を加えている。
7. 文中での遺構の規模は「確認面での長軸長×短軸長／床（底）面での長軸長×短軸長／確認面か
らの最大深」の要領で記した。一部壊されているものは現存長を（ ）で示し、不明の場合は一
の記号で示した。
8. 土層の色調は『新版標準土色帳（1997年版）』（小山・竹原 1967）に従って記載した。
9. 土層の記述には下記の記号、略称を用いた場合がある。
樽前a 降下軽石堆積物：Ta-a、白頭山-苦小牧火山灰：B-Tm、樽前c 降下火砕堆積物：Ta-
c、樽前d₂降下スコリア：Ta-d₂、恵庭a 降下軽石堆積物：En-a、恵庭a 降下軽石堆積物起源
のローム層：En-L、恵庭a 降下軽石堆積物のうち未風化の軽石礫：En-P
10. 遺構覆土等における土壌・堆積物の混在状態を下記のように表現した場合がある。
A+B：AとBがほぼ等量に混じる。
A>B：AにBが少量混じる。
A>>B：AにBが微量混じる。
11. 土器の大きさは最大口径、最大底径、最大器高、石器・土製品・石製品等の大きさは最大長、最
大幅、最大厚の順で記した。破損しているものについてはその数値を（ ）で括弧してある。
12. 遺構遺物図の掲載番号右に付される記号「●」は床出土のものに付したものである。その下位に
は複数の遺構との間で接合関係を持つものについて遺構番号を（ ）で括弧記入してある。
13. 遺構遺物出土状況図で横からの見通し図に関しては平面に対してLHが1：4、LPが1：2の
割合で拡大して示した。

目 次

口絵 (カラー写真)

例言

記号等の説明

目次

挿図目次

表目次

図版目次

口絵目次

I	調査の概要	1
1	調査要項	1
2	調査体制	1
3	調査に至る経緯と経過	1
4	調査の成果	1
5	立地と環境	3
6	調査区の設定	4
7	旧石器確認調査	8
8	遺物の分類	9
	(1) 土器	9
	(2) 石器	10
	(3) 石・土製品	12
	(4) 自然遺物	12
9	過年度の調査結果	13
II	土層	29
1	土層の区分	29
III	Ta-c 上位の遺構	31
1	土壌	31
2	焼土	31
IV	Ta-c 下位の遺構	35
1	住居跡	41
2	土壌	112
3	焼土	140
4	炭化物集中	152
5	集石	154

V	包含層の遺物	155
1	土器	155
2	石器	176
3	旧石器	189
4	石・土製品	195

資料一覧196

VI	自然科学分析	233
1	キウス7遺跡：放射性炭素年代測定	233
2	キウス7遺跡出土の黒曜石の産地同定	235
3	キウス7遺跡出土の炭化種子	249
VII	まとめ	251
1	遺構	251
a	早期	251
b	中期	258
c	後期	258
d	晩期	258
e	フローテーションの成果	259
2	遺物	262
a	遺構と包含層の土器	262
b	遺構の石器	265
c	包含層の石器	266

参考文献270

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

I 調査の概要	1	図IV-18 LH-32の遺物(1)	66
図I-1 遺跡の位置	2	図IV-19 LH-32の遺物(2)	67
図I-2 遺跡範囲とキウス各遺跡の調査区形	5	図IV-20 LH-32の遺物(3)	68
図I-3 キウス7各遺跡周辺の地形	6	図IV-21 LH-33	70
図I-4 調査区の設定	7	図IV-22 LH-33の遺物と出土状況	71
図I-5 旧石器確認調査範囲	8	図IV-23 LH-34の遺物(1)	72
図I-6 過年度の調査結果	14	図IV-24 LH-34	73
		図IV-25 LH-34の遺物(2)	75
II 土層	29	図IV-26 LH-35	77
図II-1 土層図断面図	29	図IV-27 LH-35内ピットセクションと遺物	78
図II-2 キウス7遺跡各部の柱状土層模式図	30	図IV-28 LH-35の遺物出土状況	79
		図IV-29 LH-36	81
III Ta-c 上位の調査	31	図IV-30 LH-36の遺物(1)	82
図III-1 UP-60・61・62、 UF-76・77・78	32	図IV-31 LH-36の遺物(2)	83
図III-2 IV層上面の地形と遺構配置	33	図IV-32 LH-36の遺物出土状況	84
		図IV-33 LH-37	86
IV Ta-c 下位の遺構	35	図IV-34 LH-37の遺物	87
1 住居跡	35	図IV-35 LH-37の遺物出土状況	88
図IV-1 V層上面の地形と 遺構掘り上げ土範囲	37	図IV-36 LH-38	90
図IV-2 VI層上面の地形と遺構配置	39	図IV-37 LH-38の遺物	91
図IV-3 LH-28遺物出土状況と遺物(1)	42	図IV-38 LH-38の遺物出土状況	92
図IV-4 LH-28	43	図IV-39 LH-39の遺物(1)と炭化材出土状況	94
図IV-5 LH-28の遺物(2)	45	図IV-40 LH-39	95
図IV-6 LH-29	47	図IV-41 LH-39の遺物(2)	97
図IV-7 LH-29の遺物	49	図IV-42 LH-39遺物出土状況	98
図IV-8 LH-29の遺物出土状況	50	図IV-43 LH-40	100
図IV-9 LH-30の遺物(1)	52	図IV-44 LH-41	101
図IV-10 LH-30	53	図IV-45 LH-42	103
図IV-11 LH-30の遺物(2)と遺物出土状況	55	図IV-46 LH-42の遺物	105
図IV-12 LH-31	57	図IV-47 LH-42遺物出土状況	106
図IV-13 LH-31の遺物(1)	59	図IV-48 LH-43の遺物(1)	108
図IV-14 LH-31の遺物(2)	60	図IV-49 LH-43	109
図IV-15 LH-31の遺物出土状況	61	図IV-50 LH-43の遺物(2)と遺物出土状況	111
図IV-16 LH-32	63	2 土壌	112
図IV-17 LH-32の遺物出土状況	65	図IV-51 LP-78・79・80	113
		図IV-52 LP-81	114
		図IV-53 LP-81の遺物と遺物出土状況	115

図Ⅳ-54	LP-82の遺物と遺物出土状況	117	図Ⅴ-10	土器(6)	169
図Ⅳ-55	LP-83・84	118	図Ⅴ-11	土器(7)	170
図Ⅳ-56	LP-85	119	図Ⅴ-12	土器(8)	171
図Ⅳ-57	LP-86・87・88・90・92	120	図Ⅴ-13	土器(9)	172
図Ⅳ-58	LP-89	122	図Ⅴ-14	土器(10)	173
図Ⅳ-59	LP-89の遺物と遺物出土状況	123	図Ⅴ-15	土器(11)	174
図Ⅳ-60	LP-91	124	図Ⅴ-16	土器(12)	175
図Ⅳ-61	LP-91の遺物	125	2 石器		176
図Ⅳ-62	LP-93	126	図Ⅴ-17	石器分布図(1)	178
図Ⅳ-63	LP-93の遺物	127	図Ⅴ-18	石器分布図(2)	179
図Ⅳ-64	LP-93の遺物出土状況	128	図Ⅴ-19	石器分布図(3)	180
図Ⅳ-65	LP-94	129	図Ⅴ-20	石器分布図(4)	181
図Ⅳ-66	LP-95	130	図Ⅴ-21	石器分布図(5)	182
図Ⅳ-67	LP-96	132	図Ⅴ-22	石器分布図(6)	183
図Ⅳ-68	LP-97	133	図Ⅴ-23	石器(1)	184
図Ⅳ-69	LP-97の遺物と遺物出土状況	134	図Ⅴ-24	石器(2)	185
図Ⅳ-70	LP-98・99	135	図Ⅴ-25	石器(3)	186
図Ⅳ-71	LP-100~106の配置	136	図Ⅴ-26	石器(4)	187
図Ⅳ-72	LP-100・101・102・106	137	図Ⅴ-27	石器(5)	188
図Ⅳ-73	LP-103・104・105・107	138	3 旧石器		189
3 焼土		140	図Ⅴ-28	包含層出土旧石器点数図(1)	191
図Ⅳ-74	焼土(1)	142	図Ⅴ-29	包含層出土旧石器点数図(2)	192
図Ⅳ-75	焼土(2)	143	図Ⅴ-30	包含層出土旧石器点数図(3)	193
図Ⅳ-76	焼土(3)	144	図Ⅴ-31	包含層出土の旧石器	194
図Ⅳ-77	焼土(4)	145	4 石・土製品		195
図Ⅳ-78	焼土(5)・集石	146	図Ⅴ-32	石・土製品	195
図Ⅳ-79	炭化物集中	147	Ⅵ 科学的分析		233
4 炭化物集中		152	図Ⅵ-2-1	黒曜石原産地	240
Ⅴ 包含層の遺物		155	Ⅶ まとめ		251
1 土器		155	図Ⅶ-1	早期後半の遺構配置と類例他	253
図Ⅴ-1	土器分布図(1)	156	図Ⅶ-2	大型柱穴状遺構の位置と調査範囲	255
図Ⅴ-2	土器分布図(2)	157	図Ⅶ-3	大型柱穴状遺構の断面図	256
図Ⅴ-3	土器分布図(3)	158	図Ⅶ-4	縄文時代中~晩期の遺構配置	257
図Ⅴ-4	土器分布図(4)	159	図Ⅶ-5	炭化種子を採取した住居と 土壌サンプルメッシュ	261
図Ⅴ-5	土器(1)	164	図Ⅶ-6	I群b-2類土器の出土位置	263
図Ⅴ-6	土器(2)	165	図Ⅶ-7	石器属性グラフ(1)	268
図Ⅴ-7	土器(3)	166	図Ⅶ-8	石器属性グラフ	269
図Ⅴ-8	土器(4)	167			
図Ⅴ-9	土器(5)	168			

表 目 次

I 調査の概要	
表 I-1 層位別遺構数一覧	3
表 I-2 遺構出土遺物数一覧	3
表 I-3 包含層出土遺物数一覧	3
表 I-4 年度別調査期間・面積一覧	13
表 I-5 年度別検出遺構一覧	13
表 I-6 年度別出土遺物一覧	13
表 I-7 過年度検出遺構一覧	15
IV Ta-c 下位の遺構	35
表 IV-1 検出遺構一覧	35
V 包含層の遺物	155
1 土器	155
表 V-1 出土土器一覧	155
3 旧石器	189
表 V-2 旧石器時代一覧	190
4 石・土製品	195
表 V-3 出土石・土製品一覧	195
資料一覧	
表 V-4 検出遺構一覧	196
表 V-5 遺構出土遺物一覧	199
表 V-6 掲載土器一覧	209
表 V-7 遺構掲載石器、石・土製品	219
表 V-8 包含層掲載土器一覧	222
表 V-9 復元土器規模一覧	230
表 V-10 包含層掲載石器一覧	231
VI 自然科学分析	233
表 VI-2-1 各黒曜石の原産地における原石群 の元素比の平均値と標準偏差値	241
表 VI-2-2 キウス7遺跡出土黒曜石製遺物の 元素比分析結果	245
表 VI-2-3 キウス7遺跡出土の黒曜石製遺物の 原産地推定および水和層結果（北海道千歳市）	246
表 VI-2-4 黒曜石原産地分析・年代測定試料	248
表 VI-3-1 キウス7遺跡出土炭化種子一覧	250
VII まとめ	251
表 VII-1 早期後半住居の出土遺物点数	252
表 VII-2 フローテーション成果資料一覧	260

図版目次

図版VI-3-1 炭化種子

図版-1

1. 調査前風景……………NE→
2. Ta-a 除去前……………S→

図版-2

1. 基本土層……………E→
2. III層調査状況……………NE→

図版-3

1. UP-62セクション……………S→
2. UP-62遺物出土状況……………S→
3. UF-76検出状況……………E→
4. III層遺物出土状況……………E→
5. III層VI群土器出土状況……………N→
6. III層礫石器出土状況……………E→

図版-4

1. V層調査前……………S→
2. V層調査状況……………W→

図版-5

1. V層遺構調査状況……………W→
2. V層住居跡群検出状況……………S→

図版-6

1. LH-28完掘状況……………E→
2. LH-28セクション……………N→

図版-7

1. 主柱穴HP-2セクション……………SW→
2. 主柱穴HP-2完掘……………SW→
3. 柱穴検出状況……………S→
4. LH-28柱穴等調査状況……………N→
5. 柱穴HP-5セクション……………W→
6. 柱穴HP-5完掘……………W→
7. 覆土中遺物出土状況……………NE→
8. 床遺物出土状況……………W→

図版-8

1. LH-29 完掘……………E→
2. LH-30 完掘……………S→

図版-9

1. LH-29 炉跡 (HF-1)
セクション……………E→
2. LH-29床面台石出土状況……………NW→
3. LH-30床面土壌サンプリング状況…S→
4. LH-30炉跡 (HF-1)
セクション……………SE→
5. LH-30セクション……………SE→

図版-10

1. LH-32完掘……………NE→
2. LH-32セクション……………SE→

図版-11

1. LH-32遺物出土状況(1)……………S→
2. LH-32遺物出土状況(2)……………N→
3. LH-32遺物出土状況(3)……………NE→
4. LH-32遺物出土状況(4)……………N→
5. LH-32遺物出土状況(5)……………SE→
6. LH-32遺物出土状況(6)……………N→

図版-12

1. LH-33完掘……………NE→
2. LH-33遺物出土状況(1)……………W→
3. LH-33遺物出土状況(2)……………N→
4. LH-34 HP-2 セクション……………N→
5. LH-34 HP-2 完掘……………S→

図版-13

1. LH-34完掘……………SW→
2. LH-34セクション……………NW→
3. LH-34 HP-1 完掘……………S→
4. LH-34石囲い炉 (HF-1)
検出状況……………N→

図版-14

1. LH-35完掘……………NE→
2. LH-35セクション……………S→
3. LH-35遺物出土状況……………NW→
4. LH-35 HP-1 セクション……………SE→
5. HP-1 セクションアップ……………E→
6. LH-35 HP-1 木質?部分……………SE→

図版-15

1. LH-36完掘……………NE→
2. LH-36セクション……………SW→
3. LH-36遺物出土状況……………N→
4. LH-36炉跡(HF-1)
セクション……………S→

図版-16

1. LH-37完掘……………NE→
2. LH-37セクション……………SW→
3. LH-37石囲い炉(HF-1) ……NE→

図版-17

1. LH-38セクション……………SW→
2. LH-38床遺物出土状況……………N→

図版-18

1. LH-39完掘……………NE→
2. LH-39炉跡(HF-1)
セクション……………E→
3. LH-39HP-1遺物出土状況 ……NE→
4. LH-39東壁際の周溝 ……N→

図版-19

1. LH-39HP-2セクション ……S→
2. LH-39HP-3セクション ……W→
3. LH-39遺物出土状況……………NW→
4. LH-39調査状況……………W→
5. LH-39炭化材検出状況……………NW→

図版-20

1. LH-40完掘……………E→
2. LH-40南北セクション……………E→
3. LH-40東西セクション……………S→
4. LH-40HF-1検出状況 ……S→
5. LH-40HF-1配石検出状況 ……E→

図版-21

1. LH-41完掘……………E→
2. LH-41東西セクション……………S→
3. LH-41遺物出土状況……………NE→

図版-22

1. LH-42完掘……………NE→
2. LH-42炉跡(HF-1)
セクション……………SW→

3. LH-42炉跡(HF-2)と
遺物出土状況……………NE→
4. LH-42調査状況……………W→

図版-23

1. LH-43完掘……………N→
2. LH-43灰?集中(HF-4)
検出状況……………S→
3. LH-43遺物出土状況……………W→
4. LH-43HP-2遺物出土状況 ……E→

図版-24

1. LP-78完掘……………N→
2. LP-78セクション……………S→
3. LP-79完掘……………S→
4. LP-79セクション……………S→
5. LP-80完掘……………S→

図版-25

1. LP-81完掘……………S→
2. LP-81セクション……………SE→
3. LP-81壁際床面遺物出土状況 ……NE→

図版-26

1. LP-82完掘……………SW→
2. LP-82セクション……………SW→
3. LP-82遺物出土状況……………NE→
4. LP-83完掘……………S→
5. LP-83セクション……………SW→

図版-27

1. LP-84完掘……………S→
2. LP-84セクション……………NE→
3. LP-85完掘……………NW→
4. LP-85セクション……………S→

図版-28

1. LP-87完掘……………S→
2. LP-88セクション……………N→
3. LP-89完掘……………S→
4. LP-89セクション……………S→
5. LP-89遺物出土状況……………S→

図版-29

1. LP-91完掘……………S→
2. LP-91セクション……………SW→
3. LP-91遺物出土状況……………W→

図版-30

- 1. LP-90完掘……………S→
- 2. LP-90遺物出土状況……………S→
- 3. LP-93完掘……………SE→
- 4. LP-93セクション・
遺物出土状況……………SE→

図版-31

- 1. LP-94完掘・遺物出土状況……………SW→
- 2. LP-94セクション……………S→
- 3. LP-95遺物出土状況……………E→
- 4. LP-95完掘……………S→
- 5. LP-98完掘……………N→
- 6. LP-98セクション……………E→

図版-32

- 1. LP-96完掘……………S→
- 2. LP-96セクション……………S→
- 3. LP-96遺物出土状況……………SE→

図版-33

- 1. LP-97完掘……………S→
- 2. LP-97セクション……………SW→
- 3. LP-97遺物出土状況……………NE→

図版-34

- 1. LP-99完掘……………N→
- 2. LP-99セクション……………E→
- 3. LH-32 HP-10セクション ……SE→
- 4. LP-108セクション ……NE→
- 5. LP-108セクション2 ……NW→
- 6. LF-255検出状況 ……SE→
- 7. LF-255セクション ……S→

図版-35

- 1. V~VI層I群b-2類
土器出土状況(1)……………S→
- 2. V~VI層I群b-2類
土器出土状況(2)……………E→
- 3. V~VI層I群b-2類
土器出土状況(3)……………S→
- 4. V層VI群b類土器出土状況(1)……………N→
- 5. V層遺物出土状況(2)……………N→
- 6. V層石器類出土状況(1)……………SW→
- 7. V層石器類出土状況(1)……………S→

- 8. V層と土製品土状(1)……………N→

図版-36

- 1. VI~VII層旧石器出土状況(1)……………SE→
- 2. VI~VII層旧石器出土状況(2)……………E→
- 3. VI~VII層彫器出土状況……………E→

図版-37

- 1. VIII層下位の地層とIX層上面の地形……………S→
- 2. IX層の調査(南北トレンチ) ……S→
- 3. IX層の調査(南北トレンチ) ……E→

図版-38 遺構の遺物(1)・LH-28

図版-39 遺構の遺物(2)・LH-28

図版-40 遺構の遺物(3)・LH-29

図版-41 遺構の遺物(4)・LH-30

図版-42 遺構の遺物(5)・LH-30

図版-43 遺構の遺物(6)・LH-31

図版-44 遺構の遺物(7)・LH-31

図版-45 遺構の遺物(8)・LH-32

図版-46 遺構の遺物(9)・LH-32

図版-47 遺構の遺物(10)・LH-32

図版-48 遺構の遺物(11)・LH-33・34

図版-49 遺構の遺物(12)・LH-34

図版-50 遺構の遺物(13)・LH-35

図版-51 遺構の遺物(14)・LH-36

図版-52 遺構の遺物(15)・LH-36

図版-53 遺構の遺物(16)・LH-37

図版-54 遺構の遺物(17)・LH-38

図版-55 遺構の遺物(18)・LH-39

図版-56 遺構の遺物(19)・LH-39・40・41

図版-57 遺構の遺物(20)・LH-42

図版-58 遺構の遺物(21)・LH-42

図版-59 遺構の遺物(22)・LH-43

図版-60 遺構の遺物(23)・LH-43・LP-81

図版-61 遺構の遺物(24)・LP-82・89・91

図版-62 遺構の遺物(25)・LP-93

図版-63 遺構の遺物(26)・LP-97

図版-64 遺構の遺物(27)・LP-95・96、
LF-264・265・272・275、
LC-6、LS-1

図版-65 遺構の遺物(28)

図版-66 遺構の遺物(29)

図版-67 遺構の遺物(30)
図版-68 遺構の遺物(31)
図版-69 遺構の遺物(32)
図版-70 土器(1)
図版-71 土器(2)
図版-72 土器(3)
図版-73 土器(4)
図版-74 土器(5)
図版-75 土器(6)
図版-76 土器(7)
図版-77 土器(8)
図版-78 土器(9)
図版-79 土器(10)
図版-80 土器(11)

図版-81 土器(12)
図版-82 土器(13)
図版-83 土器(14)
図版-84 土器(15)
図版-85 土器(16)
図版-86 土器(17)
図版-87 土器(18)
図版-88 石器(1)
図版-89 石器(2)
図版-90 石器(3)
図版-91 石器(4)
図版-92 石器(5)
図版-93 旧石器
図版-94 黒曜石原産地分析・年代測定試料

目 次

目次 1

1. 遺跡上空からの撮影写真

目次 2

1. LH-28.....NE→
2. LH-29・38.....NE→

目次 3

1. 竪穴住居群.....SW→
2. LH-32遺物出土状況.....NE→
3. LH-32コッタロ式異形土器出土状況
.....NE→

目次 4

1. LH-32出土コッタロ式異形土器と展開写真
2. LH-38出土コッタロ式土器と展開写真

I 調査の概要

1. 調査要項

事業名：北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査

委託者：日本道路公団北海道支社

受託者：財団法人北海道埋蔵文化財センター

調査期間：平成9年4月1日～平成10年3月31日

遺跡名：キウス7遺跡

登録番号：A-03-265

所在地：千歳市中央852-75ほか

調査面積：3,316㎡

発掘期間：平成9年4月1日～平成9年10月31日

2. 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター	理事長	伊藤 一夫
	専務理事	佐藤 哲人
	常務理事	柴田 忠昭
	第2調査部長	鬼柳 彰
	第2調査部第4調査課長	熊谷 仁志（発掘担当者）
	主任	皆川 洋一（発掘担当者）
	主任	鎌田 望
	主任	笠原 興
	文化財保護主事	柳瀬 由佳

3. 調査に至る経緯と経過

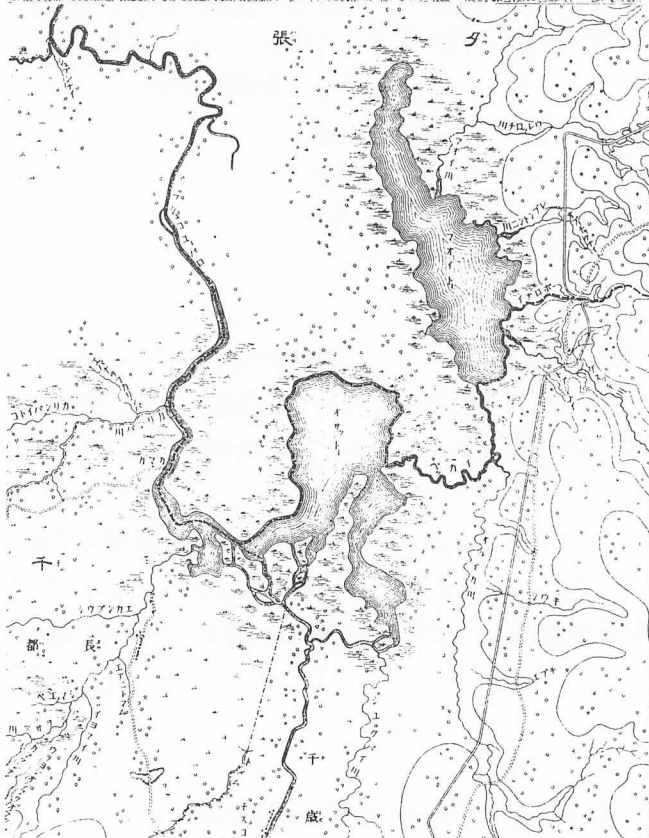
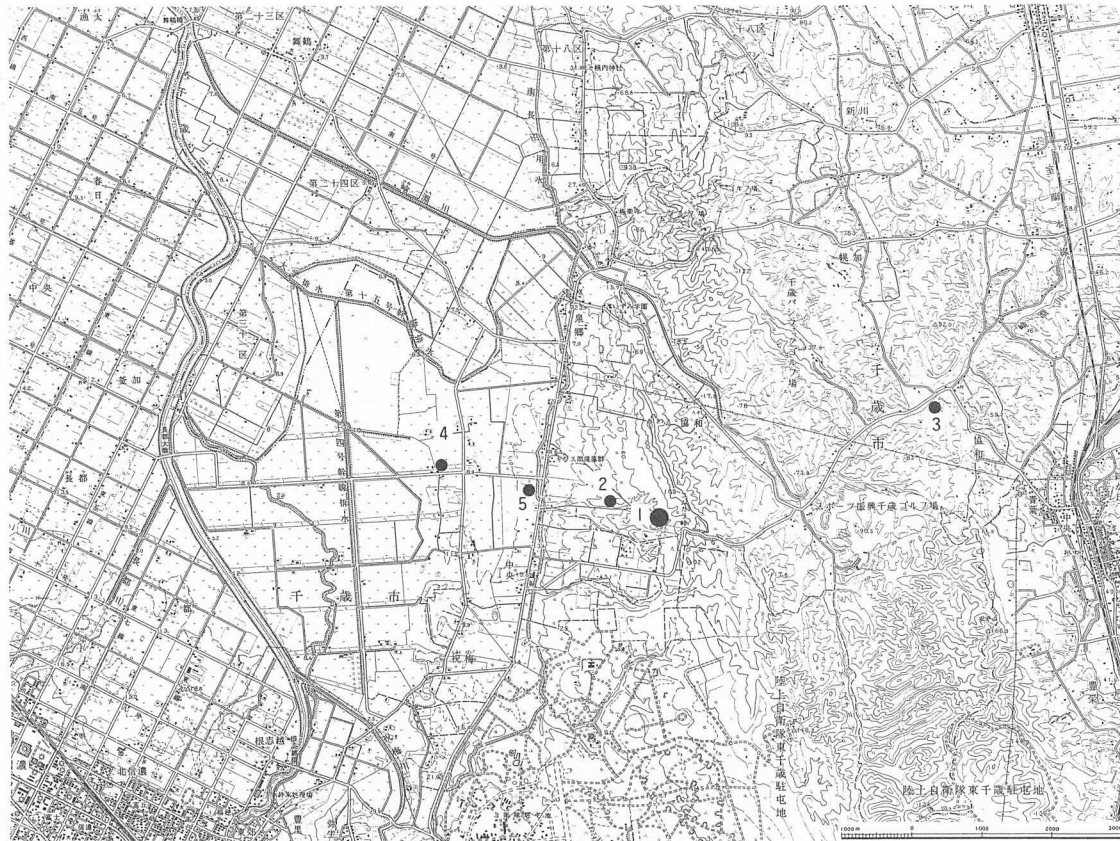
北海道横断自動車道（千歳～夕張）建設工事予定地内にあつて、工事計画の変更が不可能であることから、記録保存のための発掘調査を必要とする埋蔵文化財埋蔵地は、千歳市に10ヵ所、恵庭市と由仁町にそれぞれ2ヵ所、夕張市に3ヵ所の計17遺跡が確認されている。発掘調査は工事の優先順位に従つて、平成5年度から実施に移されている。

北海道教育委員会の指示により、昨年度迄に当センターが調査したキウス7遺跡の面積は平成5年に5,613㎡、平成6年に1,600㎡、平成7年に9,570㎡、平成8年に1,720㎡である。本年度はパーキングエリア建設予定地の南側台地上2,900㎡に拡張部の416㎡を加えた3,316㎡を対象に調査報告を行う。
（皆川洋一）

4. 調査の成果（表I-1～3）

調査の結果、旧石器時代、縄文時代早・中～晩期、続縄文時代の遺構・遺物が多数見つかつている。

主体となるのは縄文時代早期後半（コッタロ式期）のもので、これらは当時、営まれていた集落の所産と考えられる。加速器使用の炭素年代測定ではB.P.6,900年代前半の値が出ている（VI章1節）。他には旧石器のブロックが1ヵ所、縄文中期後半の焼失家屋、後期前半の竪穴住居跡などが見つかつ



横断自動車道（千歳夕張間）関連の遺跡

- 1 キウス7遺跡
- 2 キウス5遺跡
- 3 ケネフチ8遺跡
- 4 オサツトー1遺跡 5 キウス4遺跡



図 I - 1 遺跡の位置

(これらの地図は、上段が国土地理院の発行した5万分の1地形図「恵庭」・「追分」、下段が北海道仮製5万分一図「長都」(明治29年発行)を使用したものである。)

I 調査の概要

ている。旧石器の年代は、黒曜石の水和層厚から換算した推定で、細石刃が9,000年代～13,000年代で、ピークは9,000年代と12,000年代である。また、細石刃核は11,000～12,000年代の値が出ている。原産地は細石刃が十勝、細石刃核が十勝と赤井川である（Ⅵ章2節）。以下、遺構・遺物の出土傾向は、表Ⅰ-1～3に示した通りである。本報告において、検出された各遺構は作られた層位にしたがって、Ta-c（Ⅳ層）の上位（Ⅲ層）と下位（Ⅴ～Ⅵ層）とに分けて報告を行う。遺物は分類毎に報告を行う。（皆川）

表Ⅰ-1 層位別遺構数一覧

	住居跡(H)	土壌(P)	焼土(F)	炭化物集中(C)	礫集中(S)	合計
Ta-c上位(U)	—	UP-60～62	UF-76～78	—	—	—
数量	0	3	3	0	0	6
Ta-c下位(L)	LH-28～43	LP-78～107	LF-253～286	LC-1～8	LS-1	—
数量	16	30	34	8	1	89
合計	16	33	37	8	1	95

表Ⅰ-2 遺構出土遺物数一覧

	遺構	縄文早期土器	縄文前期土器	縄文中期土器	縄文後期土器	縄文晩期土器	統縄文土器	旧石器	時期不明土器	計
Ta-c 層上位	UP									
	UF	1								1
	小計	1	0	0	0	0	0	0	0	1
Ta-c 層下位	LH	1,378		133	1,125			10	2	2,648
	LP	1,629		1	661				2	2,293
	LF	10			18					28
	LC									
	LS									
	小計	3,018	0	134	1,804	0	0	10	4	4,970
	遺構	剝片石器	礫石器	剝片石屑等	石核類	礫・礫片等	石製品	土製品	自然遺物	
Ta-c 層上位	UP					5			有	5
	UF			5						5
	小計	0	0	5	0	5	0	0		10
Ta-c 層下位	LH	116	118	1,986	3	418	2	12	有	2,655
	LP	26	22	1,326	1	108			有	1,483
	LF	3	1	8		203			有	215
	LC		1	1		2			有	4
	LS			4		897			有	901
	小計	145	142	3,325	4	1,628	2	12		5,258
									計	10,238

表Ⅰ-3 包含層出土遺物数一覧

層位	縄文早期土器	縄文前期土器	縄文中期土器	縄文後期土器	縄文晩期土器	統縄文土器	旧石器	時期不明土器	計
Ⅲ層	71		5	79	29	403	6		593
Ⅳ層	32			45	3				80
Ⅴ層	2,800		55	1,035	21	23	11	1	3,946
Ⅵ層	563		8	72			67		710
Ⅶ層	1			1					2
Ⅷ層	1								1
層不明				3					3
攪乱	20			4					24
排土	1								1
層不明	2								2
小計	3,491	0	68	1,239	53	426	84	1	5,362
遺構	剝片石器	礫石器	剝片石屑等	石核類	礫・礫片等	石製品	土製品	自然遺物	
Ⅲ層	47	33	236	1	205			有	522
Ⅳ層	4	10	13	1	28			有	56
Ⅴ層	177	242	1,122	10	976	2	5	有	2,534
Ⅵ層	21	21	324		138	1		有	505
Ⅶ層		1	12		3				16
Ⅷ層					15				15
表採			1						1
攪乱			3		1				4
層不明								有	0
小計	249	307	1,711	12	1,366	3	5		3,653
								計	9,015

5. 立地と環境 (図 I-1~3)

北海道の西部およそ東経141°から142°の間には石狩湾から勇払平野に至る札幌—苫小牧低地帯が広がり、島の主部と南西部の境界をなしている。この低地帯は支笏火山の形成した火砕岩台地によって千歳市南部を分水嶺に日本海側と太平洋側とに分かたれているが、日本海斜面のうち特に扇状地の発達しないその南東部では分水嶺近くまで低平で、千歳川から東方にはかつて広大な湿地帯が形成されていた。戦後干拓事業が本格化するまでは千歳川に接して長都沼、その東に馬追沼が連なり、東方に連なる馬追丘陵の麓近くまで湛水地帯が広がっていた。キウス川は丘陵の西斜面からこの湿原へ注ぐ小河川の一つで、丘陵の前縁から谷筋に沿って、上流近くまで遺跡の分布が確認されている。(図 I-1)。今回の調査地点はキウス川の谷を約1.5km東方へ入った右岸にあって、地籍は千歳市字中央852-75ほかである。

「キウス」は現在の字中央付近に当たる旧字名である。明治29年の「北海道假製五万分一圖」には現在のキウス川に「キウシ」とあり(図 I-1)、アイヌ語 ki-ush-i (茅-多く生える-所) のカナ表記とみられている。この図ではキウシの川尻は丘陵の前縁を出た所で消えており、湿原の中に明瞭な流路をなしていなかったらしい。近代以前においても、おそらく一時的な増水時を除いて千歳川方面から舟によってキウス川を遡ることは不可能であったと思われる。假製五分一圖で「キウシ」の南隣に川に「チプエ」とあるのは、あるいは chip-e (舟を-そこで) という言葉で始まる地名の下略形であって、その後例えば yanke-ush-i (陸に揚げるのが-常である-所) のような言葉が続いたのかもしれない。

キウス川とその北の無名川との間に広がる緩斜面には古くから国指定史跡キウス周堤墓群の存在が知られており、横断自動車の路線決定にともなう道教委と道路公団との間で協議がおこなわれた経緯がある。結果的に自動車道は周堤墓群南のキウス川の谷筋を通過することとなり、平成5年度から左岸のキウス7遺跡の発掘に着手する運びとなった。今回報告する範囲は自動車道のパーキングエリア工事の用地にあたり、キウス川の浸食によって形成された右岸段丘面(標高約40~44m)の縄文時代の包含層が調査の主な対象となった。(皆川)

6. 調査区の設定 (図 I-4)

平成5年度から始まったキウス7遺跡の調査は範囲の区画と平面位置の測量のために高速道路のセンターラインを基準とする方格(グリッド)割りをおこなった。センター杭 STA.143+00から143+40を通る直線を基線として4m間隔の方格を設定した。方格の区画線には建設予定の道路の下り車線側から上り車線側へ向かってアルファベット、千歳市側から夕張市側へ向かってアラビア数字による呼称を与え、STA.143+00を通る区画線をMラインおよび100ラインとした。

方格の交点に設置した杭には区画線名の組み合わせによって「M100」のように呼称し、4m四方の各グリッドにも下り車線側と千歳市側を画する区画線の名称によって杭と同様の呼称を与えた。従ってM100のグリッドの下り車線側・千歳市側の隅にある杭がM100杭と呼ばれることになる。さらに必要に応じて各グリッドを2m四方のグリッドに区画し、反時計回りに a・b・c・d の呼称を与えた(図 I-4)。

今年度の調査は、過年度の方眼に相当するものから設定した。この方眼の平面直角座標は、第XII系で次の通りである。

M-45: X = -124739.028, Y = -42449.933 M-70: X = -124764.172, Y = -42353.197
R-45: X = -124758.269, Y = -42454.960 R-70: X = -124783.514, Y = -42358.237

(皆川)



図 I-2 遺跡範囲とキウス各遺跡の調査区形

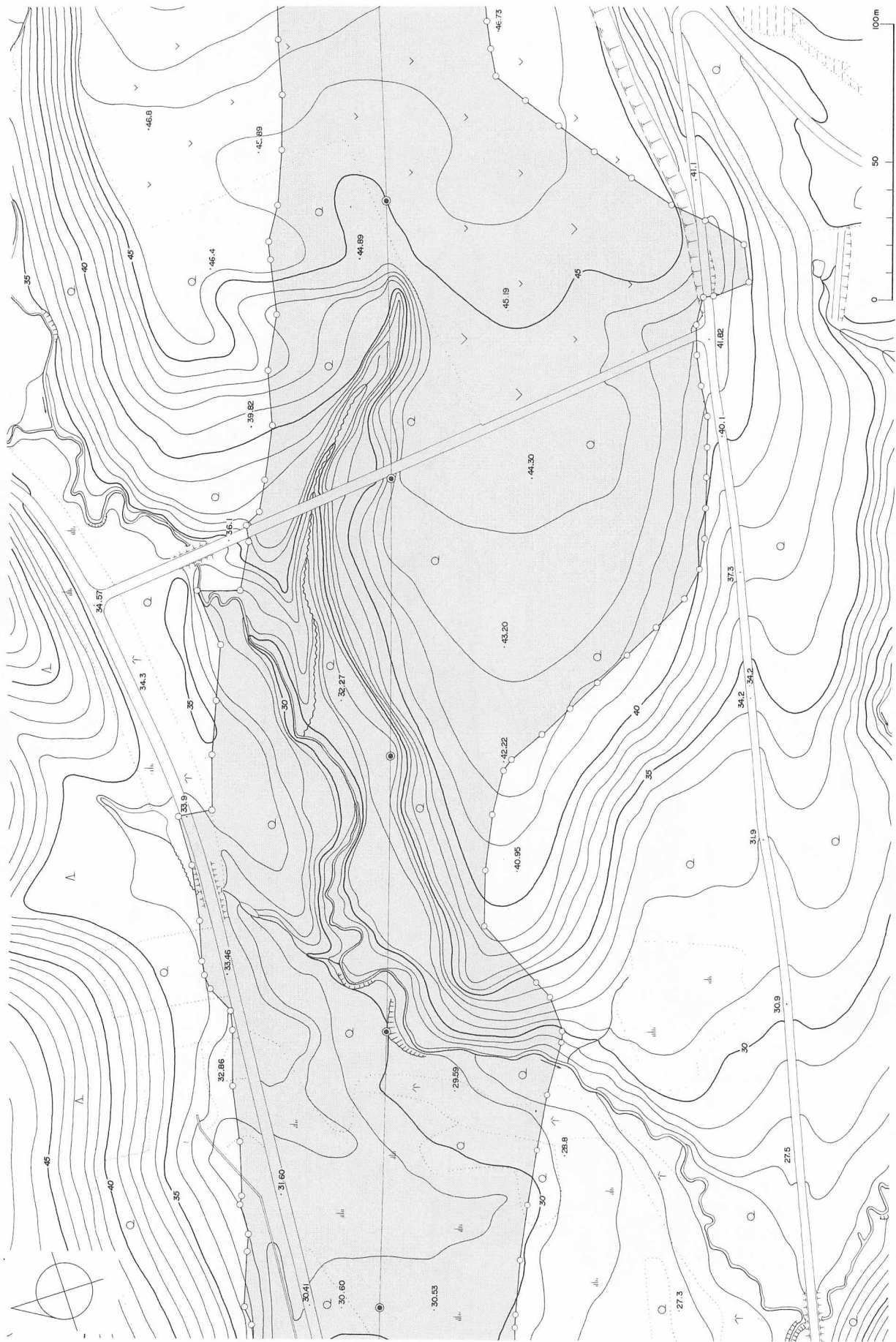


図 I-3 キウス 7 各遺跡周辺の地形

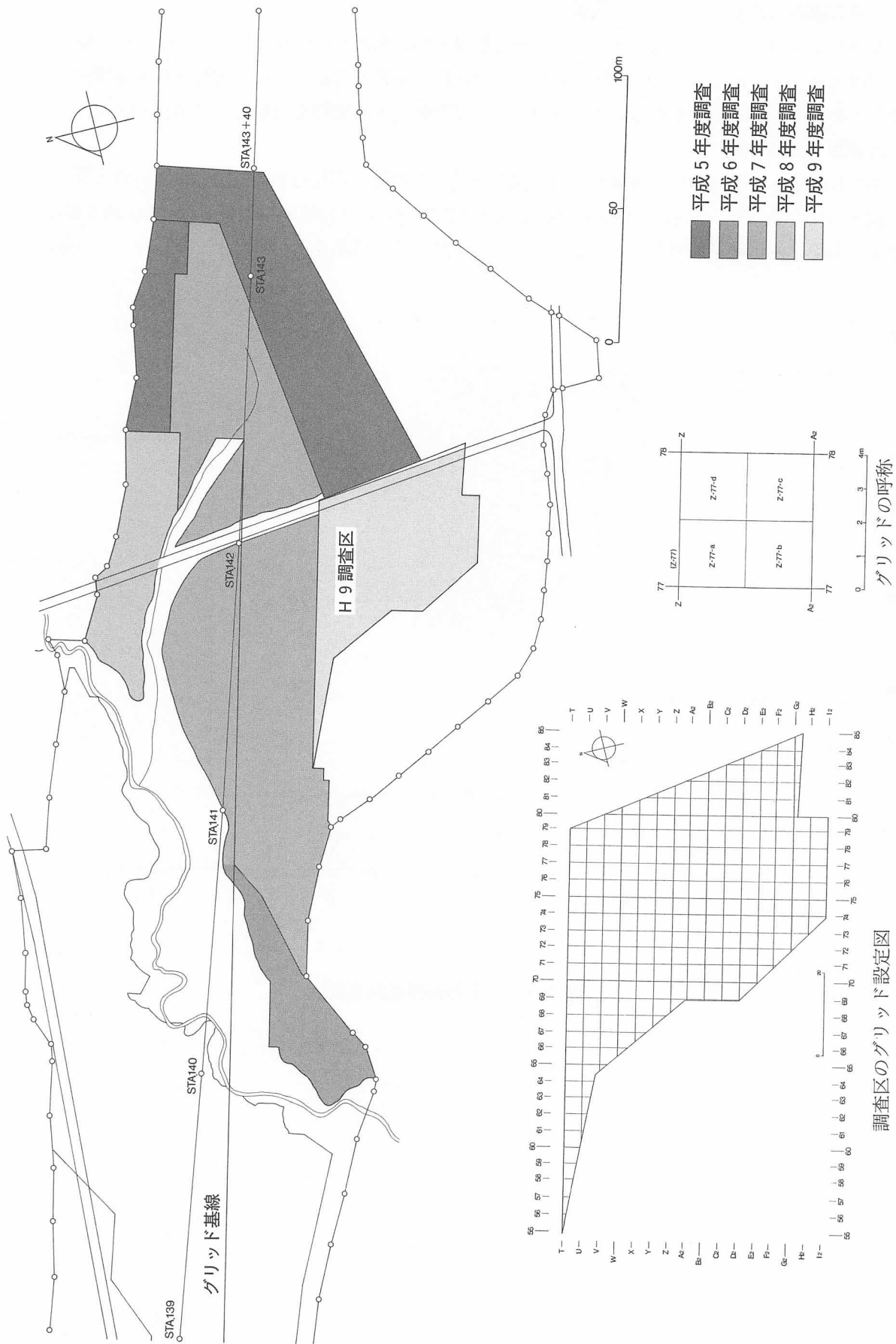


図 I-4 調査区の設定

7. 旧石器確認調査 (図 I - 5、図版37)

キウス7遺跡ではキウス遺跡群の中でも最も標高の高い地形上に位置しており、En-a 下位には水性堆積物が存在する他のキウス遺跡と異なりキウス川の影響を受けていない支笏軽石流堆積物で大部分が占められている。過年度に引き続き今年度も支笏軽石流堆積物を対象とした調査を図 I - 5 で示した範囲で実施した。

調査は図示した範囲のVII~VIII層を重機で掘り下げ、その後支笏軽石流堆積物 (IX層) の上面を人力で調査している。地形の測量を終えた後、上面から約20cmの厚さの範囲で調査を行った。調査の結果、僅かな小礫と炭化粒が検出されるに止まった。以下に、その成果を示す (図 I - 5)。 (皆川)

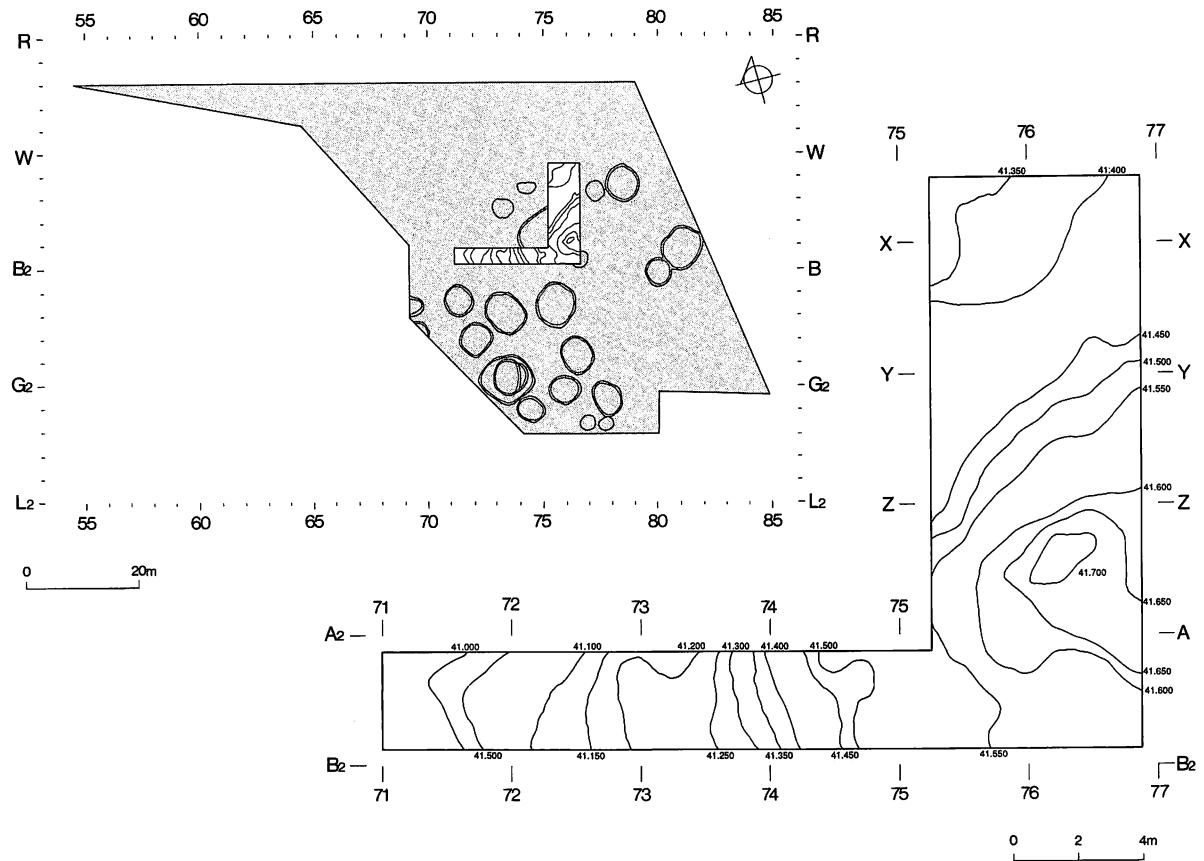


図 I - 5 旧石器確認調査範囲

8. 遺物の分類

(1) 土器

I群 縄文時代早期に属するもの。

a類 貝殻腹縁圧痕文、条痕文のある土器群。(今回は出土していない)

b類 縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文などの施される土器群。

b-1類 東釧路II式、東釧路III式に相当するもの。

b-2類 コッタロ式に相当するもの。

b-3類 中茶路式に相当するもの。

b-4類 東釧路IV式に相当するもの。

II群 縄文時代前期に属するもの。

a類 縄文の施された丸底、尖底を特色とする土器群。(今回は出土していない)

a-1類 網文式土器に相当するものと、結束のない羽状縄文の施された丸底を特色とするもの。

a-2類 春日町式、中野式など、縄文の施された尖底を特色とするもの。

b類 円筒土器下層式、植苗式に相当するもの(今回は出土していない)。

III群 縄文時代中期に属するもの。

a類 円筒土器上層式に相当するもの。

b類 a類以外のもの。

b-1類 天神山式に相当するもの。

b-2類 柏木川式に相当するもの。

b-3類 北筒式(トコロ6類)、ノダップII式、煉瓦台式に相当するもの。

IV群 縄文時代後期に属するもの。

a類 余市式、入江式に相当するもの。

b類 船泊上層式、手稲式、ホッケマ澗式、エリモB式に相当するもの。

c類 堂林式、三ツ谷式、御殿山式に相当するもの。

V群 縄文時代晩期に属するもの。

a類 大洞B式、上ノ国式に相当するもの。(今回は出土していない)

b類 大洞C₁式、大洞C₂式に相当するもの。(今回は出土していない)

c類 大洞A式、大洞A'式、タンネトウL式に相当するもの。

VI群 続縄文時代に属するもの。

VII群 擦文時代に属するもの。(今回は出土していない)

(皆川)

(2) 石器

分類については基本的に過年度のものを踏襲した。I群からIII群までが剥片石器群、IV群からIX群までを礫石器群とし、大部分の定型的な石器については記号を用いて分類した。このほかにRフレイク、Uフレイク、フレイク、矢柄研磨器、礫がある。尚、今回の調査では石鋸、石錘は出土していない。また旧石器時代の遺物には、細石刃、細石刃核、スポール、石刃、彫刻刀形石器、エンドスクレーパー、スクレーパー、フレイク・チップ等があるが、特に記号を用いた分類は行っていない。

<I群> 石鏃・石槍類

A類 石鏃

- 1：石刃鏃
- 2：長身のもの
- 3：薄身のもの 4：三角形のもの
- a：柳葉形のもの a：凹基のもの
- b：五角形のもの b：平基のもの
- 5：木葉形のもの
- 6：菱形のもの
- 7：有茎形のもの
- 8：破片（細分の困難な破片）・未成品など

B類 石槍・両面加工のナイフ（ポイント）

- 1：茎を持つもの 2：茎が明瞭に見られないもの。
- 8：破片（細分の困難な破片）・未成品など

<II群> 石錐（ドリル）

A類 石錐

- 1：剥片の一部に刺突部を作り出したもの
- 2：棒状のものにつまみ部を作り出したもの
- 3：棒状のもの 8：破片（細分の困難な破片）・未成品など

<III群> つまみ付ナイフ・スクレイパー・楔形石器・石核

A類 つまみ付ナイフ

- 1：片面全面加工のもの（裏面の一側縁に刃部をもつもの）
- 2：片面全面加工のもの
- 3：片面周縁加工のもの
- 4：両面加工のもの
- 8：破片（細分の困難な破片）・未成品など

B類 スクレイパー

- 1：石べらと称されるもの 2：円形のもの
- 3：主に縦長で下端部に刃部が設けられているもの（エンドスクレイパー）
- 4：素材の縁辺にえぐりを入れ、それを刃部としているもの
- 5：縦長で、側縁に刃部が設けられているもの
- 6：素材の形状を大きく変えていないもの
- 8：破片（細分の困難な破片）・未成品など

D類 石核

〈IV群〉 石斧類

A類 石斧

- 1：擦り切り技法により製作されるもの。
- 2：部分的に磨かれているもの
- 3：ほぼ全面が磨かれているもの。
- 4：粗割・敲打により整形されるもの。
- 8：破片（細分の困難な破片）・未成品など

B類 丸のみ型石斧

C類 擦り切り残片

〈V群〉 たたき石

A類 たたき石

- 1：棒状礫を素材としたもの
- 2：扁平礫を素材としたもの
- 3：円礫を素材としたもの
- 4：くぼみ石と称されるもの
- 8：破片（細分の困難な破片）・未成品など

〈VI群〉 すり石

A類 すり石

- 1：断面形が三角形の棒状礫で、その稜部にすり面を有するもの（断面三角形のすり石）
- 2：扁平礫を素材としたもの
- 3：扁平礫を半円状に打ち欠き弦をすったもの
- 4：円礫を素材としたもの
- 8：破片（細分の困難な破片）・未成品など

〈VII群〉 石鋸・砥石類

A類 1：石鋸

- 8：（細分の困難な破片）・未成品など

B類 砥石

- 1：研磨面に溝があるもの
- 2：板状のもの
- 3：角柱状のもの
- 8：破片（細分の困難な破片）・未成品など

〈VIII群〉 台石・石皿

A類 台石・石皿

剥片石器、磨製石器、礫石器は機能部にこだわらず、長軸を長さ、短軸を幅、厚さは最大値を採用した。尚、遺物実測図中でたたき痕はV-V、すり痕は←→で範囲を表した。また、剥片石器のうち縁部に摩耗痕等が見られる場合は←→で、器体に摩耗痕、光沢痕が見られる場合はスクリーントーンで範囲を表した。

(3) 石・土製品

玉類、土製円盤などがある。

(4) 自然遺物

明瞭な加工の見られない生物遺体を自然遺物とした。今回は炭化物・植物遺体が見られた。

植物遺体は主に遺構内で見つかった炭化した種子である。

(皆川)

9. 過年度の調査結果 (図 I-6、表 I-4~7)

平成5年度から始まったキウス7遺跡の調査は今年度で予定地のほとんどの部分が終了することとなる。以下に、過年度の調査で検出された遺構・遺物についての資料一覧を付す。

表 I-4 年度別調査期間・面積一覧

	発掘時間	調査面積
平成5年度	5月6日～7月15日	4,513m ²
	9月6日～10月27日	1,100m ²
平成6年度	5月6日～10月29日	1,600m ²
平成7年度	5月8日～10月25日	9,570m ²
平成8年度	5月7日～6月29日	1,720m ²
平成9年度	5月7日～10月26日	3,316m ²
合計		21,819m ²

表 I-5 年度別検出遺構一覧

種別	年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	種別合計	内訳
住居跡								竪穴・17
H (V層)		4	4	16	4	16	44	平地 11
土壌 (Ⅲ・V層)								UP 62
UP・LP		62	6	55	13	33	169	LP 107
大型土壌 (V層)								
BP・DP				5			5	
Tピット (V層)								
TP		1	4	1			6	
焼土 (Ⅲ・V層)								UF 78
UF・LF		82	14	150	81	37	364	LF 286
集礫 (Ⅲ層)				1			1	
埋めかめ (V層)				1			1	
道跡 (Ⅲ層)				3			3	
柱穴群 (Ⅲ層)				1				
炭化物集中						8	8	LC 8
礫集中								
LS						1	1	LS 1
年度合計		149	28	233	98	95	603	

表 I-6 年度別出土遺物一覧

種別	年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	種別合計
		1993	1994	1995	1996	1997	
土器		22,119	1,860	62,566	29,975	10,238	126,758点
石器等		3,518	760	16,394	5,397	5,994	32,063点
礫・礫片等		3,489	425	3,252	1,533	2,999	11,698点
土製品等		20	0	277	80	17	394点
石製品等		11	2	9	9	5	36点
自然遺物	有	有	有	有	有	有	有
年度合計		29,157	3,047	82,498	36,994	19,253	総計 170,949点

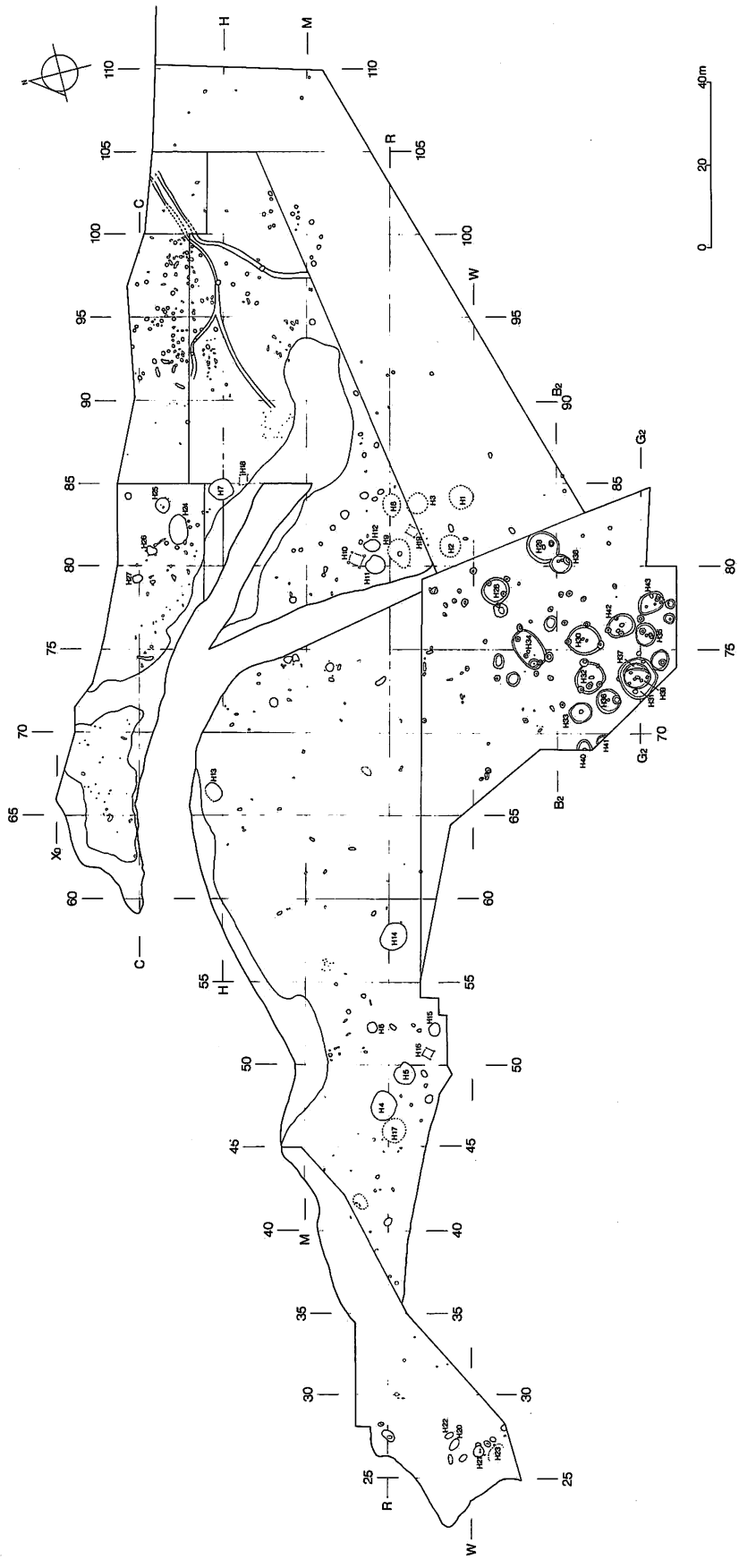


図 I - 6 過年度の調査結果

表 I - 7 過年度検出遺構一覧

(1) III層土壌等一覧

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No	規模		時 期	備 考
				直径×短径×深さm()推定			
UP-1	L108b	5	北埋90	0.99×0.60×0.09		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-2	M109a	5	北埋90	1.03×0.84×0.15		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-3	B91c,C91a	5	北埋105	0.99×0.59×0.31		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-4	E95a・b	5	北埋105	0.64×0.57×0.42		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-5	C94d	5	北埋105	0.42×0.34×0.29		縄文晩期～続縄文	
UP-6	E93c・b	5	北埋105	0.42×0.34×0.13		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-7	E93a	5	北埋105	0.43×0.33×0.10		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-8	D93b・E93a	5	北埋105	0.90×0.80×0.39		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-9	B94b	5	北埋105	0.66×0.54×0.18		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-10	B94b	5	北埋105	0.63×0.54×0.20		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-11	C95b・c, D94a・d	5	北埋105	0.89×0.85×0.40		続縄文	
UP-12	D95a・b・c・d	5	北埋105	0.85×0.78×0.30		縄文晩期～続縄文	
UP-13	D93c,E93d	5	北埋105	1.01×0.97×0.65		続縄文晩期後北C ₂ D式期	
UP-14	D97a・b・c・d	5	北埋105	0.51×0.48×0.21		縄文晩期タンネットウL式期	
UP-15	D98b	5	北埋105	0.80×0.60×0.42		縄文晩期	UF-37を切る
UP-16	D94a・d	5	北埋105	0.97×0.85×0.54		縄文晩期タンネットウL式期	UF-31を切る
UP-17	D94c・D95b E94d・E95a	5	北埋105	0.84×0.53×0.27		続縄文晩期～続縄文	
UP-18	D95b	5	北埋105	0.60×0.59×0.24		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-19	E92a・b	5	北埋105	0.71×0.48×0.27		続縄文後北C ₂ D式期	UP-21と土器接合
UP-20	E92b	5	北埋105	0.83×0.72×0.24		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-21	E92a	5	北埋105	0.82×0.73×0.53		続縄文後北C ₂ D式期	UF-16を切る UP-19・23
UP-22	D92b	5	北埋105	0.68×0.51×0.23		縄文晩期	上にUF-15
UP-23	C92b,D92a	5	北埋105	1.23×1.14×0.60		続縄文後北C ₂ D式期	UP-21と土器接合
UP-24	D92d	5	北埋105	0.81×0.76×0.27		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-25	D92c,D93b	5	北埋105	0.94×0.81×0.31		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-26	E92d	5	北埋105	0.75×0.67×0.17		縄文晩期タンネットウL式期	UP-27・UF-28を切る
UP-27	E92d	5	北埋105	0.70×0.64×0.19		縄文晩期タンネットウL式期	UP-26に切られる
UP-28	C91a・d	5	北埋105	0.89×0.86×0.26		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-29	E97c,E98b	5	北埋105	1.31×1.19×0.72		縄文晩期	UP-30の揚げ土が入る
UP-30	E98c,E99b	5	北埋105	1.15×1.04×0.79		縄文晩期タンネットウL式期	上にUF-33
UP-31	E97a・d	5	北埋105	0.83×0.81×0.42		縄文晩期タンネットウL式期	
UP-32	D95b・c	5	北埋105	0.70×0.60×0.22		縄文晩期～続縄文	
UP-33	E97b	5	北埋105	0.84×0.76×0.30		縄文晩期タンネットウL式期	
UP-34	C96c・d, C97a・b	5	北埋105	0.97×0.79×0.41		縄文晩期タンネットウL式期	
UP-35	B96c	5	北埋105	0.67×0.63×0.31		縄文晩期タンネットウL式期	
UP-36	D95a・b	5	北埋105	0.67×0.67×0.29		縄文晩期タンネットウL式期	
UP-37	D95b,E95a	5	北埋105	0.85×0.65×0.25		縄文晩期～続縄文	
UP-38	E92a・b	5	北埋105	0.79×0.77×0.20		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-39	O54d,N54c	7	北埋105	0.72×0.58×0.48		縄文晩期	
UP-40	O53b	7	北埋105	1.18×0.87×0.20		縄文晩期	
UP-41	N50a・d	7	北埋105	1.09×1.01×0.24		縄文晩期	
UP-42	T49a・d	7	北埋105	1.43×1.32×0.41		縄文晩期	
UP-43	F98c	7	北埋105	0.81×0.76×0.58		縄文晩期タンネットウL式期	
UP-44	F94a・c・d	7	北埋105	1.11×1.00×0.49		縄文晩期タンネットウL式期	
UP-45	F94a	7	北埋105	0.92×0.84×0.39		縄文晩期タンネットウL式期	
UP-46	G93a	7	北埋105	0.96×0.94×0.34		縄文晩期タンネットウL式期	
UP-47	F92d	7	北埋105	1.12×0.95×0.39		続縄文後北C ₂ D式期	
UP-48	G96c,G97b	7	北埋105	1.15×1.02×0.55		縄文晩期タンネットウL式期	

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模		時 期	備 考
				直径×短径×深さm()推定			
UP-49	H98a	7	北埋105	0.81×0.75×0.58		縄文晩期タンネトウL式期	
UP-50	H96c・d, H97a・b	7	北埋105	1.12×1.02×0.37		縄文晩期	
UP-51	E99b, E99a	7	北埋105	0.97×0.89×0.50		縄文晩期タンネトウL式期	
UP-52	I96a・b	7	北埋105	0.75×0.59×0.41		続縄文後北C ₂ -D式期	
UP-53	J97c・d, J98a・b	7	北埋105	1.41×1.23×0.40		続縄文後北C ₂ -D式期	
UP-54	F96d	7	北埋105	0.57×0.52×0.19		縄文晩期タンネトウL式期	
UP-55	J100b・c, K100a・d	7	北埋105	0.80×0.74×0.29		縄文晩期タンネトウL式期	
UP-56	J102b	7	北埋105	0.79×0.70×0.20		縄文晩期	
UP-57	M79b・c, N79c・d	7	北埋105	1.08×0.94×0.55		縄文晩期タンネトウL式期	
UP-58	I95c, J95d	7	北埋105	0.48×0.43×0.15		縄文晩期タンネトウL式期	
UP-59	I97c・d	7	北埋105	0.57×0.52×0.31		続縄文	獣骨
集 礫	P67a・b・c・d	7	北埋105	2.80×1.90		縄文晩期～続縄文	
UP-60	A2-74-b, D2-74	9	北埋127	1.17×0.97×0.32		縄文晩期～続縄文	
UP-61	H2-79	9	北埋127	1.01×0.91×0.11		縄文晩期～続縄文	
UP-62	H2-79-b	9	北埋127	0.70×0.62×0.20		縄文晩期～続縄文	

(2) III層焼土一覧

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模		時 期	備 考
				直径×短径×深さm()推定			
UF-1	F108b・c	5	北埋90	0.93×0.80×0.02		晩期～続縄文	
UF-2	H108c	5	北埋90	0.60×0.048×0.06		晩期～続縄文	
UF-3	Q89a	5	北埋90	0.58×0.41×0.06		続縄文後北C ₂ -D式期	
UF-4	F103 a・b	5	北埋105	0.75×0.43		晩期	
UF-5	F101 b・c	5	北埋105	1.18×0.95		晩期	
UF-6	D89c	5	北埋105	0.67×0.47×0.07		晩期	
UF-7	D89c	5	北埋105	0.34×0.28×0.05		晩期	
UF-8	E89d	5	北埋105	0.53×0.35×0.05		晩期	
UF-9	E89c, F89d	5	北埋105	0.66×0.34×0.04		晩期	
UF-10	E89c	5	北埋105	0.56×0.27×0.04		晩期	
UF-11	D93c	5	北埋105	0.41×0.25×0.03		晩期～続縄文	
UF-12	B91b・c	5	北埋105	0.68×0.62×0.10		晩期	
UF-13	D91a・d	5	北埋105	2.54×0.87×0.12		晩期	図掲載
UF-14	D92a・b	5	北埋105	2.14×1.45×0.12		続縄文後北C ₂ -D式期	
UF-15	D92b, E92a	5	北埋105	0.80×0.58×0.07		続縄文	UP-22の上 図掲載
UF-16	D91c, D92b E91d, E92a	5	北埋105	3.14×0.85×0.13		晩期	
UF-17	E98a・b・c・d	5	北埋105	1.54×1.03		晩期	
UF-18	E90b・c・d	5	北埋105	2.92×0.85×0.15		晩期	図掲載
UF-19	E94b, F94a	5	北埋105	1.57×0.60×0.12		晩期	
UF-20	E94a・b	5	北埋105	0.77×0.62×0.11		晩期	
UF-21	E94a	5	北埋105	0.41×0.34×0.03		晩期	
UF-22	D94b・E94a	5	北埋105	1.07×0.92×0.09		晩期	
UF-23	C94c	5	北埋105	0.41×0.32×0.02		晩期	
UF-24	C94c	5	北埋105	0.60×0.35×0.07		晩期	
UF-25	E94c, E95b	5	北埋105	0.69×0.80×0.15		晩期	
UF-26	E95a・b	5	北埋105	0.66×0.65×0.03		晩期～続縄文	
UF-27	D94d, D95a	5	北埋105	0.57×0.41×0.10		晩期～続縄文	
UF-28	E92b・c・d	5	北埋105	2.72×1.34×0.10		晩期	UP-26に切られる
UF-29	E92d, E93a	5	北埋105	0.58×0.33		晩期	
UF-30	E92d	5	北埋105	0.72×0.45		晩期～続縄文	

I 調査の概要

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模	時 期	備 考
				直径×短径×深さm()推定		
UF-31	D94a・d	5	北埋105	(残0.35)×0.20×0.02	晩期	UP-16に切られる 図掲載
UF-32	C94d	5	北埋105	0.29×0.24×0.08	晩期～続縄文	
UF-33	E98c	5	北埋105	0.42×0.35×0.02	晩期	UP-30の上 図掲載
UF-34	D96c, E96d	5	北埋105	0.93×0.73×0.08	晩期	
UF-35	C97c・d	5	北埋105	0.26×0.18×0.02	晩期	
UF-36	D98b・c	5	北埋105	1.37×0.69×0.20	晩期	図掲載
UF-37	D89b	5	北埋105	1.43×0.48×0.14	晩期	UP-15に切られる 図掲載
UF-38	D98c	5	北埋105	0.23×0.12	晩期	図掲載
UF-39	D97c, D98b E98a	5	北埋105	2.52×1.16×0.05	晩期	
UF-40	D99b, E99c・d	5	北埋105	0.68×0.58×0.08	晩期	
UF-41	E99a・d	5	北埋105	0.80×(0.77)×0.07	晩期	
UF-42	C94b・c	5	北埋105	0.62×0.57×0.10	晩期～続縄文	
UF-43	F95d	7	北埋105	0.59×0.47×0.14	晩期	
UF-44	F95a	7	北埋105	0.97×0.50×0.14	晩期	
UF-45	F94d	7	北埋105	0.65×0.41×0.08	晩期	
UF-46	F93d	7	北埋105	0.56×0.31×0.10	縄文晩期タンネットウL式期	図掲載
UF-47	F93a	7	北埋105	0.78×0.48×0.07	縄文晩期タンネットウL式期	図掲載
UF-48	F97d, F98a	7	北埋105	0.85×0.49×0.14	縄文晩期タンネットウL式期	図掲載
UF-49	F97a・d	7	北埋105	1.04×0.69×0.19	縄文晩期タンネットウL式期	図掲載
UF-50	F92a	7	北埋105	0.55×0.41×0.06	晩期～続縄文	
UF-51	F92c	7	北埋105	0.37×0.27×0.11	縄文晩期タンネットウL式期	風倒木痕上
UF-52	F92c	7	北埋105	0.20×0.18×0.11	縄文晩期タンネットウL式期	風倒木痕上
UF-53	G92a・d	7	北埋105	0.80×0.31×0.20	縄文晩期タンネットウL式期	
UF-54	G91d	7	北埋105	0.51×0.42×0.18	縄文晩期タンネットウL式期	
UF-55	I96a・b	7	北埋105	1.81×0.48×0.15	続縄文	UP-52脇
UF-56	I95d	7	北埋105	大0.57×0.49×0.10	続縄文後北C ₂ -D式期	大小2カ所
UF-57	J98a・d	7	北埋105	0.58×0.41×0.10	続縄文後北C ₂ -D式期	図掲載
UF-58	J97a・d	7	北埋105	0.62×0.35×0.13	続縄文	
UF-59	K93a・b・c・d	7	北埋105	0.58×0.37×0.18	縄文晩期タンネットウL式期	
UF-60	K94c	7	北埋105	1.05×0.52×0.07	縄文晩期タンネットウL式期	図掲載
UF-61	L94a	7	北埋105	1.09×0.95×0.12	縄文晩期タンネットウL式期	図掲載
UF-62	L94a・d	7	北埋105	1.68×0.82×0.06	縄文晩期タンネットウL式期	図掲載
UF-63	L94b	7	北埋105	0.94×0.80×0.23	縄文晩期タンネットウL式期	図掲載
UF-64	P74a	7	北埋105	0.60×0.55×0.14	縄文晩期タンネットウL式期	図掲載
UF-65	J73a	7	北埋105	(1.15)×(1.05)×0.13	続縄文以降	上面炭化材 図掲載
UF-66	L68c	7	北埋105	(0.75)×(0.30)×0.07	晩期～続縄文	
UF-67	P39c	7	北埋105	0.77×0.37×0.09	続縄文以降	風倒木痕上
UF-68	T31c, U31d	6	北埋92	0.62×0.59×0.07	晩期中葉以降	旧 UF-101
UF-69	U31c	6	北埋92	0.55×0.19×0.04	晩期中葉以降	旧 UF-102
UF-70	R32b, S32a	6	北埋92	0.89×0.66×0.20	晩期中葉以降	旧 UF-103
UF-71	O40c	6	北埋92	0.71×0.39	擦文文化期	旧 UF-104
UF-72	C79c, D79d	8	北埋117	0.73×0.46×0.09	続縄文～擦文	
UF-73	A69b	8	北埋117	0.42×0.23×0.07	続縄文～擦文	
UF-74	A69c, B69d	8	北埋117	0.76×0.40×0.11	続縄文～擦文	
UF-75	A63c	8	北埋117	0.47×0.39×0.03	続縄文～擦文	
UF-76	V-72-b, W-72-d, W-73	9	北埋127	2.12×1.16×0.18	縄文晩期～続縄文	
UF-77	B2-81-c, C2-81, C2-82	9	北埋127	0.92×0.72×0.11	縄文晩期～続縄文	
UF-78	H2-80	9	北埋127	0.63×0.58×0.10	縄文晩期～続縄文	

(3) アイヌ文化期遺構一覧

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模	備考
道跡-1	C102・103, D101・102, E99~101, G94~98, F90~94・98・99,	5 7	北埋105 北埋105	現存長 54.5m	
道跡-2	G94・95, H92~94, I90~92, J89・90, K89	7	北埋105	現存長 27.5m	道跡-1から分岐
道跡-3	D102・103, E100・101, F99・100, G99, H98・99, I97~99, K97, L97, M97	5 7	北埋105 北埋105	現存長 46.5m	
柱穴群	J88・89, K88・89, L88・89	7	北埋105	範囲 9×7m	道跡-2の突き当り 柱穴21本

(4) V層住居跡一覧

遺構名	グ リ ッ ド	調査年度	報告書No.	規模	時 期	備 考
				直径×短径×深さm()推定		
H-1	U83・84, V83・84	5	北埋90	柱穴間3.06×2.98	中期末～後期中葉	平地 4本柱
H-2	U80・81 V80・81	5	北埋90	(4.50)×(4.50)	中期末～後期中葉	平地
H-3	S83・84, T83・84	5	北埋90	2.57×2.44	中期末～後期中葉	平地 4本柱
H-4	Q46・47・48, R46・47・48	7	北埋105	6.59×6.26×0.67	後期中葉甕澗式期	
H-5	R48・49, S48・49	7	北埋105	5.30×4.87×0.47	後期中葉甕澗式期	焼失 入口
H-6	P51・52, Q51・52	7	北埋105	2.90×2.60×0.65	後期中葉手稲式期～ 甕澗式期	
H-7	G83・84・85, H83・84・85	7	北埋105	6.33×5.60×0.27	後期中葉手稲式期～ 後期後葉堂林式期	
H-8	Q83・84, R83・84	7	北埋105	(6.00)×(4.15)	後期前葉余市式期	平地 土器囲炉
H-9	R79・80・81, S80・81	7	北埋105	(9.20)×(5.00)	後期前葉余市式期	平地
H-10	O80, P80・81	7	北埋105	柱穴間2.80×2.40	後期中葉手稲式期	平地 4本柱
H-11	P79・80, Q79・80	7	北埋105	4.47×4.28×0.31	後期中葉手稲式期～ 甕澗式期	土器囲炉
H-12	P80・81, Q80・81	7	北埋105	3.93×3.32×0.39	後期中葉手稲式期?	
H-13	G65, G66	7	北埋105	(4.90)×4.68×0.43	後期中葉手稲式期	
H-14	Q57・58, R57・58, S57・58	7	北埋105	6.62×5.65×0.06	後期中葉手稲式期	
H-15	T51・52, U51・52	7	北埋105	3.18×2.75×0.44	中期柏木川式期	
H-16	T50・51	7	北埋105	柱穴間2.20×1.91	後期中葉甕澗式期?	平地 4本柱
H-17	Q45・46, R45・46	7	北埋105	(6.00)×(5.20)	後期前葉余市式期	平地
H-18	I84・85	7	北埋105	柱穴間2.00×1.80	後期中葉手稲式期～ 後期後葉堂林式期	平地 4本柱
H-19	R81, S81・82	7	北埋105	柱穴間2.74×2.12	後期中葉	平地4本柱 5年度SP-7
H-20	U26・27, V26・27	6	北埋92	3.44×2.13×0.34	後期中葉	旧LH-101
H-21	W26	6	北埋92	3.43×2.72×0.28	後期中葉	旧LH-102
H-22	U27	6	北埋92	2.33×1.55×0.20	後期中葉	旧LH-103
H-23	X25・26	6	北埋92	(4.00)×(3.00)	晩期後葉	旧LH-104
H-X	Z81・A ₂ 81	5	未	—×—×0.45		大半が来年度以降の調査区にある
H-24	D81・82, E81～83	8	北埋117	6.57×3.84×—	後期中葉手稲式期	平地
H-25	C83, D82・83	8	北埋117	4.15×3.62×0.37	後期中葉手稲式期	
H-26	C80・81, D80・81	8	北埋117	2.67×2.04×0.60	後期中葉手稲式期	
H-27	B78・79, C78・79	8	北埋117	2.44×1.95×0.51	後期中葉手稲式期	
LH-28	W-7c,7b,C,79b,X-77c,d, 78a-d,X-79a,d,Y-78a-d	9	北埋127	6.31×5.92×0.66m	早期後半コッタロ (I b-2)	
LH-29	Z-80bd,81a-d,A2-80a-d,8 1a-d,B2-80d,81a	9	北埋127	7.85×6.58×0.43m	早期後半コッタロ (I b-2)	
LH-30	B2-74c,75b,c,76b,C2-74c,d,75 a-d,76a,b,D2-74d,75a,d,76a	9	北埋127	7.57×6.82×0.46m	早期後半コッタロ (I b-2)	

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模		時 期	備 考
				直径×短径×深さm()推定			
LH-31	E2-72c,73-b,c,74-b,F2-72-a-d,73-a-d,74-a-c,G2-72-a.c.d,73-a-d,74-a	9	北埋127	9.76×8.55×0.68m		後期中葉手稲 (IVb)	
LH-32	B2-73b,C2-72-a-d,73-a-d,74-a,d,D2-72-a.c.d,73-a-d,74-a	9	北埋127	7.46×6.37×0.55m		早期後半コッタロ (Ib-2)	
LH-33	B2-70-c,71-b,c,G2-70-c,d,71-a-d,D2-71-a	9	北埋127	5.39×5.0×0.34m		早期後半コッタロ (Ib-2)	
LH-34	Y-74-b-d,75-b-d,73-c,d,74-a~d,75-a-d,76-a,A2-74-a,d,75-a	9	北埋127	9.63×6.43×0.30m		後期前葉余市 (IVa)	
LH-35	F2-75-b,c,76-b,c,G2-75-a-d,76-a,b,c	9	北埋127	5.51×4.75×0.55m		早期後半コッタロ (Ib-2)	
LH-36	D2-71-b~d,72-a-d,E2-71-c,d,73-a,b,d	9	北埋127	5.93×5.57×0.43m		早期後半コッタロ (Ib-2)	
LH-37	E2-73-b,c,F2-72-c,d,73-a-d,74-a,b,G2-72-d,73-a,d,74-a	9	北埋127	6.33×5.76×0.22m		後期前葉余市 (IVa)	
LH-38	A2-79-c,80-b,c,B2-79-c,d,80-a~d	9	北埋127	5.82×4.51×0.35m		早期後半コッタロ (Ib-2)	
LH-39	E2-72-c,73-b,c,F2-72-c,d,73-a-d,G2-72-d,73-a,d	9	北埋127	6.45×4.73×0.33m		中期後半柏木川 (IIIb)	
LH-40	C2-69-a~d	9	北埋127	3.28×(2.66)×0.26m		後期前葉余市 (IVa)	
LH-41	D2-69-a.c.d	9	北埋127	(1.64)×(1.67)×0.44m		後期前葉余市 (IVa)	
LH-42	D2-76-b,c,E2-75-c,d,76-a-d,77-a,b,F2-75-d,76-a,d,77-a	9	北埋127	6.59×5.35×0.45m		早期後半コッタロ (Ib-2)	
LH-43	F2-77-b,c,78-b,G2-77-a~d,78-a,b,H2-77-a,d,78-a	9	北埋127	6.20×4.86×0.21m		後期前葉余市 (IVa)	

(5) V・VI層 Tピット・土壌一覧(1)

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模		時 期	備 考
				直径×短径×深さm()推定			
LP-1	L101a・c・d	5	北埋90	1.09×0.16×0.55		晩期タンネトウL式期	
LP-2	K101b, L101a	5	北埋90	1.84×1.07×0.47		晩期タンネトウL式期	
LP-3	L100c・d, L101a・b	5	北埋90	1.05×1.02×0.48		晩期タンネトウL式期	
LP-4	L100b・c	5	北埋90	0.632×0.47×0.25		晩期タンネトウL式期	
LP-5	M100c・d	5	北埋90	1.37×1.31×0.55		晩期タンネトウL式期	
LP-6	M99c, N99d	5	北埋90	1.55×1.50×0.53		晩期タンネトウL式期	
LP-7	M98c, M99b	5	北埋90	1.20×1.18×0.53		晩期タンネトウL式期	
LP-8	M98a・d	5	北埋90	1.06×0.97×0.64		晩期タンネトウL式期	
LP-9	M97c・d, M98a・b	5	北埋90	(1.37)×1.29×0.70		晩期タンネトウL式期	
LP-10	Q91b, R91a	5	北埋90	1.09×0.84×0.28		後期中葉手稲式期	
LP-11	T91a・b	5	北埋90	1.35×1.06×1.18		後期中葉手稲式期	
LP-12	W86b・c, X86a・b	5	北埋90	1.01×0.90×0.41		後期中葉手稲式期	
LP-13	B285a・b	5	北埋90	0.73×0.65×0.30		後期?	
LP-14	A284b	5	北埋90	0.70×0.67×0.14		後期?	
LP-15	V81a・b・c・d	5	北埋90	1.75×1.31×0.08		後期中葉余市式期	
LP-16	V81c	5	北埋90	0.56×0.55×0.18		早期末コッタロ式期	
LP-17	Y81c・d, Y82a・b	5	北埋90	0.56×0.55×0.18		後期	
LP-18	B93b	5	北埋105	0.50×0.46×0.25		晩期タンネトウL式期	
LP-19	C94b	5	北埋105	0.75×0.71×0.22		晩期タンネトウL式期	
LP-20	D94d	5	北埋105	0.66×0.62×0.24		晩期タンネトウL式期	
LP-21	E96c, E97b, F96d, F97a	5	北埋105	0.79×0.65×0.48		晩期タンネトウL式期	
LP-22	D96b, E96a	5	北埋105	0.50×0.34×0.15		早期~晩期	
LP-23	E99a	5	北埋105	0.85×0.73×0.23		晩期タンネトウL式期	
LP-24	E88c, F88d	5・7	北埋105	1.33×1.25×0.29		後期	
LP-25	P54a・b	7	北埋105	1.40×1.80×0.36		後期中葉手稲式期	

I 調査の概要

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模		備考
				直径×短径×深さm()推定	時期	
LP-26	T47c・d, T48a・b	7	北埋105	1.93×1.66×0.51	後期中葉手稲式期	
LP-27	R52a・b	7	北埋105	1.69×1.31×0.29	後期中葉手稲式期	
LP-28	S52b	7	北埋105	0.58×0.52×0.22	後期中葉手稲式期?	
LP-29	J102b・c, K102a・d	7	北埋105	0.78×0.70×0.19	後期中葉手稲式期	
LP-30	J92a	7	北埋105	0.53×0.53×0.28	晩期タンネットウL式期?	
LP-31	J101a・b	7	北埋105	0.80×0.58×0.17	晩期タンネットウL式期?	
LP-32	J101b	7	北埋105	0.65×0.53×0.15	晩期タンネットウL式期?	
LP-33	J101b	7	北埋105	0.73×0.68×0.23	晩期タンネットウL式期	
LP-34	G90a・d	7	北埋105	0.43×0.40×0.19	晩期タンネットウL式期	
LP-35	M94a・b・c・e	7	北埋105	1.71×1.47×0.57	晩期タンネットウL式期	
LP-36	J71b・c, K71a・c	7	北埋105	2.45×1.67×0.52	晩期タンネットウL式期	
LP-37	H90d	7	北埋105	0.49×0.45×0.13	晩期タンネットウL式期	
LP-38	G95d	7	北埋105	0.45×0.44×0.11	晩期タンネットウL式期	
LP-39	K87a	7	北埋105	0.75×0.52×0.21	後期中葉手稲式期	
LP-40	O90b, P90a	7	北埋105	1.36×1.09×0.24	後期中葉手稲式期?	
LP-41	P86a・b・c・d	7	北埋105	1.07×0.94×0.37	後期中葉手稲式期	
LP-42	R80b・c・d	7	北埋105	1.21×1.10×0.27	後期中葉手稲式期?	
LP-43	N82a・b	7	北埋105	1.33×1.22×0.36	後期中葉手稲式期?	
LP-44	M81b	7	北埋105	0.84×0.60×0.29	後期中葉手稲式期	
LP-45	L80c	7	北埋105	0.61×0.51×0.24	後期	
LP-46	L80d	7	北埋105	0.60×0.57×0.22	後期	
LP-47	K86c, K87b, L86d, L87a	7	北埋105	1.73×1.70×0.40	後期中葉手稲式期	
LP-48	P83c, P84b, Q83d, Q84a	7	北埋105	1.34×1.20×0.17	後期中葉手稲式期	
LP-49	Q87a	7	北埋105	0.72×0.69×0.15	後期	
LP-50	Q84a・b・c・d	7	北埋105	1.32×1.15×0.16	後期前葉余市式期	
LP-51	H65b, I65a	7	北埋105	0.96×0.75×0.19	後期中葉手稲式期	
LP-52	K58c・d	7	北埋105	1.01×0.80×0.28	後期	
LP-53	Q37b, R37a	7	北埋105	0.97×0.75×0.19	後期中葉手稲式期?	
LP-54	R36c・d	7	北埋105	0.97×0.74×0.32	後期中葉手稲式期?	
LP-55	Q43a・b	7	北埋105	1.22×0.65×0.15	晩期タンネットウL式期	
LP-56	DS61b・c, T61a・d	7	北埋105	0.60×0.54×0.72	後期	
LP-57	F94b	7	北埋105	0.50×0.50×0.18	晩期タンネットウL式期	
LP-58	G94b	7	北埋105	0.48×0.44×0.14	晩期タンネットウL式期	
LP-59	R27a・d	6	北埋92	1.21×1.12×1.25	後期中葉手稲式期	旧LP-101
LP-60	R30a・b	6	北埋92	0.87×(0.75)×0.32	晩期中葉以前	旧LP-102
LP-61	V26a・b	6	北埋92	2.36×1.97×0.31	後期中葉手稲式期	旧LP-103
LP-62	P28a・b	6	北埋92	(2.30)×(1.50)×0.70	後期中葉以前	旧LP-104
LP-63	Q27b・c, R27a・d	6	北埋92	3.93×2.49×0.25	中期後葉北筒式期	旧LP-105
LP-64	W26c・d, W27a・b	6	北埋92	(1.80)×(1.50)×0.20	早期後葉中茶路式期	旧LP-106
埋め壅	Q40c	7	北埋105	0.27×0.27×0.22	後期中葉手稲式期	
LP-65	E82c, F82d	8	北埋117	1.00×0.89×0.74	後期中葉手稲式期	
LP-66	E82b, F82a	8	北埋117	0.96×0.94×0.55	後期中葉手稲式期	
LP-67	F82a・b	8	北埋117	0.80×0.63×0.16	後期中葉手稲式期	
LP-68	E81a・b	8	北埋117	0.83×0.74×0.46	後期中葉手稲式期	
LP-69	D79c	8	北埋117	0.60×0.45×0.12	後期中葉手稲式期	
LP-70	F81a	8	北埋117	0.70×0.58×0.18	後期中葉手稲式期	上にLF-178

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模		備考
				直径×短径×深さm()推定	時期	
LP-71	F82b・c	8	北埋117	0.90×0.83×0.45m	後期中葉手稲式期	
LP-72	D81b	8	北埋117	0.66×0.64×0.30m	後期中葉手稲式期	
LP-73	E80d, E81a	8	北埋117	0.87×0.86×0.24m	後期中葉手稲式期	
LP-74	C75b	8	北埋117	1.88×1.58×0.62m	後期中葉手稲式期	
LP-75	B83c・d, B84a・b	8	北埋117	1.22×0.68×0.26m	後期中葉手稲式期	
LP-76	C78c, C79b, D78d, D79a	8	北埋117	(0.90)×(0.82)×0.24m	後期中葉手稲式期	
LP-77	A79c, A80b	8	北埋117	0.74×0.71×0.27m	後期中葉手稲式期	
LP-78	F2-76-c, 77-b, G2-76-d	9	北埋127	1.47×1.40×0.33m	縄文時代後～晩?	
LP-79	C2-74-a, b	9	北埋127	1.85×1.52×0.26m	縄文時代後～晩?	
LP-80	A2-76-a～d	9	北埋127	3.02×2.83×0.25m	早期?	
LP-81	X73-a, Y-72c, d, 73-a～d	9	北埋127	3.68×3.31×0.33m	早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-82	X73-c, d, X74-a～d	9	北埋127	3.20×2.15×0.31m	後期前葉余市?	
LP-83	W-73-b, X-73-a	9	北埋127	1.07×0.96×0.28m	後期中葉手稲	
LP-84a	V-79-c, W-79-d	9	北埋127	1.25×0.78×(0.08)m	縄文中～晩期	
LP-84b	V-79-c, W-79-d	9	北埋127	2.38×1.74×(0.05)m	縄文中～晩期	
LP-85	X-76-c, d, 77-a～d, Y-77-a	9	北埋127	3.75×3.24×0.32m	早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-86	X-77-d	9	北埋127	0.46×0.44×0.79m	早期	
LP-87	V-77-c, d, 78-a～d	9	北埋127	2.16×1.78×0.45m	縄文中～晩期	
LP-88	F2-74-c	9	北埋127	1.43×1.21×0.55m	後期前葉余市	
LP-89	Z-73-c, d, 74-a, b	9	北埋127	2.56×2.38×0.40m	早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-90	Y-76-b	9	北埋127	1.39×0.98×0.26m	縄文後期? (余市)	
LP-91	A2-74-a～d	9	北埋127	2.48×2.19×0.49m	早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-92	W-67-c, X-67-d	9	北埋127	1.68×0.99×0.16m		
LP-93	G-2-73-c, 74-a～d, H2-73-d, 74-a～d	9	北埋127	5.01×3.98×0.57m	早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-94	H2-74-a	9	北埋127	1.16×1.06×0.27m	後期中葉手稲 (IVb)	
LP-95	E2-71-c, d, 72-a, b	9	北埋127	1.89×1.77×0.67m	早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-96	H2-77-a～d	9	北埋127	2.87×2.36×0.30m	早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-97	H2-76-a～d	9	北埋127	2.95×2.67×0.28m	早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-98	F2-72-a～d	9	北埋127	1.29×1.13×0.17m	後期前葉余市?	
LP-99	F2-74-b, G2-74-a	9	北埋127	1.32×1.0×0.24m	後期前葉余市?	
LP-100	A2-77-b	9	北埋127	0.58×0.57×0.65m	早期	
LP-101	B2-78-a	9	北埋127	0.51×0.45×0.83m	早期	
LP-102	B2-78-b	9	北埋127	0.58×0.52×0.55m	早期	
LP-103	C2-78-b	9	北埋127	0.43×0.41×1.09m	早期	
LP-104	C2-77-c, d, 78-a, b	9	北埋127	0.60×0.55×0.74m	早期	
LP-105	C-2-76-b, c	9	北埋127	0.64×0.61×1.23m	早期	
LP-106	B2-76-d	9	北埋127	0.53×0.50×0.61m	早期	
LP-107	X-79-b, Y-79-a	9	北埋127	0.68×0.64×1.16m	早期	

(6) V・VI層 焼土一覧

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模		備考
				直径×短径×深さm()推定	時期	
LF-1	E106c, e107b, F106d, F107a	5	北埋90	0.86×0.70×0.16	後期初等余市式期	
LF-2	E105a	5	北埋90	0.19×0.15×0.01	後期初等余市式期	
LF-3	L100a	5	北埋90	0.76×0.62×0.13	晩期タンネトウル式期	
LF-4	L99d	5	北埋90	0.60×0.46×0.05	晩期タンネトウル式期	
LF-5	L100c・d	5	北埋90	0.67×0.46×0.10	晩期タンネトウル式期	
LF-6	M100d	5	北埋90	0.30×0.20×0.04	晩期タンネトウル式期	
LF-7	L100a	5	北埋90	0.29×0.11×0.03	晩期タンネトウル式期	
LF-8	P92a	5	北埋90	0.43×0.24×0.12	後期中葉手稲式期	
LF-9	Q91b	5	北埋90	0.92×0.52×0.06	後期中葉手稲式期	

I 調査の概要

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模		時 期	備 考
				直径×短径×深さm()推定			
LF-10	Q89b	5	北埋90	0.50×0.48×0.02		後期中葉手稲式期	
LF-11	Y85a・d	5	北埋90	0.51×0.47×0.04		後期	
LF-12	S81c	5	北埋90	0.17×0.13×0.02		後期中葉手稲式期	
LF-13	T80d, T81a	5	北埋90	0.55×0.48×0.08		後期中葉手稲式期	
LF-14	W81b	5	北埋90	0.52×0.47×0.12		後期初頭余市式期	
LF-15	W80c	5	北埋90	0.56×0.45×0.10		後期初頭余市式期	
LF-16	T81a・d	5	北埋90	0.53×0.51×0.09		後期中葉手稲式期	
LF-17	V80b	5	北埋90	0.92×0.63×0.08		後期初頭余市式期	
LF-18	C99c	5	北埋105	1.08×0.52×0.09		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-19	E100b	5	北埋105	0.49×0.41×0.13		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-20	E100b	5	北埋105	0.19×0.25×0.09		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-21	C88c, D88d	5	北埋105	0.42×0.39×0.07		晩期タンネットウL式期	
LF-22	E89a・d	5	北埋105	0.79×0.51×0.13		晩期タンネットウL式期	
LF-23	D89d	5	北埋105	0.55×0.46×0.02		晩期タンネットウL式期	
LF-24	C89c, C90b	5	北埋105	0.64×0.50×0.13		晩期タンネットウL式期	
LF-25	F102a	5	北埋105	0.87×0.38×0.03		晩期タンネットウL式期	
LF-26	F103a・b	5	北埋105	(残0.80)×0.70×0.09		晩期タンネットウL式期	木の根攪乱
LF-27	E98b・c, F99a・d	5・7	北埋105	0.90×0.69×0.14		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-28	E98c	5	北埋105	0.56×0.39×0.10		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-29	E98c, F98d	5・7	北埋105	0.84×0.69×0.13		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-30	E99b	5	北埋105	0.56×0.35×0.05		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-31	E99b・c, F99a・d	5	北埋105	0.83×0.51×0.10		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-32	E99c	5	北埋105	0.50×0.34×0.09		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-33	E99c	5	北埋105	0.47×0.32×0.07		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-34	E99a・d	5	北埋105	0.73×0.57×0.06		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-35	E99a	5	北埋105	0.23×0.15×0.03		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-36	E95c・d	5	北埋105	0.97×0.77×0.08		晩期タンネットウL式期	
LF-37	D96c・d	5	北埋105	0.64×0.26		晩期タンネットウL式期	
LF-38	D101a	5	北埋105	0.31×0.28		晩期タンネットウL式期	
LF-39	E87a・b	5	北埋105	0.56×0.43×0.10		晩期タンネットウL式期	
LF-40	B86d	5	北埋105	1.58×0.54×0.11		晩期タンネットウL式期	
LF-41	O51c・d	7	北埋105	1.12×0.33×0.17		後期	
LF-42	N47d, N48a	7	北埋105	大0.65×0.42×0.11		後期	大小3ヵ所
LF-43	O45c	7	北埋105	0.47×0.43×0.07		晩期タンネットウL式期	風倒木痕上
LF-44	P53c, Q53d	7	北埋105	0.52×0.44×0.02		後期	
LF-45	O52c・d	7	北埋105	1.03×0.52×0.06		後期	風倒木痕上
LF-46	U49c・d, U50b	7	北埋105	0.68×0.58×0.11		晩期タンネットウL式期	
LF-47	P50c	7	北埋105	0.37×0.29×0.04		後期	図掲載
LF-48	P50c	7	北埋105	0.88×0.81×0.19		後期	図掲載
LF-49	N50c, N51b, O50d, O51a	7	北埋105	大0.47×0.29×0.11		後期	大小2ヵ所
LF-50	N50b	7	北埋105	0.34×0.16×0.10		後期	
LF-51	N50c・d	7	北埋105	0.37×0.17×0.02		後期	
LF-52	O50d	7	北埋105	0.39×0.37×0.05		後期	風倒木痕凹 図掲載
LF-53	O50d	7	北埋105	0.17×0.11×0.01		後期	風倒木痕凹 LF-52下 図掲載
LF-54	S52c, T52d	7	北埋105	1.32×0.92×0.17		後期	
LF-55	S47a・d	7	北埋105	0.71×0.37×0.09		後期	
LF-56	R47c, R48b	7	北埋105	0.49×0.35×0.12		後期	
LF-57	G92d, G93a・b	7	北埋105	1.62×0.85×0.11		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-58	G92c・d	7	北埋105	0.46×0.36×0.06		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-59	G92a	7	北埋105	0.67×0.50×0.06		晩期タンネットウL式期	図掲載

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No	規模		時 期	備 考
				直径×短径×深さm()推定			
LF-60	G91c	7	北埋105	0.41×0.29×0.12		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-61	F93c, G93a・d	7	北埋105	0.45×0.42×0.11		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-62	G93d	7	北埋105	0.55×0.37×0.05		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-63	H101a	7	北埋105	1.15×0.57×0.19		晩期タンネットウL式期	
LF-64	F95c, F96b	7	北埋105	0.85×0.55×0.13		晩期タンネットウL式期	風倒木痕上 図掲載
LF-65	G95d, G96a	7	北埋105	0.60×0.54×0.15		晩期タンネットウL式期	風倒木痕上 図掲載
LF-66	K100a	7	北埋105	0.57×0.35×0.14		晩期タンネットウL式期	
LF-67	J95c, K99d	7	北埋105	0.91×0.31×0.10		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-68	G92a・b	7	北埋105	0.89×0.82×0.13		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-69	G91a	7	北埋105	0.60×0.56×0.09		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-70	G91d	7	北埋105	0.62×0.45×0.05		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-71	G91a	7	北埋105	0.78×0.31×0.18		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-72	E88b・c	7	北埋105	0.67×0.44×0.16		晩期タンネットウL式期	
LF-73	F97a	7	北埋105	0.84×0.51×0.11		晩期タンネットウL式期	
LF-74	F96c・d	7	北埋105	0.37×0.25×0.05		晩期タンネットウL式期	
LF-75	G95d, G96a・b	7	北埋105	0.93×0.37×0.08		晩期タンネットウL式期	
LF-76	L94c・d	7	北埋105	1.39×0.59×0.12		晩期タンネットウL式期	
LF-77	L94a・b	7	北埋105	1.27×0.69×0.20		晩期タンネットウL式期	
LF-78	G93c・d	7	北埋105	0.64×0.54×0.10		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-79	M96d	7	北埋105	0.88×0.47×0.16		晩期タンネットウL式期	風倒木痕凹
LF-80	I89a	7	北埋105	0.70×0.47×0.16		後期	
LF-81	K92d	7	北埋105	0.90×0.64×0.10		晩期タンネットウL式期	図掲載
LF-82	K93b, L93a	7	北埋105	(0.75)×0.45×0.08		晩期タンネットウL式期	
LF-83	K92b・c	7	北埋105	0.74×0.41×0.08		晩期タンネットウL式期	
LF-84	J93c, K93d	7	北埋105	1.14×0.64×0.02		晩期タンネットウL式期	
LF-85	H86d	7	北埋105	0.26×0.16×0.04		後期	
LF-86	I84d		北埋105	0.70×0.57×0.08		後期堂林式期	
LF-87	F83b, G83a	7	北埋105	0.70×0.61×0.13		晩期タンネットウL式期	昨年の続き 図掲載
LF-88	G83a	7	北埋105	0.56×0.43×0.14		後期	図掲載
LF-89	P87d	7	北埋105	(0.70)×0.55×0.11		後期	図掲載
LF-90	P87d	7	北埋105	0.19×0.16×0.04		後期	図掲載
LF-91	P87a	7	北埋105	0.52×0.38×0.07		後期	図掲載
LF-92	P85c・d	7	北埋105	0.47×0.33×0.07		晩期タンネットウL式期	
LF-93	P81c	7	北埋105	0.34×0.33×0.05			
LF-94	K78b, L78a	7	北埋105	0.91×0.62×0.05		後期中葉手稲式期	図掲載
LF-95	K78c	7	北埋105	0.42×0.34×0.01		後期中葉手稲式期	
LF-96	R84d	7	北埋105	0.40×0.38×0.06		後期	
LF-97	N79b	7	北埋105	0.52×0.35×0.06		後期	
LF-98	N78a・b	7	北埋105	0.85×0.52×0.11		後期	図掲載
LF-99	P81a	7	北埋105	0.51×0.36×0.13		後期	
LF-100	Q81b・c, R81a	7	北埋105	大0.70×0.26×0.11		後期	大小2ヵ所
LF-101	M79c, N79b	7	北埋105	1.76×(0.90)×0.05		後期タブコブ式期	
LF-102	K79a	7	北埋105	0.35×0.27×0.02		後期	
LF-103	M78a	7	北埋105	0.97×0.63×0.08		後期	
LF-104	P83a・b	7	北埋105	0.47×0.35×0.07		後期	
LF-105	L74a・b・c・d	7	北埋105	0.93×0.30×0.20		後期	周囲に焼土粒・炭化物分布
LF-106	K73c, L73d	7	北埋105	1.40×0.76×0.19		後期	周囲に焼土粒・炭化物分布
LF-107	K71c, L71d	7	北埋105	0.80×0.76×0.08		後期～晩期	
LF-108	S77c, T77d	7	北埋105	0.46×0.24×0.08		後期	風倒木痕上
LF-109	Q72c・d, Q73b	7	北埋105	2.75×0.65×0.34		早期	風倒木痕凹 図掲載
LF-110	R70b・c	7	北埋105	0.65×0.43×0.05		早期	
LF-111	O71d	7	北埋105	0.61×0.50×0.12		後期～晩期	
LF-112	O70d	7	北埋105	0.59×0.49×0.08		後期～晩期	

I 調査の概要

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模	時 期	備 考
				直径×短径×深さm()推定		
LF-113	J72d	7	北埋105	1.43×0.95×0.11	晩期タンネットウL式期	
LF-114	I71b	7	北埋105	0.67×0.49×0.05	後期～晩期	
LF-115	N72b, L72a	7	北埋105	(0.60)×0.50×0.23	後期～晩期	
LF-116	N73c, O73d	7	北埋105	(1.20)×0.80×0.23	後期～晩期	
LF-117	N73a・b	7	北埋105	1.20×0.62×0.25	後期～晩期	
LF-118	L73c	7	北埋105	0.70×0.65×0.03	後期～晩期	
LF-119	I65c	7	北埋105	0.37×0.28×0.02	後期	
LF-120	I63d, I64a	7	北埋105	(0.30)×(0.70)×0.16	後期	風倒木痕上
LF-121	H63a	7	北埋105	0.32×0.18×0.03	後期	
LF-122	M69c, N69d	7	北埋105	0.85×0.81×0.05	後期～晩期	風倒木痕上
LF-123	K59b	7	北埋105	1.04×0.47×0.07	後期	風倒木痕凹
LF-124	L59c, M59d	7	北埋105	0.65×0.42×0.06	後期	
LF-125	L67a	7	北埋105	0.58×0.22×0.50	後期	風倒木痕凹
LF-126	K65a・b	7	北埋105	0.77×0.25×0.11	後期	風倒木痕凹 大小2ヵ所
LF-127	M55c, N55d	7	北埋105	1.14×0.40×0.07	後期	図掲載
LF-128	M63a・d	7	北埋105	1.18×0.59×0.09	後期	図掲載
LF-129	R61c	7	北埋105	0.30×0.23×0.07	後期	
LF-130	Q59b	7	北埋105	0.94×0.45×0.24	後期	
LF-131	L61b, M61a	7	北埋105	0.65×0.48×0.15	後期	風倒木痕上
LF-132	Q38d	7	北埋105	1.06×0.60×0.18	後期	図掲載
LF-133	R44c	7	北埋105	0.30×0.15×0.04	後期～晩期	風倒木痕上
LF-134	R44c	7	北埋105	0.35×0.15×0.04	晩期タンネットウL式期	風倒木痕上
LF-135	M56b, N55d, N56a	7	北埋105	大0.59×0.52×0.13		大小3ヵ所
LF-136	N55d, N56a	7	北埋105	0.73×0.52×0.08	後期	
LF-137	N55c, N56b	7	北埋105	0.28×0.20×0.07	後期	
LF-138	N55d	7	北埋105	0.52×0.29×0.03	後期	
LF-139	N55d	7	北埋105	0.44×0.34×0.04	後期	
LF-140	N59a	7	北埋105	大0.33×0.25×0.08	後期	大小2ヵ所
LF-141	N61a・d	7	北埋105	大0.34×0.24×0.02	後期	大小2ヵ所
LF-142	O55a	7	北埋105	0.21×0.15×0.03	後期	風倒木痕上
LF-143	Q60c	7	北埋105	0.38×0.30×0.07	後期	風倒木痕上
LF-144	O62c	7	北埋105	1.55×0.30×0.20	早期	風倒木痕上
LF-145	R58b	7	北埋105	0.25×0.13×0.08	後期	H-14脇
LF-146	Q58d, Q59a	7	北埋105	(1.80)×(0.80)×0.12	後期	風倒木痕凹
LF-147	N43d	7	北埋105	0.65×0.25×0.13	後期～晩期	風倒木痕凹
LF-148	R42a・d	7	北埋105	0.87×0.21×0.08	後期～晩期	風倒木痕凹
LF-149	Q45a	7	北埋105	0.66×0.42×0.08	後期～晩期	風倒木痕上 図掲載
LF-150	Q45b・c	7	北埋105	0.29×0.23×0.09	後期～晩期	風倒木痕上
LF-151	S46b・c, T46a・d	7	北埋105	0.56×0.31×0.07	後期	風倒木痕凹
LF-152	O43c	7	北埋105	0.13×0.09×0.02	後期～晩期	
LF-153	P45d	7	北埋105	0.45×0.37×0.06	後期	
LF-154	P41a・b・d, P42a・b	7	北埋105	大1.02×0.25×0.10	後期～晩期	大小4ヵ所 風倒木痕凹
LF-155	Q42a・d	7	北埋105	大0.55×0.45×0.01	後期～晩期	大小2ヵ所
LF-156	Q44c	7	北埋105	0.17×0.15×0.02	後期～晩期	
LF-157	N44b・c	7	北埋105	0.23×0.14×0.03	後期	風倒木痕凹
LF-158	P67b・c	7	北埋105	大0.63×0.57×0.17	後期	大小2ヵ所
LF-159	K89b	7	北埋105	0.58×0.48×0.05	後期～晩期	図掲載
LF-160	H90a	7	北埋105	0.53×0.34×0.03	後期～晩期	風倒木痕凹 図掲載
LF-161	I70a	7	北埋105	0.38×0.37×0.08	後期～	風倒木痕凹
LF-162	H70c, H71b	7	北埋105	0.83×(0.45)×0.12	後期～晩期	風倒木痕凹
LF-163	H70a・b	7	北埋105	大0.43×0.21×0.02	後期～晩期	風倒木痕凹
LF-164	H71a	7	北埋105	0.14×0.10×0.02	後期～晩期	風倒木痕凹
LF-165	H71a	7	北埋105	0.19×0.14×0.07	後期～晩期	風倒木痕凹

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模	時 期	備 考
				直径×短径×深さ(m) (推定)		
LF-166	S33c	6	北埋92	0.49×0.36×0.16	晩期中葉以降	旧LF-101
LF-167	X26d, X27a	6	北埋92	0.21×0.12×0.02		旧LF-102
LF-168	W26d	6	北埋92	0.22×0.19×0.05		旧LF-103
LF-169	W26b・c	6	北埋92	0.40×0.26×0.04		旧LF-104
LF-170	R29c, R30b	6	北埋92	0.30×0.18×0.02		旧LF-105
LF-171	R29c, R30b	6	北埋92	0.48×0.58×0.04		旧LF-106
LF-172	P28b	6	北埋92	1.28×0.71×0.08	後期中葉以降	旧LF-107
LF-173	Y27a・d	6	北埋92	0.66×0.50×0.06		旧LF-108
LF-174	W26c	6	北埋92	0.40×0.34×0.08	晩期後葉	旧LF-109
LF-175	W27b, X27a	6	北埋92	0.36×0.28×0.02	晩期後葉	旧LF-110
LF-176	F84c・d	8	北埋117	0.84×0.36×0.09	後期中葉	
LF-177	B79c, B80b	8	北埋117	0.42×0.38×0.05	後期中葉	
LF-178	F81a	8	北埋117	1.01×0.24×0.07	後期中葉	LP-70の上
LF-179	D79c, D80b, E79d	8	北埋117	0.70×0.54×0.11	後期中葉	
LF-180	F82c, F83b	8	北埋117	0.38×0.22×0.06	後期中葉	
LF-181	F82a・b・c・d	8	北埋117	0.64×0.40×0.12	後期中葉?	
LF-182	B79b	8	北埋117	0.69×0.41×0.16	早期?	
LF-183	D79a・b	8	北埋117	0.52×0.31×0.08	後中葉?	
LF-184	D79c, D80b, E79d	8	北埋117	0.90×0.53×0.18	後期中葉	掘り込み・周辺小ビット
LF-185	F81b	8	北埋117	0.25×0.13×0.06	後期中葉	
LF-186	F81b・c	8	北埋117	0.91×0.52×0.11	晩期タンネットウL式期?	
LF-187	F80c・d	8	北埋117	0.66×0.31×0.13	後期中葉	
LF-188	F80d	8	北埋117	0.66×0.42×0.11	後期中葉	
LF-189	D78c	8	北埋117	0.65×0.54×0.14	後期中葉	
LF-190	C81b, D81a・b・c・d	8	北埋117	3.25×0.48×0.13	晩期タンネットウL式期	
LF-191	D81a	8	北埋117	0.52×0.44×0.14	晩期タンネットウL式期	
LF-192	C74d	8	北埋117	0.82×0.58×0.14	後期中葉	
LF-193	C73d, C74a	8	北埋117	0.62×0.52×0.05	後期中葉	
LF-194	D76d	8	北埋117	0.59×0.44×0.11	晩期タンネットウL式期	
LF-195	C78c	8	北埋117	0.67×0.52×0.05	後期中葉	
LF-196	C78a・b	8	北埋117	1.10×0.68×0.11	晩期タンネットウL式期	
LF-197	C79b	8	北埋117	1.24×0.61×0.07	後期中葉	
LF-198	C75c, C76b, D75d, D76a	8	北埋117	0.94×0.48×0.05	後期堂林式期	
LF-199	C75a	8	北埋117	0.85×0.29×0.08	後期中葉?	
LF-200	B75c	8	北埋117	0.76×0.53×0.08	後期中葉?	
LF-201	Z73a・b・c・d	8	北埋117	0.54×0.34×0.13	晩期タンネットウL式期	
LF-202	C76a・d	8	北埋117	0.48×0.38×0.12	晩期タンネットウL式期	
LF-203	C76c	8	北埋117	0.66×0.44×0.08	晩期タンネットウL式期	
LF-204	C76c, D76d	8	北埋117	0.66×0.28×0.06	晩期タンネットウL式期	
LF-205	D76c・d, D77a・b	8	北埋117	0.84×0.66×0.20	晩期タンネットウL式期	
LF-206	D77c	8	北埋117	0.42×0.28×0.06	晩期タンネットウL式期	
LF-207	D77b	8	北埋117	0.17×0.14×0.03	晩期タンネットウL式期	
LF-208	E77c	8	北埋117	0.70×0.47×0.07	晩期タンネットウL式期	
LF-209	E77d	8	北埋117	0.84×0.25×0.09	後期中葉?	
LF-210	E78b	8	北埋117	0.41×0.22×0.03	後期中葉	
LF-211	E78d	8	北埋117	0.37×0.34×0.04	後期中葉	
LF-212	E78c	8	北埋117	0.50×0.41×0.06	後期中葉	
LF-213	E78c	8	北埋117	0.41×0.30×0.07	後期中葉	
LF-214	E78c	8	北埋117	0.48×0.17×0.08	後期中葉	
LF-215	E78c, F78d	8	北埋117	0.58×0.43×0.10	後期中葉	
LF-216	F78d	8	北埋117	0.24×0.13×0.03	後期中葉	
LF-217	E78c, E79b	8	北埋117	0.49×0.34×0.10	後期中葉	
LF-218	E78d, E79a・d	8	北埋117	1.89×0.82×0.05	後期中葉	
LF-219	E79b・c, F79a・d	8	北埋117	0.92×0.52×0.15	後期中葉	

I 調査の概要

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模	時 期	備 考
				直径×短径×深さm()推定		
LF-220	E80c	8	北埋117	1.16×0.67×0.10	晩期タンネットウL式期	
LF-221	C80c, D80d	8	北埋117	0.42×0.23×0.11	後期中葉	
LF-222	B71d	8	北埋117	0.36×0.20×0.03	晩期タンネットウL式期	
LF-223	B70d	8	北埋117	0.48×0.38×0.12	晩期タンネットウL式期	
LF-224	B70a・d	8	北埋117	0.54×0.46×0.10	早期?	
LF-225	Zo70b	8	北埋117	0.52×0.46×0.12	後期中葉～晩期	
LF-226	Zo70a・d	8	北埋117	0.54×0.48×0.10	後期中葉	
LF-227	Zo70a・d	8	北埋117	0.54×0.37×0.16	晩期タンネットウL式期	
LF-228	Yo69c	8	北埋117	0.44×0.18×0.13	後期中葉～晩期	
LF-229	Yo69b	8	北埋117	0.8×0.54×0.11	後期中葉～晩期	
LF-230	Yo69a	8	北埋117	0.38×0.11×0.05	後期中葉～晩期	
LF-231	Yo68b	8	北埋117	0.46×0.44×0.07	後期中葉～晩期	
LF-232	Zo68b・c	8	北埋117	0.46×0.43×0.06	晩期タンネットウL式期	
LF-233	A68b・c	8	北埋117	0.50×0.30×0.06	後期堂林式期	
LF-234	Yo67b・c・d	8	北埋117	1.12×0.76×0.17	晩期タンネットウL式期	
LF-235	A66a・d	8	北埋117	0.84×0.44×0.17	晩期タンネットウL式期	
LF-236	A66a	8	北埋117	0.88×0.28×0.14	晩期タンネットウL式期	
LF-237	Zo65b, A65a	8	北埋117	0.62×0.52×0.15	晩期タンネットウL式期	
LF-238	A65a	8	北埋117	0.50×0.28×0.12	晩期タンネットウL式期	
LF-239	B65d	8	北埋117	0.53×0.51×0.08	晩期タンネットウL式期	
LF-240	A64d, A65a	8	北埋117	2.17×1.18×0.18	晩期タンネットウL式期	
LF-241	B64c・d	8	北埋117	1.05×0.50×0.22	後期中葉	
LF-242	B62b・c	8	北埋117	0.98×0.40×0.17	晩期タンネットウL式期	
LF-243	Zo69c, A69d	8	北埋117	0.48×0.46×0.07	後期中葉～晩期	
LF-244	Zo65b	8	北埋117	0.42×0.33×0.06	後期中葉～晩期	
LF-245	Zo65c	8	北埋117	0.40×0.28×0.11	後期中葉～晩期	
LF-246	Yo66c	8	北埋117	0.63×0.28×0.11	後期中葉～晩期	
LF-247	Yo66c	8	北埋117	0.59×0.36×0.07	後期中葉～晩期	
LF-248	Zo66d	8	北埋117	0.34×0.19×0.04	後期中葉～晩期	
LF-249	Zo66a	8	北埋117	1.58×0.47×0.07	後期中葉～晩期	
LF-250	Zo66d	8	北埋117	0.64×0.28×0.07	後期中葉～晩期	
LF-251	Zo66a・d	8	北埋117	0.54×0.45×0.16	後期中葉～晩期	
LF-252	Zo66a・b	8	北埋117	0.72×0.66×0.17	後期中葉	
LF-253	U-73-a.b	9	北埋127	1.37×0.55×0.09m	早期後半～晩期	
LF-254	Y-78-c	9	北埋127	0.43×0.33×0.10m	早期後半～晩期	
LF-255	T-78-a～d	9	北埋127	1.99×1.40×0.19m	早期後半～晩期	
LF-256	U-76-d,77-a	9	北埋127	1.10×0.32×0.05m	早期後半～晩期	
LF-257	B2-71-d	9	北埋127	0.56×0.41×0.04m	早期後半～晩期	
LF-258a	Z-70-b, A2-70-a	9	北埋127	0.71×0.36×0.04m	早期後半～晩期	
LF-258b	Z-70-b, A2-70-a	9	北埋127	0.54×0.34×0.03m	早期後半～晩期	
LF-259	Y-71-b.c, Z-71-a.d	9	北埋127	0.48×0.41×-m	早期後半～晩期	
LF-260	Z-73-d	9	北埋127	0.44×0.28×0.02m	早期後半～晩期	
LF-261	Y-74-c	9	北埋127	0.70×0.50×0.04m	早期後半～晩期	
LF-262	V-78-d	9	北埋127	0.60×0.33×0.15m	早期後半～晩期	
LF-263	U-77-c	9	北埋127	0.92×0.59×0.10m	早期後半～晩期	
LF-264	Y-71-b, Z-71-a	9	北埋127	1.25×1.04×0.18m	早期後半～晩期	
LF-265	Z-71-b	9	北埋127	0.51×0.38×0.11m	早期後半～晩期	
LF-266	A2-73-a.b	9	北埋127	0.78×0.54×0.08m	早期後半～晩期	
LF-267	F-75-a	9	北埋127	0.68×0.50×0.13m	早期後半～晩期	
LF-268	V-73-c	9	北埋127	1.06×0.74×0.23m	早期後半～晩期	

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模		備考
				直径×短径×深さm()推定	時期	
LF-269	V-73-d	9	北埋No.127	0.36×0.32×0.02m	縄文早期後半～晩期	
LF-270	T-73-a.d	9	北埋No.127	0.46×0.32×0.04m	縄文早期後半～晩期	
LF-271	Z-73-c	9	北埋No.127	0.91×0.55×0.07m	縄文早期後半～晩期	
LF-272	V-72-a.b	9	北埋No.127	0.55×0.43×0.18m	縄文早期後半～晩期	
LF-273	H2-79-a	9	北埋No.127	0.28×0.21×0.05m	縄文早期後半～晩期	
LF-274	D2-73-d,74-a	9	北埋No.127	0.98×0.61×0.03m	縄文早期後半～晩期	
LF-275	E2-73-b.c	9	北埋No.127	1.50×0.85×0.09m	縄文早期後半～晩期	
LF-276	Z-74-c	9	北埋No.127	0.45×0.32×0.05m	縄文早期後半～晩期	
LF-277a	W-67-a～c	9	北埋No.127	1.23×0.60×0.11m	縄文早期後半～晩期	
LF-277b	W-67-a～c	9	北埋No.127	1.50×0.75×0.13m	縄文早期後半～晩期	
LF-278	Z-76-d	9	北埋No.127	0.56×0.44×0.04m	縄文早期後半～晩期	
LF-279	E2-78-d	9	北埋No.127	0.66×0.46×0.06m	縄文早期後半～晩期	
LF-280	W-75-b.c	9	北埋No.127	0.46×0.43×0.03m	縄文早期後半～晩期	
LF-281	T-70-d	9	北埋No.127	0.80×0.56×0.07m	縄文早期後半～晩期	
LF-282	C2-81-d	9	北埋No.127	0.52×0.34×-m	縄文早期後半～晩期	
LF-283	D2-81-b,E2-81-a	9	北埋No.127	0.47×0.41×0.05m	縄文早期後半～晩期	
LF-284	D2-82-b,E2-82-a	9	北埋No.127	0.51×0.49×0.11m	縄文早期後半～晩期	
LF-285	G2-78-c.d	9	北埋No.127	0.95×0.93×0.11m	縄文早期後半～晩期	
LF-286	W-69-b	9	北埋No.127	0.67×0.54×0.13m	縄文早期後半～晩期	

(7) V層炭化物集中一覧

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模		備考
				直径×短径×深さm()推定	時期	
LC-1	U-77-a～d	9	北埋No.127	1.19×0.51×0.07m	縄文早期後半～晩期	
LC-2	F-73-d,74-a	9	北埋No.127	2.20×0.58×-m	縄文早期後半～晩期	
LC-3	T-74-a	9	北埋No.127	0.45×0.39×-m	縄文早期後半～晩期	
LC-4	T-74-c.d	9	北埋No.127	1.10×0.87×-m	縄文早期後半～晩期	
LC-5	A2-71-b.c	9	北埋No.127	10.1×0.41×-m	縄文早期後半～晩期	
LC-6	G2-79-b.c	9	北埋No.127	0.47×0.34×-m	縄文早期後半～晩期	
LC-7	H2-79-a	9	北埋No.127	0.27×0.20×-m	縄文早期後半～晩期	
LC-8	H2-79-a	9	北埋No.127	0.48×0.34×-m	縄文早期後半～晩期	

(8) V層集石一覧

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模		備考
				直径×短径×深さm()推定	時期	
LS-1		9	北埋No.127	1.62×0.51×-m	縄文後期前～中葉	

(9) V層大型土壙一覧

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模		備考
				直径×短径×深さm()推定	時期	
BP-1	N82c, N83b, O82d, O83a	7	北埋105	3.00×2.67×1.59	後期中葉手稲式期・ 鮎澗式期	
BP-2	P84a・b・c・d	7	北埋105	2.22×2.02×1.60	後期中葉手稲式期・ 鮎澗式期	
BP-3	N73c・d, N74a・b	7	北埋105	2.14×1.95×1.36	後期前葉余市式期～ 中葉	周囲4本柱
BP-4	K74	7	北埋105	2.00×1.80×1.10	後期前葉余市式期～中葉	
DP-1	T48d	7	北埋105	0.93×0.80×1.96	後期中葉	

II 土 層

1. 土層の区分 (図II-1・2、図版2)

基本土層は過年度までの報告、北埋調報第90集・92集・105集・117集のキウス7遺跡報告と同じである。樽前c降下軽石(Ta-c)を挟むIII層とV層の黒色土層が主な遺構、遺物包含層である。千歳周辺で確認される樽前b降下軽石(Ta-b)は検出されていない。また、層状には検出されていないが、樽前d降下軽石(Ta-d)はV層の下位からVI層にかけて粒状に点在することが確認されている。

I層：黒褐色～灰褐色の表土層。

II層：灰白色、樽前a降下軽石(Ta-a)。

III層：黒色腐植土層。新千歳空港用地内での調査報告にある第0黒色土層と、第I黒色土層に相当する。縄文時代晩期からアイヌ文化期の遺物包含層である。続縄文時代の北大式土器、後北C2D式土器、晩期大洞A・A'式土器などの遺物が出土している。

IV層：茶褐色、樽前c降下軽石(Ta-c)。

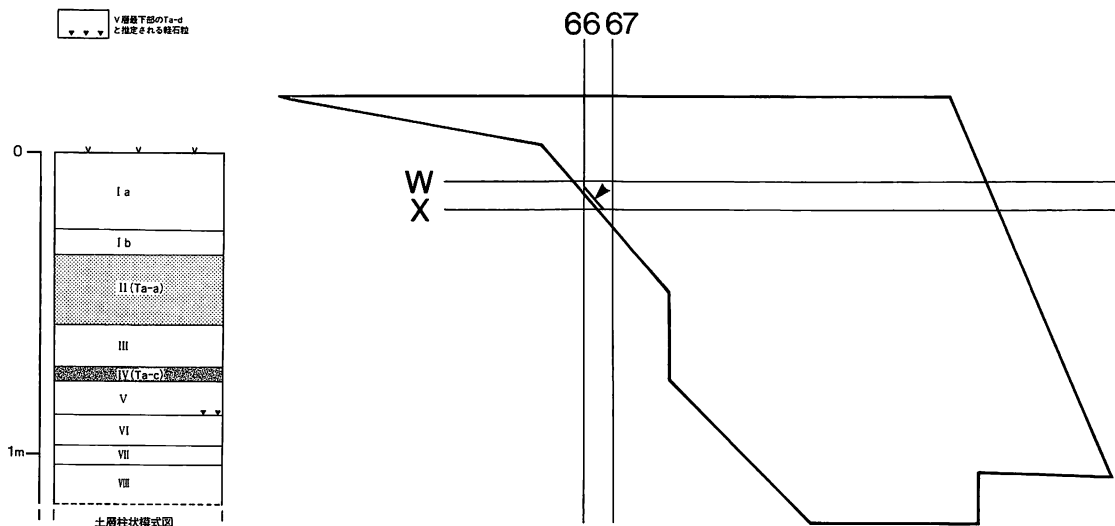
V層：黒色～褐色腐植層。新千歳空港用地内での調査報告にある第II黒色土層に相当する。縄文時代早期から晩期までの遺物包含層である。今年度は特に早期後半コッタロ式土器を伴う住居跡、土壌等を検出している。

VI層：暗褐～黄褐色土層。V層とVII層の漸移層で層界は不明瞭。早期の遺物も含まれており、今年初めて旧石器時代の遺物が出土している。

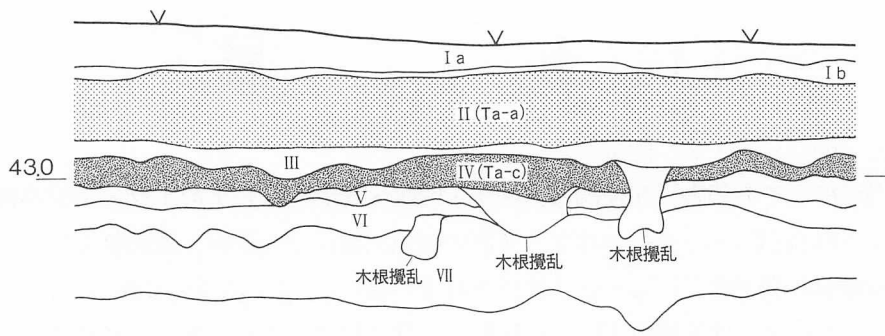
VII層：黄褐～明黄褐色土層。恵庭a降下軽石(En-a)の風化ローム層。旧石器時代の遺物が出土する。

VIII層：明黄褐色の恵庭a降下軽石(En-a)。上位に粒径の大きなもの(L)、下位に小さなもの(S)が堆積する。

IX層：ローム。



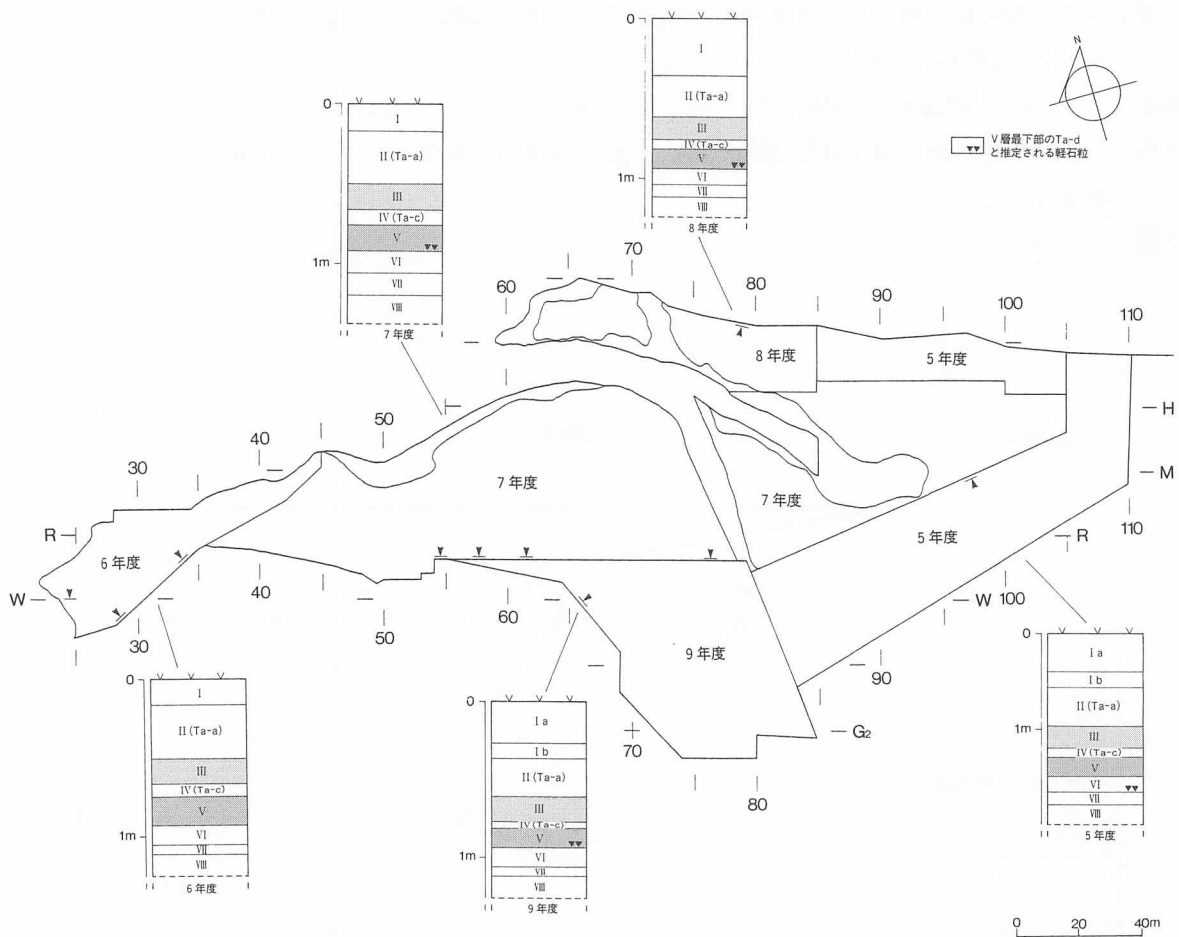
図II-1 土層図断面図



VIII

IX

土層断面図



図II-2 キウス7遺跡各部の柱状土層模式図

III Ta-c 上位の調査

1. 土 壙

UP-60 (図III-1, 表I-1・7・V-4)

位置 A2-74b、D2-74 規模 1.17/0.79×0.97/0.45×0.32

調査 IV層上面でIII層の落ち込みを確認した。性格は不明である。平面形は不整形である。覆土は主体となるIII層にTa-c (IV層) が混入する。床面はVI層中に作られ不明瞭である。風倒木痕の可能性はある。

遺物 出土していない。 時期 縄文時代晩期以降と推定される。 (笠原)

UP-61 (図III-1, 表I-1・7・V-4)

位置 H2-79 規模 1.01/0.80×0.91/0.80×0.11

調査 IV層上面でIII層の浅い落ち込みと、その上面に散在する礫を確認した。平面形はほぼ円形である。覆土はわずかに炭化物を含むIII層とTa-c (IV層) にIII層が混じるもので構成される。深さは11cmと浅く、土壙として調査したが礫の一部に被熱が認められること、覆土に炭化物を含むこと等から石組み炉の可能性もある。

遺物 覆土1層中からも礫片と樹皮状のものが出土している。

時期 縄文時代晩期以降と推定される。 (笠原)

UP-62 (図III-1, 表I-1・7・V-4, 図版3-1・2)

位置 H2-79-b 規模 0.70/0.38×0.62/0.35×0.20

調査 IV層上面でIII層の落ち込みと、上位から一部被熱の認められる礫を確認した。平面形は楕円形で、III層中から掘り込まれている。壙底はV層上面に作られている。覆土はわずかに炭化物が混じるIII層である。

遺物 覆土上位から礫が出土している。

時期 縄文時代晩期以降と推定される。 (笠原)

2. 焼 土

UF-76 (図III-1, 表I-1・7・V-4, 図版3-3)

位置 V-72b、W-72d、W-73 規模 2.12/-×1.16/-×0.18

調査 IV層上面で、斑状に広がる橙色の焼土を確認した。上位には粒子の粗い炭化物が集中している。

遺物 出土していない。 時期 縄文時代晩期以降と推定される。 (笠原)

UF-77 (図III-1, 表I-1・7・V-4)

位置 B2-81-c、C2-81、C2-82 規模 0.92/-×0.72/-×0.11

調査 III層調査中に確認した橙色の焼土である。

遺物 焼土中より黒曜石製の碎片が数点出土している。

時期 縄文時代晩期以降と推定される。 (笠原)

UF-78 (図III-1, 表I-1・7・V-4)

位置 H2-80 規模 0.63/-×0.58/-×0.10

調査 IV層上面にて橙褐色の落ち込みを確認した。層厚は約10cmで底面はV層上面である。

遺物 出土していない。 時期 縄文時代晩期以降と推定される。 (笠原)

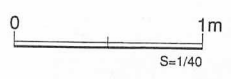
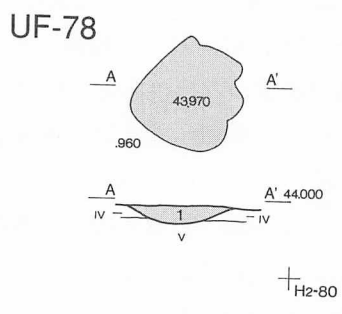
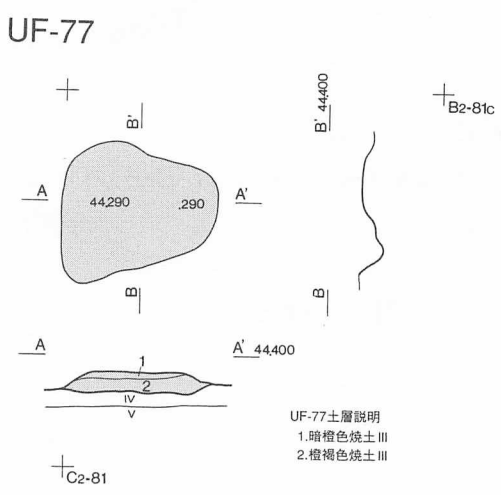
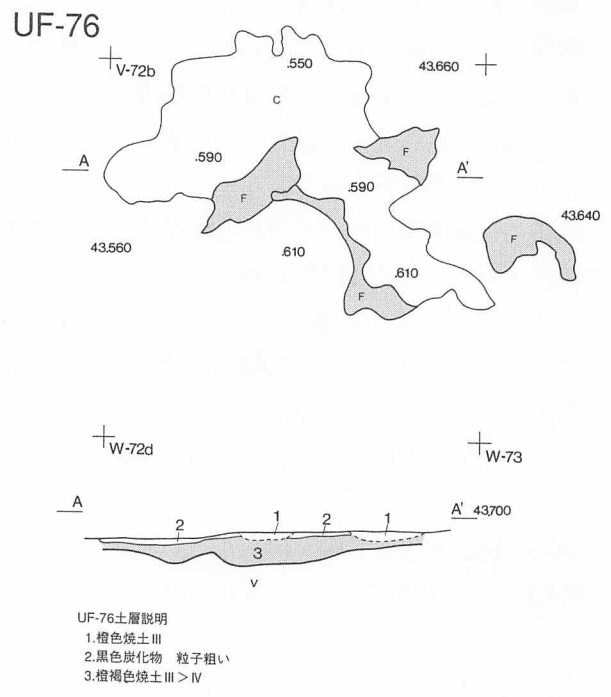
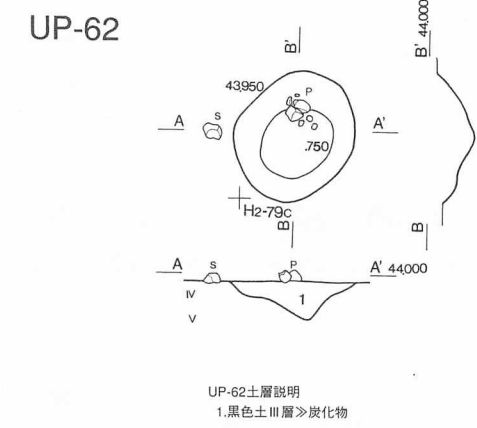
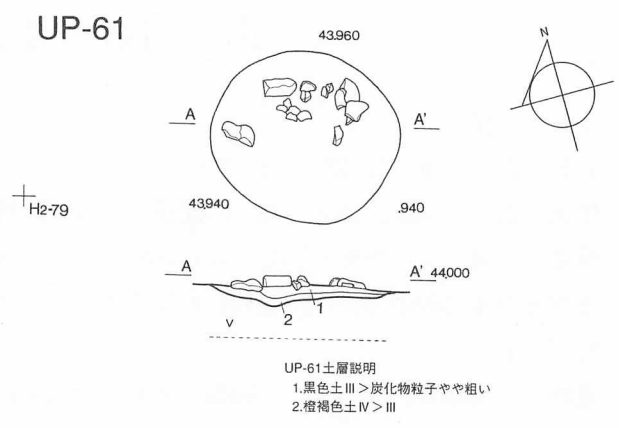
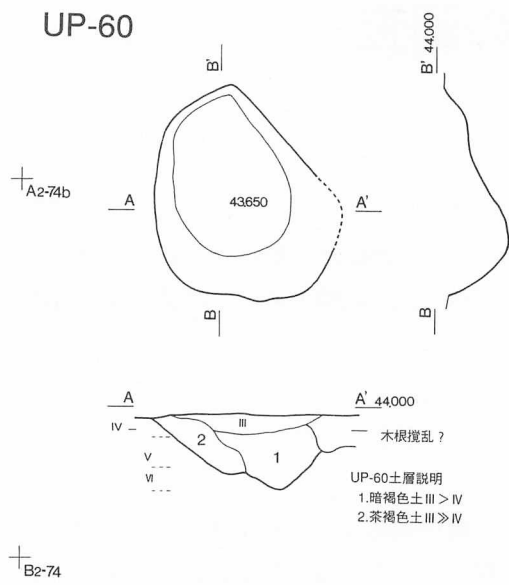
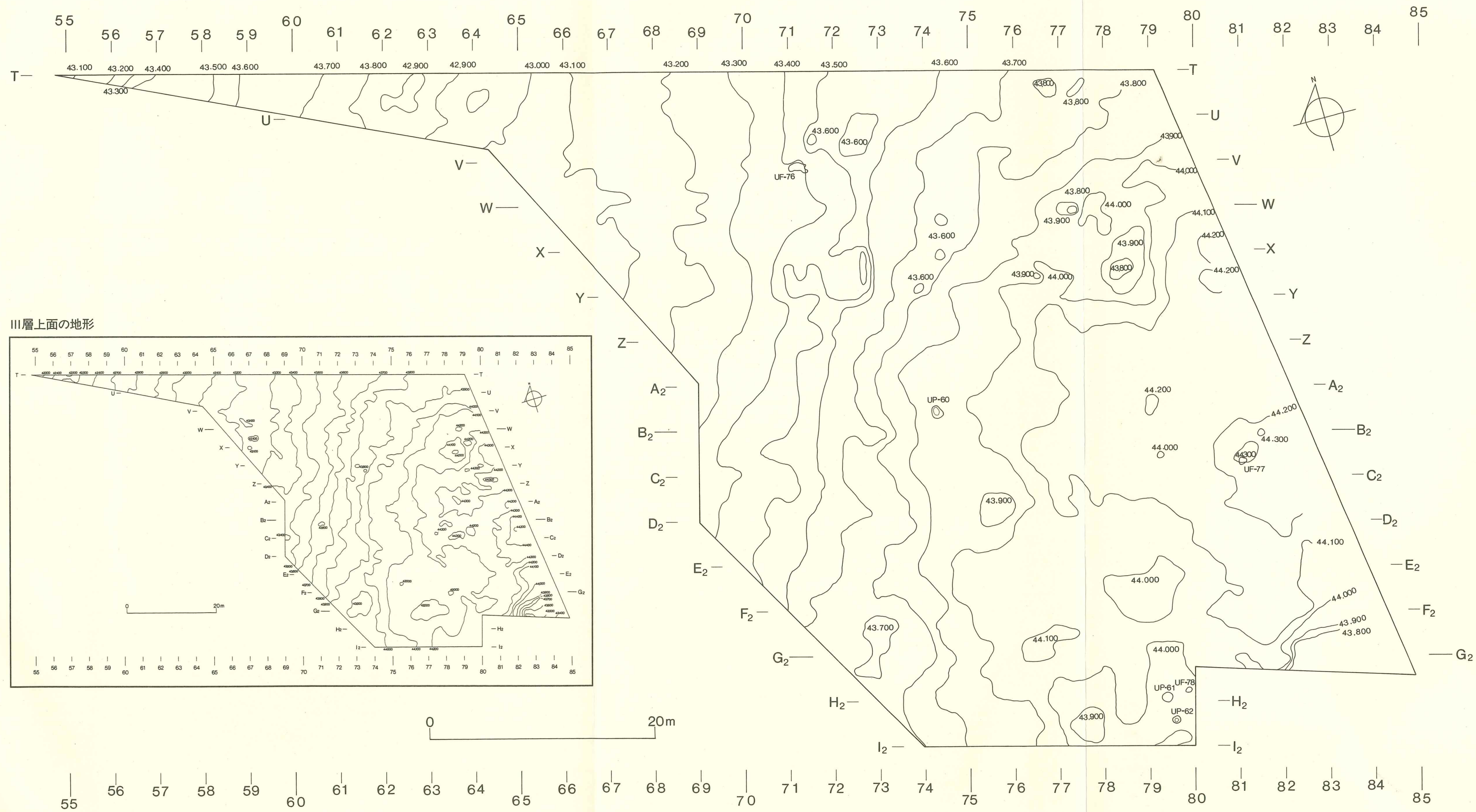


図 III - 1 UP - 60・61・62、UF - 76・77・78



図III-2 IV層上面の地形と遺構配置

IV Ta-c 下位の遺構

Ta-c層下位ではV層～IX層の調査を行い、旧石器、縄文時代早、中～晩期など各時期の遺構を検出した。遺構の種と数量は表IV-1に示した通りである。なお、旧石器に関しては各遺物の出土状況が窪地に流れ込むような分布を示す傾向まで押さえたものの、それに伴う掘込などに関しては検出できなかつたためV章で扱うこととした。

Ta-cを除去したV層上面の地形は、南半分が比較的平坦な地形で北半分が西に向かって低くなる緩やかな斜面の地形を呈している。東西の比高差は約1.7mである。南半分の平坦部ではすでにV層上面で図IV-1で示した遺構の掘上土らしき明褐色土の広がりや窪みが確認され、その範囲を中心に調査を行った。

見つかった遺構の時期は縄文時代早期後半のものを主体に、中期後半、後期前～末葉、晩期末葉などである。V層上面で検出された明褐色土の広がりや、早期後半の竪穴式住居の分布とほぼ重なるため、それらによるものと考えられる。

縄文時代早期後半のコツクロ式土器を伴う時期の遺構には竪穴式住居跡9軒、土壇6箇所、焼土などがある。さらに、それ以外では同時期の可能性を持つものに土壇11箇所もある。これらは同時期の所謂「集落」を構成すると考えられる。

この時期の住居跡と考えられるのはLH-28・29・30・32・33・35・36・38・42の9軒である。平面形は円もしくは楕円で規模的には径が約8～9mに達する大型のもの(LH-28・28・30・32)と径約5～7mに収まる中型のもの(LH-33・35・36・38・42)とがある。ほとんどのものには床面中央付近に炉跡と考えられる焼土が位置している。柱穴が最も良好に検出されたのは床面がVIII層に達していたLH-28であるが、他もLH-28と同様の柱穴群を有していたものと考えられる。

LH-28・29・30・32・35・38・42などの床面で検出されたIX層にまで達する大型の柱穴状ピットに関しては、更に検討を加える余地が残るものの、住居内では壁際に位置するものもあり、全体的には早期後半の遺構群の分布とほぼ重なる傾向にあるため、類似の特長をもつ土壇9箇所(LP-86・100～107)も含めてこの時期の遺構群に関する可能性がある。

住居跡の位置関係はLH-28・38の2軒が連なるもので、LH-35・42・30・32・36・33、LP-93は馬蹄形に配置されていると考えられる。これらは独立した「核家族」によって共有される施設構成の一形態を表している可能性がある。また、LH-38・LP-93に関しては床面に炉跡がなことから付帯施設であった可能性がある。

床、覆土の遺物出土状況については個々の事象に傾向の様なものがある。遺物が床に集中するもの(LH-28・38)、覆土に集中するもの(LH-30・33・35・36・42)、双方とも多いもの(LH-32)とがある。さらに石器類は、剥片石器の割合が高いもの(LH-35・42)、礫石器の割合が高いもの(LH-29・32・33・36)とに別れる傾向がある。石・土製品が出土したのはLH-32だけである。大きな傾向とすれば礫石器類の出現率が目を引く。

表IV-1 検出遺構一覧

	Ta-c層下位(L)	数量
住居跡(H)	LH-28～43	16
土壇(P)	LP-78～107	30
焼土(F)	LF-253～286	34
炭化物集中(C)	LC-1～8	8
礫集中(S)	LS-1	1
合計		89

植物性の食料の摂取率が高かった可能性がある。

早期後半の土壌はLP-81・82・89・91・93・96・97の6箇所である。この他にその可能性のあるものがLP-82・85・86・100～107の11箇所である。LP-81・93は所謂「竪穴状遺構」である。LP-89・91・96・97は平坦な床面に単騎の小ピットを持つ小型の竪穴状土壌である。埋め戻しと考えられるEn-a主体の覆土断面には陥没の痕跡が認められ、この覆土上面からは複数の個体からなる土器片が出土する。覆土と遺物の出土状況から墓的な性格も伺える。

早期遺構群の南と北にある焼土は、同時期の土器分布と重なる傾向にある。I群b-2類の土器はキウス7遺跡全体の中でも極めて限定された範囲でしか出土しておらず、これらと重複する遺構に関しても同じ時期の所産である可能性が高い。

縄文時代中期後半はLH-39の竪穴式住居一軒が検出されている。遺構の上部をLH-31・37に破壊された焼失家屋で、上屋を構築していた材の一部が炭化して残っている。床面からは土器、石器などと共に土製円盤や矢柄研磨器が出土している。

縄文時代後期前葉は竪穴式住居が5軒と墓と考えられる土壌3箇所が見つかった。

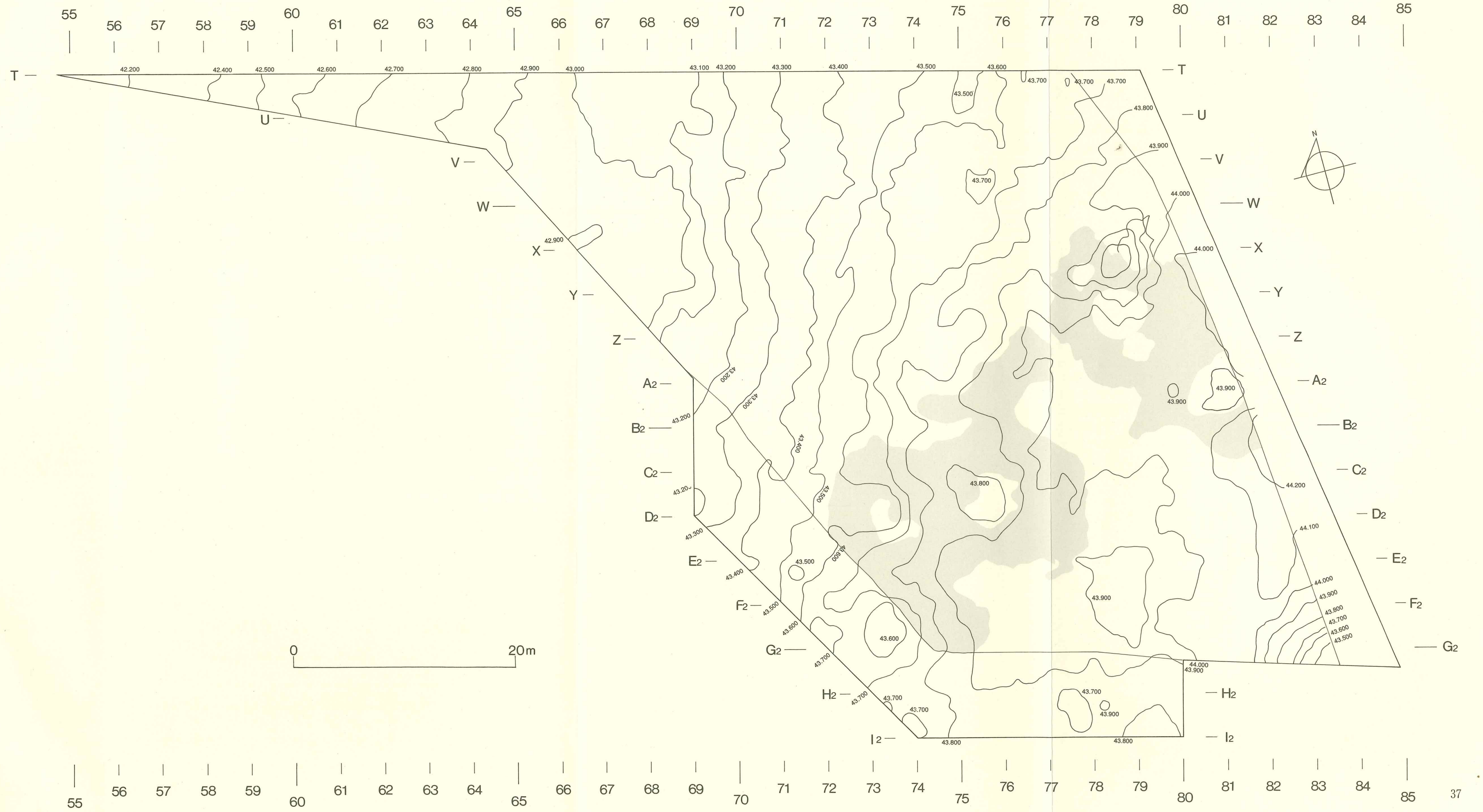
住居はLH-34・37・40・41・43の5軒である。LH-34・37・43は竪穴の掘り込みが浅いタイプのものでLH-40・41はやや掘りが深く小型であるようだ。LH-34・37には大型礫を使った石囲い炉、LH-43には土器囲い炉が検出されている。LH-40・41に関しても床から炉跡と考えられる焼土が見つかった。

土壌はLP-88・98・99の3箇所である。いずれもLH-37の周辺に位置しており、LP-98・99は遺構の上部をLH-31によって失われているが、本来的にはLP-88と同じ規模を有していたものと考えられる。覆土は埋め戻し土と考えられ、遺体は残っていないが土壌墓の可能性が高いと考えられる。LP-88・98・99の土壌3箇所はLH-37の下位に重複するLH-39の周囲に位置することにもなり、これらの時期はLH-39の縄文時代中期後半になる可能性もある。

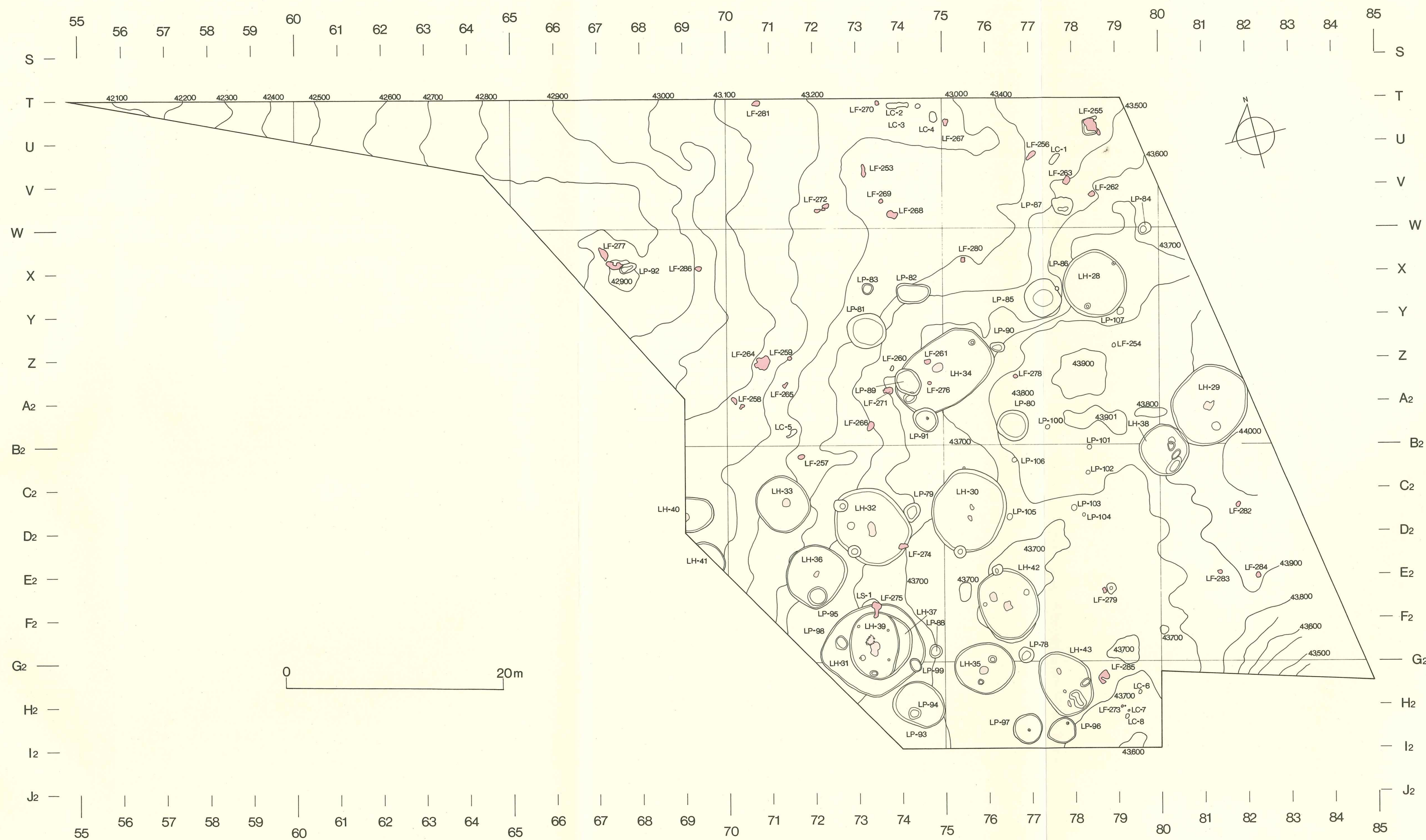
縄文時代後期中～末葉は竪穴住居跡1軒と土壌2箇所が見つかった。住居はLH-31で、大型の平面形と浅いプランを持ち、下位には重複するLH-37・39が位置しておりそれらの遺物がかかりの数で混入している。土壌はLP-83・94の2箇所である。いずれも円形のプランを有する小型の土壌で覆土は埋め戻しの可能性が高い。LP-83はプラン近くの包含層中にIV群c類の浅鉢形土器が一個体出土し、LP-94は覆土上位からT・U-72グリッドのものと接合するIV群b類の深鉢形土器が出土している。これらは規模が小型であるが、覆土と遺物から墓的な性格を有すと考えられる。

また、後期前～末葉に関しては遺物が埋没しつつある各住居の竪穴の窪みで出土する傾向が認められる。特に、LH-28はV層上面においても大きく窪んでおり、その内部や周りの包含層からは多数のIV群b類土器が出土していることから、それらの窪みを利用した作業が行われていた可能性がある。

縄文時代晩期末葉ではLP-95が見つかった。LH-36の覆土と床を切って掘り込んだ円形プランを有する大型の土壌で、覆土は埋め戻しが行われており、その上位からは大量の黒曜石フレイク・チップと長楕円のたたき石が出土している。土壌墓と考えられる。



図IV-1 V層上面の地形と遺構掘り上げ土範囲



図IV-2 VI層上面の地形と遺構配置

1. 住居跡 (図IV-3~50, 図版5~23・38~63, 表V-4~7)

LH-28 (図IV-3・4・5, 表I-7・IV-1・V-4, 図版6-1・2, 図版7-1~8)

位置: W-77-c, 78-b・c, 79-b, X-77-c・d, 78-a~d, X-79-a・d, Y-78-a・d

規模: 6.31/5.63×5.92/5.40×0.66

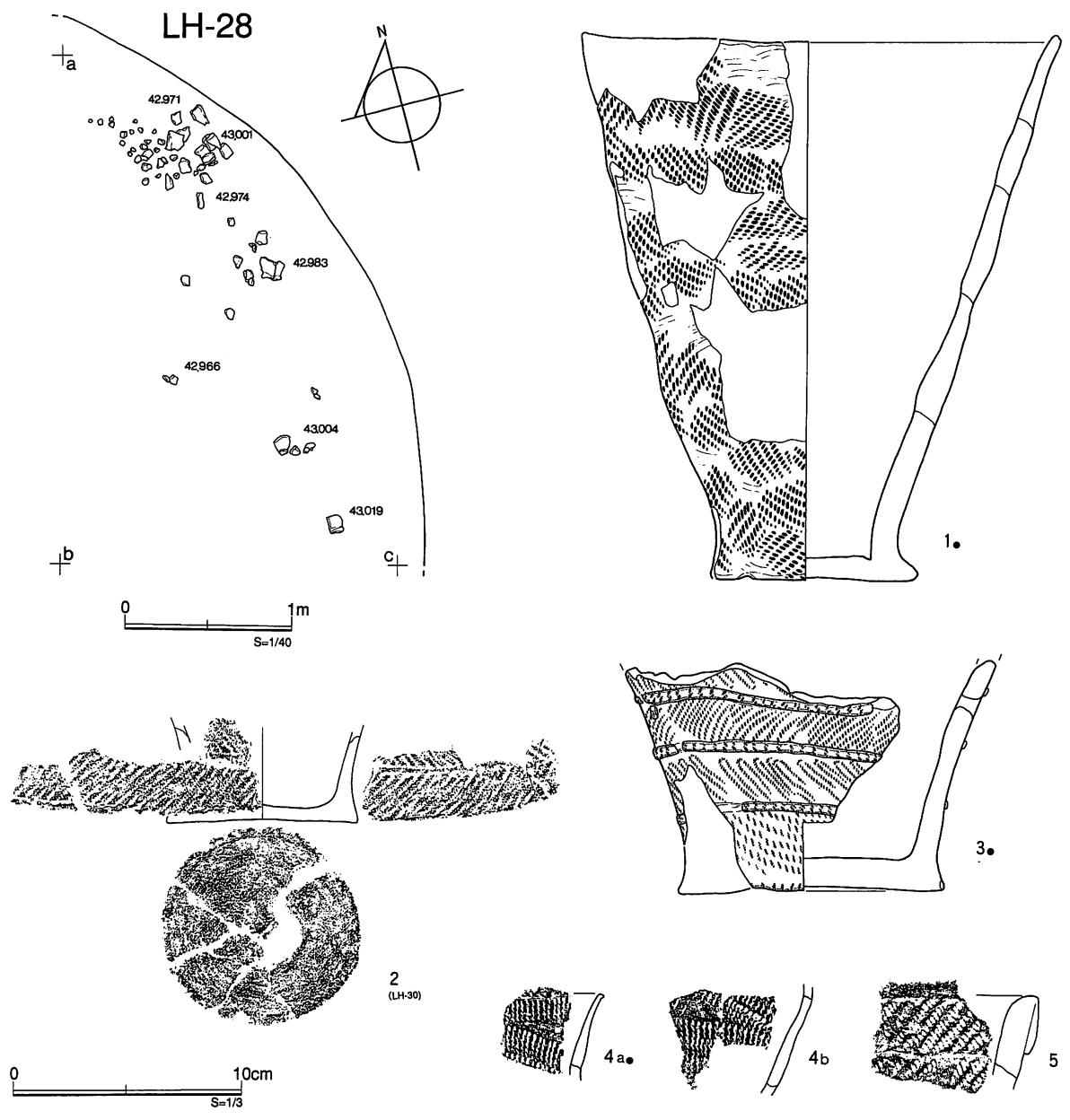
調査 II層(Ta-a)除去後、調査区北東側のIII層調査でX-78グリッド付近が大きく窪んでいるのを確認した。また、この窪みの周囲にはパミスを含む掘り上げ土が認められた。そこで竪穴住居跡を想定し、周辺包含層を調査した後、IV層(Ta-c)を取り除いてから掘り下げを行った。東西・南北に土層観察用のベルトを設定してトレンチを入れ、覆土、床、壁面の調査を行った。その結果ほぼ円形を呈する竪穴住居跡を確認した。覆土は黒色のV層腐植土を主体として構成され、層厚は約60cmを計る。

遺物はV層上面に流れ込みによると思われるIV群b・c類土器の破片のほかに、I群b2類、I群b3類の土器片もわずかに含まれていた。その他にも、黒曜石の剥片や珪岩を素材にしたRフレイク、たたき石、礫等、約200点を数える遺物が出土した。その後、断面観察と覆土の調査を引き続き行い、北東隅の床面に散在するI群b2類土器の破片を確認した。ベルトの断面調査後、これを除去して精査し、VIII層中にはほぼ平坦で固くしめる床面を検出した。床面には焼土は確認されなかった。壁は南東側の一部が抜根により壊されているものの、ほぼ垂直に立ち上がる。

柱穴は36個検出した。すべてVIII層中に作られている。HP-1~4が主柱穴と思われ、住居の中央に方形に配置されている。主柱穴の開口部はほぼ円形で、柱穴中心間の距離は約80cm~90cmである。覆土はいずれも三層からなり、覆土1層はV層にVI層が混入するもの、覆土2層はVI層とVII層にVIII層が混入するもの、覆土3層はやや酸化したVIII層で構成されている。HP-1は深さ約57cmでほぼ直立し、4本中最も浅いものである。尚、覆土3層と基盤となるVIII層の境が不明瞭であるため、掘り足りなかった可能性がある。HP-2は深さ約76cmで、直立する。HP-3は深さ約90cmで、4本中最も深く中心に向かってやや内傾している。HP-4は深さ約66cmで1・2と同様、ほぼ直立する。HP-5・6は、北東と南東の床面との壁際できれいな黄褐色土の不整円の広がりを確認したため、柱穴を想定して半截した。HP-5の径は55cm、HP-6の径は40cmでいずれも円形である。覆土は粒子の細かいきれいな黄褐色土で、黒色の腐植土などは混入していない。深さは共に約110cmで、直立する。他の柱穴と比較しても覆土や規模等は異質であり、新旧関係も不明瞭なため、この竪穴に伴うものかは判断し難い。HP-7~36の柱穴は小型で壁際をめぐるように確認された。いずれも平面形は円形で、径は約10cm~20cm、深さ約20cm~30cmの杭状である。しかし、傾きに違いが認められ、直立するものや外傾するものがある。明らかに外傾するものにはHP-8・9・17・22・24~28・34・36があり、傾きはいずれも約20°である。直立しているものには、HP-11・12・14~16・23・29・30・35がある。

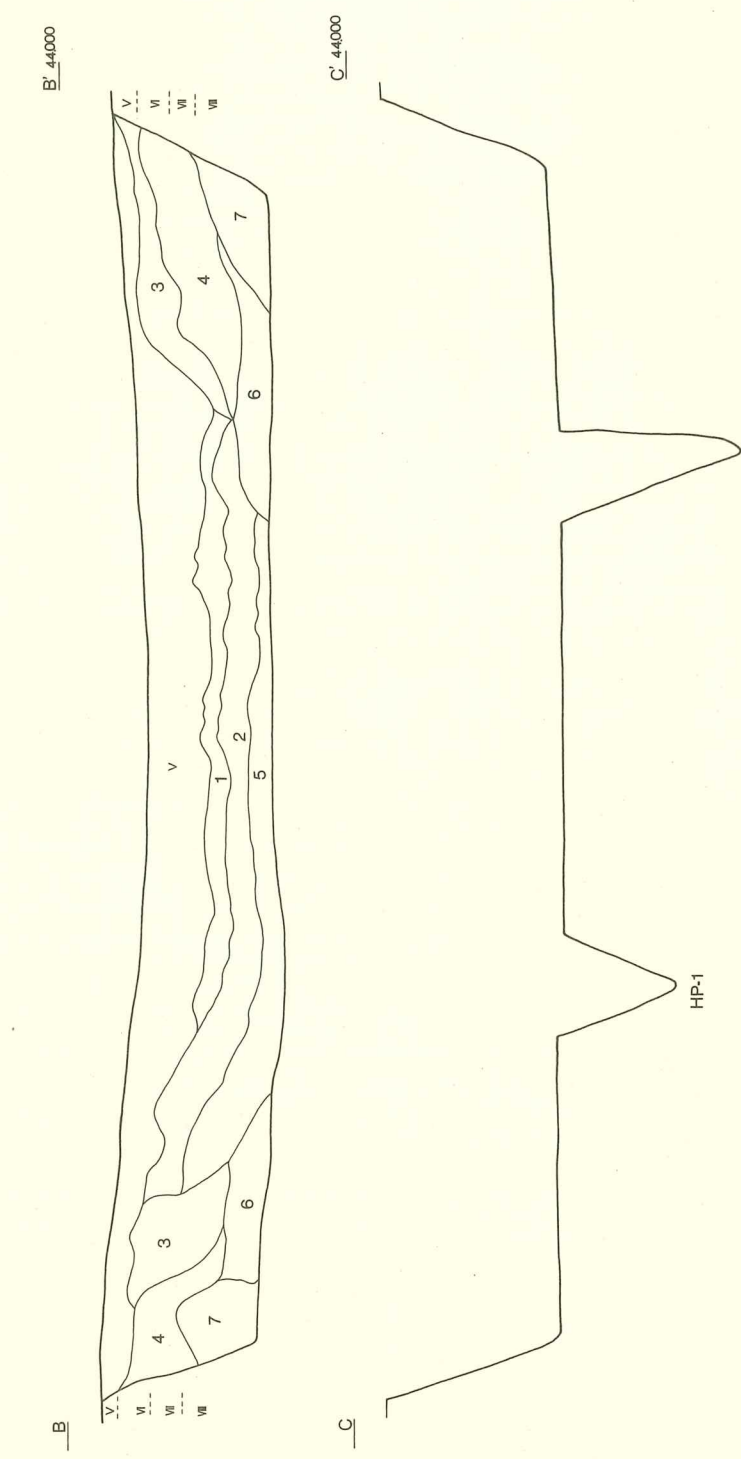
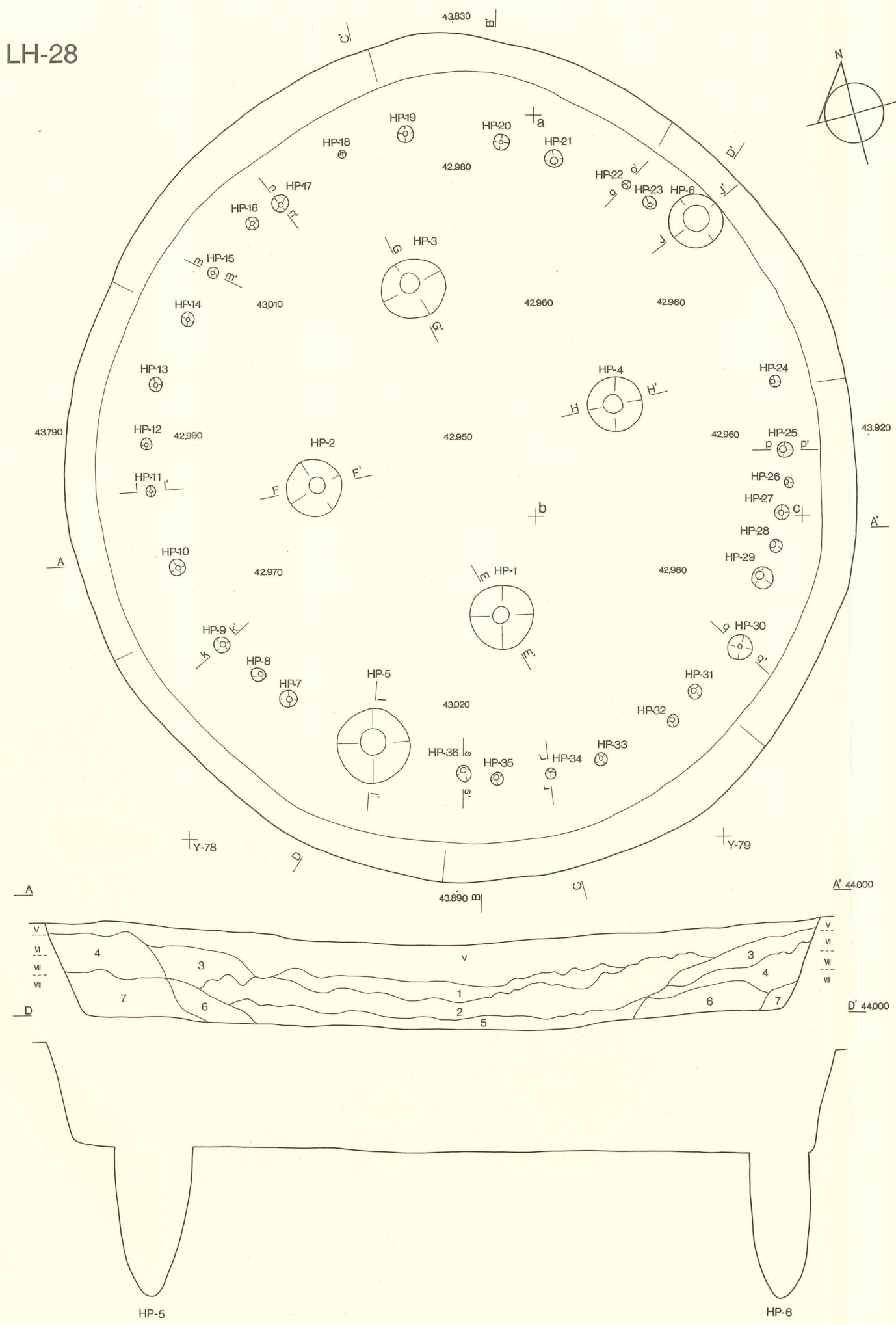
配置については一部に規則性が認められる。柱穴中心間の距離で最も狭いものがHP-22・23、HP-25~29、HP-35・36で、いずれも約25cmである。HP-23・24の柱穴中心間の距離は約160cmで、この間には明瞭な小ピットは認められなかった。そこで、HP-23・24間に出入口施設を想定して調査したが確認するにはいたらなかった。

また、床面直上の土をサンプリングしフローテーションを行ったが、炭化種子等の検出はなかった。

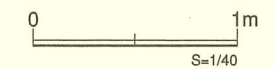


図IV-3 LH-28遺物出土状況と遺物(1)

LH-28

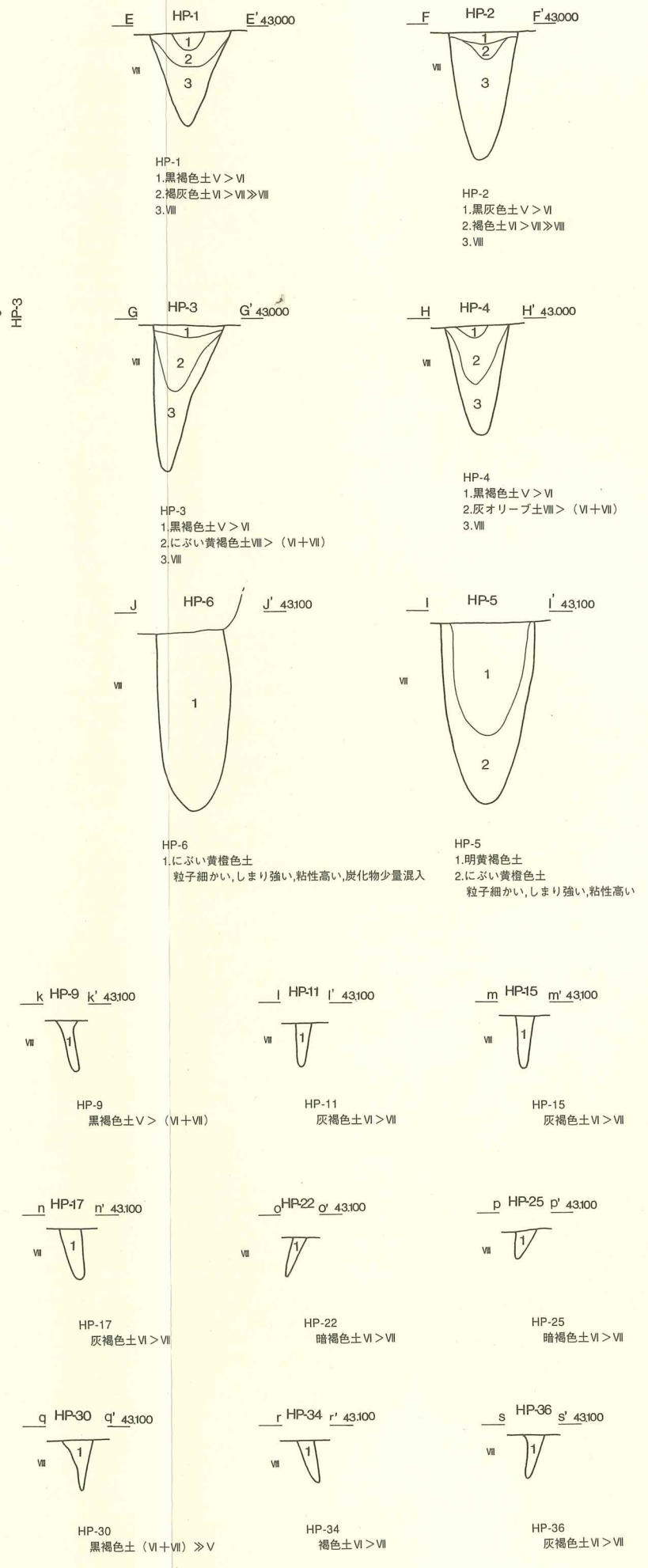


LH-28土層説明
 1.暗赤褐色土 (Hue5YR2/1) V>>VI粒子細かい,しまり強い,粘性やや高
 2.褐色土 (Hue7.5YR3/4) V>VI粒子粗い,しまり強い,粘性やや高
 3.黒褐色土 (Hue7.5YR3/1) V>>IV粒子細かい,しまり強い,粘性高
 4.明褐色土 (Hue7.5YR5/8) VI>VII粒子細かい,しまり強い,粘性中
 5.黒色土 (Hue5YR2/1) V>>(VI+VII) 粒子細かい,しまり強い,粘性高
 6.明褐色土 (Hue7.5YR5/6) VI>VII粒子粗い,しまり強い,粘性低い
 7.にぶい褐色土 (Hue7.5YR6/4) VI>VII>>VIIII粒子粗い,しまり強い,粘性低い

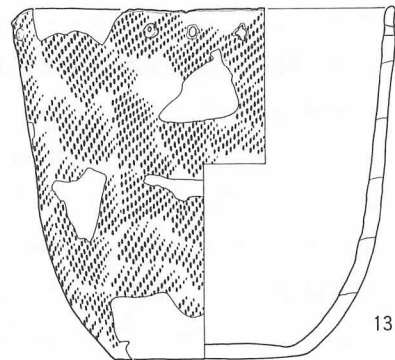
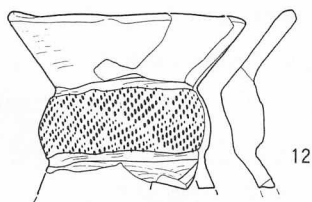
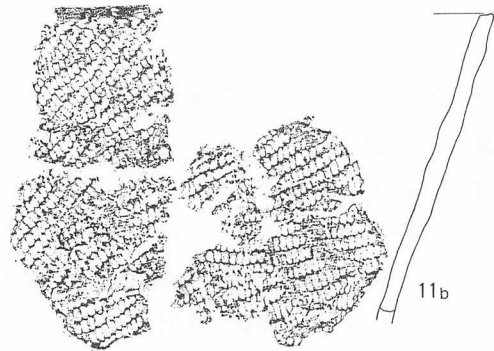
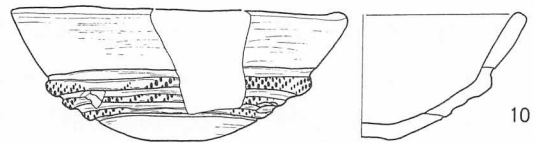
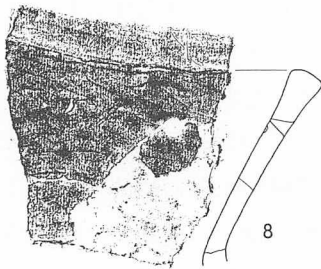
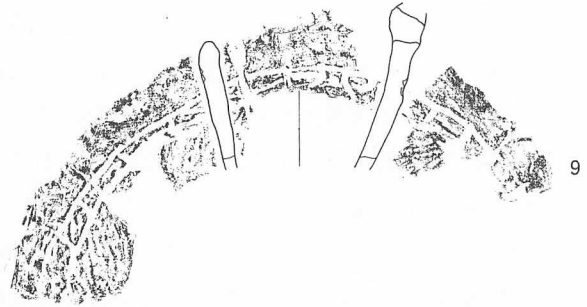
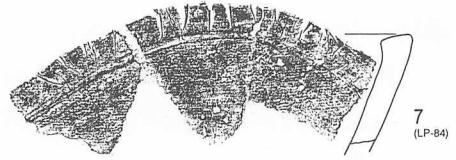
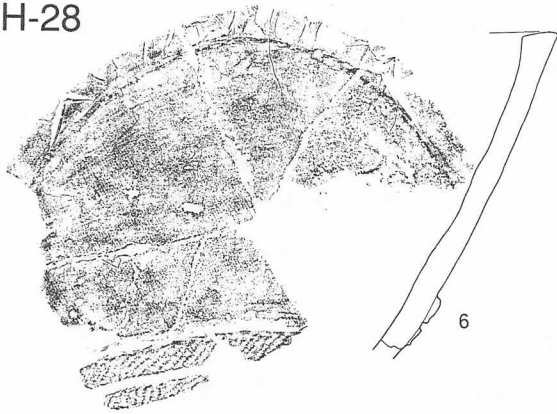


図IV-4 LH-28

IV Ta-c下位の遺構



LH-28



0 10cm
S=1/3

図IV-5 LH-28の遺物(2)

遺物 床面(1・3・4)と覆土中から出土している。床面はI群b-2類が占めており、黒色土主体の覆土中から出土するIV群土器はLP-84・85と跨がって出土するものが多い。また、床面から採取された炭化物に対して加速器使用の炭素年代測定を依頼した結果、B.P.6900±90の測定値が得られている(VI章1節)。1~4は今回I群b-2類としたもので、1~3は器面に羽状縄文が施される深鉢形土器である。1は約5割の破片が床面から出土したもので、口縁部がやや外に向かって開き口唇の断面は丸味を帯びた先細りの形を呈している。器面の文様の一部は同一原体の施文方向を変えた文様が施されている。底部の下端は粘土を追加して張り出し部を強調したものである。2は覆土から出土した器壁の薄い底部で、LH-30からも同一個体の破片が出土している。3は床と覆土から出土した底部である。3の器面には縄の刻みが施された粘土紐の貼り付けが見られ、底部近くの器面には施文原体による押捺が施される。底部下端にも同一原体による刻みが巡らされている。4は器壁の薄い深鉢形土器の口縁と胴部で口唇部は外に向かって張り出す特徴を持つ。器面には細い縄による短縄文が施されている。5はIV群a類の深鉢形土器口縁部である。口唇部には折り返された肥厚帯を有し器面には太い縄による斜行縄文が施されている。

6~13は本遺構の覆土上部に堆積した腐植土(V層)中から出土したIV群b類(6~12)とIV群c類土器(13)である。6~8は磨消部を有した波状の口縁部を持つ深鉢形土器で、7はLP-84からも出土している。9は口唇部に突起が巡らされる小形の深鉢形土器口縁部で器面には平行沈線と斜行縄文が施される。10は磨消しの施された小形の浅鉢形土器、11はLP-84・85からも出土している大型の深鉢形土器口縁部である。11の口唇部は研磨され器面には斜行縄文が施されている。12は下部単孔土器の口縁部、13は口縁部に内側からの刺突が巡る深鉢形土器で、器壁は薄く器面には斜行縄文が施されている。(皆川)

時期 縄文時代早期後半コッタロ式期の住居と思われる。

(笠原)

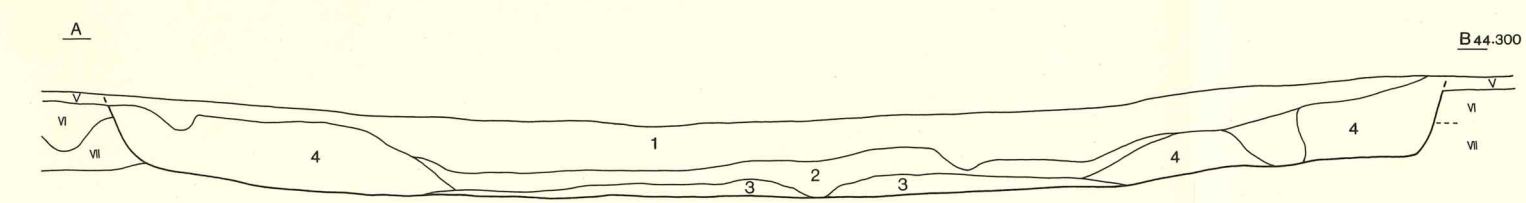
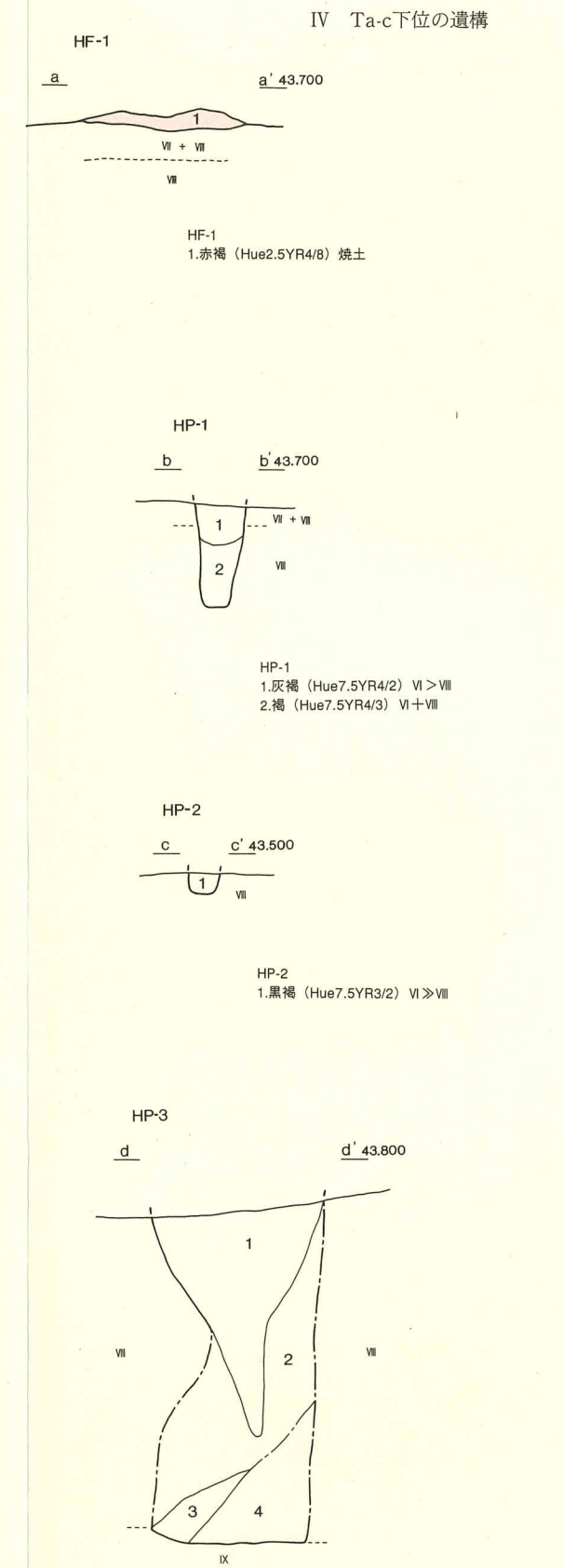
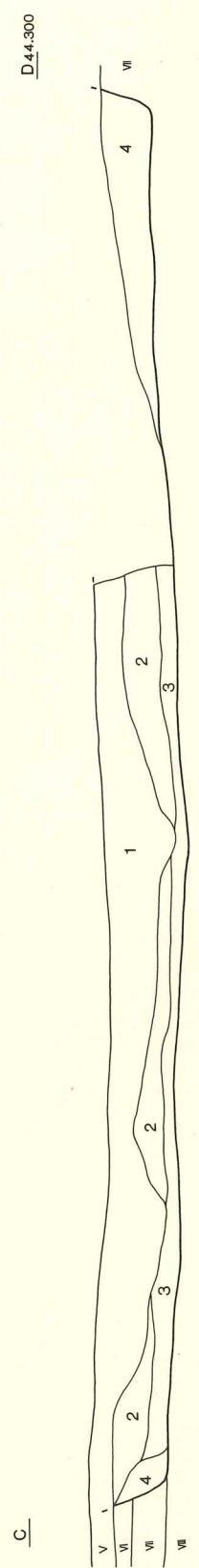
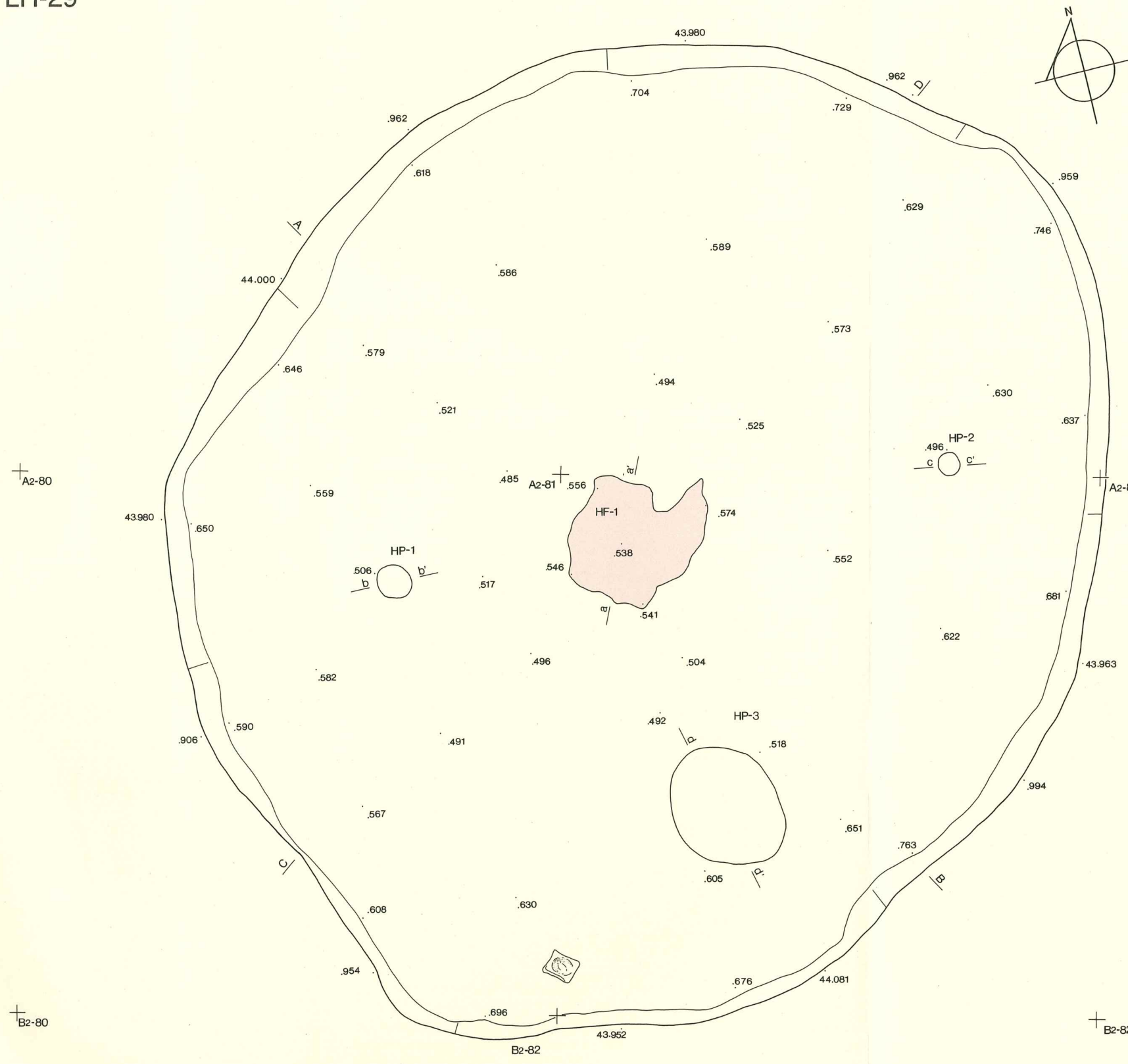
LH-29 (図IV-6~8/図版8・9・40)

位置 : Z-80-b~d, 81-a~d, A2-80-a~d, 81-a~d, B2-80-d, 81-a

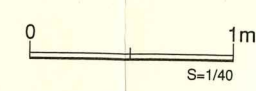
規模 : 7.85×6.58/6.04×7.52/0.43m

長軸方向 : N-49°-E

特徴 平面が不整楕円形の大型住居跡である。南西側の壁に接してLH-38が位置しているが新旧関係は不明である。平成5年度調査で調査範囲の境界線で一部が検出され「H-X」とされていたもので、今回の調査により遺構であることが明らかになった。V層上面で窪みとその周囲に広がる掘上げ土と思われるEn-aとにより確認を行い、隣接するLH-38にかかるトレンチを設け調査を行った。覆土は腐植土を主体とするものとEn-aを主体とするものと大きく分けられ、前者は中央部に厚く後者は壁の立ち上がり近くで最も厚く中央部で薄く堆積する。掘込み面はVI層に近いV層下位と考えられる。床面のほぼ中央に位置する径約90cmの焼土は赤化も強く炉跡と考えられる。その周囲からは3本の柱穴状のピットが見つかるが、いずれもEn-aを主体とする覆土のため確認が難しく他にも存在していた可能性は高い。HP-1・2はその規模と位置から支柱穴の一部と考えられる。大型のHP-3は腐植土のほとんど入らない覆土やその規模、用途などの面から考えて、この遺構に伴うものとするにはやや否定的な要素がある。一部に自然の力によるものとの見解もあるが、同種の大型ピットが周囲の同時期住居跡の床もしくは壁際などで検出される確率がかなり高いことから、ここで報告することとした。なお、焼土の保存状態が良好なため、その周囲の床を含めた各地点から土壌の採取を行い、フローテーション法による選別でキハダ属とミズキ属の炭化種子が挿出されている(VI章3節参照)。



LH-29土層説明
 1.黒 (Hue7.5YR1.7/1) V層腐植土
 2.黒 (Hue10YR2/1) V > VI >> VII
 3.黒褐 (Hue7.5YR3/1) VI+VII > VII >> V
 4.暗褐 (Hue7.5YR3/3) VI+VII >> VII



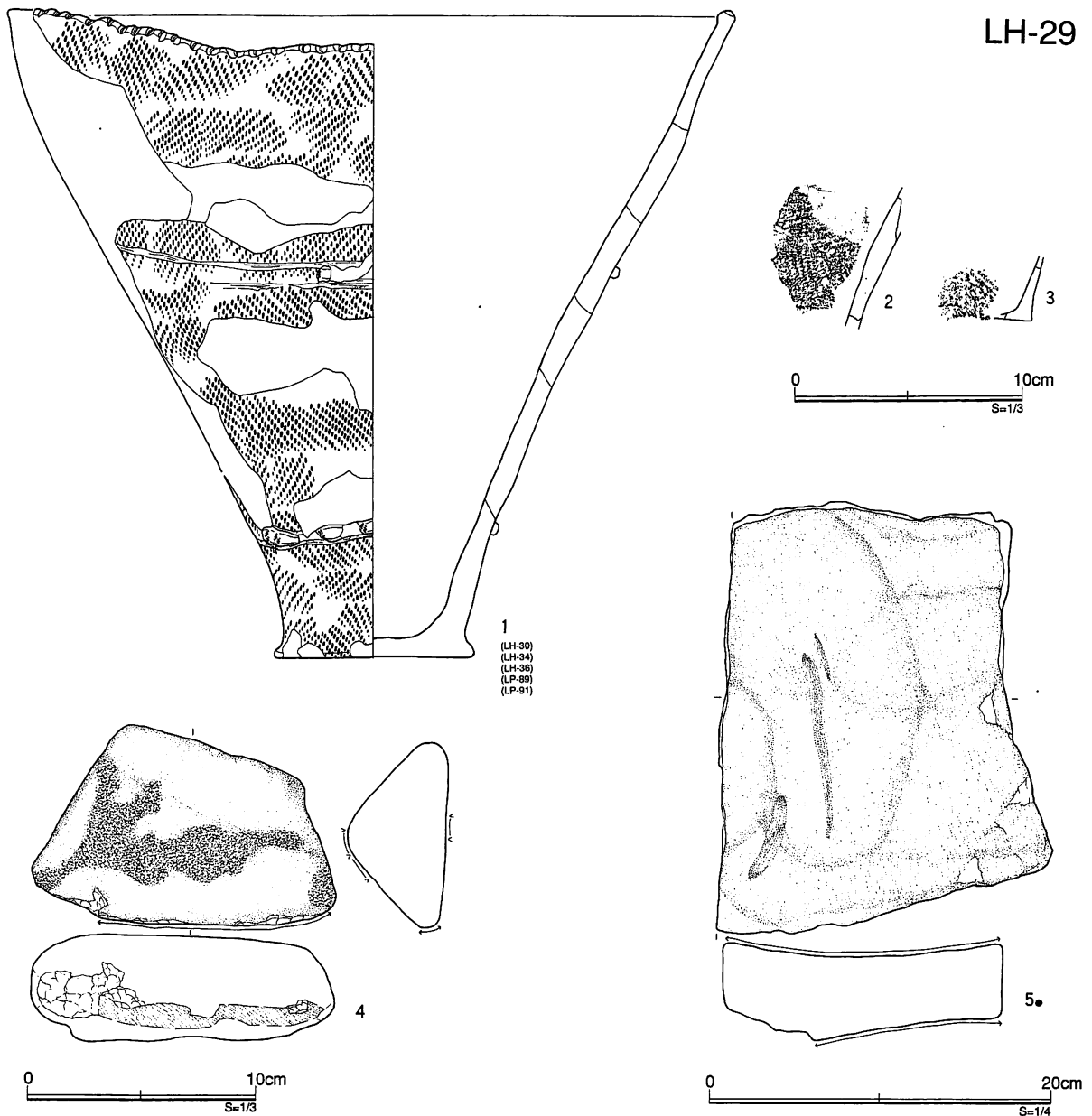
図IV-6 LH-29

遺物 遺物は少なく、床面と En-a を主体とする覆土からは縄文早期の遺物が散点的に出土している。1～3は I 群 b-2 類土器である。1は LH-30・34・36、LP-89・91と複数の遺構から出土した深鉢形土器であるが、覆土から出土した2とは施文される斜行縄文、胎土、色調がよく似ており、1と同一個体の可能性が高い。地紋の羽状縄文が施される胴部には横環する粘土紐が二本貼り付けられている。口唇部には爪状の工具による刻みが施され、粘土紐と特徴的に張り出した底部下端には縄による刻みや連続した押捺が巡らされている。1・2には東釧路III式土器の要素も多く見受けられる。3は焼土から出土した小形の深鉢形土器底部である。器面には斜行縄文と縄の押捺が巡らされている。

4は覆土から出土した断面三角形のすり石である。5は南側の壁際床面で出土した砂岩製の台石である。良く使いこんだ痕跡が顕著で表裏面は緩やかに窪んでいる。

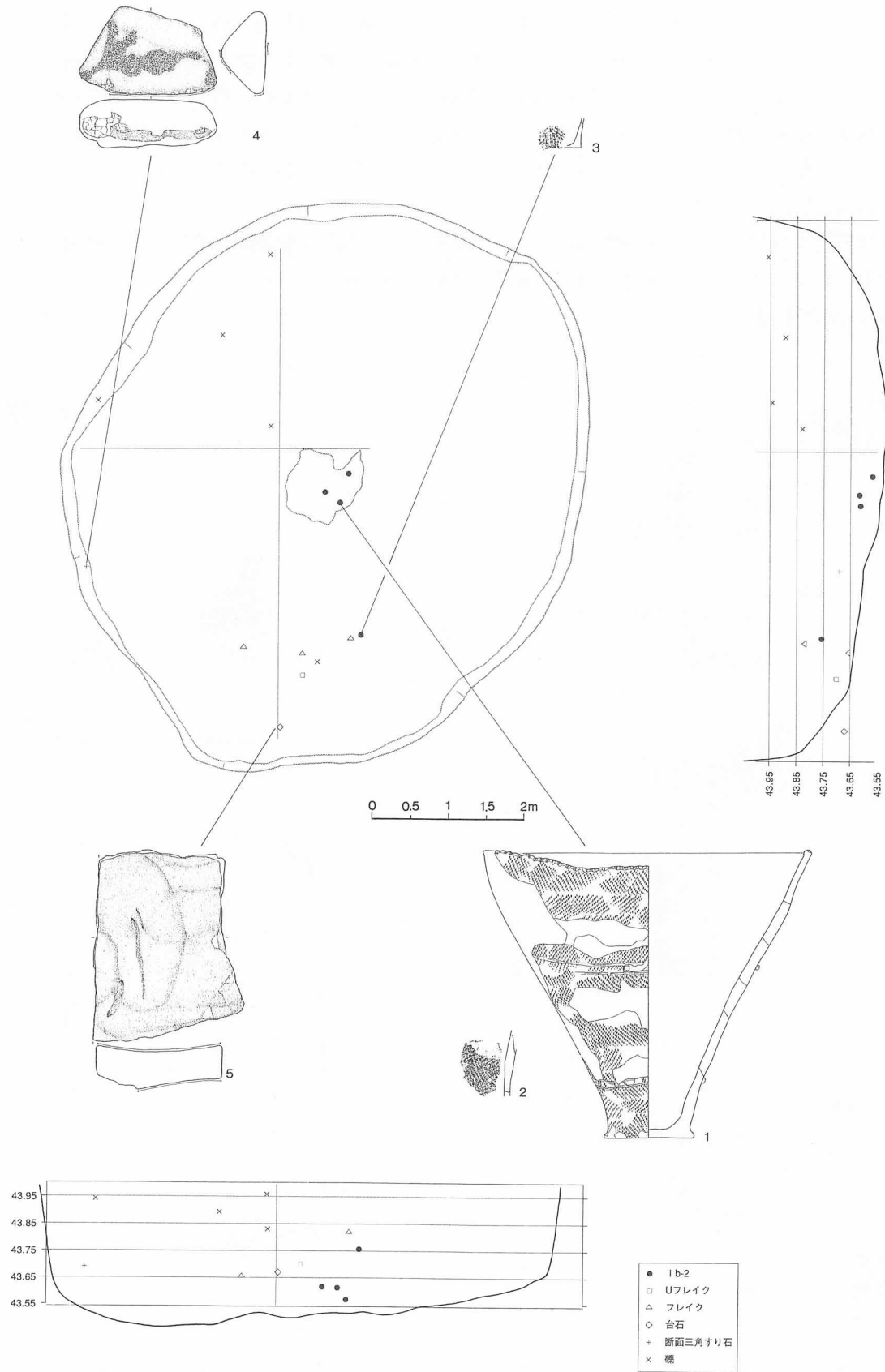
時期 縄文時代早期後半コッタロ式期

(皆川)



図IV-7 LH-29の遺物

LH-29



図IV-8 LH-29の遺物出土状況

LH-30 (図IV-9~11/図版8・9・41・42)

位置：B2-74-c, 75-b・c, 76-b, C2-74-c・d, 75-a~d, 76-a・b, D2-74-d, 75-a・d, 76-a

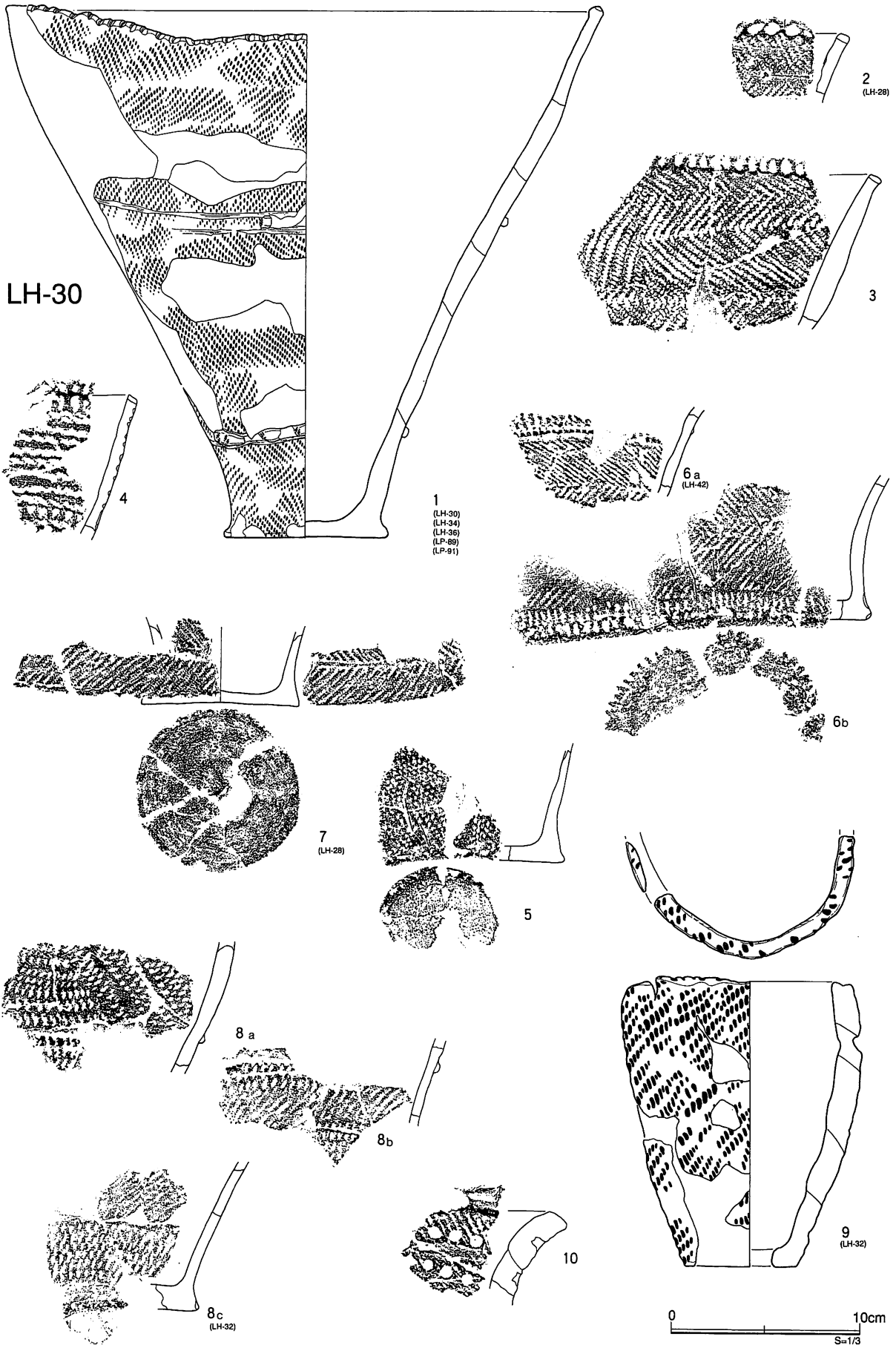
規模：7.57×6.82/6.10×6.87/0.46m

長軸方向：N-23°-E

特徴 平面が不整楕円形の大型住居跡である。西側にはLH-32が隣接し新旧関係は不明である。V層上面で窪みとその周囲に広がる掘上げ土と思われるEn-aとにより確認を行い、隣接するLH-32にかかるトレンチを設け調査を行った。覆土は腐植土を主体とするものとEn-aを主体とするものと大きく分けられ、前者は中央部に厚く後者は壁の立ち上がり近くで最も厚く、中央部で薄く堆積する。掘込み面はVI層に近いV層下位と考えられる。床面の中央付近に径約30~40cmの焼土が2カ所見つかっておりこれは炉跡と考えられる。その周囲から2本、壁際床面から6本の柱穴状のピットが見つかっている。いずれもEn-aを主体とする覆土であることから確認が難しく他にも存在していた可能性は高い。HP-1~3はその規模と位置から支柱穴の一部と考えられる。壁際で見つかったHP-5~7は、LH-28と同様に壁際床面を巡る様に配置されていたものの一部と考えられる。大型のHP-4は腐植土のほとんど入らない覆土やその規模、用途などの面から考えて、この遺構に伴うものとするにはやや否定的な要素がある。一部に自然の力によるものとの見解もあるが、同種の大型ピットが周囲の同時期住居跡の床もしくは壁際などで検出される確率が高いため、ここで報告することとした。なお、焼土の周囲の床を含めた各地点から炭化種子の抽出を目的とした土壌の採取を行い、フローテーション法による選別を試みたが大きな成果は得られなかった（VI章3節参照）。

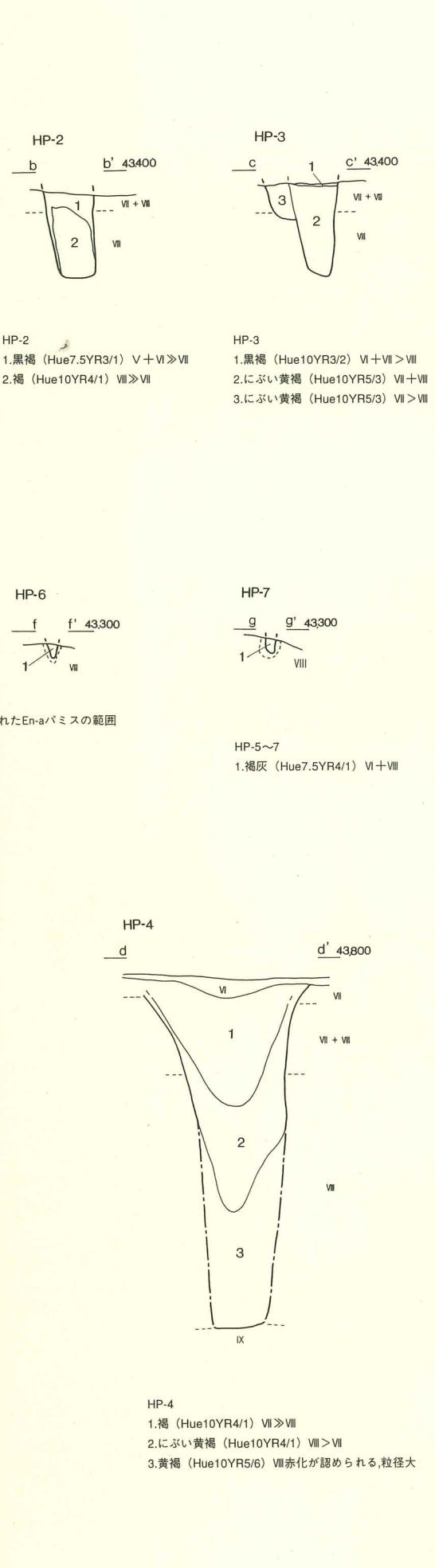
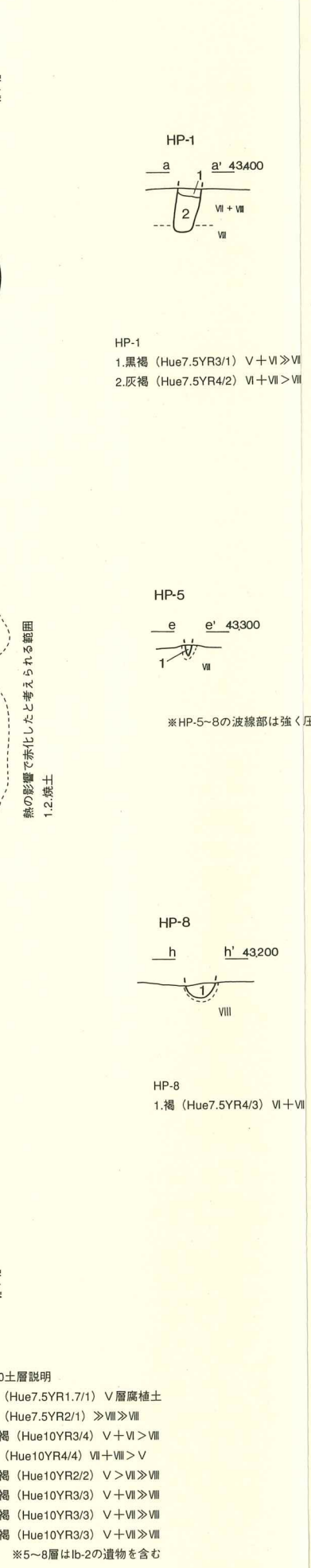
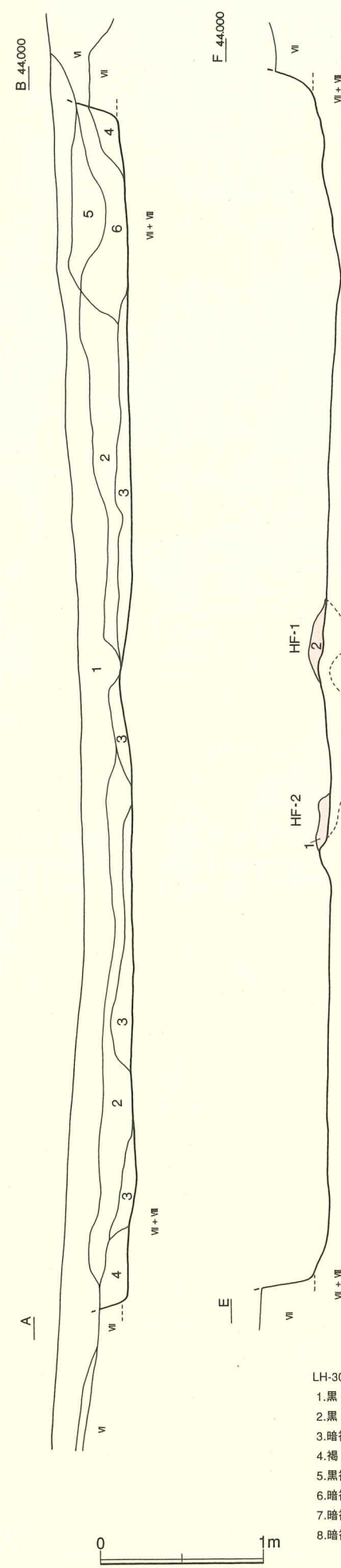
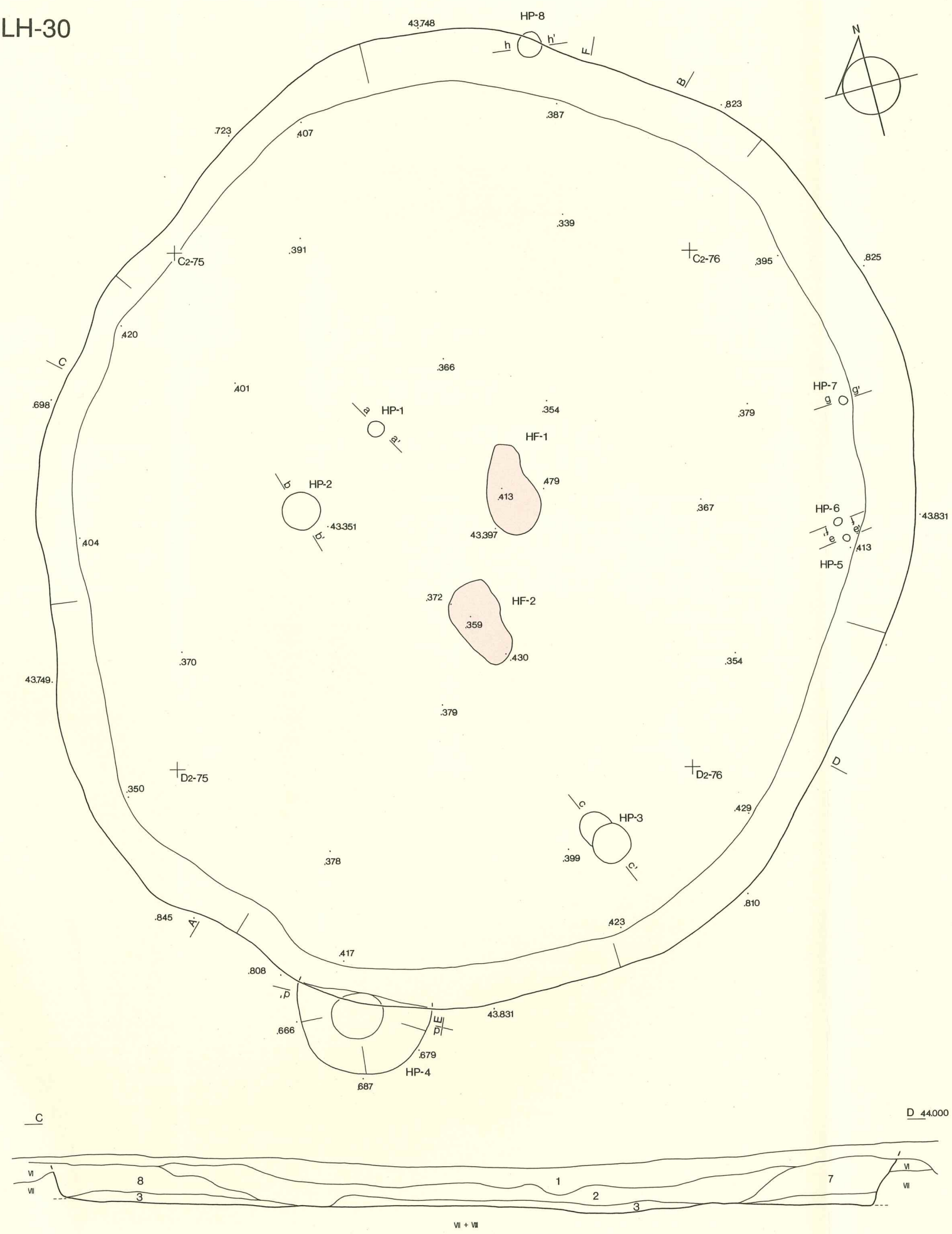
遺物 遺物は床面と覆土から出土している。床面としたものは礫1点であるが、床の上位に形成された覆土3層中にも面を持った遺物の出況がみられることから、これも一時期の床として考えられ、ここからは縄文時代早期後半のI群b-2類土器や石器が出土している。黒色土主体の覆土1層から出土する後期前葉のIV群a類土器は、周囲のV層包含層よりも出現率が高く、埋没しきらない窪地を何らかの形で利用していた可能性がある。

1~8は今回I群b-2類としたもの、9・10はIV群a類土器である。1~4は東釧路III式土器の要素も多く見受けられる。1はLH-29・34・36、LP-89・91と複数の遺構から出土した深鉢形土器である。地紋の羽状縄文が施される胴部には横環する粘土紐が二本貼り付けられている。口唇部には爪状の工具による刻みが施され、粘土紐と特徴的に張り出した底部下端には縄による刻みや連続した押捺が巡らされている。2は口唇部に指先状の施文具で刻みを施している。3は外に向かって開き気味の口唇部に棒状の施文具による刻みが施される深鉢形土器口縁部である。器面には施文方向を変化させた結束の羽状縄文が施されている。4は器面に太い縄を使った短縄文と縄線文を施した深鉢形土器口縁部で、口唇部の刻みもまた縄によるものである。6、7は羽状縄文の施された深鉢形土器底部である。いずれも器壁が薄く、加えて6には縄の刻みを施した粘土紐の貼り付けや短縄文なども施されるが原体は比較的細いものが使われている。また、底部の下端に見られる刻みも縄によるものである。使われている原体は前々段多縄である。5は短縄文が施された深鉢形土器底部で下端の張り出しは粘土を盛って作っている。8は短縄文と斜行縄文が施された胴下半部である。胴部の短縄文は斜めや横の帯状に施される。底部下端の刻みは縄によるものである。9はLH-32と跨がって出土した小形の深鉢形土器である。全面に太い原体による斜行縄文が施されている。10もLP-93と跨がって出土した深鉢形土器口縁部の破片である。器面には斜行縄文と管状の工具による刺突列が加えられている。



図IV-9 LH-30の遺物(1)

LH-30

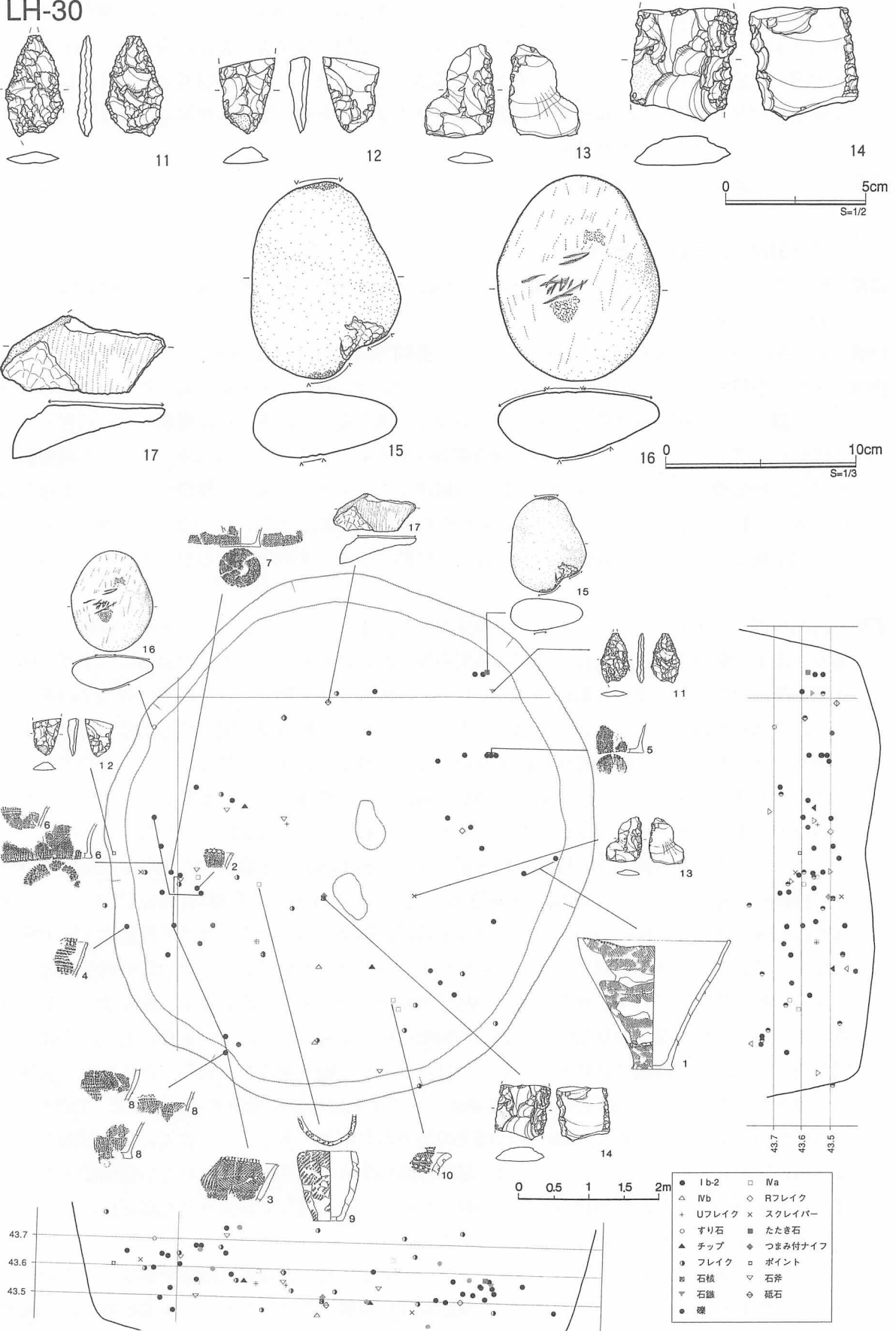


LH-30土層説明
 1.黒 (Hue7.5YR1.7/1) V層腐植土
 2.黒 (Hue7.5YR2/1) >VII>VII
 3.暗褐 (Hue10YR3/4) V+VI>VII
 4.褐 (Hue10YR4/4) VI+VII>V
 5.黒褐 (Hue10YR2/2) V>VII>VII
 6.暗褐 (Hue10YR3/3) V+VI>VII
 7.暗褐 (Hue10YR3/3) V+VI>VII
 8.暗褐 (Hue10YR3/3) V+VI>VII
 ※5-8層はIb-2の遺物を含む

IV Ta-c下位の遺構

図IV-10 LH-30

LH-30



図IV-11 LH-30の遺物(2)と遺物出土状況

11は粗い作りの石鏃、12は破損したポイントの基部である。13は剥片の一辺に刃部を作出したスクレイパーである。11～13は黒曜石製である。14は頁岩の縦長剥片裏面の両側縁に剥離を施して刃部を作出したものでつまみ付ナイフの欠損品と考えられる。17は砂岩製の砥石片、15は円礫を使用したたたき石、16は扁平礫の表裏を磨ったすり石である。16のすり面にはマイナスのねじ回して突いた様な傷が多数認められる。

時期 遺物から縄文時代早期後半コッタロ式期である。

(皆川)

LH-31 (図IV-12～15/図版43・44)

位置 : E2-72-c, 73-b-c, 74-b・F2-72-a～d, 73-a～d, 74-a～c, G2-72-a・c・d, 73-a～d, 74-a

規模 : 9.76×8.55/8.33×8.45/0.23m

長軸方向 : N-78.5°-W

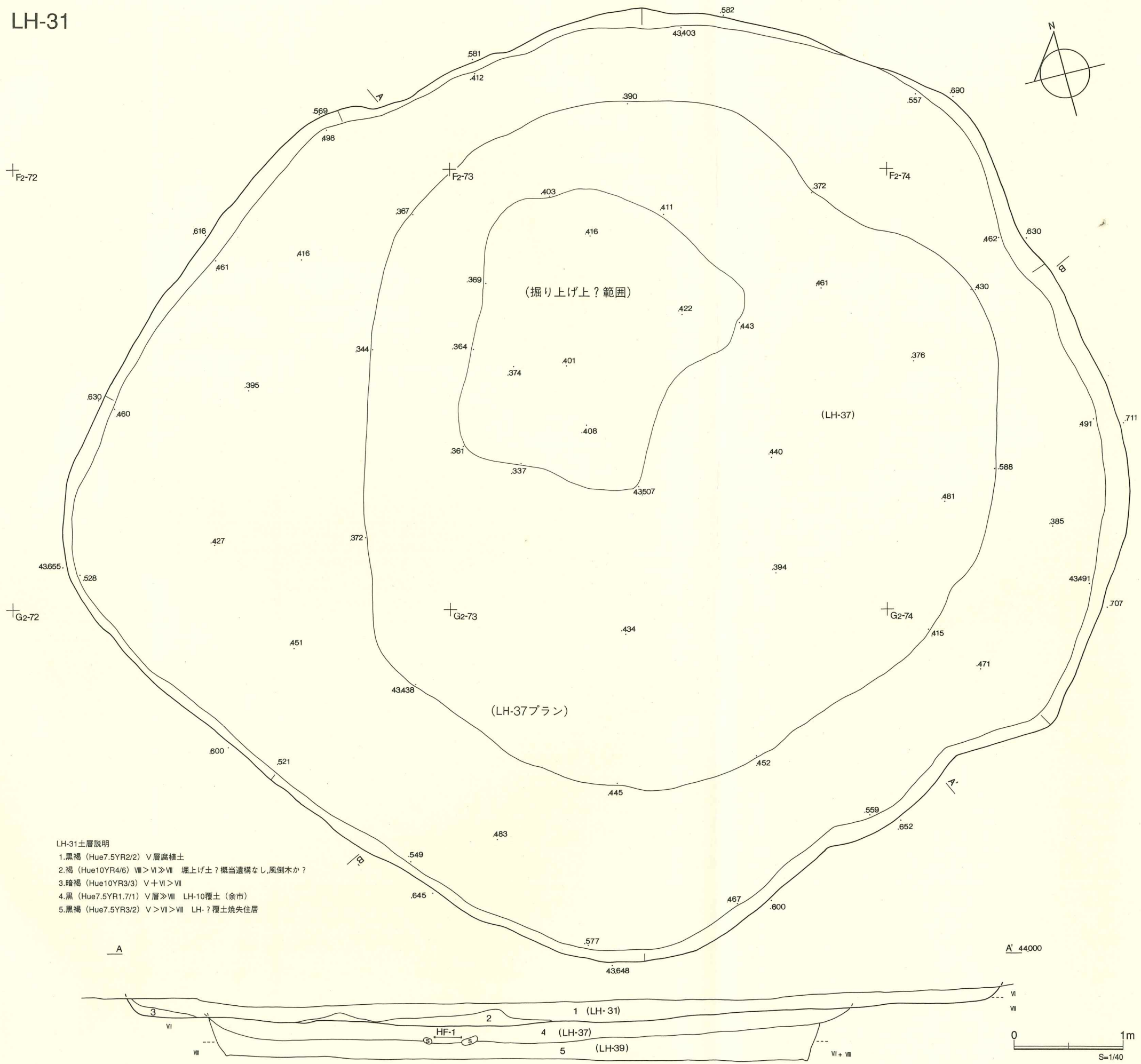
特徴 平面が不整楕円形の大型住居跡である。床の下位にはLH-37・39が位置する三重重複の一番上に位置する。当初、調査範囲の境界線にかかるV層上面での窪みとその周囲に広がる掘上げ土と思われるEn-aで確認したが、後日調査範囲を拡張し全体を検出するに至った。最大深度が20cm程の比較的浅い掘り込みは遺物を多数含む腐植土を主体とした覆土で埋没し、掘込み面はV層中と考えられる。床と考えられる面の中央やや北よりの位置にはEn-aの広がり認められ、これは別遺構の掘上げ土の可能性が考えられる。炉跡や柱穴は未検出であるが、形状と規模から住居跡として扱った。

遺物 遺物は覆土から多くの土器、石器、土製品などが出土している。土器はI・III・IV群のものがあり、出土状況から本遺構に伴う時期は後期中葉IV群b類と考えられる。数量的にはI群、IV群a類が優位であるが、下位にIII群を伴うLH-39とIV群a類を伴うLH-37が位置していることから、これらの遺構上部を掘抜いた際の混入と考えられ、土製円盤に関しても同様である。I群に関しては土器とともに断面三角形のすり石などこの時期の住居内で見つかる礫石器なども出土しておりLH-39を掘込んだ際に早期の遺構を掘抜いた可能性が高い。彫器はすぐ南側に位置していた旧石器のスポットから流れ込んだためと考えられ、これは包含層で扱った。

土器は1～4が本遺構に伴うIV群b類土器、5～9がI群b-2類、10がIII群b類土器でいずれも深鉢形と考えられる。1は沈線で区画された磨消部分を有する平縁の口縁部である。2～4はその胴部と底部の可能性があり、地紋はRLの斜行縄文である。5は異形の深鉢形土器で底部は欠失している。口径が胴部のそれよりもやや小さい特徴的な器形のもので口縁の形が対になる山形の突起が備わっていると推定され、突起部の器面には装飾性の高い透かし彫り状の穴が設けられている。口唇断面は尖り気味のもので、器壁は極めて薄く作られているが、焼成が良好で脆弱な感じはしない。器面には粘土紐を貼り付けたうえから縄の刻みを多数施した隆起線を主体とする施文がなされており、胴上半部には鋸歯状に、下半部には密に横環する構成で飾られている。6は結束の、7は撚りの異なる縄の羽状縄文の施された胴部である。6には縄の刻みが施された粘土紐の隆起線が付けられている。8は口縁部に隆起線と羽状縄文が施された口縁部である。胴部には刺突列で区画された帯状の無文部が見られる。9は短縄文で施文された底部付近である。10は斜行縄文の施された深鉢形土器胴部である。

11～13は石鏃、14はドリル、15～18はポイントである。11は五角形の形態を有する縄文時代早期のものである。13・15～16は尖頭部より基部が長い特徴をもつ。おそらく本遺構の下位に位置するLH-37からの混入品であろう。19は簡略的な加工が施された幅広のつまみ付ナイフ、20は

LH-31

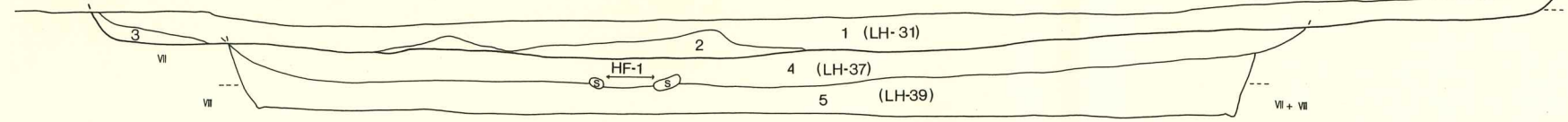
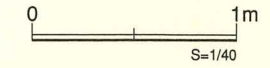


LH-31土層説明

1. 黒褐 (Hue7.5YR2/2) V層腐植土
2. 褐 (Hue10YR4/6) VII>VI>VII 掘り上げ土? 概当遺構なし, 風倒木か?
3. 暗褐 (Hue10YR3/3) V+VI>VII
4. 黒 (Hue7.5YR1.7/1) V層>VII LH-10覆土 (余市)
5. 黒褐 (Hue7.5YR3/2) V>VII>VIII LH-? 覆土焼失住居

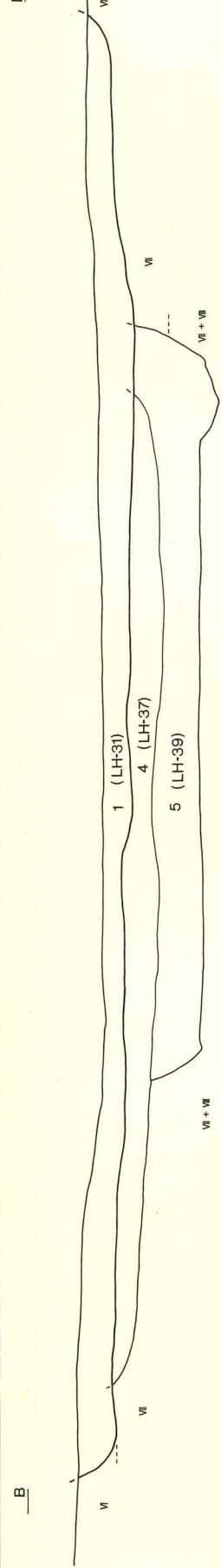
A

A' 44000



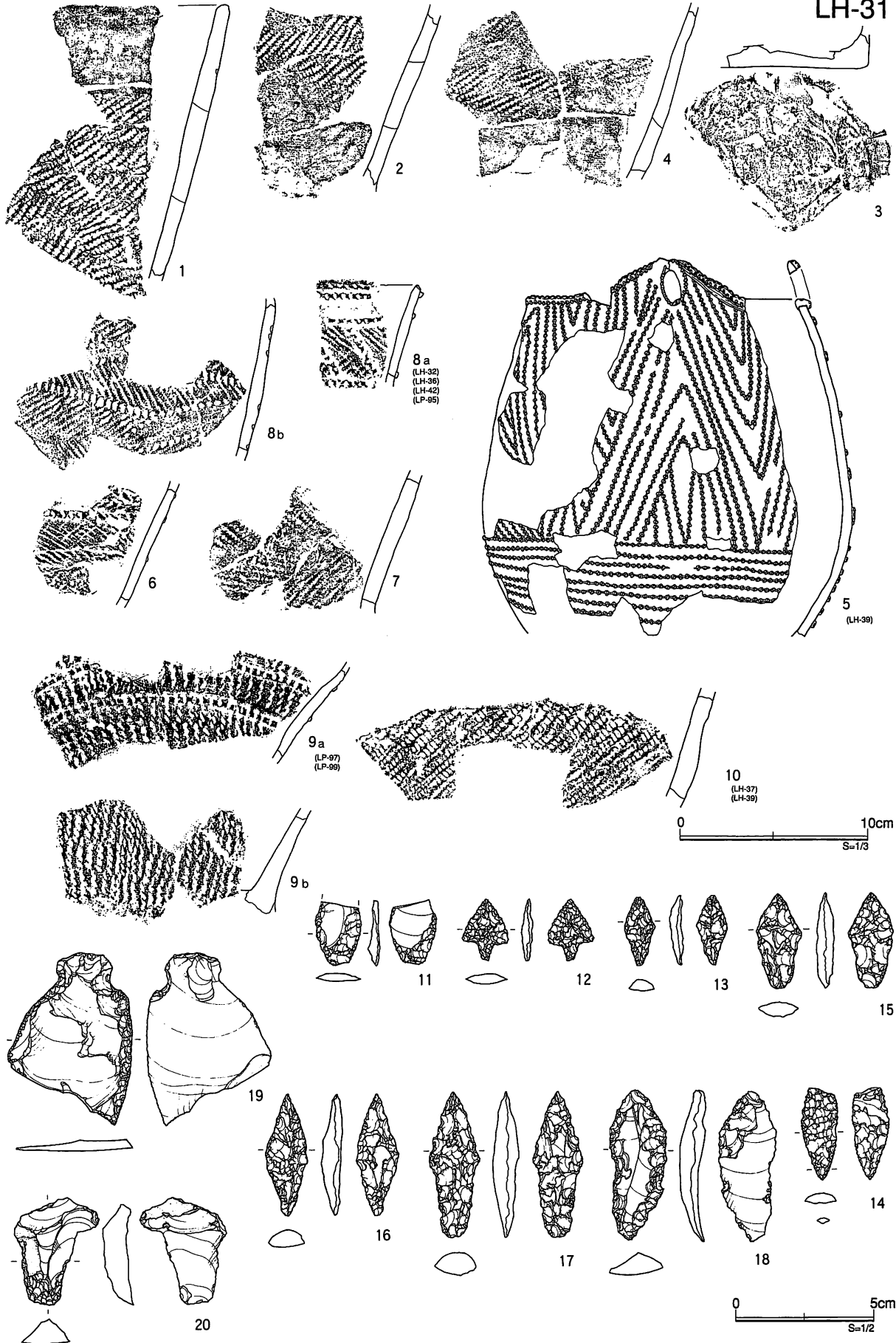
B' 44000

IV Ta-c下位の遺構



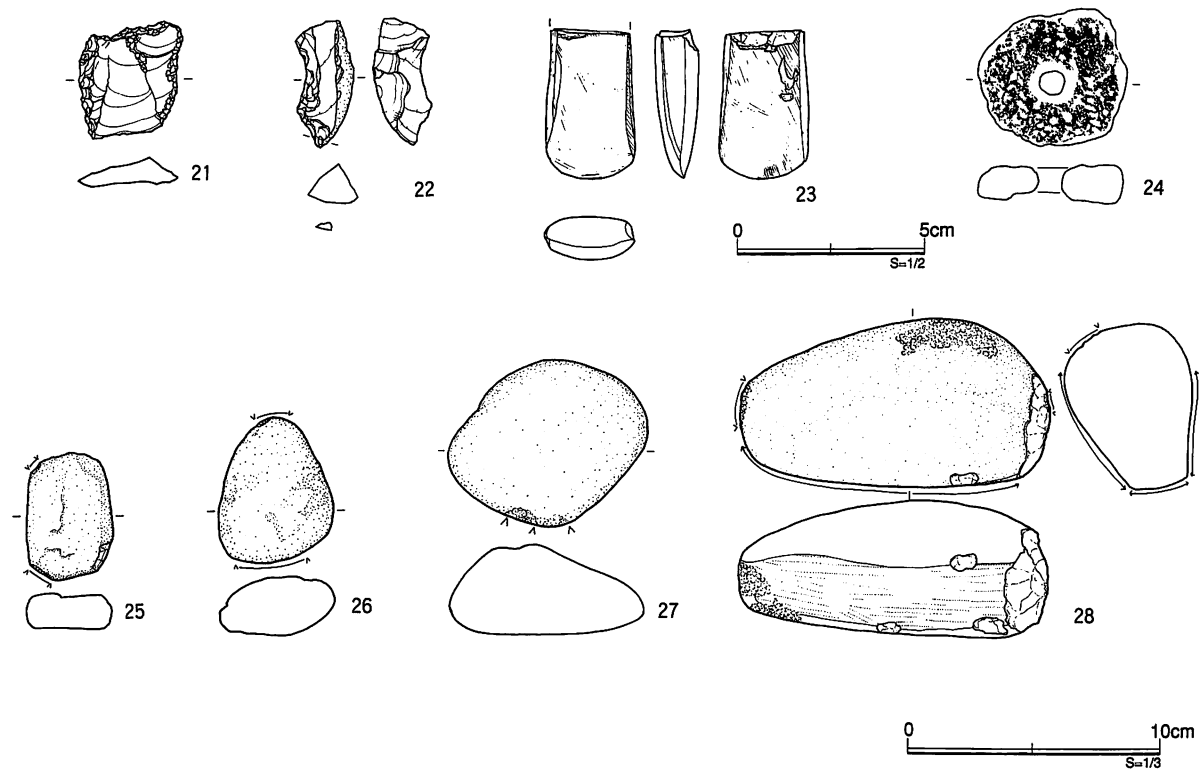
図IV-12 LH-31

LH-31



図IV-13 LH-31の遺物(1)

LH-31



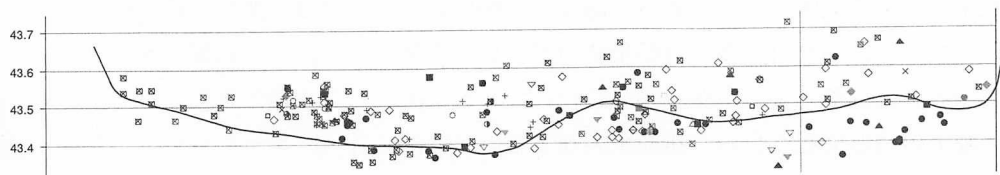
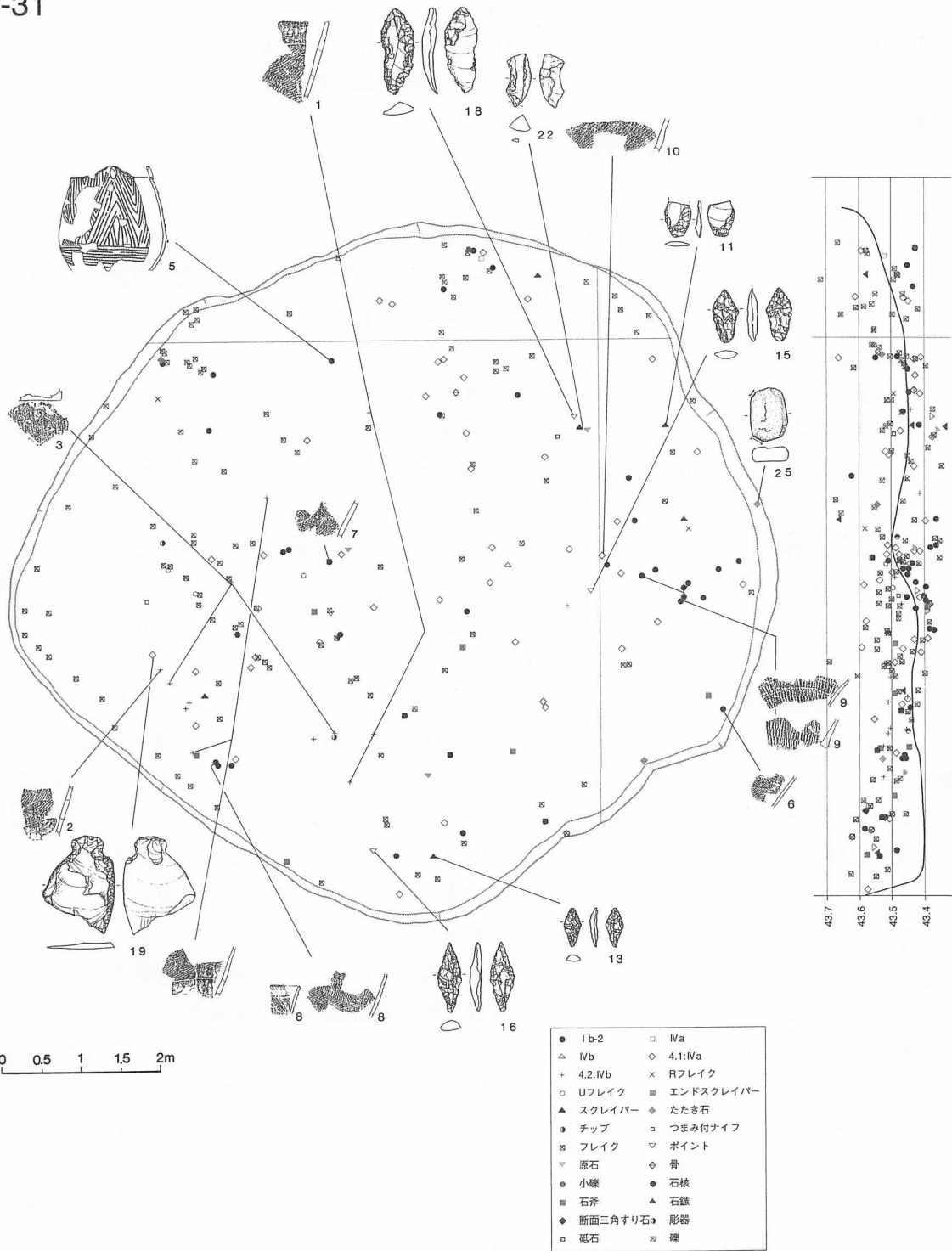
図IV-14 LH-31の遺物(2)

厚見ある剥片の一端に鈍角な刃部を作出した搔器的なスクレイパーである。21・22は側縁部に剝離を施したスクレイパーで、22は下端の尖頭部をドリルとして使った可能性がある。23は石斧の刃も部、25～27はたたき石、28は早期の断面三角のすり石であるが、左右の端部には敲打痕があるためたたき石としても使用されているようだ。24は土製円盤でIII群b類土器を再生したものである。24と28は重複する遺構からの混入であろう。

時期 遺物から縄文時代後期中葉IV群b類手稲式期と考えられる。

(皆川)

LH-31



図IV-15 LH-31の遺物出土状況

LH-32 (図IV-16~20/図版10・11・45~49)

位置：B2-73-b, C2-72-a~d, 73-a~d, 74-a・d, D2-72-a・c・d, 73-a~d, 74-a

規模：7.46×6.37/5.63×6.74/0.55m

長軸方向：N-14.5°-W

特徴 平面が不整楕円形の大型住居跡である。西側にはLH-33・36、東側にはLH-30が隣接しているが、これらの新旧関係は不明である。V層上面で窪みとその周囲に広がる掘上げ土と思われるEn-aとで確認を行い、隣接するLH-30・33・36にかかるトレンチを設け調査を行った。覆土は腐植土を主体とするものとEn-aを主体とするものと大きく分けられ、前者は中央部に厚く後者は壁の立ち上がり近くで最も厚く中央部で薄く堆積する。掘込み面はVI層に近いV層下位と考えられる。また、覆土中の調査では「再構築」の痕跡と思われる不明瞭な立ち上がり等や面も認められた。

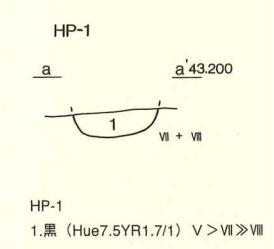
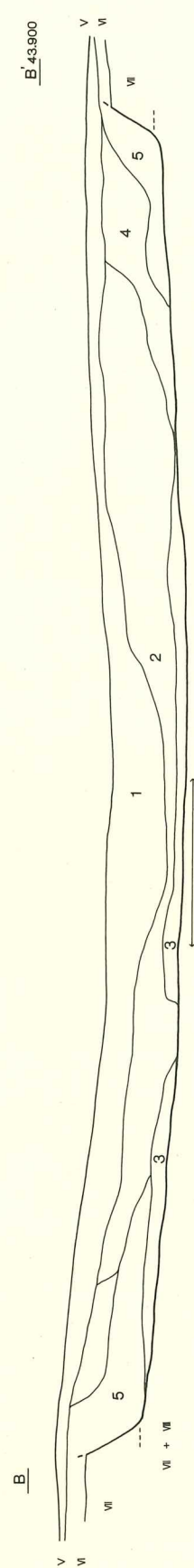
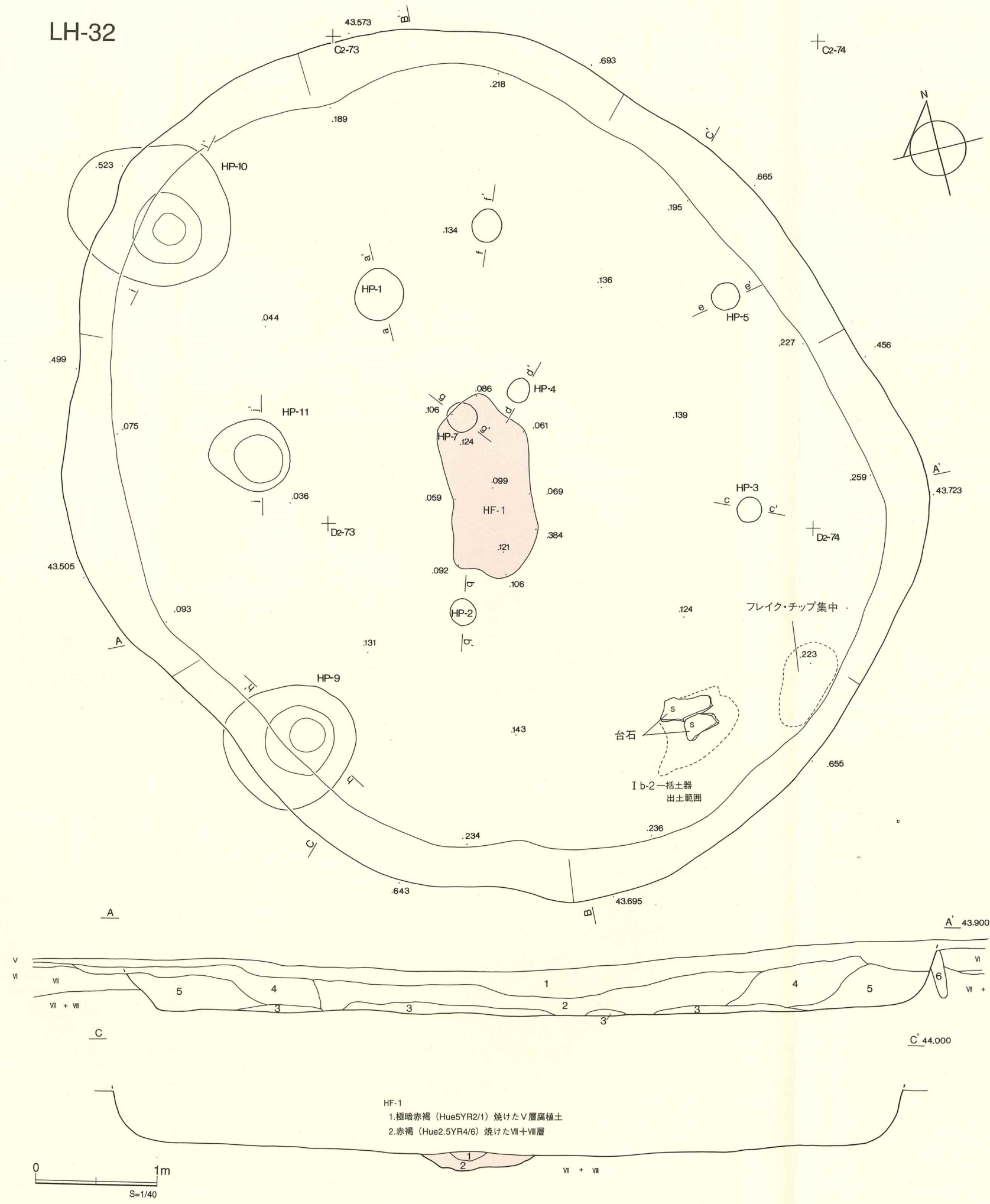
床面の中央付近には、平面が長径約130~40cmの楕円形を呈する焼土が見つかっておりこれは炉跡と考えられる(HF-1)。柱穴は、炉跡の周囲から7本、壁際床面から3本が見つかっている。いずれもEn-aを主体とする覆土のため確認が難しく他にも存在していた可能性は高い。HP-2~4・6・7はその規模と位置から支柱穴の一部と考えられる。壁際で見つかった大型のHP-9~11は腐植土のほとんど入らない覆土やその規模、用途などの面から考えて、この遺構に伴うものとするにはやや否定的な要素がある。また一部に自然の力によるものとの見解もあるが、同種の大型ピットが周囲の同時期住居跡の床もしくは壁際などで検出される確率がかなり高いことから、ここで報告することとした。

なお、焼土の周囲の床を含めた各地点から炭化種子の抽出を目的とした土壌の採取を行いフローテーション法による選別を試みたが大きな成果は得られなかった(VI章3節参照)。

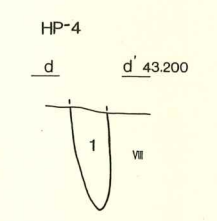
遺物 遺物は床と覆土から多数の土器、石器、石・土製品が出土している。床面としたものはI群土器80点であるが、床上位に形成された覆土3層中のものもほぼこれに相当すると考えられ、ここからは縄文時代早期後半のI群b-2類土器や石器が出土している。En-aを主体とする覆土2層の遺物は北西側と南側から流れ込む様子が認められるが、これは壁に収納していたものが上屋の盛り土とともに落下したか他遺構からの廃棄などが考えられる。また、異形土器や玉等が見つかった唯一の住居であるため、何らかの特別な性格を有していた構築物の可能性もある。黒色土主体の覆土1層から出土する後期前葉のIV群a類土器は、周囲のV層包含層よりも出現率が高く、埋没しきらない窪地を何らかの形で利用していた可能性がある。細石刃はすぐ南側に位置していた旧石器のスポットから流れ込んだためと考えられ、これらは包含層で扱った。また、床面から採取された炭化物に対して加速器使用の炭素年代測定を依頼した結果、B.P.6950±60の測定値が得られている(IV章1節)。

土器は1~11がI群b-2類で、うち1・4・5・8・9が床面から出土したものである。12はIV群a類土器である。これらは全て深鉢形を呈した器形である。1は対ごとに山の高さが異なる波状口縁と上から見た器形が楕円を呈する特徴をもつもので、器壁は比較的薄く口唇部の断面は先端が丸味を帯びた尖り気味の形状である。器面には細い粘土紐を縦横に無数に貼り付けた文様が全面に施されており、貼り付け後には絡条体の回転施文を施し貼り付け上に刻みを入れた状態を作り出している。2は覆土3層中から図の台石二つと共に出土した大型の土器である。口縁部には一段高い幅広の山形突起を有し、断面が尖り気味の口唇部は外に向かってやや開き気味である。器壁は非常に薄く、器面の文様は地紋に0段多条の同一原体による短縄文と斜行縄文を横位に施し、その上から粘土紐の貼り付けを幾重にも巡らせている。貼り付けの上に施された刻み

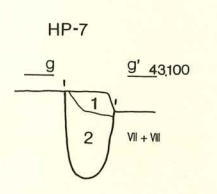
LH-32



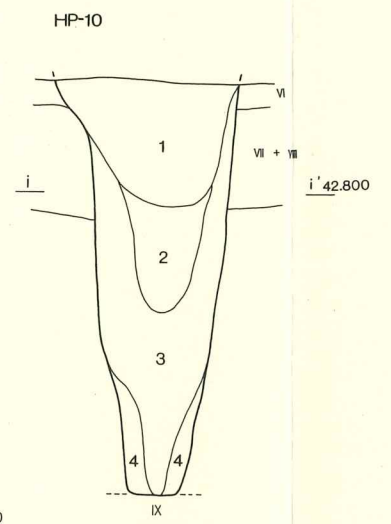
HP-1
1.黒 (Hue7.5YR1.7/1) V>VI>VII



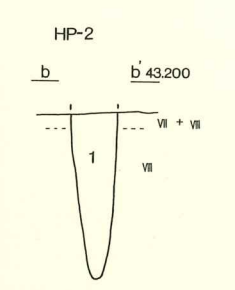
HP-4
1.黒 (Hue7.5YR1.7/1) V>VI>VII



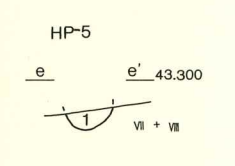
HP-7
1.黒 (Hue10YR3/2) VI>V>VII
2.灰 (Hue7.5YR4/2) VI+VII+VIII



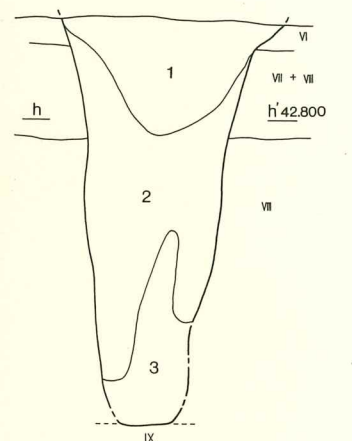
HP-10
1.褐 (Hue10YR4/1) VI>VII
2.褐 (Hue10YR4/1) VI>VII
3.にぶい黄褐 (Hue10YR4/1) VI>VII
4.黄褐 (Hue10YR5/6) VIIやや大粒のバミスが弱く赤化している



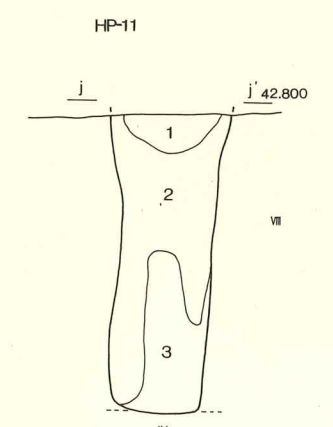
HP-2
1.灰黄褐 (Hue10YR4/2) VI>VII>VIII



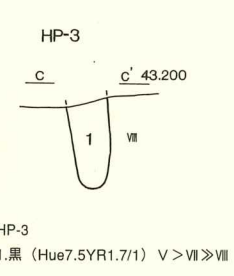
HP-5
1.黒 (Hue10YR3/1) V+VI>VII



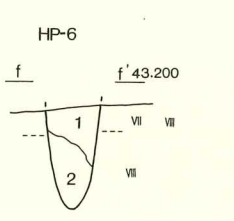
HP-9
1.褐 (Hue10YR4/1) VI>VII
2.にぶい黄褐 (Hue10YR4/1) VI>VII
3.黄褐 (Hue10YR5/6) VIIやや大粒のバミスが弱く赤化している



HP-11
1.褐 (Hue10YR4/1) VI>VII
2.にぶい黄褐 (Hue10YR4/1) VI>VII
3.黄褐 (Hue10YR5/6) VIIやや大粒のバミスが弱く赤化している



HP-3
1.黒 (Hue7.5YR1.7/1) V>VI>VII



HP-6
1.褐灰 (Hue5YR4/1) VI>VII>VIII
2.灰黄褐 (Hue10YR4/2) VII>VII>VI

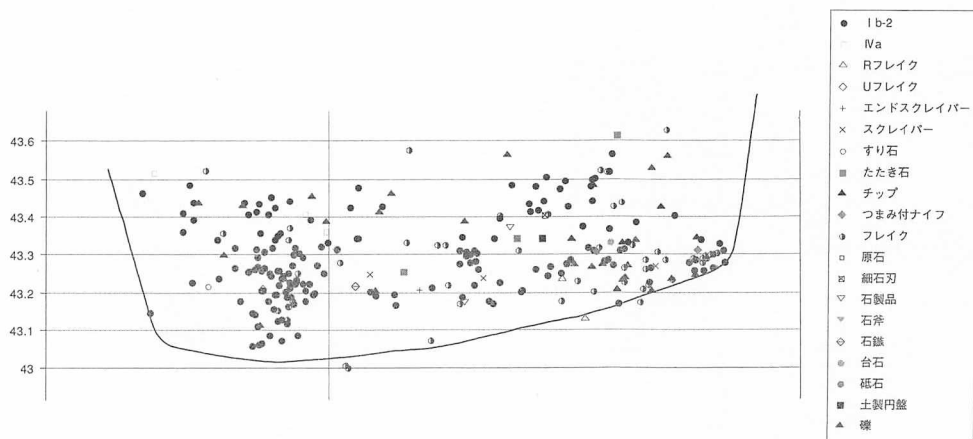
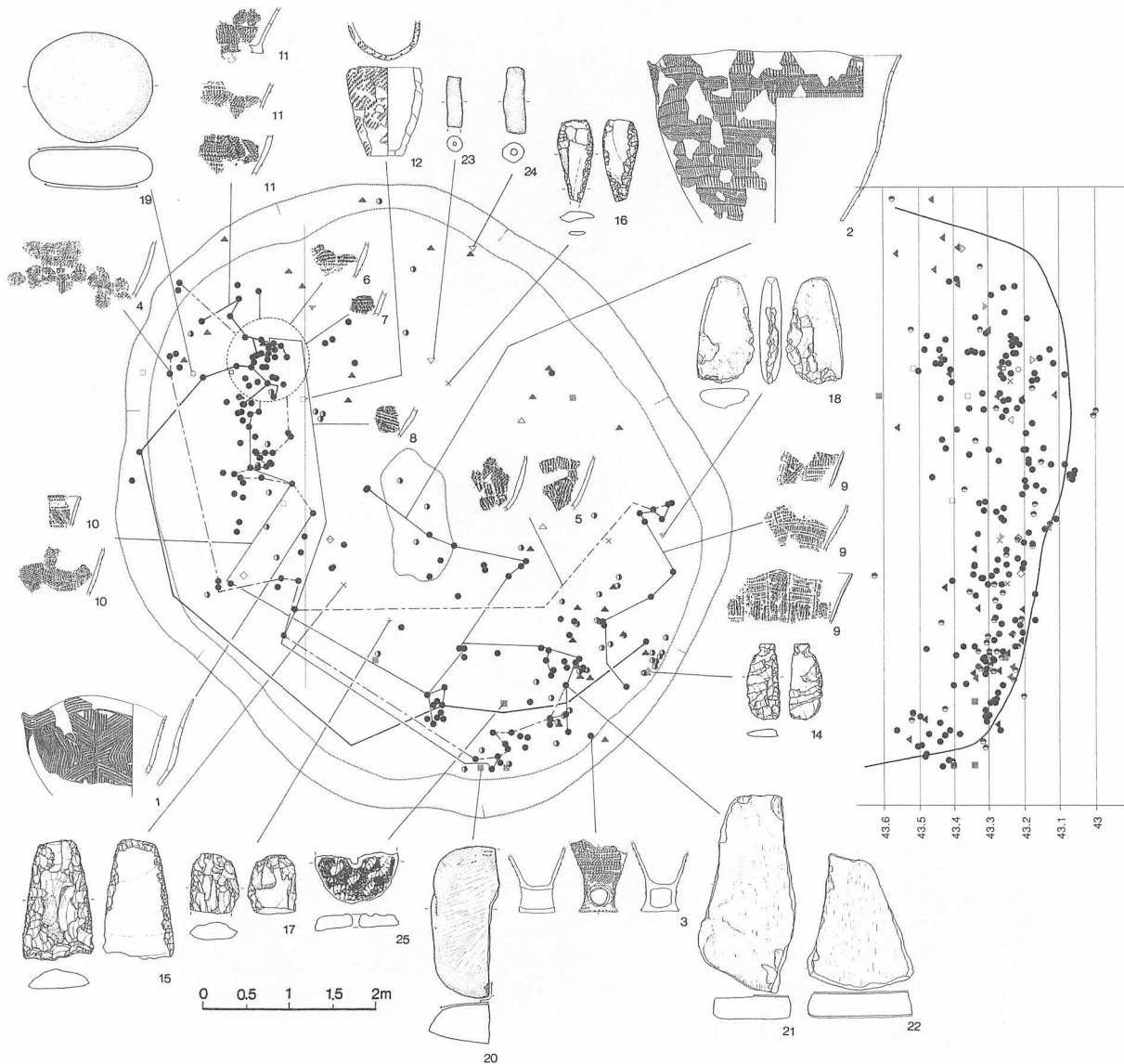
LH-32土層説明
1.黒 (Hue7.5YR1.7/1) V層腐植土
2.黒 (Hue7.5YR2/1) V>VII
3.暗黒 (Hue7.5YR3/3) V+VII>VI
4.暗黒 (Hue7.5YR3/3) V+VI+VII>VII
5.暗黒 (Hue7.5YR3/4) VI>V>VI>VII
6.黒 (Hue7.5YR2/2) 柱穴覆土

HF-1
1.極暗赤褐 (Hue5YR2/1) 焼けたV層腐植土
2.赤褐 (Hue2.5YR4/6) 焼けたVI+VIII層

図IV-16 LH-32

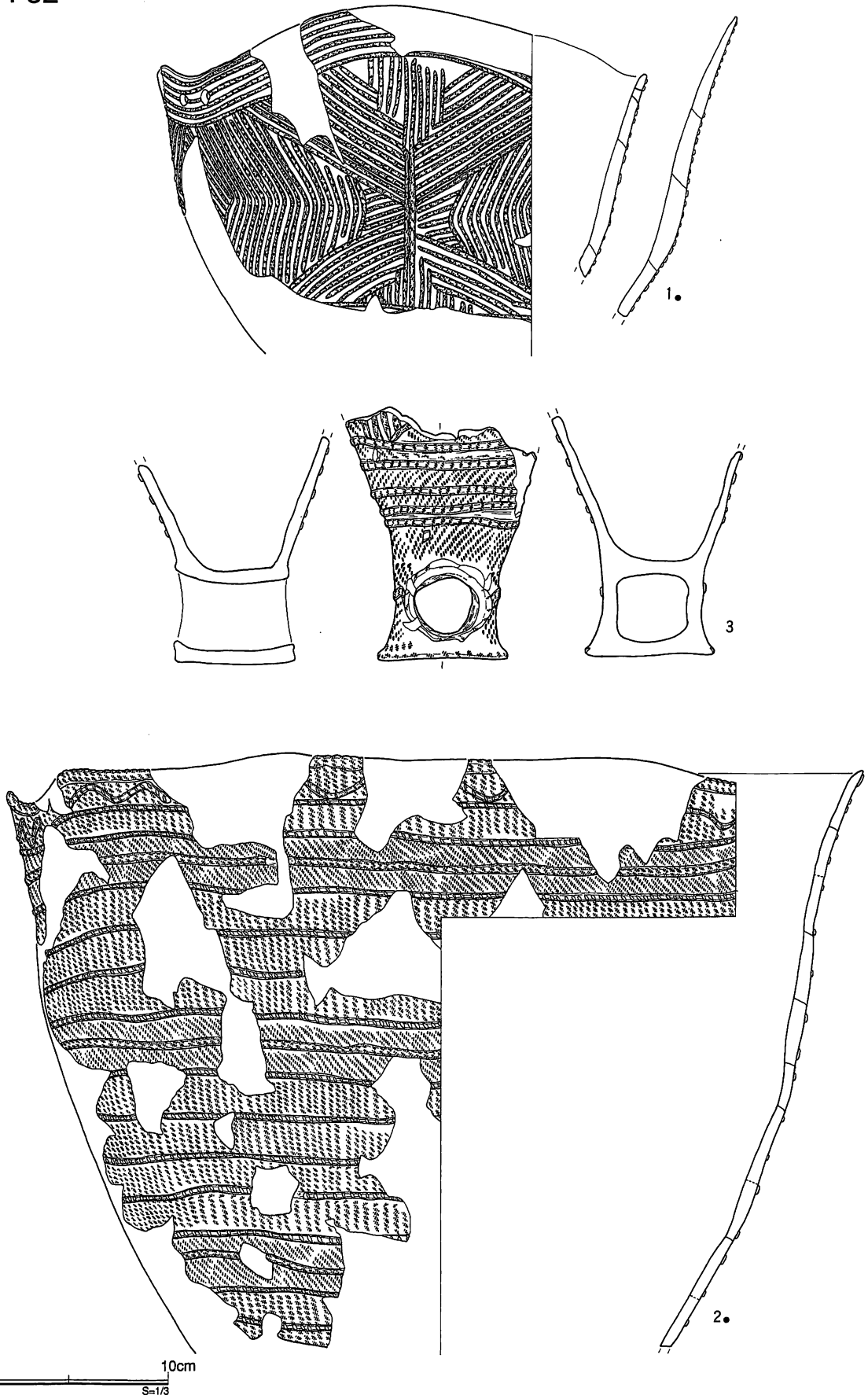
IV Ta-c下位の遺構

LH-32



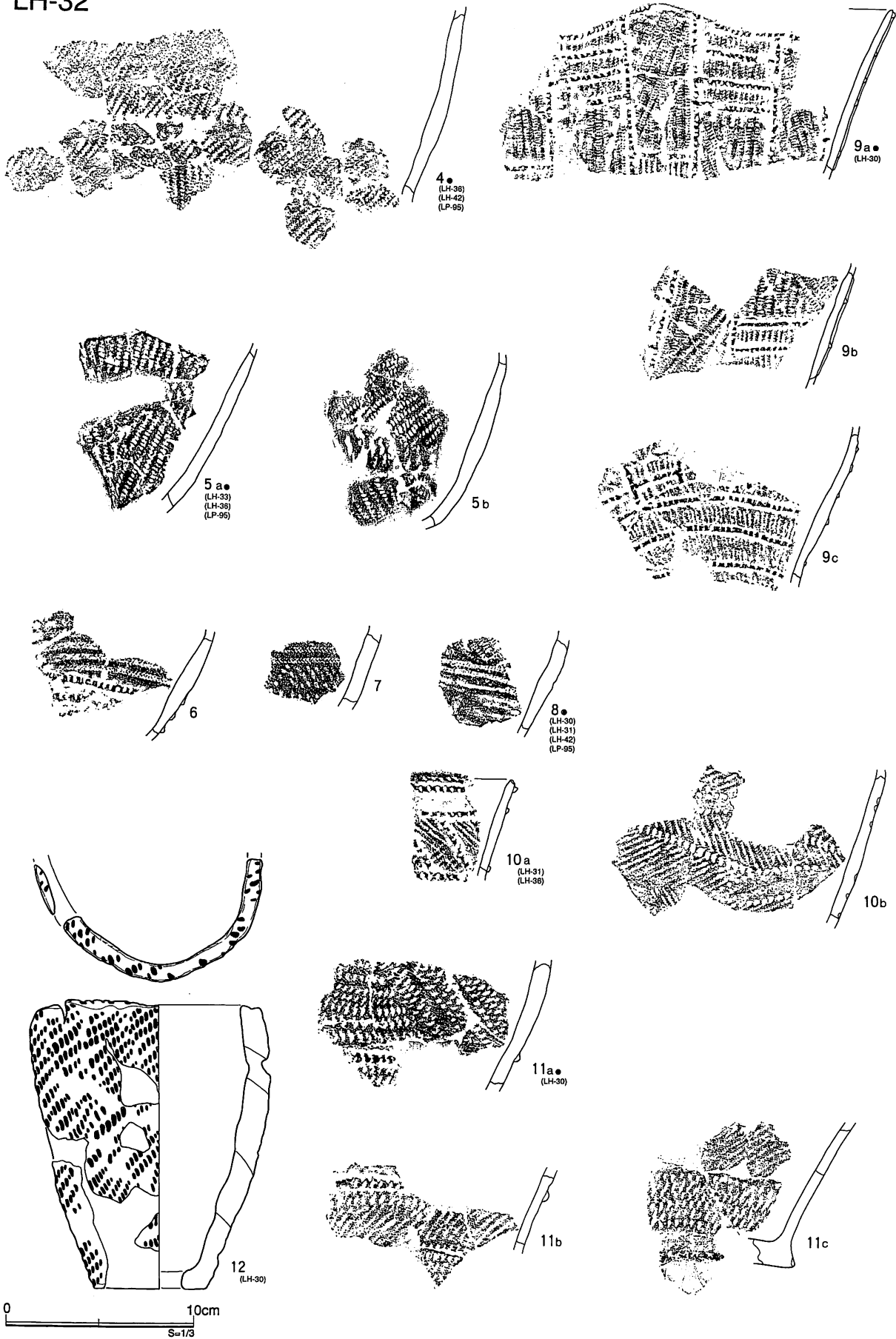
図IV-17 LH-32の遺物出土状況

LH-32



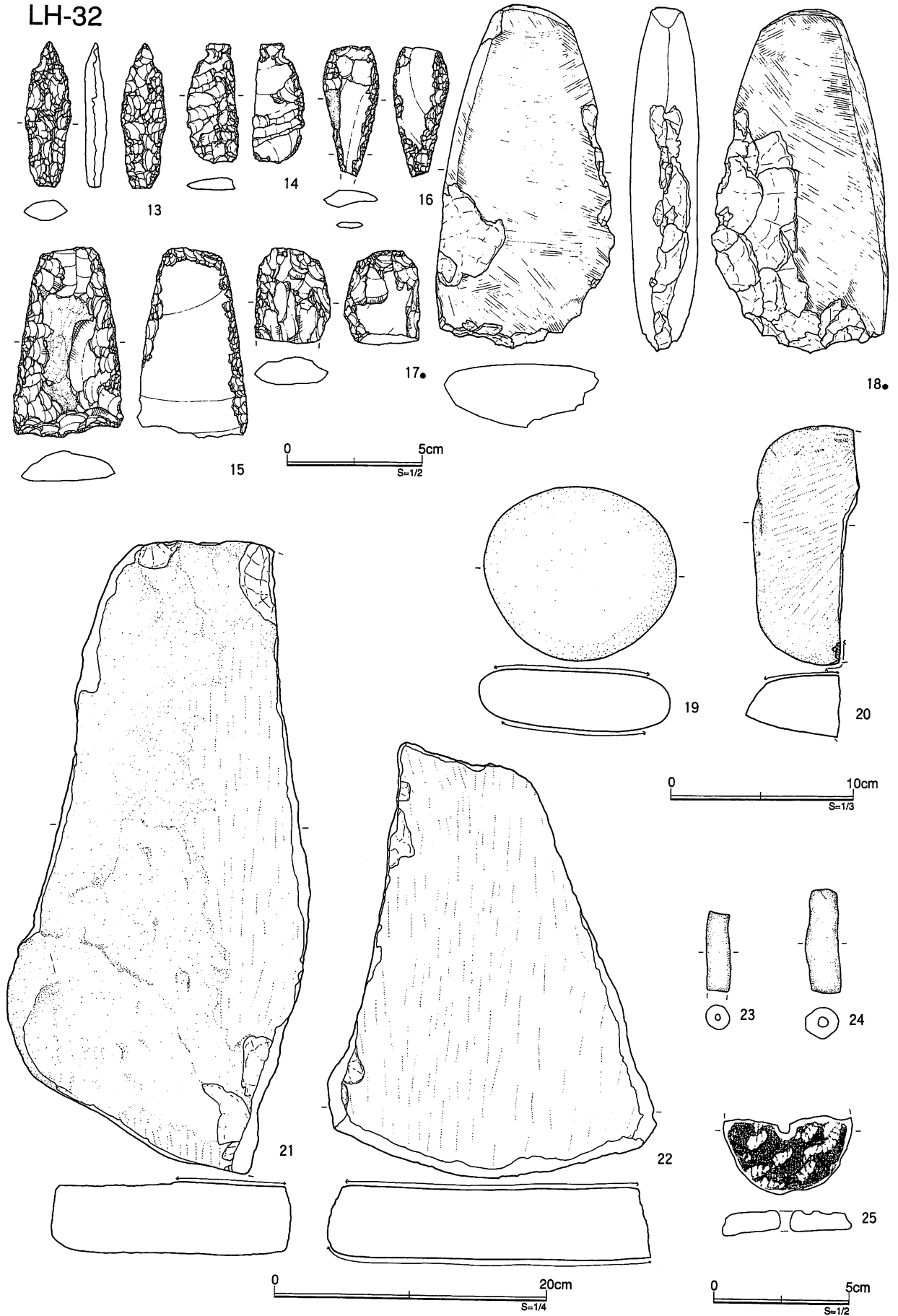
図IV-18 LH-32の遺物(1)

LH-32



図IV-19 LH-32の遺物(2)

LH-32



図IV-20 LH-32の遺物(3)

は縄と先端が篋状の施文具による。3は上半部が欠失した異形の底部である。内面底部の下位に左右2ヶ所の開口部を備えた空洞を備える特徴をもつ。器形的には器壁の薄い深鉢形土器の底部で下端にも粘土を盛って張り出し部を形成している。文様は地紋に撚りの異なる二本の0段多条の原体を使った羽状縄文を施した後、その上から縦横斜めに粘土紐を貼り付けた隆起線を施したものである。隆起線の上にはやはり同じ原体による刻みが施されている。空洞部を含む器体の下半部は熱による赤化が明らかで、上半部および内面は炭化物や煤などで暗色化している。特徴となっている空洞部は、強度や機能などを考慮した上で、装飾的な側面に重きをおいたもののように思われる。4・5は地紋に斜行縄文が施された胴部である。4は地紋の他に縄の端部によると考えられる刺突列が2本認められる。5は同じ原体の施文方向を変えて羽状とした部分があり、その境には短縄文の列が施されている。6・7は幅の狭い組紐圧痕文が施される胴部片である。6は底に近い部位のもので横走る組紐圧痕の下位に刻みの施された隆起線が見られる。7は絡条体の圧痕が施されている。8・9は絡条体圧痕文の施されたものである。9は口縁部の一部に山形の突起を持つもので、器壁の薄い口唇の断面は先が丸い形状である。絡条体圧痕文と撚糸文が各施された範囲の境界上に格子に似た縦横の隆起線文が施されている。8・9いずれの内面も炭化物の付着が顕著である。10は口縁部に隆起線と羽状縄文が施された口縁部である。胴部には刺突列で区画された帯状の無文部が見られる。11は短縄文と斜行縄文が施された胴下半部である。胴部の短縄文は斜めや横の帯状に施される。底部下端の刻みは縄による。12は太い原体による斜行縄文が口唇部と器面に施された小形の深鉢形土器で、この個体はLH-30と跨がって出土している。

石器は石鏃、ポイント、ドリル、つまみ付ナイフ、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石、砥石、台石などが出土しており、機種構成は礫石器の類が優位である。14・15・17~19は床もしくは床に近い覆土3層中から出土している。13は12のIV群a類土器に近い位置で出土した黒曜石製のポイントで、おそらく同じ時期のものであろう。14は頁岩製、小形につまみ付ナイフである。15は肉厚の縦長薄片を加工した篋状のスクレイパーである。16は縦長剝片の両側縁に剝離を施したスクレイパー、17はエンドスクレイパーで両方とも黒曜石製である。17は蛇紋岩製の石斧で刃部から側縁にかけての使用による欠失が著しい。19は扁平礫の平坦部を使用したすり石、20は長楕円の礫を使用したたたき石で側面の平坦部は砥石としても使っている。21・22は2のI群b-2類土器とともに出土した大型の台石である。21は砂岩、22は安山岩の扁平礫を使っており、表裏の平坦面とも良く使い込んでいる。23・24は石製品である。石化した高子小僧を加工して管玉状の装飾品に仕上げている。

25は土製品で、短縄文が施されたI群b-2類の土器片を土製円盤として再生利用したものである。

時期 縄文時代早期後半コックロ式期

(皆川)

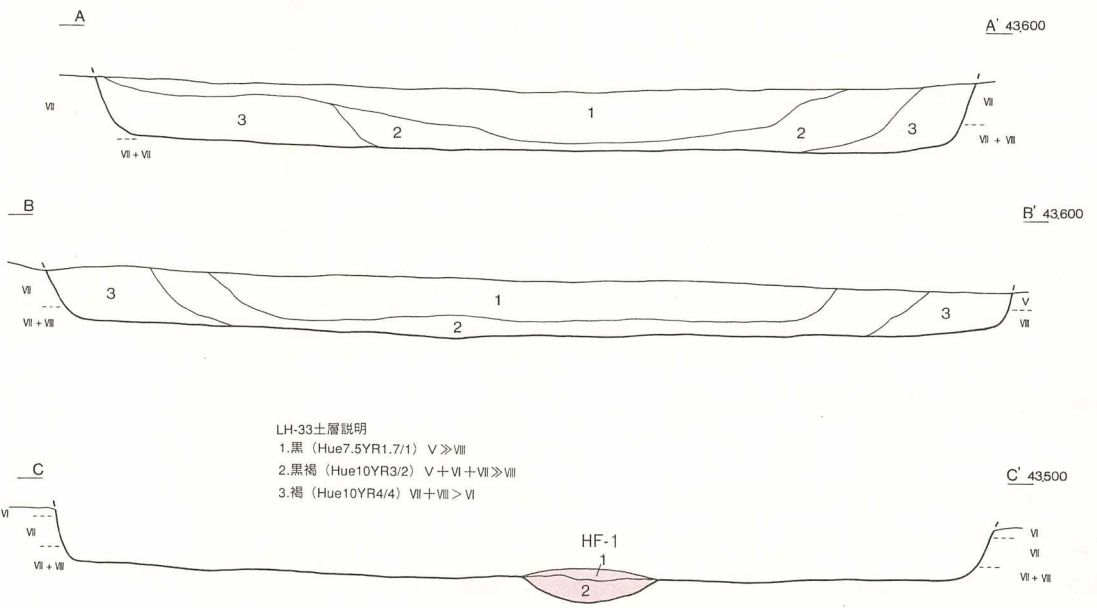
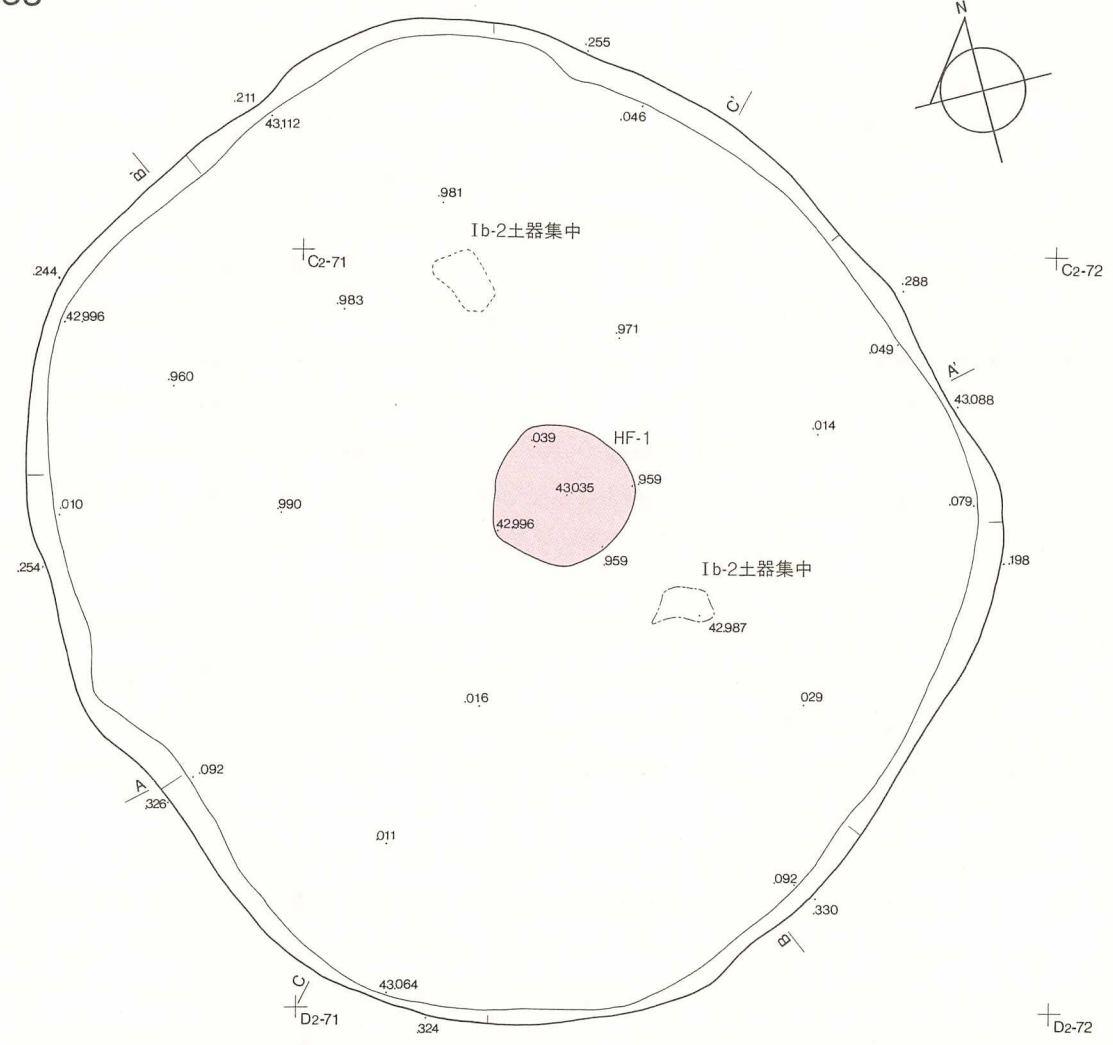
LH-33 (図IV-21・22/図版12・50)

位置：B2-70-c, 71-b・c, G2-70-c・d, 71-a~d, D2-71-a

規模：5.39×5.0/4.73×5.22/0.34m 長軸方向：N-5°-E

特徴 平面が不整楕円形の住居跡である。南側にはLH-36が隣接しているが、これらの新旧関係は不明である。V層上面で窪みとその周囲に広がる堀上げ土と思われるEn-aにより確認を行い、隣接するLH-36にかかるトレンチを設け調査を行った。覆土は腐植土を主体とするものと

LH-33



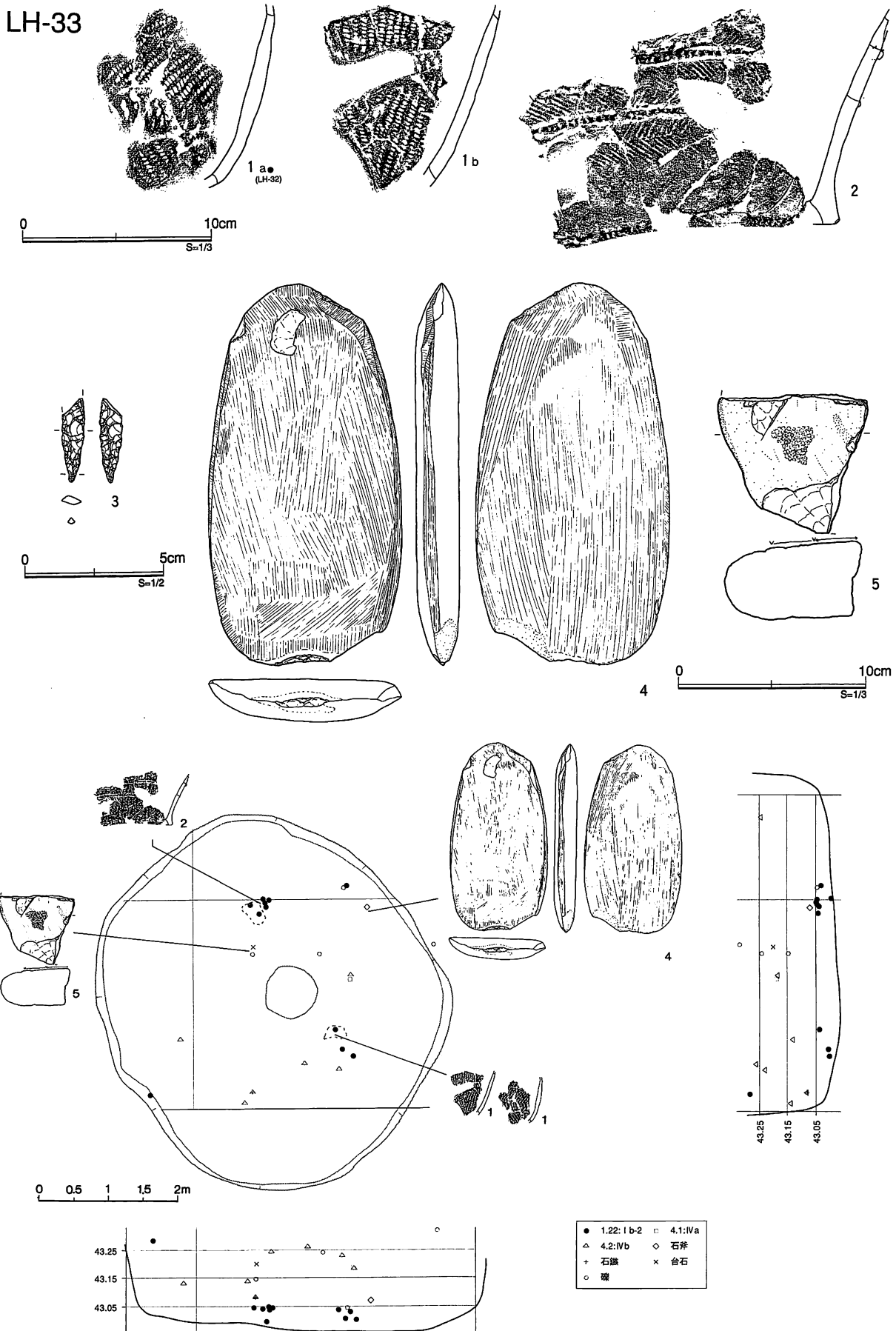
LH-33土層説明
 1.黒 (Hue7.5YR1.7/1) V>>VIII
 2.黒褐 (Hue10YR3/2) V+VI+VII>>VIII
 3.褐 (Hue10YR4/4) VII+VIII>VI

HF-1
 1.黒 (Hue5YR1.7/1) 弱く焼けたV層腐植土
 2.暗赤褐 (Hue2.5YR3/6) 焼けて強く赤化したVII+VIII



図IV-21 LH-33

LH-33



図IV-22 LH-33の遺物と出土状況

En-a を主体とするものにと大きく分けられ、前者は中央部に厚く後者は壁の立ち上がり近くで最も厚く中央部で薄く堆積する。掘込み面はVI層に近いV層下位と考えられる。床面の中央やや東より付近には径約80cmの焼土が見つかりこれは炉跡と考えられる。柱穴状のピットは床面がVI～VII層に作られているために確認が難しく未検出となったがLH-30・32などと同様のものが存在していた可能性が高い。なお、焼土の周囲の床を含めた各地点から炭化種子の抽出を目的とした土壌の採取を行いフローテーション法による選別を試みたが大きな成果は得られなかった（VI章3節参照）。

遺物 遺物は床面に近い覆土から土器、石器などが出土している。特にI群b-2類土器の多くが床（掘込み面）に近い覆土3層中から面をなして出土しており、これらは当時の生活面にあったものと考えられる。1はLH-32からも出土したもので、地紋に斜行縄文が施された深鉢形土器の胴部である。一部に同じ原体の施文方向を変えて羽状とした部分があり、その境には短縄文の列が施されている。2は羽状縄文と貼付帯の施された深鉢形土器の底部である。原体は細い繊維を使用した0段多条である。僅かに張り出した底部下端や貼付帯の上にも同じ原体による刻みが施されている。

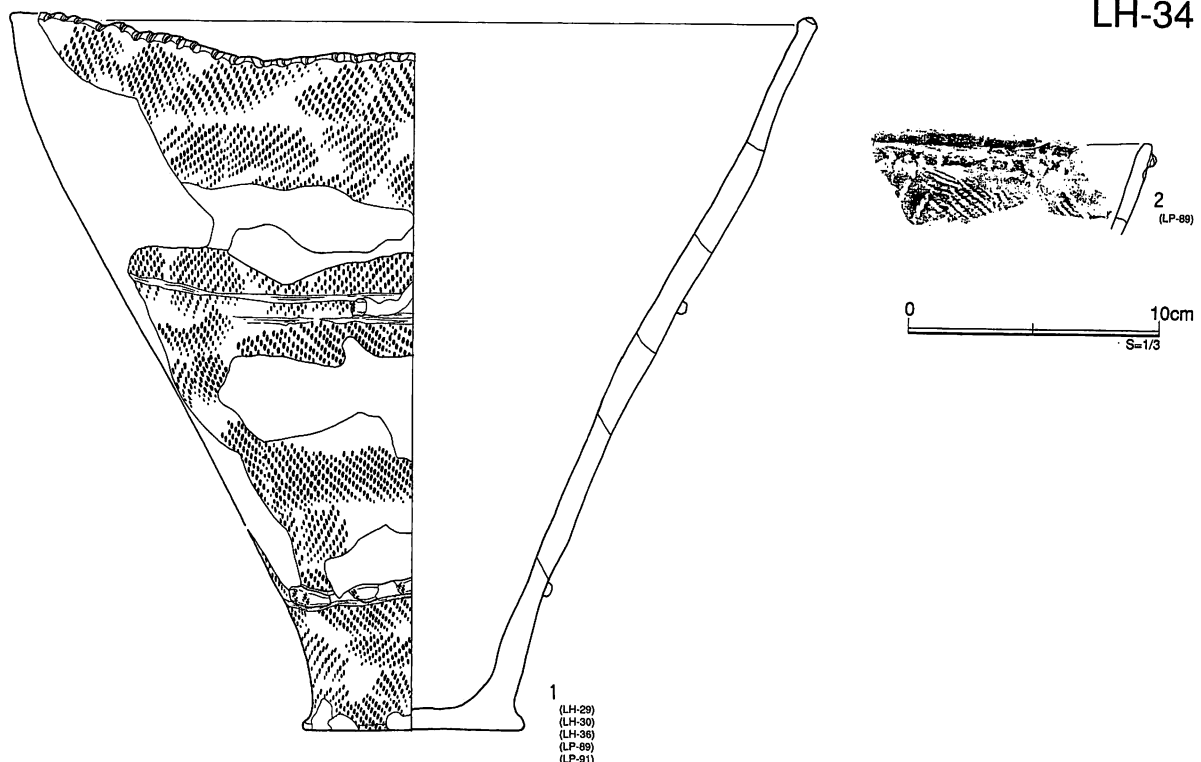
石器は石鏃、ドリル、石斧、たたき石、台石などが出土した。3は両面加工の黒曜石製ドリルである。4は蛇紋岩製の石斧である。下端の刃部には使用による摩滅と光沢が認められる。5は熱で赤化した砂岩製の台石である。平坦部は磨られて平滑化しておりその中央部には敲かれて窪んだ部分も見られる。

時期 縄文時代早期後半コッタロ式期

(皆川)

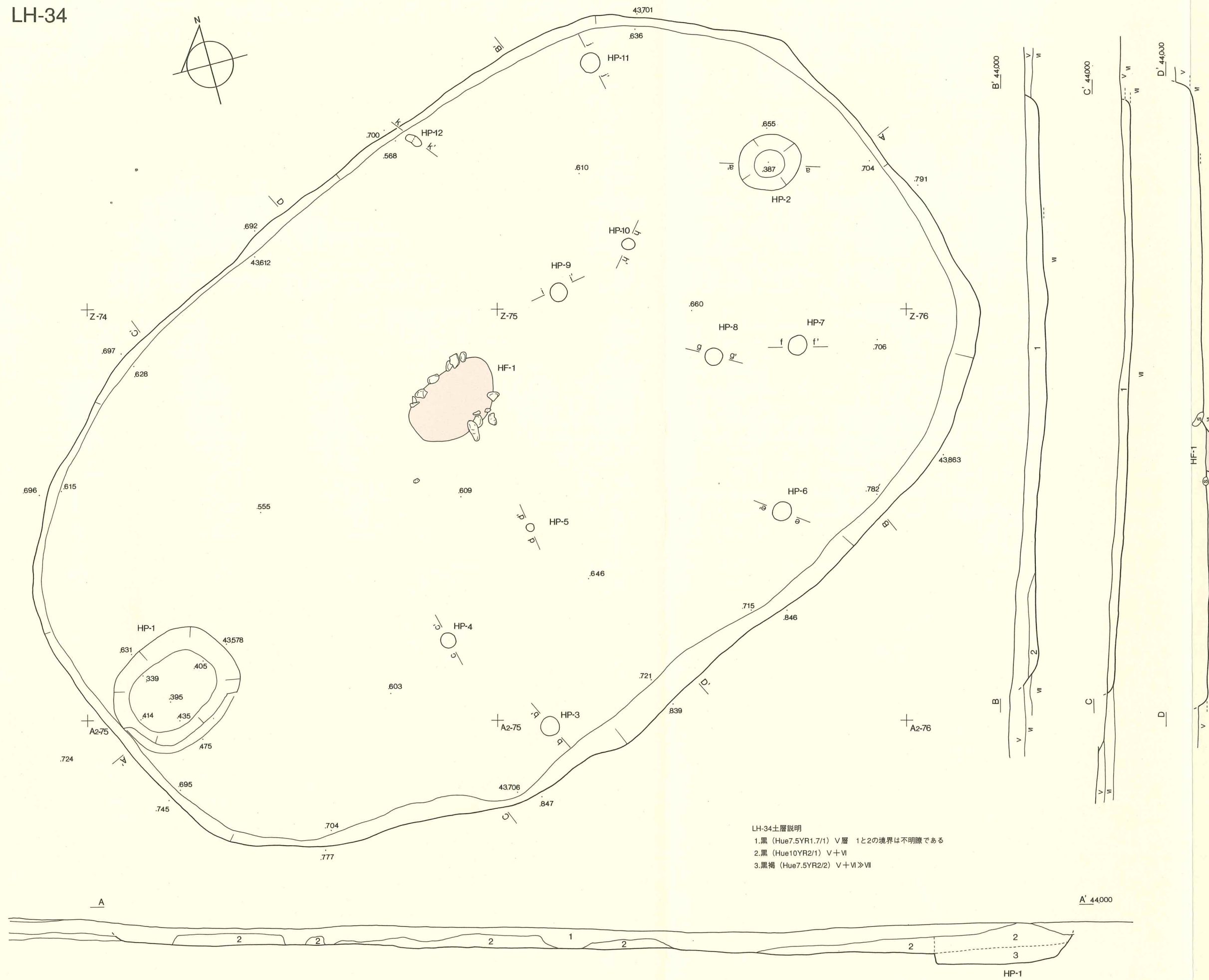
LH-34 (図IV-23~25/図版12・13・50・51)

位置：Y-74-b~d, 75-b~d, Z-73-c・d, 74-a~d, 75-a~d, Z-76-a, A2-74-a・d, 75-a



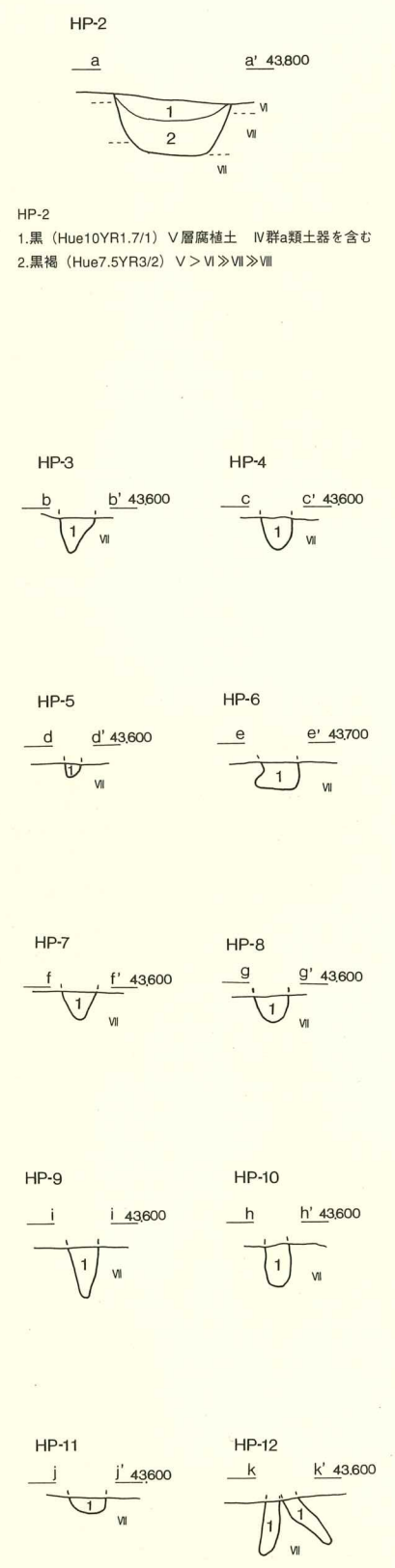
図IV-23 LH-34の遺物(1)

LH-34



LH-34土層説明
 1.黒 (Hue7.5YR1.7/1) V層 1と2の境界は不明瞭である
 2.黒 (Hue10YR2/1) V+VI
 3.黒褐色 (Hue7.5YR2/2) V+VI>VII

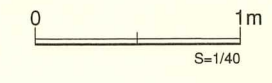
IV Ta-c下位の遺構



HP-2
 1.黒 (Hue10YR1.7/1) V層腐植土 IV群a類土器を含む
 2.黒褐色 (Hue7.5YR3/2) V>VI>VII

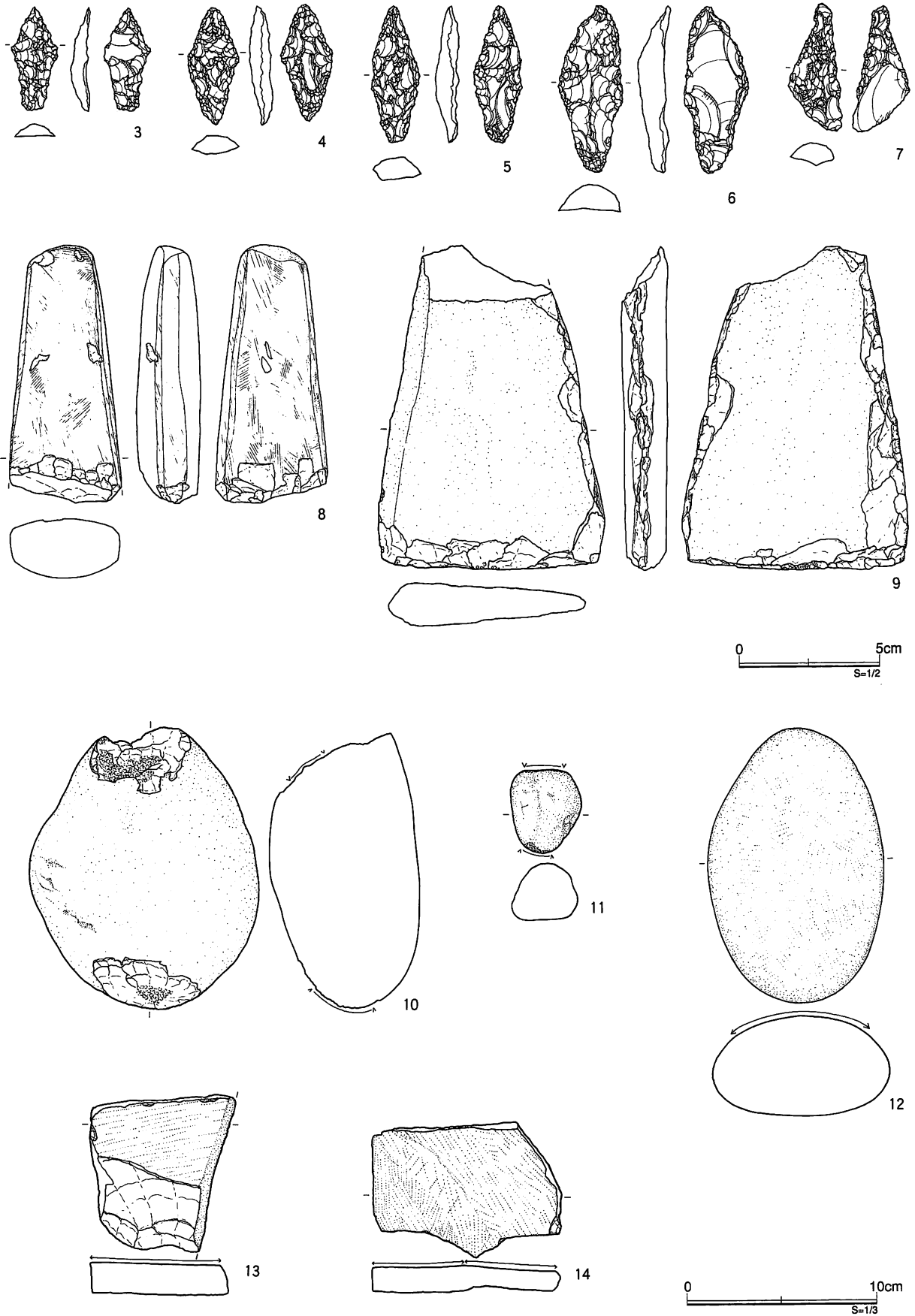
HF-1
 1.赤褐色 (Hue5YR4/8) 焼土

HP-3~12
 1.黒褐色 (Hue7.5YR3/2) V>VI>VII



図IV-24 LH-34

LH-34



図IV-25 LH-34の遺物(2)

規模：9.63×6.43/6.05×9.34/0.30m

長軸方向：N-85°-E

特徴 長楕円形を呈する大型の住居跡である。浅い掘込みの床はLP-89の上部を切って作られており、床面からは付属する土壇と石囲い炉、柱穴などが見ついている。付属の土壇は住居長軸の両壁際に設けられたもので、北東側の壁際に位置するHP-1は平面が楕円形で北東側の壁際に設けられたHP-2よりもやや規模でまざっている。覆土中にはどちらも本住居と同じ土壇で埋没しているが、平面が円形のHP-2の覆土上位にはIV群a類土器の口縁部を含む破片が出土している。床の中央で検出された石囲い炉は住居平面形の長軸方向が石で閉じていないもので、礫は砂岩製の砥石を含む大人の握り拳から子供の頭程の円礫が使われている。柱穴と考えられるピットは10箇所検出されており、配置の傾向には床面の中央付近に位置するものと壁近くに沿って位置するものが見られる。その多くは深度も浅く覆土がVI・VII層主体の不明瞭なものであったことから他にも存在する可能性は高い。

遺物 遺物は床面と覆土から土器、石器、炭化物、種子などが散点的な状態で出土している。土器はI群b-2類、III群b類、IV群a類が出土している。床面にはIV群a類が多くこれらが本遺構に伴うものと考えられるがこれらは接合する率が低くいずれも細かく破碎しているか表面が剥落しているため掲載するにはいたらなかった。覆土にI群土器の数量が多いのは早期のLH-89・91の上部を切って掘込まれているためと考えられる。石器はポイント、つまみ付ナイフ、Rフレイク、石斧、たたき石、砥石、台石などがあり、石囲い炉周辺の床面からはポイントなどとともに黒曜石製のフレイクが多く出土している。なお、覆土1層中からキハダ属の炭化種子が出土している（VI章3節）。1・2はI群b-2類土器である。1はLH-29・30・36、LP-89・91と複数の遺構から出土した深鉢形土器である。地紋に羽状縄文が施される。胴部には横環する粘土紐が2本貼り付けられている。口唇部には爪状の工具による刻みが施され、粘土紐と特徴的に張り出した底部下端には縄による刻みや連続した押捺が巡らされている。2は口唇のやや下に粘土紐の貼り付けが巡る平縁の深鉢形土器である。器壁は薄く口唇断面は丸味を帯びたもので器面には斜行縄文と縄線文が施されている。貼付帯には縄による刻みが施されている。

3～6は炉跡の周辺で見つかった黒曜石製のポイントである。厚手の剥片を粗雑な加工で仕上げたもので、周辺には同じ石材の剥片が多数出土しておりこの場で製作されていたと考えられる。7は破損した両面加工のつまみ付ナイフである。つまみ部が小振りの黒曜石製である。8は刃部が欠失した石斧である。破損部に敲打された痕跡が見られることから、たたき石としても使われたと考えられる。9も薄身の片岩を使った石斧であるが、図示した側面に摩滅の痕跡が顕著であることから石鋸としても使われた可能性がある。10・11はたたき石である。10は大型の円礫を使ったもので一部に焼成を受けた痕跡が見られる。反面、11は小形の円礫を使用している。敲打痕も強い力のものではなく、対象としたものもそれなりの堅さであったことが推定される。12は楕円の礫の扁平部を使ったすり石である。10と同様に熱による赤化が見られる。13・14は砂岩製の砥石である。

時期 縄文時代後期前葉（余市式期）

（皆川）

LH-35（図IV-26～28/図版14・52）

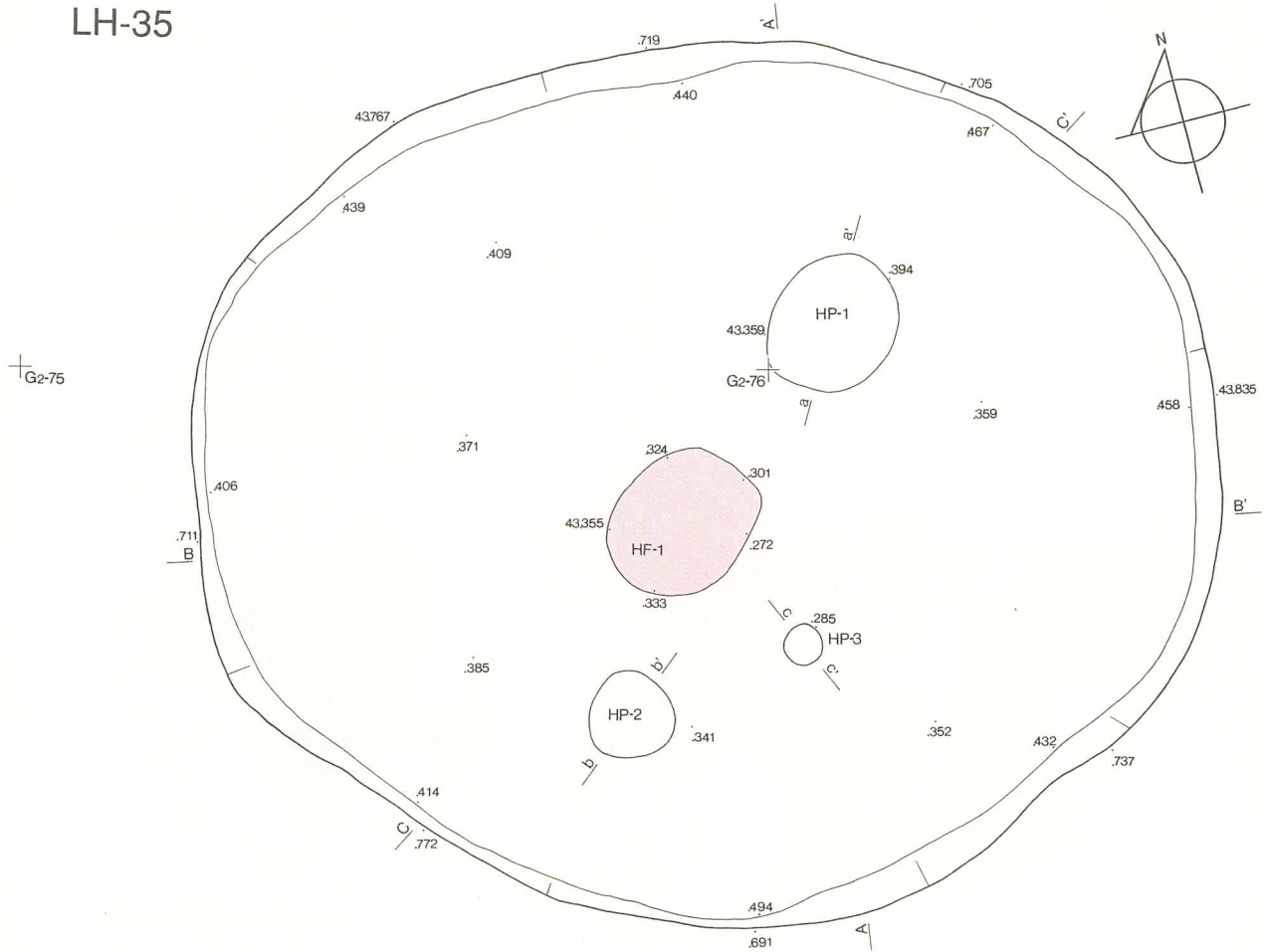
位置：F2-75-b・c, 76-b・c, G2-75-a～d, 76-a・b・c

規模：5.51×4.75/4.56×5.37/0.55m

長軸方向：N-62°-W

76 **特徴** 平面が不整楕円形の住居跡である。北東側にはLH-42が隣接しているが、これらの新旧関係

LH-35

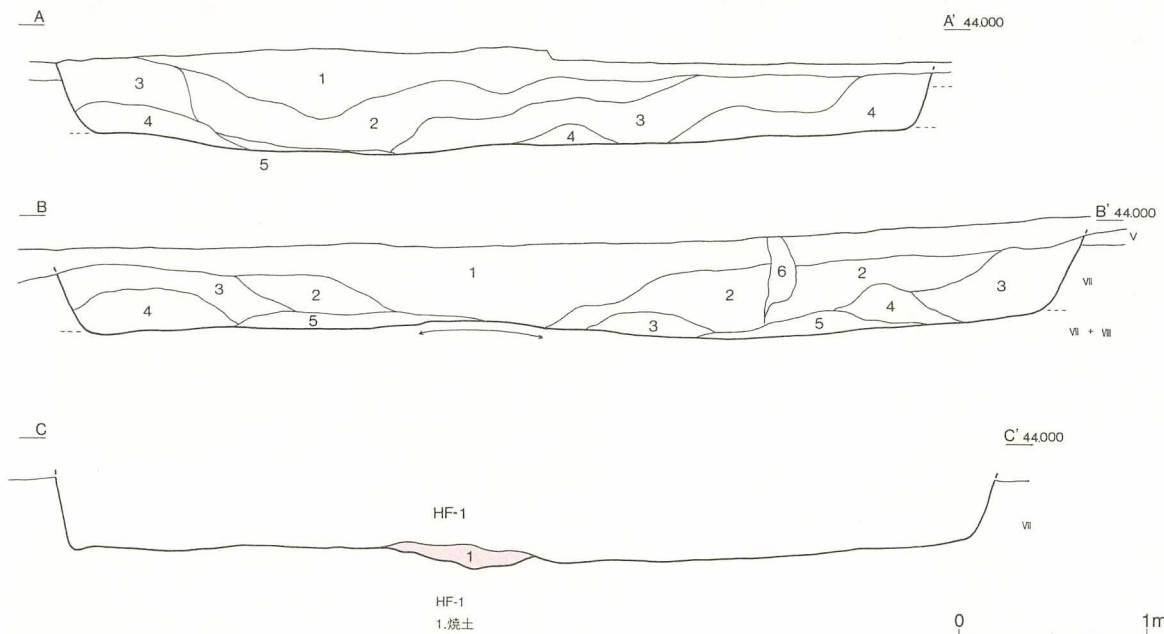


LH-35土層説明

- 1.黒 (Hue7.5YR1.7/1) V層腐植土
- 2.黒褐 (Hue7.5YR3/1) V+VI>>VII
- 3.黒褐 (Hue7.5YR3/2) V+VI+VII
- 4.にぶい黄褐 (Hue10YR5/4) VII+VII>>VI
- 5.褐灰 (Hue10YR4/1) VI+VII>VII
- 6.攪乱

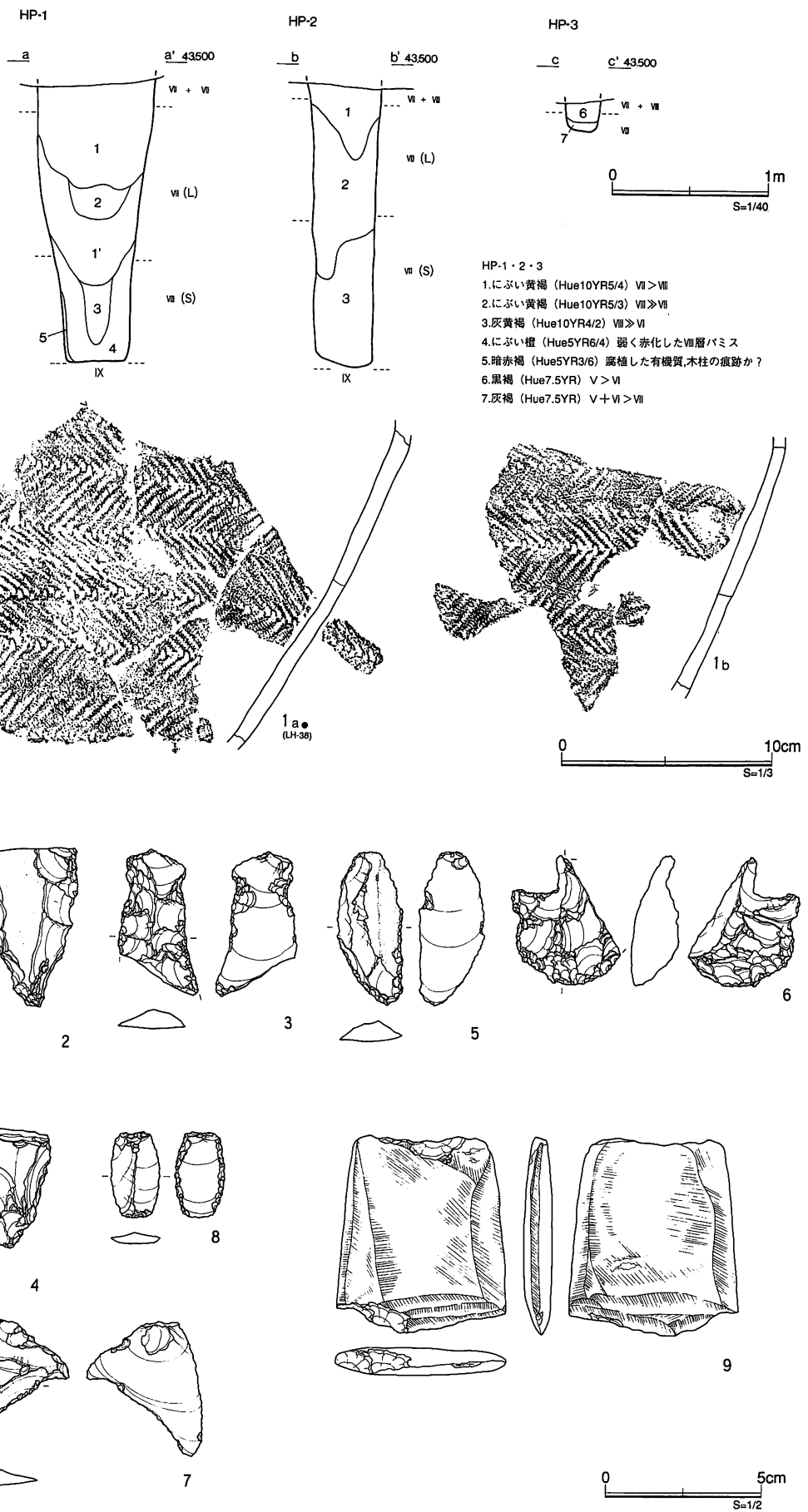
H2-75

H2-76



図IV-26 LH-35

LH-35

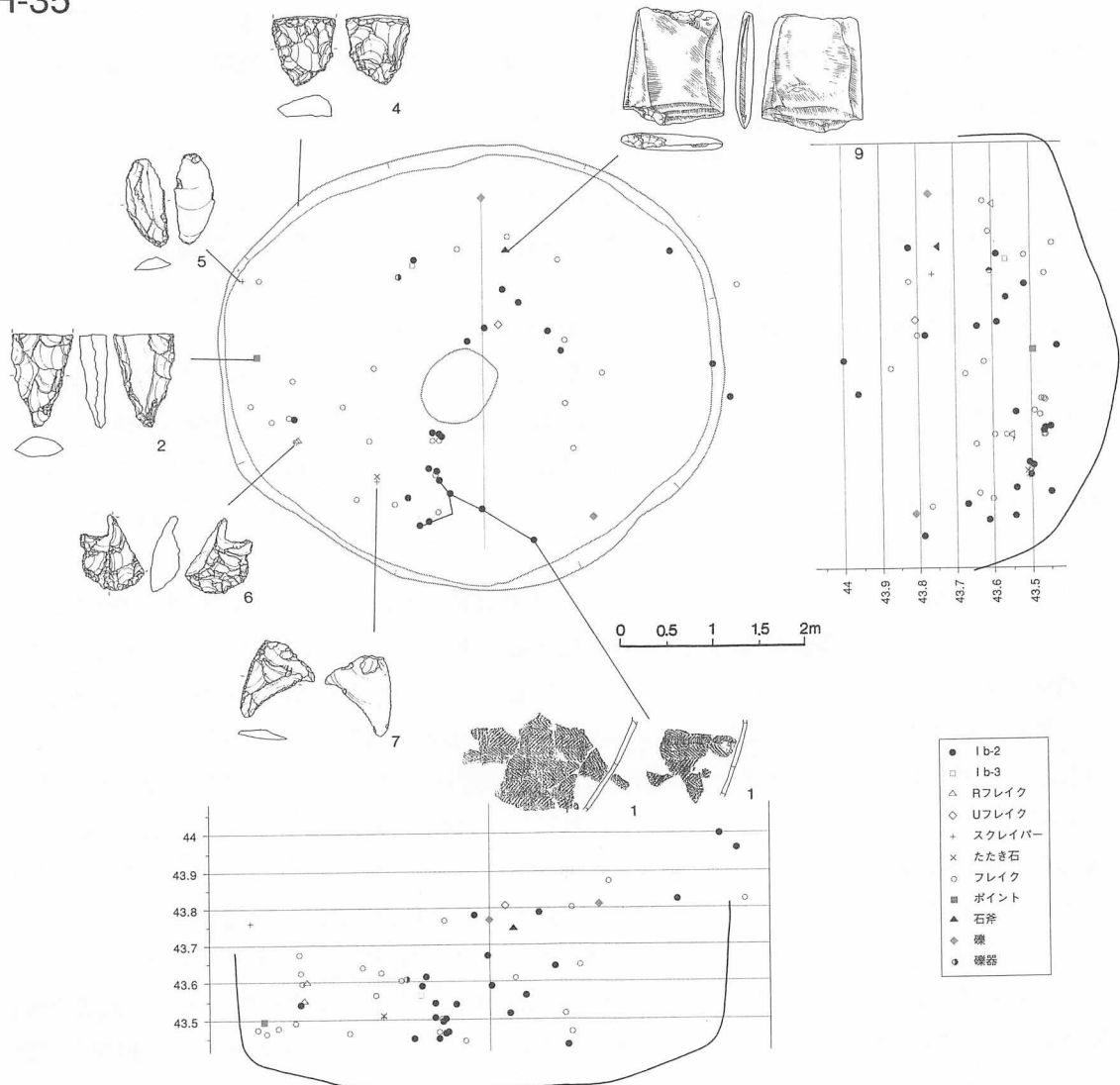


図IV-27 LH-35内ピットセクションと遺物

は不明である。V層上面で窪みとその周囲に広がる掘上げ土と思われる En-a により確認を行い、トレンチを設け調査を行った。覆土は腐植土を主体とするものと、En-a を主体とするものと大きく分けられ、前者は中央部に厚く、後者は壁の立ち上がり近くで最も厚く中央部で薄く堆積する。掘込み面はVI層に近いV層下位と考えられる。床面の中央付近に長径約80cmの焼土が見つかりこれは炉跡と考えられる。その周囲から3本の柱穴状のピットが見つかり、いずれも En-a を主体とする覆土のため確認が難しく他にも存在していた可能性は高い。HP-3はその位置から考えて支柱穴の一部と考えられる。大型のHP-1・2は腐植土のほとんど入らない覆土やその規模、用途などの面から考えて、この遺構に伴うものとするにはやや否定的な要素がある。また一部に自然の力によるものとの見解もあるが、同種の大型ピットが周囲の同時期住居跡の床もしくは壁際などで検出される確率が高いため、ここで報告することとした。なお、焼土の周囲の床を含めた各地点から炭化種子の抽出を目的とした土壌の採取を行いフローテーション法による選別を試みたが大きな成果は得られなかった (VI章3節参照)。

遺物 遺物は床面と覆土から土器、石器などが出土している。床面からはI群b-2類土器以外にフレイク、炭化物などが出土している。En-a を主体とする覆土2・3層から遺物が周囲から流れ込んだ様相で出土している。土器はI群b-2類土器を主体とするもので、一部I群b-3類と

LH-35



図IV-28 LH-35の遺物出土状況

したものも出土しているが、小破片のため前者の範疇に入る可能性がある。石器はポイント、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、たたき石、礫器などが出土している。1は整然とした結束の羽状縄文を地紋とする深鉢形土器の胴部である。原体は0段多条である。2は欠損した頁岩製のポイントである。粗い剝離がほぼ全面に施されているが、裏面に礫面が見られることから未成品の可能性もある。3も頁岩製のつまみ付きナイフである。刃部下半は欠損している。5・6はスクレイパー、4はRフレイクでいずれも黒曜石製である。7・8は頁岩製のスクレイパーである。9は蛇紋岩製で肉薄の石斧である。縦に短く、破損した破片に刃部を再生させたのかもしれない。

時期 床面の遺物から縄文時代早期後半コッタロ式期と考えられる。

(皆川)

LH-36 (図IV-29~32/図版15・53・54・55)

位置 : D2-71-b~d, 72-a~d, E2-71-c・d, 73-a・b・d

規模 : 5.93×5.57/5.18×5.73/0.43m

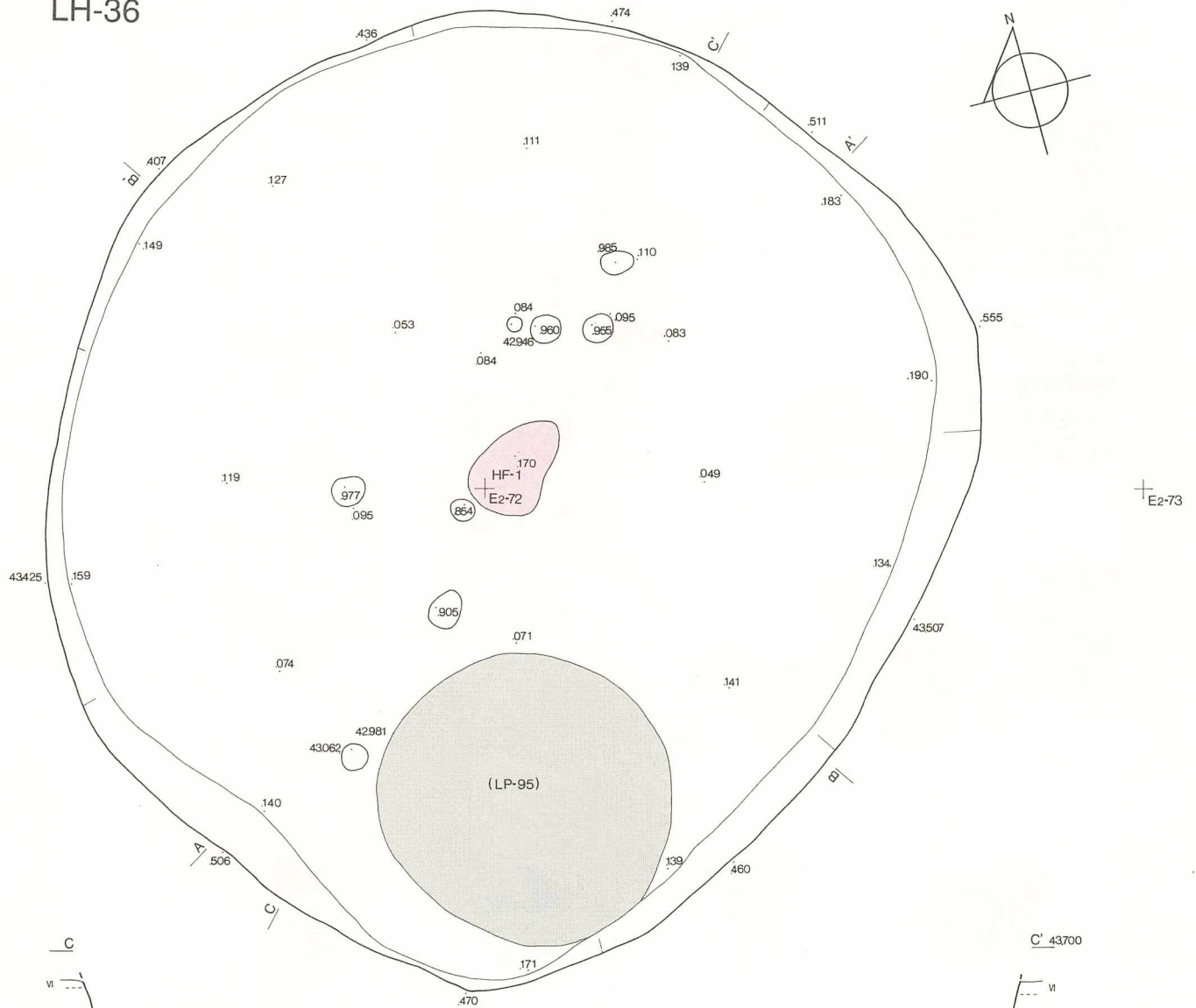
長軸方向 : N-15.5°-E

特徴 平面が不整円形の住居跡である。北側にLH-33、北東側にはLH-32が隣接しているが、新旧関係は不明である。遺構覆土の上部から掘込んだLP-95と風倒木によって床は大きく欠失した状態で検出されている。VI層上面で黒色土のプランを確認し、LH-32・33にかかるトレンチを設け調査を行った。覆土は腐植土主体のものとEn-aを主体とするものにと大きく分けられ、前者は中央部に厚く後者は壁の立ち上がり近くで最も厚く中央部で薄く堆積する。掘込み面はVI層に近いV層下位と考えられる。床面の中央付近に長径約50cmの焼土が見つかっており、これは炉跡と考えられる。その周囲の床面からは8本の柱穴状のピットが見つまっている。いずれもEn-aを主体とする覆土であることから確認が難しく他にも存在していた可能性は高い。なお、焼土の周囲の床を含めた各地点から炭化種子の抽出を目的とした土壌の採取を行い、フローテーション法による選別を試みたが大きな成果は得られなかった (VI章3節参照)。

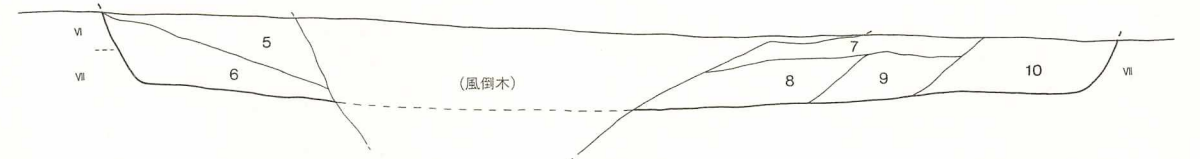
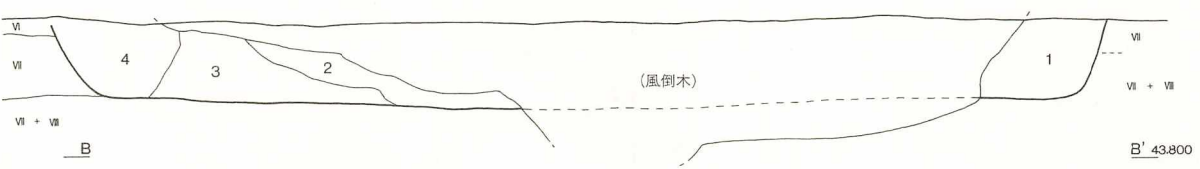
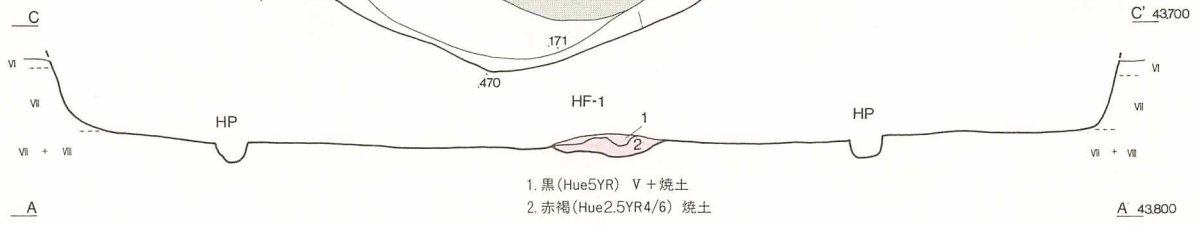
遺物 遺物は床面と覆土から早期後半のものを主体に土器、石器など多数見つまっている。床面の遺物はきわめて少ないが、その上位に堆積する覆土3層の中からも面をもった出土状況が認められ、この層中にも生活面があると考えられる。旧石器の遺物に関しては近くに遺物のスポットが位置しておりここからものと考えられる。土器はI群b-2類、IV群a類などが出土しているが、遺構に伴うのはI群b-2類である。石器はドリル、スクレイパー、石斧、たたき石、断面三角のすり石、砥石、台石などが出土している。

1~10はI群b-2類土器で、この内2・4は床面で出土している。1はLH-29・30・34、LP-89・91と複数の遺構から出土した深鉢形土器である。地紋に羽状縄文が施される。胴部には横冠する粘土紐が二本貼り付けられている。口唇部には爪状の工具による刻みが施され、粘土紐と特徴的に張り出した底部下端には縄による刻みや連続した押捺が巡らされている。2は絡条体圧痕文と貼付帯の施された波状口縁部である。口唇断面は先の尖るもので口唇部と貼付帯の上には軸に巻いた撚糸の押捺による刻みが見られる。3は棒状の工具による刻みを口唇部に施した深鉢形土器口縁部である。口唇の断面は丸く外側にやや張り出している。器面には撚りの異なる2本の縄で羽状縄文を施しており、一部施文方向を変えた部分も認められる。4はLH-43・LP-81でも出土している深鉢形土器の口縁部である。口唇の断面は先の丸い先細りの形で、器面には羽状縄文と貼付帯が施されている。5は口縁部に隆起線と羽状縄文が施された口縁部である。胴部には刺突列で区画された帯状の無文部が見られる。6は比較的太い縄を使った短縄文の施さ

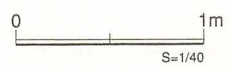
LH-36



E2-73

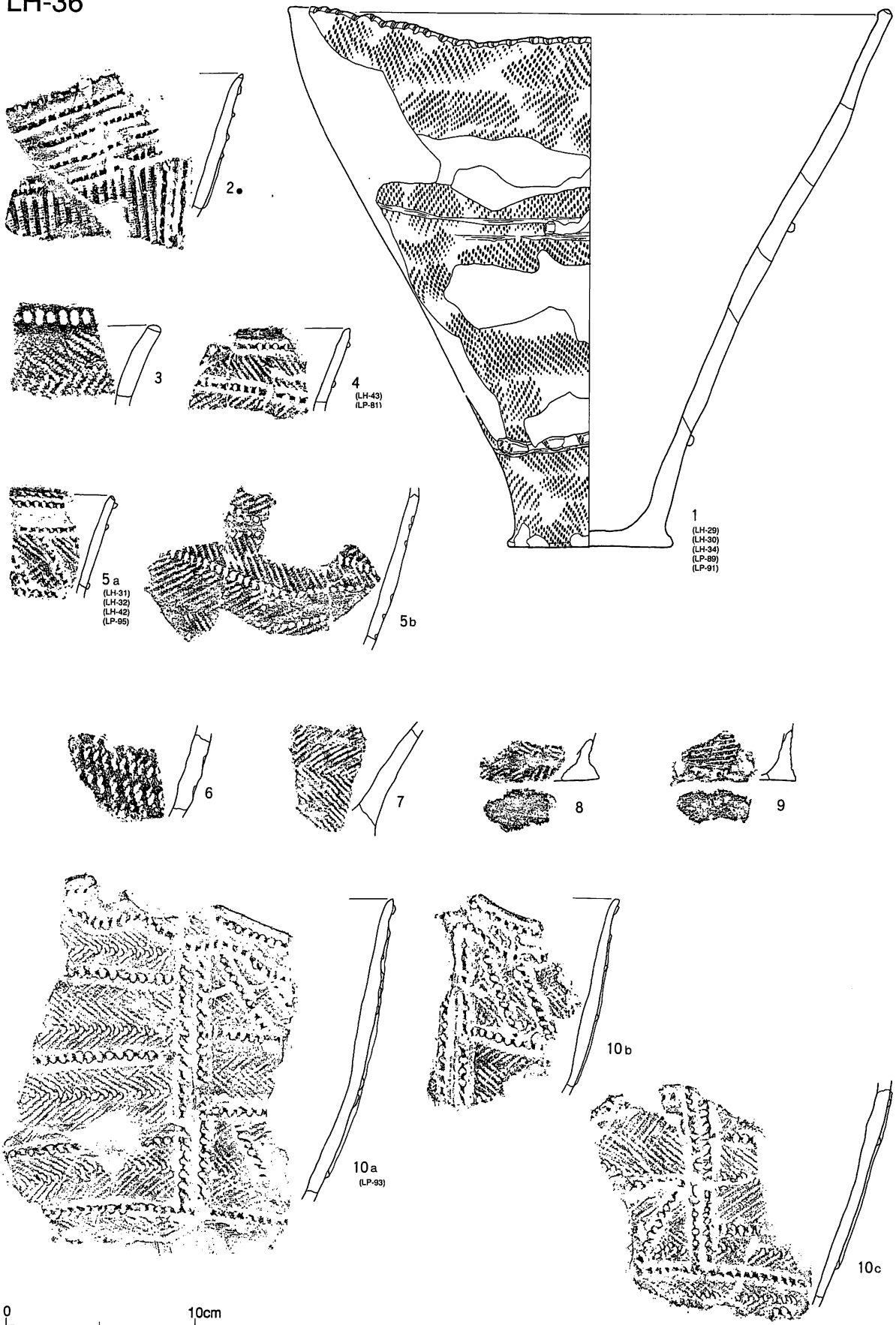


- LH-36土層説明
- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1. 黒褐 (Hue10YR2/3) V + VI | 6. 暗褐 (Hue10YR3/2) VI + VII > VII |
| 2. 黒褐 (Hue7.5YR3/1) V + VII | 7. 黒 (Hue7.5YR1.7/1) V >> VI |
| 3. 暗褐 (Hue10YR3/3) VI + VII > VII | 8. 黒褐 (Hue10YR2/3) V + VI |
| 4. 暗褐 (Hue10YR3/3) VI + VII | 9. 暗褐 (Hue10YR3/3) VI + VII |
| 5. 黒褐 (Hue10YR2/3) V + VI | 10. 暗褐 (Hue10YR3/3) VI + VII > VII |



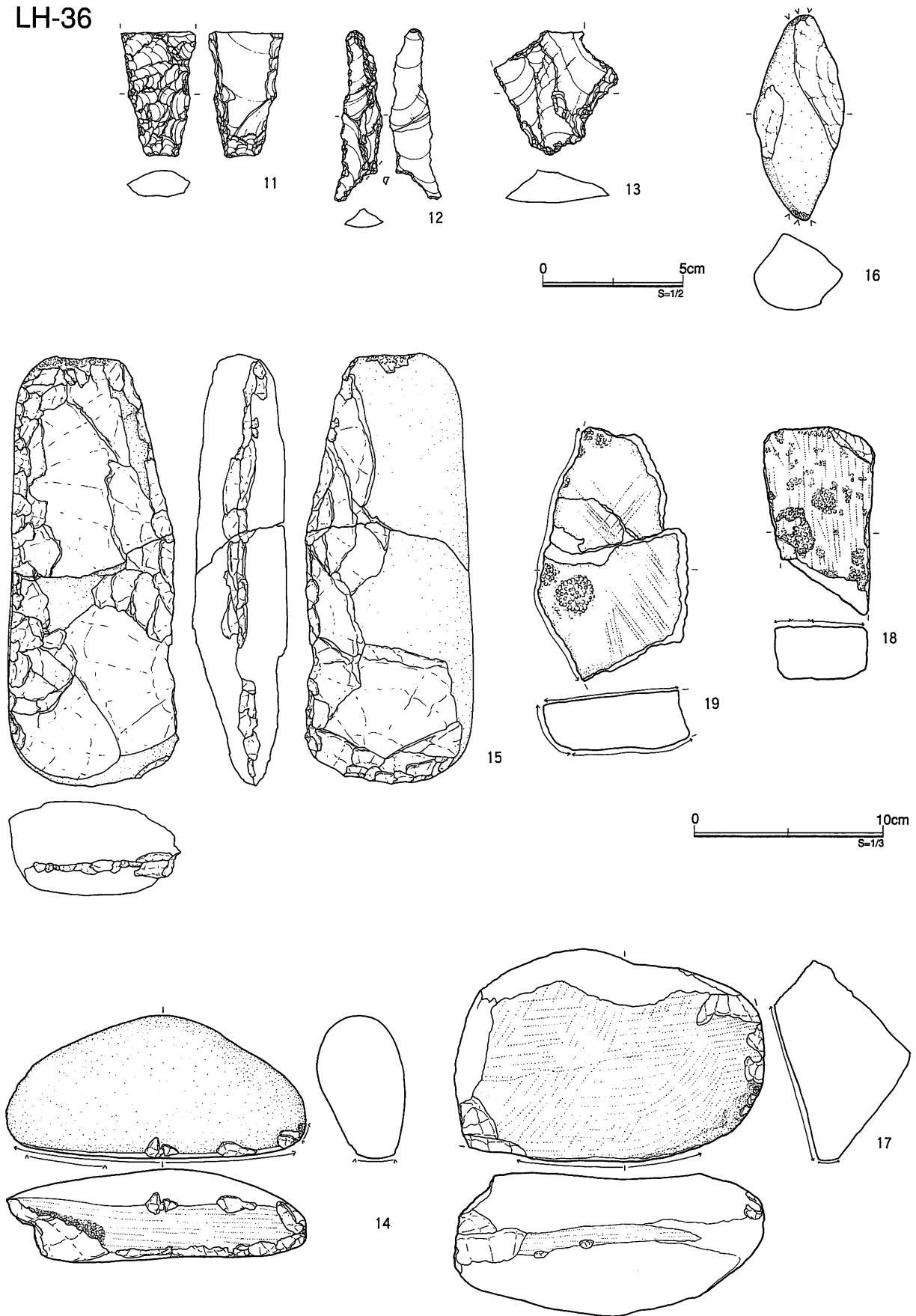
図IV-29 LH-36

LH-36

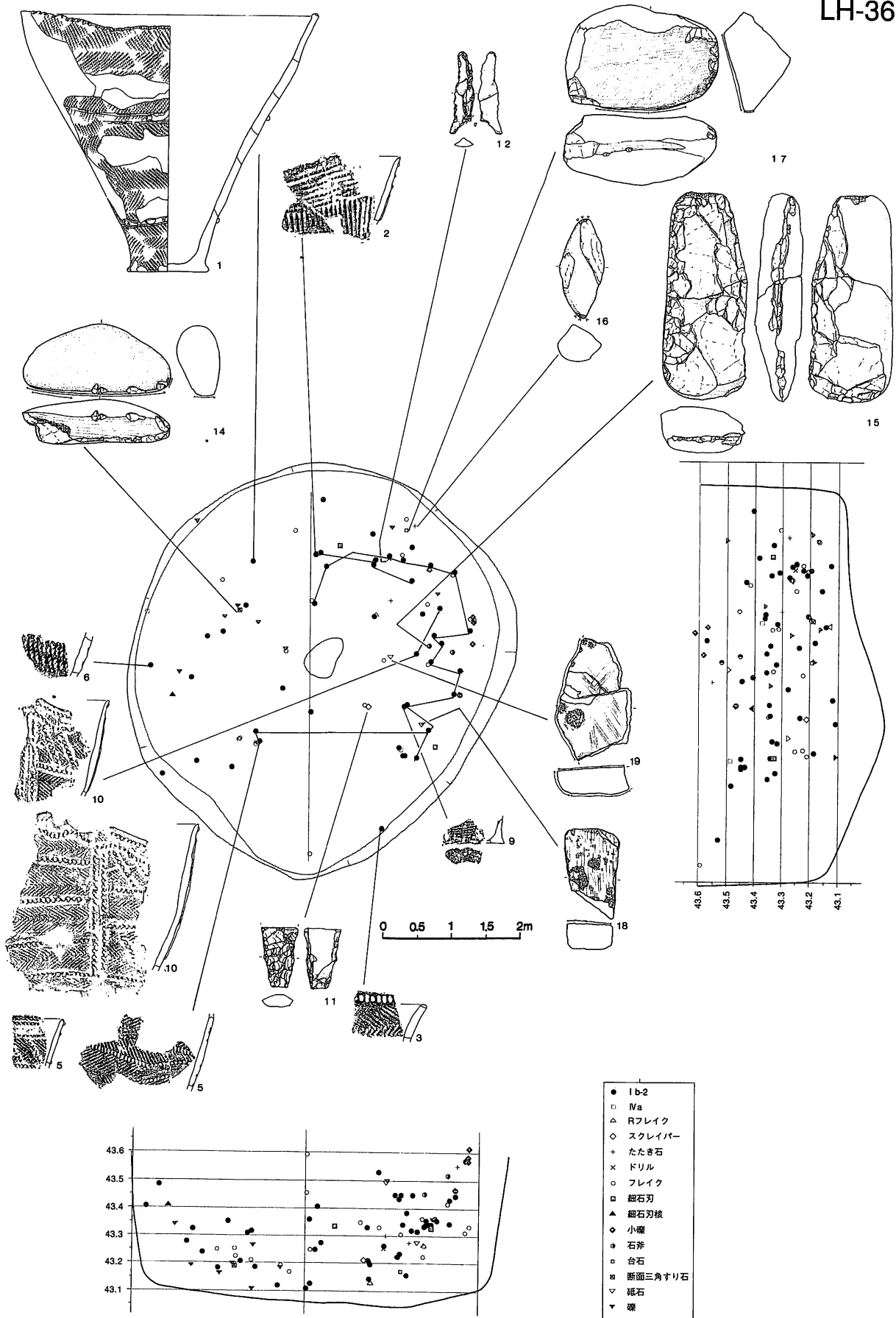


図IV-30 LH-36の遺物(1)

LH-36



図IV-31 LH-36の遺物(2)



図IV-32 LH-36の遺物出土状況

れる深鉢形土器胴部、7は細い原体を使った羽状縄文の施される底部近くの胴部である。8・9は比較的小型の深鉢形土器底部である。8は下端に粘土を盛って張り出させたもので0段多条の原体で羽状縄文が施されている。9は器面に極めて細い撚糸文か、魚の脊椎部を使用した魚骨回転文が施されている。10はLP-93でも出土した波状口縁を有する深鉢形土器である。口縁部の山は3~4と推定され、口唇の断面は尖っている。器面には結束の羽状縄文と縦横斜めに粘土紐を貼り付けた文様が施されている。原体は0段多条が使われており、貼付帯の断面形は三角でその上に施された刻みは縄によるものである。

11は刃部が欠失した頁岩製のポイントもしくはスクレイパーである。裏面に主剝離面が残っており作成中に破損した可能性もある。12は石刃核の調整剝片か打面再生剝片を使用して短い尖頭部を作出した頁岩製のドリルである。素材は近くに位置する旧石器のスポットから採取し加工は早期後半に行われたと考えられる。13は黒曜石製のスクレイパーである。全面が水和層で覆われており、旧石器に伴うものかもしれない。15は石斧未成品でLP-95近くの覆土上位から出土しているため、これに伴う可能性がある。16はたたき石、18・19は砥石である。14は床面に近い位置で出土した砂岩製の断面三角のすり石である。17は砂岩製の台石であるが、左右の端部をたたき石に側縁を断面三角形のすり石のように使っている。

時期 床面などの遺物から縄文時代早期後半コッタロ式期と考えられる。(皆川)

LH-37 (図IV-33~35/図版16・54・56)

位置：E2-73-b・c, F2-72-c・d, 73-a~d, 74-a・b, G2-72-d, 73-a・d, 74-a

規模：6.33×5.76/5.38×6.0/0.22m 長軸方向：N-7.5°-E

特徴 平面が不整形の大型住居跡である。この遺構の上位にはLH-31が作られており遺構上部は欠失している。また、床の下位にはLH-39が位置しており、これに所属する遺物や炭化物を覆土中に多数含有している。LH-37はその三重重複の中位に位置する。LH-31の床面を調査中に石囲い炉状の遺構を検出し調査を行った。上位のLH-31によって壁のほとんどは失われており、西側の壁立ち上がりなどは不明瞭であった。床面中央やや西よりの位置には、大型の礫を巡らした石囲い炉が検出されている。炉の北東側は礫が切れているがこれはLH-31によるものと考えられる。下位の遺構覆土が黒色土主体であったため、床面からは炉以外の遺構は検出されていない。

遺物 遺物は床と覆土から土器、石器、土製品、炭化物などが出土しているが、下位のLH-39の遺物がかなり混入しているようだ。土器はI群b-2類、III群b類、IV群a類、IV群b類などがあり、このうち後期前葉のものが本遺構に伴うものと考えられる。石器は石鏃、ポイント、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、すり石、台石などが出土している。スポールや石刃などの旧石器の遺物に関しては、近くのVI~VII層にスポットが位置しておりそこからの混入と考えられる。北側の壁際にはLS-1のものと考えられる小礫が多数見つかり、これは本遺構によってLS-1が切られている可能性を示す。

1はI群b-2類、2~4はIII群b類でいずれも下位の遺構からの混入と考えられる。1は底部下端の張り出しが顕著な深鉢形土器底部である。0段多条の原体による結束の羽状縄文を地紋に、底間際の器面に短縄文を密に施している。2・3は斜行縄文、4は無文の深鉢形土器胴部で、2・4は下位のLH-39で出土したものと接合している。

5は石鏃、6はポイント、8はUフレイクで黒曜石製である。7は頁岩製のつまみ付ナイフ、

LH-37

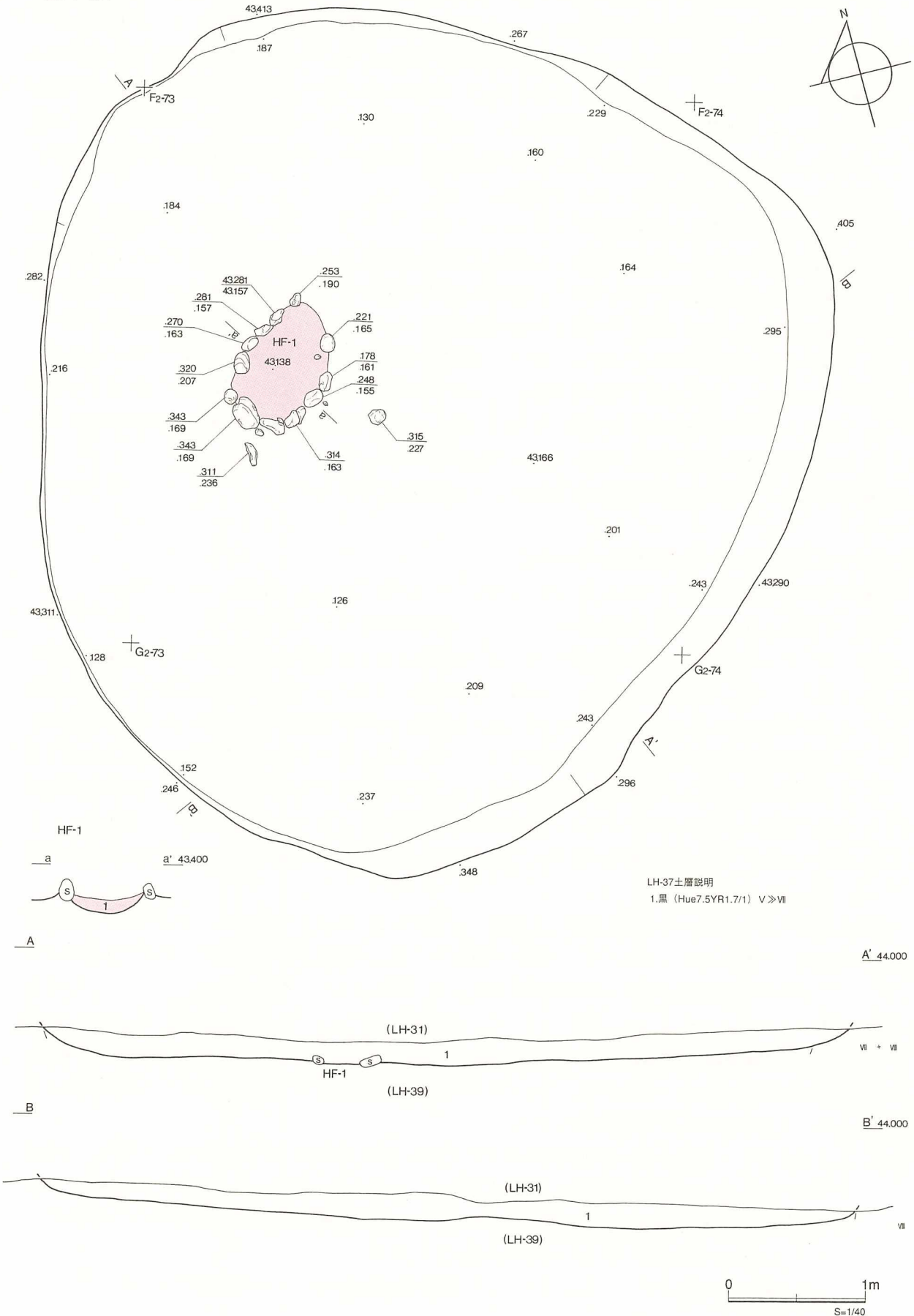
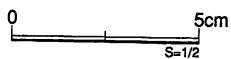
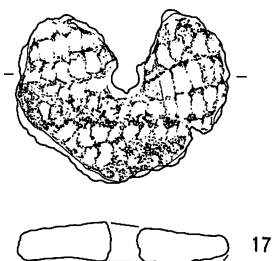
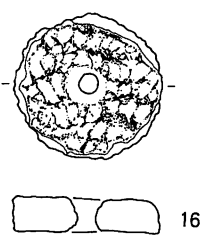
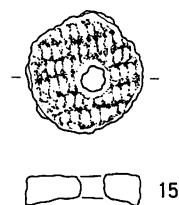
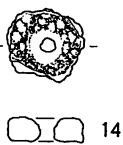
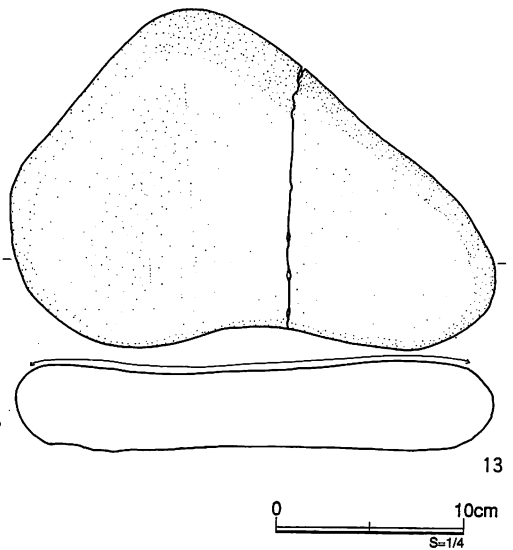
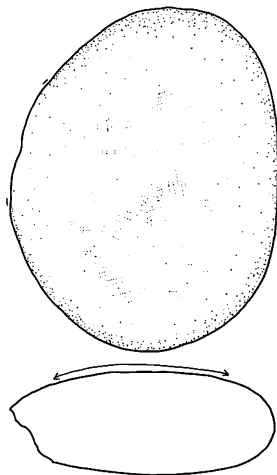
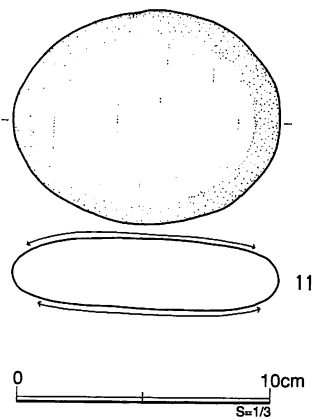
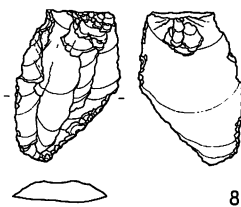
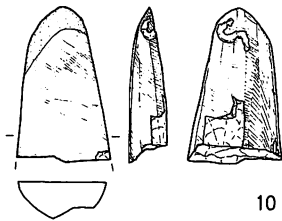
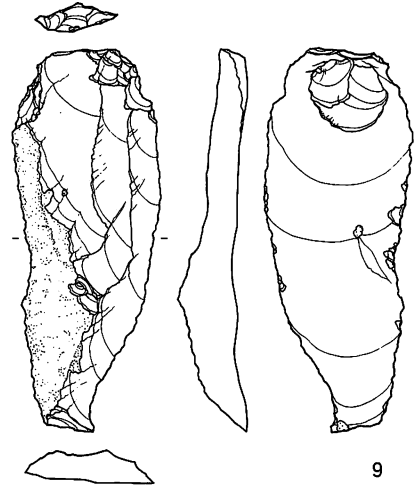
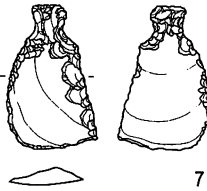
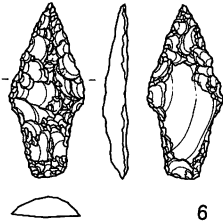
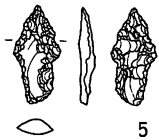
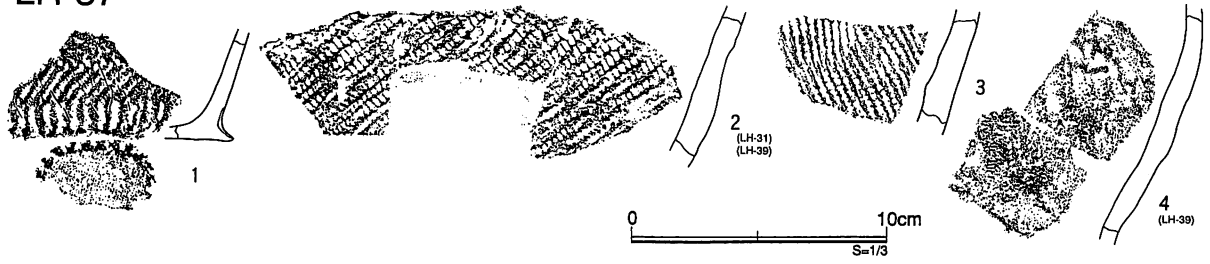


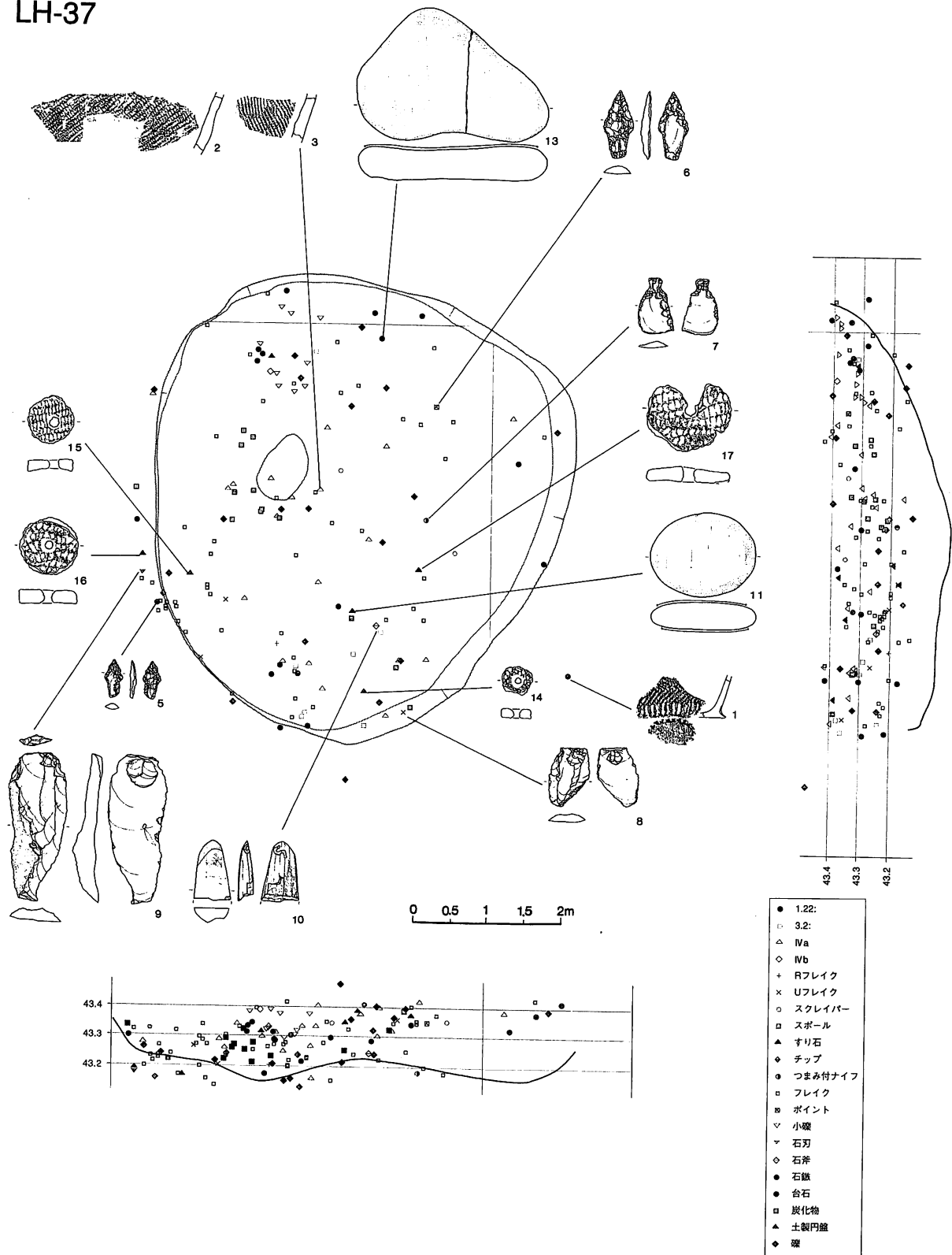
圖 IV-33 LH-37

LH-37



図IV-34 LH-37の遺物

LH-37



図Ⅳ-35 LH-37の遺物出土状況

9は頁岩製の縦長薄片で右側縁には使用による微細な痕跡が見られる。10は緑色泥岩製の石斧の基部である。表面は平坦で背面は断面が半円状を呈している。10・12は扁平な円礫の平坦部をすり石として用いたもので、11は使い込みによる平滑化が顕著である。12は石囲い炉(HF-1)を構成していた礫の一つである。13は二つに別れて出土した台石である。一部には熱による赤化が見られる。

14~17はIII群b類の土器片を再生した土製円盤である。大きさにかかなりの差異が見られる。

時期 遺物と炉跡から縄文時代後期前葉余市式期と考えられる。

(皆川)

LH-38 (図IV-36~38/図版17・57)

位置：A2-79-c, 80-b・c, B2-79-c・d, 80-a~d

規模：5.82×4.51/4.09×4.44/0.35m 長軸方向：N-12.5°-E

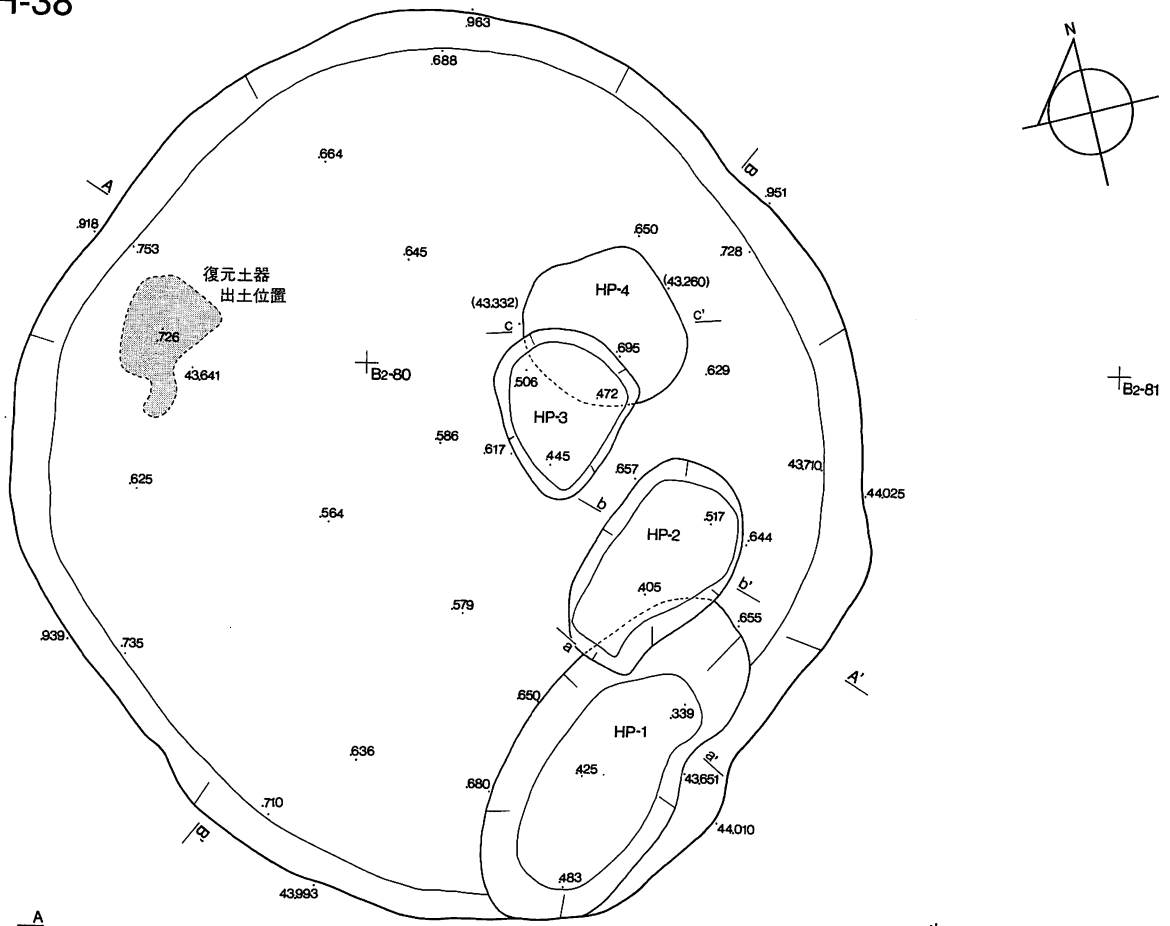
特徴 平面が不整形の住居跡である。北東側にはLH-28が隣接しているが、新旧関係は不明である。V層上面で窪みとその周囲に広がる掘上げ土と思われるEn-aとにより確認を行い、LH-28にもかかるトレンチを設け調査を行った。覆土は腐植土を主体とするものとEn-aを主体とするものと大きく分けられ、前者は中央部に厚く後者は壁の立ち上がり近くで最も厚く中央部で薄く堆積する。掘込み面はVI層に近いV層下位と考えられる。

床面からは3ヶ所の浅い土壌と大型の柱穴状ピットなどの付属遺構が見つかった。炉跡は検出されていないが、北西の壁際に近い床面からは潰れたI群b-2類土器1個体が出土しており、その周囲からは不明瞭ながら弱く焼けたような痕跡が観察されている。床面はVI~VII層が弱く攪乱した土層で柱穴の確認は困難であったが、他にも存在していた可能性は高い。大型のHP-4は腐植土のほとんど入らない覆土やその規模、用途などの面から考えて、この遺構に伴うものとするにはやや否定的な要素がある。また一部に自然の力によるものとの見解もあるが、同種の大型ピットが周囲の同時期住居跡の床もしくは壁際などで検出される確率がかなり高いことから、ここで報告することとした。なお、焼土の周囲の床を含めた各地点から炭化種子の抽出を目的とした土壌の採取を行いフローテーション法による選別を試みたが大きな成果は得られなかった(VI章3節参照)。

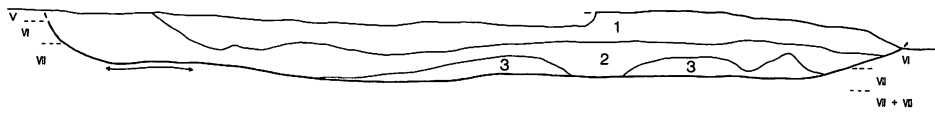
遺物 遺物は床と覆土から土器、石器類、炭化物などが出土しているが、前述した床面出土のもの以外に覆土も含めて量的には乏しく、土器はI群b-2類、石器はスクレイパーなどが出土しているに止まる。また、床面から採取された炭化物について加速器使用の炭素年代測定を依頼した結果、B.P.6930±50の測定値が得られている。

1は復元されたI群b-2類の深鉢形土器である。口縁部は4ヶ所の山形突起を有するもので、外側に向かって開く口唇の断面は尖り気味の丸形を呈している。器壁は全体的に薄く作られており大きさの割に軽く仕上げられている。底部の下端部は張り出しがかなり控えめで底部は上げ底気味である。地紋は撚りの異なる2本の0段多条原体を使った羽状縄文で、その上に横位の意匠による断続的な粘土紐の貼り付けを行い、羽状縄文と貼付帯とで鋸歯状の文様構成を作り出している。2は外側に向かって大きく開いた口唇の断面角形の深鉢形土器口縁部である。口唇部は施された縄の刻みによって外側へ肥大している。器面には羽状縄文が施された後で粘土紐が貼り付けられている。貼付帯の上には更に縄文が転がされている。3は地紋に0段多条の原体で斜行縄文と短縄文が施される深鉢形土器の胴部である。各文様域の境にはそれらを区画するように縦横の粘土紐の貼り付けがなされている。器壁は比較的厚く2ヶ所に補修孔が穿たれている。

LH-38



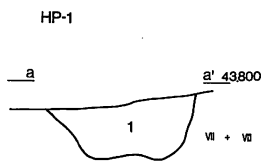
A A' 44.300



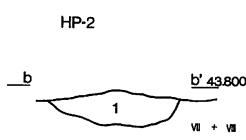
B B' 44.300



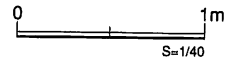
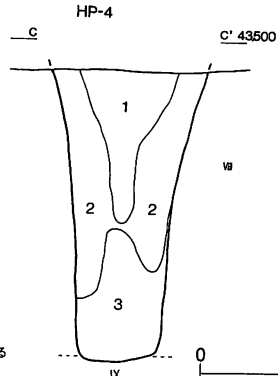
- LH-38土層説明
- 1.黒 (Hue7.5YR1.7/1) V層腐植土
 - 2.黒褐色 (Hue7.5YR2/2) V >> VI >> VII
 - 3.暗褐色 (Hue10YR3/4) V+VI+VII



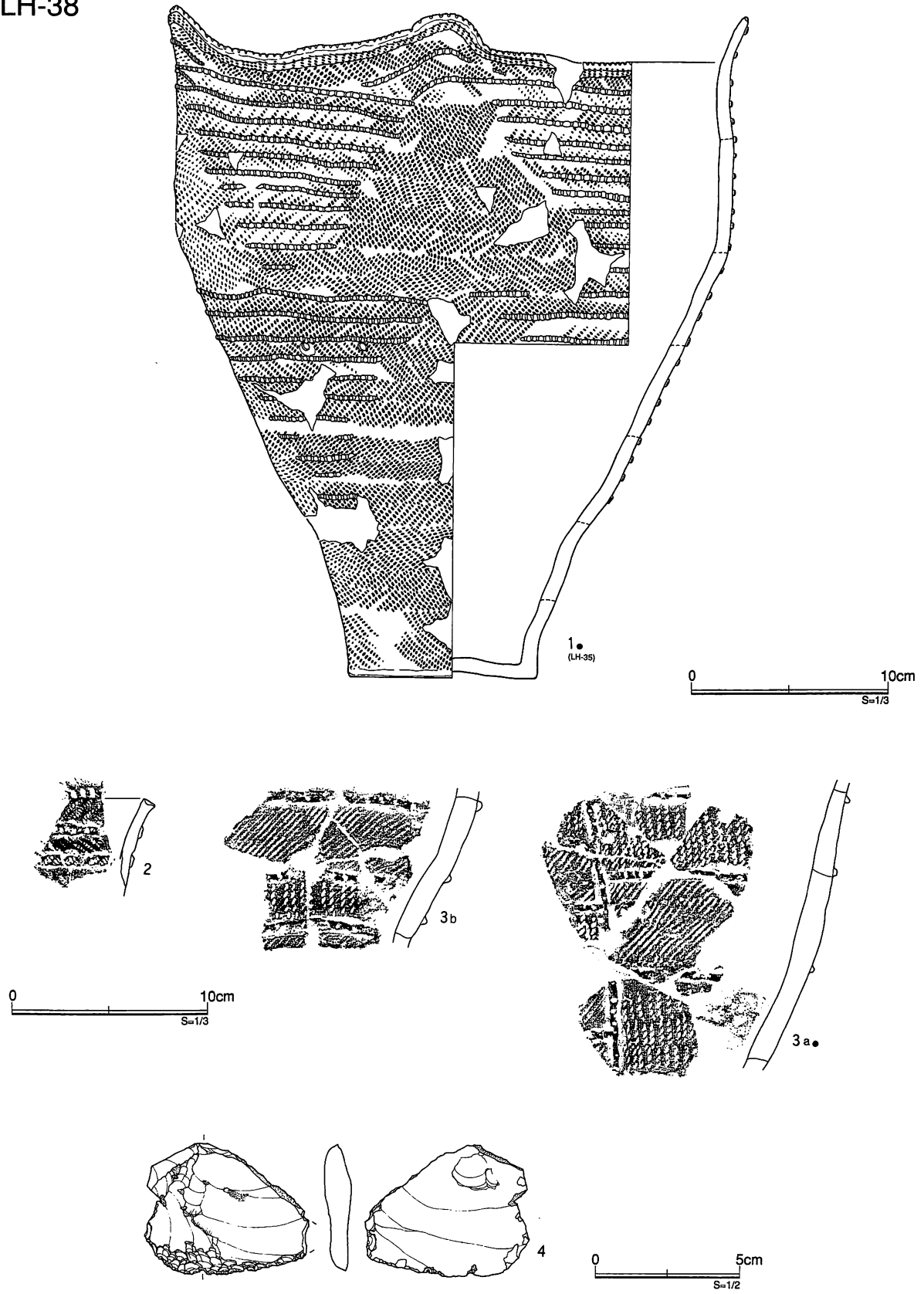
HP-1・2
1.暗褐色 (Hue10YR3/4) V+VI+VII > VII



HP-4
1.褐色 (Hue10YR4/6) VII >> VIII
2.にぶい黄褐色 (Hue10YR5/4) VII > VII
3.黄褐色 (Hue10YR5/6) VII弱く赤化している

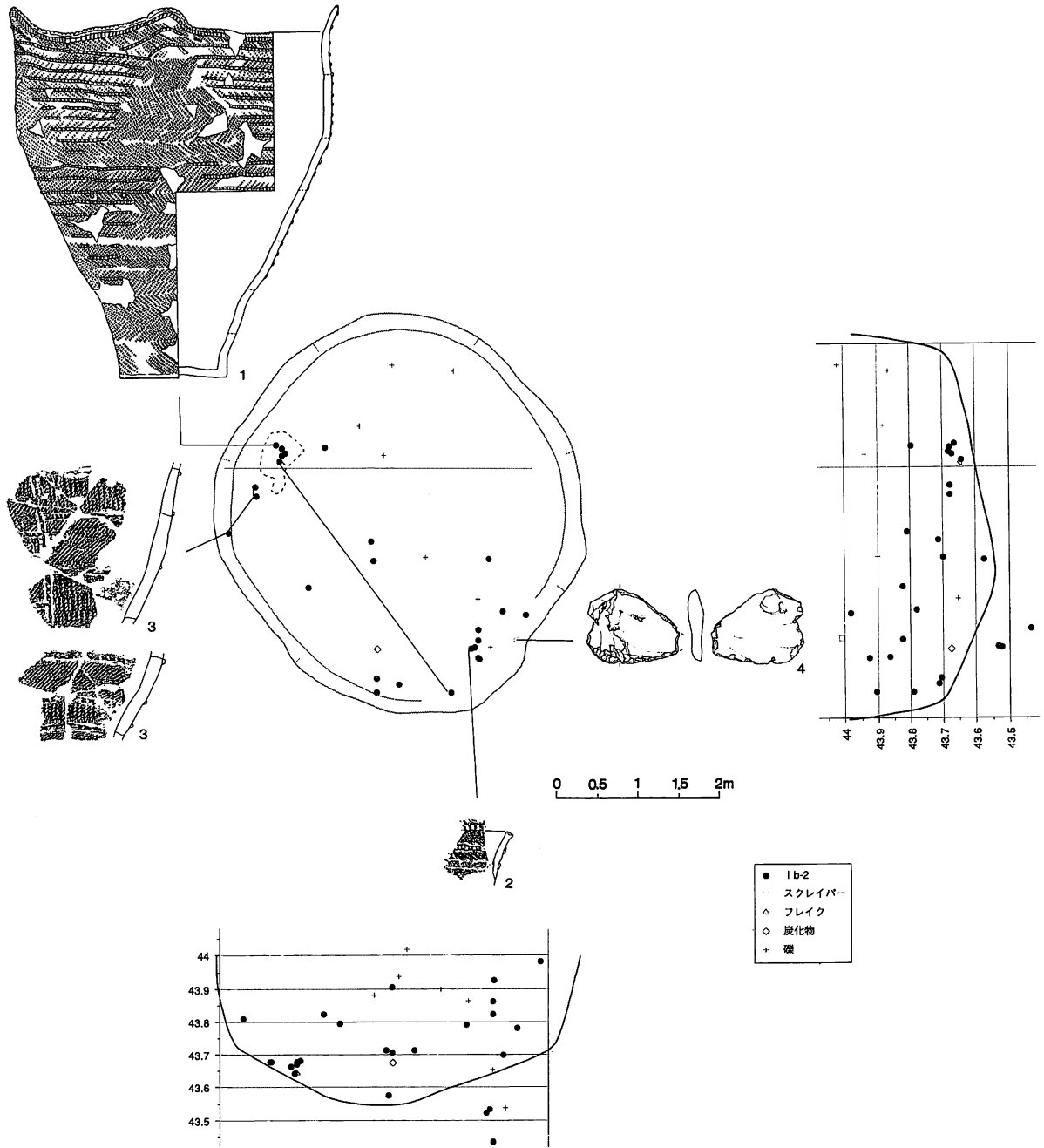


LH-38



図IV-37 LH-38の遺物

LH-38



図IV-38 LH-38の遺物出土状況

4は黒曜石製のスクレイパーである。

時期 床面の遺物から縄文時代早期後半コッタロ式期と考えられる。

(皆川)

LH-39 (図IV-39~42/図版18・19・58・59)

位置：E2-72-c, 73-b・c, F2-72-c・d, 73-a~d, G2-72-d, 73-a・d

規模：6.45×4.73/4.26×5.89/0.33m 長軸方向：N-10°-E

特徴 床や覆土の下位からは大量の炭化物や量的には少ないが焼土粒が広い範囲で見つかることから焼失家屋と判断し調査を行った。重複するLH-31・37のなかで最も下位に位置する住居跡で、上位の遺構により壁の上部は欠失している。

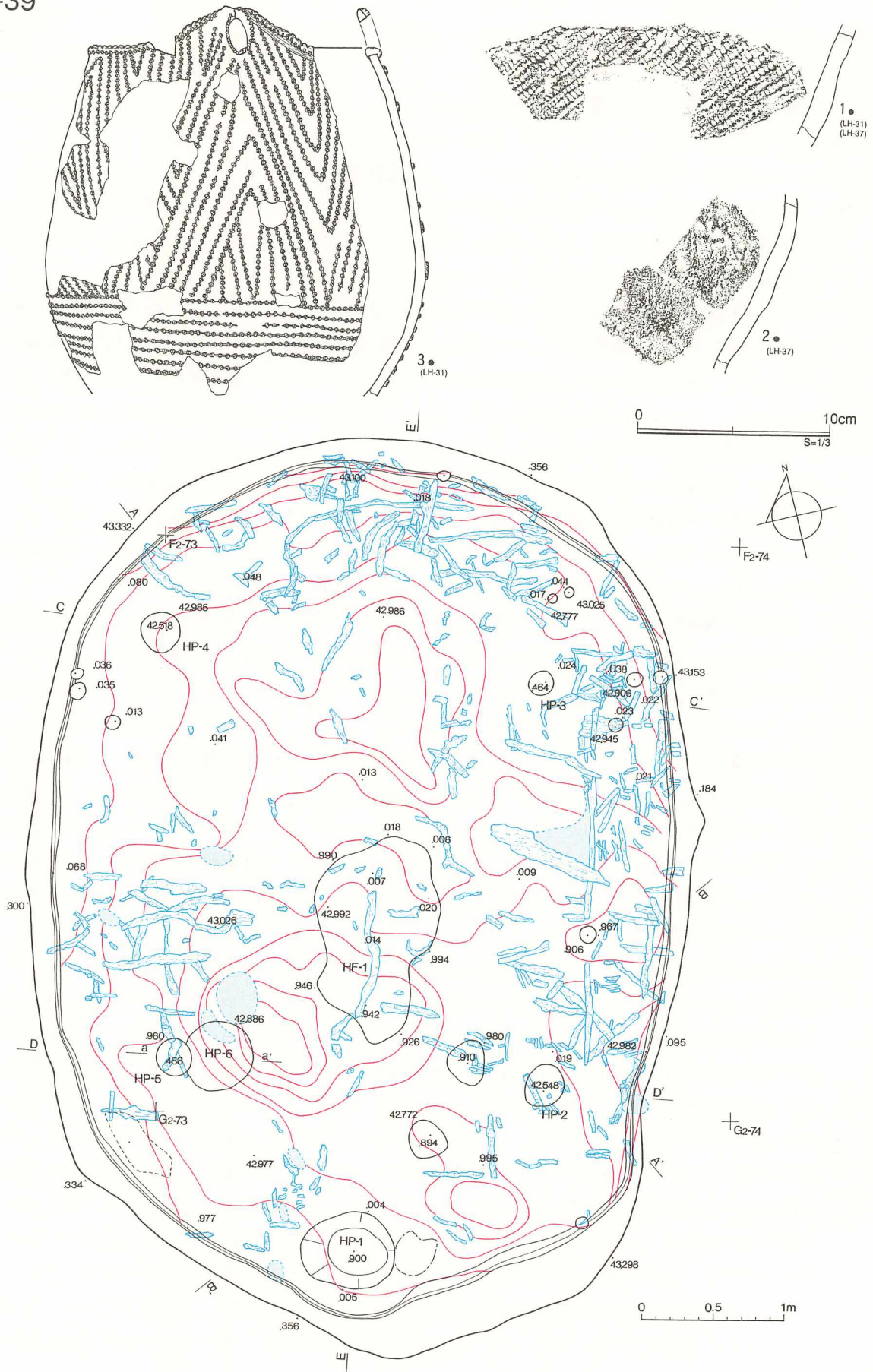
竪穴の平面形は南側が尖り気味にやや張り出す長楕円で、急激に立ち上がる壁の際には細く浅い周溝が巡っている。Ⅷ層に作られた平坦な床面中央部には長径が140cm程の楕円形の炉跡が検出されており、南側に張り出した壁際床面には小形で浅い円形の土壇(HP-1)が位置している。柱穴状のピットは全部で18箇所見つかっており、炉跡の四方に配置された径15~25cm程のものは主柱穴と考えられる。壁際や周溝には径10cm以下の小ピットが位置する傾向が見られ、更に多くの小ピットが存在した可能性がある。HP-6はLH-30・32のものと類似する大型のピットである。早期の住居跡以外の遺構から唯一見つかったものでほぼ同様の特徴を有しているが、重複するすべての遺構に早期の土器や礫石器などの遺物が多数含まれていることから、本遺構がさらに古い遺構を壊して作られおりHP-6はその古い遺構に伴う可能性がある。

炭化材の出土状況はほぼすべての範囲で確認されたが、上屋の構造が伺えるのは比較的竪穴の壁に近い範囲に限られ、この部分からは格子状に組み上げた枝様の炭化材が出土している。部分的には板材もしくは割り材と思われるものなども認められたが、4本の主柱穴には柱材に相当するものが見当たらず、柱穴内にも痕跡も見られない。このことは柱材が何らかの理由で焼失する以前に移動したことを表すと考えられる。また、炭化材の残存率が壁近くで高く、離れると低くなるのは、上屋に盛り土がなされる構造との関連が考えられる。つまり柱材をなくした家屋が倒壊し土中で構造材が炭化した可能性があるのではないだろうか。覆土に混入する焼土の量が極僅かであることもそれを示すものかもしれない。床面には土器や礫石器、多数のフレイクなどが多数見つかるなど比較的生活の痕跡が強く、この「焼失」が宗教的な儀式も含め意図的か事故かを判断する材料は得られなかった。

遺物 遺物は床面と覆土中から土器、石器、土製品、炭化クルミ、炭化材などが出土しているが、上屋構造の一部に収納されていた可能性を含めて、床面と覆土どちらの遺物も本遺構に伴うと考えて良いだろう。土器はI群b-2類、III群b類のものが出土しているが、HP-1の周辺からはIII群b類の土器片が集中し、土製円盤もそれらを再生したものであることから、これらが本遺構に伴う遺物と考えられる。石器は石鏃、ポイント、ドリル、エンドスクレイパー、スクレイパー石斧、断面三角形のすり石、台石、矢柄研磨器など、土製品は土製円盤が出土している。各遺物は壁付近から出土する傾向が強く、平面図中のフレイク・チップ集中や土器片の集中、土製円盤と軽石製の矢柄研磨器も壁際から出土したものである。なお、炭化材の調査に伴って、炭化したクルミ片が床面近くから出土している。また、早期に特徴的な遺物、特に礫石器類が比較的多く出土しており、竪穴の掘り込み時に早期の遺構を破壊した可能性はかなり高いと考えられる。

1・2はIII群b類の深鉢形土器胴部の破片である。1が斜行縄文、2は無文である。3は5は異形の深鉢形土器で底部は欠失している。口径が胴部のそれよりもやや小さい特徴的な器形のも

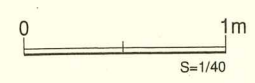
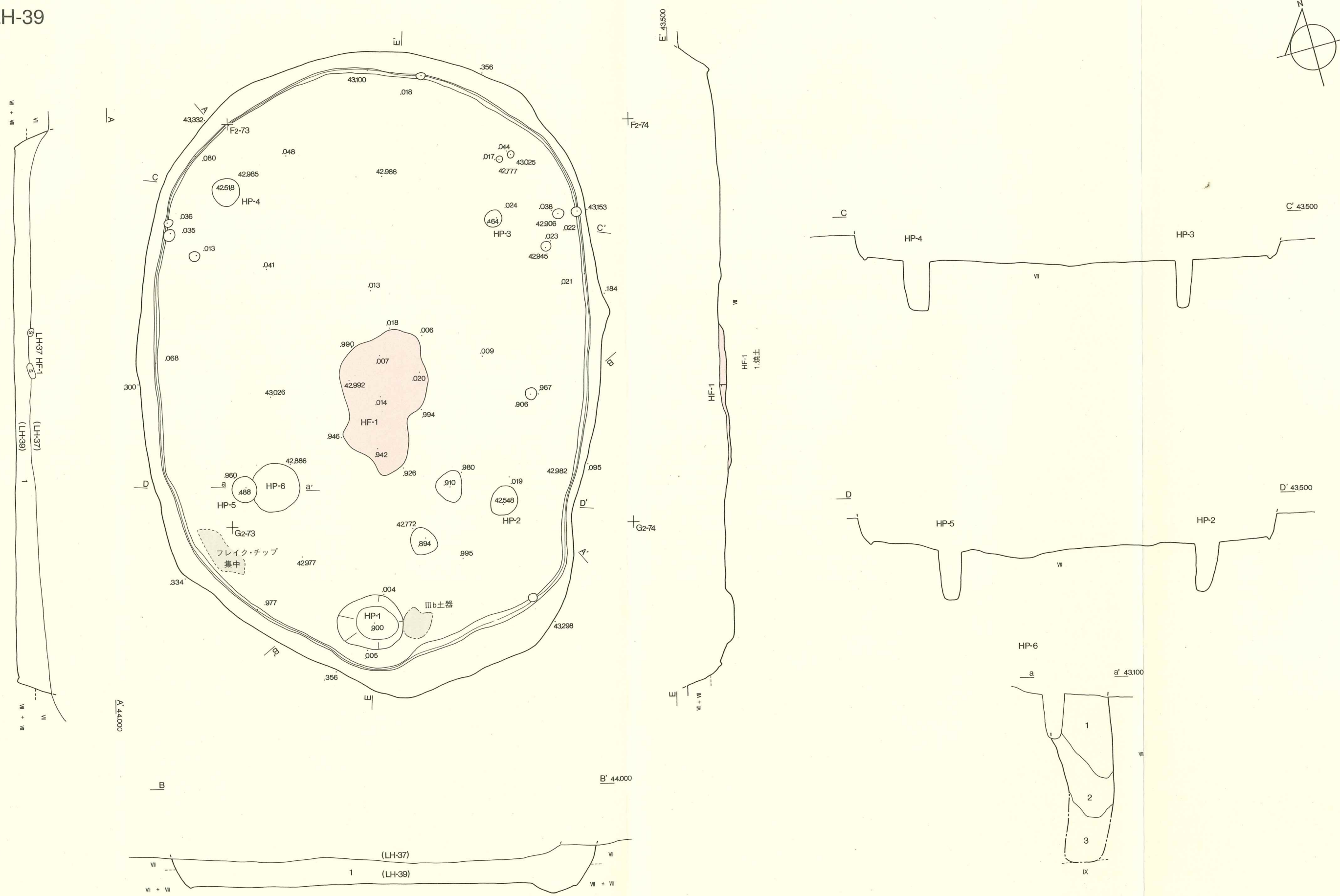
LH-39



図IV-39 LH-39の遺物(1)と炭化材出土状況

LH-39

IV Ta-c下位の遺構

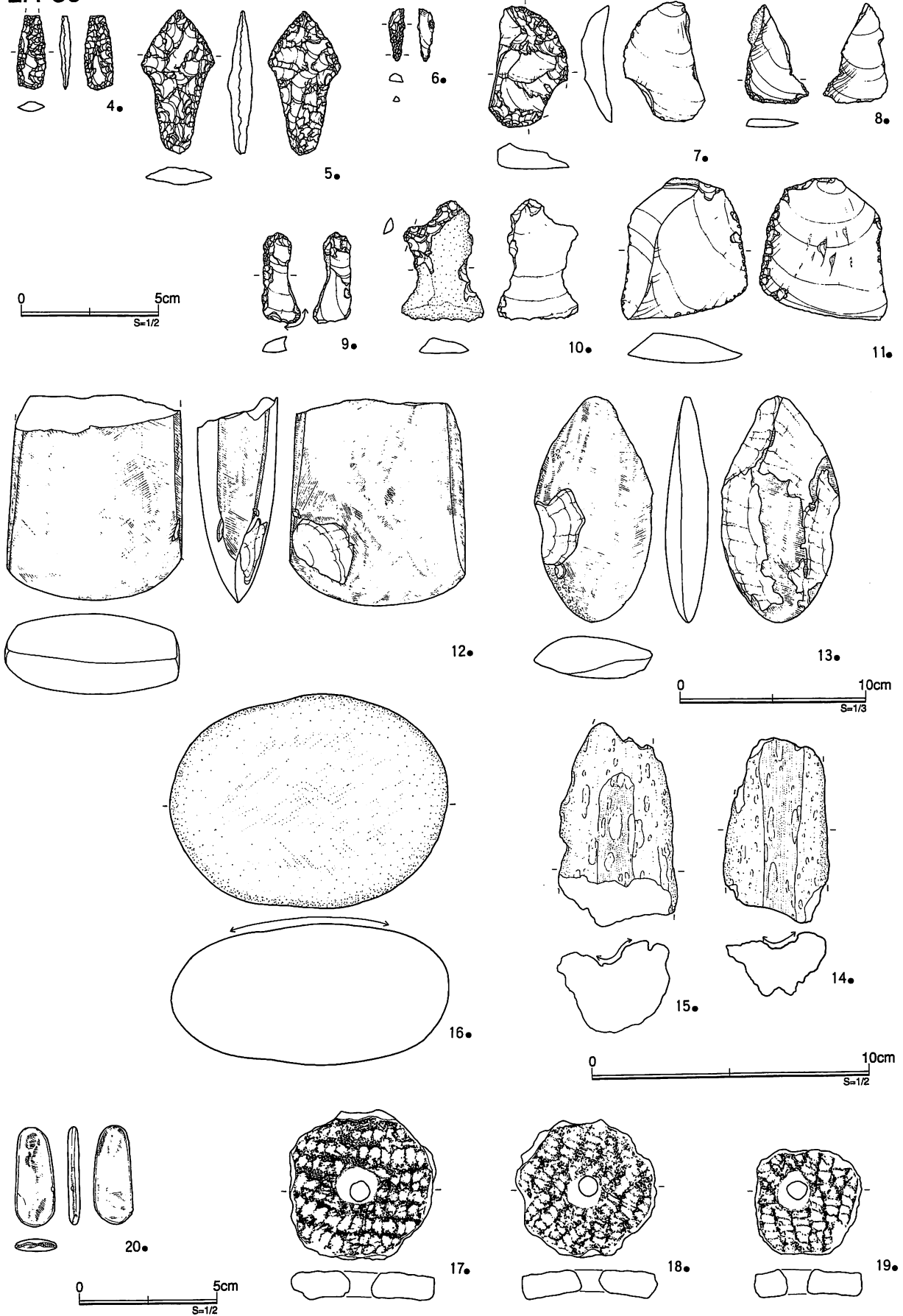


LH-39土層説明
1.黒褐 (Hue7.5YR3/2) V>VII>VIII焼失住居

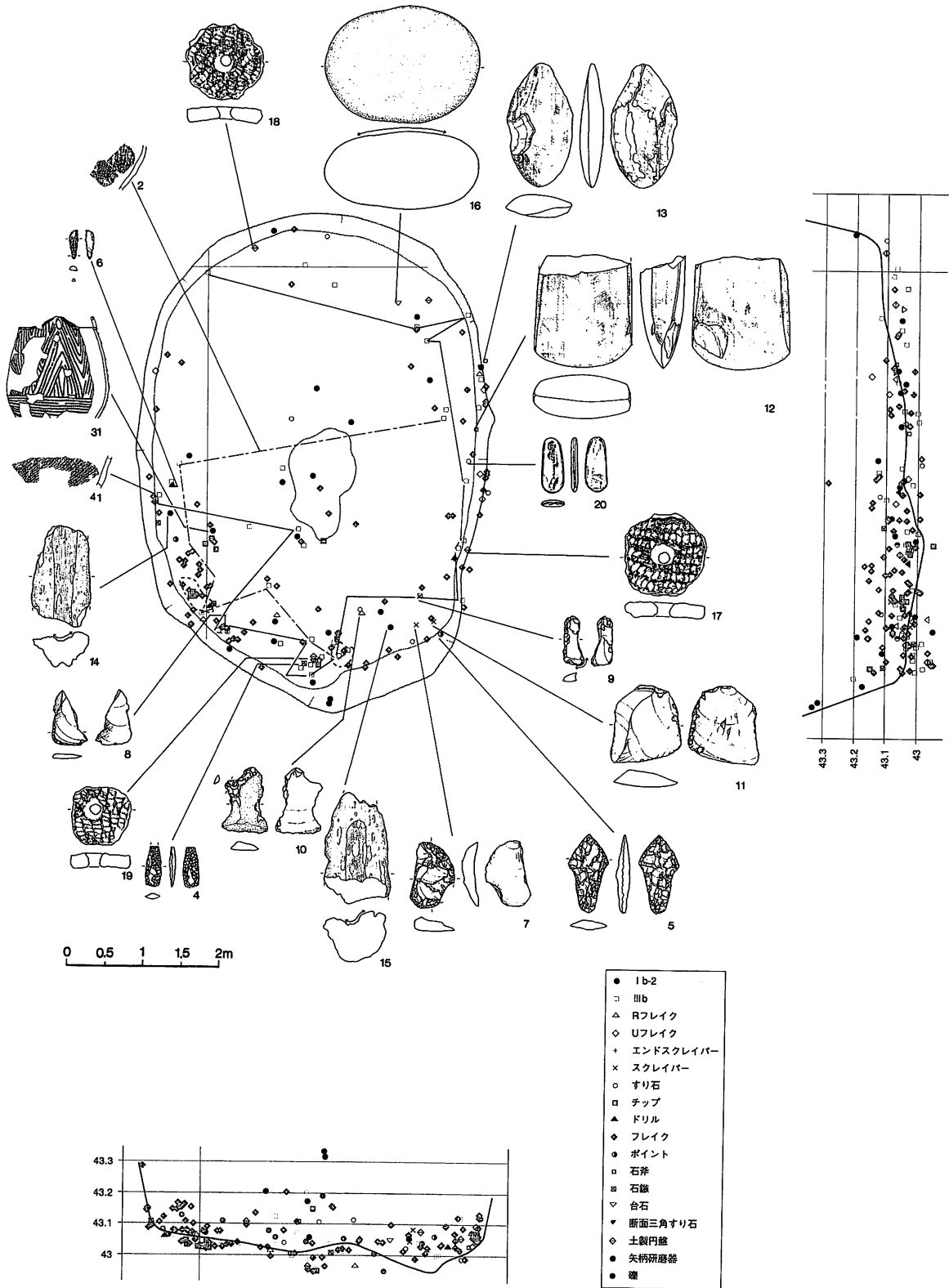
HP-6
1.褐 (Hue10YR4/1) VII>VIII
2.にぶい黄褐 (Hue10YR4/1) VII>VIII
3.黄褐 (Hue10YR5/6) VII破線の内側はやや赤化した粒の大きなバミスが入っている

図IV-40 LH-39

LH-39



図IV-41 LH-39の遺物(2)



図IV-42 LH-39遺物出土状況

ので口縁の形が対になる山形の突起が備わっていると推定され、突起部の器面には装飾性の高い透かし彫り状の穴が設けられている。口唇断面は尖り気味のもので、器壁は極めて薄く作られているが焼成が良好で脆弱な感じはしない。器面には粘土紐を貼り付けたうえから縄の刻みを多数施した隆起線を主体とする施文がなされており、胴上半部には鋸歯状に、下半部には密に横環する構成で飾られている。

4は柳葉形の石鏃、5はポイント、6は小型のドリル、7～11はスクレイパーである。10の突起部はドリルとして使われたと考えられる。4～11はいずれも黒曜石製である。12は基部の欠失した石斧刃部である。13は石斧から剥落した大型の剝片に再度加工を加えたものである。14・15は支笏火砕流の噴出物に含まれる大型の軽石を使用した矢柄研磨器である。20は小さな扁平礫に研磨を加えた石製品である。17～19は床面から出土したIII群b類と同一個体の土器片で作った土製円盤である。

時期 遺構の形態と遺物から縄文時代中期末葉柏木川器式期と考えられる。

(皆川)

LH-40 (図IV-43, 表I-7・V-4, 図版20-1~5)

位置 : C2-69-a~d

規模 : 3.28/2.98×(2.66/2.50)×0.26

調査 調査区西側のV層調査中に黒色土の落ち込みを確認した。土層観察用のベルトを残して調査を進め、炉、床、壁を確認し竪穴住居跡と認定した。全体のプランは西側が調査区域外にかかるため、不明であるが、長円形になると思われる。V層中から掘り込まれVII層上位に床面が作られている。床面は西側にやや傾斜している。壁は緩やかに立ち上り、皿状である。東側の壁面は抜根による攪乱を受けており明瞭ではない。炉は調査区域外の西壁に切られて確認され、この中から焼土と化したIV群a類土器(余市式土器)の破片が多数見ついている。この炉跡の周囲には一部に被熱痕のある礫が出土している。被熱している礫については、石組み炉の炉石として用いられた可能性がある。

柱穴は確認できなかった。

遺物 遺物はいずれも床面より出土した。1は床から出土したIV群a類の深鉢形土器口縁部である。肥厚帯を有しその下には棒状の工具で深い刺突が施されている。地紋は太縄を使った斜行縄文である。2はスクレイパー、3は砥石で、炉跡横のものと接合した。4は台石片で、C2-77(V層上面)出土のものと接合したが、両方ともに平坦部から割れ面にかけて被熱が認められる。

時期 縄文時代後期前葉余市式土器の時期のものと考えられる。

(笠原)

LH-41 (図IV-44, 表I-7・V-4, 図版21-1~3)

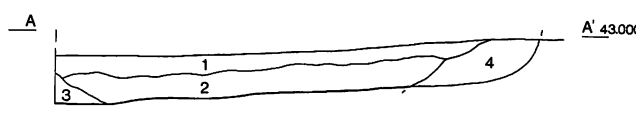
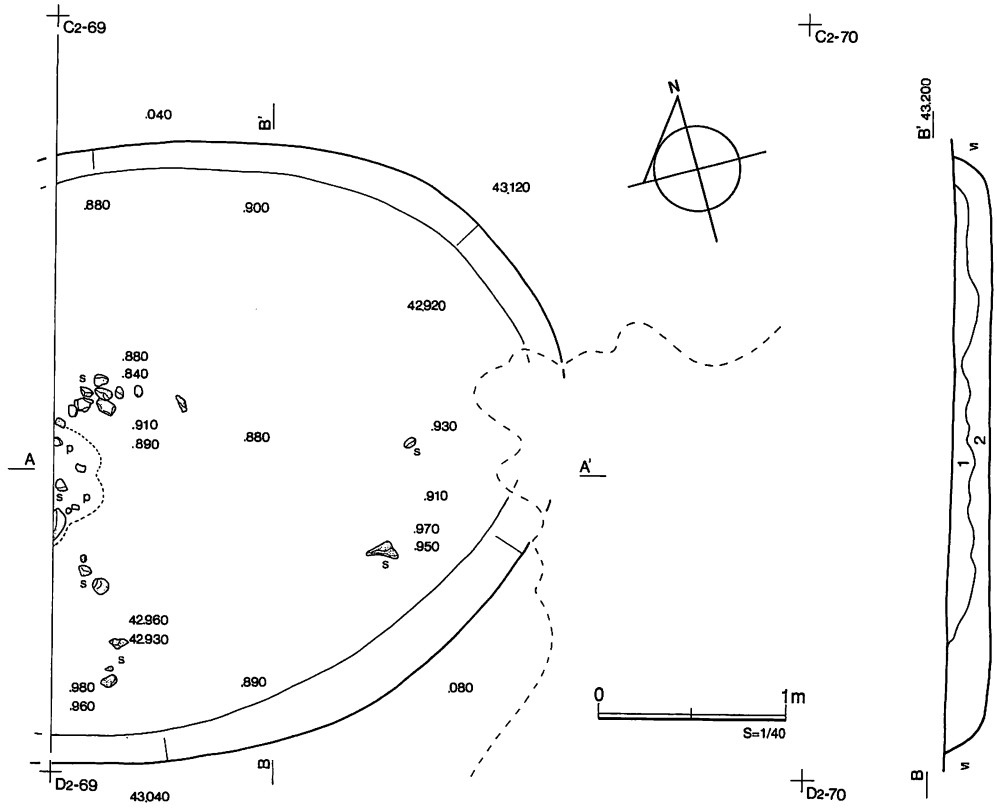
位置 : D2-69-a・c・d

規模 : (3.60/3.35)×(1.16/1.03)×0.25

調査 LH-40の南側で黒色土の落ち込みが認められ、竪穴を想定して調査を進めた。全体のプランは南西側が調査区域外にかかるため不明であるが、円形または長円形になると思われる。覆土の調査中にIV群a類土器(余市式土器)の土器片の集中と、被熱した礫が出土した。V層中から掘り込まれ、VII層上位に床面が作られている。床面はLH-40とほぼ同レベルで、多少凸凹がある。壁は緩やかに立ち上る。柱穴、焼土等は確認されなかった。

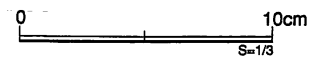
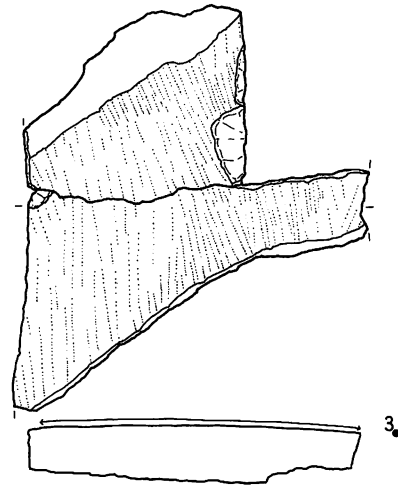
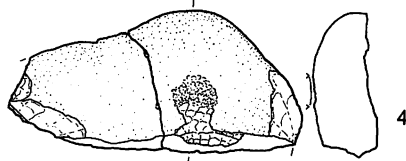
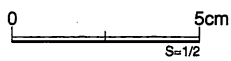
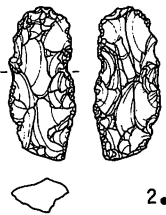
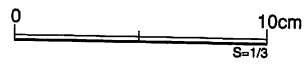
遺物 1は覆土から多数の破片で出土したIV群a類の深鉢形土器である。口縁部には肥厚帯を有しそ

LH-40



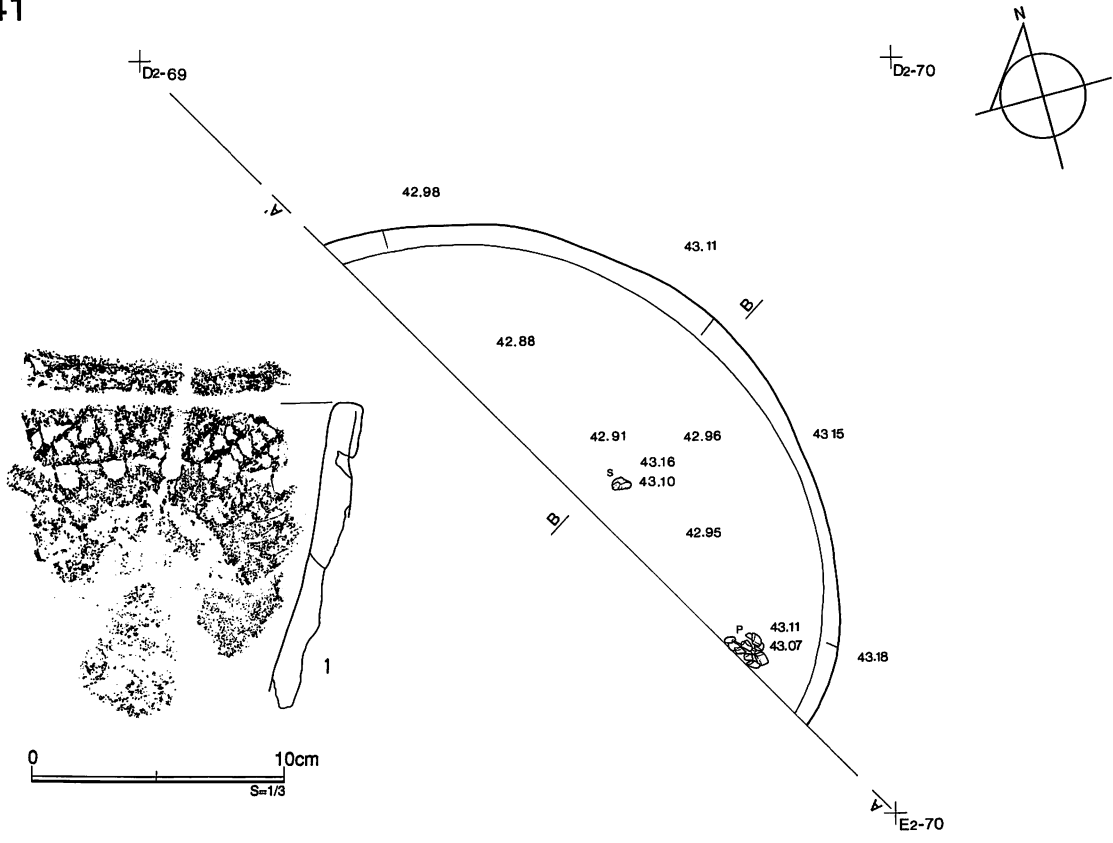
LH-40土層說明

1. 黑褐色土 (Hue7.5YR3/1) V > VI
2. 黑色土 (Hue7.5YR1.5/1)
3. 暗赤色壤土 (Hue7.5R3/6)
4. 黃褐色土 (木根攪亂)



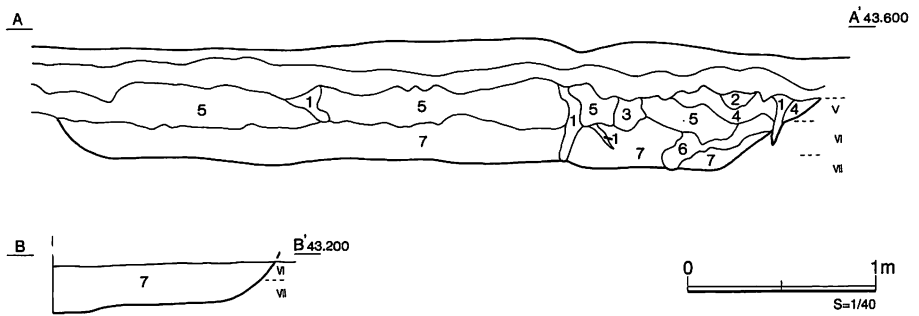
圖IV-43 LH-40

LH-41



LH-41土層説明

1. 黒色土 (Hue2.5Y2/1) 腐植土
2. 黒色土 (Hue7.5YR1.7/1) 腐植土
3. 黒褐色土 (Hue10YR2/2) IV > V
4. 黒色土 (Hue10YR2/1) V > IV
5. 黒褐色土 (Hue10YR3/1) V > VI
6. 暗褐色土 (Hue10YR3/3) V > VII
7. 黒色土 (Hue10YR2/1) 覆土, +VI > VII



図IV-44 LH-41

の下には棒状工具による刺突が巡らされている。

時期 縄文時代後期前葉余市式土器の時期のものと考えられる。

(笠原)

LH-42 (図IV-45~47/図版22・60・61)

位置：D2-76-b・c, E2-75-c・d, 76-a~d, 77-a・b, F2-75-d, 76-a・d, 77-a

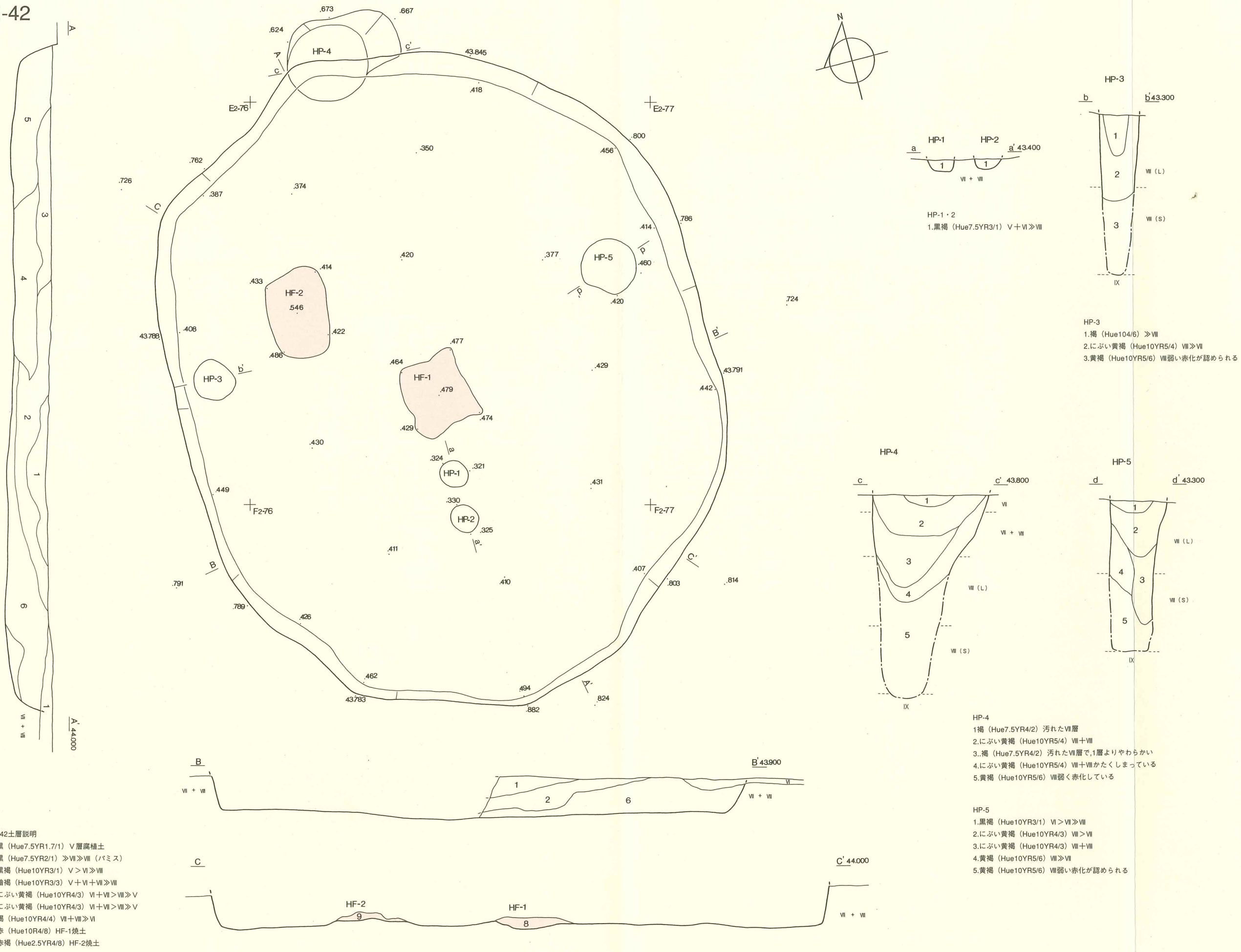
規模：6.59×5.35/5.10×6.28/0.45m 長軸方向：N-5°-E

特徴 平面が不整楕円形の住居跡である。北側にはLH-30、南西側にはLH-35が隣接しているが、これらの新旧関係は不明である。V層上面で窪みとその周囲に広がる掘上げ土と思われるEn-aにより確認を行い、トレンチを設け調査を行った。覆土は腐植土を主体とするものとEn-aを主体とするものと大きく分けられ、前者は中央部に厚く後者は壁の立ち上がり近くで最も厚く中央部で薄く堆積する。掘込み面はVI層に近いV層下位と考えられる。床面からは炉跡と考えられる2ヶ所の焼土(HF-1・2)と5ヶ所のピット(HP-1~5)が検出されている。HF-1は床面のほぼ中央部、HF-2はそれと北西側の壁との中間の床面に位置し、赤化の度合いやレベルなどはほぼ同じで、同時に使われていた可能性が高い。また、これらに近接してたたき石や礫が出土している。5ヶ所のピットのうち、HP-3~5は大型の柱穴状ピットである。いずれも壁際から出土しているがほかのものと同様にこれらを本遺構に伴うものとするには腐植土のほとんど入らない覆土やその規模、用途などの面から考えて、やや否定的な要素がある。また一部に自然の力によるものとの見解もあるが、同種の大型ピットが周囲の同時期住居跡の床もしくは壁際などで検出される確率が高いため、ここで報告することとした。床面はVI~VII層が弱く攪乱した土層で柱穴の確認は困難であったが他にも存在していた可能性は高い。なお、焼土の周囲の床を含めた各地点から炭化種子の抽出を目的とした土壌の採取を行いフローテーション法による選別を試みたが大きな成果は得られなかった(VI章3節参照)。

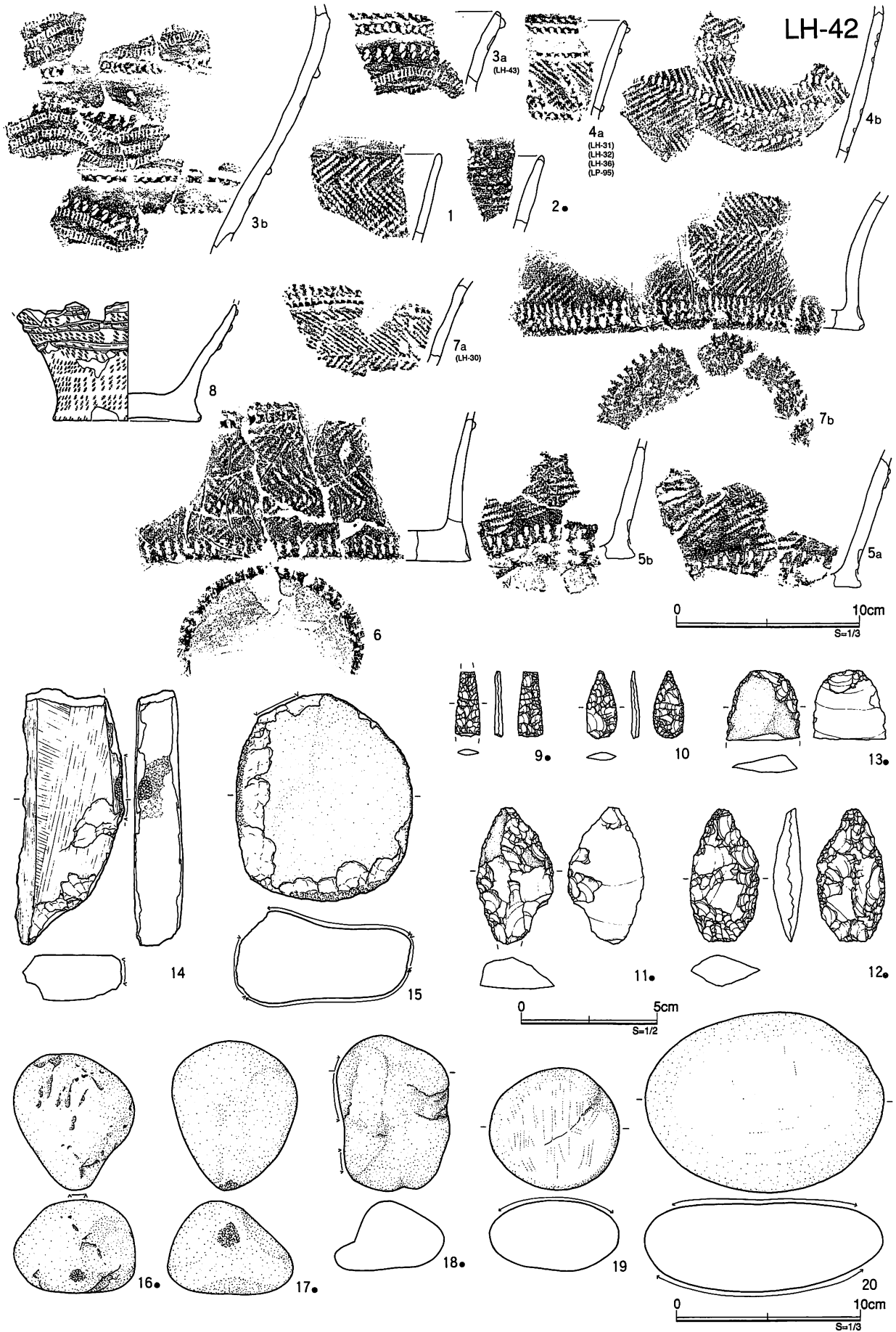
遺物 遺物は床面と覆土中から土器、石器、炭化物などが出土している。床面からはI群b-2類土器や石鏃、ポイント、スクレイパー、Rフレイク、たたき石などが出土しており石器類の占める割合が高い。特に炉跡と考えられるHF-1・2の縁に近接して握りやすい形状の円礫を使用したたたき石や礫などの出土が特徴的である。覆土は腐植土の混入が少ないEn-a主体の土層中から出土する遺物が多く、これらは南北の壁から中央に向かって緩やかに下っていく流れ込みの様相を呈している。土器はI群b-2類土器を主体にIV群a類が少量、石器は石鏃、ポイント、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石などが出土している。1~8はI群b-2類の深鉢形土器である。1は撚りの方向が異なる0段多条と二段単節の原体で羽状縄文が施された口縁部である。器壁は薄く、口唇の断面は丸形である。2は口唇部に縄と考えられる施文具で刻みが施された口縁部である。器面には不鮮明な縄文が施される。3はLH-43と跨がって出土した角軸に巻いた絡条体の圧痕文と単縄文が施された口縁~胴部である。断面が尖り気味の口唇部と粘土紐の貼り付けには短縄文と同じ0段多条の原体による刻みが施されている。4は口縁部に隆起線と羽状縄文が施された口縁部である。胴部には刺突列で区画された帯状の無文部が見られる。5は底部下端に張り出しが付く底部である。底部間際の屈曲部には短縄文が密に施されている。6~8は粘土紐の施された底部である。6は薄い器壁と厚い底を有した底部で、張り出しの弱い下端には0段多条の縄で刻みが巡らされている。地紋は0段多条の原体による羽状縄文、貼付帯の刻みは棒状の工具による。7はやや張り出した底部下端に短縄文と縄の刻みが巡らされたもので、地紋には羽状縄文と短縄文が施されている。8は下端が張り出し上げ底気味の底部である。底近くの器

LH-42

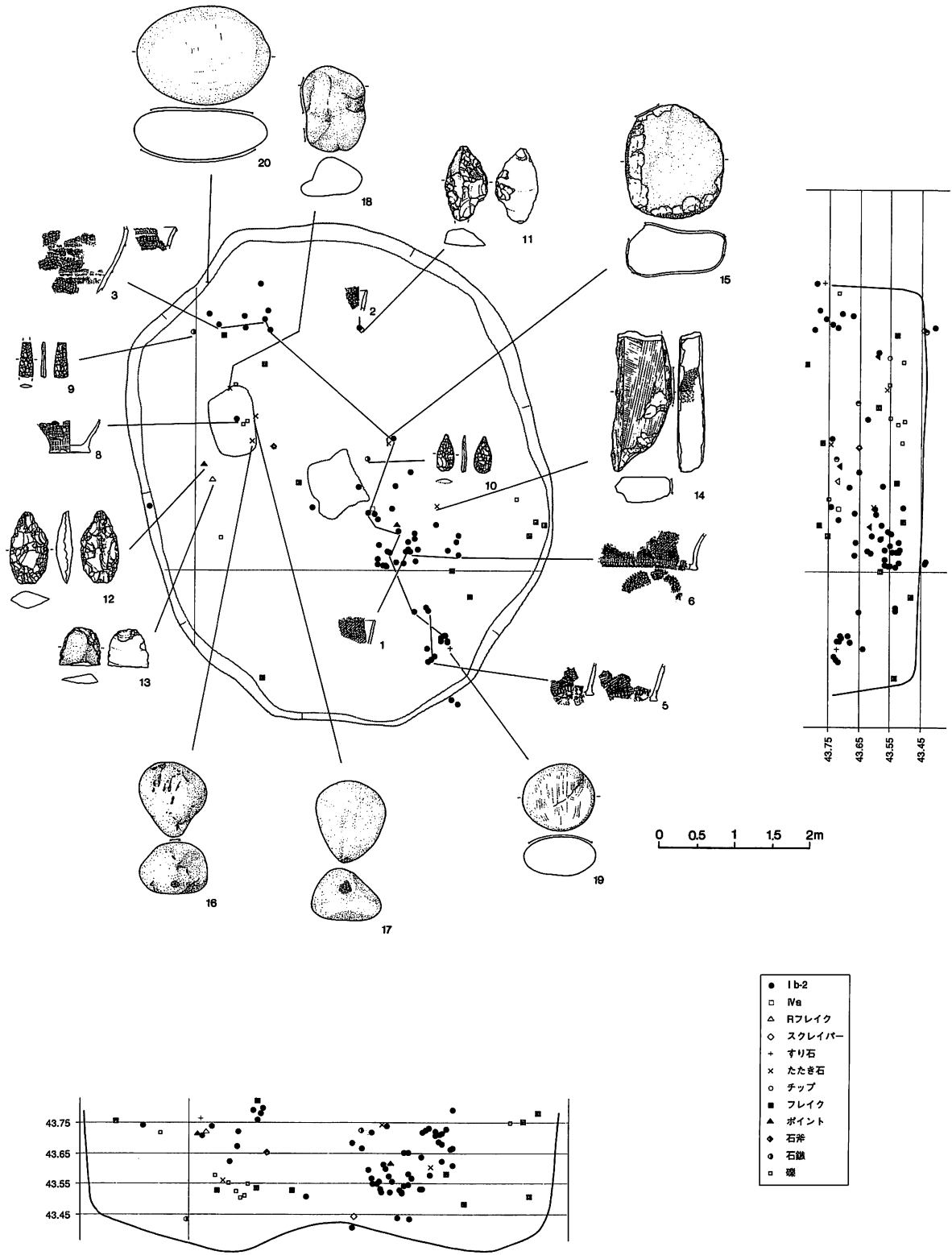
IV Ta-c下位の遺構



図IV-45 LH-42



図IV-46 LH-42の遺物



図IV-47 LH-42遺物出土状況

面には短縄文、下端には縄の刻みが施される。貼付帯の上にも縄の刻みが施されている。9・10は柳葉形の石鏃で、9は黒曜石、10は頁岩製である。12はポイントである。

時期 床面の遺物から縄文時代早期後半コッタロ式期と考えられる。

(皆川)

LH-43 (図IV-48~50/図版23・62・63)

位置：F2-77-b・c, 78-b, G2-77-a~d, 78-a・b, H2-77-a・d, 78-a

規模：6.20×4.86/4.53×5.78/0.21m 長軸方向：N-30°-W

特徴 平面が不整の楕円形を呈した掘込の浅い竪穴住居跡である。覆土には腐植土(V層)主体の土壌が堆積しており、掘り込み面はV層中と考えられる。

南側と東側の壁際には2ヶ所の付属ピット(HP-1・2)が検出され、HP-1は平面形長軸の南側に位置する付属ピットと考えられる。HP-2からは図示した復元土器が内面を上敷き詰められた状態で出土している。床面には3ヶ所の焼土(HF-1~3)と灰白色を呈した灰状の塊(HF-4)が見つまっているが、HF-4はHP-2の覆土上位に位置することからこれらは所謂「土器囲い炉」を構成するものと考えられる。今回、柱穴状のものは検出されなかったが、床面はVI~VII層が弱く攪乱した土層で、柱穴が存在していた可能性も高い。

遺物 遺物は床と覆土から出土している。どちらからもI群b-2類とIV群a類の土器が多数出土しているがHP-2出土の土器から本遺構に伴うのはIV群a類土器と考えられる。石器は石鏃、ポイント、ドリル、つまみ付きナイフ、楔形石器、たたき石、砥石、台石などが出土している。

1~4はIV群a類の深鉢形土器である。1はHP-2の墳底に敷き詰められていたIV群a類の復元土器である。口縁には折り返しの肥厚帯を有しその下縁に沿って縄の刺突列が施されている。口唇部と器面には太い原体の斜行縄文が施されている。2・3も肥厚帯と刺突列が施されるもので2の刺突は棒状の工具、3は縄である。4は幅の狭い肥厚帯に縄線文が施された口縁部である。

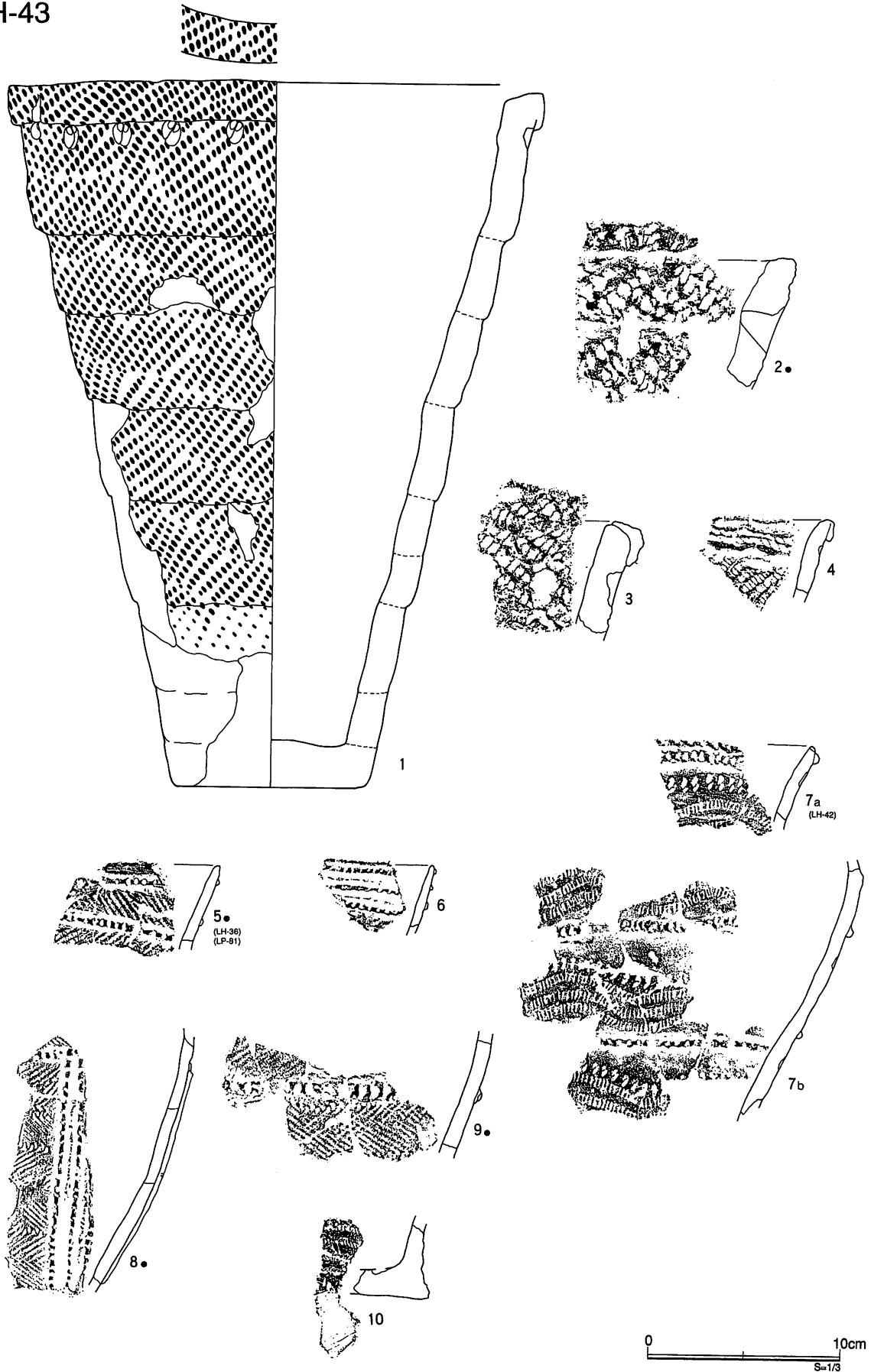
5~10はI群b-2類の深鉢形土器である。5は0段多条の原体で羽状縄文が施された口縁部である。貼付帯の刻みは棒状の工具によるものである。6は口唇の断面が尖り気味で、幅の細い貼付帯の上には縄による刻みが施される。7はLH-42と跨がって出土した。角軸に巻いた絡条体の圧痕文と単縄文が施された口縁~胴部で、断面が尖り気味の口唇部と粘土紐の貼り付けには短縄文と同じ0段多条の原体による刻みが施されている。8は0段多条の原体による結束の羽状縄文と縦の貼付帯が施される胴部である。貼付帯の刻みは縄によるものである。9は比較的太い横の貼付帯の施された胴部である。地紋は羽状縄文である。10は幅の狭い組紐圧痕文の施された小型の底部である。やや下端が張り出しその上に縄による刻みが施されている。

11・12はポイント、13はつまみ部を作出した剝片石器、14は両面に加工を施した縦長のくさび形石器である。15・16はたたき石、17は砥石である。

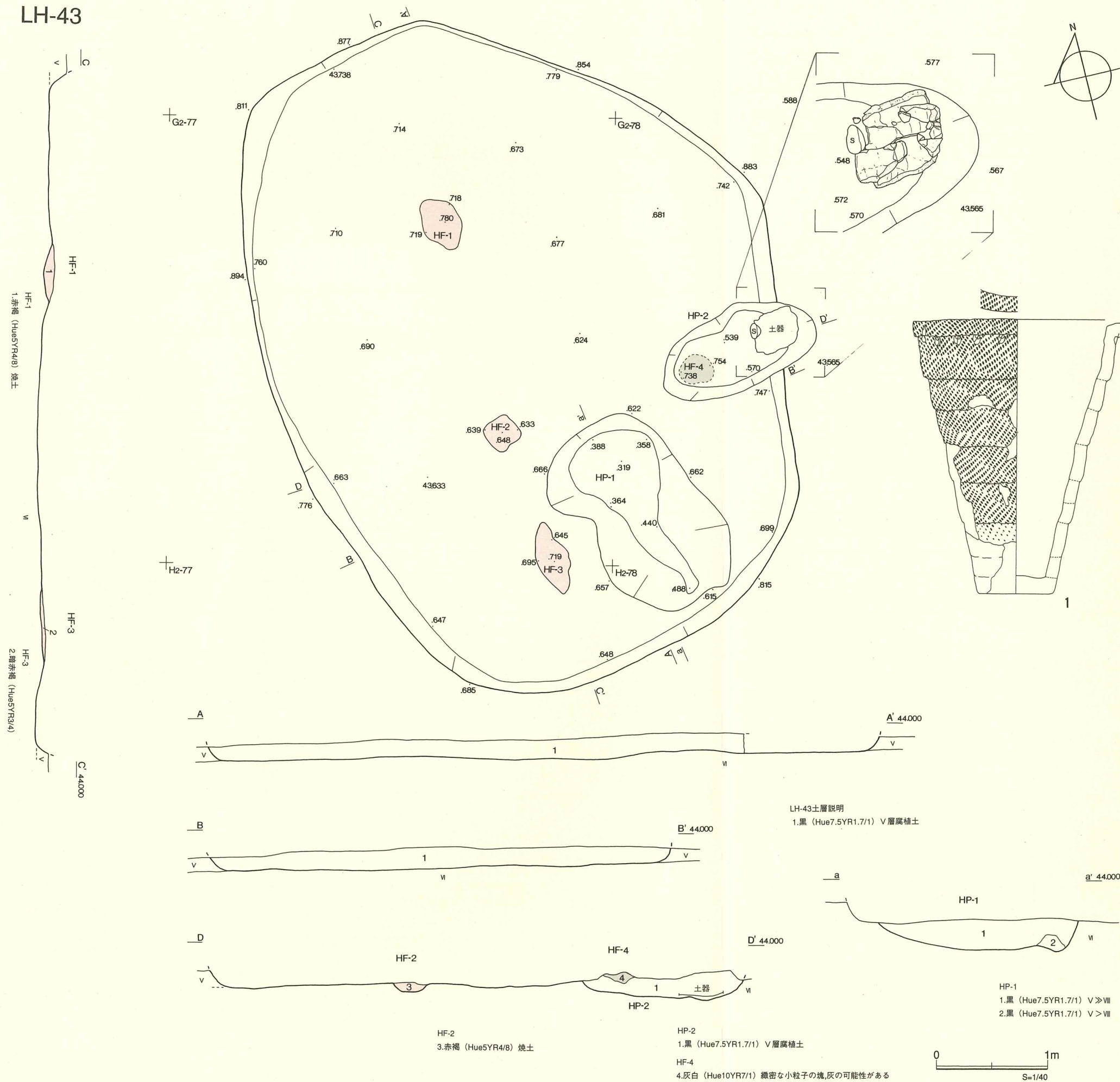
時期 縄文時代後期前葉余市式期

(皆川)

LH-43

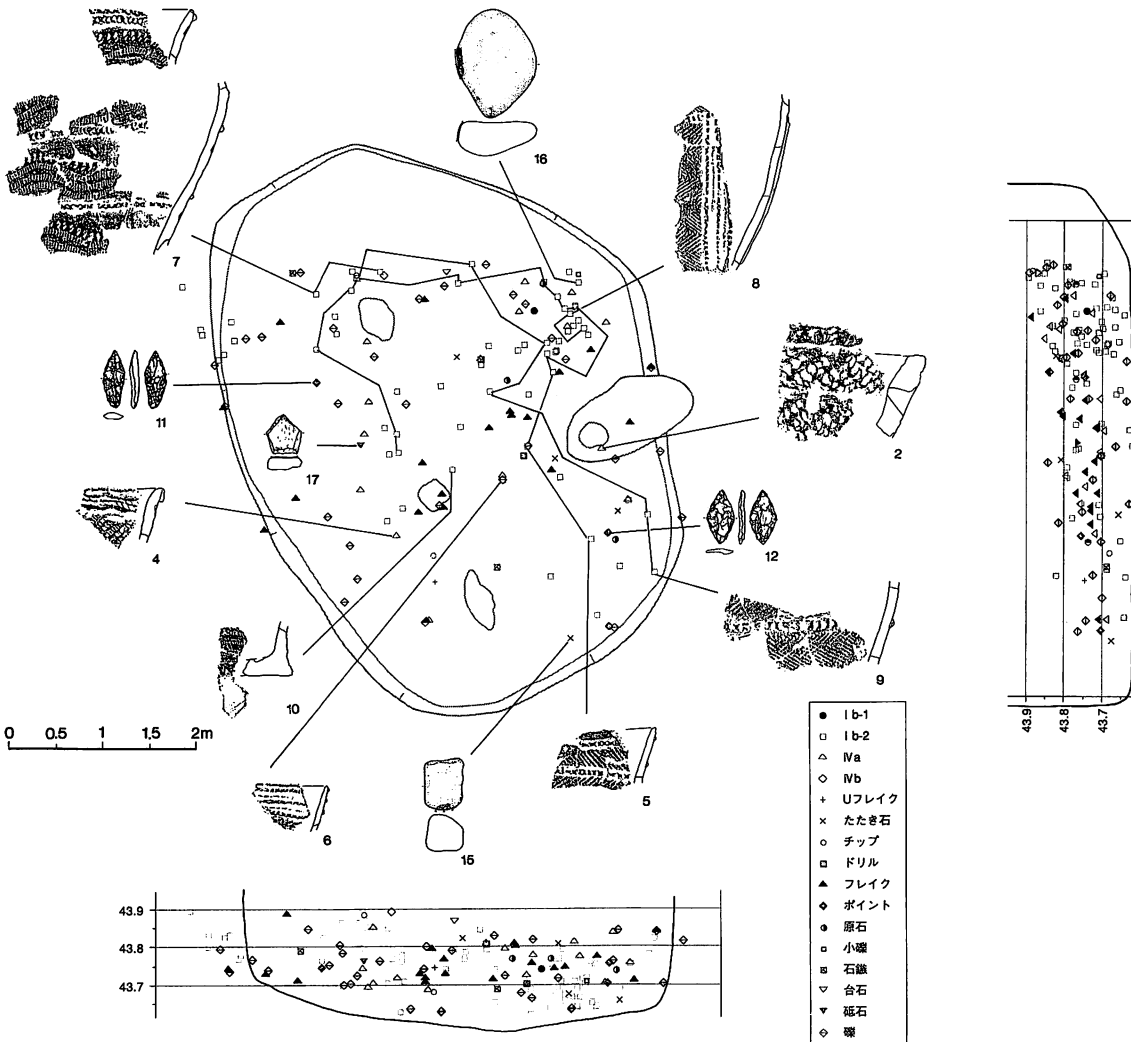
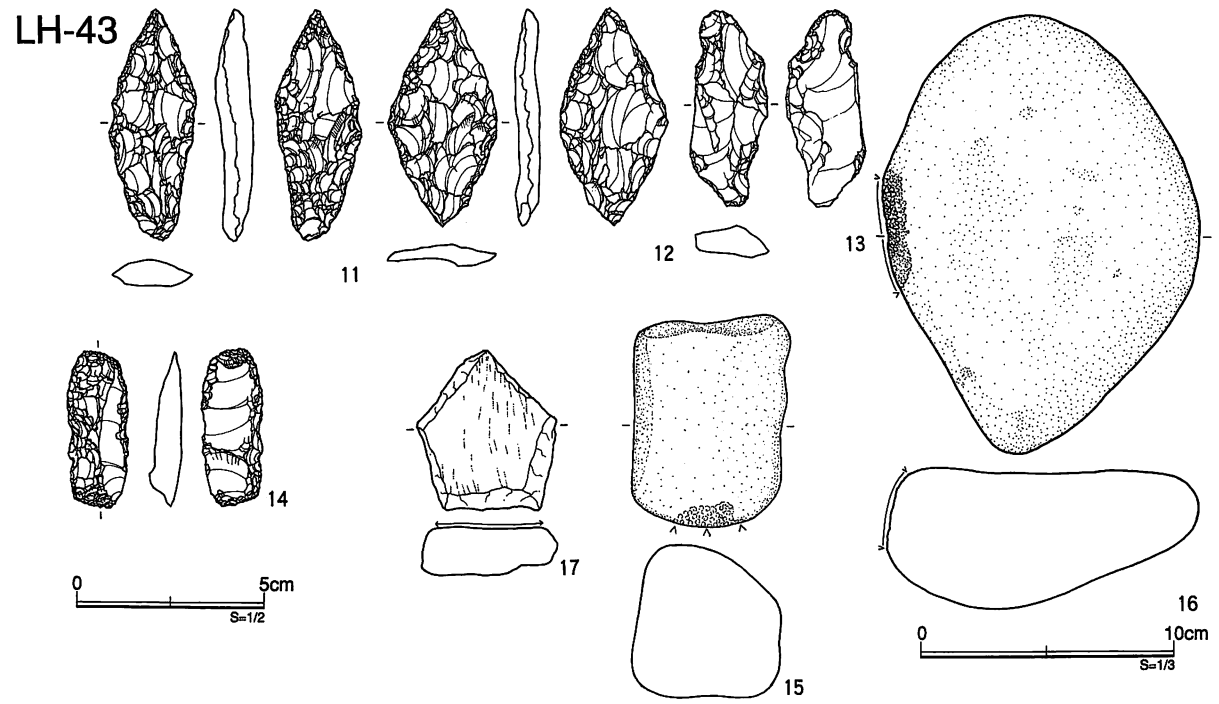


図IV-48 LH-43の遺物(1)



図IV-49 LH-43

LH-43



図IV-50 LH-43の遺物(2)と遺物出土状況

2. 土 壤 (図IV-51~73, 図版26~34・63~68, 表V-4~7)

L P-78 (図IV-51/図版24)

位置: F2-76-c, 77-b, G2-76-d 規模: 1.47×1.40/0.88×0.79/0.33m

長軸方向: N-35°-W

特徴 V層上面で窪みと明褐色土の広がり認め調査を行った平面楕円形の土壌である。覆土は腐植土主体の土壌で、掘り込み面はV層の上位と考えられる。周りに観察された明褐色土の広がり掘り上げ土の様相を呈しており、本遺構は掘り込んだ後に放置されたと考えられる性格不明の土壌である。

遺物 遺物は出土していない。

時期 掘り込み面から考えて縄文時代後~晩期の遺構と思われる。(皆川)

L P-79 (図IV-51/図版24)

位置: C2-74-a・b 規模: 1.85×1.52/1.07×1.27/0.26m 長軸方向: N-39°-E

特徴 V層上面で窪みを確認し調査を行った平面形が不整の楕円を呈する土壌である。覆土には腐植土(V層相当)が主体の土壌が入り、掘り込み面はV層上位である。性格不明の土壌である。

遺物 遺物は出土していない。

時期 掘り込み面から縄文時代後~晩期と思われる。(皆川)

L P-80 (図IV-51/図版24)

位置: A2-76-a~d 規模: 3.02×2.83/2.30×2.32/0.25m 長軸方向: N-13.5°-E

特徴 標高43.8~43.9mのV層上面に窪みを確認し調査を行ったもので、平面が不整の円形を呈する土壌である。覆土は腐植土を主体とするものとEn-aを多く含むものと大きく別れ、掘り込み面はV層の中位から下位にかけてと考えられる。深度は浅くやや丸味を帯びた壙底から壁は緩やかに立ち上がる特徴を有している。今回調査されたL P-85とは形態的な類似が見られ、またL P-81やL H-38に関しても調査の初期段階には同じ形態の特徴を有していたことから、更に下位に掘り広がる可能性を追って調査を重ねたが成果は得られなかった。性格不明の壙穴状土壌である。

遺物 遺物は覆土から極少量出土している。土器はI群b-2類、IV群a類、IV群c類が出土しているがいずれも小破片である。石器は石斧の小破片が出土している。

時期 掘り込み面から縄文時代早~後期と考えられる。(皆川)

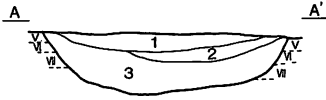
L P-81 (図IV-52・53/図版25・63)

位置: X73-a, Y-72-c・d, 73-a~d 規模: 3.68×3.31/2.49×2.84/0.03m

長軸方向: N-54.5°-W

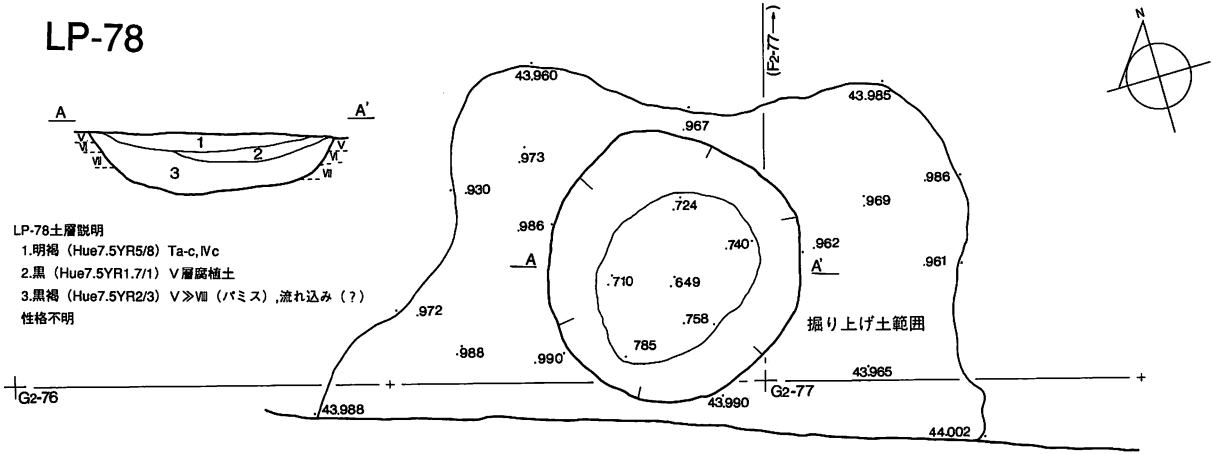
特徴 標高43.60m程の平坦面に設けられた平面が不整の円形を呈する壙穴状の土壌である。VI層上面で黒色土の円形プランを確認し調査を行った。深度は浅く腐植土を主体とする覆土で掘り込み面はV層下位と考えられる。比較的フラットな壙底から壁は緩やかに立ち上がっており、壙底面の中央部で柱穴状のピット(S P-1)と、南~東側の壁立ち上がり付近から壁に掛けてからは付属すると考えられるピットが2ヶ所(S P-2・3)見つかっている。炉跡と考えられるものはないが、後述する遺物の出土状況からは活動の痕跡が伺える。これらのことから、住居に付随す

LP-78

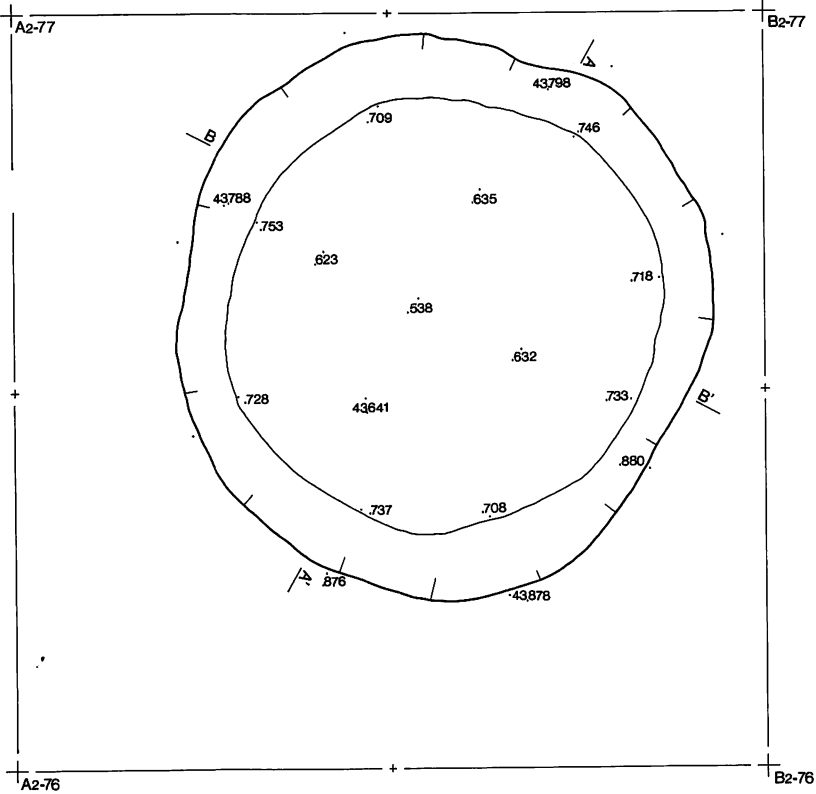
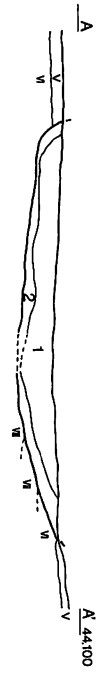


LP-78土層説明

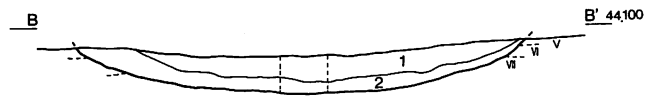
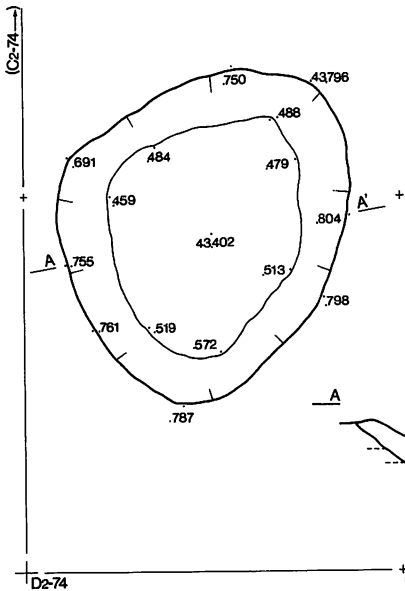
- 1. 黒褐 (Hue7.5YR5/8) Ta-c, Iv
 - 2. 黒 (Hue7.5YR1.7/1) V層腐植土
 - 3. 黒褐 (Hue7.5YR2/3) V>>VII (バミス), 流れ込み (?)
- 性格不明



LP-80



LP-79

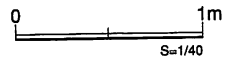


LP-80土層説明

- 1. 黒 (Hue7.5YR1.7/1) V層腐植土
- 2. 暗褐 (Hue10YR3/3) V+VI>VII>>VII

LP-79土層説明

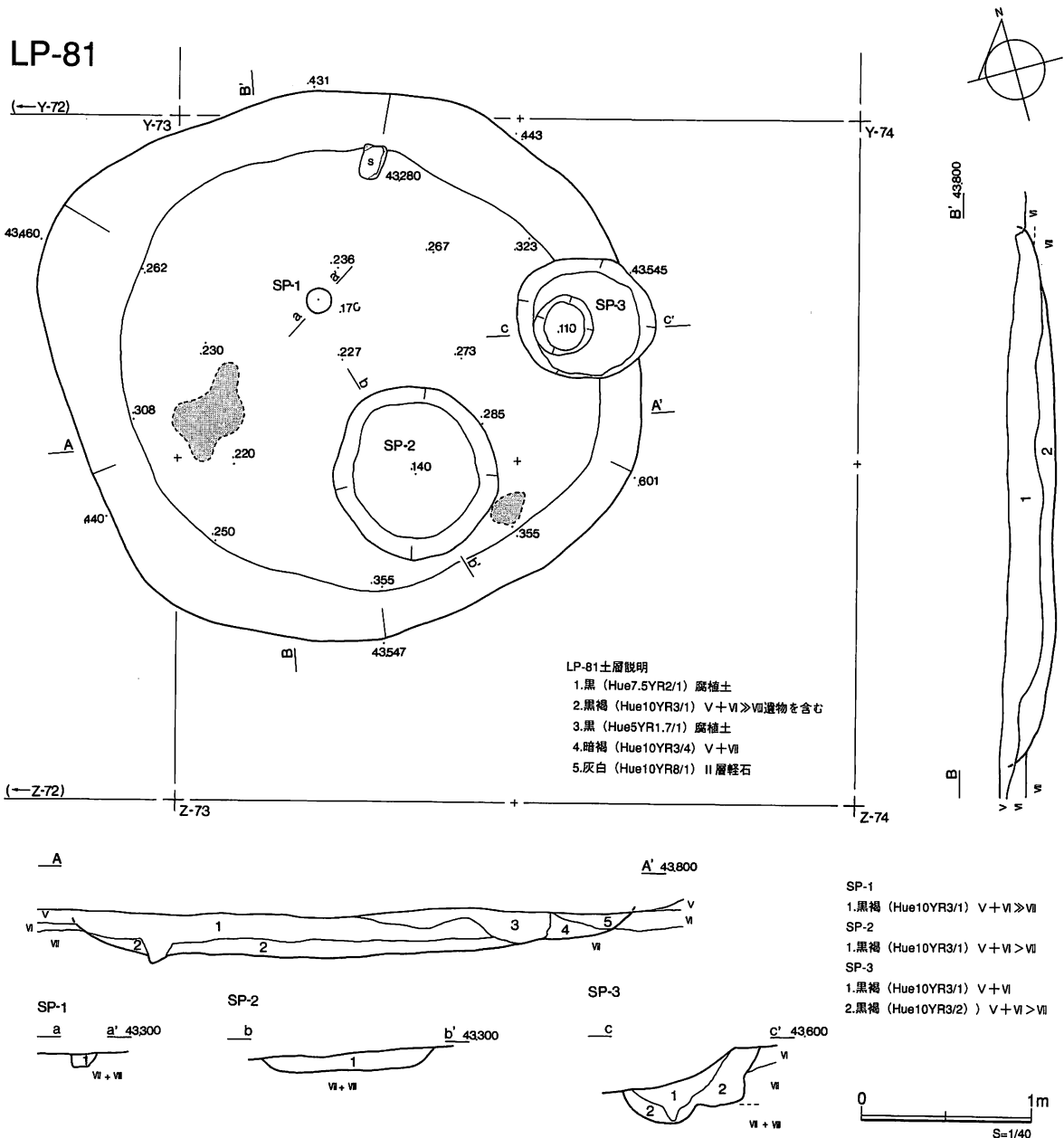
- 1. 黒褐 (Hue7.5YR2/2) 土, かたくしまっている, 流れ込み, V層
- 2. 黒褐 (Hue7.5YR3/3) 土, かたくしまっている, 流れ込み, V層>>VIIバミス



図IV-51 LP-78・79・80

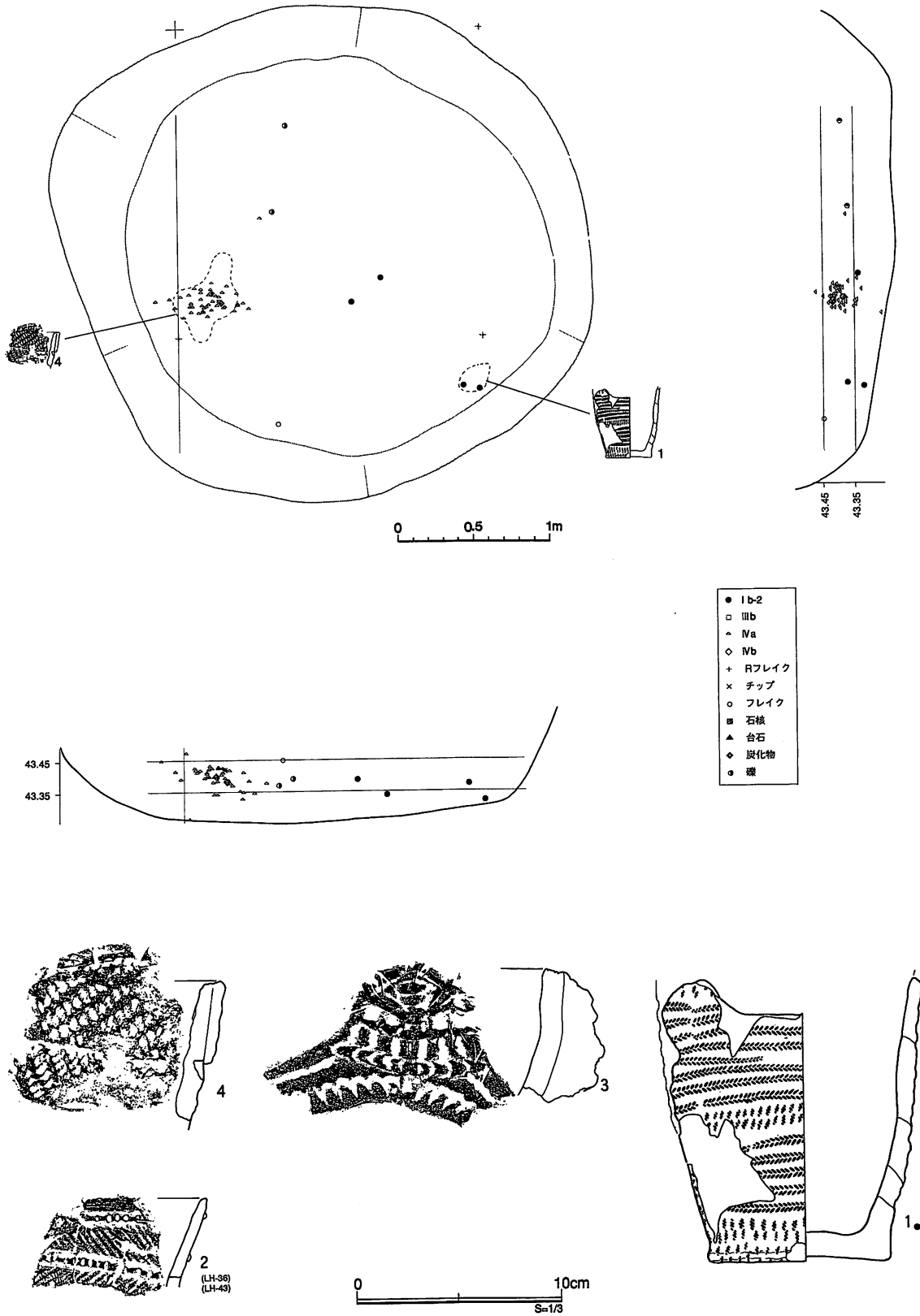
る作業小屋のような性格の竪穴状遺構と考えられる。

遺物 床と覆土から土器、石器、炭化物が出土している。土器はI群b-2類、III群b類、IV群a類、IV群b類などがあるが、床からI群b-2類の土器が直立状態で出土しており、これが本遺構に伴うものといえる。また北側の床～覆土中からは台石と考えられる大型礫が出土しておりこれもI群b-2類に伴うものとする。IV群a類は覆土の中位から多数の細かい破片の状態で出土しており、一時期、廃棄が行われた可能性が高い。1は直立状態で出土したI群b-2類の深鉢形土器胴～底部である。胴部と底部の径の差が小さい器形で、やや張り出した底部の下端には縄の刻みが施されている。器面には細い縄と組紐による短縄文と圧痕文の文様帯が上から交互に施される。2は0段多条の原体で羽状縄文が施されたI群b-2類の口縁部である。貼付帯の刻みは棒状の工具によるものである。3はIII群b類の深鉢形土器口縁部に作られた山形突起である。高く盛られた粘土の上に半截竹管状の施文具で連続する刺突を施文している。4は覆土から多数の



図IV-52 LP-81

LP-81



図IV-53 LP-81の遺物と遺物出土状況

小破片で出土したIV群 a 類深鉢形土器口縁部である。肥厚帯の下には縄の刺突、地紋には太い原体による斜行縄文が施される。

時期 床面の遺物から縄文時代早期後半コッタロ式期と考えられる。 (皆川)

L P -82 (図IV-54/図版26・64)

位置：X-73-c・d, X-74-a~d 規模：3.20×2.15/1.77×2.89/0.31m 長軸方向：N-65°-W

特徴 標高43.60m程の平坦な地形に作られた、平面が豆の様な形を呈した土壇である。VI層上面で黒色土の入る楕円のプランを確認し調査を行った。フラットに作られた壇底面には炉跡や柱穴の類は認められず、壁はやや急激に立ち上がっている。特徴的な形態を有した性格不明の土壇であるが、キウス遺跡群では少なからず類例があることからVII章でそれらに触れることとする。

遺物 遺物は全て覆土から出土したものである。土器はI群b-2類が覆土の下位から流れ込んだ状況で、IV群a類が覆土の上位から碎片のものがまとまって出土している。1はI群b-2類の深鉢形土器底部である。器壁は薄く底部の張り出しはほとんど見られない。下端には縄による刻みが、地紋には撚りの異なる0段多条の原体で羽状縄文を施している。2はIV群a類の深鉢形土器底部で剝落の著しい器面には太い縄の斜行縄文が施されている。

時期 遺物から縄文時代早期~後期前葉の可能性はある。 (皆川)

L P -83 (図IV-55/図版26・64)

位置：W-73-b, X-73-a 規模：1.07×0.96/0.69×0.83/0.28m 長軸方向：N-37°-E

特徴 平面が不整の円形を呈する土壇である。VI層上面で図示した遺物と黒色土主体の土壇が入るプランを確認し調査を行った。覆土は埋め戻しが行われた可能性があり掘り込み面はV層中~下位と考えられる。遺物は確認面で見つかったIV群c類の浅鉢形土器だけで、これは覆土の埋め戻し後に据え置かれたものと考えられる。これらから本遺構は規模的にやや小形であるが土壇墓の可能性はある。

遺物 1は確認面で検出されたIV群c類の浅鉢形土器である。器面と底の面にLRの斜行縄文を施した後に口唇と内面び粗雑な調整を行っている。底付近の表面は火を受けたためか大きく剝落している。

時期 縄文時代後期末葉と考えられる。 (皆川)

L P -84 a・b (図IV-55, 表I-7・V-4/図版27-1・2)

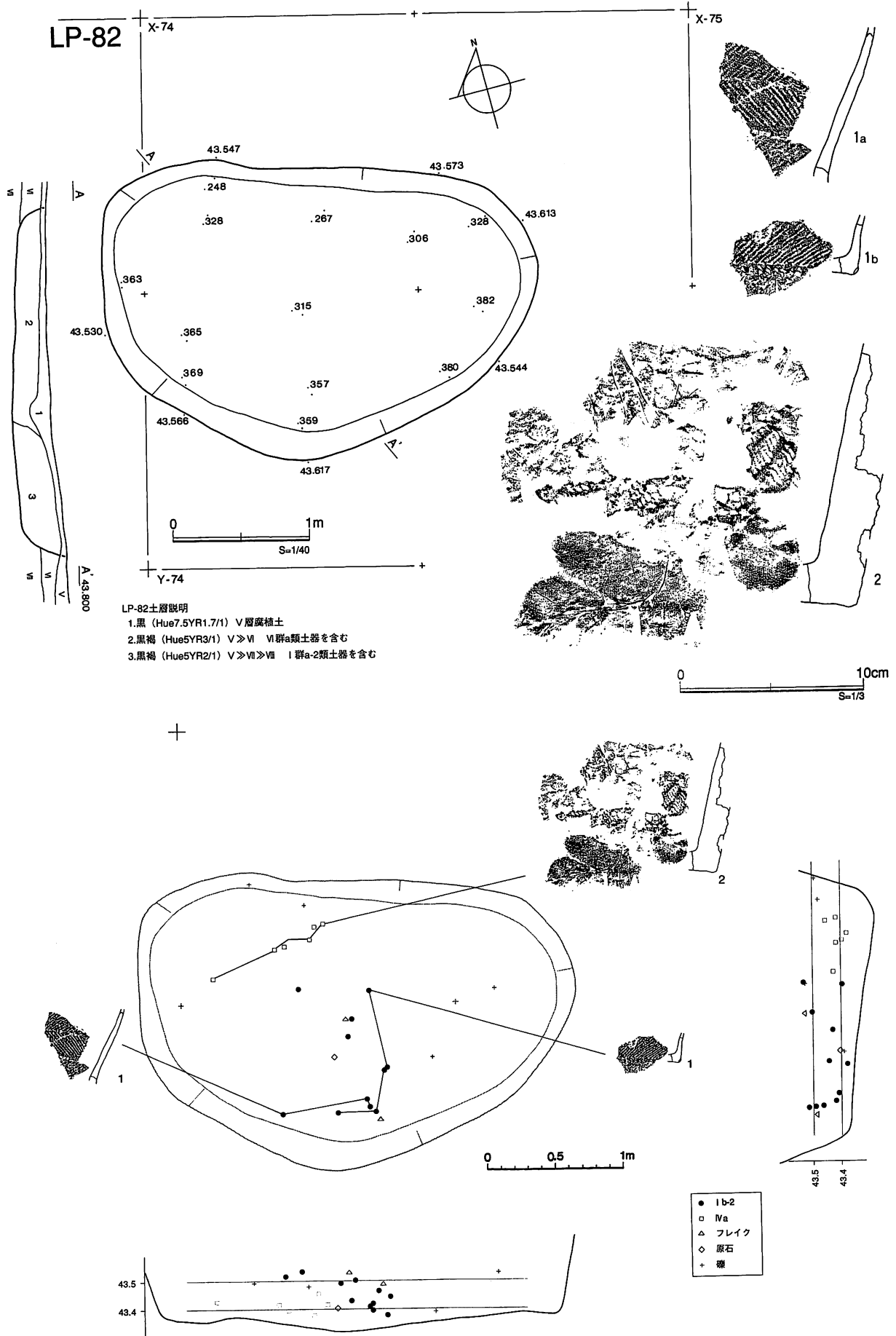
位置：V-79-c, W-79-d 規模：a・1.25×0.78×(0.08), b・2.38×1.74×-

調査 調査区東側の包含層調査中に検出した性格不明の重複する二つの土壇である。確認面での平面形は楕円形を呈する。壇底検出中に北東側に重複する小型の黒褐色土の落ち込み(b)を確認した。壇底は共にVI層中に作られ、壇底差は約13cmである。壁は緩やかに立ち上がる。

遺物 覆土中よりIV群b類土器の破片の他、黒曜石の剝片が数点出土している。

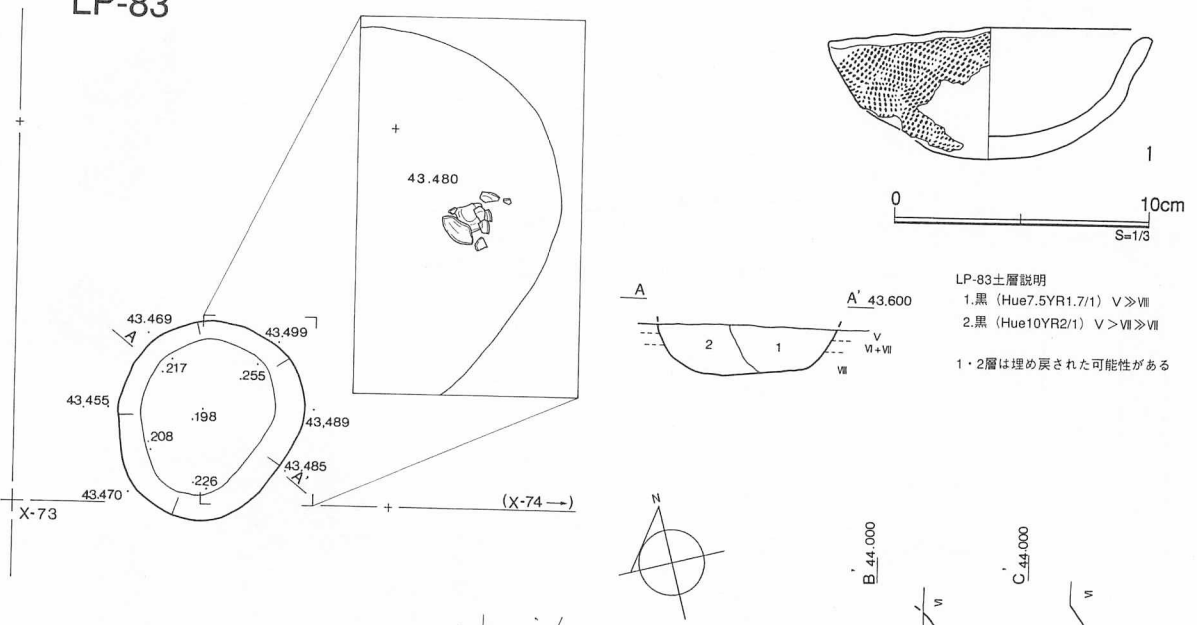
1・2はIV群b類の深鉢形土器口縁部である。1はLH-28、LP-85でも出土したもので断面角形の口唇部は研磨され、器面には斜行縄文が施文されている。2は磨消しの施された波状口縁である。

時期 縄文時代後期中葉頃と推定される。 (笠原)

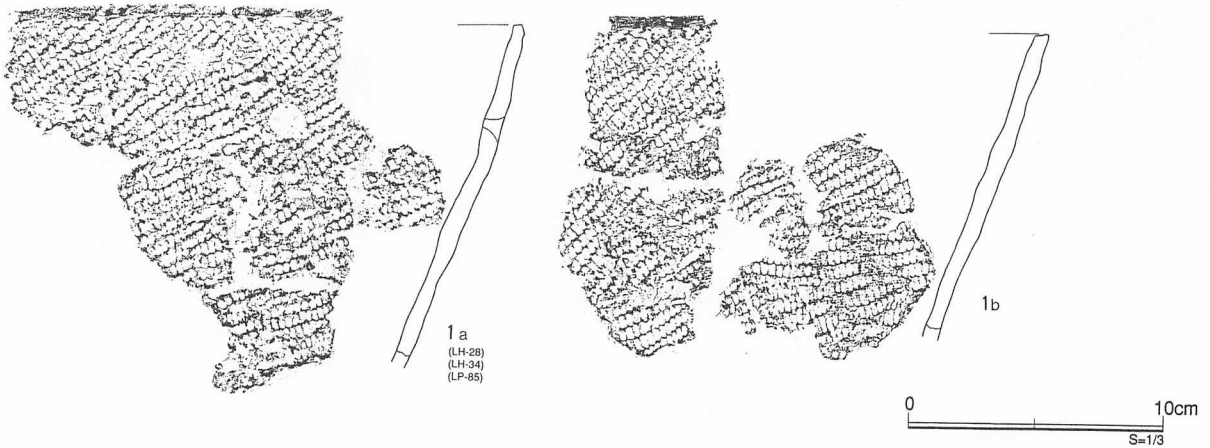
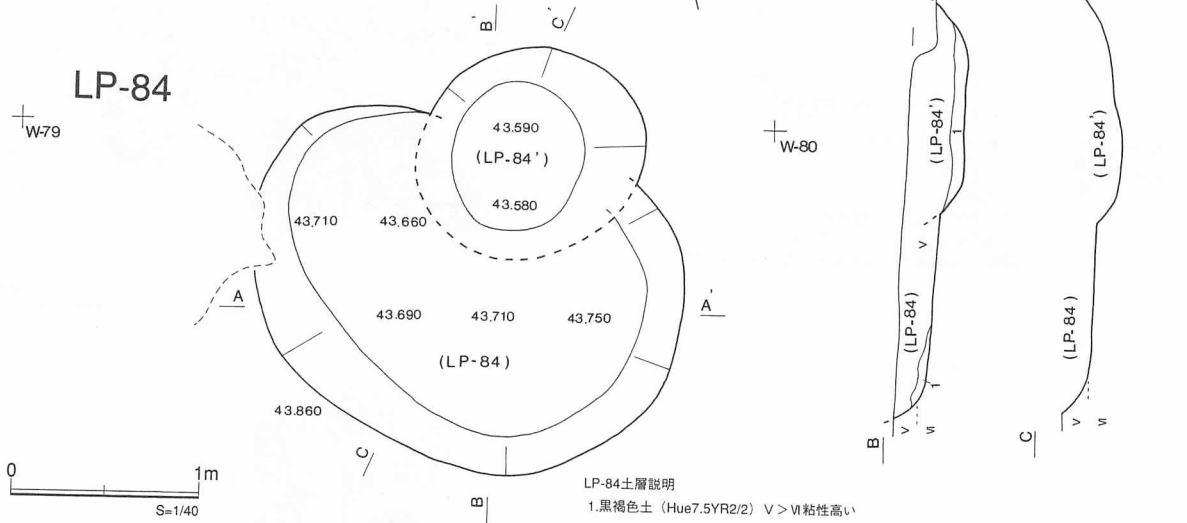


図IV-54 LP-82の遺物と遺物出土状況

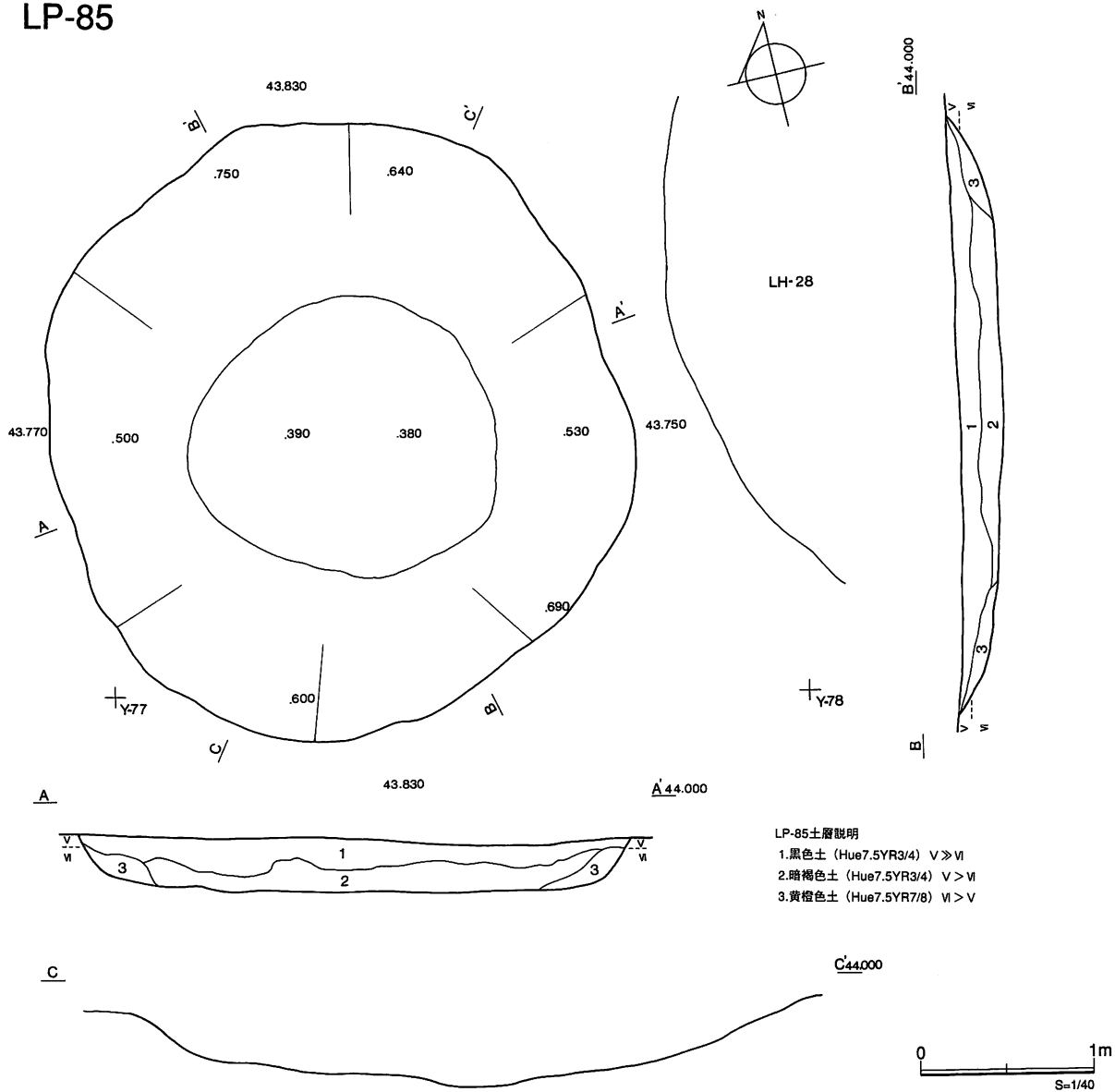
LP-83



LP-84

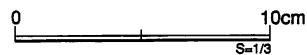
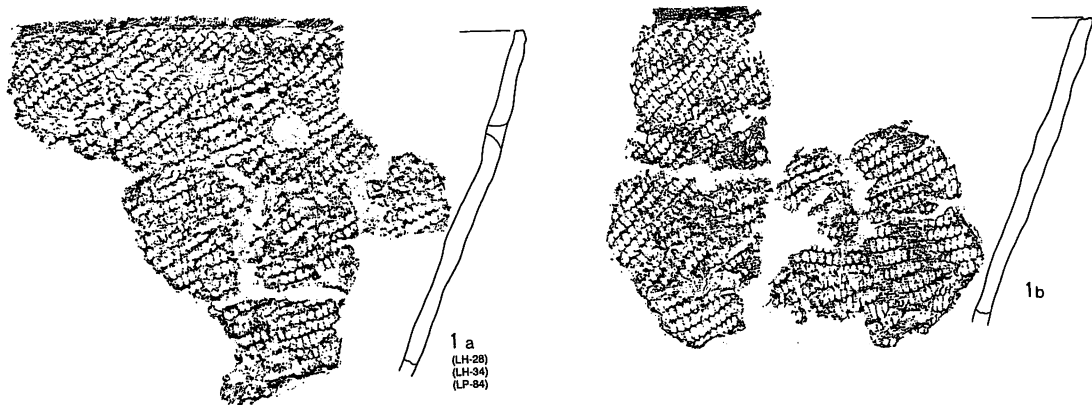


LP-85

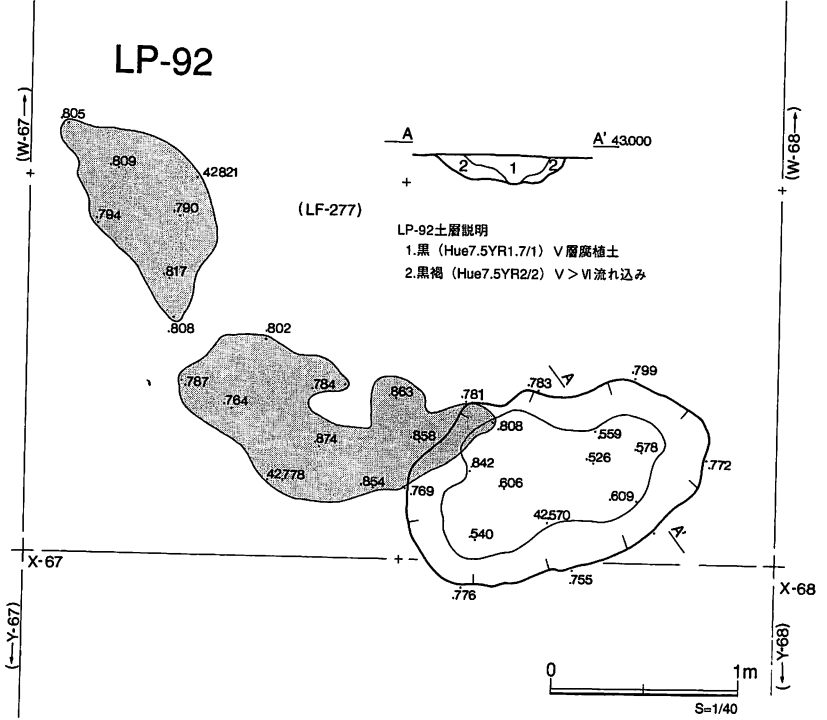
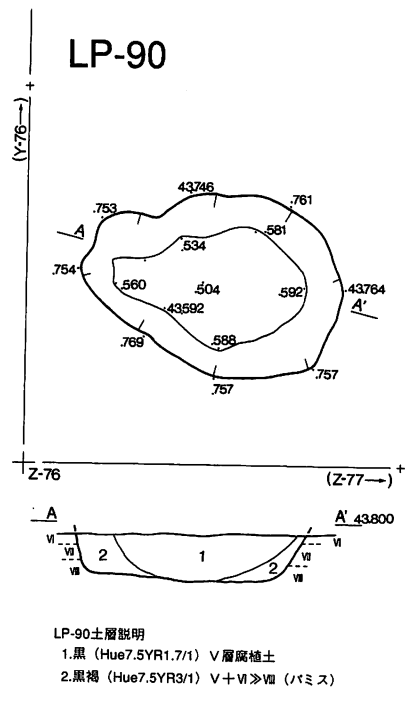
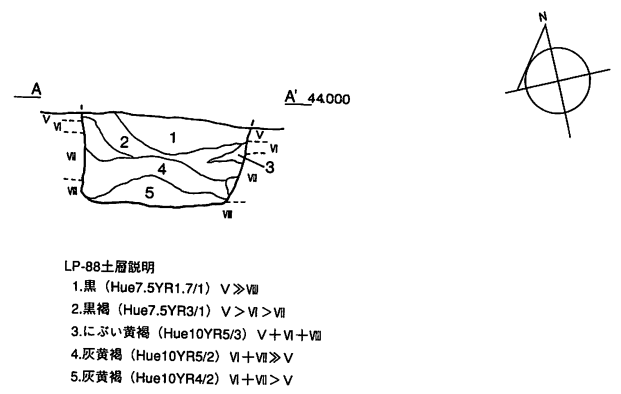
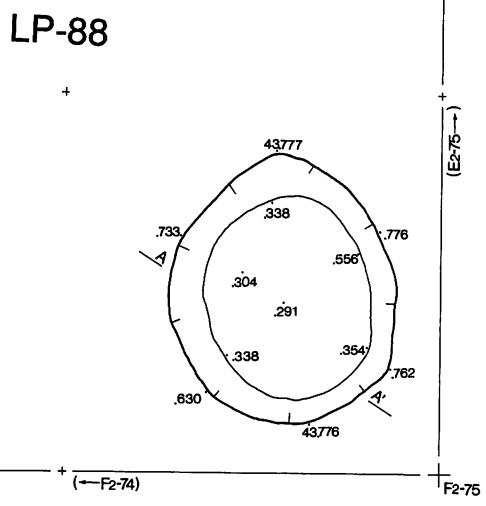
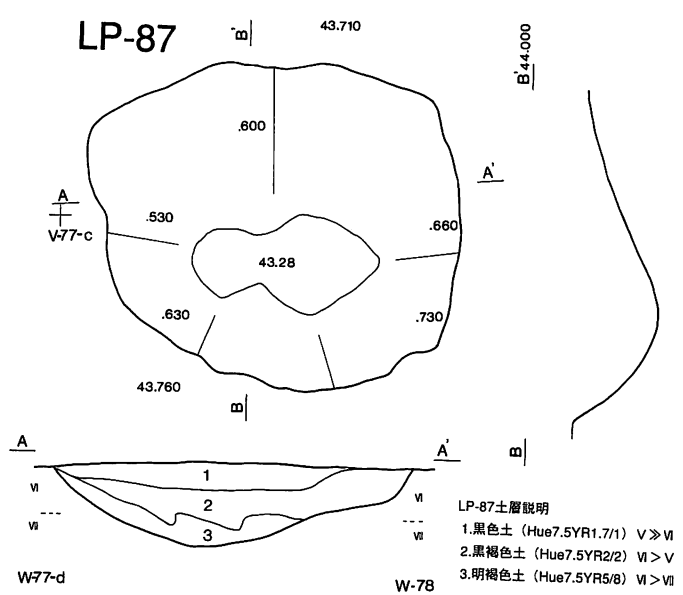
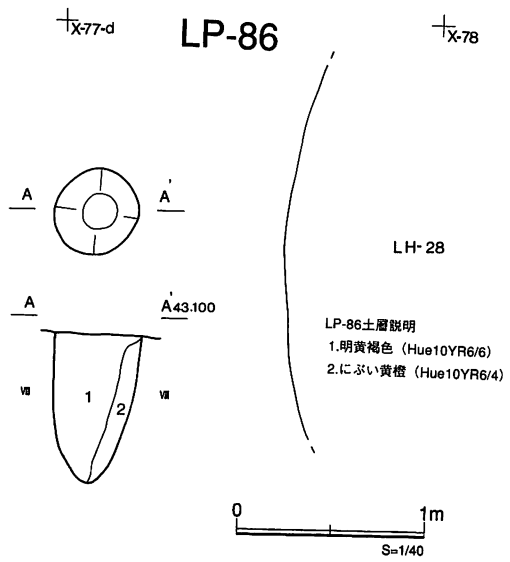


LP-85土層説明

- 1. 黒色土 (Hue7.5YR3/4) V > VI
- 2. 暗褐色土 (Hue7.5YR3/4) V > VI
- 3. 黄橙色土 (Hue7.5YR7/8) VI > V



図IV-56 LP-85



図IV-57 LP-86・87・88・90・92

L P-85 (図IV-56, 表I-7・V-4/図版27-3・4)

位置: X-76-c・d, X-77-a~d, Y-77-a 規模: 3.75×3.24×0.32

調査 LH-28の西側包含層調査中に検出した。性格不明の土壌である。平面形はほぼ円形を呈する。壙底はVI層中に掘り込まれ、比較的平坦で、壁は緩やかに立ちあがる。覆土は主に流れ込みのV層で、掘り込み面はV層中と考えられる。

遺物 覆土中よりIV群a・b類、I群b 2類土器の破片の他、黒曜石の剥片が1点出土している。

1はIV群b類の深鉢形土器口縁部である。LH-28、LP-84でも出土したもので断面角形の口唇部は研磨され、器面には斜行縄文が施文されている。

時期 時期を特定できる遺物は出土していないが、規模、形態の類似するLH-38の床面から早期後半(I群b 2類土器)が出土していることから縄文時代早期後半頃と考えられる。(笠原)

L P-86 (図IV-57, 表I-7・V-4)

位置: X-77-d 規模: 0.46×0.45×0.80

調査 LH-28および、周辺包含層の調査終了後、重機を用いてLH-28の周囲を床面とほぼ同レベルのVIII層中まで掘削を行った。その結果、LH-28の床面で検出したHP-5・6と類似する明黄褐色を呈するローム質土の落ち込みを確認した。確認面より径46cm、深さ約80cm、壙底の径約25cmである。類似するものが調査区内より数個見つかり、なかには壙底面がIX層の上面まで達するものもある。この遺構は掘り足りなかった可能性がある。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代早期後半以前? (笠原)

L P-87 (図IV-57, 表I-7・V-4/図版28-1)

位置: V-77-c・d, 78-a~d 規模: 2.16×1.78×0.45

調査 LH-28の北側VI層上面で、黒色土の落ち込みを確認した。平面は不整円形を呈し、壙底はVII層上面で凸凹が見られる。壁の立上りは不明瞭である。覆土は主にV層で構成される。性格は不明である。

遺物 出土していない。

時期 不明。(笠原)

L P-88 (図IV-57/図版28)

位置: F2-74-c 規模: 1.43×1.21/0.87×1.08/0.55m 長軸方向: N-9°-E

特徴 平面形が楕円を呈する土壌である。LH-31のトレンチで確認したもので、覆土は1層が落ち込みに入った腐植土(V層)、2~5層がV~VII層の埋め戻し、掘り込み面はV層の中~下位と考えられる。壙底は平坦に掘り込まれており、壁は急激に立ち上がっている。遺物は覆土下位からI群b-2類土器と黒曜石製のフレイクが出土しているが、出土状況から考えてこれらは埋め戻し時の混入の可能性が高い。今回の調査で見つかった遺構ではLP-98・99が類似の特徴を示しており、これらはLH-37もしくはLH-39を取り巻くように配置されている。覆土、形態、類似遺構との位置関係などから本遺構はLH-37か39に伴う土壌墓と考えられる。

遺物 覆土からI群b-2類土器が出土している。掲載遺物なし。

時期 覆土、形態、類似遺構の配置などから、縄文時代中期後半~後期前葉と考えられる。(皆川) 121

LP-90 (図IV-57/図版30)

位置: Y-76-b 規模: 1.39×0.98/0.65×1.02/0.26m 長軸方向: N-68.5°-W

特徴 LH-34の東側に近接する不整楕円形の小型の土壌である。墳底は比較的フラットで壁は緩やかに開きながら立ち上がっている。VI層上面でプランを確認し半裁して調査を行った。覆土は腐植土(V層)主体で掘り込み面はV層上~中位であろう。遺物は覆土から石斧の破片と黒曜石製のフレイクが出土している。性格不明の小型の土壌である。

遺物 覆土から石斧片が出土している。掲載遺物無し。

時期 検出層位と周囲の遺構から縄文後~晩期の可能性がある。

(皆川)

LP-92 (図IV-57/図版28)

位置: W-67-c・X-67-d 規模: 1.68×0.99/0.68×1.25/0.16m 長軸方向: N-85°-E

特徴 不整の長楕円形を呈する深度の浅い小型の土壌である。LF-277の調査中に確認したものでLF-277の一部と若干の重複が見られ、LP-92は下位に位置する。覆土は腐植土(V層)主体のもので、掘り込み面はV~VI層中のLF-277検出面以下である。位置と規模からLF-277に関する土壌の可能性がある。遺物は出土していない。

遺物 出土遺物無し。

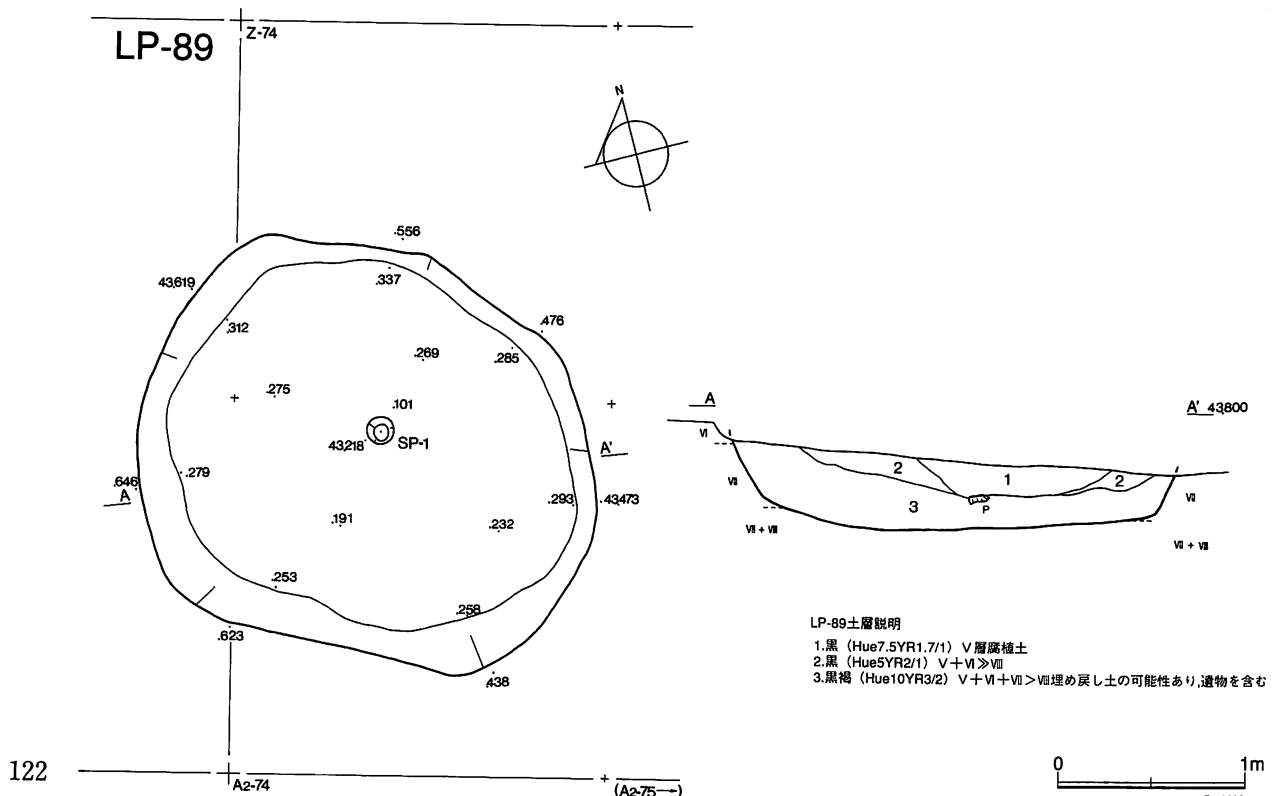
時期 層位的に縄文時代早~晩期と考えられる。

(皆川)

LP-89 (図IV-58・59/図版28・64・65)

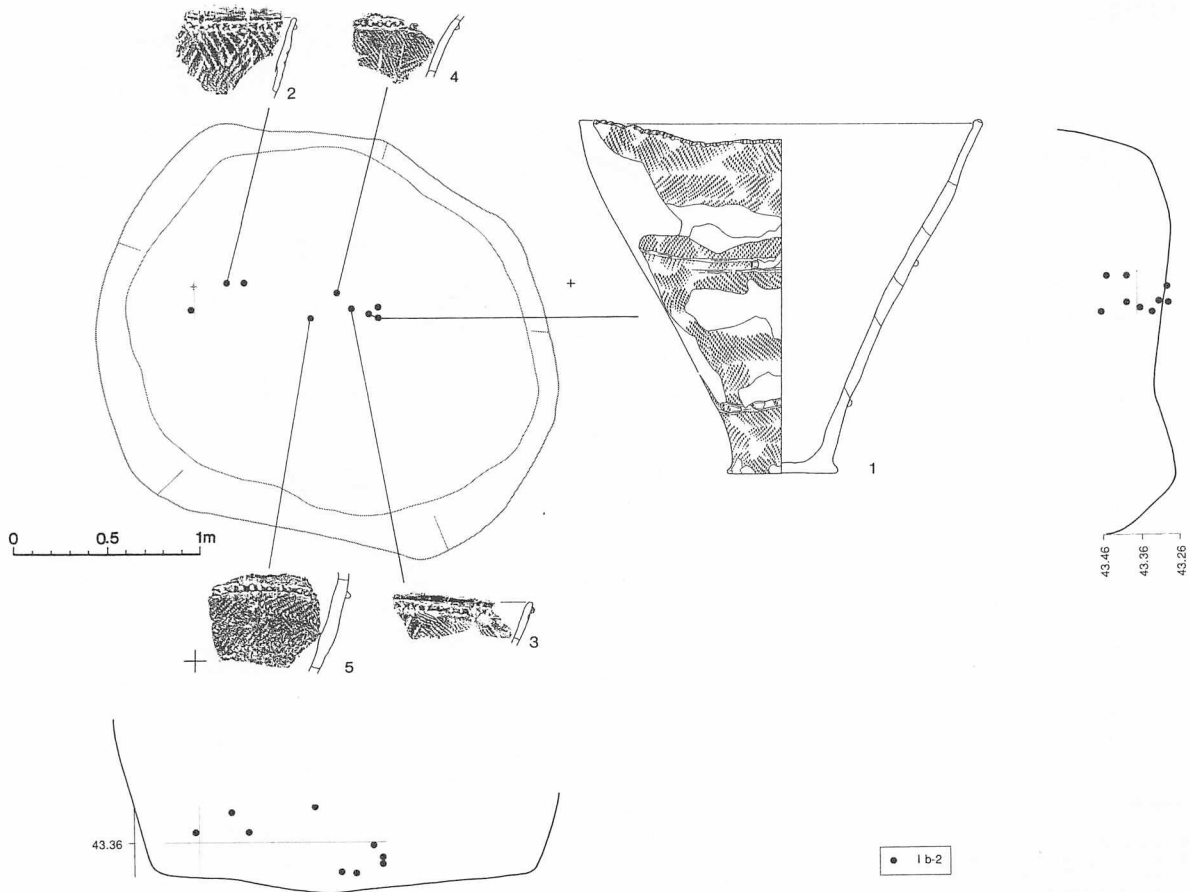
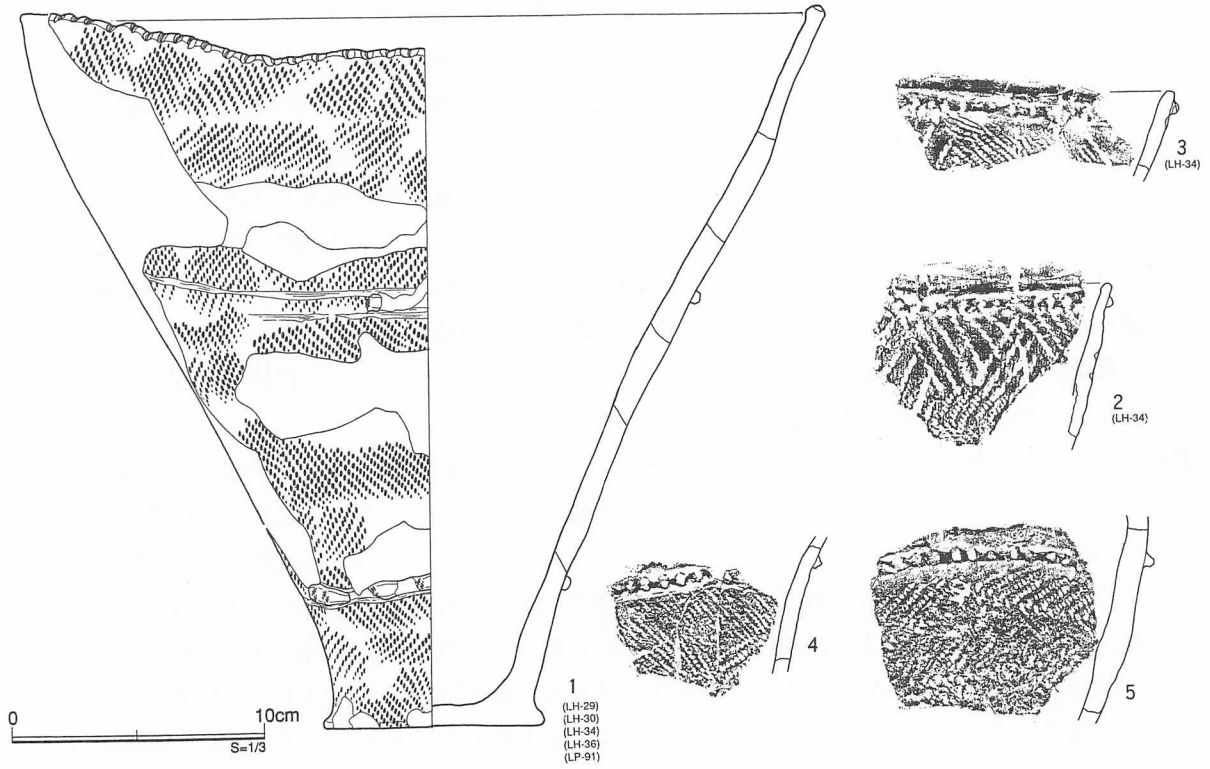
位置: Z-73-c・d, 74-a・b 規模: 2.56×2.38/2.01×2.08/0.40m 長軸方向: N-12°-W

特徴 平面が不整の楕円形を呈する小型の竪穴状土壌で、後から掘り込まれたLH-34により遺構の上部は欠失している。LH-34の床面に明褐色土の入るプランを確認し調査を行った。覆土は腐



図IV-58 LP-89

LP-89

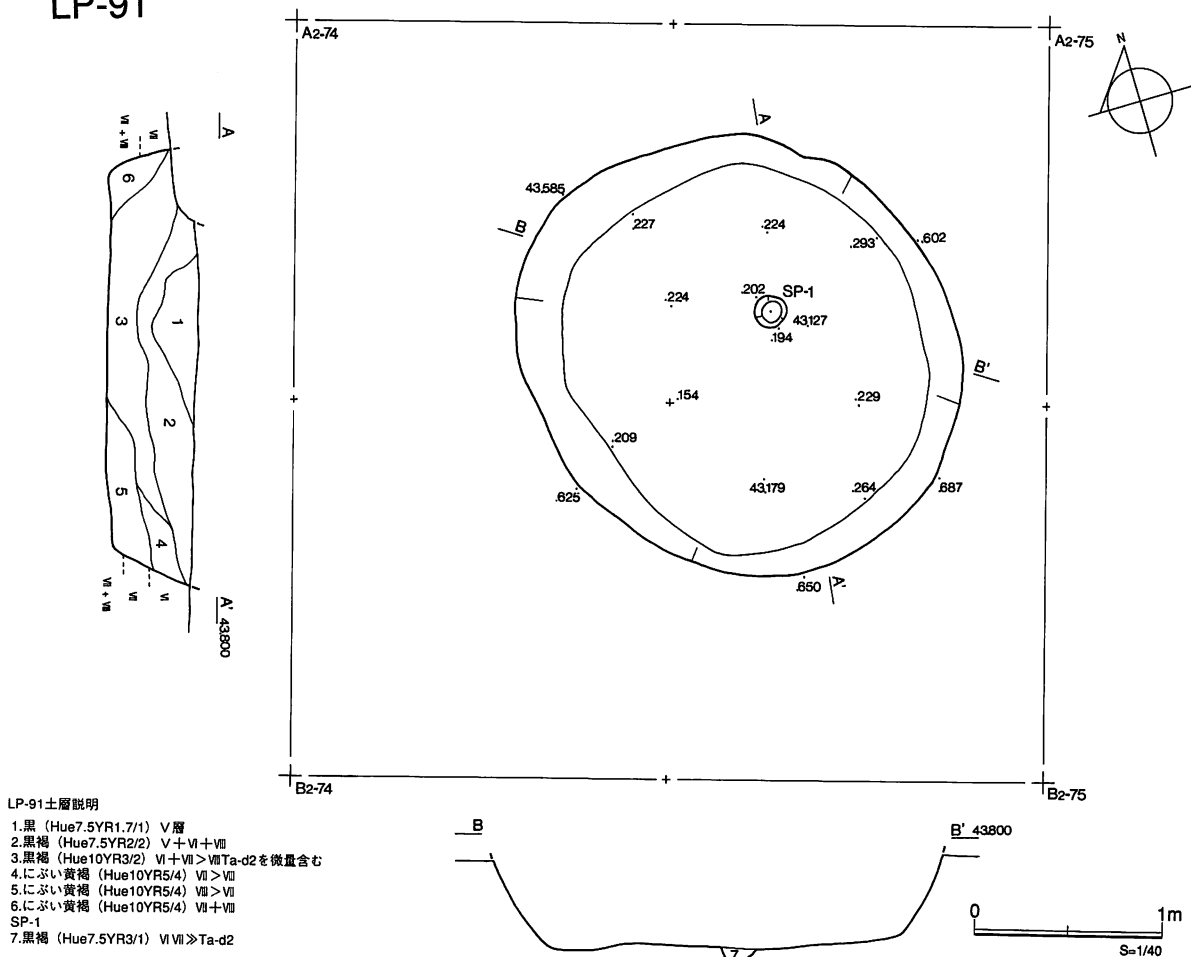


図IV-59 LP-89の遺物と遺物出土状況

植土 (V層) が主体となる上位の土壤と En-a が主体となる下位の土壤とに大きく別れる。後者は堆積の状況から埋め戻されているか、上屋状の構造物の盛り土が崩落したものと考えられる。後者にV層腐植土の混入がほとんど観察されないことから掘り込み面はV層下位と考えられる。丁寧な作りの平坦部を有した墳底から壁はやや外側に開きながら立ち上がる。底面のほぼ中央部には径が約10cm程の柱穴状のピット (SP-1) を備えており、これは今回調査のLP-91・96・97にも共通した特徴でもある。遺物は En-a が主体となる覆土の上部から I 群 b-2 類土器が出土しており、床面からのものは検出されていない。以上のことから本遺構は墓的な性格を有した竪穴状の土壇と考えられる。これは覆土が埋め戻された上位に遺物が置かれ、その後に陥没の状態が生じた点に着目したためであり、墳底のSP-1は遺構の所在を示すモニュメント的なものか簡略的な上屋構造などの存在を意味している可能性がある。また、これ以外にもフラットな床面を使った作業場的な性格にも可能性がある。

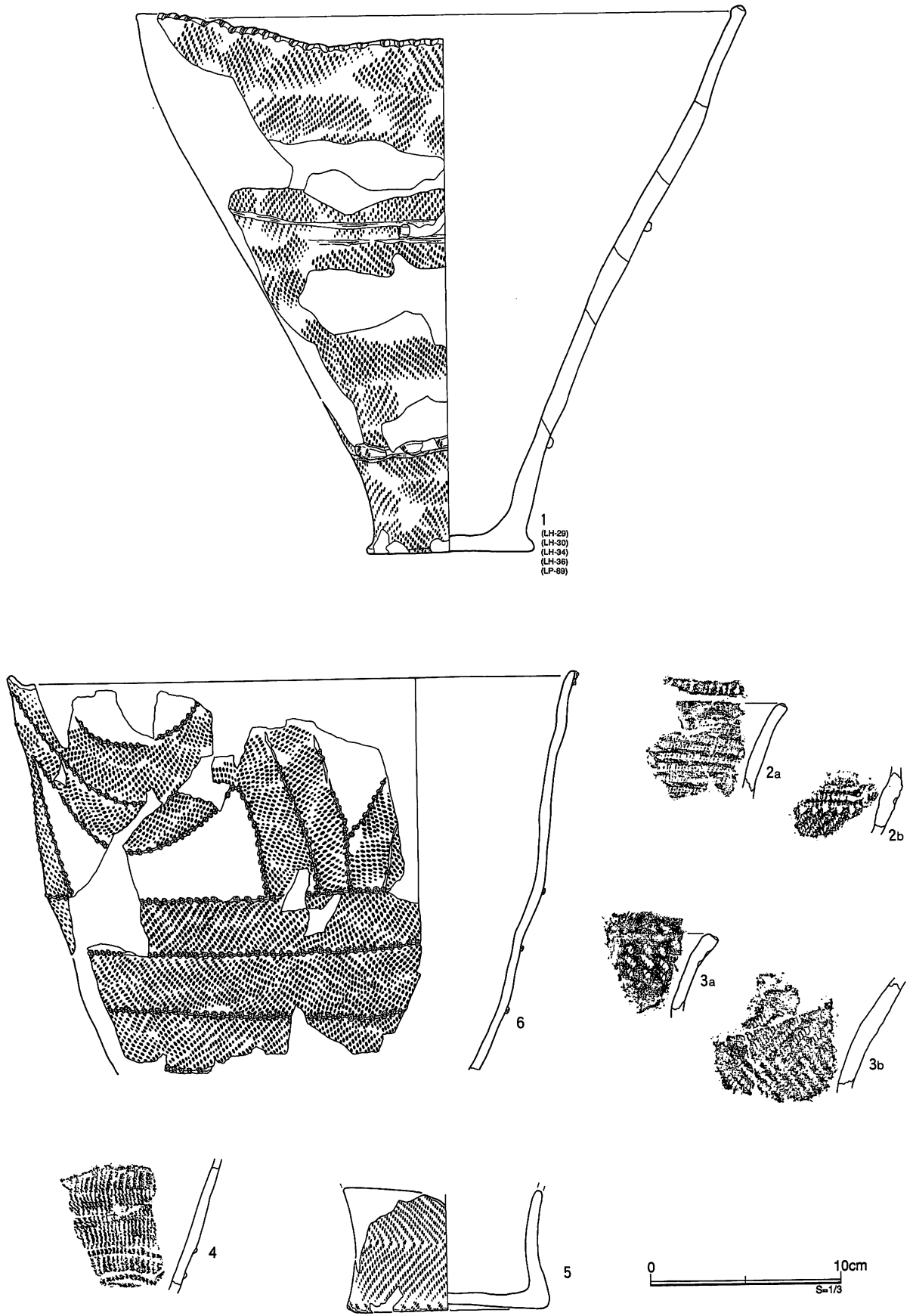
遺物 覆土から I 群 b-2 類土器と炭化物が出土している。1は LH-29・30・34・36、LP-91と複数の遺構から出土した深鉢形土器である。地紋の羽状縄文が施される胴部には横環する粘土紐が二本貼り付けられている。口唇部には爪状の工具による刻みが施され、粘土紐と特徴的に張り出した底部下端には縄による刻みや連続した押捺が巡らされている。2・3は口唇部のやや下に粘土紐が貼り付けられる口縁部である。器面には縄線文と同じ原体の斜行縄文を施している。貼付帯の刻みは縄によるものである。4・5は深鉢形土器胴部で、地紋は4が斜行縄文、5が結束の羽状縄文である。貼付帯上の刻みはどちらも縄によるものである。2~4は同一個体の可能性がある。これ以外では、掲載していないが無文の小形深鉢形土器口縁部が出土している。

LP-91



図IV-60 LP-91

LP-91



図IV-61 LP-91の遺物

時期 覆土と遺物から縄文時代早期後半コッタロ式期である。

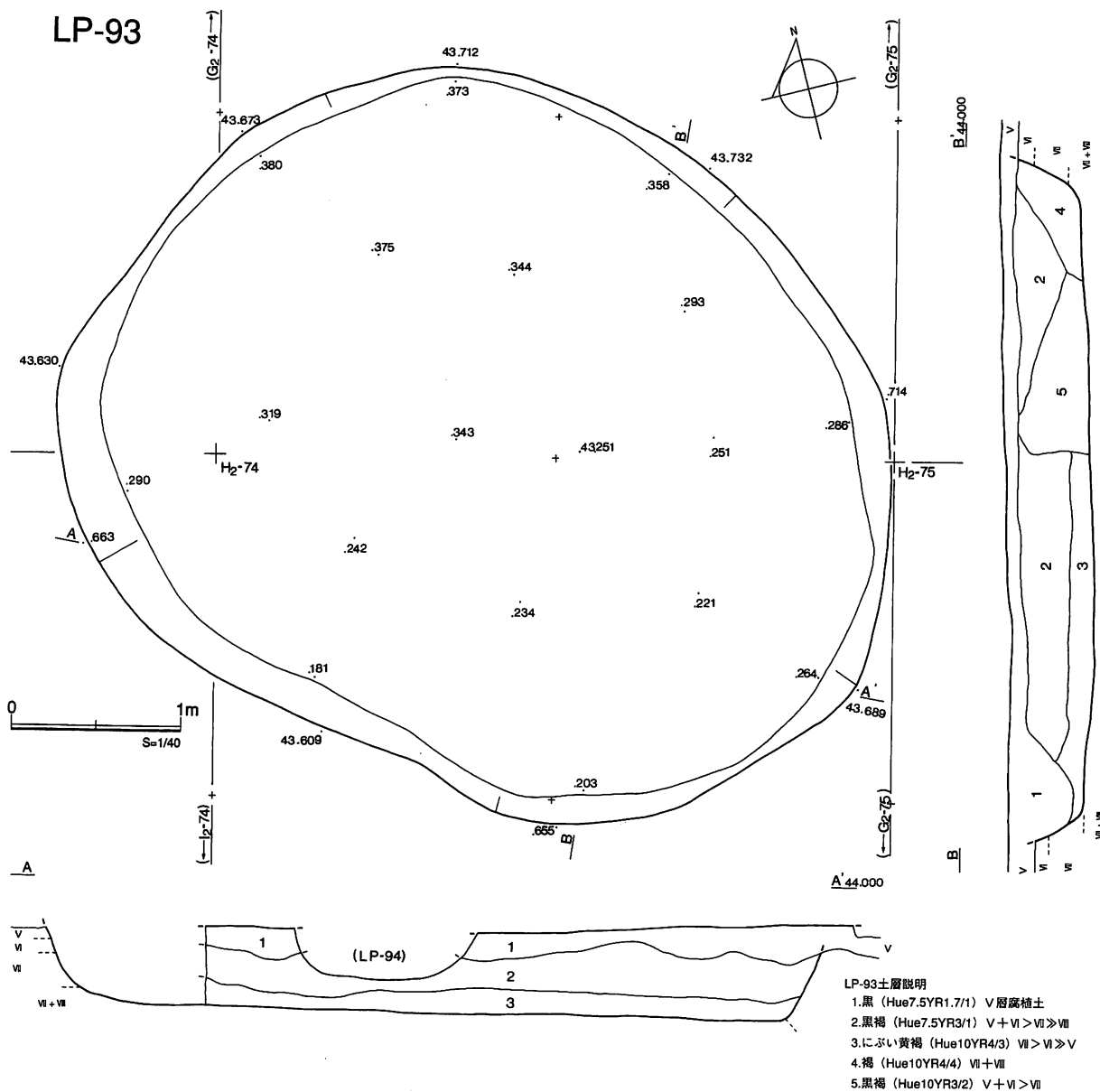
(皆川)

LP-91 (図IV-60・61/図版29・65)

位置：A2-74-a~d 規模：2.48×2.19/1.78×2.02/0.49m 長軸方向：N-38.5°-E

特徴 平面が不整の楕円形を呈する小形の竪穴状土壌である。VI層上面で明褐色土の入るプランと遺物の集中を確認し調査を行った。覆土は腐植土(V層)が主体となる上位の土壌とEn-aが主体となる下位の土壌とに大きく別れる。後者は堆積の状況から埋め戻されているか、上屋状の建造物の盛り土が崩落したものと考えられる。後者にV層腐植土の混入がほとんど観察されないことから掘り込み面はV層下位と考えられる。なお、覆土3層中からは小粒のTa-d₂が微量観察されている。

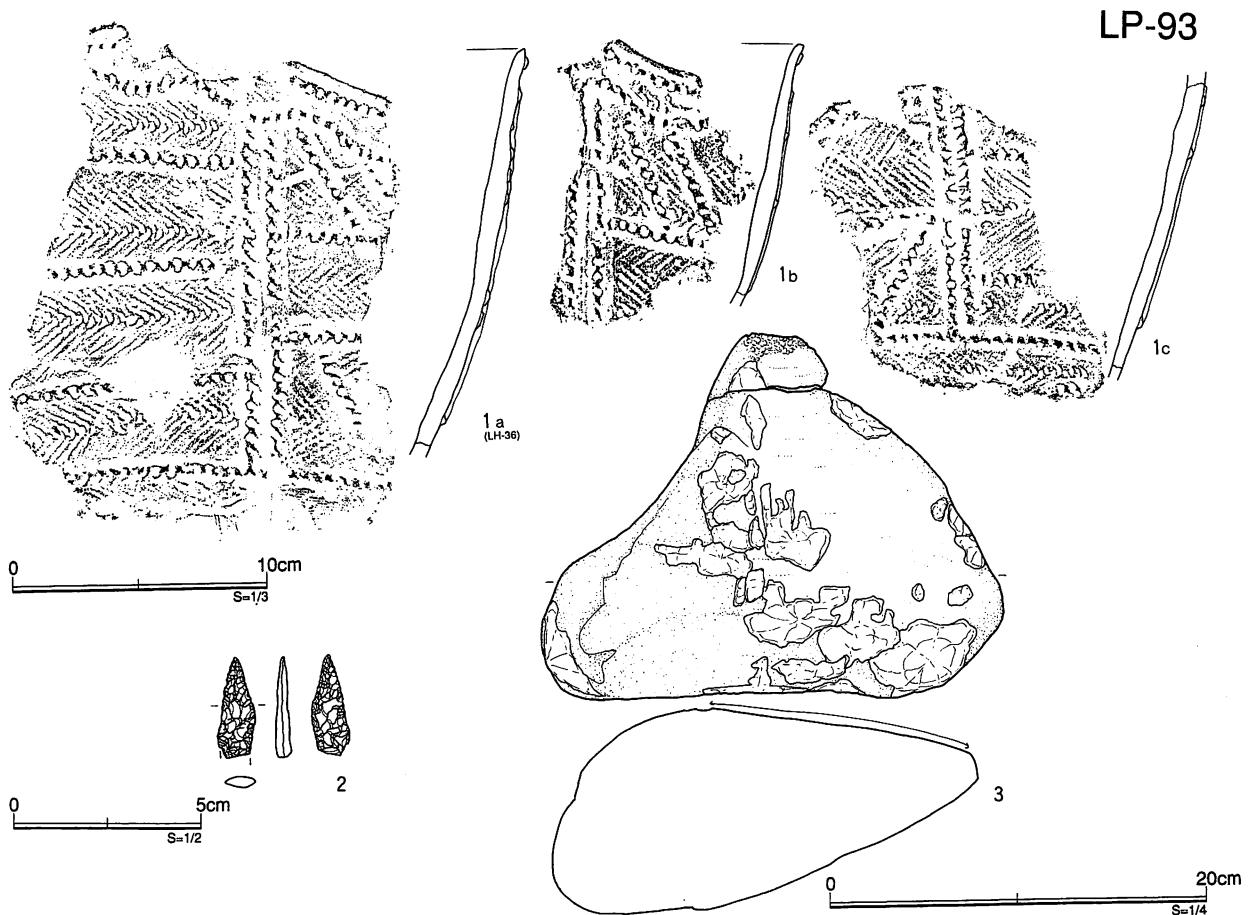
丁寧な作りの平坦部を有した墳底から壁はやや外側に開きながら立ち上がる。底面の中央やや



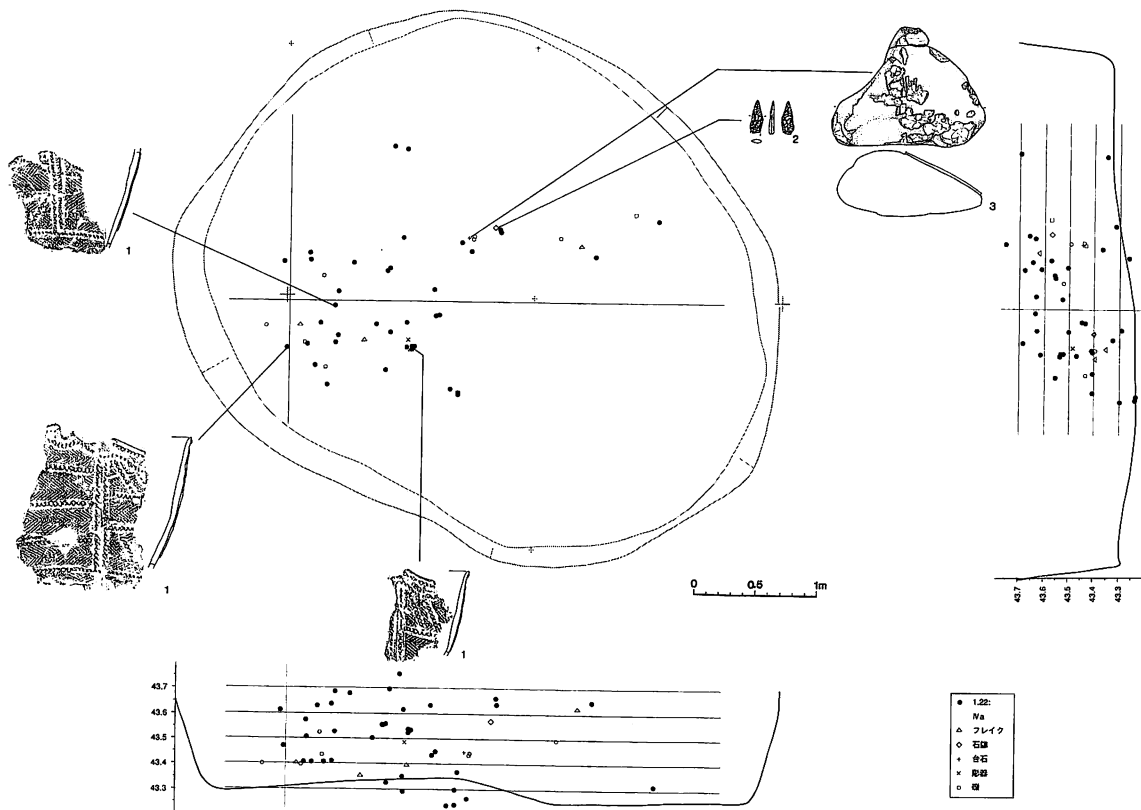
東よりの位置に径が約10cm程の柱穴状のピット（SP-1）を備えており、これは今回調査のLP-89・96・97にも共通した特徴でもある。

遺物はEn-aが主体となる覆土3層の上位から下位にかけて出土している。今回床面で出土したと表記されているものに関しても、多くのものは3層の陥没時に下位に入り込んだものと判断される。出土した遺物はI群b-2類土器多数と黒曜石製のフレイクである。以上のことから本遺構は基的な性格を有した竪穴状の土壌と考えられる。これは覆土が埋め戻された上位に遺物が置かれ、その後に陥没の状態が生じたと推定できることによる。また、壙底のSP-1は遺構の所在を示すモニュメント的なものか簡略的な上屋構造などの存在を意味している可能性がある。また、これ以外にもフラットな床面を使った作業場的な性格の可能性もある。

遺物 覆土から多数のI群b-2類土器が出土している。土器は5~6個体程で大きく接合するものと細かい破片で接合率の低いものがある。1~5はI群b-2類の深鉢形土器である。1はLH-29・30・34・36、LP-89と複数の遺構から出土した深鉢形土器である。地紋の羽状縄文が施される胴部には横環する粘土紐が2本貼り付けられている。口唇部には爪状の工具による刻みが施され、粘土紐と特徴的に張り出した底部下端には縄による刻みや連続した押捺が巡らされている。2・3は口唇がやや外側に張り出す土器の口縁部と胴部である。2は口唇部には縄の刻みが施され、器面には角軸の絡条体圧痕文と斜行縄文、縄の刺突文などが施されている。3もまた口唇部に縄の刻みが施されるもので口縁部に短縄文、胴部に羽状縄文が施される。4は細い縄の



図IV-63 LP-93の遺物



図IV-64 LP-93の遺物出土状況

短縄文が密に施された器壁の薄い胴部である。5は器壁が薄く張り出しの弱い底部である。下端には縄による刻みが巡らされ、器面には0段多条の原体による羽状縄文が施されている。6は口縁部が大きく波状し、口唇断面が尖る器壁の薄い復元土器である。胴上半部に0段多条の原体による羽状縄文と無文帯で構成される文様帯を有し、下半部に羽状縄文が施されている。各文様帯の境界には粘土紐が貼り付けられ、その上には縄による刻みが施されている。

時期 覆土と遺物から縄文時代早期後半コッタロ式期である。

(皆川)

LP-93 (図IV-62~64/図版30・66)

位置：G2-73-c, 74-a~d, H2-73-d, 74-a~d 規模：5.01×3.98/3.68×4.55/0.57m

長軸方向：N-53°-W

特徴 平面が不整の楕円形を呈す大型の竪穴状土壌である。LH-31の調査トレンチで確認し調査を行った。重複するLP-94の下位に位置する。覆土はEn-aを主体とする土壌が、掘り込み面と考えられるV層下位からVI層まで埋め尽くしている。床は緩やかな起伏のある比較的平坦なもので、近接するLH-35と同じ程度の規模を有しているものの、床面で炉跡や柱穴状のピットなどが検出されないことから竪穴状の大型土壌として扱った。環状の位置関係にある遺構群の中では唯一床面で炉跡の検出されていない遺構でもある。遺物は覆土中からI群b-2類を主体とするものが西側から流れ込むような状況で出土している。性格は不明であるが、規模、形態は他の同時期の住居跡に匹敵し、環状の位置関係にある遺構群の一つであることから所謂「物置」、「貯蔵庫」など人の生活空間を構成する構造物の一つと考えられる。

128 遺物 覆土から土器、石器などが出土している。土器はI群b-2類が多く、床面に近い覆土3層か

らも出土していることから本遺構に伴うものと考えられる。それ以外にはIV群a類が僅かにある。石器は石鏃、台石などが出土している。旧石器の彫器は近くで検出されたスポットからの混入であろう。1は大半のものが壁際から内部に流れ込んだ様相で出土したI群b-2類の深鉢形土器である。口縁部は波状を呈し、口唇の断面は尖り気味である。器面には結束の羽状縄文が施されその上に断面三角の粘土紐が縦横斜めに貼り付けられている。貼付帯には縄による刻みが施されている。2は黒曜石製の柳葉形石鏃である。基部は欠損している。3は台石である。

時期 覆土と遺物から縄文時代早期後半コッタロ式期である。 (皆川)

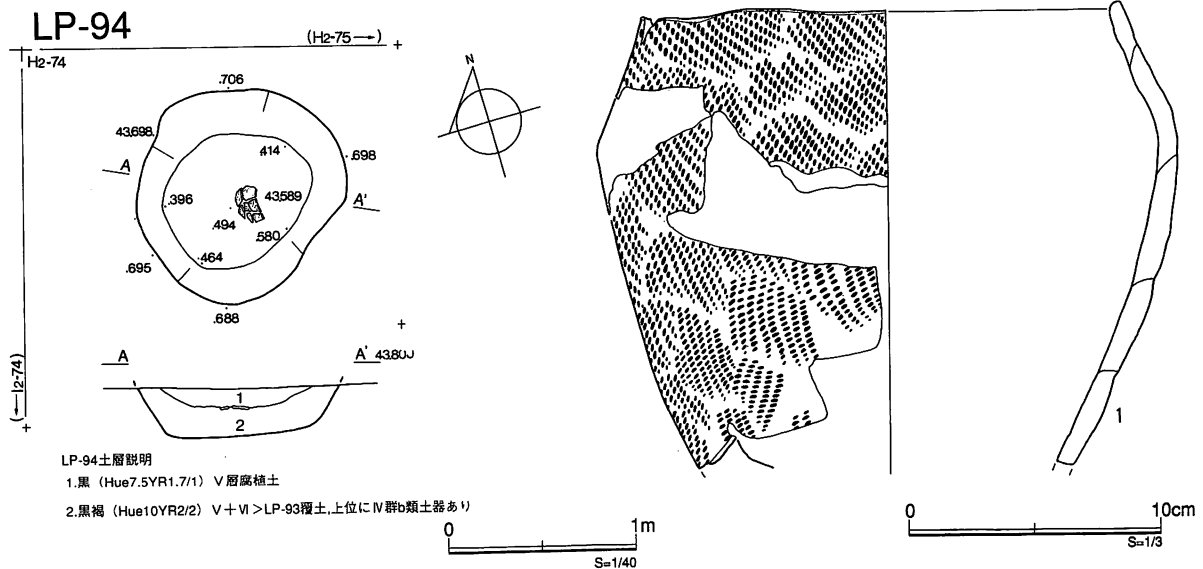
LP-94 (図IV-65/図版31・67)

位置：H2-74-a 規模：1.16×1.06/0.71×0.74/0.27m 長軸方向：N-34.5°-E

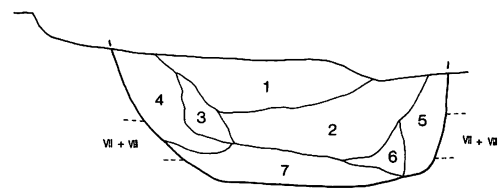
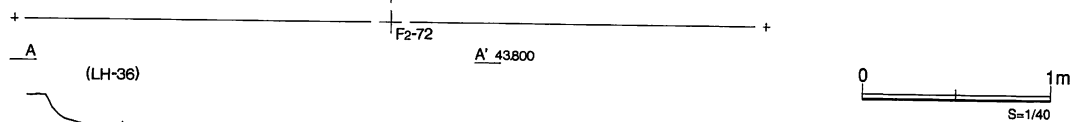
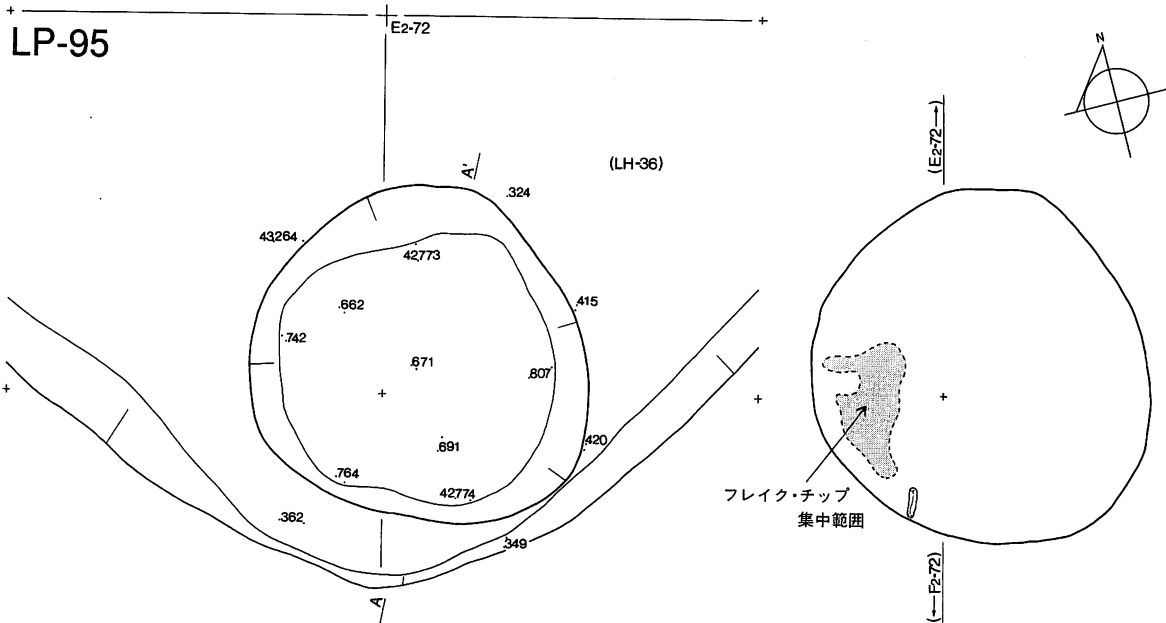
特徴 平面が不整の円形を呈する小形の土壇で、重複するLP-93の上位に位置する。覆土は腐植土を主体とするもので掘り込み面はV層中～下位と考えられる。覆土2層の上面からはIV群b類土器の大きな破片が据え置かれた状態で出土しており、覆土2層は埋め戻されている可能性がある。規模的には疑問が残るが、覆土と遺物の状態から墓的な性格を有した小形の土壇ととらえられる。

遺物 出土したIV群b類土器(手稲式)は約50m離れたU-72-dで出土したものと接合し復元されている。1は復元されたIV群b類の深鉢形土器である。口縁が内側に屈曲する器形で地紋は斜行縄文が施されている。

時期 遺物から縄文時代後期中葉手稲式期である。 (皆川)

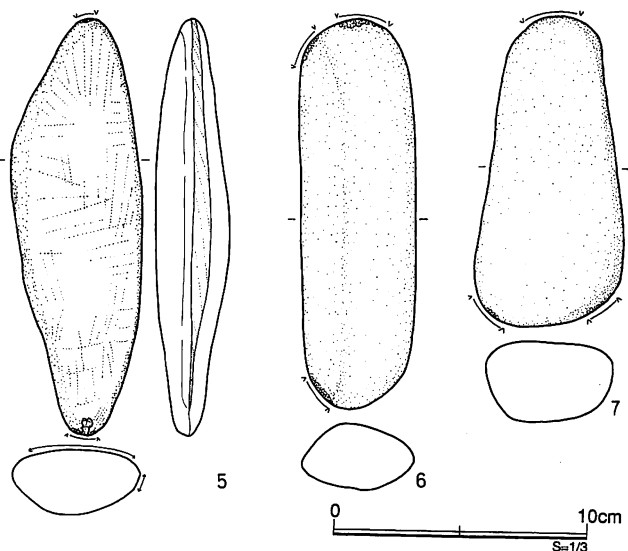
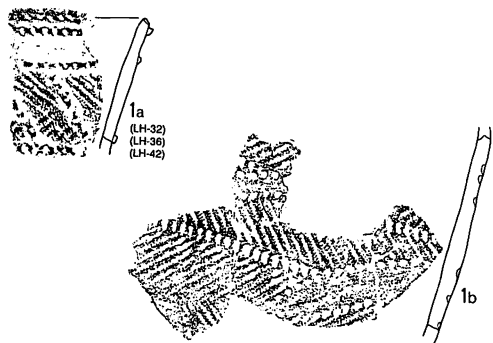
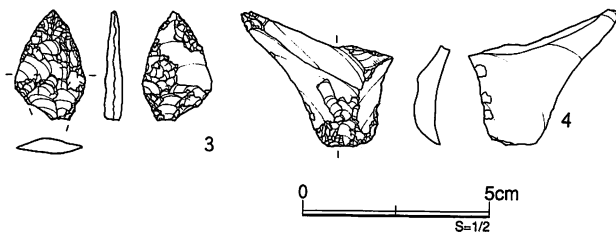


図IV-65 LP-94



LP-95土層説明

1. 黒 (Hue7.5YR1.7/1) V >> VI >> VII
2. 黒 (Hue7.5YR1.7/1) V > VII > VI
3. 暗褐 (Hue10YR3/3) V + VI > VII
4. 褐 (Hue10YR4/4) VI + VII + VIII
5. 黒褐 (Hue10YR2/2) V + VI > VII
6. 黒褐 (Hue10YR2/3) V + VI + VII
7. 黒褐 (Hue10YR3/2) V + VII



LP-95 (図IV-66/図版31・67)

位置：E2-71-c・d, 72-a・b 規模：1.89×1.77/1.44×1.52/0.67m 長軸方向：N-50°-E

特徴 平面が円形を呈する深度の深い土壌である。LH-36の覆土上位から床を壊して掘り込んで新しい遺構で、覆土は腐植土を多く含む土壌で埋め戻してある。墳底は平坦に作られ壁は一部を除いてほぼ垂直に立ち上がっている。遺物は覆土の上位と中～下位で出土している。上位では多数の黒曜石製フレイクと縦長のたたき石などが出土しており、これらが本遺構に伴うものと考えられる。中～下位ではI群b-2類などの遺物が出土しているが量的に少なく、出土状況から考えて埋め戻しが行われた際の混入と考えられる。規模、形態、覆土、遺物から土墳墓と考える。

遺物 覆土1層から土器、石器などが出土している。土器はI群b-2類が出土しているが、これはLH-36の床を掘り抜いた際の混入と考えられる。石器は石鏃やエンドスクレイパーが多数のフレイク・チップが集中する中から出土している。また縦長の礫を使用したたたき石などもその周辺から出土している。1・2はI群b-2類の深鉢形土器である。1はLH-36・42など複数の遺構から出土した土器で口縁部に隆起線と羽状縄文が施され、胴部には刺突列で区画された帯状の無文部が見られる。2は張り出しの弱い小型の底部で、下端には指頭状の施文具で刻みが施されている。地紋は斜行縄文である。3は石鏃、4はエンドスクレイパーである。4の一部はドリル様に使用された可能性がある。5～7は縦長の礫の端部を使用したたたき石である。5の側縁には平滑な部分が見られ、すり石としても使われた可能性をもつ。

時期 形態と遺物から縄文時代晩期末葉と考えられる。

(皆川)

LP-96 (図IV-67/図版32・67)

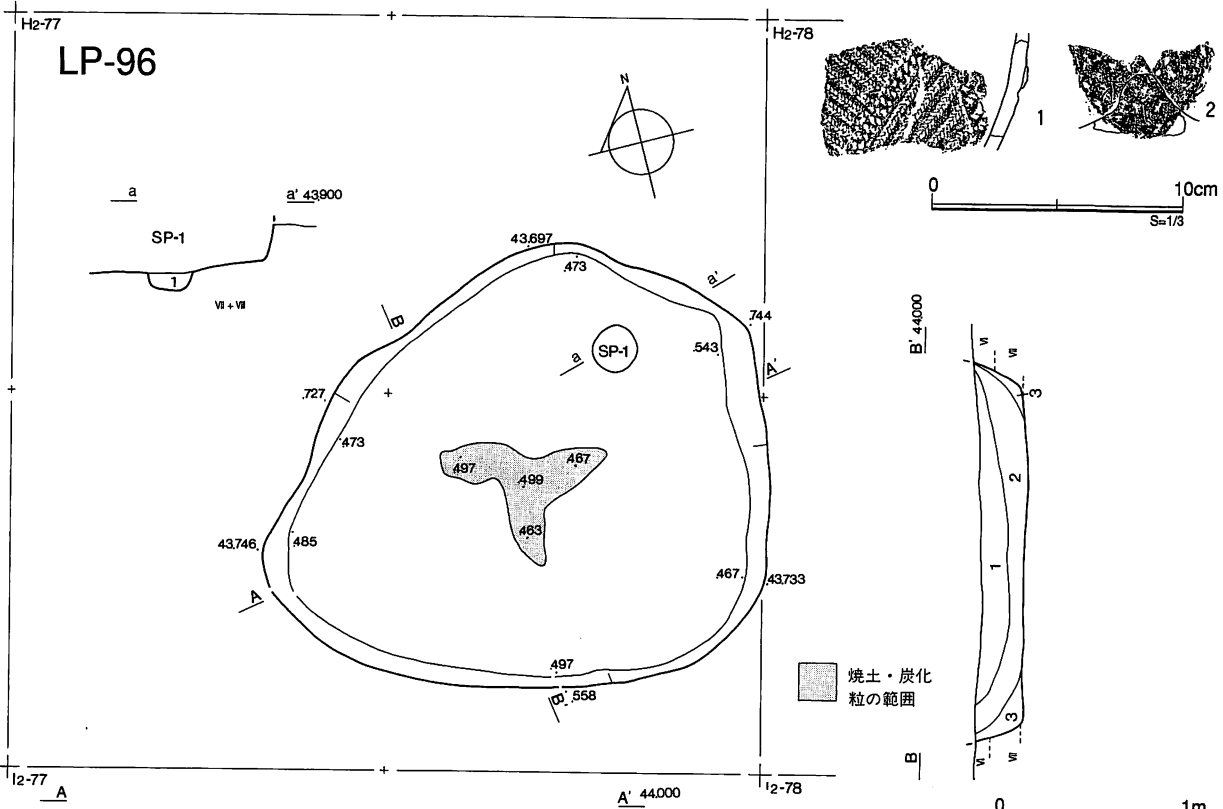
位置：H2-77-a～d 規模：2.87×2.36/2.22×2.59/0.30m 長軸方向：N-75.5°-E

HF-1 規模：0.86×0.57/—×—/— 長軸方向：N-82°-W

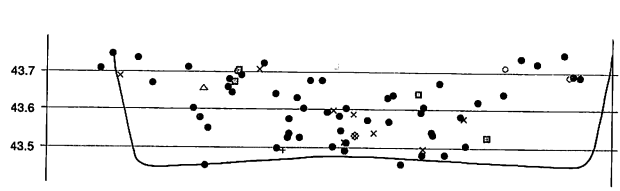
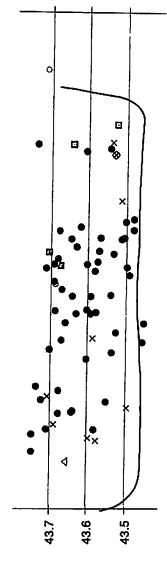
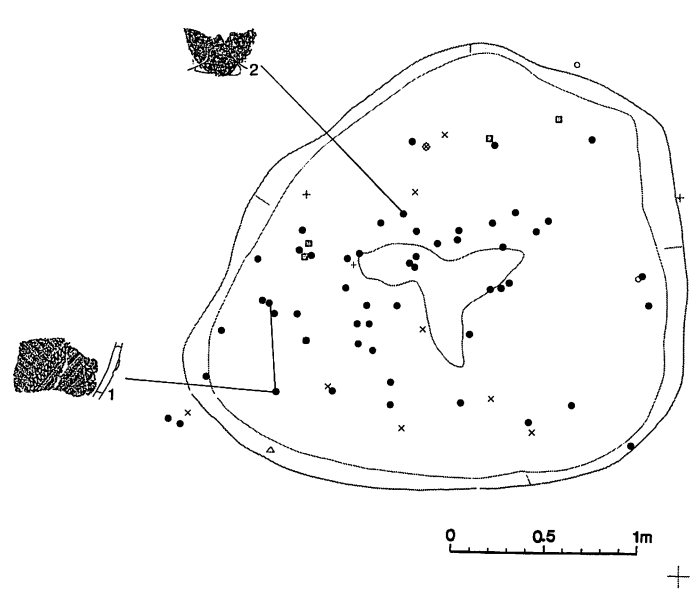
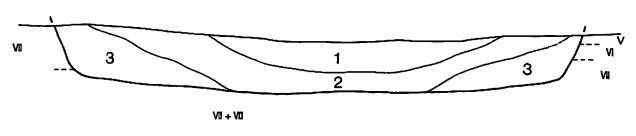
特徴 平面が不整の楕円形を呈する小形の竪穴状土壌である。類似する特徴をもつLP-97と隣接する位置で検出されている。VI層上面で明褐色土の入るプランと遺物の集中を確認し調査を行った。覆土は腐植土(V層)が主体となる上位の土壌とEn-aが主体となる下位の土壌とに別れる。掘り込み面はV層の下位と考えられる。丁寧な作りの平坦部を有した墳底から、壁はやや外側に開きながら立ち上がる。底面のほぼ中央部には三角菱のような平面形の範囲で焼土粒と炭化物の薄い分布が検出されている。その北東側には径が約15cm程の柱穴状のピット(SP-1)が位置しており、これは今回調査のLP-89・91・97にも共通した特徴でもある。

遺物は覆土からI群b-2類を主体とする土器が周囲から流れ込んだような状況で出土しており、明らかに床面からのものと解る遺物は検出されていない。以上のことから本遺構は墓的な性格を有した竪穴状の土壌もしくは作業場的な性格を持つと考えられ、墳底のSP-1は遺構の所在を示すモニュメント的なものか簡単な上屋構造などの存在を意味していると考えられる。これは本遺構がLP-89・91・97に共通した特徴をもつためであるが、覆土に含まれる腐植土の比率がやや高いことや、床面で火を燃やした痕跡が見られる点でこれらとはやや異なる性格をもつといえる。

遺物 覆土から土器、石器、などが出土している。土器はI群b-2類、IV群a類、IV群b類がなどのうち出土状況から見て多数を占めるI群b-2類が主体となる。土器は、細かい破片が多く接合できたものは少ないものの、図示した組紐圧痕文が施されたものが比較的多い。石器は石鏃、たたき石などが出土している。出土状況図に示したたたき石は小形の円礫を使用したものである。



LP-96土層説明
 B
 1.黒 (Hue7.5YR1.7/1) V層腐植土
 2.黒 (Hue7.5YR2/1) V>VI>VII遺物を含む
 3.黒褐 (Hue7.5YR3/2) V+VI+VII>>VII
 SP-1
 1.黒 (Hue7.5YR1.7/1) 黑色土



- 1b-2
- IVa
- △ IVb
- ◇ Uフレイク
- + たたき石
- × フレイク
- 石鏃
- 礫

図IV-67 LP-96

1はI群b-2類の深鉢形土器胴部である。器壁は薄く器面には細い原体の組紐圧痕文と貼付帯が施されている。2はI群b-2類土器の内面の底に貼り付けられた突起部である。1と2は同一個体の可能性がある。

時期 遺物から縄文時代早期後半コッタロ式期である。

(皆川)

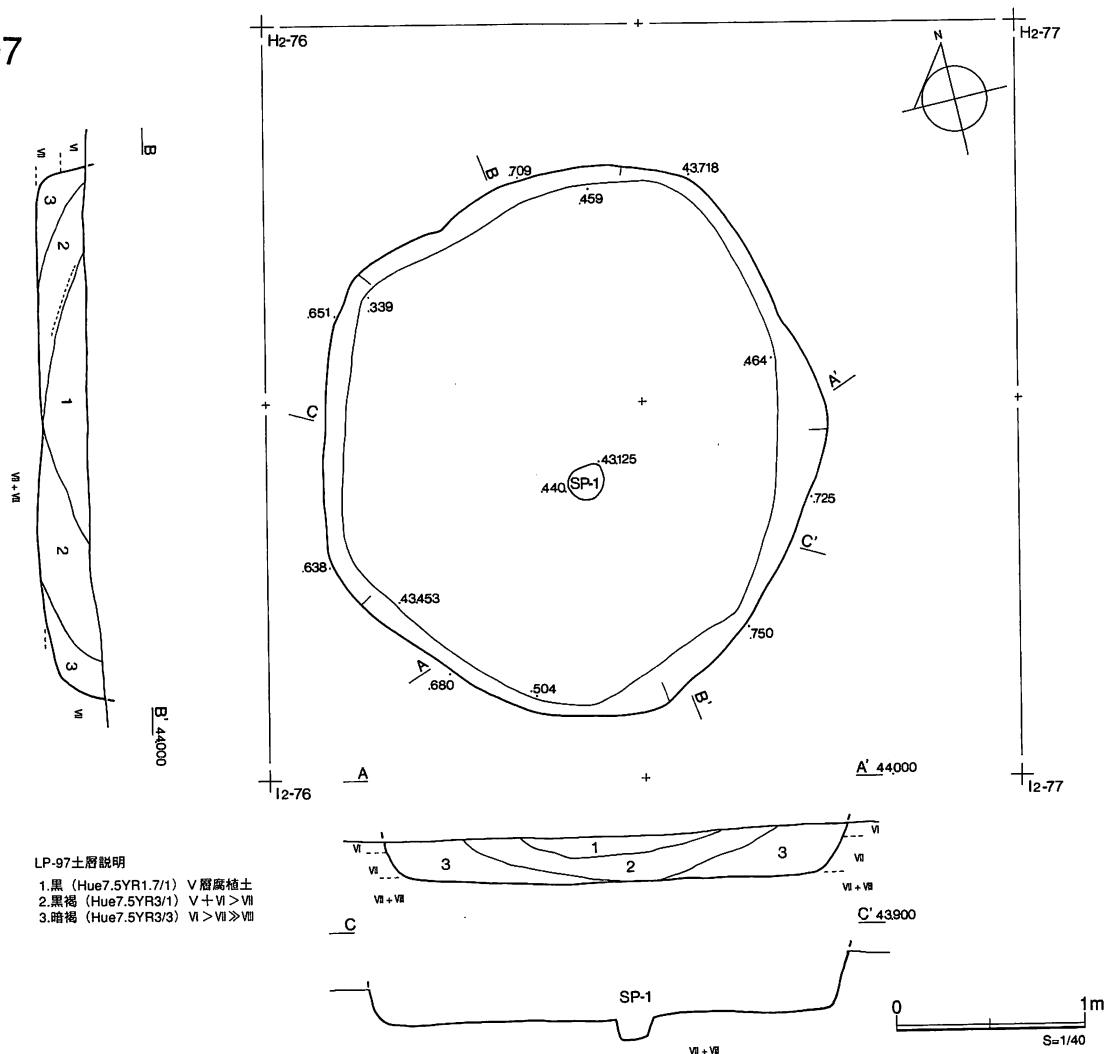
LP-97 (図IV-68・69/図版33・68)

位置：H2-76-a~d 規模：2.95×2.67/2.37×2.79/0.28m 長軸方向：N-31°-E

特徴 平面が不整の楕円形を呈する小形の竪穴状土壌である。VI層上面で明褐色土の入るプランと遺物の集中を確認し調査を行った。覆土は腐植土(V層)が主体となる上位の土壌とEn-aが主体となる下位の土壌とに大きく別れる。後者は堆積の状況から埋め戻されているか、上屋状の構造物の盛り土が崩落したものと考えられる。後者にV層腐植土の混入がほとんど観察されないことから掘り込み面はV層下位と考えられる。なお、覆土3層中からは小粒のTa-d₂がわずかに観察されている。

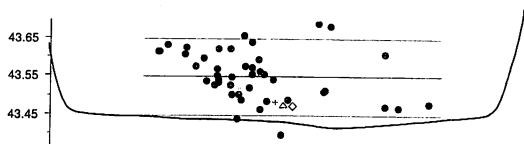
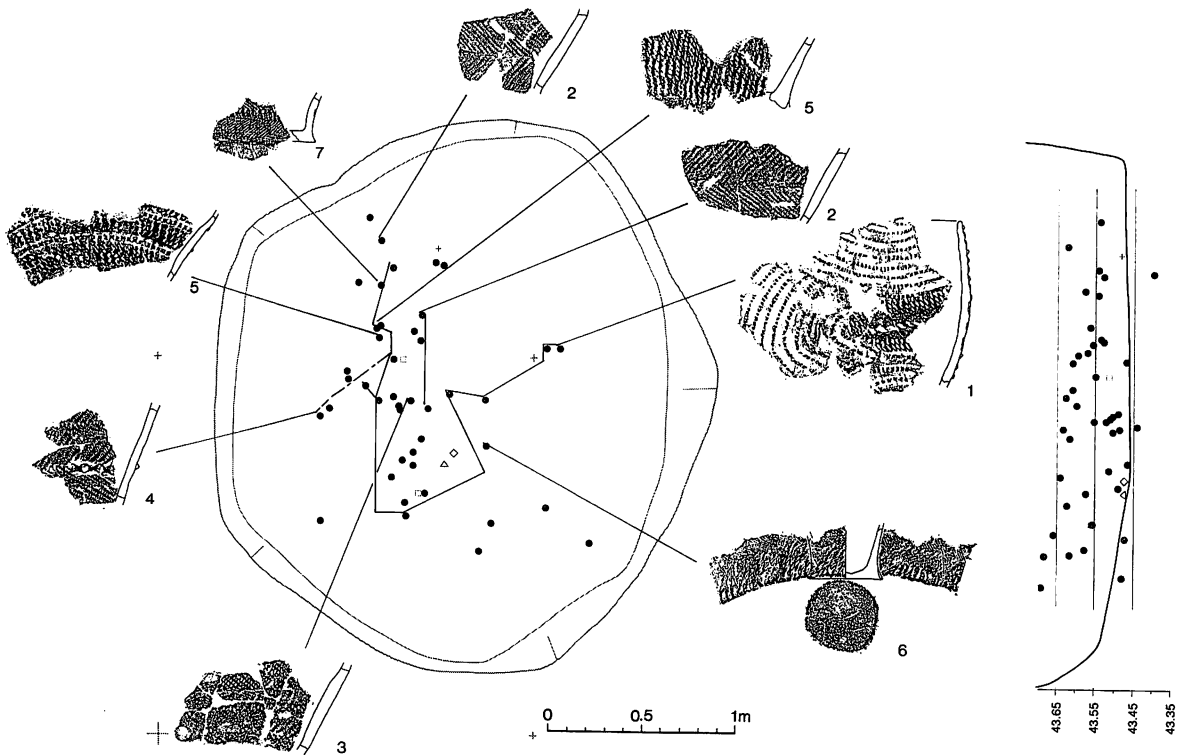
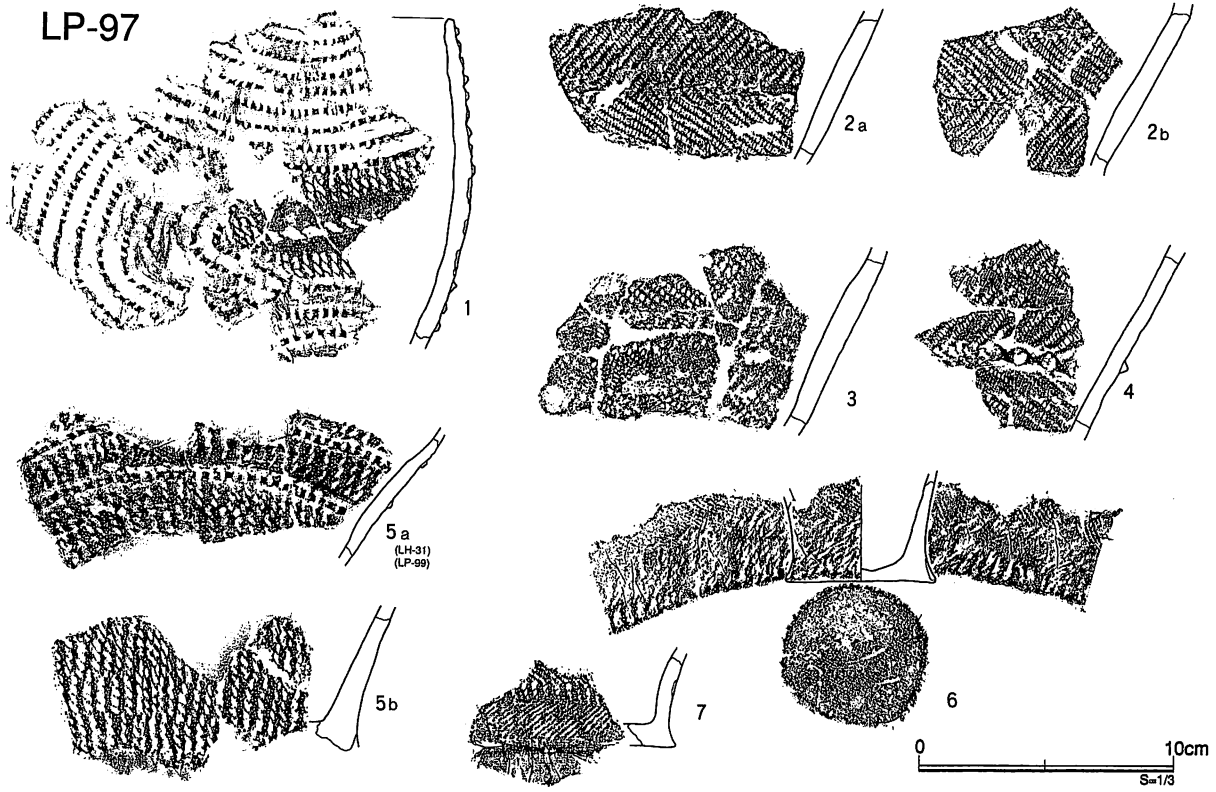
丁寧な作りの平坦部を有した墳底から壁は、やや外側に開きながら立ち上がる。底面の中央やや東よりの位置に径が約10cm程の柱穴状のピット(SP-1)を備えており、これは今回調査の

LP-97



図IV-68 LP-97

LP-97



- 1b-2
- フレイク
- △ 小礫
- ◇ 礫石
- ✦ 礫

図IV-69 LP-97の遺物と遺物出土状況

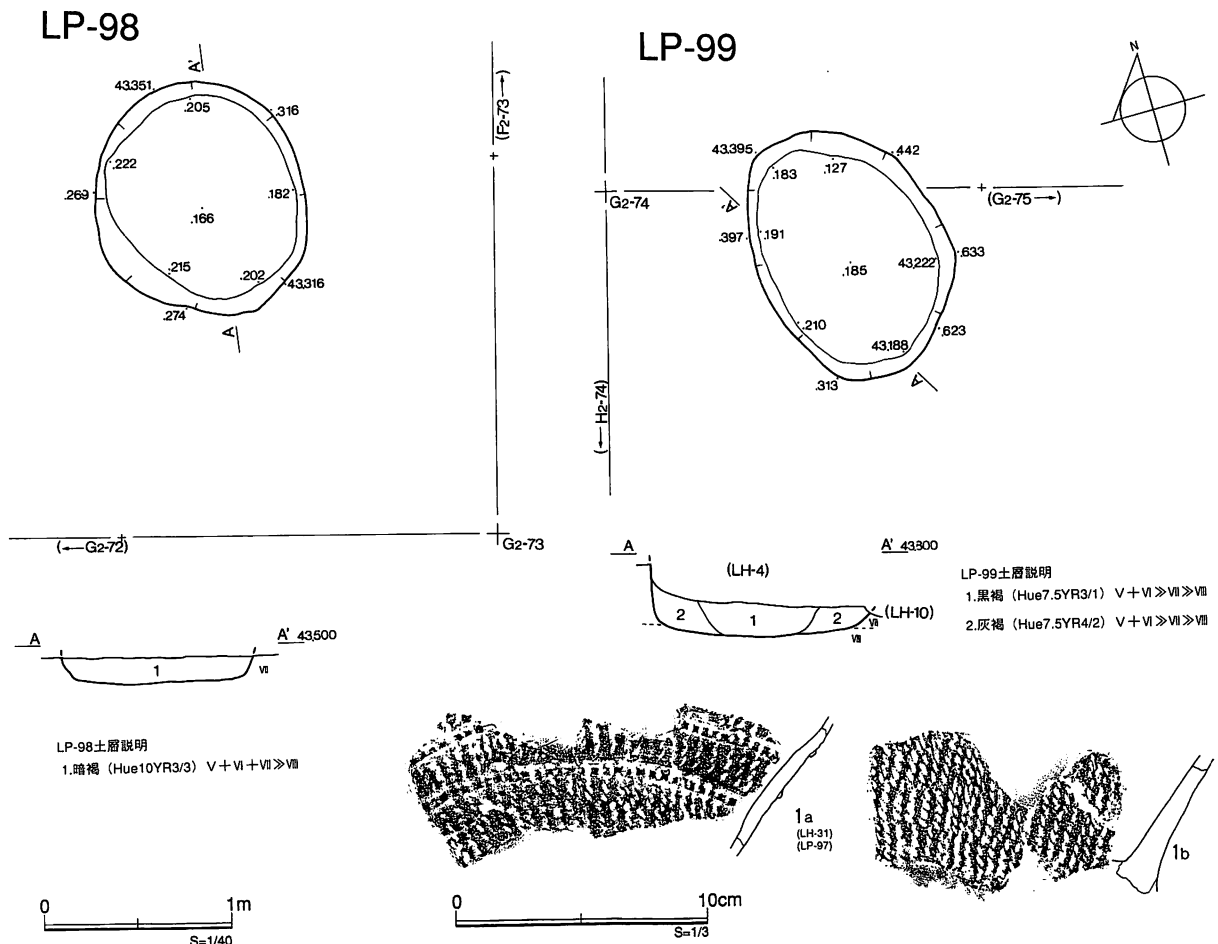
LP-89・91・96にも共通した特徴でもある。遺物はEn-aが主体となる覆土3層の上位から下位にかけて出土している。以上のことから本遺構は墓的な性格を有した竪穴状の土壇と考えられる。これは覆土が埋め戻された上位に遺物が置かれ、その後に陥没の状態が生じた点に着目したためであり、墳底のSP-1は遺構の所在を示すモニュメント的なものか、簡単な上屋構造などの存在を意味している可能性がある。また、これ以外にもフラットな床面を使った作業場的な性格の可能性もある。

遺物 遺物は覆土から土器、石器、炭化物が出土している。土器はI群b-2類が多く、7~8の個体を含んでいるが接合率は低い。石器は砥石が出土している。

1~7はI群b-2類の深鉢形土器である。1は断面の丸い口唇部が少し内側に入る波状の口縁部である。器面には粘土紐を密に施した文様が施されている。このほか器面には0段多条の原体による短縄文も見られ、貼付帯に施される刻みの施文具もまた同じ原体による。2~4は地紋に羽状縄文が施された胴部である。2・4は撚りの異なる0段多条の原体を2本使用し、3・4は結束の羽状縄文である。器壁の比較的薄い4の器面には縄の刻みが入る貼付帯が見られる。5は地紋に0段多条の原体による短縄文を密に施した底部付近の破片である。器壁は薄く底部の張り出しも弱い。高さのない貼付帯には棒状の工具による刻みが加えられている。6・7は下端が張り出した器壁の薄い小型土器の底部である。地紋は細かい0段多条の原体による羽状縄文で、6はくびれ部に同じ原体の短縄文を巡らせている。7は胴部寄りの位置に短縄文を施している。

時期 遺物から縄文時代早期後半コッタロ式期である。

(皆川)



図IV-70 LP-98・99

LP-98 (図IV-70/図版31)

位置：F2-72-a~d 規模：1.29×1.13/0.91×1.09/0.17m 長軸方向：N-9°-W

特徴 平面形が楕円を呈する土壌である。LH-31の床面で確認したもので、遺構の上部はLH-31の床面によって欠失している。覆土は埋め戻しで、掘り込み面はV層の中～下位と考えられる。墳底は平坦に掘り込まれており、壁は急激に立ち上がっている。遺物は出土していない。今回の調査で見つかった遺構ではLP-88・99が類似の特徴を示しており、これらはLH-37もしくはLH-39を取り巻くように配置されている。覆土、形態、類似遺構の配置などから、本遺構はLH-37か39に伴う土壌墓と考えられる。

遺物 遺構出土遺物無し。

時期 遺構の配置から縄文時代中期後半～後期前葉の可能性はある。

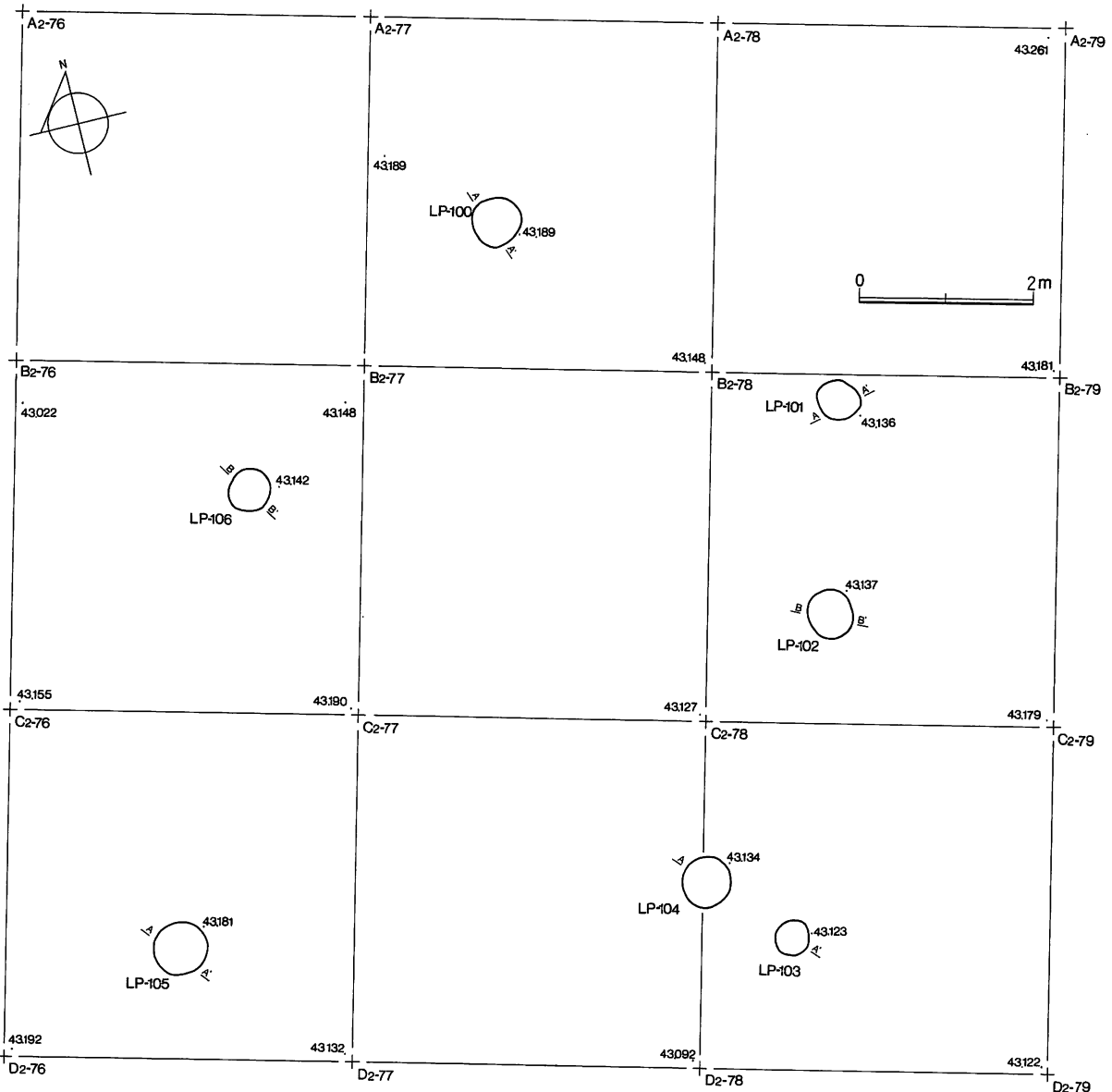
(皆川)

LP-99 (図IV-70/図版34・67)

位置：F2-74-b, G2-74-a 規模：1.32×1.0/0.87×1.21/0.24m 長軸方向：N-21.5°-W

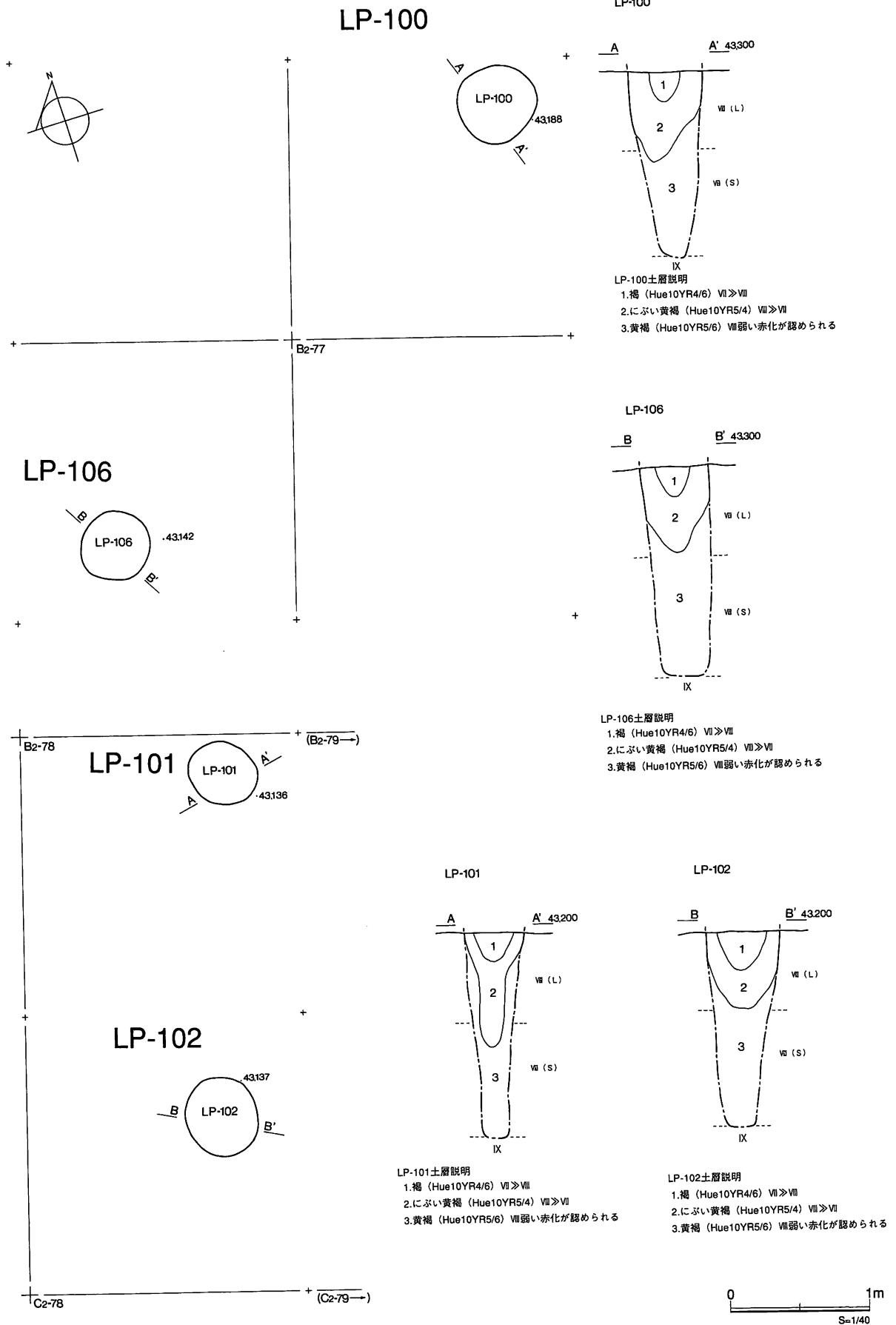
特徴 平面形が楕円を呈する土壌である。LH-31の調査を対象としたトレンチで確認したもので、

LP-100~106

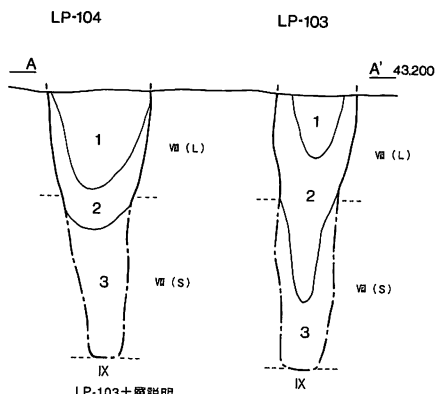
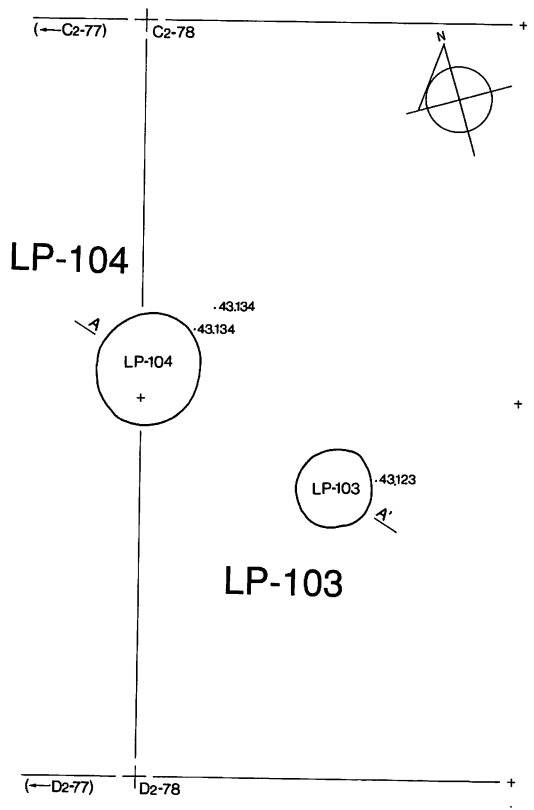


図IV-71 LP-100~106の配置

IV Ta-c下位の遺構

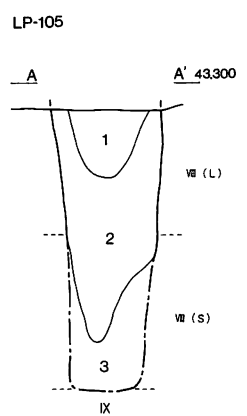
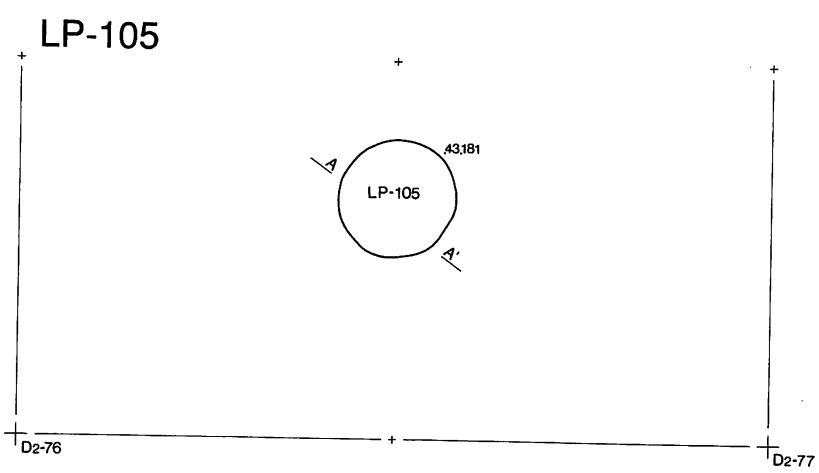


図IV-72 LP-100・101・102・106

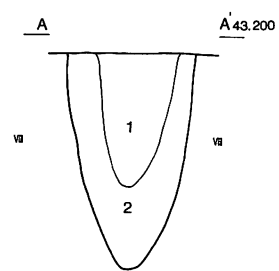
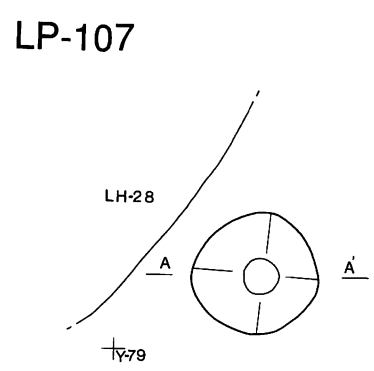


LP-103土層説明
 1.褐 (Hue10YR4/6) VII>VII
 2.にぶい黄褐 (Hue10YR5/4) VII>VII
 3.黄褐 (Hue10YR5/6) VII弱い赤化が認められる

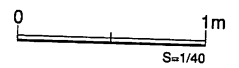
LP-104土層説明
 1.褐 (Hue10YR4/6) VII>VII
 2.にぶい黄褐 (Hue10YR5/4) VII>VII
 3.黄褐 (Hue10YR5/6) VII弱い赤化が認められる



LP-105土層説明
 1.褐 (Hue10YR4/6) VII>VII
 2.にぶい黄褐 (Hue10YR5/4) VII>VII
 3.黄褐 (Hue10YR5/6) VII弱い赤化が認められる



LP-107土層説明
 1.明黄褐色 (Hue10YR6/6)
 2.にぶい黄橙 (Hue10YR6/4)



図IV-73 LP-103・104・105・107

覆土は埋め戻し、掘り込み面はV層の中～下位と考えられる。墳底は平坦に掘り込まれており、壁は急激に立ち上がっている。遺物は覆土下位からI群b-2類土器と礫が出土しているが、出土状況から考えてこれらは埋め戻し時の混入の可能性が高い。今回の調査で見つかった遺構ではLP-88・98が類似の特徴を示しており、これらはLH-37もしくはLH-39を取り巻くように配置されている。覆土、形態、類似遺構の配置などから、本遺構はLH-37か39に伴う土壇墓と考えられる。

遺物 覆土からI群b-2類土器が出土しているが、これは埋め戻し時の混入であろう。掲載遺物なし。

時期 遺構の配置から縄文時代中期後半～後期前葉の可能性がある。(皆川)

LP-100～106 (図IV-71～73)

LP-100

位置：A2-77-b 規模：0.58×0.57／－×－／0.65m 長軸方向：N-14°-E

LP-101

位置：B2-78-a 規模：0.51×0.45／－×－／0.83m 長軸方向：N-58°-W

LP-102

位置：B2-78-b 規模：0.58×0.52／－×－／0.55m 長軸方向：N-13°-W

LP-103

位置：C2-78-b 規模：0.43×0.41／－×－／1.09m 長軸方向：N-42°-E

LP-104

位置：C2-77-c・d, 78-a・b 規模：0.60×0.55／－×－／0.74m 長軸方向：N-24°-E

LP-105

位置：C2-76-b・c 規模：0.64×0.61／－×－／1.23m 長軸方向：N-43.5°-E

LP-106

位置：B2-76-d 規模：0.53×0.50／－×－／0.61m 長軸方向：N-62.5°-E

特徴 VIII層(En-P)上面で検出した大型の柱穴状遺構である。全てに対して、VIII層(En-P)を含むIX層までの半切を行い覆土と周囲の地層の堆積状況を調査した。

個々に共通する特徴は以下の通りである。検出面のVIII層上面でのプランは円形で、深さはIX層にまで達すると考えられる上位がやや広がる円筒形ものがほとんどである。壁は堅く締まり、床および壁の周囲の土層には乱れはない。

覆土は主にEn-a(VII・VIII層)が主体となる三つの土質で充填されており、上位の1層はVII層に相当するローム質土、次の2層はそのローム質土とEn-Pが混じっているものである。覆土1・2層は堅く締まりのある堆積で、断面の形は上位で幅が広く下位に向かって先細りになるもので土質から考えて上位堆積層からの流れ込みと考えられる。1層の上位には稀にVI層に似た薄い腐植土が入るものもある。3層は弱く赤化した比較的大粒のEn-Pで、これは締まりがなく僅かな力で崩落するように掘れる。また、下位の3層は観察者によって異なった見解があるものの、上から崩落したと考えられるやや大粒のEn-Pが酸化で変色していることから考えて、何らかの状態IX層まで達していた可能性は極めて高い。また、類似の形態と覆土とをもつLH-35HP-2の覆土3層中からは朽ちかかった材の痕跡が見つかったことや、いくつかの類似遺構直下のIX層上面にマイナスドライバー状の浅い溝が認められこれがピット内に収まっていた柱にかか

る圧力による可能性があることなどもそれを裏付けるものと推定できる。

掘り込み面は覆土中に腐植土の顕著な混入が見られないことから考えてVI～VII層と推定される。

これらには意図的な配置が伺えるため、何らかの遺構に伴う柱の配列が考えられる。

LP-100～106は一定区域に集中しており、それらの位置関係に配列らしきものが見えることをここで述べておきたい。

なお、LP-105に関してはLH-30の壁に近い位置にありこの住居に強く関る可能性もある。

時期 遺構の配置から見たときには縄文時代早期後半、覆土の腐植土混入の割合から見たときには更に古い可能性がある。
(皆川)

LP-107 (図IV-73, 表I-7・V-4)

位置 : X-79-b, Y-79-a **規模** : 0.68×0.64×1.16

調査 LH-28および、周辺包含層の調査終了後、重機を用いてLH-28の周囲を床面とほぼ同レベルのVIII層中まで掘削を行った。その結果、LH-28の床面で検出したHP-5・6と、LH-28の西側で検出されたLP-86とも類似する明黄褐色のローム質土の落ち込みを確認した。規模の違いはあるが、これらは同様のものと考えられる。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代早期後半以前？

(笠原)

3. 焼土 (図IV-74～78, 図版69, 表V-4～7)

LF-253 (図IV-74, 表I-7・V-4)

位置 : U-73-a・b **規模** : 1.37×0.55×0.09

調査 IV層(Ta-c)除去後、V層上面にて橙褐色の焼土を検出した。焼土には炭化物を含む。人為的なものであるかは判別しがたい。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代後期～晩期と推定される。

(笠原)

LF-254 (図IV-74, 表I-7・V-4)

位置 : Y-78-c **規模** : 0.43×0.33×0.10

調査 IV層(Ta-c)除去後、V層上面で確認されたが、倒木あるいは抜根による攪乱で下位から持ち上げられた可能性がある。焼土は橙褐色である。

遺物 出土していない。

時期 不明。

(笠原)

LF-255 (図IV-74/図版34)

位置 : T-78-a～d **規模** : 1.99×1.40/—×—/0.19m **長軸方向** : N-32.5°-W

特徴 V層下位で確認した焼土である。範囲の一部には炭化物の小さなまとまりが認められ、焼土の下位には浅い掘り込み様の窪みが見つまっている。周辺の包含層からはI群b-2類とIV群a類の土器が多く出土している。

140 **遺物** 覆土からI群b-2類土器が出土している。掲載遺物無し。

時期 覆土の遺物から縄文早期後半と考えられる。(皆川)

L F-256 (図IV-74)

位置：U-76-d, 77-a 規模：1.10×0.32/—×—/0.05m 長軸方向：N-66°-E

特徴 VI層上面で検出された焼土である。赤化も弱く二次的な堆積の可能性がある。周辺の包含層からはI群b-2類とIV群a類の土器が出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物なし。

時期 覆土の遺物から縄文早期後半か後期前葉の可能性がある。(皆川)

L F-257 (図IV-74)

位置：B2-71-d 規模：0.56×0.41/—×—/0.04m 長軸方向：N-71°-W

特徴 VI層上面で検出された焼土である。南西にはLH-33が位置し、周辺の包含層からはI群b-2類土器が多数出土している。

遺物 覆土からチップが出土している。掲載遺物無し。

時期 周辺の遺物から縄文時代早期後半の可能性がある。(皆川)

L F-258 (図IV-74)

位置：Z-70-b, A2-70-a

規模a：0.71×0.36/—×—/0.04m 長軸方向：N-16°-W

規模b：0.54×0.34/—×—/0.03m 長軸方向：N-65°-E

特徴 VI層上面で検出された焼土である。2ヶ所に別れているが本来的には一のものであろう。周辺の包含層からはI群b-2類土器が多数出土している。

遺物 焼土を除去した面でフレイクが出土している。掲載遺物無し。

時期 周辺の遺物から縄文時代早期後半の可能性がある。(皆川)

L F-259 (図IV-74)

位置：Y-71-b・c, Z-71-a・d 規模：0.48×0.41/—×—/—m 長軸方向：N-84°-E

特徴 VI層上面で検出された焼土である。周辺の包含層からはI群b-2類土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物なし。

時期 周辺の遺物から縄文時代早期後半の可能性がある。(皆川)

L F-260 (図IV-74)

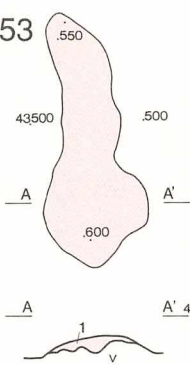
位置：Z-73-d 規模：0.44×0.28/—×—/0.02m 長軸方向：N-48°-E

特徴 VI層上面で検出された焼土である。波線部は炭化粒の範囲である。赤化は弱く炭化粒と共に二次的な形成の可能性がある。近くにはLH-34とLP-89が位置している。付近の包含層からはI群b-2類土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物なし。

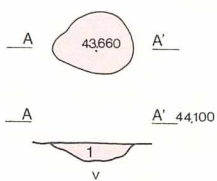
時期 周囲の遺物と検出面から縄文時代早期後半と考えられる。(皆川)

LF-253



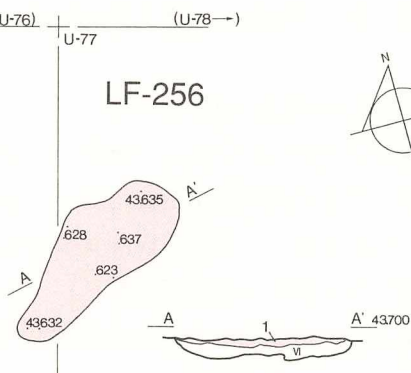
LF-253土層説明
1. 橙褐色焼土 V

LF-254



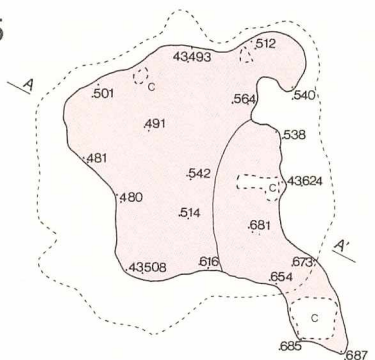
LF-254土層説明
1. 橙褐色焼土 V

LF-256



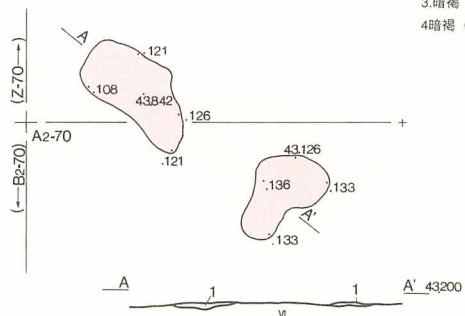
LF-256土層説明
1. 褐 (Hue7.5YR3/4) 弱い焼土

LF-255



(LF-255下位の浅い窪み)

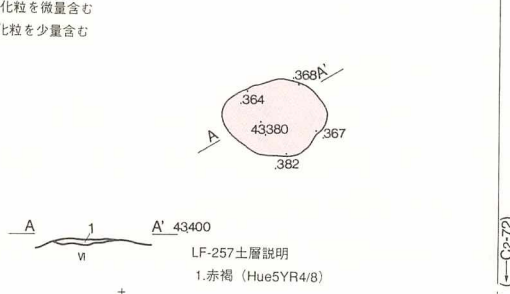
LF-258



LF-258土層説明
1. 赤褐 (Hue5YR4/8)

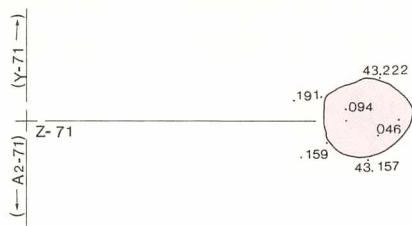
LF-255土層説明
1. 赤褐 (Hue5YR4/8) 焼土
2. 褐 (Hue7.5YR4/6) うすい (弱い) 焼土
3. 暗褐 (Hue10YR3/4) V+VI 炭化粒を微量含む
4. 暗褐 (Hue10YR3/3) V > VI 炭化粒を少量含む

LF-257

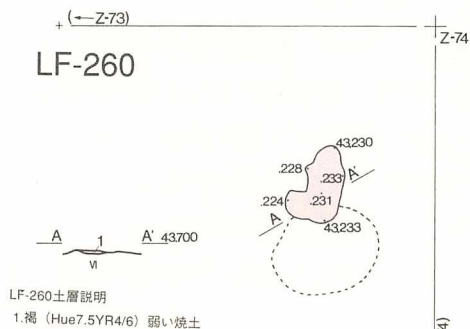


LF-257土層説明
1. 赤褐 (Hue5YR4/8)

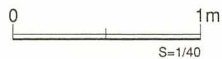
LF-259



LF-260



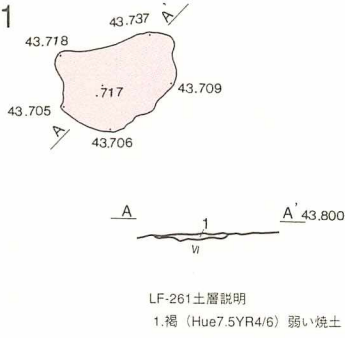
LF-260土層説明
1. 褐 (Hue7.5YR4/6) 弱い焼土



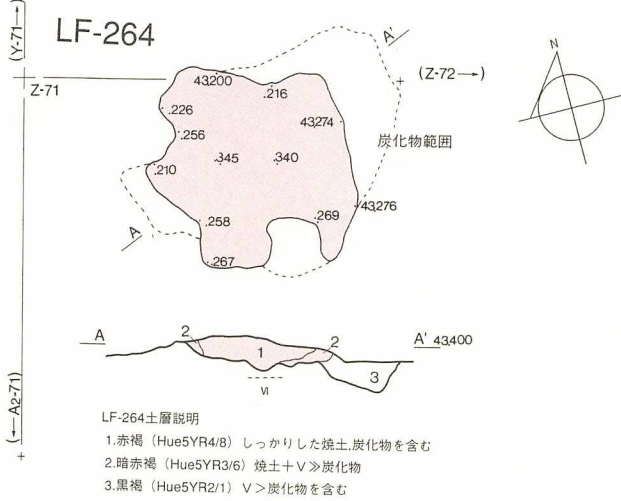
図IV-74 焼土(1)

IV Ta-c下位の遺構

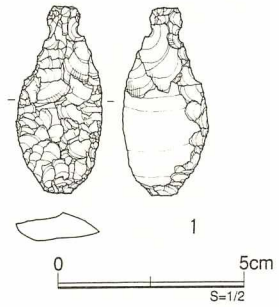
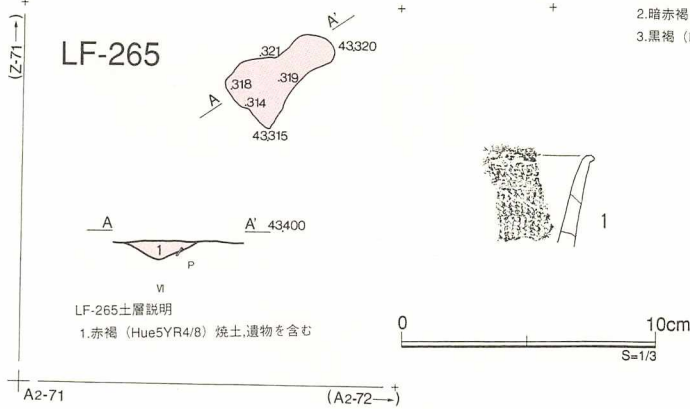
LF-261



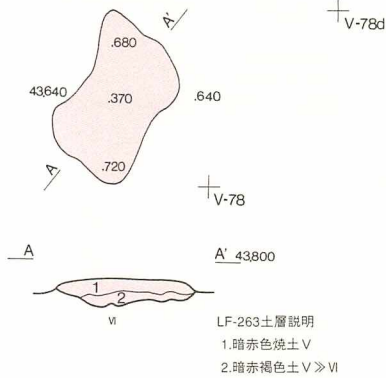
LF-264



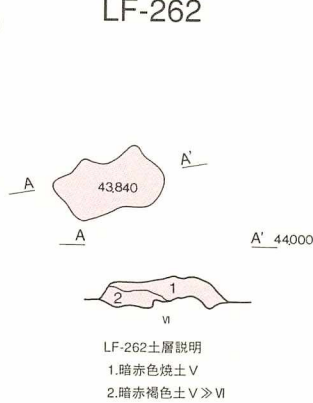
LF-265



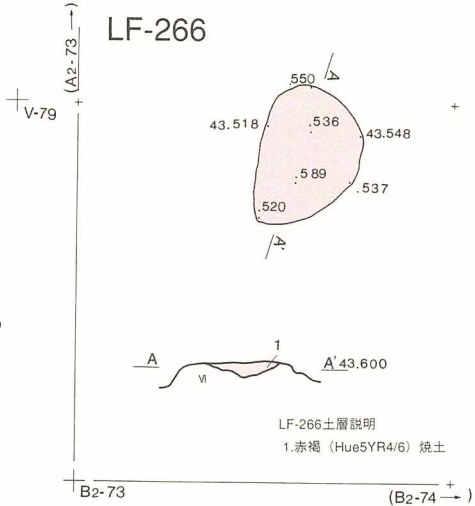
LF-263



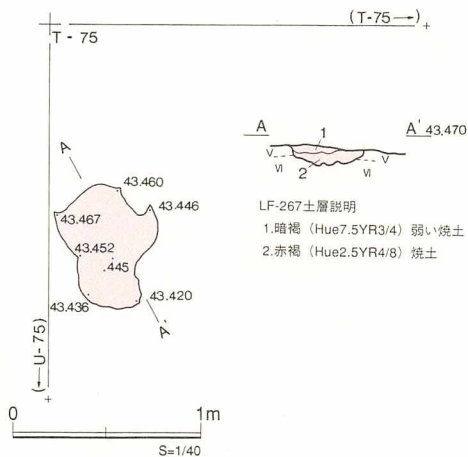
LF-262



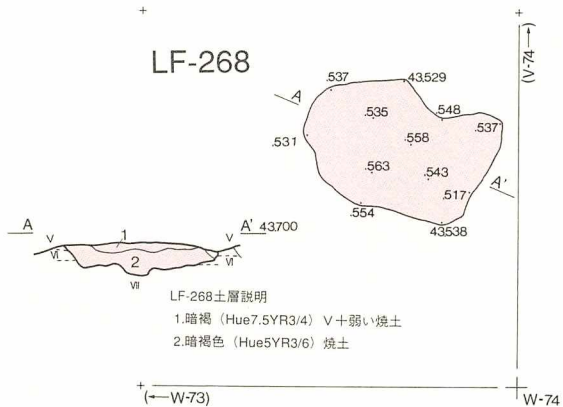
LF-266



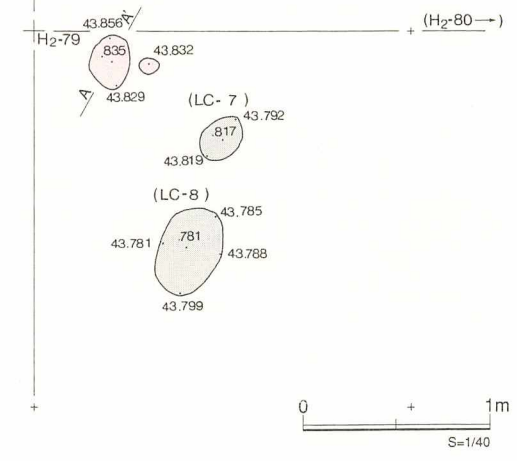
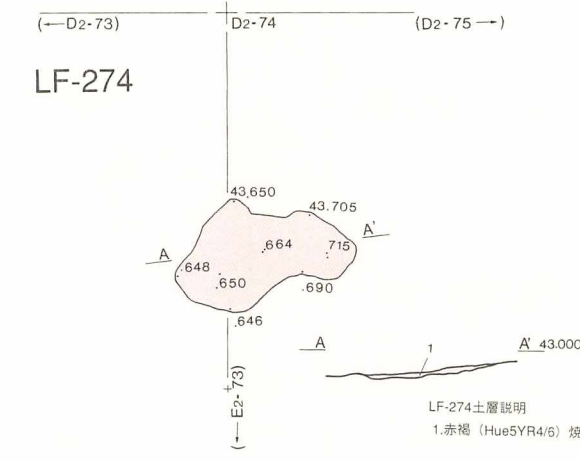
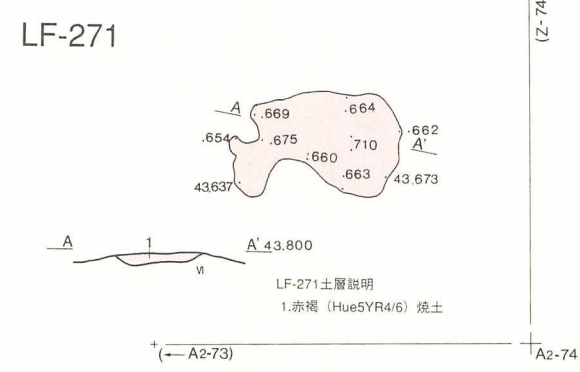
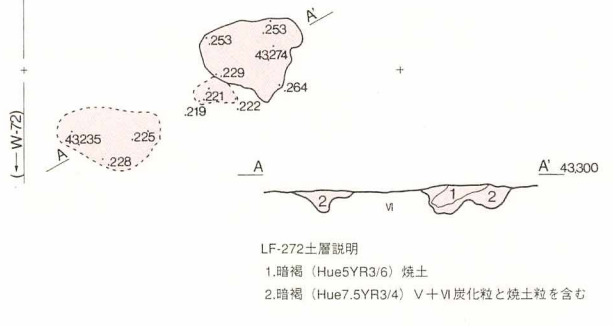
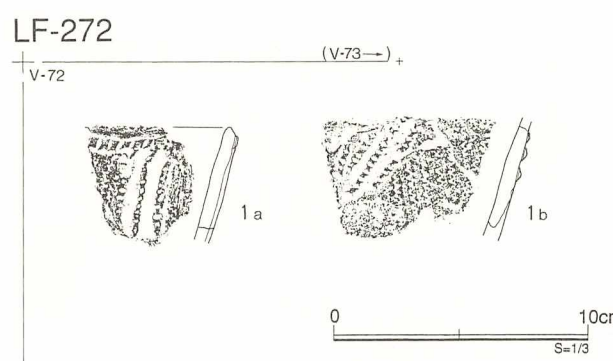
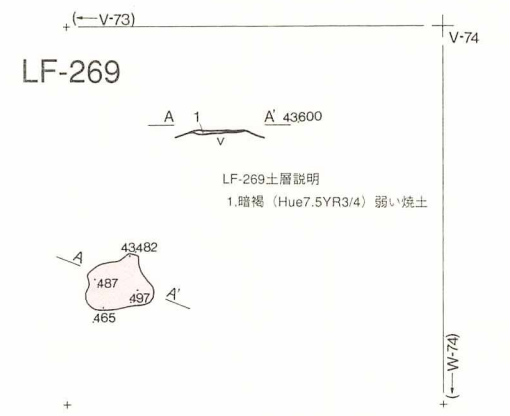
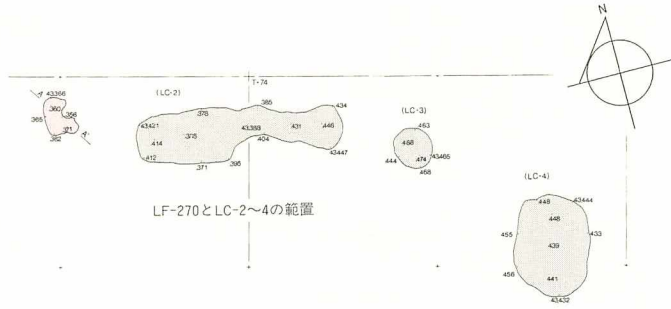
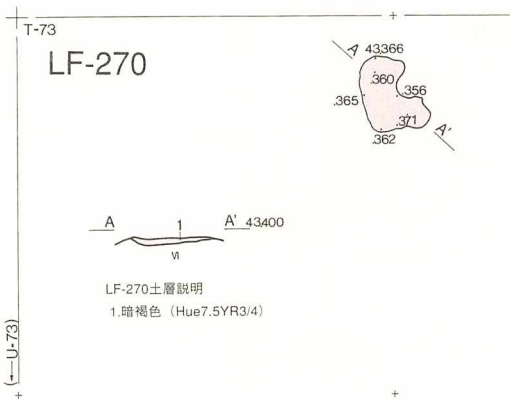
LF-267



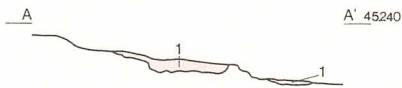
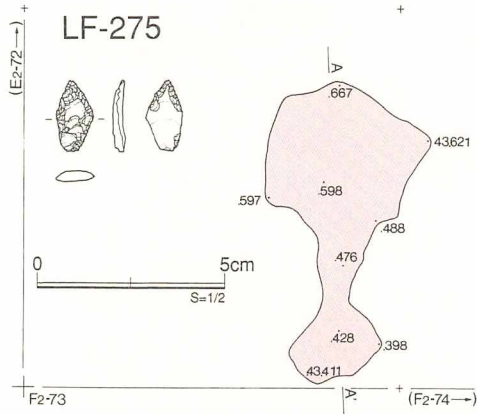
LF-268



図IV-75 焼土(2)

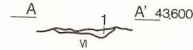
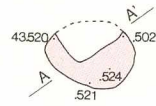


図IV-76 焼土(3)



LF-275土層説明
1.明赤褐 (Hue5YR5/8) 焼土

LF-276



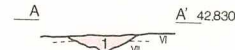
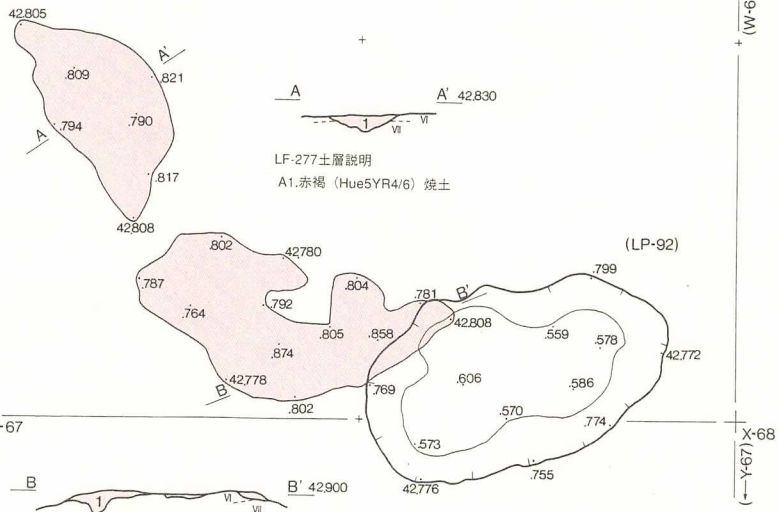
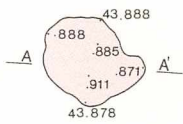
LF-276土層説明
1.暗褐 (Hue7.5YR3/4) 弱く赤化した焼土



LF-278



LF-278土層説明
1.暗赤褐 (Hue5YR3/6) 焼土

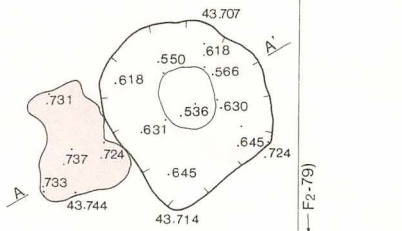


LF-277土層説明
A1.赤褐 (Hue5YR4/6) 焼土



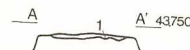
B1.赤褐 (Hue5YR4/6) 焼土

LF-279



LF-279土層説明
1.暗赤褐 (Hue5YR3/4) 焼土
2.黒 (Hue7.5YR2/1) V層腐植土
3.黒褐 (Hue10YR3/2) V+VI>VII

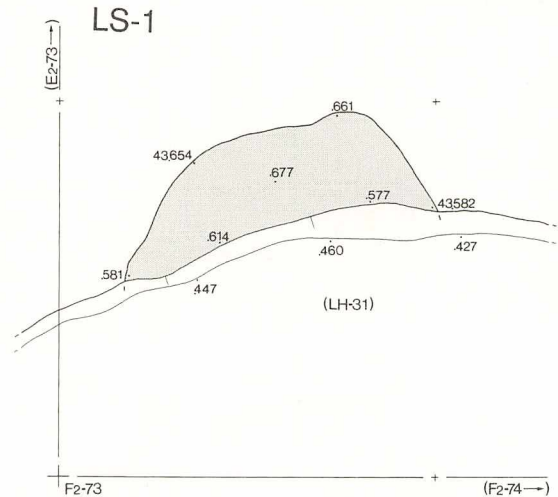
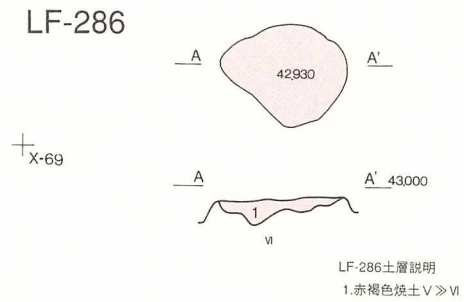
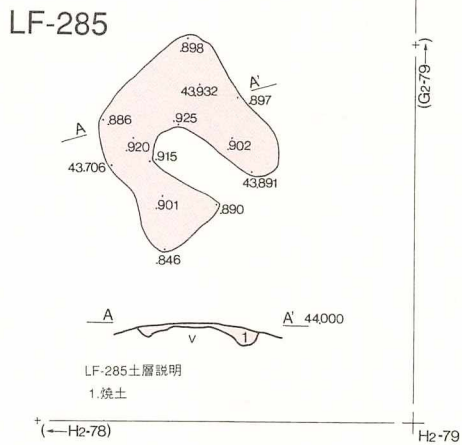
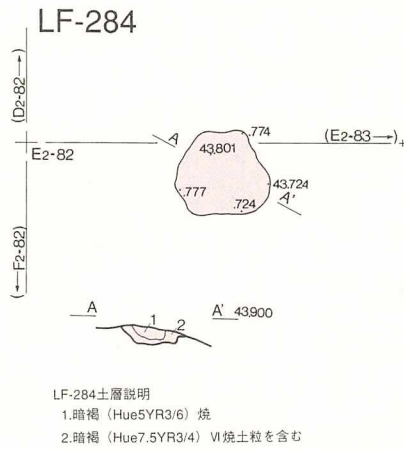
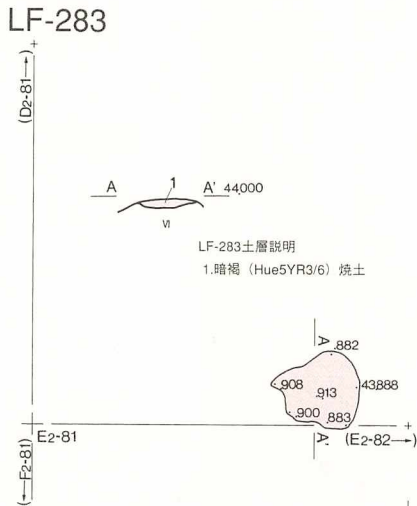
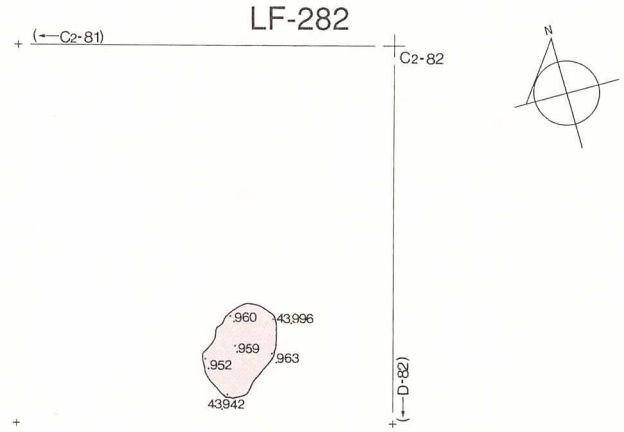
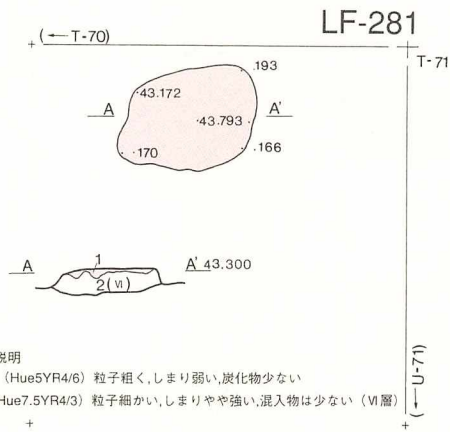
LF-280



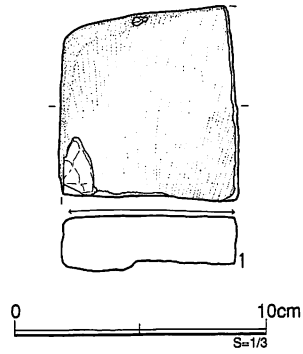
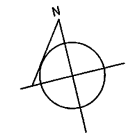
LF-280土層説明
1.にがい赤褐 (Hue5YR4/4) 焼土



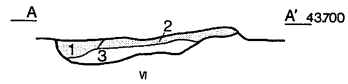
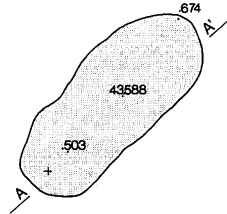
図IV-77 焼土(4)



IV Ta-c下位の遺構



(←U-77) + ————— + U-78
LC-1



(LF-263)



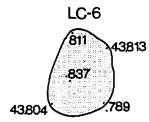
LC-1土層説明

- 1.炭化物 (Hue N1.5)
- 2.黒褐色 (Hue 7.5YR3/1) 粒子細かい, しまり弱い, 粘性低い
- 3.暗褐色 (Hue 7.5YR3/3) 粒子細かい, しまり中, 粘性低い

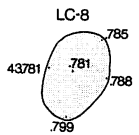
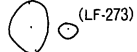
(←V-77) + ————— + V-78

LC-6

(Gz-79)

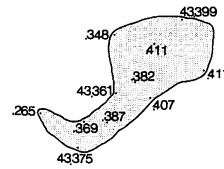


H2-79 (←) ————— (→) H2-80



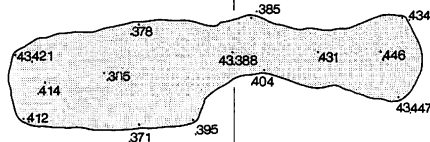
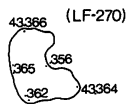
LC-5

(←B2-71)

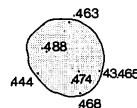


B2-72

(←T-73) + ————— + T-74 ————— + T-75



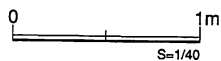
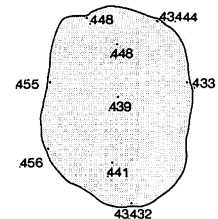
LC-2



LC-3

LC-4

(LC-4)



図IV-79 炭化物集中

L F-261 (図IV-75)

位置：Y-74-c 規模：0.70×0.50/—×—/0.04m 長軸方向：N-72°-E

特徴 LH-34の覆土から検出された焼土である。赤化は弱く二次的な形成と考えられる。

遺物 出土遺物・掲載遺物なし。

時期 LH-34以降のもので縄文時代後期中～末葉の可能性がある。(皆川)

L F-262 (図IV-75, 表I-7・V-4)

位置：V-78-d 規模：0.60×0.33×0.15

調査 V層の下位にて暗赤色の焼土を検出した。焼土の輪郭は明瞭で、厚く堆積することから人為的なものと思われる。

遺物 I群b 2類土器の破片が2点出土している。

時期 縄文時代早期後半頃と推定される。(笠原)

L F-263 (図IV-75, 表I-7・V-4)

位置：U-77-c 規模：0.92×0.59×0.10

調査 V層下位で暗赤色の焼土を検出した。焼土は上下二枚に分層され、下位の焼土にはVI層が混入している。焼土の輪郭は明瞭で厚く堆積し、人為的な可能性がある。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代早期後半頃と推定される。(笠原)

L F-264 (図IV-75/図版69)

位置：Y-71-b, Z-71-a 規模：1.25×1.04/—×—/0.18m 長軸方向：N-26°-W

特徴 V層下位で検出された焼土である。赤化も強くしっかりと焼けている。下位層には炭化粒を含む腐植土が入る窪み様のものが検出されている。周辺の包含層からはI群b-2類土器が多数出土している。

遺物 1は覆土から出土した頁岩製のつまみ付きナイフである。形態的な特徴から早期のものと判断される。

時期 遺物から縄文時代早期後半と考えられる。(皆川)

L F-265 (図IV-75/図版69)

位置：Z-71-b 規模：0.51×0.38/—×—/0.11m 長軸方向：N-86.5°-E

特徴 VI層上面で検出された焼土である。周辺の包含層からはI群b-2類土器が多数出土している。

遺物 覆土からI群b-2類とIV群a類の土器が出土している。1はI群b-2類の深鉢形土器口縁部である。口唇部が外側に向かって張り出すもので器壁は極めて薄い。器面には細い縄による短縄文が密に施されている。

時期 周囲と覆土の遺物から縄文時代早期後半の可能性はある。(皆川)

L F-266 (図IV-75)

位置：A2-73-a・b 規模：0.78×0.54/—×—/0.08m 長軸方向：N-39.5°-E

148 特徴 VI層上面で検出された焼土である。周辺の包含層からはI群b-2類土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物なし。

時期 周囲の遺物から縄文時代後半の可能性がある。 (皆川)

L F -267 (図IV-75)

位置：F-75-a 規模：0.68×0.50／－×－／0.13m 長軸方向：N-0°-E

特徴 V層の下位で検出された焼土である。周辺の包含層からはI群b-2類とIV群a類の土器が出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物無し。

時期 周囲の遺物から縄文時代早期後半か後期前葉の可能性がある。 (皆川)

L F -268 (図IV-75)

位置：V-73-c 規模：1.06×0.74／－×－／0.23m 長軸方向：N-78°-W

特徴 V層下位で検出された焼土である。周辺の包含層からはI群b-2類とIV群a類の土器が多数出土している。

遺物 覆土からIV群a類土器が出土している。掲載遺物無し。

時期 周囲の遺物から縄文時代早期後半か後期前葉の可能性がある。 (皆川)

L F -269 (図IV-76)

位置：V-73-d 規模：0.36×0.32／－×－／0.02m 長軸方向：N-55.5°-W

特徴 V層中位で検出された焼土である。周辺の包含層からはI群b-2類とIV群a類の土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物なし。

時期 周囲の遺物から縄文時代早期後半か後期前葉の可能性がある。 (皆川)

L F -270 (図IV-76)

位置：T-73-a・d 規模：0.46×0.32／－×－／0.04m 長軸方向：N-35°-W

特徴 VI層上面で検出された焼土である。周辺の包含層からはI群b-2類土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物無し。

時期 周囲の遺物から縄文時代早期後半の可能性がある。 (皆川)

L F -271 (図IV-76)

位置：Z-73-c 規模：0.91×0.55／－×－／0.07m 長軸方向：N-94°-E

特徴 VI層上面で検出された焼土である。LH-34、LP-89に近い位置にあり周辺の包含層からはI群b-2類土器が多数出土している。

遺物 覆土から石斧片とフレイクが出土している。掲載遺物なし。

時期 周囲の遺物と検出層位から縄文時代早期後半の可能性がある。 (皆川)

L F -272 (図IV-76/図版69)

位置：V-72-a・b 規模：0.55×0.43／－×－／0.18m 長軸方向：N-79°-W

特徴 VI層上面で検出された炭化粒の集中と対になる焼土である。周辺の包含層からはI群b-2類 149

土器が多数出土している。

遺物 覆土から I 群 b-2 類土器とフレイクが出土している。1 は覆土で出土した I 群 b-2 類土器である。深鉢形土器の口縁部で角軸の絡条体圧痕文を施した後、縦横斜めに幅の細い粘土紐を貼り付けている。

時期 覆土の遺物から縄文時代早期後半と考えられる。(皆川)

L F-273 (図IV-76)

位置：H2-79-a 規模：0.28×0.21/—×—/0.05m 長軸方向：N-15.5°-E

特徴 VI層上面で検出された焼土である。近くにはLH-43、LC-6~8が位置しており、周囲の包含層からはI群b-2類とIV群a類の土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物なし。

時期 周囲の遺構、遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(皆川)

L F-274 (図IV-76)

位置：D2-73-d, 74-a 規模：0.98×0.61/—×—/0.03m 長軸方向：N-83.5°-W

特徴 LH-32の覆土上位で検出された焼土である。周囲の包含層からはI群b-2類とIV群a類の土器が出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物なし。

時期 遺構の重複から縄文時代後期前葉の可能性はある。(皆川)

L F-275 (図IV-77/図版69)

位置：E2-73-b・c 規模：1.50×0.85/—×—/0.09m 長軸方向：N-18°-E

特徴 LS-1の小礫と共にLH-31内に流れ込む焼土である。LH-31に切られて流れ込んだと考えられる。

遺物 覆土からIV群a類土器、石鏃などが出土している。1は覆土出土の石鏃である。主剥離面の多くが残存しているため未成品の可能性が高い。

時期 遺構の切り合いから縄文時代後期中葉以前と考えられる。(皆川)

L F-276 (図IV-77)

位置：Z-74-c 規模：0.45×0.32/—×—/0.05m 長軸方向：N-55°-W

特徴 LH-34の床面に近い覆土から検出された焼土である。赤化が弱く二次的な形成の可能性が高い。

遺物 出土遺物・掲載遺物なし。

時期 遺構の重複から縄文時代後期中~末葉の可能性が高い。(皆川)

L F-277 (図IV-77)

位置：W-67-a~c

規模a：1.23×0.60/—×—/0.11m 長軸方向：N-16°-W

規模b：1.50×0.75/—×—/0.13m 長軸方向：N-58.5°-W

150 特徴 VI層上面のやや窪んだ低い部分から検出された焼土で、下位には付属するピットと考えられる

L P-92が見つまっている。周辺の包含層からはIV群a類の土器が出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物なし。

時期 周辺の遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。(皆川)

L F-278 (図IV-77)

位置：Z-76-d 規模：0.56×0.44/—×—/0.04m 長軸方向：N-55°-W

特徴 VI層上面で検出された焼土である。周囲の包含層からはI群b-2類の土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物無し。

時期 周辺の遺物から縄文時代早期後半の可能性がある。(皆川)

L F-279 (図IV-77)

位置：E2-78-d 規模：0.66×0.46/—×—/0.06m 長軸方向：N-27°-E

特徴 VI層上面で検出された焼土である。東側に近接してピット状の窪みが位置している。周囲の包含層からはI群b-2類の土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物無し。

時期 周辺の遺物から縄文時代早期後半の可能性がある。(皆川)

L F-280 (図IV-77)

位置：W-75-b・c 規模：0.46×0.43/—×—/0.03m 長軸方向：N-12.5°-W

特徴 V層下位で検出された焼土である。

遺物 出土遺物・掲載遺物無し。

時期 層位から縄文時代早～晩期である。(皆川)

L F-281 (図IV-78)

位置：T-70-d 規模：0.80×0.56/—×—/0.07m 長軸方向：N-72.5°-E

特徴 VI層上面で検出された焼土である。周囲の包含層からはI群b-2類、IV群a類の土器が多数出土しており、それらに関する可能性が高い。

遺物 出土遺物・掲載遺物無し。

時期 周囲の遺物から縄文時代早期後半もしくは後期前葉の可能性が高い。(皆川)

L F-282 (図IV-78)

位置：C2-81-d 規模：0.52×0.34/—×—/—m 長軸方向：N-28°-E

特徴 V層下位で検出された焼土である。赤化は弱く状態から見て二次的な形成の可能性はある。周囲の包含層からはI群b-2類の土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物無し。

時期 周囲の遺物から縄文時代早期後半の可能性はある。(皆川)

L F-283 (図IV-78)

位置：D2-81-b, E2-81-a 規模：0.47×0.41/—×—/0.05m 長軸方向：N-47°-W

特徴 VI層上面で検出された焼土である。周囲の包含層からはI群b-2類の土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物無し。

時期 周囲の遺物から縄文時代早期後半の可能性が高い。(皆川)

LF-284 (図IV-78)

位置：D2-82-b, E2-82-a 規模：0.51×0.49/—×—/0.11m 長軸方向：N-47°-E

特徴 V層下位で検出された焼土である。周囲の包含層からはI群b-2類の土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物無し。

時期 周囲の遺物から縄文時代早期後半の可能性が高い。(皆川)

LF-285 (図IV-78)

位置：G2-78-c・d 規模：0.95×0.93/—×—/0.11m 長軸方向：N-18°-E

特徴 V層下位で検出された焼土である。LH-43に近接して位置にあり、周囲の包含層からはI群b-2類とIV群a類の土器が多数出土している。

遺物 覆土からはI群b-2類土器とドリルの破片と思われるものが出土している。掲載遺物無し。

時期 近接するLH-34との位置関係から縄文時代後期前葉の可能性が高い。(皆川)

LF-286 (図IV-78, 表I-7・V-4)

位置：W-69-b 規模：0.67×0.54×0.13

調査 V層下位で赤褐色の焼土を検出した。上部は削平してしまったため、不明瞭である。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代早期後半頃と推定される。(笠原)

4. 炭化物集中 (図IV-79, 図版69, 表V-4~7)

LC-1 (図IV-79, 表I-7・V-4)

位置：U-77-a~d 規模：1.19×0.51×0.07

調査 V層下位で炭化物の集中個所を検出した。平面形は楕円形で、下位に焼土は認められない。南側にLF-263がある。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代早期後半頃と推定される。(笠原)

LC-2 (図IV-79)

位置：F-73-d, 74-a 規模：2.20×0.58/—×—/—m 長軸方向：N-78°-W

特徴 V層中位からLF-270、LC-3・4と列をなして検出された炭化物集中である。周囲の包含層にはI群b-2類、IV群a類の土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物なし。

時期 周囲の遺物から縄文時代早期後半もしくは後期前葉の可能性が高い。(皆川)

LC-3 (図IV-79)

位置：T-74-a 規模：0.45×0.39／－×－／－m 長軸方向：N-12°-W

特徴 V層中位からLF-270、LC-2・4と列をなして検出された炭化物集中である。周囲の包含層にはI群b-2類、IV群a類の土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物なし。

時期 周囲の遺物から縄文時代早期後半もしくは後期前葉の可能性が高い。(皆川)

LC-4 (図IV-79)

位置：T-74-c・d 規模：1.10×0.87／－×－／－m 長軸方向：N-12.5°-W

特徴 V層中位からLF-270、LC-2・3と列をなして検出された炭化物集中である。周囲の包含層にはI群b-2類、IV群a類の土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物なし。

時期 周囲の遺物から縄文時代早期後半もしくは後期前葉の可能性が高い。(皆川)

LC-5 (図IV-79)

位置：A2-71-b・c 規模：10.1×0.41／－×－／－m 長軸方向：N-69.5°-E

特徴 VI層上面で検出された炭化物集中である。周囲の包含層にはI群b-2類の土器が多数出土している。

遺物 覆土からフレイクが出土している。

時期 周囲の遺物から縄文時代早期後半と考えられる。(皆川)

LC-6 (図IV-79/図版69)

位置：G2-79-b・c 規模：0.47×0.34／－×－／－m 長軸方向：N-18°-E

特徴 V層中位からLF-273、LC-7・8らと共に検出された炭化物集中である。周囲の包含層からはI群b-2類とIV群a類の土器が多数出土している。

遺物 砥石と礫が伴って出土している。1は砂岩製の砥石である。

時期 層位と周辺部の遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(皆川)

LC-7 (図IV-79)

位置：H2-79-a 規模：0.27×0.20／－×－／－m 長軸方向：N-53.5°-E

特徴 V層中位からLF-273、LC-6・8らと共に検出された炭化物集中である。周囲の包含層からはI群b-2類とIV群a類の土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物無し。

時期 層位と周辺部の遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(皆川)

LC-8 (図IV-79)

位置：H2-79-a 規模：0.48×0.34／－×－／－m 長軸方向：N-54°-E

特徴 V層中位からLF-273、LC-6・7らと共に検出された炭化物集中である。周囲の包含層からはI群b-2類とIV群a類の土器が多数出土している。

遺物 出土遺物・掲載遺物無し。

時期 層位と周辺の遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。

(皆川)

5. 集石 (図IV-78, 図版69, 表V-4~7)

LS-1 (図IV-78/図版69)

位置: 規模: 1.62×0.51/—×—/—m 長軸方向: N-91°-W

特徴 V層下位から検出された小礫の集中である。径約1~2cmの光沢を有した円礫約900点が浅い窪みから出土したもので、これに接してLF-275が位置し、更にLH-31の掘り込みに切られている。小礫の点数はLF-275に関連して取り上げを行ったものも200点程あり、総点数では1,100点を越える。肉眼での観察では個々の小礫に焼成の痕跡や炭化物の付着などは見られなかったが、すぐ隣のLF-275とは同じレベルかやや下位の位置関係にあることから、例えば「蒸し焼き」などの調理に関するものかもしれない。

遺物 小礫に混じってフレイクが出土している。

時期 LH-31に切られて検出されており、位置的にはLH-37・39と近い位置にあることから、縄文時代後期中葉以前の後期前葉か中期後半の可能性が高い。

(皆川)

V 包含層の遺物

包含層からは土器、石器、石製品、土製品、自然遺物などの遺物が出土している。また、今回、キウス遺跡群で初めて旧石器の遺物が出土しており、これは、包含層の石器と分けて記載した。

1. 土器 (図V-1~16、図版35・70~87、表V-1・8・9)

土器は縄文時代と続縄文時代のもので出土している。縄文時代のものでは早期後半 (I群b-1~4類)、中期前~後半 (III群a・b類)、後期前~末葉 (IV群a~c類)、晩期末葉 (V群c類) などの土器である。続縄文時代のものでは後北C2-D式の時期 (VI群) の土器である。これらの中で主体は早期後半I群b-2類土器で、多数の遺構からも出土している。各層位毎の土器の出土傾向は表V-1に示した通りである。基本的な遺物の出土層位は、VI群土器がIII層、V群c類土器がIII~V層、I群~V群c類土器がV~VI層である。

I群に関してはb-1・2類の判別が付けにくくまとめた分類とした。同じくb-3・4類も小破片で少数の資料であり、これらはb-2類の可能性も残る。III群a類は表面に斜行縄文、内面に研磨が施された小破片をこの分類に当てたが、b類にも内面研磨のものがあるため厳密ではない。以上のことからI群b-3・4類とIII群a類の土器の報告は数量と分布データの掲載にとどめ、遺物の図を割愛した。

なお、ここでの報告は遺構との関連を重視し、遺構出土の土器も含めたものとした。

早期後半 (図V-5~12、図版70~82)

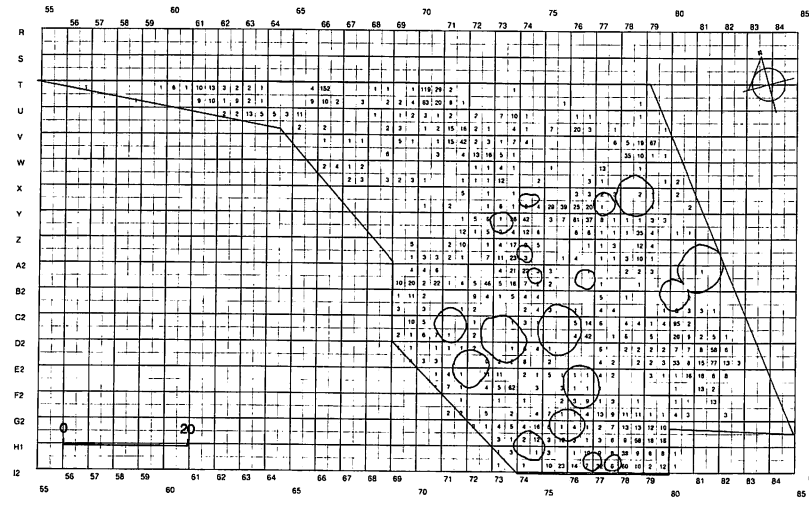
I群b-2類 (図V-5~12、図版72~82)

コッタロ式を主体とする土器群である。V層の遺構と包含層から多数出土しており、この遺跡の主体となる時期の土器である。早期の遺構の床・覆土から多数出土したこのグループには東釧路III式的な特徴をもつものや中茶路式的な特徴をもつものなどが見られ、時期的な差異を内包すると考えられ

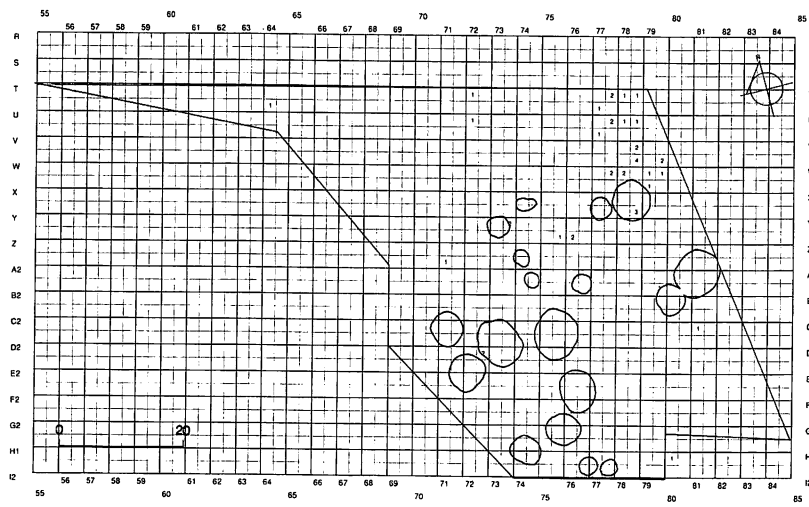
表V-1 出土土器一覧

時期	縄文早期				中期		縄文後期			晩期	続縄文	
	I b-1	I b-2	I b-3	I b-4	III a	III b	IV a	IV b	IV c	V c	VI	
III層	7	43	20	1	1	4	51	25	3	29	403	
IV層	0	31	1				5	29	11	3		
V層	6	2,776	11	7	9	46	730	249	56	21	23	
VI層	8	553	2			8	52	16	4			
VII層	0	1					1	0	0			
IX層	0	1										※時期不明 土器1点
攪乱	0	20					4	0	0			
表採・排土	0	1					0	0	0			
層不明	0						0	0	3			
点数	21	3,428	34	8	10	58	843	319	77	53	426	総計 5,277点

I 群 b-1·2 類
土器



I 群 b-3 類土器



I 群 b-4 類土器

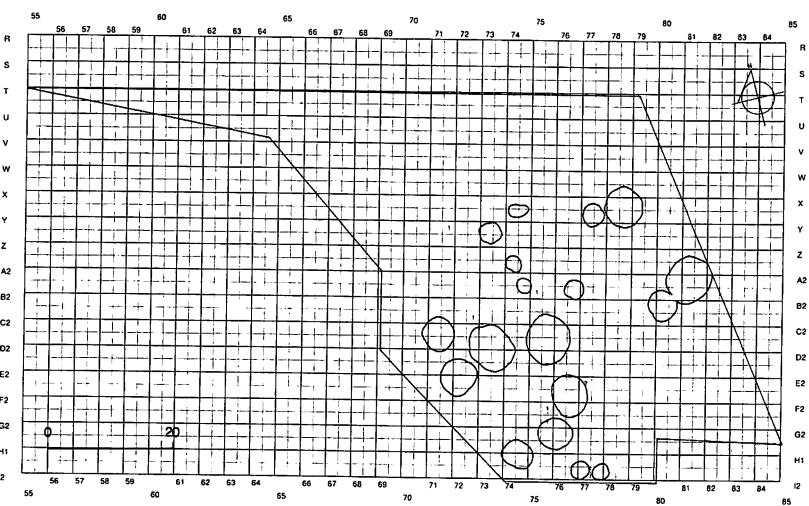
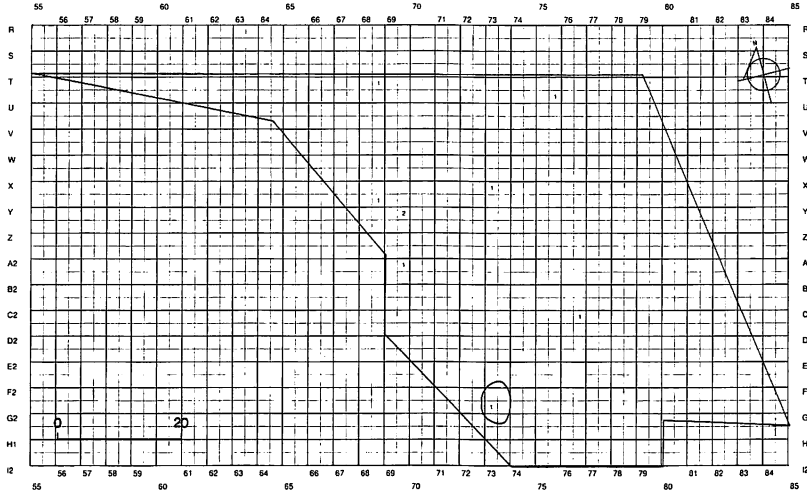
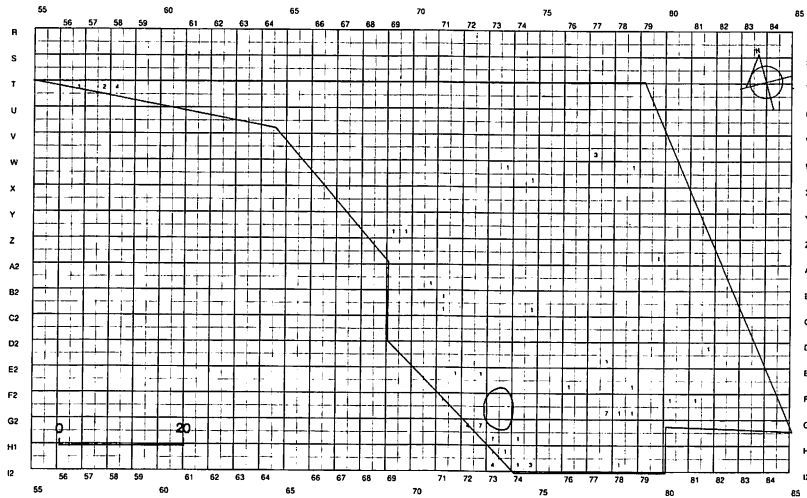


图 V-1 土器分布图(1)

III群 a 類土器



III群 b 類土器



IV群 a 類土器

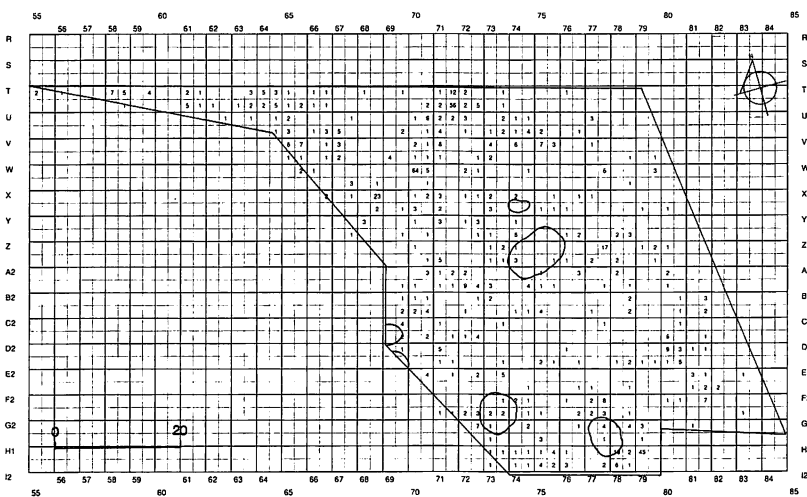
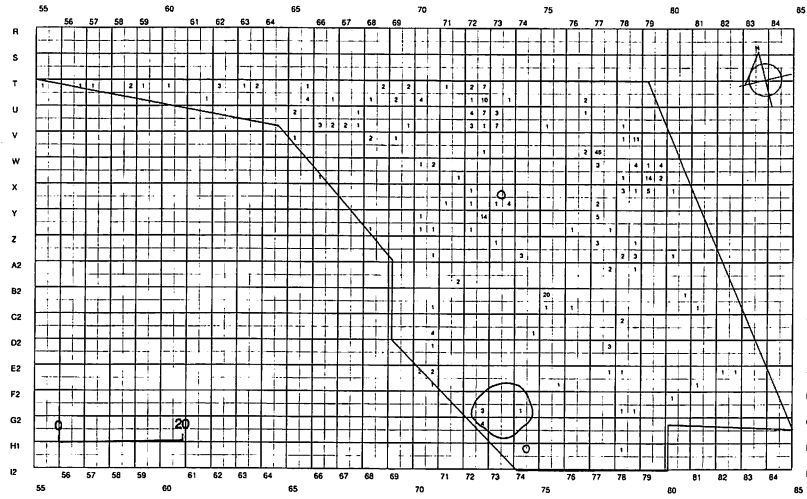
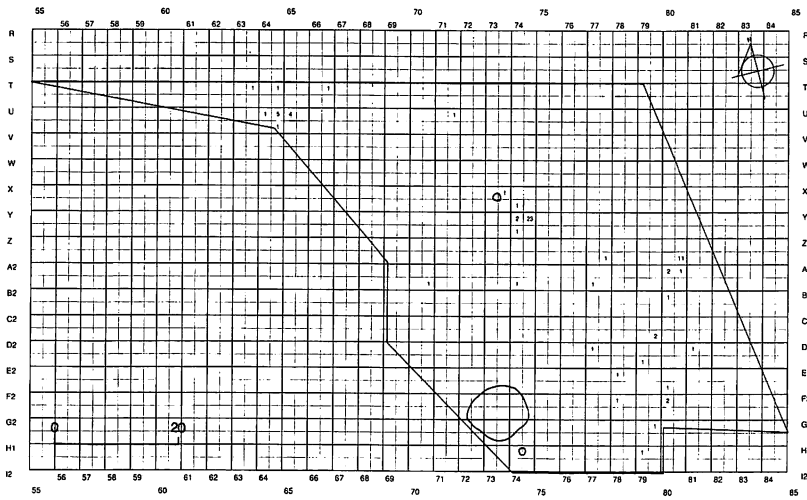


図 V - 2 土器分布図(2)

IV群 b類土器



IV群 c類土器



V群 c類土器

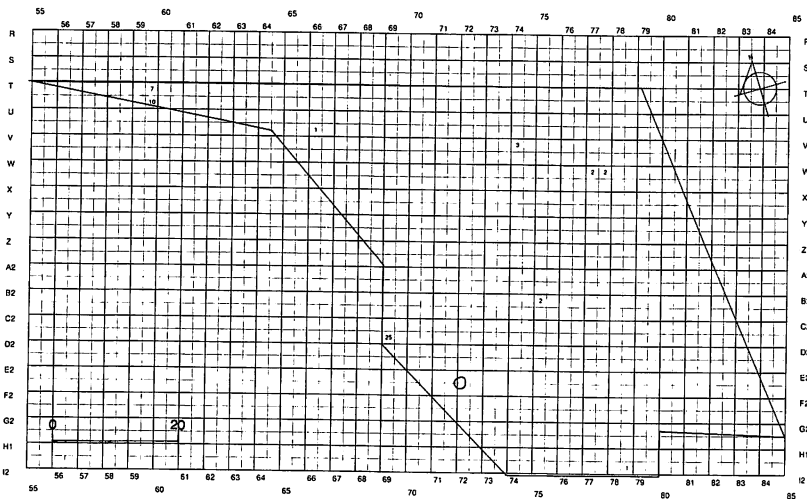


图 V - 3 土器分布图(3)

VI 群土器

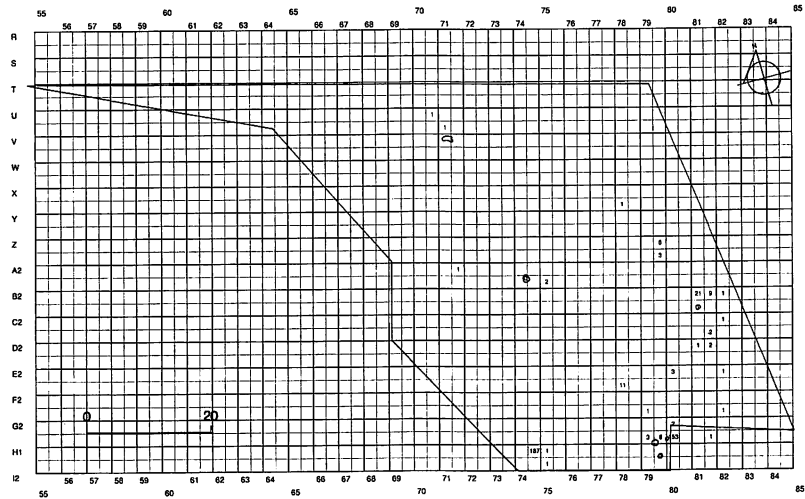


図 V-4 土器分布図(4)

る。

器形は深鉢形のもので占められており、これに口縁部や底部が異形を呈するものも見られる。深鉢形には、1：口縁～底部の径が大きく懸け離れないもの、2：極度に口縁部で広がり底部で窄まるもの、3：その胴部に膨らみ加わるものなどがあり、今回出土した土器の多くは2・3に属している。1は東釧路III式的な特徴でやや古手になると考えられる。

規模は推定で高さが50cmを越える大型のものから、同じく推定で高さが10cm前後になるであろう小型のものまで見られる。この内、頻度が高いと考えられるのは、高さが約30cm程のものと10～20cm程のものである。

器壁は厚いものから薄いものまで見られ、比較的厚手のものの内面には手づくねのような指の跡が多く見られる。量的には厚手のものは少なく中～薄手のものが多い。時期は厚手のものが組紐圧痕文など古い文様をもつ場合が多いようだ。

口唇部は断面形が角形、丸形、先細り形などがあり、角形のものには口唇の端が外側に向かって張り出すものも見られる。これは器壁の厚さとも関連し、厚いものは角形か端が外側に向かって張り出すものが多く、薄くなるにつれて丸形や先細りのものが増える傾向にある。

口縁部は平縁のものと波状や山形突起が付くものなどがあり、更に断面の傾きが外に広がるもの、内側に向かうものも見られる。平縁で胴部からの傾きに変化が少ないものの方が古手と考えられる。

底部は、下端部が張り出すものと張り出さないものがある。前者で器壁の厚いものは張り出しが弱くこれらは古手と考えられ、器壁の中～薄手のものは下端部に粘土を盛るなど張り出しが極度に強い傾向をもち新手と考えられる。

器面に粘土紐を貼り付けた貼付帯は、太い粘土紐の場合、器面に対して疎密で方向も横位に付けられる。粘土紐が細い場合は密に施される傾向にあり、方向も縦横斜目に付けられ区画の意匠も強い。粘土紐の断面形も太いものと細いものとは傾向が別れ、前者は盛り上がりの大きい蒲鉾形、後者が盛り上がりの少ない半円や三角を呈するものが多い。貼付帯上に施される刻みの原体は、太い粘土紐には太い原体が使われ、細い粘土紐には細い原体が使われている。これは器面に使われる縄文様と同

じで、古手の土器に太い原体が使われ、新手の土器に細い原体が使われる傾向と同一で考えて良いだろう。

文様は土器の口唇部、口縁部、胴部、底部に近い胴部、底部下端、貼付帯の上などに施されており、今回内面に施文されるものや貝殻による調整痕を持つものは無く、底面、内底面への施文も皆無であった。

口唇部に施される文様には、無文、縄、棒状の工具、指頭状の工具などによる刻み、もしくは押捺が見られる。この内、無文の頻度は全体的に見たとき低いものの、口唇断面が先細りや丸形で器壁が薄いものに関しては比較的高い。また、施文の位置は口唇断面が角形で器壁の厚いものが真上から施され、器壁が薄く先細りか丸形の口唇断面のものは真上か外側の角に斜めに押し当てられるものが多い。

口縁部の施文は、胴部と同じ施文がなされるものと、特徴付けの意匠をもつものがあり、前者は平縁、後者は波状や山形の突起を有するものに多く見られる。特徴付けには貼付帯や縄線文などが使われており、これらがやや新手になるものと考えられる。

胴部を含む器面に施されている文様には斜行縄文、羽状縄文、結束の羽状縄文、短縄文、縄の刺突、縄線文、組紐圧痕文、絡条体圧痕文、魚骨回転文、研磨部などがある。これらに使われる原体には太く大きめのものから細く細かいものまでであるが、主体は細く細かいものである。太いものはやや古手、細いものは新手の傾向をもつ。施文方向は横位のもものが圧倒的に多く、細い粘土紐の貼付帯が縦横斜めに付けられるものについてはそれらに沿う様な方向で施されている。

斜行縄文、羽状縄文、結束羽状縄文、短縄文、縄の刺突、縄線文の原体には2段単節と0段多条のものが使われており、頻度は0段多条の方がやや高い。羽状縄文は異なる寄りの縄を2本用いるものと1本の縄の施文方向を縦横に変化させて羽状に施しているものが見られ、後者は極く一部の資料に施されるに止まる。絡条体圧痕文は0段の細い繊維様のものを巻き付ける軸には角軸と丸軸とがあり頻度は前者が高い。魚骨回転文は小型の魚体の脊椎骨を回転施文したと考えられるもので、今回は底部1点が出土している。

底部に近い胴部の器面には、ほとんどのものに短縄文が巡らされており大きな特徴になっている。一部には施されないものも見られるが、これは後述する底部下端の刻みとともに、器壁が薄く下部の張り出しが弱いものに多く新手の段階で消えていく特徴である。

底部の下端には縄や指頭状の施文具、棒状の施文具などによる刻みが全周に施されるものが多い。この特徴は古手のものほど原体も大きく顕著に施される傾向があり、新手のものは原体も小振りて不明瞭なものも多い。すぐ上の器面に施される短縄文と同じく新手の段階で消えていく特徴の一つである。

今回の調査で出土した土器は全体的に見て次の大きな三つのグループに別れると考えられる。

一つは深鉢形器形の口径と底径との差異が小さく、口唇断面が角形で端部が外に向かって張り出し、器壁は厚く裏面には手づくねの指の凹凸が顕著なもので、器面には大柄な原体による組紐圧痕文、短縄文、縄線文、縄文、羽状縄文などが施される東釧路Ⅲ式の要素を持ち合わせるもの。

二つ目のグループは底径と口径の差異が大きな平縁の深鉢形土器で口唇断面は丸形か先細りの形で、器壁は一つ目のグループよりも薄く底部下端が張り出す。組成は大小の深鉢形土器からなる。文様は縄文・羽状縄文、短縄文、縄線文、絡条体圧痕文などがあり、比較的太い粘土紐を使った貼付帯が1～2本程度が器面に施される。

160 三つ目のグループは底径と口径の差異が大きく胴部に丸味を持ち、口縁は波状もしくは山形突起を

有する深鉢形土器である。口唇断面は先細りか尖り気味の形で器壁は薄く底部下端の張り出しはかなり弱い。組成は大小の深鉢形土器からなる。文様は口縁部から胴上半部にかけてやや意匠を凝らした文様が施される傾向をもち、羽状縄文、短縄文、縄線文、絡条体圧痕文などと共に細い粘土紐による縦横斜めの密な貼付帯が施されている。中茶路式の要素をもち合わせるものも見られる。

早期の遺構群に伴うのは二・三のグループで、時期的には一・二・三のグループ順で古いものと考えられる。土器形式的には一・二グループがコッタロ式古手、三グループがコッタロ式新手になると考えられる。

以下、文様を主体に a～h の特徴別に分けて記載した。この内、a・c～f が古手、b・g・h が新手に相当する。

a. 太い原体による短縄文や組紐圧痕文が施されるもの 1～10 (図V-5、図版70～71)

口唇断面は端が外に張り出し、器壁は厚く内面などに手づくねの指状の凹凸が見られるもので、東釧路III式的な様相が強い深鉢形の土器群である。1は太い原体による短縄文と縄線文、斜行縄文が施された口縁～底部である。2・3は組紐圧痕文の施された口縁部、4・5・8～10が胴部、6・7が底部である。組紐原体はやや小柄である。5・9は貼付帯が施されている。

b. 絡条体圧痕文が施されたもの 11～17 (図V-5、図版71)

絡条体の繊維は細い。波状口縁で器壁は薄く口唇断面が丸形か尖り気味の形で、細い粘土紐が密に貼り付けられたものも多く、全般的には新手のものが占めている。

11は口唇部が外に張り出し器壁は厚く内面に凹凸が見られる。17は二本の細い繊維を軸に巻き付けている。

c. 斜行縄文・羽状縄文が施されたもの 18～34 (図V-6、図版71)

18はLH-28の床面から出土した深鉢形土器である。底部下端の張り出しが著しい。19～26は口縁部で22・26以外の口唇部には棒状の工具や指頭状の施文具、縄などによる刻みが施されている。28～34は胴部、27は胴～底部である。19・21・27・30には結束羽状縄文が施されている。29は縄の刺突、34は短縄文が加わる。

d. 短縄文が施されるもの 35～37 (図V-6、図版73)

35は口縁～胴部、36は口縁、37は胴部である。35・36の口唇部は外に向かって張り出している。35の胴部には羽状縄文も施される。

e. 貼付帯に施される粘土紐が太くて疎密なもの 38～49 (図V-7、図版74・75)

器壁が厚いものが多く、底部の下端は張り出す。貼付帯の上に施される刻みも大柄な原体による。地紋は斜行縄文、羽状縄文など縄文系のものが多い。

38は複数の遺構から分散して出土した深鉢形土器である。40は器壁の厚い胴～底部である。施文されている全ての文様が大柄で、底部の張り出しも強い。東釧路III式に相当する可能性がある。41～43・45は平縁の口縁部である。断面が丸形の口唇部とその下位に巡らされている貼付帯との間には弱い、研磨の施された狭い無文部をもつ。

f. 古手の底部と考えられるもの 50～52 (図V-7、図版75)

器壁が厚く底部下端の張り出しが強いものである。地紋は斜行縄文、羽状縄文が施される。52は底部近くの器面に短縄文が施される。

g. 貼付帯に施される粘土紐が細く密なもの 53～79・92～95 (図V-8～12、図版76～82)

口径と底径の差が著しく胴部が張り出す器形のもので、一部が異形を呈すものもある。器壁は薄いものが多く、口唇の断面形は丸、先細り、尖り気味である。口縁部は波状を呈するものや山形の突起

を有するもので占められる。地紋は細い原体を使った斜行縄文、羽状縄文、短縄文などが施される。

53は口縁が波状を呈するものと推定される大型の深鉢形土器である。胴上半部には細い粘土紐の貼付帯と羽状の縄文帯と無文帯で構成される文様が施されている。54・55・58・61は細い粘土紐の貼付帯が密に施されている。縦横斜めに施された貼付帯の上から回転施文した撚糸文が刻みに似た効果を生んでいる。54は口縁の山形突起部に装飾性の高い縦長の貫通孔が付けられている。この貫通孔は対になっていたものと推定される。58は貼付帯のない部分に短縄文と縄線文を施している。

57・60・62～64は横の貼付帯を基調に縦と斜めのものを加えている。

57は上半部が欠失した異形の底部である。内面底部の下位に左右2ヶ所の開口部を備えた空洞を備える特徴を持つ。器形的には器壁の薄い深鉢形土器の底部で、下端にも粘土を盛って張り出し部を形成している。文様は地紋に撚りの異なる2本の0段多条の原体を使った羽状縄文を施した後、その上から縦横斜めに粘土紐を貼り付けた隆起線を施したものである。隆起線の上にはやはり同じ原体による刻みが施されている。空洞部を含む器体の下半部は熱による赤化が明らかで、上半部および内面は炭化物や煤などで暗色化している。特徴となっている空洞部は、強度や機能などを含む全体の印象からみて装飾的な側面に重きをおいたもののように思われる。

60は胴部に羽状縄文と無文帯による文様が施されている。各文様の境には縄端の刺突列が施される。地紋は62・64が結束の羽状縄文、63は斜行縄文と短縄文である。

56・59・65～68・70～79は横環する貼付帯が施されるものである。56はLH-38の床から出土したもので口縁の山形突起は4箇所にも備わる。65はLH-32の覆土中から台石と共に見つかった大型の土器である。地紋の斜行縄文と短縄文を施した後に細い粘土紐を貼り付けている。

92～95は細い原体の短縄文を密に施した土器である。地紋を施した後に極めて細い粘土紐を貼り付けている。器壁は薄く中茶路式類似の特徴を強くもっている土器群である。

h. 新足の底部と考えられるもの 69・80～91 (図V-11・12、図版80・81)

底部付近の地紋は羽状縄文と短縄文とがあり前者の頻度がやや高い。80～82・84・88～90は小型の深鉢形土器底部である。90は魚の脊椎骨を回転施文したと考えられる魚骨文が施されている。91は内底面に備わる山形の突起部である。

III群b類土器 (図V-13、図版82)

柏木川式に相当する土器を主体とする後期後半の土器群である。V層の遺構と包含層から出土しており、LH-39がこの時期のものである。包含層では散点的な出土状況で、接合率は低い。

器形は全て深鉢形を呈すると考えられ、口縁部には山形突起と肥厚帯を有するものもある。文様は竹管や半截竹管のような工具による刺突や、縄・棒状工具による刻み、無文のものなどがある。

1・3・4は口縁部、2・7は口縁部に近い胴部、5・6・8～10は胴部である。1は山形突起で大型の貼り付けと半截竹管による文様が全面に施される。2はアーチ状の貼り付け部分で上から竹管の刺突が加えられている。3は外反の著しい口縁部で器面には竹管の刺突列が施されている。5・6は刻みの施された貼付帯をもつもので、刻みの原体は5が縄、6が棒状工具である。6は内面にも縄文が施されている。7は器面に半截竹管の連続した刺突列が施されている。9・10は無文のものである。

IV群a類土器 (図V-14、図版83・84)

162 余市式に相当するものが多くを占める土器群でV層の遺構と包含層から出土している。遺構はL

H-34・37・40・41・43がこの時期のものである。これらの遺構内からは1個体もしくは大きな破片で出土し、包含層からは小破片で出土する傾向を示す。

器形は全て深鉢形を呈し大型と小型のものが見られる。胎土は混入物が多く焼成の悪い粗雑なもので、多くの器面には剝落が見られ、細かく碎けた状態の出土も珍しくない。

ほとんどの口縁部には、大きな特徴となっている折り返しの肥厚帯が備わっており、その肥厚帯の下辺に沿って縄もしくは棒状の工具による刺突文が巡っている。口唇部と器面には太い原体を使った斜行縄文や羽状縄文が施される。原体は2段単節のものが多く、この他には0段多条も見られる。一部肥厚帯に縄線文が施されるものもある。

1はLH-43の土器囲い炉に使われていた土器である。2はLH-30・32の覆土から出土した小型の土器である。3～11は口縁部、13は口縁に近い胴部、14は底部である。

IV群b類土器 (図V-15・16、図版85・86)

手稻式に相当する土器群でV層の遺構と包含層から出土している。遺構はLH-31・LP-94がこの時期のものである。

器形は深鉢形、浅鉢形の各土器に加えて、異形の下部単孔土器も2個体が出土している。文様は斜行縄文、沈線文、磨消縄文がある。

1～4・7～11は深鉢形土器、6は浅鉢形土器、12・13は下部単孔土器である。1～3は磨消しの施された波状の口縁部である。4は平縁で横環する沈線の施される口縁部は磨消しが行われている。5は小型の深鉢と思われる土器で、口唇部には複数の突起が貼り付けられていた痕跡がある。器面には斜行縄文と沈線文が施されている。6は器面全体に研磨が施された浅鉢である。7はLP-94で出土したものと直線で約56m離れたT-72・U-72・73で出土したものとが接合した土器である。口縁が内側にやや屈曲する器形で口唇部には研磨が、胴部には斜行縄文が施されている。8・9・10は斜行縄文が施されるもので10の口唇部には研磨も施される。12・13は別個体の下部単孔土器である。12は丸味を帯びた膨らみ部に開いた口縁が付く口縁部付近である。下位の胴部は寸胴形と推定される。13は口縁部の周辺を欠失した下部単孔土器胴～底部である。器面には斜行縄文、沈線文、磨消縄文による曲線的な構成の文様が施されている。

IV群c類土器 (図V-16、図版86)

堂林式に相当する土器群でV層の包含層から出土している。遺構はLP-83がこの時期のものである。

器形は深鉢形、浅鉢形、注口形の各土器が出土している。文様は内側からの突瘤文、斜行縄文、沈線文、刻みなどがある。

14・15は深鉢形土器、16は浅鉢形土器、17は注口形土器である。16はLP-83に伴って出土している。底部周辺は表面の剝落が著しい。17は注口部が無い状態で出土したもので、貼り付けられていたと考えられる位置の器面には地紋の斜行縄文が施されており、注口部はその上から付けられていたと思われる。

V群c類土器 (掲載遺物無し)

タンネットウL式に相当する土器である。III～V層から小破片が僅かに出土している。

器形は不明である。文様は斜行縄文が施されている。

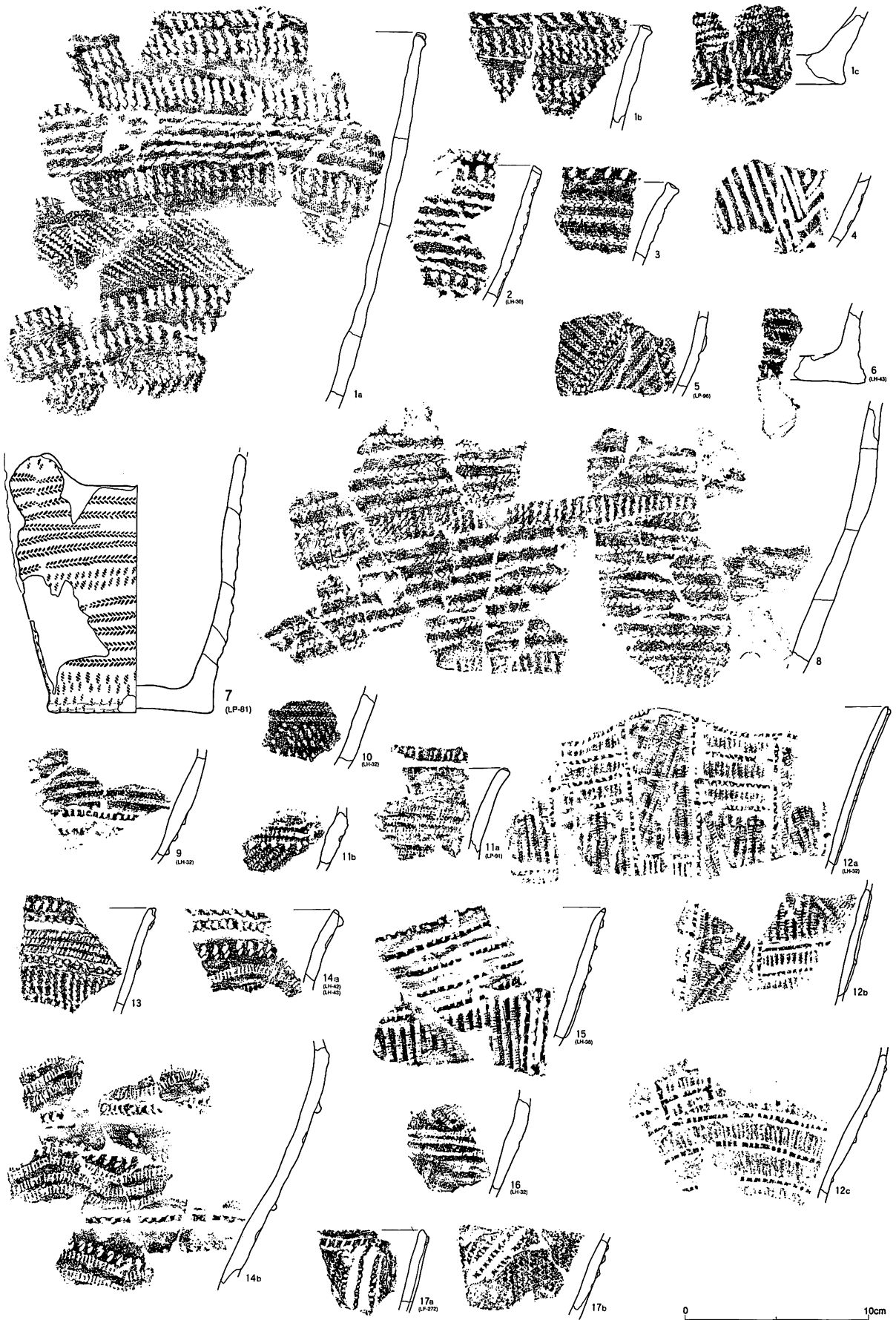
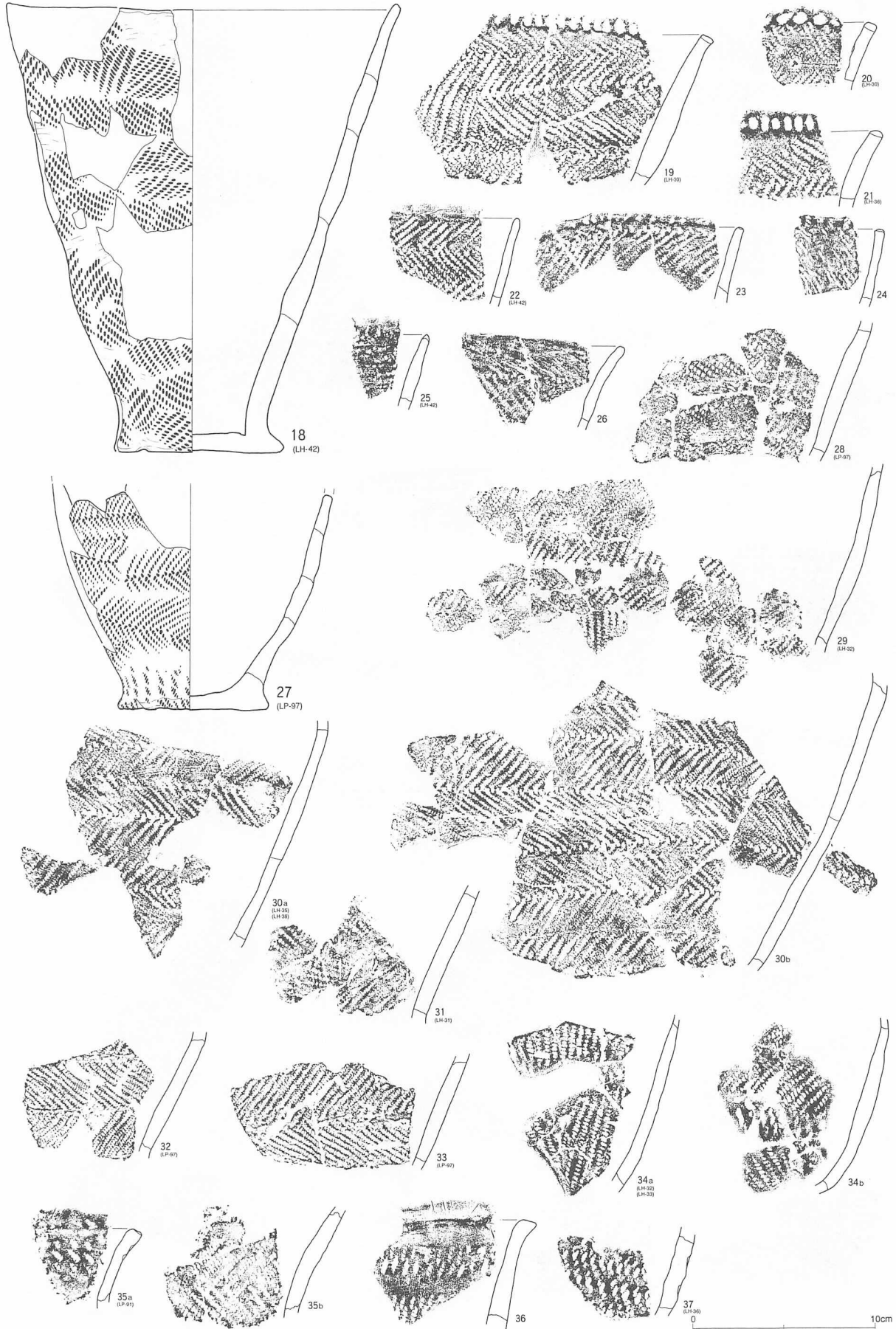


图 V-5 土器(1)



図V-6 土器(2)

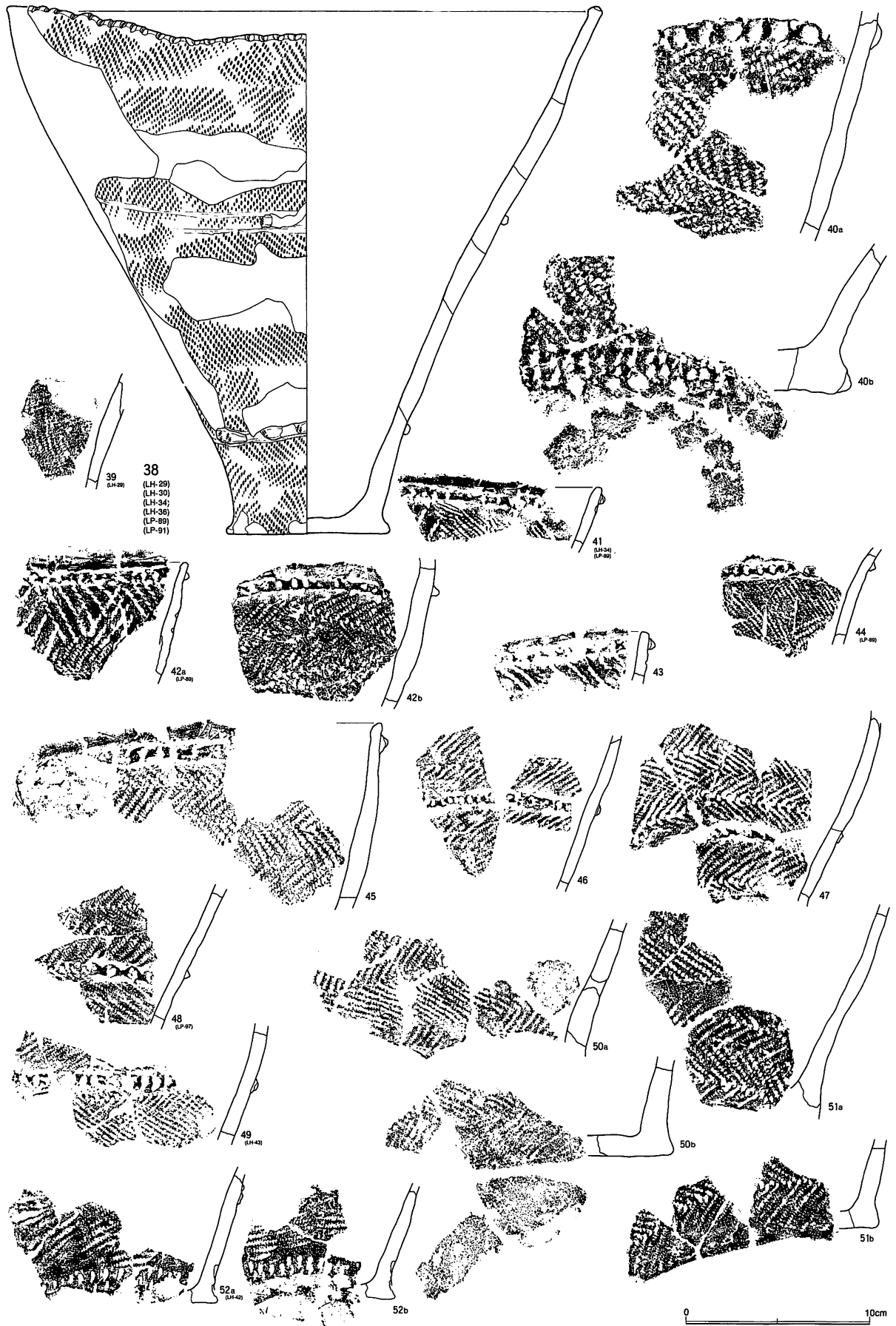
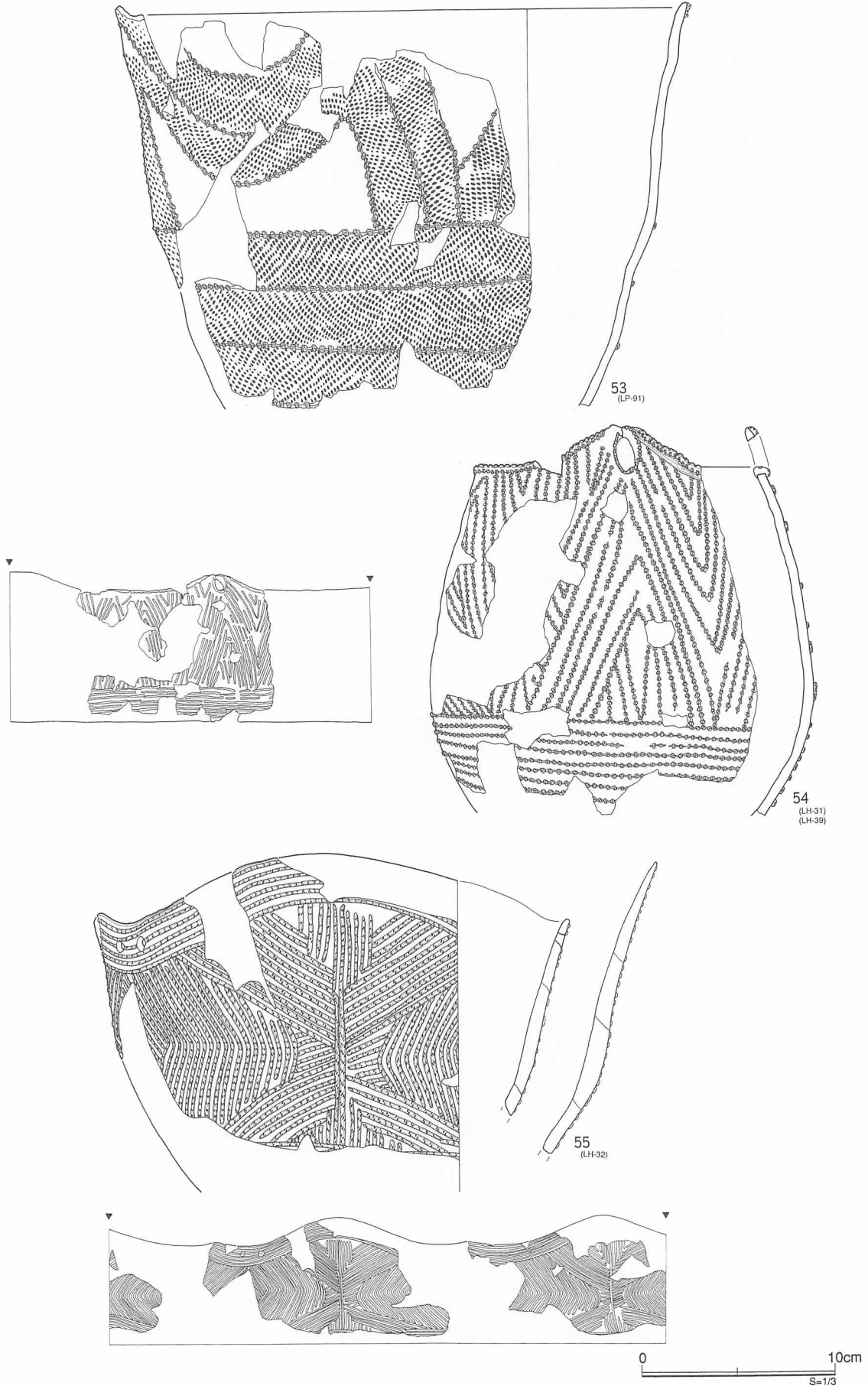


图 V-7 土器(3)



図V-8 土器(4)

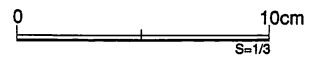
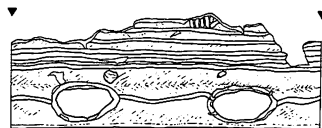
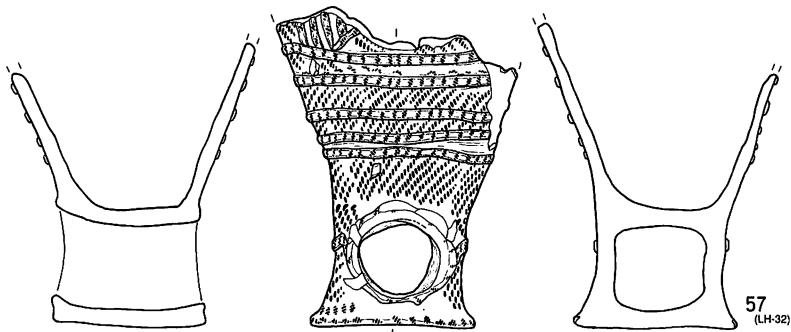
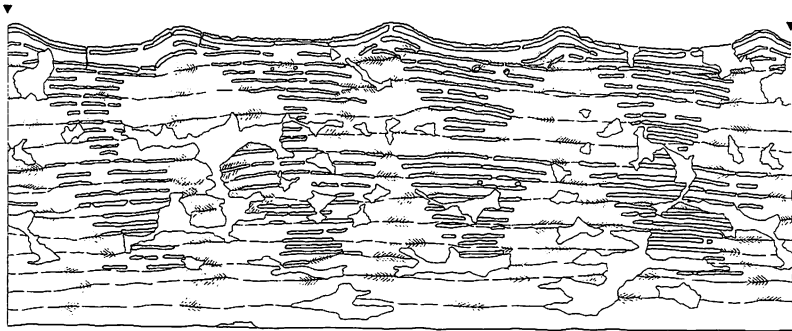
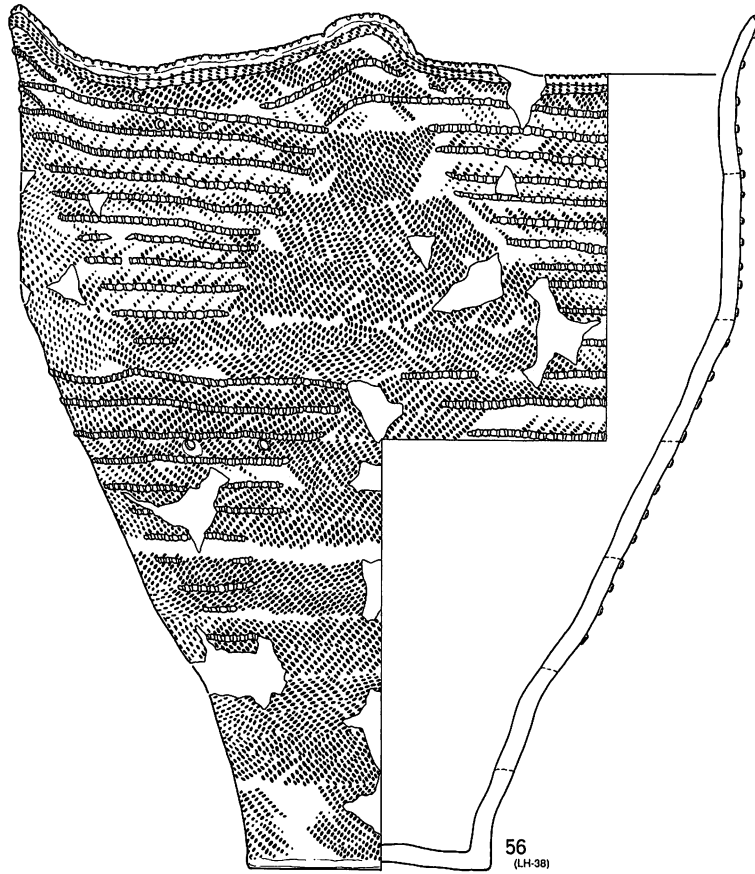
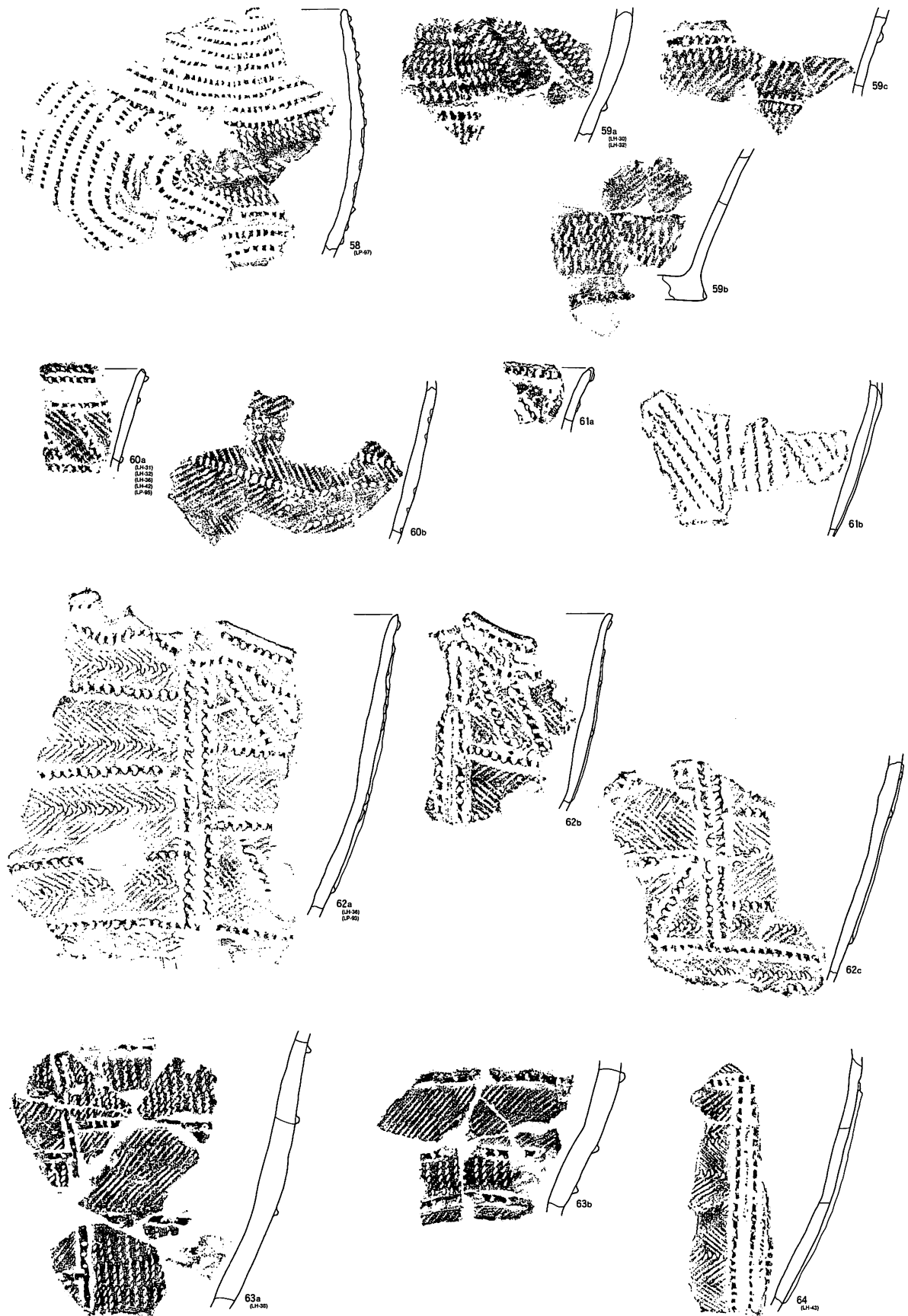


图 V - 9 土器(5)

V 包含層の遺物



0 10cm

図V-10 土器(6)

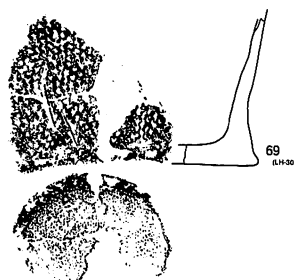
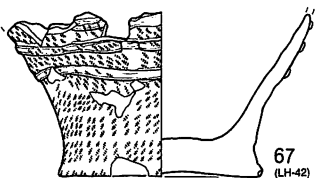
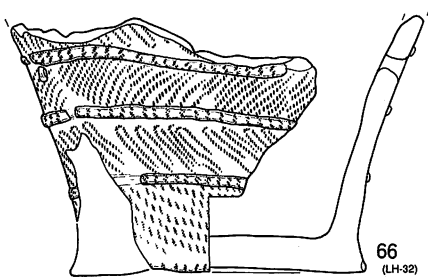
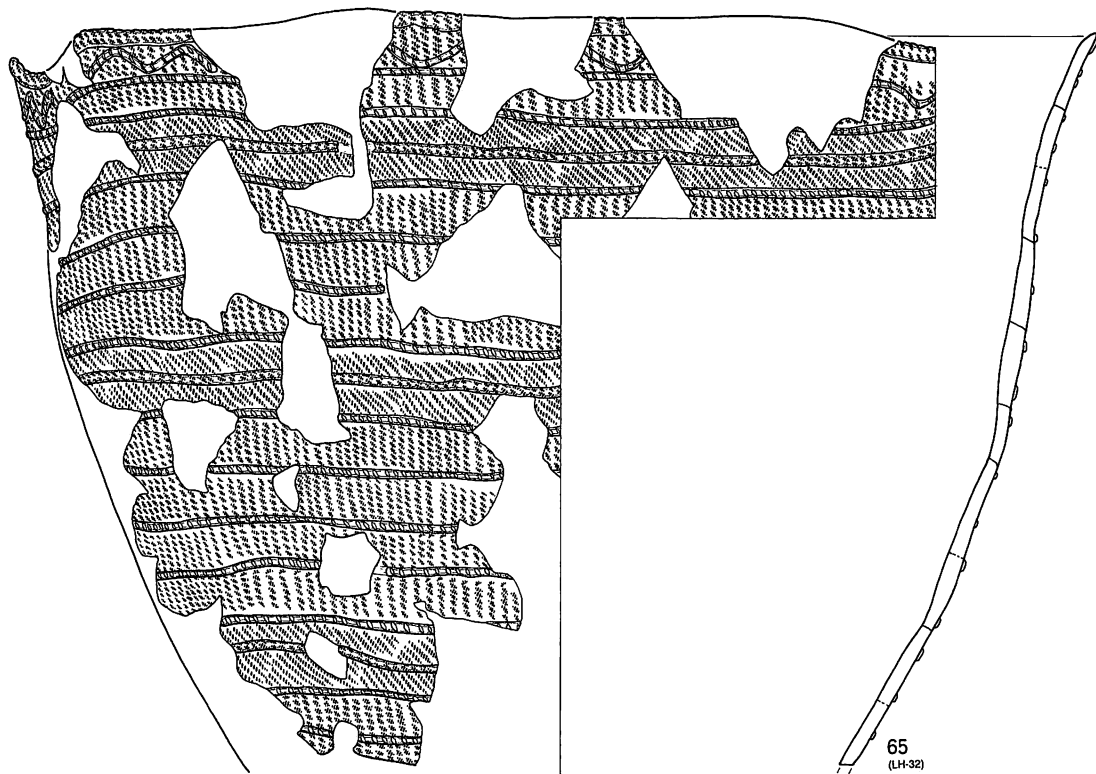
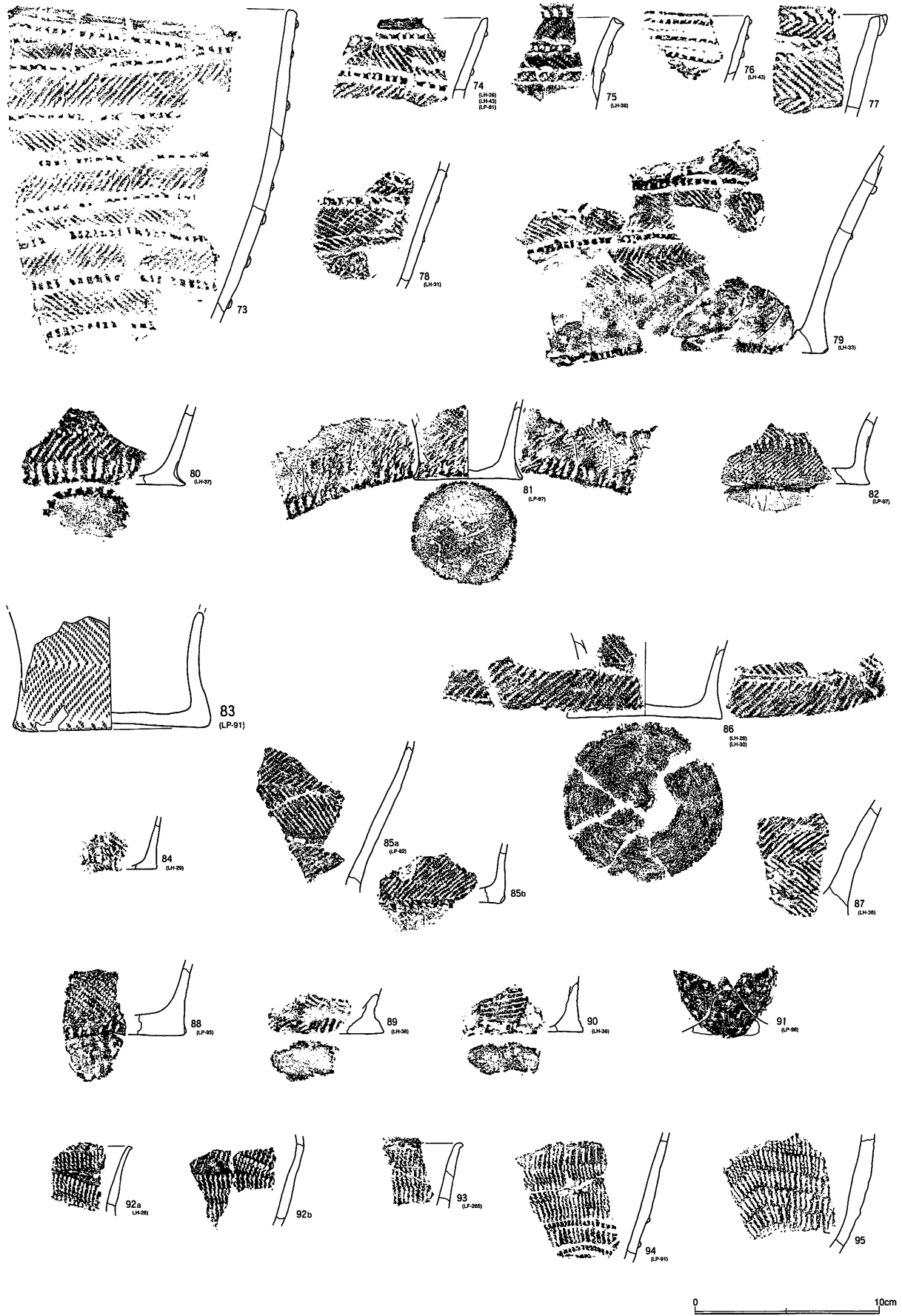


图 V - 11 土器(7)



図V-12 土器(8)

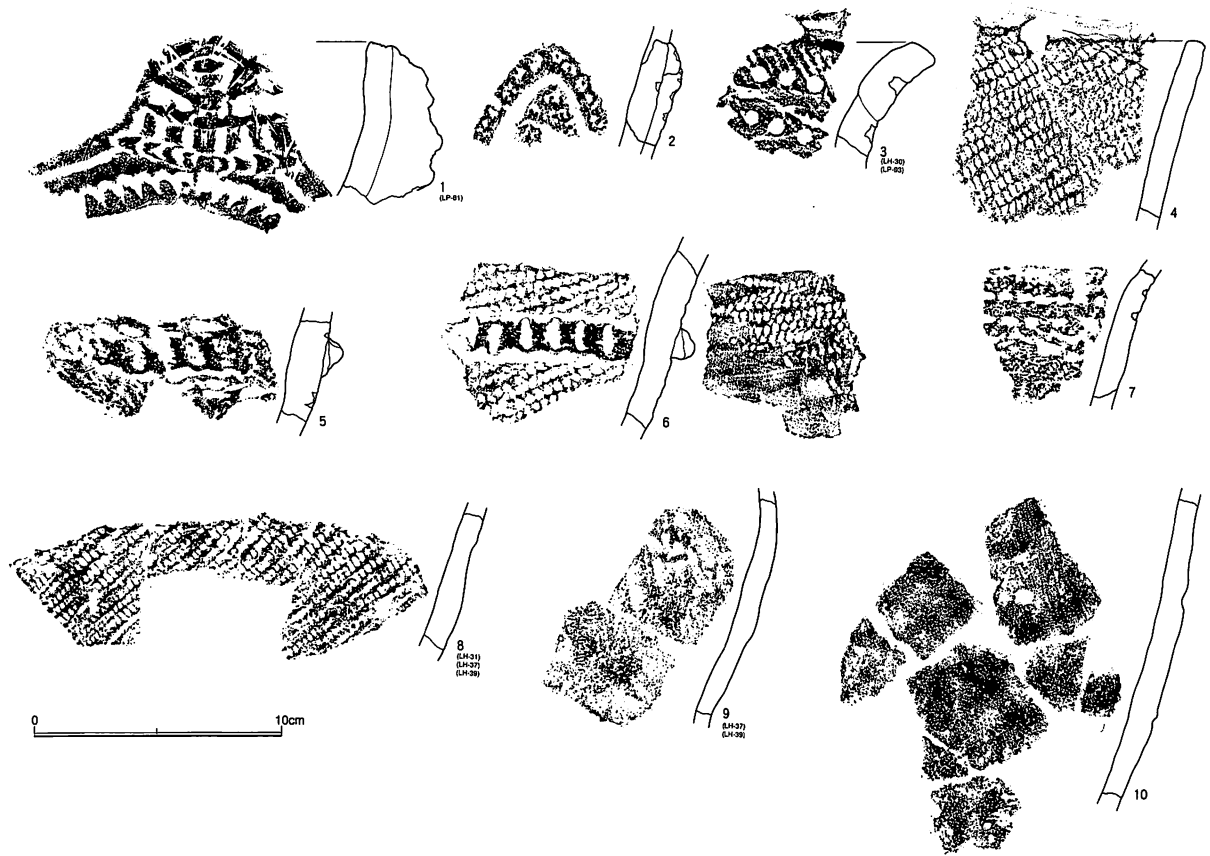
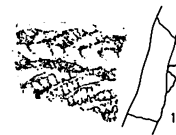
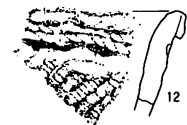
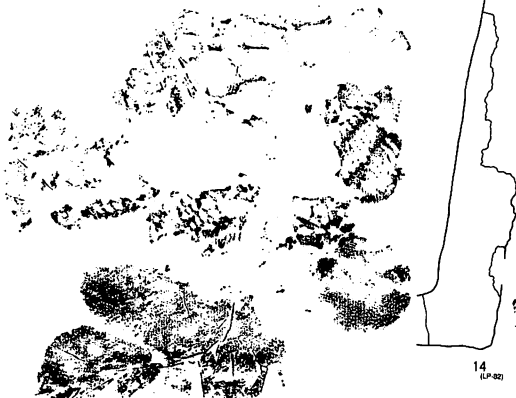
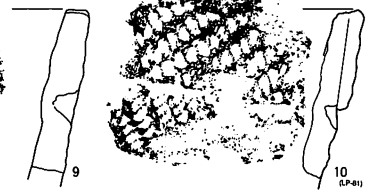
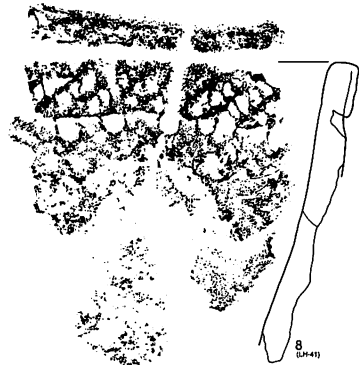
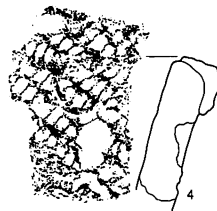
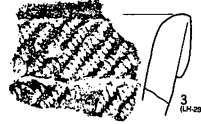
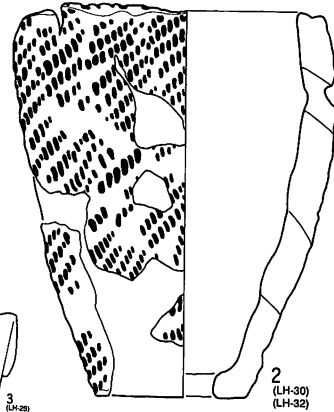
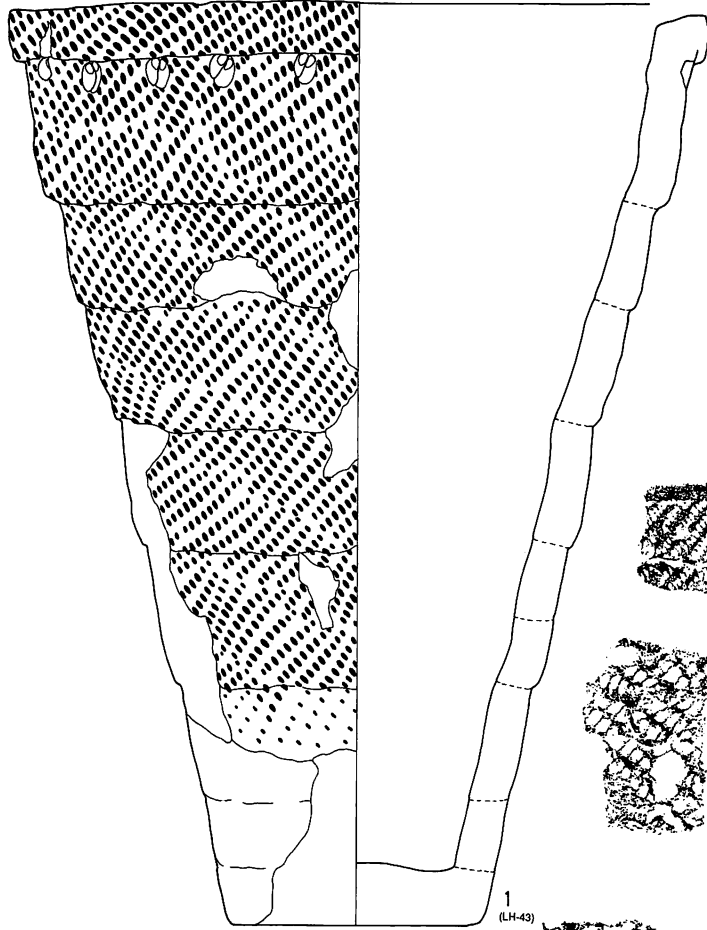


图 V-13 土器(9)



V 包含層の遺物



0 10cm

図 V-14 土器(10)

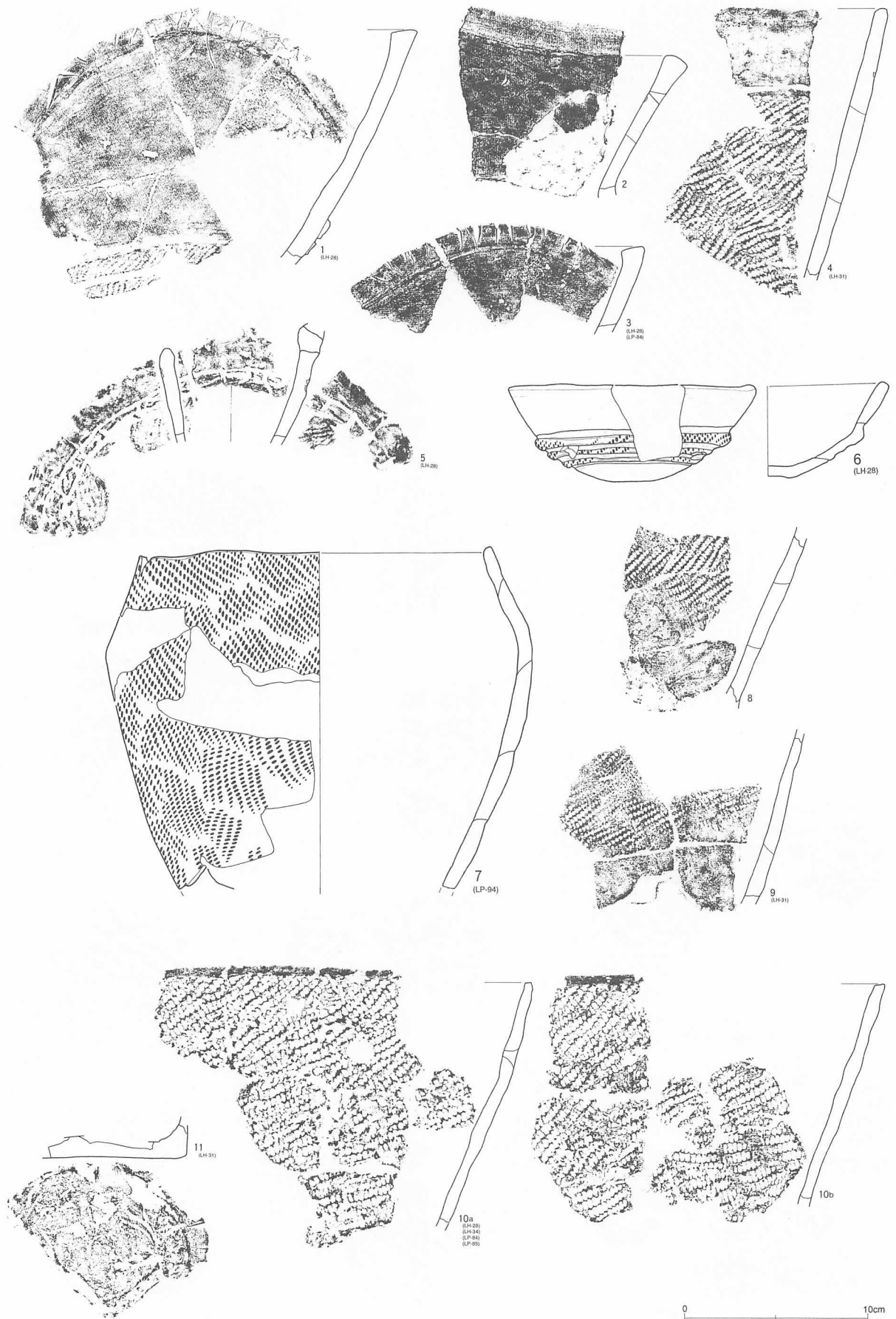
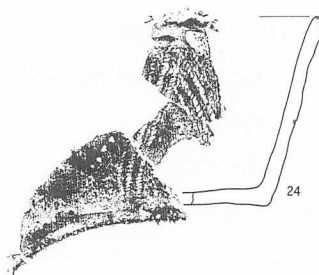
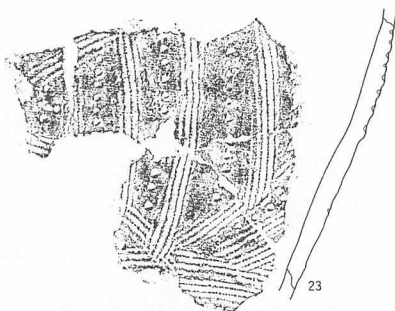
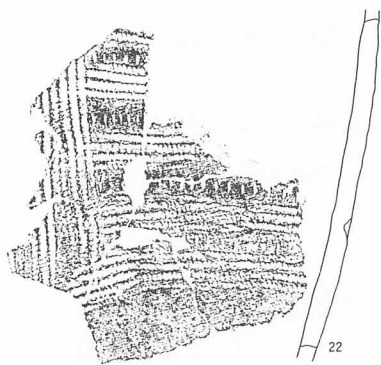
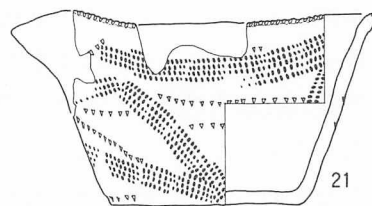
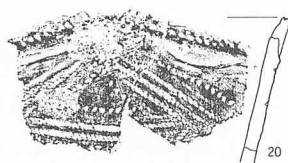
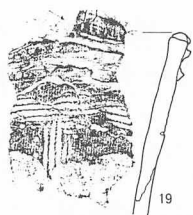
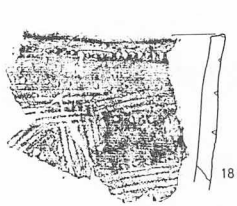
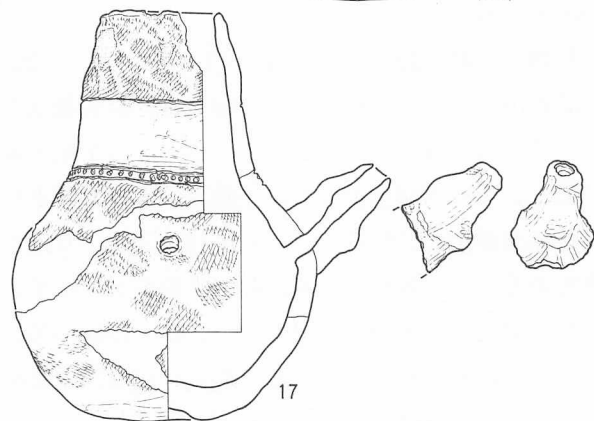
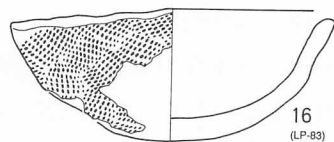
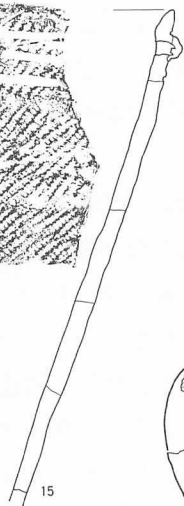
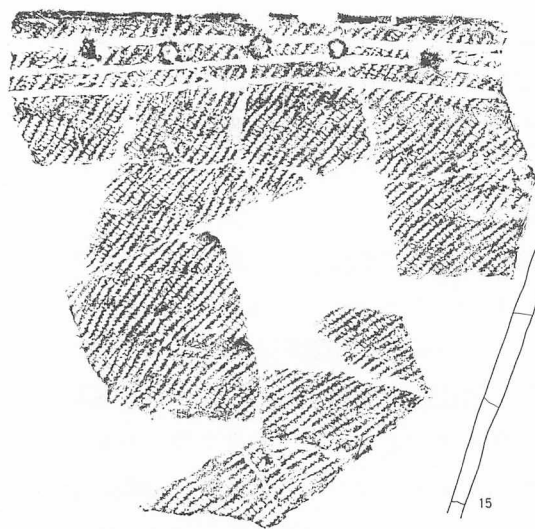
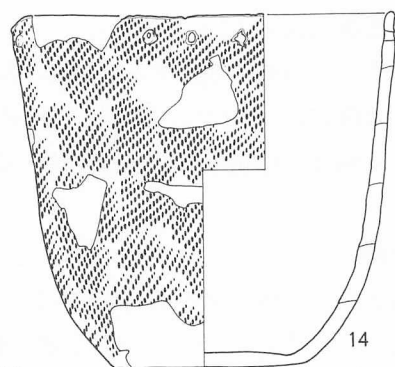
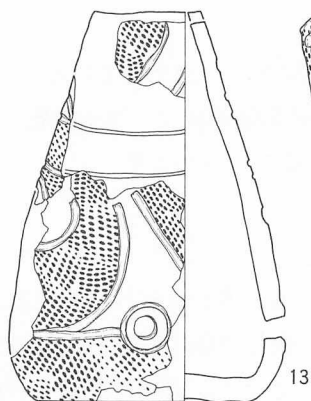
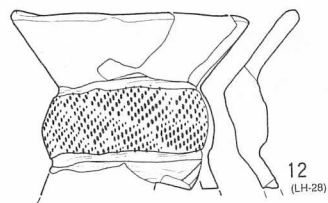


图 V-15 土器(1)



0 10cm

図 V - 16 土器(12)

VI群土器 (図V-16、図版87)

後北C 2-D式に相当する土器で、III層から出土している。

器形は深鉢形、注口形がある。文様は微隆起線文、縞状の縄文、列点文、刻みなどが施されている。

22・23は深鉢形の胴部、21・24は注口形、18~20はそのどちらかの口縁部である。

2. 石器

包含層出土の石器総数は3,634点である。内訳は剥片石器(剥片・碎片含む)1,961点、礫石器(礫・礫片含む)1,673点である。剥片、礫・礫片を除く石器の合計は557点で、剥片石器250点(約45%)、礫石器307点(約55%)という出土割合になる。遺物は石鏃、石槍・両面加工のナイフ、石錐、つまみ付ナイフ、スクレイパー、楔形石器、Rフレイク、Uフレイク、石核等が出土している。礫石器群には石斧、擦り切り残片、たたき石、すり石、砥石、石皿、台石等がある。この他に石製品も1点確認されている。今年度の調査では石鋸、石錘は出土していない。調査区中央より南西側のほぼVI~VII層から細石刃と細石刃核を伴う旧石器時代の遺物が見つかっており、キウス川流域の遺跡群でも初めての出土である。

石鏃 (I群A類) (図V-23-1~23、表V-10、図版88)

55点出土した。掲載した23点のうち、頁岩製は1点(8)である。他はすべて黒曜石製である。1~8は三角形無茎のものである。1・2は平基の4b類でV層から出土した。3~8は凹基の4a類である。6のIII層出土のものを除き、他はV層より出土した。9~15は柳葉形のもので3a類。9・11は基部が欠けている。11・12・15はV層より出土、他はVI層出土のものである。16・17は薄身の五角形のもので3b類である。共に先端部が欠けている。V層出土である。18~23は7類の有茎形のものでいずれもV層中から出土した。18・19は茎部の作り出しが不明瞭なもので縄文時代後期前葉に属すると思われるもの。20~23は縄文時代後期中葉のものと考えられ、20・21は先端がほぼ三角形を呈し、22・23は身部が内湾するものである。

石槍・両面加工のナイフ (I群B類) (図V-23-24~27、表V-10、図版88)

24点出土した。このうちV層出土の4点を図示した。24~26は1類で茎をもつもの。24は先端部分が円みを帯びている。27は2類で茎が不明瞭なもの。26は花十勝と呼ばれる黒曜石を素材としている。

石錐 (II群A類) (図V-23-28~32、表V-10、図版88)

21点出土した。このうちV層出土の5点を図示した。28~30は1類で、剥片の一部に機能部を作り出したものである。29・30には周辺加工が施されている。31・32は3類の棒状を呈するもので、31は全面に加工が施され、32は片岩の一端に加工を加え機能部を作出したものである。

つまみ付ナイフ (III群A類) (図V-23-24-33~40、表V-10、図版88・89)

20点出土した。9点を図示した。すべてV層出土である。33は小型の1類で、石材はチャートである。34・35は2類の片面加工で、背面の加工は非常に丁寧に施されている。

36~39は3類の片面周縁加工のものである。37の素材腹面にはバルブを残す。38は下端部に調整を加え、再利用したものと思われる。39の腹面上端は、ヒンジフラクチャーが認められ、これを加工しつまみ部が作出されている。40は両面加工の4類である。

スクレイパー (III群B類) (図V-24-41~53、表V-10、図版89)

52点出土した。13点を図示した。41~43は1類の石篋と称されるものである。すべてV層から出土した。41は珪岩、42・43は頁岩を素材とする。44~48は2類でラウンドスクレイパーである。44~47はIII層出土、48はV層から出土した。49~53は5類で、縦長の剥片を素材とし、側縁に刃部が設けら

れているものである。

楔形石器 (Ⅲ群C類) (図V-24-54・55、表V-10、図版89)

16点出土した。2点を図示した。54はⅢ層、55はⅤ層出土である。56・57は二次加工痕のある剥片(Rフレイク)。58は使用痕のある剥片(Uフレイク)である。記号を用いた分類は行っていないが、ここで図示した。

石核 (Ⅲ群D類) (図V-24-59~60、表V-10、図版89)

11点出土した。2点を図示した。共にⅤ層出土である。いずれも素材礫面を残す。

石斧 (Ⅳ群A類) (図V-25・26-61~69、表V-11、図版90)

破片も含め90点出土した。形態の明瞭なものは19点で、このうち9点を図示した。

61・62は1類でⅤ層出土である。いずれも素材は蛇紋岩である。61はA 2-81-cとV-78-dグリッドのものが接合した。丁寧な研磨が施されているため、擦り切り切断痕が見えにくい。63・64は2類でⅤ層出土である。素材は泥岩である。63は基部、64は刃部が欠損している。

65~67は3類で、66はⅥ層出土、他はⅤ層出土のもの。65は粘板岩、66・67は泥岩を素材にしている。67は刃部を欠失し、折断面には再度剥離が加えられている。68・69は明瞭な刃部が作出されておらず、未成品と思われ(8類)、68の両側縁部には打ち欠きによる粗い整形が、69の下端部には斜位方向からの擦痕が認められる。

擦り切り残片 (Ⅳ群C類) (図V-26-70、表V-11、図版91)

4点出土した。すべて蛇紋岩である。1点を図示した。

たたき石 (Ⅴ群A類) (図V-26-71~80、表V-11、図版91)

50点出土した。10点を図示した。71・72は2類で、71は扁平な礫の先端部及び側縁に、72は側縁にたたき痕をもつものである。71の素材は安山岩で、72は片岩である。73~77は3類で、円礫を素材にし、73・74は長軸上に、76・77は周縁にたたき痕をもつものである。この二つは同グリッド内のⅢ層から隣りあって出土した。75は被熱しており、赤く変色している。76はすり石的な機能もあわせもつもので、石質は橄欖岩を使用し、固く、重い。78~80は4類で、くぼみ石と称されるものである。いずれも砂岩を素材としている。

すり石 (Ⅵ群A類) (図V-27-81~86、表V-11、図版92)

37点出土した。6点を図示した。81~83は1類。断面形が三角形で、共に側面ないし稜部にすり面が認められる。82の両平坦面には斑状の敲打痕が認められ、たたき石と機能が複合するものである。84・85は2類。扁平な礫を素材にし、側縁に使用痕が認められる。84の片側平坦面には敲打痕があり、たたき石と機能が複合する。85の端部および側面には細かい敲打痕が認められる。86は4類で安山岩を素材とし、扁平な円礫の中央部にたたき痕が認められる。

砥石 (Ⅶ群B類) (図V-27-87~90、表V-11、図版92)

94点出土した。Ⅴ層出土の4点を図示した。いずれも板状のものを素材(2類)にし、主面には平坦あるいはU字状の研磨面をもつものである。87は凝灰岩で、交差する数条の条痕が認められる。88は折断面と側面を除く各面が使用されている。材質は砂岩。89はU字状の研磨面をもつもので機能部には光沢が見られる。90は他器種の可能性があるが、平坦部に研磨面が見られるため、砥石として扱った。

台石・石皿 (Ⅷ群A類) (図V-27-91・92、表V-11、図版92)

31点出土した。Ⅴ層出土の2点を図示した。いずれも破損品が多く、擦面(磨面)等をもつものは砥石との差異が特定し難い。91は安山岩を素材とし、ほぼ平坦な作業面を残している。全体が黒く変 177

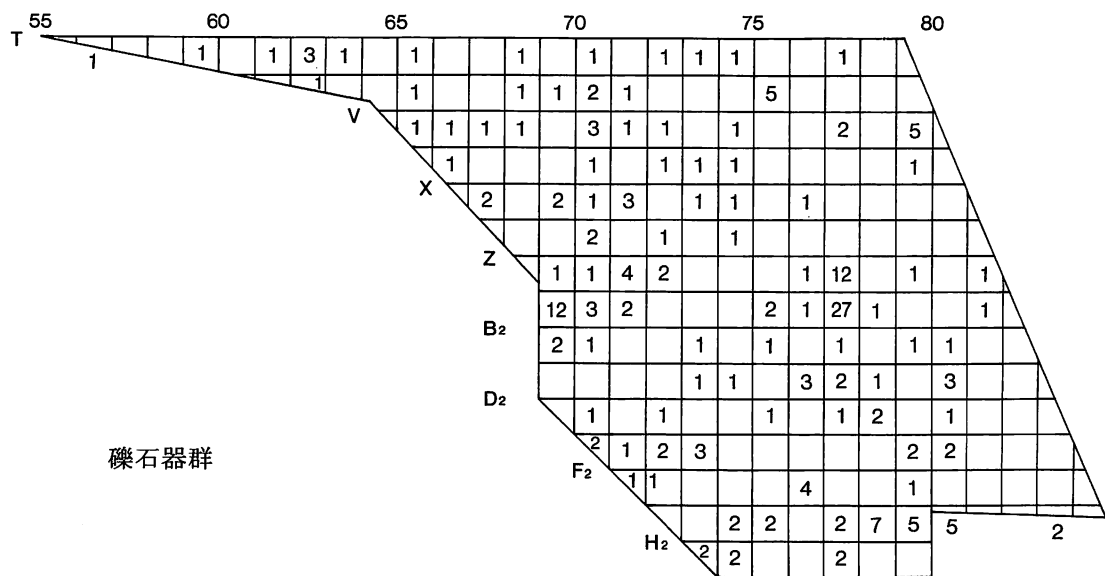
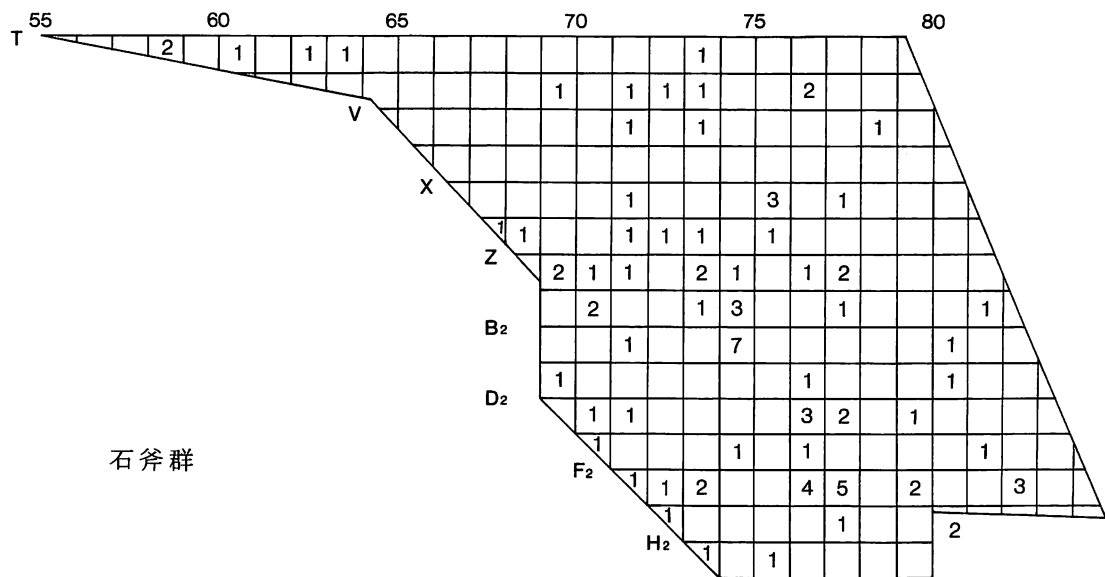
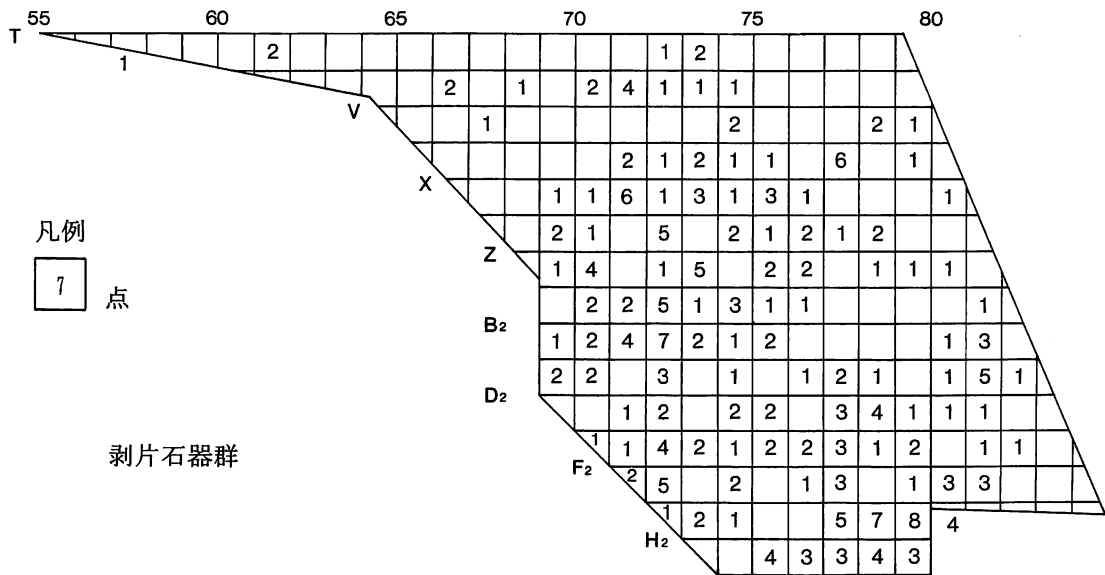


图 V-17 石器分布图(1)

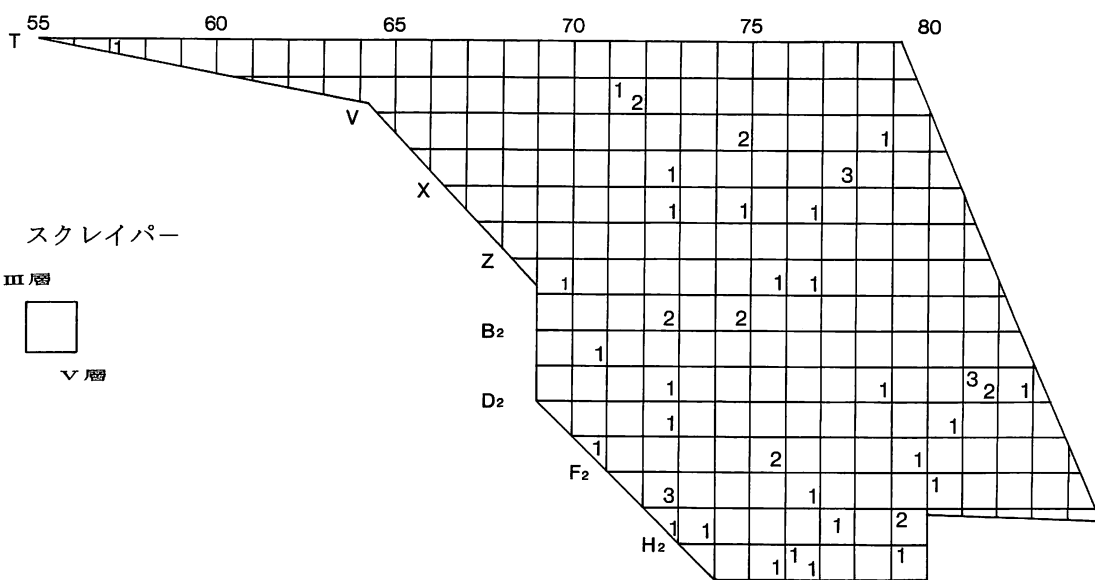
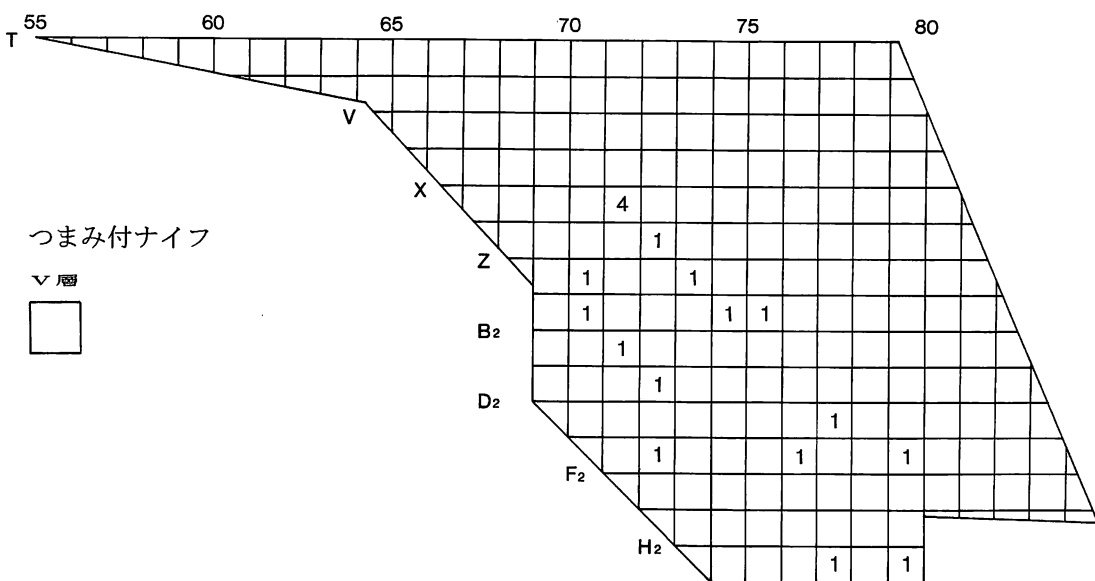
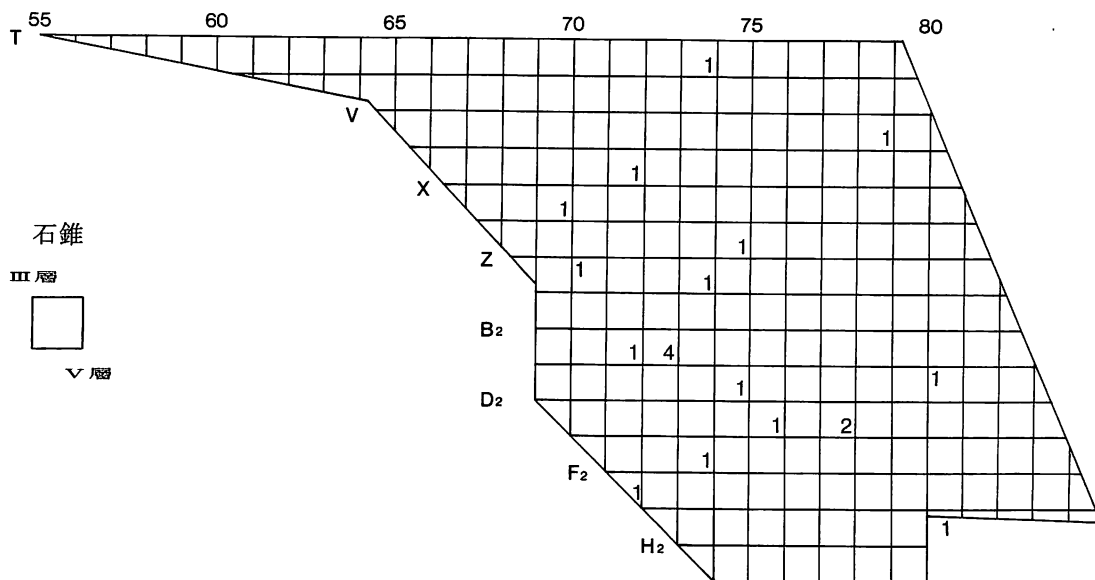
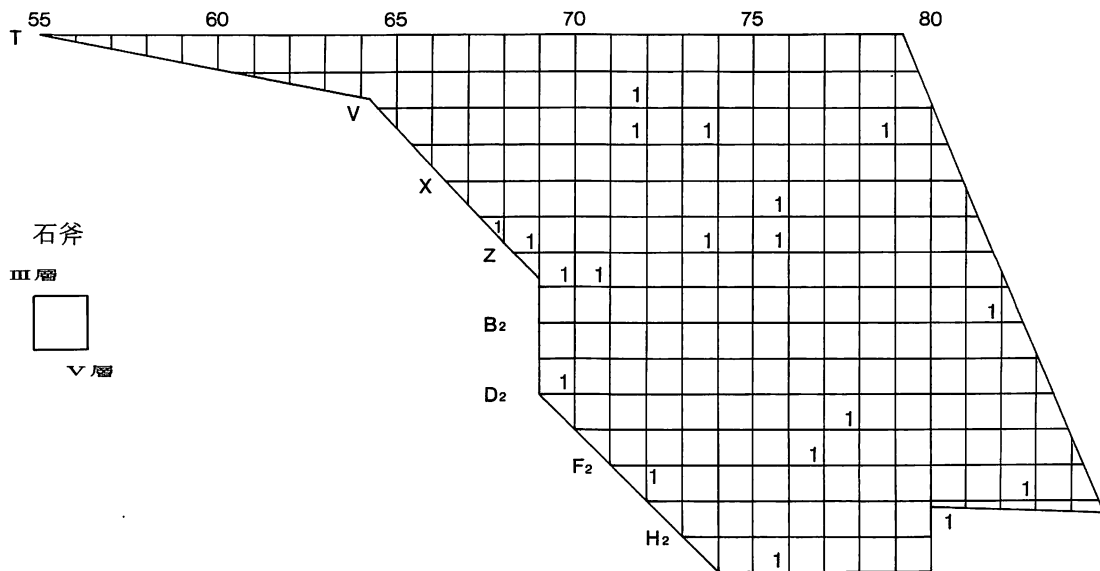
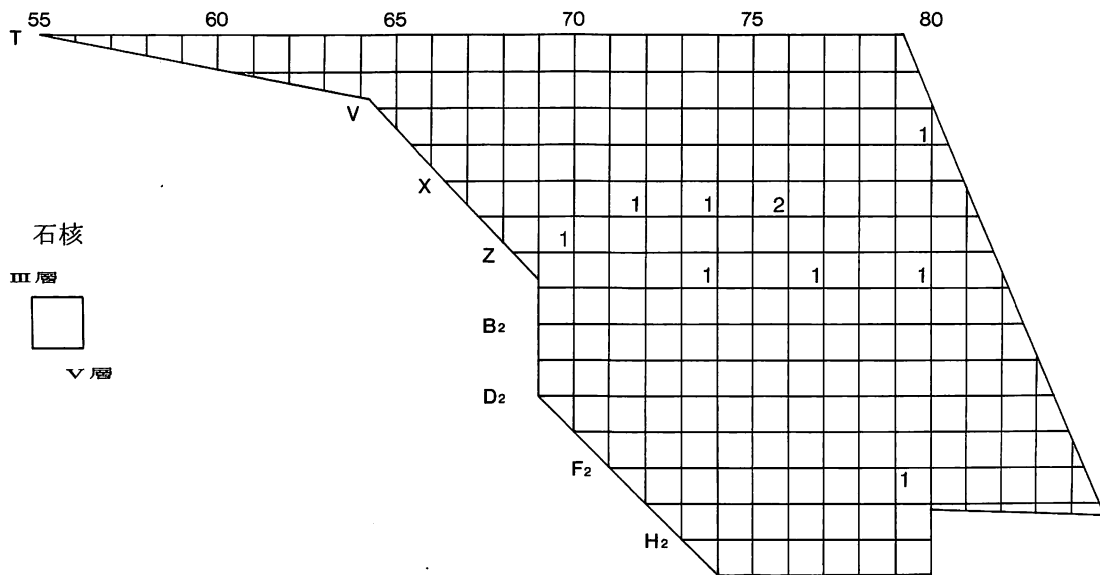
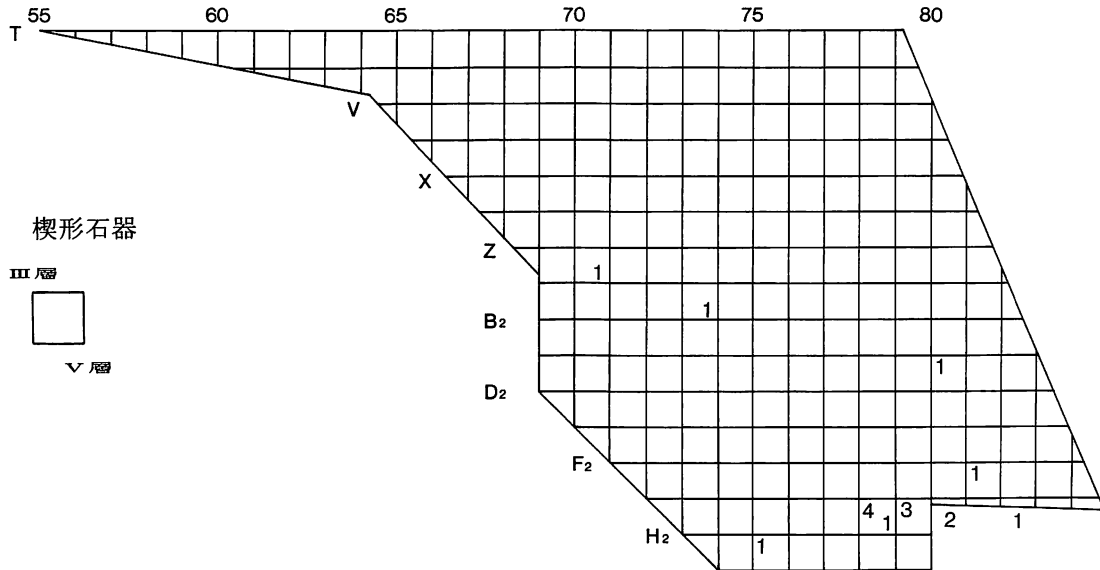


図 V-19 石器分布図(3)



図V-20 石器分布図(4)

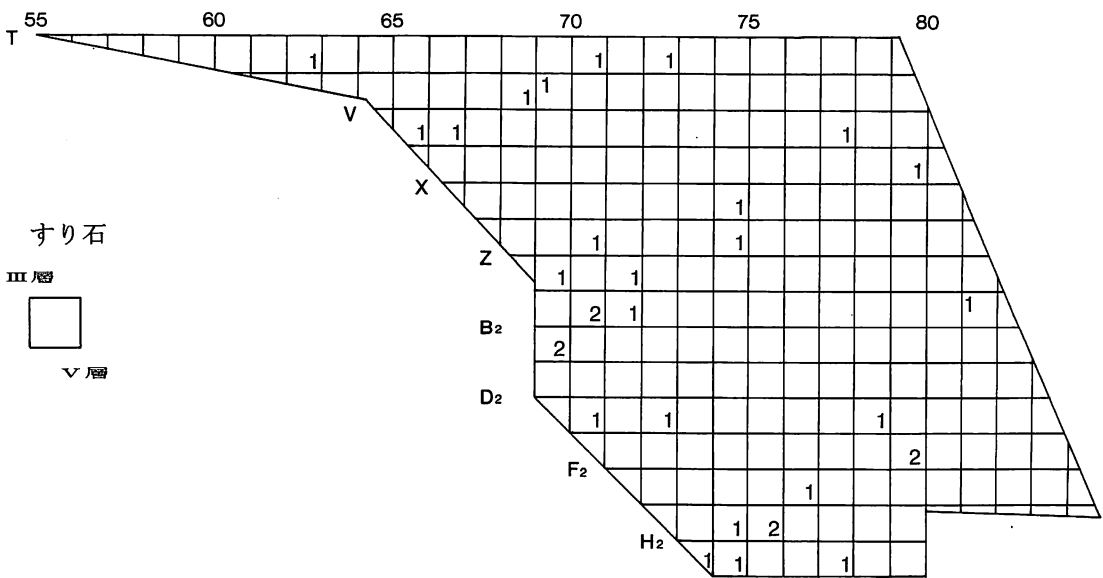
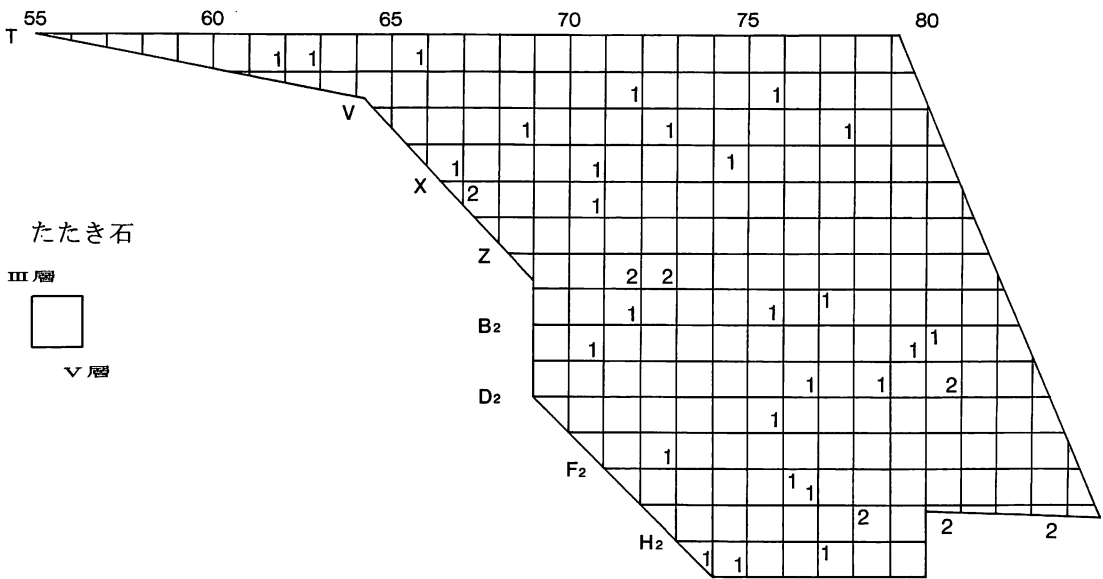
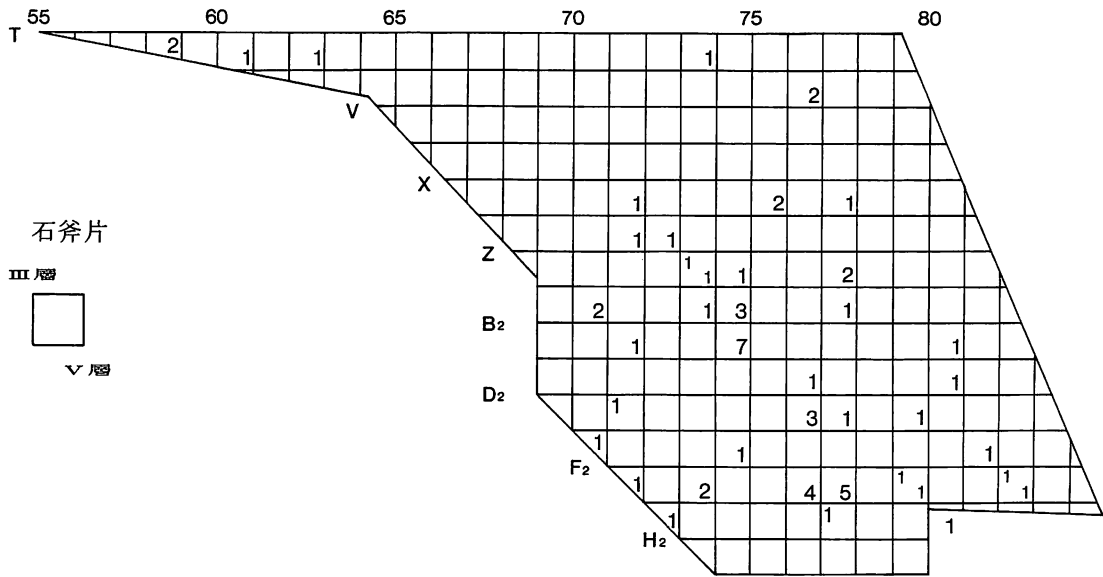


図 V-21 石器分布図(5)

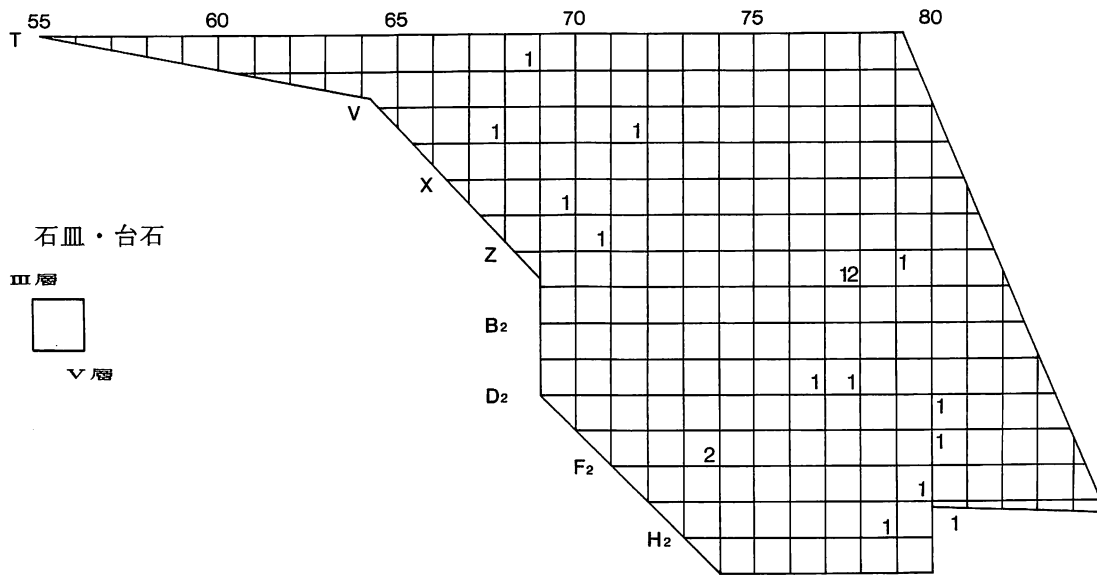
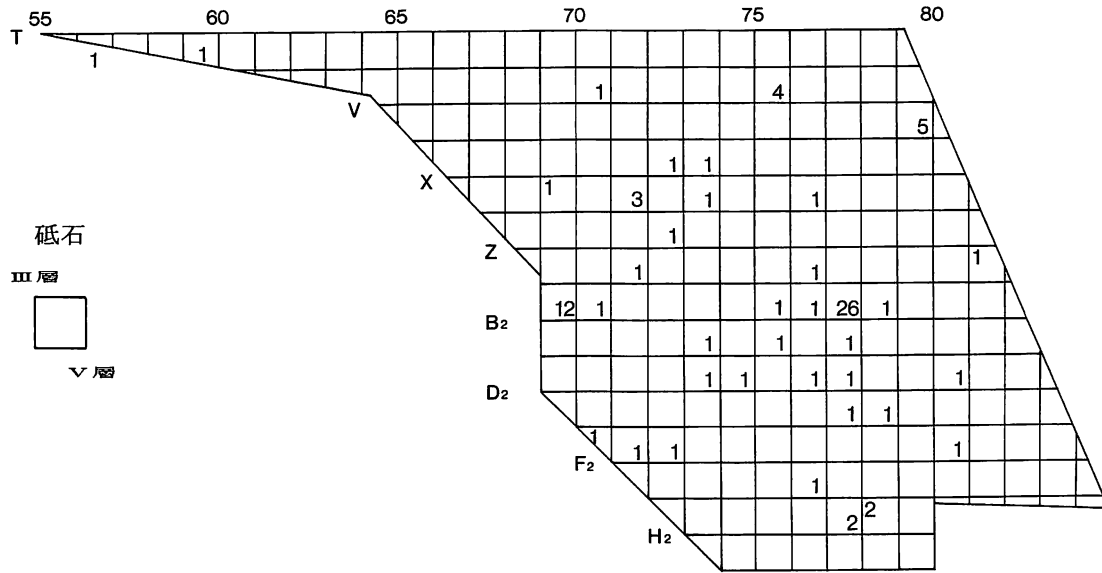


図 V-22 石器分布図(6)

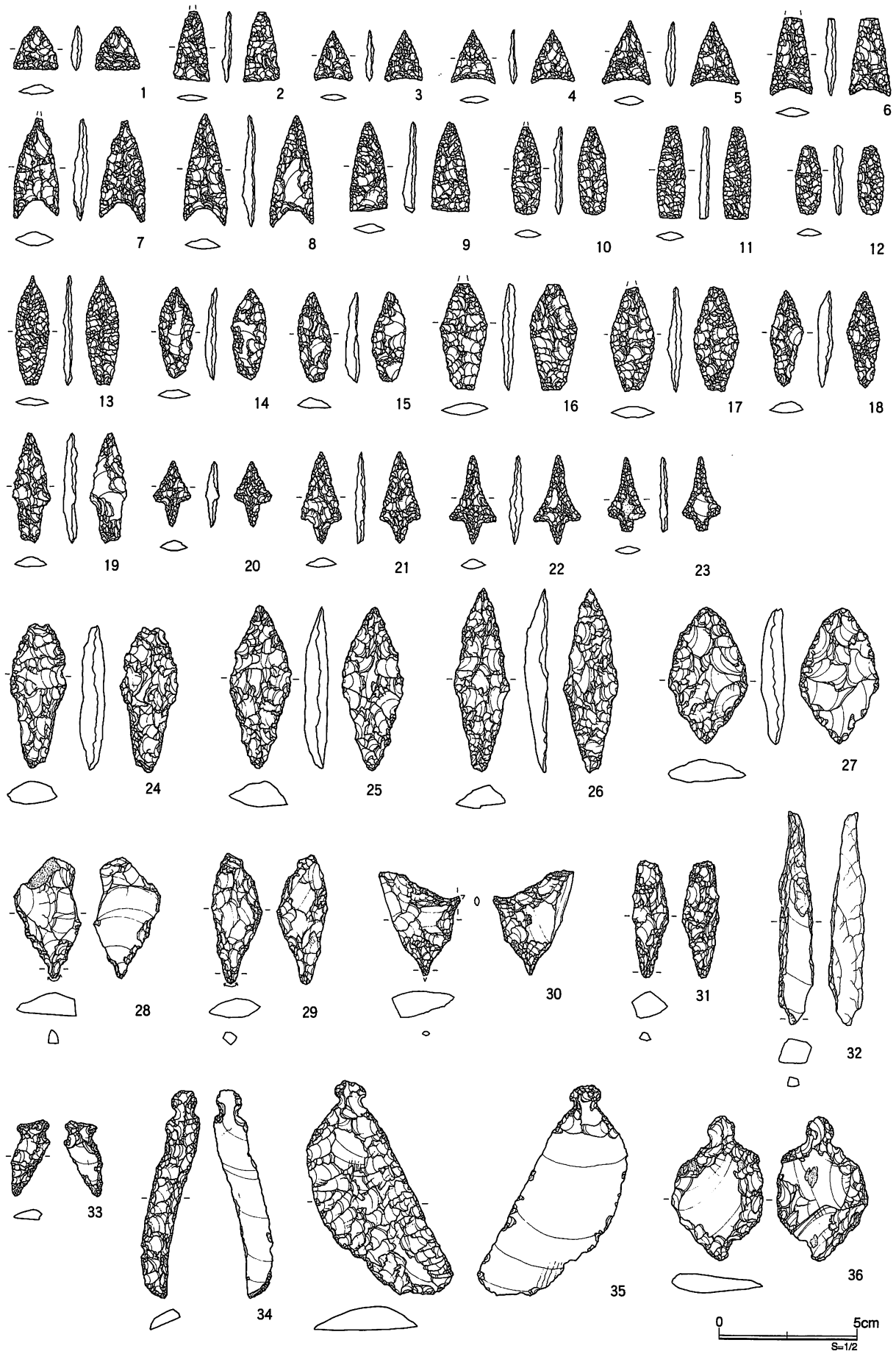
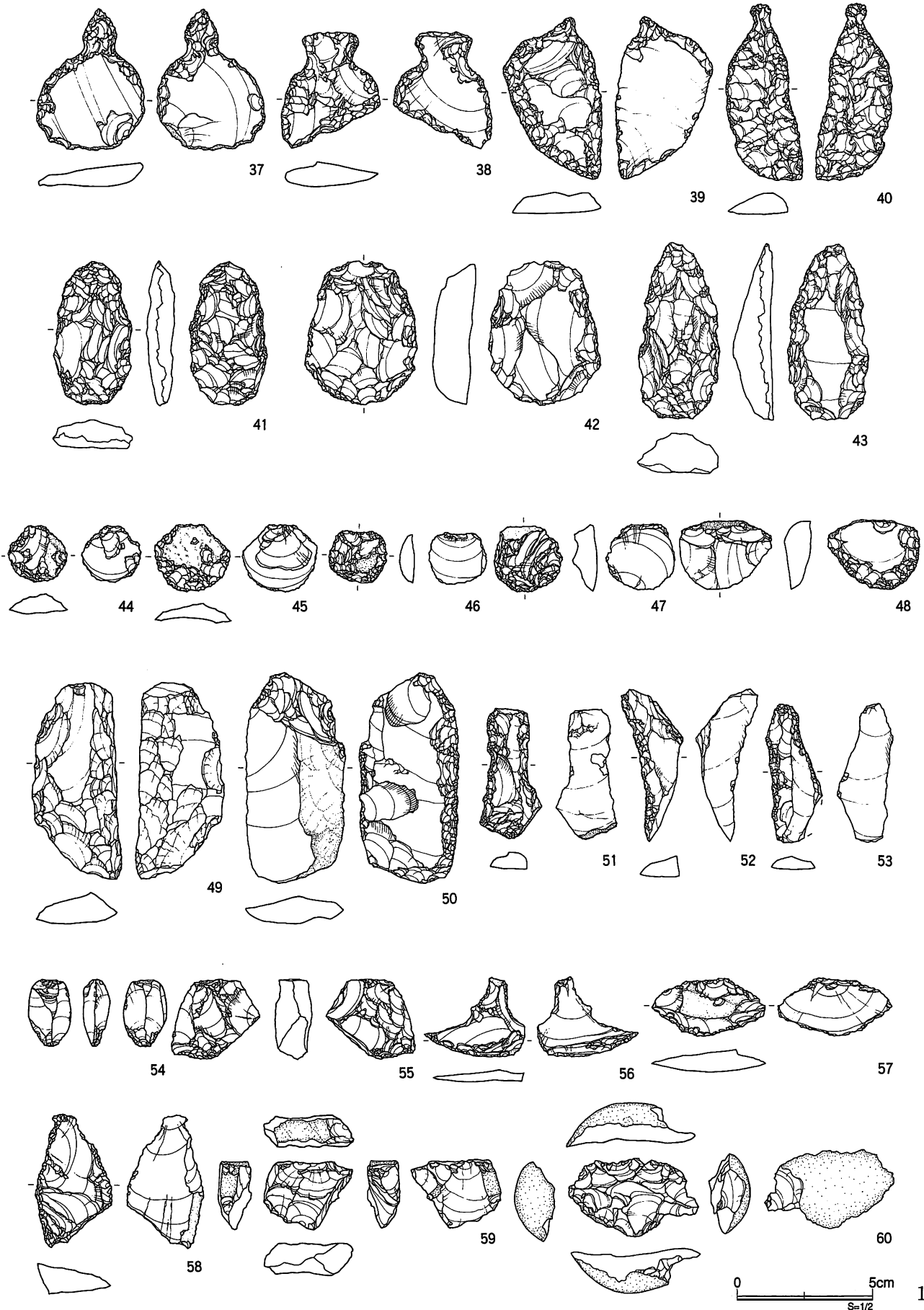
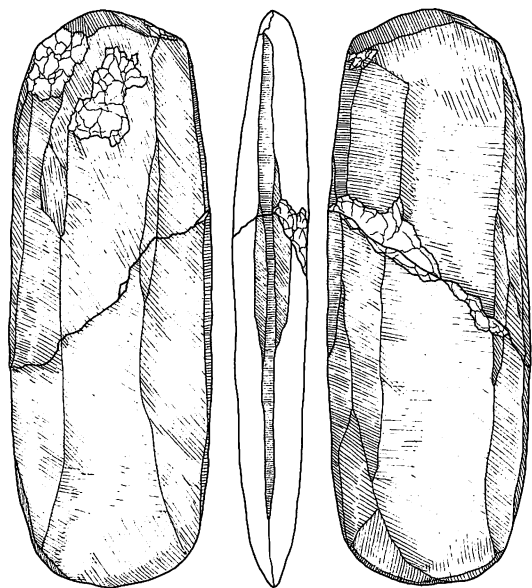


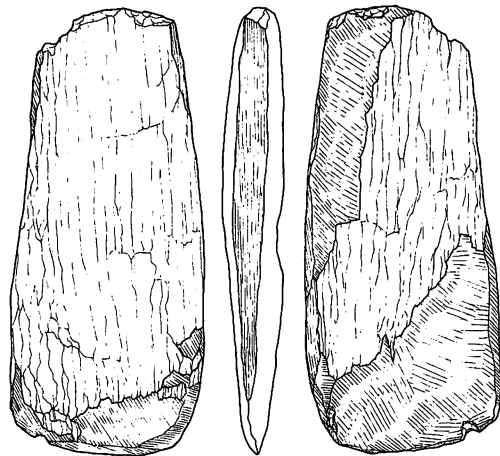
图 V-23 石器(1)



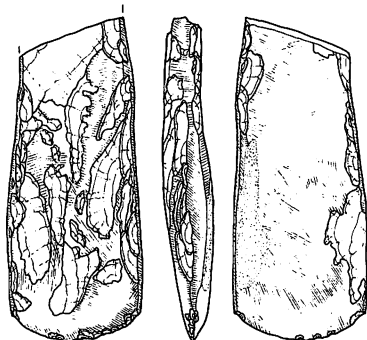
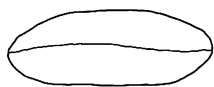
図V-24 石器(2)



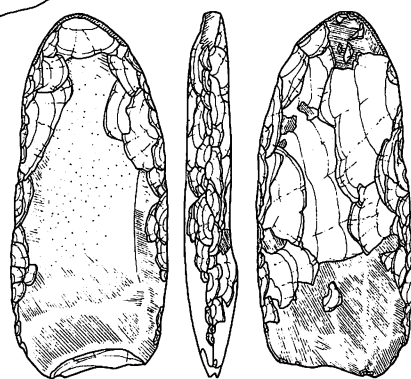
61



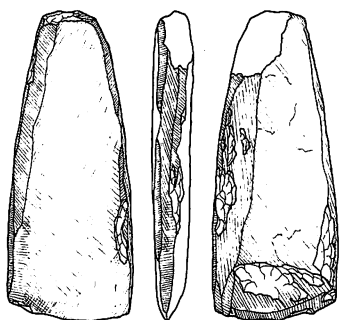
62



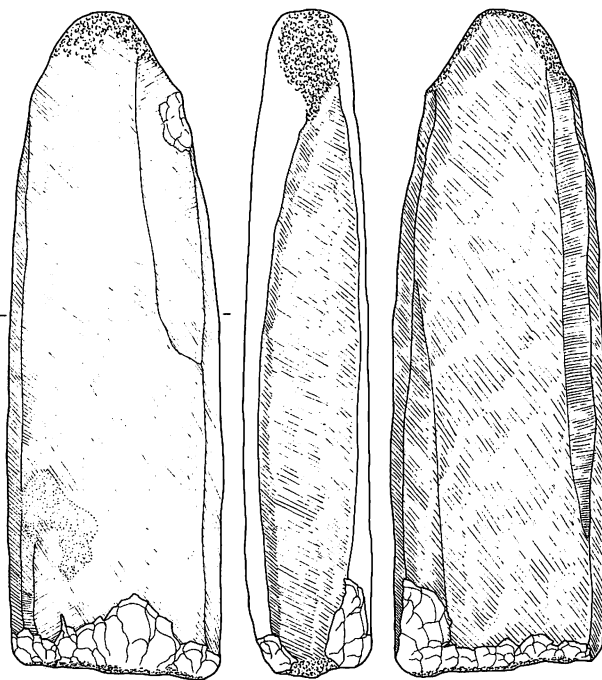
63



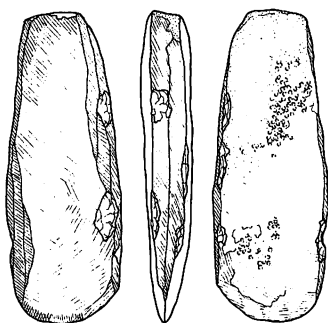
64



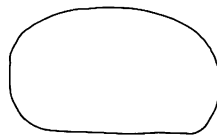
65



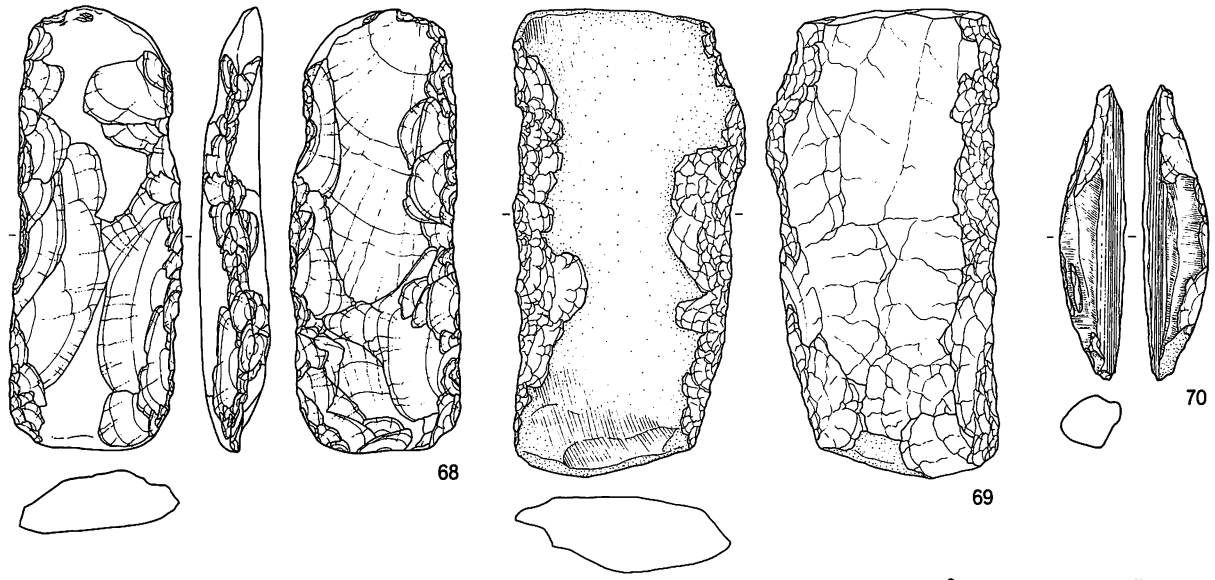
67



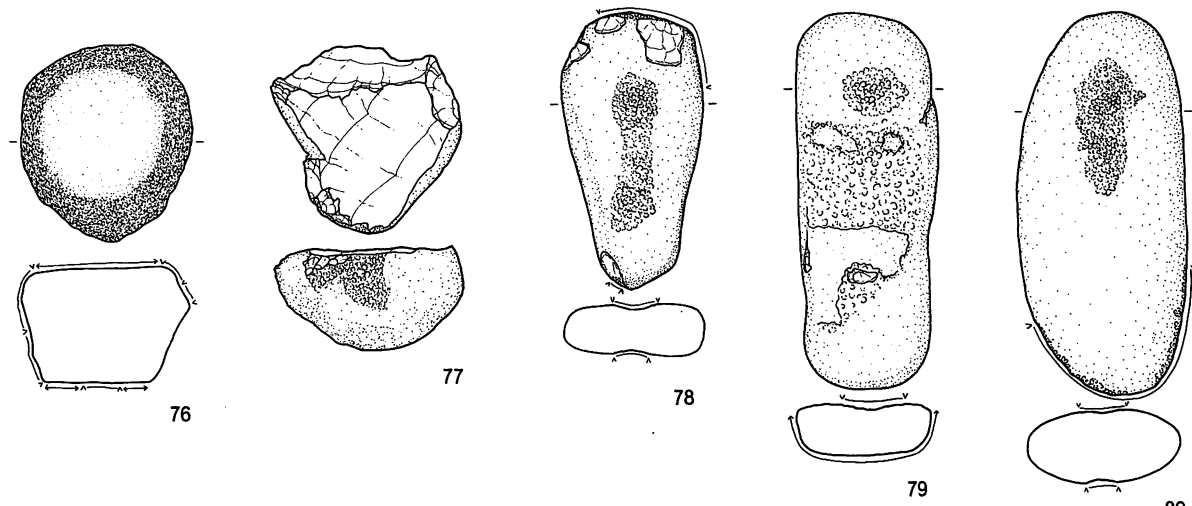
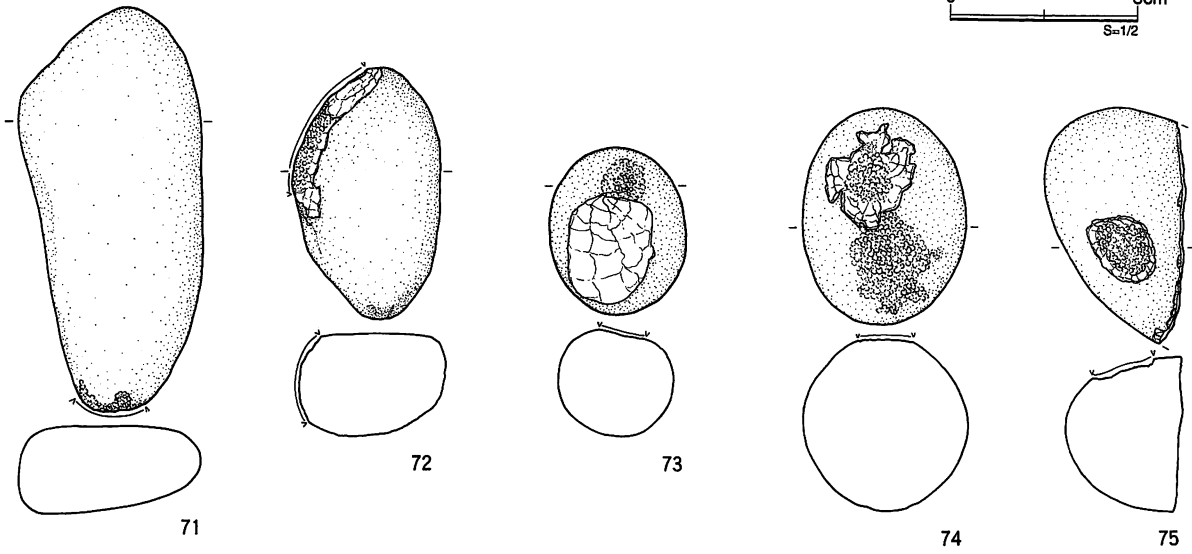
66



V 包含層の遺物

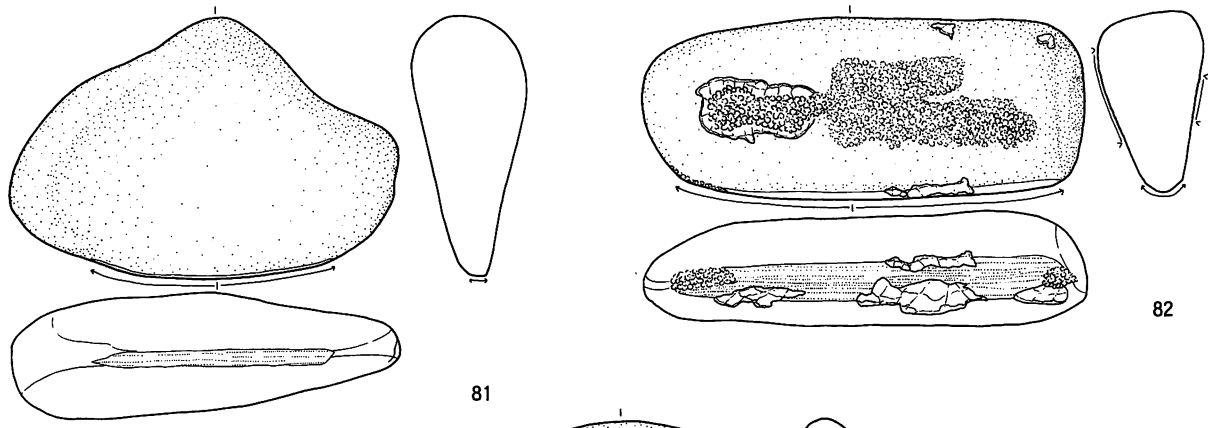


0 5cm
S=1/2



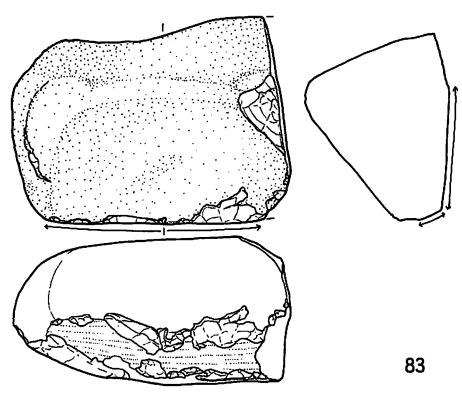
0 10cm
S=1/3

図V-26 石器(4)

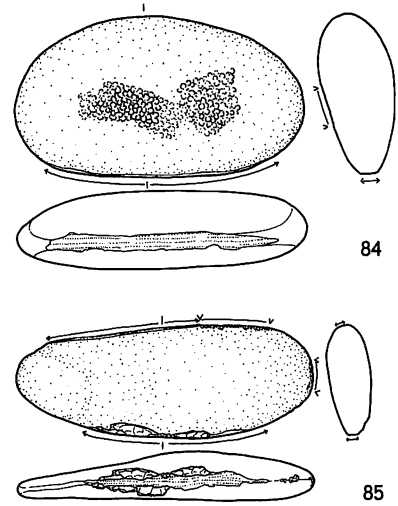


81

82

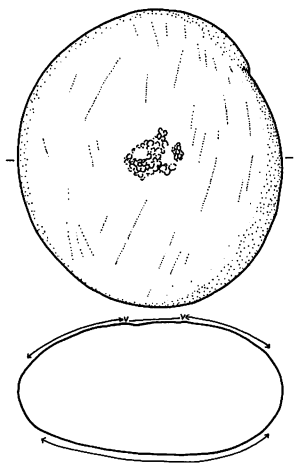


83

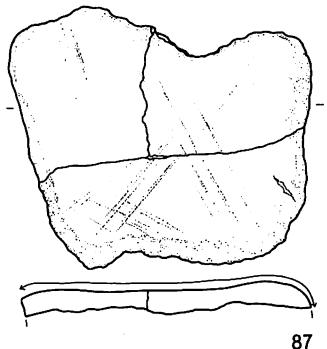


84

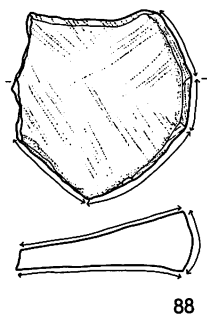
85



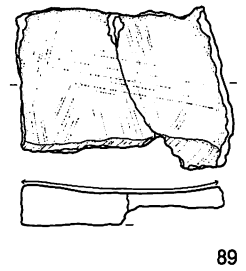
86



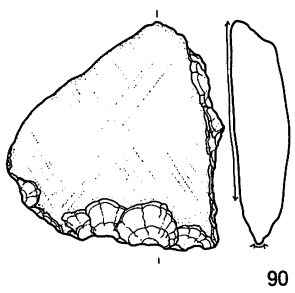
87



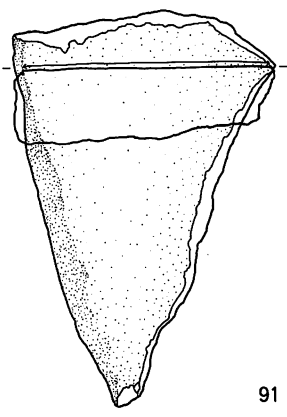
88



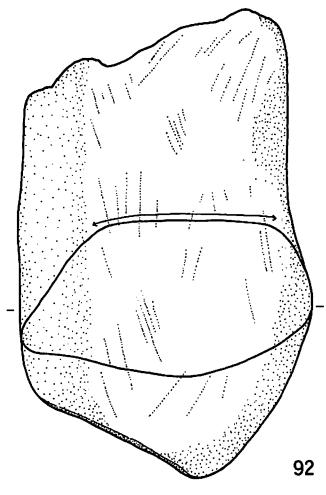
89



90



91



92

188

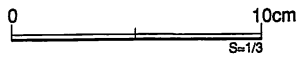


图 V - 27 石器(5)

色している。92は砂岩で完形品である。機能部は一面にとどまり、転移は見られない。いずれも平坦面に被熱痕が認められる。

(笠原)

3. 旧石器

包含層出土の旧石器時代の遺物総数は396点である。その内訳は、細石刃、細石刃核、打面再生剥片、石刃、スポール、彫刻刀形石器、スクレイパー、エンドスクレイパー、剥片、碎片等がある。遺物はD 2-73とE 2-73グリッドが接するラインを中心にして、約8 m×8 m程度の範囲に集中して確認された。遺物の出土層位はVI層が中心であるが、III層とV層からも細石刃等が出土している。また、縄文時代の竪穴住居跡から出土したのも、明らかに旧石器時代の石器と判断できるものも含まれている。逆にVI層出土石器の中にも石槍、石錐、Uフレイクなどが見られたが、縄文時代の石器と類似しているものがあるので省いた。層位別の遺物点数は、VI~VII層361点、V層16点、III層9点、その他10点となっている。利用されている石材は、黒曜石と頁岩の2種類だけで、黒曜石は約97%、頁岩は約3%と、黒曜石が圧倒的に多い。

細石刃 (図V-31-1~6、表V-12、図版93)

71点出土しているが、図示したのは6点のみである。図示しなかったもののうち比較的良好なものについては写真図版に掲載したので参照願いたい。出土資料のすべてが黒曜石製であった。1と2は完形品である。ともにVI層から出土した。1は長さ4.9cm、幅0.8cm、厚さ0.4cmで端部が湾曲しているが、両側縁はほぼ平行で3本の稜が通り、横断面形はやや丸みのある台形を呈している。また、主剝離面の左側縁には微細な剝離が認められる。2は長さ3.4cm、幅0.8cm、厚さ0.3cmで下端部が湾曲し、2本の稜が通り、断面形は台形である。側縁部に剝離は認められない。3はLH-36の覆土、4はVI層から出土した。ともに下端部側が欠損している。3の幅は0.7cm、厚さ0.4cmで、2本の稜をもち、断面形は台形を呈する。背面左側縁と、腹面左側縁には微細な剝離が見られる。4は幅0.5cm、厚さ0.3cmで、3本の稜をもち、上端部にねじれが見られる。側縁部に剝離痕は認められない。5はV層、6はLH-32の覆土から出土した。ともにバルブ側が欠損している。5は幅0.6cm、厚さ0.5cmで、先端部は湾曲し2本の稜が残る。断面形はほぼ三角形である。6は幅0.8cm、厚さ0.4cmで2本の稜をもち薄手で、背面の左側縁には不連続な剝離が認められる。

細石刃核 (図V-31-7~10、表V-12、図版93)

出土した4点を図示した。すべて黒曜石製である。7~10はいずれも厚手の剥片を素材にし、周縁に加工を施したものと見られる。細石刃剝離がかなり進行しており、さらに3点は確実に被熱している。7はVI層から出土した。焼けて透明感がなく灰色を呈する。両面加工で、主剝離面側には細かい調整が施される。6条の細石刃剝離面を有し、剝離痕は最長で約3cmである。断面形は楔形に近い形状を呈する。8はLH-36から出土した。裏面に原石面を残し、裏面からの調整が認められる。6条の細石刃剝離面をもち、剝離痕は最長で約3cmである。9はV層から出土した。被熱しており、うろこ状の焼け痕が見られる。周辺には調整が施されている。打面再生を試みたが、ヒンジフラクチャーをおこしたために廃棄されたものと思われる。5~6条の細石刃剝離面を有する。10はLH-36から出土した。被熱しており、表面は曇っている。また細石刃の剝離もかなり進んで、断面形が楔形の形状に近い。8条の細石刃剝離面を有し、剝離痕は最長で約4cmである。以上の4点は、おおむね峠下技法の範疇に含まれるものと考えられる。

スポール (図V-31-11、表V-12、図版93)

2点出土している。そのうち1点を図示した。11は背面に打面形成のためのセカンドスポールと見

られる。両側面には剝離痕があることから、ブランクは両面加工であった可能性がある。断面はD字形に近い。先端部には部分的に主剝離面からの調整が見られるため、石錐などに再加工した可能性がある。

彫刻刀形石器 (図V-31-12~18、表V-12、図版93)

9点出土している。そのうちの7点を図示した。すべて頁岩を素材にしている。彫刻刀面と右側縁の角度は約80°~120°である。12はVI層から出土した。主剝離面の基部側には調整が施されている。13はV層出土。主剝離面の突出した打点を削除するような加工が認められ、背面右側縁にも調整が施される。14はV層から出土した。背面右側縁には調整が施される。基部が欠損し、彫刻刀面はヒンジフラクチャーで終わっている。15はV層出土。背面周縁には調整が施され、腹面側の右側縁にも加工が見られる。16はVI層出土。背面周縁には調整が施され、先端部はノッチ状になっている。17はV層出土。16と素材が類似しており、同一母岩の可能性がある。背面右側縁には調整が施される。18はLH-31から出土した。背面の先端部と基部には調整が施される。上下に彫刻刀面をもつタイプである。

エンドスクレイパー (図V-31-19、表V-12、図版93)

1点出土した。19はV層出土。背面に原石面の残る小型の縦長剥片を素材にしたエンドスクレイパーである。両側縁には腹面からの浅い剝離が施され、端部に急角度の刃部が作出されている。

石刃 (図V-31-20~22、表V-12、図版93)

4点出土している。このうち3点を図示した。20はVI層出土のもので、両側縁には連続する微細な

表V-2 旧石器時代遺物一覧

図番号	調査区	層位	分類	細分類	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)
1	F2-71-c-11	VI	細石刃		黒曜石	4.9 × 0.6 × 0.3	0.7
2	E2-73-a-62	VI	細石刃		黒曜石	3.4 × 0.8 × 0.3	0.6
3	LH-36-14	覆土	細石刃		黒曜石	3.0 × 0.7 × 0.3	0.7
4	D2-73-b-21	VI	細石刃		黒曜石	2.7 × 0.5 × 0.2	0.2
5	E2-72-b-1	V	細石刃		黒曜石	3.2 × 0.5 × 0.23	0.3
6	LH-32-174	床面	細石刃		黒曜石	3.1 × 0.8 × 0.3	0.5
7	E2-73-d-22	VI	細石刃核		黒曜石	4.4 × 3.2 × 1.4	19.7
8	D2-73-b-15	VI	細石刃核		黒曜石	3.3 × 4.7 × 1.9	2.0
9	D2-73-c-5	V	細石刃核		黒曜石	4.3 × 3.9 × 1.8	26.2
10	LH-36-11	覆土	細石刃核		黒曜石	3.4 × 3.8 × 1.5	14.0
11	Y-71-c-5	V	スポール		黒曜石	1.0 × 5.8 × 1.3	4.4
12	LH-31-315	覆土	彫器		頁岩	3.8 × 1.4 × 0.7	3.6
13	D2-71-a-1	V	彫器		頁岩	4.2 × 2.4 × 0.6	5.8
14	G2-73-b-2	V	彫器		珪質頁岩	3.4 × 2.1 × 0.6	3.7
15	F2-75-d-4	V	彫器		頁岩	(4.0) × 2.6 × 1.0	(9.6)
16	C2-71-c-2	V	彫器		頁岩	4.9 × 2.3 × 1.0	6.7
17	E2-74-a-5	VI	彫器		頁岩	5.7 × 2.7 × 0.6	14.8
18	E2-74-a-7	VI	彫器		頁岩	3.8 × 2.1 × 1.1	6.9
19	T-73-d-3	V	エンドスクレイパー		黒曜石	4.2 × 2.3 × 1.1	7.7
20	H2-78-c-1	V	石刃		黒曜石	3.8 × 1.9 × 0.7	4.0
21	D2-70-d-6	VI	石刃		黒曜石	4.6 × 2.1 × 0.7	6.3
22	G2-72-d-5	III	石刃		頁岩	11.1 × 3.4 × 1.2	37.6

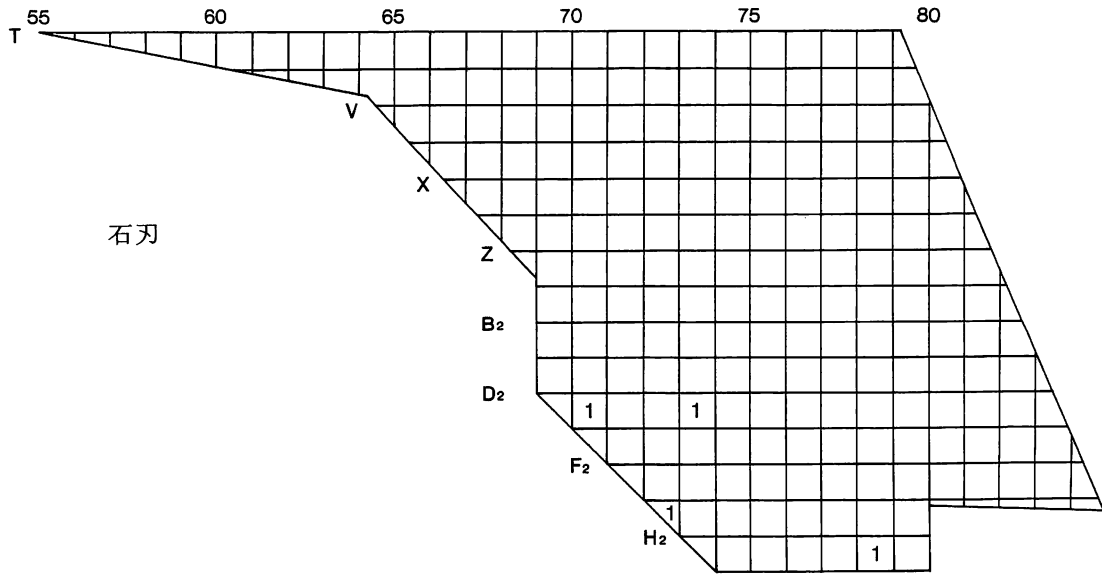
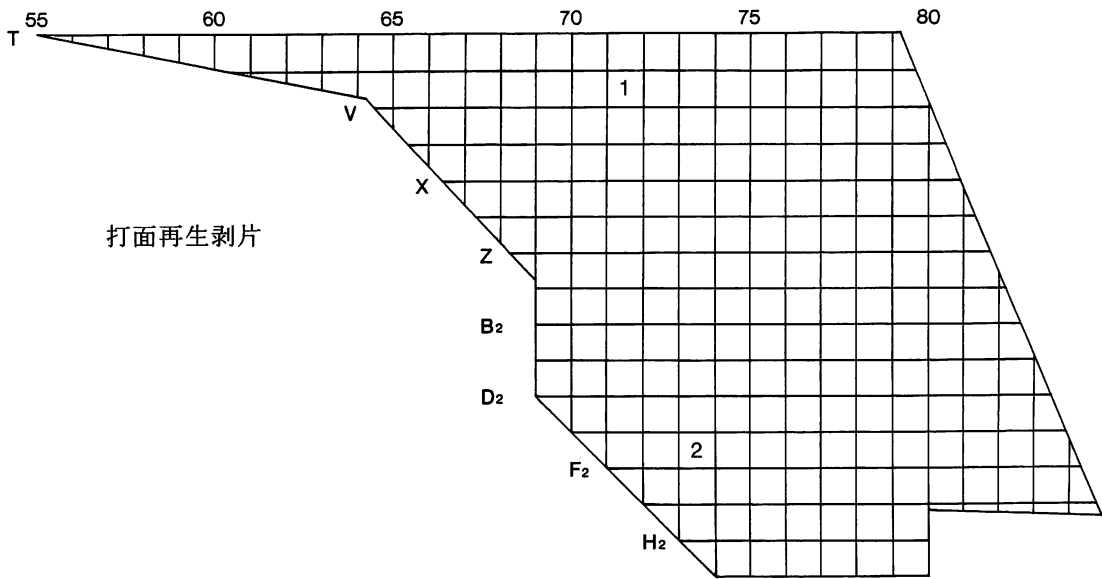
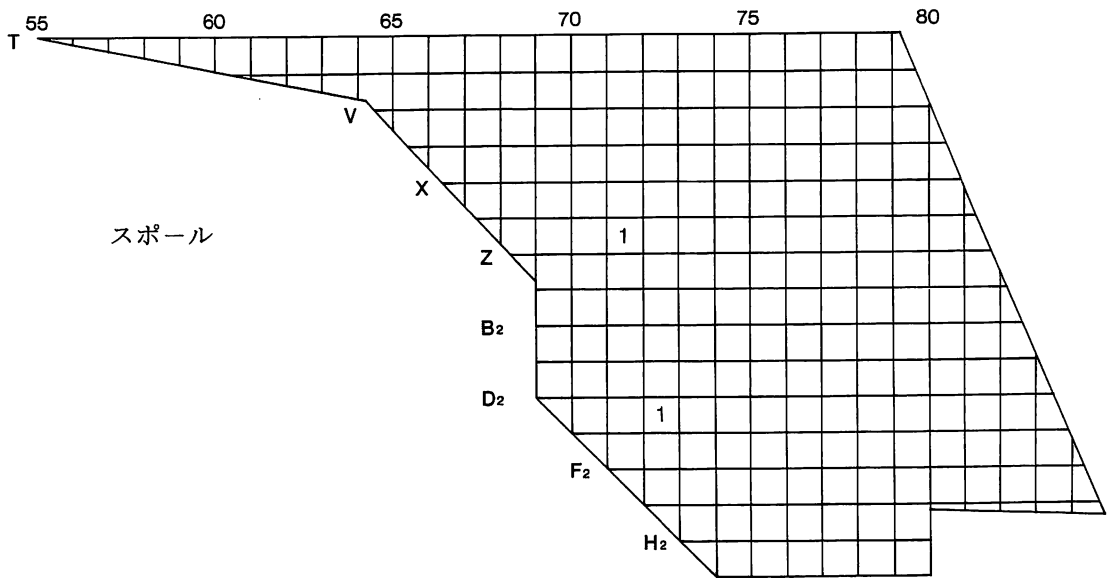


図 V - 29 包含層出土旧石器点数図(2)

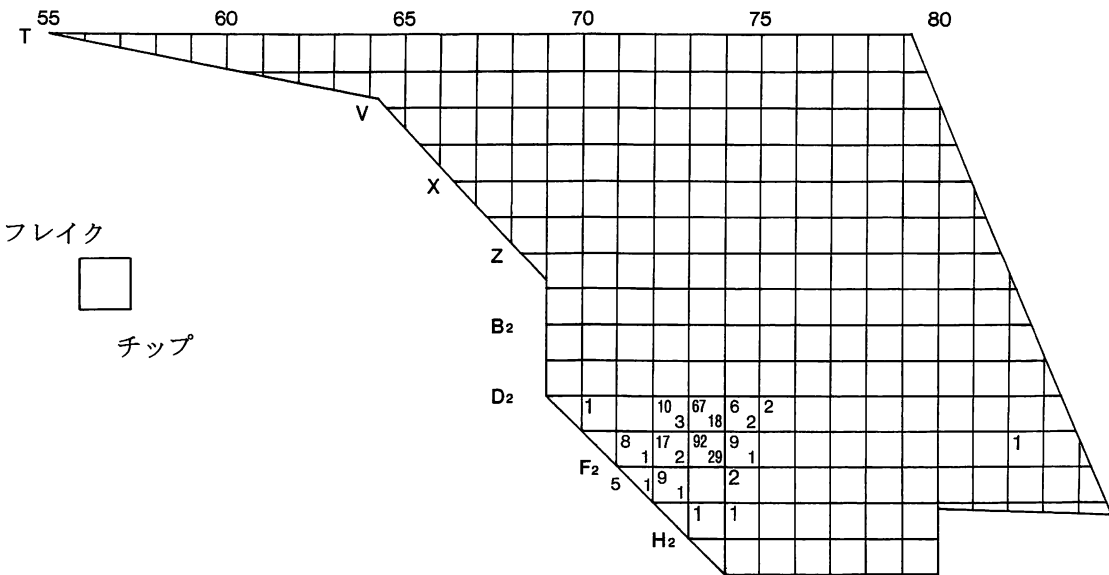
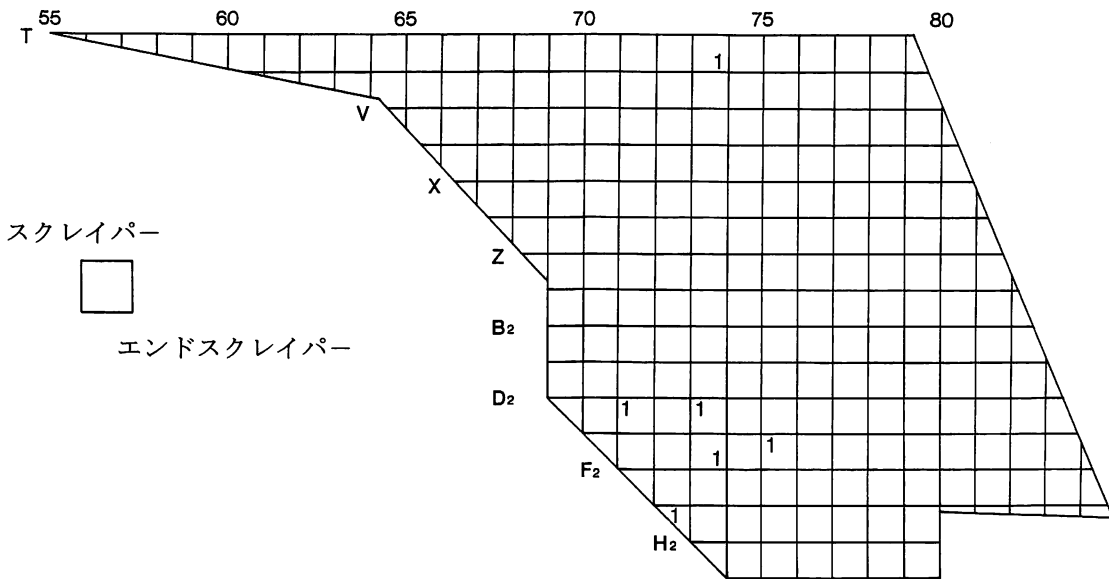
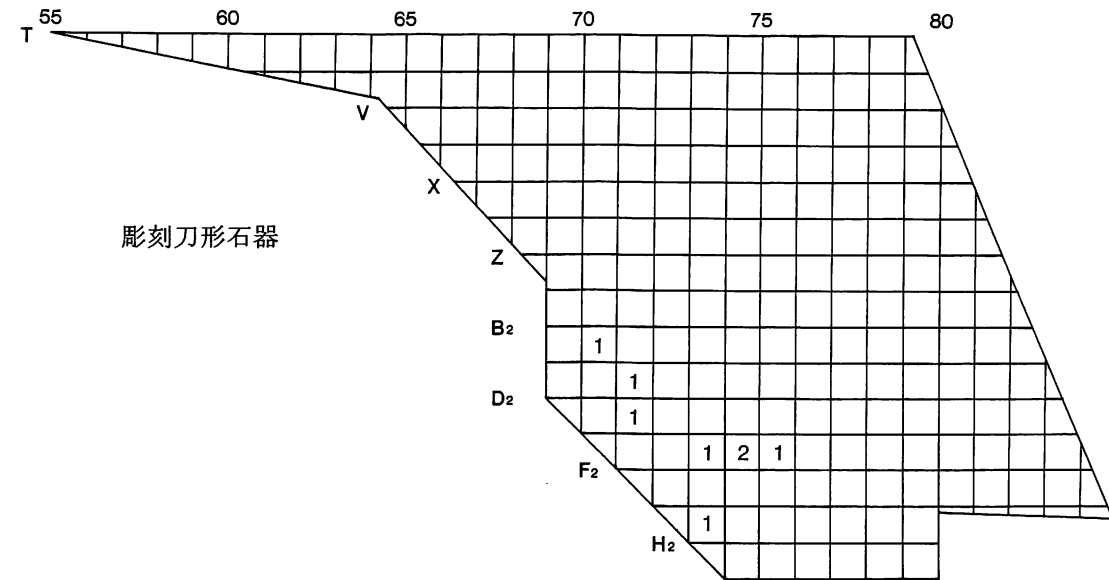
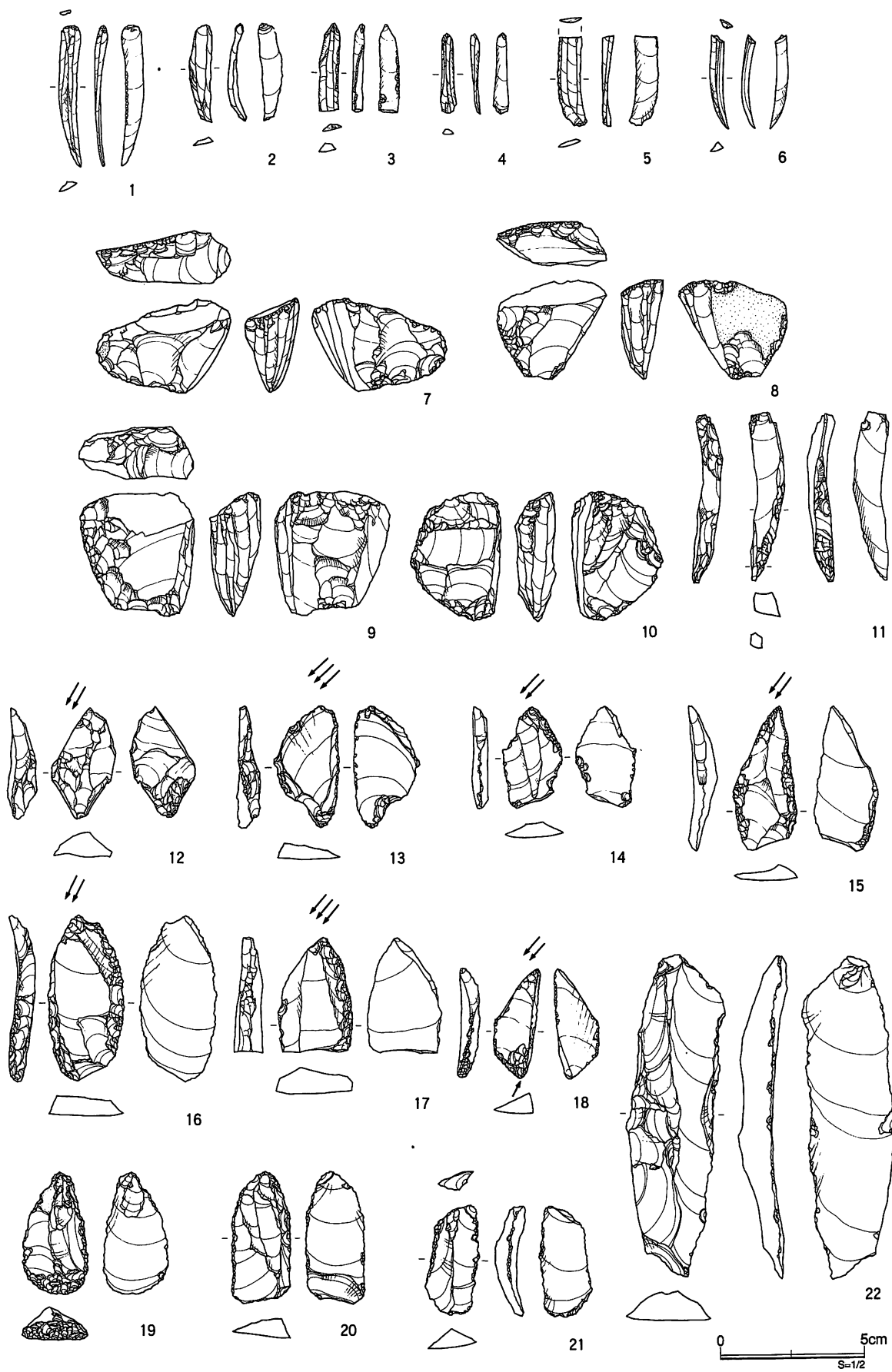


図 V-30 包含層出土旧石器点数図(3)



図V-31 包含層出土の旧石器

剝離が認められる。21はV層から出土した。バルブ側が欠損し、不連続な剝離が認められる。22はIII層出土。素材は頁岩である。右側縁には連続する微細な剝離が認められるが、稜が摩耗して丸みを帯びている。長さは約11cmを計る。
(笠原)

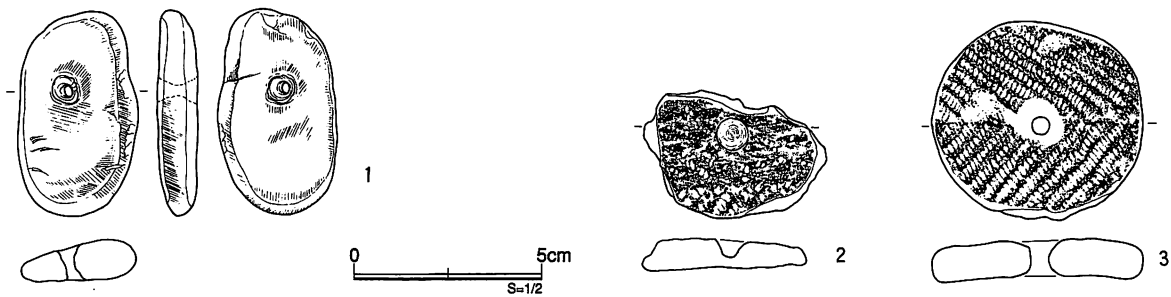
4. 石・土製品 (図V-32、図版92、表V-3)

石・土製品は共に点数は少ない。

1・2はI群b-2類土器の破片を再生したものである。3は蛇紋岩製の玉である。形態から見てLH-37かLH-39に伴う可能性が高いと思われる。

表V-3 石・土製品一覧

	グリット	層位	分類	石質	規模	重量(g)
1	H2-75-c-10	V	石製品	蛇紋岩	5.4 × 3.2 × 1.1	26.7
2	E2-81-d-3	V	土製円盤		(3.4 × 5.9 × 1.4)	(13.9)
3	Y-76-d-4	V	土製円盤		5.2 × 5.6 × 1.1	31.6



図V-33 石・土製品

資料一覧 表V-4 検出遺構一覧

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模	時期	備考
				直径×短径×深さm()推定		
UP-60	A2-74-b, D2-74	9	北埋No.127	1.71×0.97×0.32m	縄文時代晩期～続縄文時代	
UP-61	H2-79	9	北埋No.127	1.01×0.91×0.11m	縄文時代晩期～続縄文時代	
UP-62	H2-79-b	9	北埋No.127	0.70×0.62×0.20m	縄文時代晩期～続縄文時代	
UF-76	V-72-b, W-72-d, W-73	9	北埋No.127	2.12×1.16×0.18m	縄文時代晩期～続縄文時代	
UF-77	B2-81-c, C2-81, C2-82	9	北埋No.127	0.92×0.72×0.11m	縄文時代晩期～続縄文時代	
UF-78	H2-80	9	北埋No.127	0.63×0.58×0.10m	縄文時代晩期～続縄文時代	
LH-28	W-77-c, 78-b.c, 79-b, X-77-c.d, 78-a~d, X-79-a.d, Y-78-a.d	9	北埋No.127	6.31×5.92×0.66m	縄文早期後半コッタロ (Ib-2)	
LH-29	Z-80-b.d, 81-a~d, A2-80-a~d, 81-a~d, B2-80-d, 81-a	9	北埋No.127	7.85×6.58×0.43m	早期後半コッタロ (Ib-2)	
LH-30	B2-74-c, 75-b.c, 76-b, C2-74-c.d, 75-a~d, 76-a.b, D2-74-d, 75-a.d, 76-a	9	北埋No.127	7.57×6.82×0.46m	早期後半コッタロ (Ib-2)	
LH-31	E2-72-c, 73-b~c, 74-b, F2-72-a~d, 73-a~d, 74-a~c, G2-72-a.c.d, 73-a~d, 74-a	9	北埋No.127	9.76×8.55×0.68m	縄文後期中葉手稲 (IVb)	
LH-32	B2-73-b, C2-72-a~d, 73-a~d, 74-a.d, D2-72-a.c.d, 73-a~d, 74-a	9	北埋No.127	7.46×6.37×0.55m	早期後半コッタロ (Ib-2)	
LH-33	B2-70-c, 71-b.c, G2-70-c.d, 71-a~d, D2-71-a	9	北埋No.127	5.39×5.0×0.34m	早期後半コッタロ (Ib-2)	
LH-34	Y-74-b~d, 75-b~d, z73-c., 74-a~d, 75-a~d, z76-a, A2-74-a.d, 75-a	9	北埋No.127	9.63×6.43×0.30m	縄文後期前葉余市 (IVa)	
LH-35	F2-75-b.c, 76-b.c, G2-75-a~d, 76-a.b.c	9	北埋No.127	5.51×4.75×0.55m	早期後半コッタロ (Ib-2)	
LH-36	D2-71-b~d, 72-a~d, E2-71-c.d, 73-a.b.d	9	北埋No.127	5.93×5.57×0.43m	早期後半コッタロ (Ib-2)	
LH-37	E2-73-b.c, F2-72-c.d, 73-a~d, 74-a, b, G2-72-d, 73-a.d, 74-a	9	北埋No.127	6.33×5.76×0.22m	後期前葉余市 (IVa)	
LH-38	A2-79-c, 80-b.c, B2-79-c.d, 80-a~d	9	北埋No.127	5.82×4.51×0.35m	早期後半コッタロ (Ib-2)	
LH-39	E2-72-c, 73-b.c, F2-72-c.d, 73-a~d, G2-72-d, 73-a.d	9	北埋No.127	6.45×4.73×0.33m	縄文中期後半柏木川 (IIIb)	
LH-40	C2-69-a~d	9	北埋No.127	3.28×(2.66)×0.26m	後期前葉余市 (IVa)	
LH-41	D2-69-a.c.d	9	北埋No.127	(1.64)×(1.67)×0.44m	後期前葉余市 (IVa)	
LH-42	D2-76-b.c, E2-75-c.d, 76-a~d, 77-a	9	北埋No.127	6.59×5.35×0.45m	早期後半コッタロ (Ib-2)	

V 包含層の遺物

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模		時 期	備 考
				直径×短径×深さm()推定			
LH-43	F2-77-b.c,78-b, G2-77-a~d,78-a. b,H2-77-a,78-a	9	北埋No.127	6.20×4.86×0.21m		後期前葉余市 (IVa)	
LP-78	F2-76-c,77-b,G2-76-d	9	北埋No.127	1.47×1.40×0.33m		縄文時代後～晩?	
LP-79	C2-74-a.b	9	北埋No.127	1.85×1.52×0.26m		縄文時代後～晩?	
LP-80	A2-76-a~d	9	北埋No.127	3.02×2.83×0.25m		早期?	
LP-81	X73-a,Y72-c.d,73-a~d	9	北埋No.127	3.68×3.31×0.03m		早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-82	X73-c.d,X74-a~d	9	北埋No.127	3.20×2.15×0.31m		後期前葉余市?	
LP-83	W-73-b,X-73-a	9	北埋No.127	1.07×0.96×0.28m		後期中葉手稲	
LP-84a	V-79-c,W-79-d	9	北埋No.127	1.25×0.78×(0.08)m		縄文中～晩期	
LP-84b	V-79-c,W-79-d	9	北埋No.127	2.38×1.74×(0.05)m		縄文中～晩期	
LP-85	X-76-c.d,77-a~d,Y-77-a	9	北埋No.127	3.75×3.24×0.32m		早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-86	X-77-d	9	北埋No.127	0.46×0.44×0.79m		早期	
LP-87	V-77-c.d,78-a~d	9	北埋No.127	2.16×1.78×0.45m		縄文中～晩期	
LP-88	F2-74-c	9	北埋No.127	1.43×1.21×0.55m		後期前葉余市	
LP-89	Z-73-c.d,74-a.b	9	北埋No.127	2.56×2.38×0.40m		早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-90	Y-76-b	9	北埋No.127	1.39×0.98×0.26m		縄文後期? (余市)	
LP-91	A2-74-a~d	9	北埋No.127	2.48×2.19×0.49m		早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-92	W-67-c.X-67-d	9	北埋No.127	1.68×0.99×0.16m			
LP-93	G2-73-c,74-a~d, H2-73-d,74-a~d	9	北埋No.127	5.01×3.98×0.57m		早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-94	H2-74-a	9	北埋No.127	1.16×1.06×0.27m		後期中葉手稲 (IVb)	
LP-95	E2-71-c.d,72-a.b	9	北埋No.127	1.89×1.77×0.67m		早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-96	H2-77-a~d	9	北埋No.127	2.87×2.36×0.30m		早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-97	H2-76-a~d	9	北埋No.127	2.95m×2.67×0.28m		早期後半コッタロ (I b-2)	
LP-98	F2-72-a~d	9	北埋No.127	1.29×1.13×0.17m		後期前葉余市?	
LP-99	F2-74-b,G2-74-a	9	北埋No.127	1.32×1.0×0.24m		後期前葉余市?	
LP-100	A2-77-b	9	北埋No.127	0.58×0.57×0.65m		早期?	
LP-101	B2-78-a	9	北埋No.127	0.51×0.45×0.83m		早期?	
LP-102	B2-78-b	9	北埋No.127	0.58×0.52×0.55m		早期?	
LP-103	C2-78-b	9	北埋No.127	0.43×0.41×1.09m		早期?	
LP-104	C2-77-c.d,78-a.b	9	北埋No.127	0.60×0.55×0.74m		早期?	
LP-105	C2-76-b.c	9	北埋No.127	0.64×0.61×1.23m		早期?	
LP-106	B2-76-d	9	北埋No.127	0.53×0.50×0.61m		早期?	
LP-107	X-79-b,Y-79-a	9	北埋No.127	0.68×0.64×1.16m		早期?	
LF-253	U-73-a.b	9	北埋No.127	1.37×0.55×0.09m		縄文早～晩期	
LF-254	Y-78-c	9	北埋No.127	0.43×0.33×0.10m		縄文早～晩期	
LF-255	T-28-a~d	9	北埋No.127	1.99×1.40×0.19m		縄文早～晩期	
LF-256	U-76-d,77-a	9	北埋No.127	1.10×0.32×0.05m		縄文早～晩期	
LF-257	B2-71-d	9	北埋No.127	0.56×0.41×0.04m		縄文早～晩期	
LF-258a	Z-70-b,A2-70-a	9	北埋No.127	0.71×0.36×0.04m		縄文早～晩期	
LF-258b	Z-70-b,A2-70-a	9	北埋No.127	0.54×0.34×0.03m		縄文早～晩期	
LF-259	Y-71-b.c,Z-71-a.d	9	北埋No.127	0.48×0.41×-m		縄文早～晩期	
LF-260	Z-73-d	9	北埋No.127	0.44×0.28×0.02m		縄文早～晩期	
LF-261	Y-74-c	9	北埋No.127	0.70×0.50×0.04m		縄文早～晩期	
LF-262	V-78-d	9	北埋No.127	0.60×0.33×0.15m		縄文早～晩期	

遺構名	グリッド	調査年度	報告書No.	規模		時 期	備 考
				直径×短径×深さm()推定			
LF-263	U-77-c	9	北埋No.127	0.92×0.59×0.10m		縄文早～晩期	
LF-264	Y71-b,Z-71-a	9	北埋No.127	1.25×1.04×0.18m		縄文早～晩期	
LF-265	Z-71-b	9	北埋No.127	0.51×0.38×0.11m		縄文早～晩期	
LF-266	A2-73-a.b	9	北埋No.127	0.78×0.54×0.08m		縄文早～晩期	
LF-267	F-75-a	9	北埋No.127	0.68×0.50×0.13m		縄文早～晩期	
LF-268	V-73-c	9	北埋No.127	1.06×0.74×0.23m		縄文早～晩期	
LF-269	V-73-d	9	北埋No.127	0.36×0.32×0.02m		縄文早～晩期	
LF-270	T-73-a.d	9	北埋No.127	0.46×0.32×0.04m		縄文早～晩期	
LF-271	Z-73-c	9	北埋No.127	0.91×0.55×0.07m		縄文早～晩期	
LF-272	V-72-a.b	9	北埋No.127	0.55×0.43×0.18m		縄文早～晩期	
LF-273	H2-79-a	9	北埋No.127	0.28×0.21×0.05m		縄文早～晩期	
LF-274	D2-73-d,74-a	9	北埋No.127	0.98×0.61×0.03m		縄文早～晩期	
LF-275	E2-73-b.c	9	北埋No.127	1.50×0.85×0.09m		縄文早～晩期	
LF-276	Z-74-c	9	北埋No.127	0.45×0.32×0.05m		縄文早～晩期	LH-43と重複
LF-277a	W-67-a～c	9	北埋No.127	1.23×0.60×0.11m		縄文早～晩期	LF-277と重複
LF-277b	W-67-a～c	9	北埋No.127	1.50×0.75×0.13m		縄文早～晩期	LF-277と重複
LF-278	Z-76-d	9	北埋No.127	0.56×0.44×0.04m		縄文早～晩期	
LF-279	E2-78-d	9	北埋No.127	0.66×0.46×0.06m		縄文早～晩期	pit付
LF-280	W-75-b.c	9	北埋No.127	0.46×0.43×0.03m		縄文早～晩期	
LF-281	T-70-d	9	北埋No.127	0.80×0.56×0.07m		縄文早～晩期	
LF-282	C2-81-d	9	北埋No.127	0.52×0.34×-m		縄文早～晩期	
LF-283	D2-81-b,E2-81-a	9	北埋No.127	0.47×0.41×0.05m		縄文早～晩期	
LF-284	D2-82-b,E2-82-a	9	北埋No.127	0.51×0.49×0.11m		縄文早～晩期	
LF-285	G2-78-c.d	9	北埋No.127	0.95×0.93×0.11m		縄文早～晩期	
LF-286	W-69-b	9	北埋No.127	0.67×0.54×0.13m		縄文早～晩期	
LC-1	U-77-a～d	9	北埋No.127	1.19×0.51×0.07m		縄文早～晩期	
LC-2	F-73-d,74-a	9	北埋No.127	2.20×0.58×-m		縄文早～晩期	
LC-3	T-74-a	9	北埋No.127	0.45×0.39×-m		縄文早～晩期	
LC-4	T-74-c.d	9	北埋No.127	1.0×0.87×-m		縄文早～晩期	
LC-5	A2-71-b.c	9	北埋No.127	10.1×0.41×-m		縄文早～晩期	
LC-6	G2-79-b.c	9	北埋No.127	0.47×0.34×-m		縄文早～晩期	
LC-7	H2-79-a	9	北埋No.127	0.27×0.20×-m		縄文早～晩期	
LC-8	H2-79-a	9	北埋No.127	0.48×0.34×-m		縄文早～晩期	
LS-1		9	北埋No.127	1.62×0.51×-m		縄文早～晩期	

表V-5 遺構出土遺物一覧

遺構名	層位	遺物名	分類	点数	遺構名	層位	遺物名	分類	点数			
UP-61	覆土1層			5点			縄文後期土器		188点			
				5点			IVa	11点				
		礫・礫片等		5点			IVb	127点				
			礫	5点			IVc	50点				
		自然遺物		点			剥片石器	8点				
		樹皮		点			石鏃	1点				
UF-77	覆土			5点			ポイント	2点				
		剥片・石屑等		5点			Rフレイク	5点				
			フレイク	1点			礫石器	4点				
			チップ	4点			たたき石	1点				
UF-78	覆土			1点			すり石	2点				
		縄文早期土器		1点			台石	1点				
			I b-2	1点			剥片・石屑等	32点				
LH-28	覆土1層			448点			フレイク	29点				
				14点			チップ	3点				
		縄文早期土器		2点			礫・礫片等	52点				
			I b-2	2点				礫	52点			
		縄文後期土器		8点			LH-29	覆土1層			64点	
			IVa	4点						覆土1層		26点
			IVb	4点					縄文早期土器		2点	
	礫・礫片等		4点		I b-2	2点						
		礫	4点	縄文後期土器		10点						
	覆土2層		1点	IVa	7点							
		縄文早期土器		IVb	3点							
	覆土3層		1点	剥片石器	1点							
		縄文後期土器		スクレイパー	1点							
	覆土4層		2点	礫石器	1点							
		縄文早期土器		たたき石	1点							
	覆土		1点	礫・礫片等	12点							
		縄文早期土器		礫	12点							
	床面		124点	覆土2層		3点						
		縄文早期土器			縄文後期土器				1点			
			I b-2		117点				IVb	1点		
			I b-3		1点	剥片・石屑等				1点		
		礫石器			2点				フレイク	1点		
			たたき石		1点	礫・礫片等				1点		
		砥石	1点			礫			1点			
剥片・石屑等			1点		覆土		18点					
		フレイク	1点			縄文早期土器		6点				
石核類			1点				I b-2	6点				
		石核	1点			剥片石器		1点				
礫・礫片等			2点				Uフレイク	1点				
		礫	2点			礫石器		1点				
自然遺物			点				断面三角形すり石	1点				
		炭化物	点			剥片・石屑等		4点				
V層		305点				フレイク	4点					
	縄文早期土器		19点			礫・礫片等	6点					
		I b-2	17点			礫	6点					
		I b-3	2点		床面		17点					
	縄文中期土器		2点			縄文早期土器		2点				
		IIIb	2点			I b-2	2点					
				礫石器			13点					
				台石		13点						
			礫・礫片等			2点						
				礫		2点						
			自然遺物			点						
				炭化物		点						

遺構名	層位	遺物名	分類	点数	
LH-30	覆土1層			153点	
				38点	
		縄文早期土器		11点	
			I b-2	11点	
		縄文後期土器		6点	
			IVa	6点	
		礫石器		2点	
			石斧 砥石	1点 1点	
		剥片・石屑等		11点	
			フレイク チップ	7点 4点	
		礫・礫片等		8点	
			礫	8点	
		覆土2層			89点
			縄文早期土器		42点
				I b-2	42点
	縄文後期土器			7点	
			IVa IVb	6点 1点	
	剥片石器			7点	
			石鏃 つまみ付ナイフ スクレイパー Rフレイク Uフレイク	1点 1点 1点 2点 2点	
			礫石器		5点
				石斧 砥石	4点 1点
			剥片・石屑等		17点
	フレイク チップ			15点 2点	
	石核類			1点	
			石核	1点	
	礫・礫片等			10点	
			礫	10点	
	覆土3層				18点
			縄文早期土器		10点
				I b-2	10点
		剥片石器		2点	
			ポイント スクレイパー	1点 1点	
		礫石器		2点	
			石斧 たたき石	1点 1点	
		剥片・石屑等		4点	
			フレイク	4点	
	覆土			7点	
		縄文早期土器		2点	
			I b-2	2点	
		縄文後期土器		2点	
			IVa IVb	1点 1点	
		礫石器		1点	
			すり石	1点	
		剥片・石屑等		1点	
			フレイク	1点	
		礫・礫片等		1点	
			礫	1点	

遺構名	層位	遺物名	分類	点数		
LH-31	床面			1点		
		礫・礫片等		1点		
			礫	1点		
				507点		
	覆土1層				201点	
		縄文早期土器			45点	
			I b-2 I b-4		44点 1点	
			縄文中期土器		10点	
		IIIa IIIb			1点 9点	
		縄文後期土器		29点		
			IVa IVb		23点 6点	
		剥片石器			12点	
			石鏃 ポイント ドリル つまみ付ナイフ スクレイパー Uフレイク		3点 2点 1点 1点 3点 2点	
			礫石器		8点	
				石斧 たたき石 断面三角形すり石 砥石 台石		2点 2点 1点 2点 1点
				剥片・石屑等		57点
		フレイク			57点	
		石核類			1点	
			石核	1点		
		礫・礫片等		37点		
			原石 礫		1点 36点	
		土製品		1点		
			土製円盤	1点		
		旧石器		1点		
			彫器	1点		
					306点	
		覆土	縄文早期土器		27点	
				I b-2	27点	
			縄文中期土器		16点	
				IIIb	16点	
			縄文後期土器		79点	
	IVa IVb				49点 30点	
	剥片石器				15点	
			石鏃 ポイント つまみ付ナイフ エンドスクレイパー スクレイパー Rフレイク Uフレイク		4点 3点 1点 1点 1点 2点 3点	
	礫石器			13点		
			石斧 たたき石 砥石		8点 3点 2点	
			剥片・石屑等	96点		

V 包含層の遺物

遺構名	層位	遺物名	分類	点数
LH-32		礫・礫片等	フレイク	94点
			チップ	2点
				60点
			原石	2点
			礫	57点
		小礫	1点	
		自然遺物		点
			骨	点
				1115点
			覆土1層	縄文早期土器
				5点
	I b-2	5点		
	縄文後期土器	13点		
	IVa	13点		
	剥片石器	1点		
	ポイント	1点		
	剥片・石屑等			10点
		フレイク		5点
	チップ	5点		
礫・礫片等		11点		
	礫	11点		
旧石器		1点		
	細石刃	1点		
覆土2層		174点		
	縄文早期土器	149点		
	I b-1		2点	
		I b-2	147点	
	縄文後期土器	2点		
	IVa	2点		
	剥片石器		4点	
		石鏃	1点	
		スクレイパー	2点	
	Rフレイク	1点		
	礫石器		1点	
		砥石	1点	
	剥片・石屑等		16点	
		フレイク	12点	
チップ	4点			
礫・礫片等		2点		
	礫	2点		
覆土3層		281点		
	縄文早期土器		138点	
		I b-2	138点	
	剥片石器		3点	
		つまみ付ナイフ	1点	
		スクレイパー	1点	
	Uフレイク	1点		
	礫石器		6点	
		砥石	4点	
	台石	2点		
	剥片・石屑等		128点	
		フレイク	125点	
	チップ	3点		
礫・礫片等		5点		
	礫	5点		
石製品		1点		
	石製品	1点		
覆土		321点		
	縄文早期土器	246点		

遺構名	層位	遺物名	分類	点数
			I b-2	246点
				2点
		縄文後期土器		2点
			IVa	2点
		剥片石器		2点
			スクレイパー	1点
			Rフレイク	1点
		礫石器		4点
			石斧	1点
			たたき石	2点
			すり石	1点
		剥片・石屑等		57点
			フレイク	18点
		チップ	39点	
		礫・礫片等		8点
			原石	1点
		礫	7点	
		石製品		1点
			石製品	1点
		土製品		1点
	土製円盤		1点	
	自然遺物		点	
		炭化物	点	
	床面		298点	
	覆土1層	縄文早期土器	80点	
		I b-2		80点
				1点
		剥片石器		1点
			エンドスクレイパー	1点
		礫石器		2点
			石斧	1点
		たたき石	1点	
		剥片・石屑等		207点
			フレイク	199点
		チップ	8点	
		礫・礫片等		7点
			礫	7点
		旧石器		1点
	細石刃		1点	
	LH-33		245点	
覆土1層		9点		
	剥片石器		1点	
		ドリル	1点	
	礫石器		2点	
		たたき石	1点	
	台石	1点		
	剥片・石屑等		3点	
		フレイク	3点	
	礫・礫片等		3点	
		礫	3点	
覆土3層		235点		
	縄文早期土器	221点		
	I b-2		221点	
			1点	
	剥片石器		1点	
		石鏃	1点	
	礫石器		1点	
		石斧	1点	
	剥片・石屑等		11点	
		フレイク	11点	
礫・礫片等		1点		
	礫	1点		

遺構名	層位	遺物名	分類	点数		
	覆土			1点		
		剥片・石屑等		1点		
			フリイク	1点		
				296点		
LH-34	覆土1層			97点		
		縄文早期土器		26点		
		I b-2		26点		
				1点		
		縄文中期土器		1点		
		IIIb		1点		
				10点		
		縄文後期土器		10点		
		IVa		10点		
				8点		
		剥片石器		6点		
			ポイント	1点		
			つまみ付ナイフ Rフリイク	1点		
		礫石器		3点		
			石斧	2点		
			たたき石	1点		
		剥片・石屑等		38点		
			フリイク	23点		
			チップ	15点		
		礫・礫片等		11点		
			礫	11点		
	自然遺物		点			
		種子	点			
	覆土				180点	
		縄文早期土器			34点	
			I b-2		34点	
		縄文後期土器			85点	
			IVa		85点	
		剥片石器			1点	
			ポイント		1点	
		礫石器			5点	
			たたき石		3点	
			砥石		1点	
		剥片・石屑等			21点	
			フリイク		14点	
			チップ		7点	
		礫・礫片等			34点	
			原石		1点	
			礫		33点	
		床面				19点
			縄文早期土器			7点
				I b-2		7点
縄文後期土器					4点	
			IVa		4点	
剥片石器				1点		
	Rフリイク			1点		
剥片・石屑等				5点		
	フリイク			3点		
	チップ			2点		
礫・礫片等				2点		
	礫			2点		
HP-2					点	
	自然遺物				点	
			炭化物		点	
LH-35				120点		
	覆土1層			22点		

遺構名	層位	遺物名	分類	点数	
		縄文早期土器		7点	
			I b-2	7点	
		剥片石器		4点	
			つまみ付ナイフ スクレイパー Uフリイク	1点 2点 1点	
				1点	
		礫石器		1点	
			石斧	1点	
		剥片・石屑等		6点	
			フリイク	6点	
		礫・礫片等		4点	
			礫	4点	
		覆土2層			
	縄文早期土器				4点
			I b-2		4点
	礫石器				2点
			石斧		1点
			礫器		1点
	剥片・石屑等			7点	
		フリイク		7点	
	覆土3層				74点
		縄文早期土器			49点
			I b-2		48点
		I b-3			1点
					4点
		剥片石器			1点
			ポイント		1点
			スクレイパー Rフリイク		2点
		礫石器			2点
			たたき石		2点
		剥片・石屑等			14点
			フリイク		14点
	礫・礫片等			5点	
				5点	
		礫		5点	
	床面				11点
		縄文早期土器			7点
			I b-2		7点
		剥片・石屑等			4点
			フリイク		4点
		自然遺物			点
	炭化物			点	
	LH-36	覆土1層			172点
				15点	
縄文早期土器					3点
			I b-2		3点
剥片石器					1点
			スクレイパー		1点
剥片・石屑等					1点
			フリイク		1点
礫・礫片等					10点
			礫		4点
			小礫		6点
覆土2層					
		縄文早期土器			21点
			I b-2		21点
縄文後期土器				1点	
	IVa		1点		
剥片石器			4点		
	スクレイパー		1点		

V 包含層の遺物

遺構名	層位	遺物名	分類	点数	
		礫石器	Rフレイク	3点	
				2点	
			石斧	1点	
			たたき石	1点	
		剥片・石屑等		12点	
			フレイク	12点	
		礫・礫片等		4点	
			礫	3点	
			小礫	1点	
		覆土3層			67点
			縄文早期土器		39点
				I b-2	39点
			剥片石器		1点
	ドリル			1点	
	礫石器			4点	
			たたき石	1点	
			断面三角形すり石	1点	
			砥石	1点	
			台石	1点	
	剥片・石屑等		15点		
		フレイク	15点		
	礫・礫片等		6点		
		礫	6点		
	旧石器		2点		
		細石刃	2点		
	覆土			40点	
		縄文早期土器		18点	
			I b-2	18点	
		縄文後期土器		1点	
			IVa	1点	
		礫石器		5点	
			石斧	2点	
			たたき石	1点	
			砥石	2点	
		剥片・石屑等		10点	
			フレイク	10点	
		礫・礫片等		2点	
			礫	2点	
			旧石器	4点	
		旧石器		3点	
細石刃核			1点		
			2点		
床面		2点			
	縄文早期土器	2点			
V層		4点			
	縄文早期土器	4点			
LH-37	覆土1層		210点		
			144点		
		縄文早期土器	17点		
		I b-2	17点		
		縄文中期土器	7点		
		IIIb	7点		
		縄文後期土器	15点		
		IVa	14点		
		IVb	1点		
		剥片石器	9点		
	石鏃	1点			
	ポイント	1点			

遺構名	層位	遺物名	分類	点数	
			つまみ付ナイフ	1点	
			スクレイパー	2点	
			Rフレイク	1点	
			Uフレイク	3点	
		礫石器			3点
			石斧	1点	
			すり石	1点	
			台石	1点	
				52点	
		剥片・石屑等			50点
			フレイク	2点	
		礫・礫片等			33点
			礫	24点	
			小礫	9点	
		土製品			6点
			土製円盤	6点	
		自然遺物			点
			炭化物	点	
		旧石器			2点
	スポール		1点		
	石刃		1点		
	覆土			34点	
		縄文早期土器		1点	
			I b-2	1点	
		縄文後期土器		5点	
			IVa	5点	
		剥片・石屑等		20点	
			フレイク	20点	
		礫・礫片等		8点	
			礫	8点	
		自然遺物		点	
	炭化物		点		
	床面			32点	
		礫・礫片等		32点	
			礫	32点	
	LH-38	覆土1層			328点
				10点	
			縄文早期土器	4点	
			I b-2	4点	
			剥片石器	1点	
スクレイパー			1点		
礫・礫片等				5点	
			礫	5点	
覆土2層				9点	
			縄文早期土器	8点	
			I b-2	8点	
			礫・礫片等	1点	
覆土				1点	
			縄文早期土器	11点	
			I b-2	9点	
礫・礫片等				2点	
			礫	2点	
			自然遺物	点	
			炭化物	点	
床面			298点		
	縄文早期土器		297点		
		I b-2	297点		
	剥片・石屑等		1点		

遺構名	層位	遺物名	分類	点数		
LH-39	自然遺物	フリイク		1点		
				点		
		炭化物 炭化材		点 点		
	覆土1層				321点	
					23点	
		縄文中期土器			21点	
			IIIb		21点	
		剥片・石屑等			2点	
			フリイク		2点	
		覆土				11点
			縄文中期土器			3点
				IIIb		3点
			剥片石器			1点
			Rフリイク		1点	
	剥片・石屑等				6点	
			フリイク		6点	
	礫・礫片等				1点	
			礫		1点	
					点	
					点	
	床面					287点
			縄文早期土器			7点
			Ib-2		7点	
		縄文中期土器			73点	
			IIIb		73点	
		剥片石器			19点	
			石鏃 ポイント ドリル エンドスクレイパー スクレイパー Rフリイク Uフリイク		3点 2点 3点 1点 3点 3点 4点	
礫石器				14点		
		石斧 断面三角形すり石 すり石 台石 矢柄研磨器		3点 1点 7点 1点 2点		
剥片・石屑等				155点		
		フリイク チップ		115点 40点		
礫・礫片等				15点		
		礫		15点		
土製品				4点		
		土製円盤		4点		
自然遺物				点		
		クルミ 炭化材		点 点		
LH-40					521点	
		覆土			519点	
			縄文後期土器			500点
			IVa		500点	
	礫石器				7点	
			たたき石 砥石 台石		1点 4点 2点	
	礫・礫片等				12点	

遺構名	層位	遺物名	分類	点数		
	床面		礫	12点		
				2点		
		剥片石器		1点		
			スクレイパー	1点		
		礫石器		1点		
		台石	1点			
	LH-41				18点	
		覆土1層			17点	
			縄文早期土器			1点
				Ib-2		1点
縄文後期土器					15点	
			IVa		15点	
		礫・礫片等		1点		
		礫		1点		
覆土2層					1点	
		縄文後期土器			1点	
		IVa		1点		
LH-42				282点		
	覆土1層			23点		
		縄文早期土器			13点	
			Ib-2		13点	
		剥片石器			4点	
			石鏃 ポイント		2点 2点	
		礫石器			1点	
			たたき石		1点	
		剥片・石屑等			3点	
			フリイク		3点	
		礫・礫片等			2点	
		礫		2点		
	覆土2層				75点	
		縄文早期土器			62点	
			Ib-2		62点	
		縄文後期土器			1点	
			IVa		1点	
		礫石器			2点	
			石斧 すり石		1点 1点	
		剥片・石屑等			6点	
	フリイク チップ		5点 1点			
礫・礫片等			4点			
	礫		4点			
覆土3層				9点		
	縄文早期土器			9点		
		Ib-2		9点		
覆土				160点		
	縄文早期土器			130点		
		Ib-2		130点		
	縄文後期土器			2点		
		IVa		2点		
	剥片石器			1点		
		ポイント		1点		
	礫石器			2点		
		たたき石 すり石		1点 1点		
	剥片・石屑等			18点		
	フリイク チップ		17点 1点			

V 包含層の遺物

遺構名	層位	遺物名	分類	点数
		礫・礫片等		7点
			礫	7点
		自然遺物		点
			炭化物	点
	床面			15点
		縄文早期土器		1点
			I b-2	1点
		剥片石器		6点
			石鏃	3点
			ポイント	1点
			スクレイパー	1点
		礫石器		2点
			たたき石	2点
		剥片・石屑等		1点
			チップ	1点
		礫・礫片等		5点
			礫	5点
		自然遺物		点
	炭化物		点	
	LH-43	覆土1層		
				82点
縄文早期土器				33点
			I b-2	33点
縄文後期土器				11点
			IVa	10点
			IVb	1点
			剥片石器	
石鏃				1点
ポイント				1点
ドリル				1点
			くきび形石器	1点
			Uフレイク	1点
礫石器				3点
		たたき石	2点	
		砥石	1点	
		剥片・石屑等		14点
フレイク			14点	
礫・礫片等			16点	
		原石	1点	
	礫	15点		
	覆土3層		1点	
縄文後期土器			1点	
		IVa	1点	
覆土			401点	
	縄文早期土器		42点	
		I b-1	1点	
		I b-2	41点	
	縄文後期土器		317点	
		IVa	317点	
	剥片石器		5点	
		石鏃	1点	
		ポイント	2点	
		ドリル	1点	
		つまみ付ナイフ	1点	
		礫石器		2点
	たたき石		1点	
		台石	1点	
剥片・石屑等		13点		

遺構名	層位	遺物名	分類	点数	
			フレイク	11点	
			チップ	2点	
		礫・礫片等		22点	
			原石	4点	
		自然遺物	礫	18点	
			炭化物	点	
		床面			38点
			縄文早期土器		23点
				I b-2	23点
			縄文後期土器		8点
	IVa			8点	
	礫石器			1点	
			たたき石	1点	
	剥片・石屑等			1点	
			フレイク	1点	
	礫・礫片等			5点	
		礫	4点		
		小礫	1点		
	LP-80	覆土1層			12点
					9点
縄文早期土器				3点	
			I b-2	3点	
縄文後期土器				2点	
			IVc	2点	
礫石器				1点	
			石斧	1点	
剥片・石屑等				1点	
			フレイク	1点	
礫・礫片等			2点		
		礫	2点		
覆土				3点	
		縄文後期土器		1点	
	IVa		1点		
	礫・礫片等		2点		
礫		2点			
LP-81	覆土1層			445点	
				229点	
		縄文早期土器		66点	
			I b-2	66点	
		縄文中期土器		1点	
		縄文後期土器	IIIb	1点	
				135点	
			IVa	134点	
			IVb	1点	
		剥片石器		1点	
	Rフレイク		1点		
	礫石器		1点		
		台石	1点		
	剥片・石屑等		17点		
フレイク		10点			
	チップ	7点			
石核類		1点			
	石核	1点			
礫・礫片等		7点			
	礫	7点			
覆土			165点		
	縄文後期土器		165点		
		IVa	165点		

遺構名	層位	遺物名	分類	点数		
	床面	自然遺物		点		
			炭化物	点		
				51点		
		縄文早期土器		49点		
			I b-2	49点		
		縄文後期土器		2点		
LP-82	覆土			84点		
				84点		
		縄文早期土器		12点		
			I b-2	12点		
		縄文後期土器		64点		
			IVa	64点		
LP-83	覆土			26点		
		縄文後期土器		26点		
				26点		
			IVc	26点		
		LP-84	覆土			54点
						8点
礫石器				1点		
	たたき石			1点		
剥片・石屑等				1点		
	フレイク			1点		
LP-85	V層			6点		
				6点		
		縄文後期土器		46点		
			IVb	43点		
		剥片・石屑等		2点		
			フレイク	2点		
LP-88	覆土			1点		
				1点		
		縄文早期土器		3点		
			I b-2	3点		
		縄文後期土器		3点		
			IVa	1点		
LP-89	覆土			24点		
				24点		
		縄文早期土器		24点		
			I b-2	24点		
		自然遺物		点		

遺構名	層位	遺物名	分類	点数		
LP-90	覆土		炭化物	点		
				2点		
				2点		
		礫石器		1点		
			石斧	1点		
		剥片・石屑等		1点		
LP-91	覆土			432点		
				74点		
		縄文早期土器		74点		
			I b-2	74点		
		LP-93	覆土1層			358点
						355点
縄文早期土器				355点		
	I b-2			355点		
剥片・石屑等				3点		
	フレイク			3点		
LP-94	覆土1層			108点		
				10点		
		縄文早期土器		5点		
			I b-2	5点		
		縄文後期土器		1点		
			IVa	1点		
	覆土2層	覆土	剥片・石屑等		2点	
					2点	
			礫・礫片等		2点	
				礫	2点	
			縄文早期土器		78点	
				I b-2	61点	
	覆土3層	覆土	縄文後期土器		61点	
					1点	
			剥片石器		1点	
				石鏃	1点	
			礫石器		2点	
				台石	2点	
LP-94	覆土	剥片・石屑等		4点		
				4点		
		礫・礫片等		8点		
			礫	8点		
		旧石器		1点		
			彫器	1点		
LP-94	覆土			6点		
		縄文早期土器		6点		
			I b-2	6点		
		縄文早期土器		14点		
			I b-2	8点		
		縄文後期土器		4点		
LP-94	覆土			4点		
				4点		
		剥片・石屑等		1点		
			フレイク	1点		
		礫・礫片等		1点		
			小礫	1点		
LP-94	覆土			16点		
				16点		
		縄文早期土器		7点		
			I b-2	7点		
LP-94	覆土	縄文後期土器		9点		
			IVb	9点		

V 包含層の遺物

遺構名	層位	遺物名	分類	点数	
LP-95	覆土1層			2194点	
				92点	
		縄文早期土器		1点	
			I b-2	1点	
		剥片石器		1点	
			エンドスクレイパー	1点	
		礫石器		2点	
			たたき石	2点	
		剥片・石屑等		88点	
			フレイク	88点	
	覆土2層				956点
		礫石器			1点
			たたき石		1点
		剥片・石屑等			955点
	覆土3層				9点
		縄文早期土器			9点
	覆土				9点
					1137点
		剥片石器			1点
			石鏃		1点
		剥片・石屑等			1136点
		フレイク		1136点	
LP-96	覆土1層			121点	
				53点	
		縄文早期土器		43点	
			I b-2	43点	
		縄文後期土器		2点	
			IVa	1点	
			IVb	1点	
		剥片石器		2点	
			石鏃	2点	
		剥片・石屑等		5点	
		フレイク	5点		
	礫・礫片等		1点		
		礫	1点		
	覆土2層				61点
		縄文早期土器			53点
			I b-2		53点
		縄文後期土器			1点
			IVa		1点
		礫石部			1点
			たたき石		1点
		剥片・石屑等			2点
		フレイク		2点	
礫・礫片等				4点	
		礫		4点	
覆土3層	縄文早期土器			7点	
				3点	
		I b-2		3点	
	剥片石器			1点	
		Uフレイク		1点	
覆土	剥片・石屑等			3点	
		フレイク		3点	
				216点	
LP-97	覆土1層			12点	
		縄文早期土器		12点	
	覆土2層				12点
			I b-2		12点

遺構名	層位	遺物名	分類	点数
		縄文早期土器		199点
			I b-2	199点
		礫石器		1点
			砥石	1点
		剥片・石屑等		2点
			フレイク	2点
		礫・礫片等		2点
			礫	1点
			小礫	1点
		覆土		
		自然遺物		点
			炭化物	点
	LP-99	覆土		
				4点
縄文早期土器				3点
			I b-2	3点
礫・礫片等				1点
LF-255	覆土4層			3点
				1点
		縄文早期土器		1点
			I b-2	1点
		V層		2点
LF-257	覆土	縄文後期土器		2点
			IVa	2点
				1点
		剥片・石屑等		1点
			チップ	1点
LF-258	床面			1点
		剥片・石屑等		1点
			フレイク	1点
LF-262	覆土1層			3点
		縄文早期土器		2点
			I b-2	2点
		礫・礫片等		1点
			礫	1点
LF-264	覆土			1点
		剥片石器		1点
			つまみ付ナイフ	1点
LF-265	覆土			6点
		縄文早期土器		6点
			I b-2	2点
		縄文後期土器		2点
			IVa	4点
LF-268	覆土1層			1点
		縄文後期土器		1点
			IVa	1点
		自然遺物		点
LF-271	覆土			炭化物
				点
		礫石器		2点
				2点
		礫石器		1点
				石斧

遺構名	層位	遺物名	分類	点数
		剥片・石屑等		1点
			フレイク	1点
LF-272				4点
	覆土			4点
		縄文早期土器		3点
			Ib-2	3点
		剥片・石屑等		1点
			フレイク	1点
LF-275				218点
	覆土			218点
		縄文後期土器		11点
			IVa	11点
		剥片石器		1点
			石鏃	1点
		剥片・石屑等		4点
			フレイク	4点
		礫・礫片等		202点
			礫	1点
			小礫	201点
		自然遺物		点
			炭化物	点
LF-285				3点
	覆土			3点
		縄文早期土器		2点
			Ib-2	2点
		剥片石器		1点
			ドリル	1点
LC-5				1点
	覆土			1点
		剥片・石屑等		1点
			フレイク	1点
		自然遺物		点
			炭化物	点
LC-6				2点
				2点
		礫石器		1点
			砥石	1点
		礫・礫片等		1点
			礫	1点
LC-8				1点
				1点
		礫・礫片等		1点
			礫	1点
LS-1				901点
				901点
		剥片・石屑等		4点
			フレイク	4点
		礫・礫片等		897点
			礫	6点
			小礫	891点
		自然遺物		点
			炭化物	点

表V-6 掲載土器一覧 (1)……LH

掲載図番号	土器分類	層位	集計
図IV-3 1 LH-28	復元 I群b-2類土器	合計	72点
	接合	小計	62点
	LH-28	床面	58点
	LH-28	覆土4層	1点
	LH-28	覆土	1点
	LH-28	V層	1点
	未注記		1点
	同一個体未接合	小計	10点
	LH-28	床面	7点
	未注記		3点
2 LH-28	拓本 I群b-2類土器	合計	9点
	接合	小計	7点
	LH-28	V層	7点
	同一個体未接合	小計	2点
3 LH-28	拓本 I群b-2類土器	合計	38点
	接合	小計	14点
	LH-28	床面	6点
	Y-76	V層	8点
4 LH-28	拓本 I群b-2類土器	合計	7点
	接合	小計	3点
	LH-28	床面	1点
	LH-28	V層	1点
	W-79	V層	1点
	同一個体未接合	小計	4点
	LH-28	床面	2点
	LH-28	覆土2層	1点
	LH-28	V層	1点
	5 LH-28	拓本 IV群a類土器	合計
接合		小計	1点
図IV-5 6 LH-28	拓本 IV群b類土器	合計	7点
	接合	小計	7点
7 LH-28	拓本 IV群b類土器	合計	14点
	接合	小計	3点
	LH-28	V層	3点
	同一個体未接合	小計	11点
	LH-28	覆土1層	3点
	LH-28	V層	2点
	LP-84	V層	1点
	T-73	V層	1点
	V-66	IV層	1点
	W-77	V層	2点
Z-80	III層	1点	
8 LH-28	拓本 IV群b類土器	合計	3点
	接合	小計	3点
9 LH-28	拓本 IV群b類土器	合計	8点
	接合	小計	7点
	LH-28	覆土3層	1点
	LH-28	V層	4点
	X-79	V層	2点

掲載図番号	土器分類	層位	集計	
	同一個体未接合	小計	1点	
	LH-28	V層	1点	
10 LH-28	復元 IV群b類土器	合計	8点	
	接合	小計	7点	
	LH-28	V層	3点	
	V-76	V層	2点	
	V-77	V層	2点	
	同一個体未接合	小計	1点	
	V-77	V層	1点	
	11 LH-28	拓本 IV群b類土器	合計	91点
接合		小計	54点	
LH-28		V層	6点	
LP-84		V層	5点	
A2-78		V層	1点	
V-78		III層	3点	
V-78		V層	5点	
W-79		III層	20点	
X-78		III層	1点	
X-78		V層	2点	
X-79	V層	2点		
	グリッド不明		2点	
	未注記		7点	
	同一個体未接合	小計	37点	
12 LH-28	復元 IV群b類土器	合計	24点	
	接合	小計	14点	
	LH-28	V層	13点	
	X-不明		1点	
	同一個体未接合	小計	10点	
	LH-28	V層	9点	
	W-78	III層	1点	
	13 LH-28	復元 IV群c類土器	合計	50点
		接合	小計	43点
		LH-28	V層	36点
W-77		III層	4点	
	攪乱		3点	
	同一個体未接合	小計	7点	
	LH-28	V層	4点	
	未注記		3点	
図IV-8 1 LH-29	復元 I群b-2類土器	合計	74点	
	接合	小計	42点	
	LP-89	覆土	11点	
	LP-91	覆土3層	23点	
	LP-91	覆土	1点	
	A2-74	V層	3点	
	B2-72	V層	1点	
	X-74	V層	3点	
	同一個体未接合	小計	32点	
	LH-30	覆土2層	1点	
	LH-30	覆土3層	2点	
	LH-34	覆土1層	1点	
	LH-36	覆土3層	2点	
	LP-91	覆土3層	3点	
	A2-73	V層	1点	
	A2-74	V層	12点	
	B2-74	V層	1点	
	B2-75	V層	2点	
B2-76	V層	1点		
F2-71	V層	1点		
X-76	V層	1点		

掲載図番号	土器分類	層位	集計
		Y-71 III層	1点
		Z-77 V層	2点
		未注記	1点
2 LH-29	拓本	I群b-2類土器	合計 1点
	接合		小計 1点
		LH-29 覆土	1点
3 LH-29	拓本	I群b-2類土器	合計 1点
	接合		小計 1点
		LH-29 覆土	1点
図IV-9 1 LH-30	復元	I群b-2類土器	合計 74点
	接合		小計 42点
		LH-29 覆土	1点
		LP-89 覆土	11点
		LP-91 覆土3層	23点
		LP-91 覆土	1点
		A2-74 V層	3点
		B2-72 V層	1点
		X-74 V層	3点
	同一個体未接合		小計 32点
		LH-30 覆土2層	1点
		LH-30 覆土3層	2点
		LH-34 覆土1層	1点
		LH-36 覆土3層	2点
		LP-91 覆土3層	3点
		A2-73 V層	1点
		A2-74 V層	12点
		B2-74 V層	1点
		B2-75 V層	2点
		B2-76 V層	1点
		F2-71 V層	1点
		X-76 V層	1点
		Y-71 III層	1点
		Z-77 V層	2点
		未注記	1点
2 LH-30	拓本	I群b-2類土器	合計 8点
	接合		小計 8点
		LH-28 V層	7点
		LH-30 覆土2層	1点
3 LH-30	拓本	I群b-2類土器	合計 32点
	接合		小計 7点
		E2-73 VI層	2点
		F2-71 VI層	1点
		F2-75 VI層	1点
		G2-74 V層	1点
		Y-73 V層	1点
		グリッド不明	1点
	同一個体未接合		小計 25点
		LH-30 覆土2層	1点
		LH-30 覆土3層	1点
		LH-30 覆土	1点
		A2-71 V層	1点
		A2-72 V層	7点
		B2-70 V層	2点
		B2-74 V層	1点
		E2-71 V層	1点
		E2-72 VI層	1点
		E2-73 V層	2点
		E2-73 VI層	1点
		T-61 V層	2点
		T-61 VI層	1点
		Y-73 V層	3点
4 LH-30	拓本	I群b-2類土器	合計 3点
	接合		小計 3点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
		LH-30 覆土1層	3点
5 LH-30	拓本	I群b-2類土器	合計 5点
	接合		小計 4点
		LH-30 覆土2層	4点
	同一個体未接合		小計 1点
		LH-30 覆土2層	1点
6 LH-30	拓本	I群b-2類土器	合計 14点
	接合		小計 14点
		LH-30 覆土1層	4点
		LH-30 覆土2層	9点
		LH-42 覆土	1点
7 LH-30	拓本	I群b-2類土器	合計 2点
	同一個体未接合		小計 2点
		LH-28 V層	1点
		LH-30 覆土2層	1点
8 LH-30	拓本	I群b-2類土器	合計 41点
	接合		小計 16点
		LH-30 覆土2層	1点
		LH-32 覆土2層	7点
		LH-32 覆土3層	5点
		LH-32 覆土	3点
	同一個体未接合		小計 25点
		LH-32 床面	6点
		LH-32 覆土2層	3点
		LH-32 覆土3層	1点
		LH-32 覆土	15点
9 LH-30	復元	IV群a類土器	合計 28点
	接合		小計 16点
		LH-30 覆土1層	1点
		LH-30 覆土	1点
		Y-79 V層	1点
		Z-77 V層	11点
		Z-79 V層	2点
	同一個体未接合		小計 12点
		LH-30 覆土2層	2点
		LH-32 覆土2層	1点
		A2-69 V層	1点
		Z-70 VII層	1点
		Z-73 V層	2点
		Z-74 V層	2点
		Z-77 V層	3点
10 LH-30	拓本	IV群a類土器	合計 7点
	接合		小計 3点
		LH-30 覆土2層	2点
		LH-30 覆土	1点
	同一個体未接合		小計 4点
		LP-93 覆土2層	1点
		W-77 V層	1点
		X-72 V層	2点
図IV-13 1 LH-31	拓本	IV群b類土器	合計 3点
	接合		小計 3点
		LH-31 覆土	3点
2 LH-31	拓本	IV群b類土器	合計 7点
	接合		小計 4点
		LH-31 覆土	4点
	同一個体未接合		小計 3点
		LH-31 覆土1層	2点
		LH-31 覆土	1点
3 LH-31	拓本	IV群b類土器	合計 8点
	接合		小計 5点
		LH-31 覆土	5点
	同一個体未接合		小計 3点

V 包含層の遺物

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	LH-31	覆土	3点
4 LH-31	拓本	IV群b類土器	合計 4点
	接合		小計 4点
	LH-31	覆土1層	1点
	LH-31	覆土	3点
5 LH-31	復元	I群b-2類土器	合計 57点
	接合		小計 37点
	LH-31	覆土	1点
	LH-39	床面	1点
	E2-73	VI層	35点
	同一個体未接合		小計 20点
	LH-31	覆土1層	1点
	LH-31	覆土	1点
	E2-73	VI層	18点
6 LH-31	拓本	I群b-2類土器	合計 2点
	接合		小計 2点
	LH-31	覆土	2点
7 LH-31	拓本	I群b-2類土器	合計 4点
	接合		小計 4点
	LH-31	覆土1	4点
8 LH-31	拓本	I群b-2類土器	合計 64点
	接合		小計 7点
	LH-36	覆土1層	1点
	LH-36	覆土2層	2点
	LH-36	覆土	3点
	LP-95	覆土3層	1点
	同一個体未接合		小計 57点
	LH-31	覆土	1点
	LH-32	覆土1層	2点
	LH-32	覆土2層	6点
	LH-32	覆土3層	15点
	LH-32	覆土	4点
	LH-36	覆土1層	1点
	LH-36	覆土2層	14点
	LH-36	覆土3層	6点
	LH-36	覆土	1点
	LH-42	覆土	1点
	LP-95	覆土3層	1点
	B2-73	III層	1点
	E2-72	V層	1点
	E2-72	VI層	2点
	グリッド不明		1点
	未注記		点
9 LH-31	拓本	I群b-2類土器	合計 25点
	接合		小計 11点
	LH-31	覆土1層	1点
	LH-31	覆土1層	1点
	LP-97	覆土2層	2点
	LP-99	覆土	1点
	F2-74	VI層	2点
	H2-76	V層	1点
	H2-78	V層	1点
	未注記		2点
	同一個体未接合		小計 14点
	LH-31	覆土1層	4点
	LH-31	覆土1層	2点
	LP-99	覆土	1点
	A2-69	V層	3点
	H2-78	V層	4点
10 LH-31	拓本	III群b類土器	合計 70点
	接合		小計 4点
	LH-39	床面	2点
	LH-39	覆土1層	2点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	同一個体未接合		小計 66点
	LH-31	覆土	1点
	LH-37	覆土1層	3点
	LH-39	床面	45点
	LH-39	覆土1層	17点
図IV-18 1 LH-32	復元	I群b-2類土器	合計 116点
	接合		小計 90点
	LH-32	覆土2層	72点
	LH-32	覆土	18点
	同一個体未接合		小計 26点
	LH-32	床面	4点
	LH-32	覆土2層	8点
	LH-32	覆土	14点
2 LH-32	復元	I群b-2類土器	合計 270点
	接合		小計 228点
	LH-32	床面	4点
	LH-32	覆土2層	14点
	LH-32	覆土3層	18点
	LH-32	覆土	192点
	同一個体未接合		小計 42点
	LH-32	床面	6点
	LH-32	覆土2層	6点
	LH-32	覆土3層	6点
	LH-32	覆土	24点
3 LH-32	復元	I群b-2類土器	合計 50点
	接合		小計 50点
	LH-32	覆土3層	38点
	未注記		12点
図IV-19 4 LH-32	拓本	I群b-2類土器	合計 116点
	接合		小計 48点
	LH-32	床面	34点
	LH-32	覆土3層	12点
	未注記		2点
	同一個体未接合		小計 68点
	LH-32	床面	12点
	LH-32	覆土2層	2点
	LH-32	覆土3層	22点
	LH-32	覆土	2点
	LH-36	覆土2層	1点
	LH-36	覆土3層	3点
	LH-42	覆土	1点
	LP-95	覆土3層	1点
	B2-73	III層	1点
	E2-72	V層	1点
	E2-72	VI層	2点
	未注記		20点
5 LH-32	拓本	I群b-2類土器	合計 101点
	接合		小計 53点
	LH-32	床面	8点
	LH-32	覆土	20点
	LH-33	覆土3層	2点
	LH-36	覆土1層	1点
	LH-36	覆土2層	2点
	LH-36	覆土	3点
	LP-95	覆土3層	1点
	未注記		16点
	同一個体未接合		小計 48点
	LH-32	覆土	2点
	LH-33	覆土3層	42点
	未注記		4点
6 LH-32	拓本	I群b-2類土器	合計 6点
	接合		小計 6点
	LH-32	覆土2層	2点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
7 LH-32	拓本	LH-32 覆土	4 点
		I群b-2類土器	合計 2 点
	接合		小計 2 点
8 LH-32	拓本	LH-32 覆土	2 点
		I群b-2類土器	合計 119 点
	接合		小計 25 点
		LH-30 覆土 2層	1 点
		LH-32 床面	2 点
		LH-32 覆土 2層	7 点
		LH-32 覆土 3層	5 点
		LH-32 覆土	3 点
		LH-36 覆土 1層	1 点
		LH-36 覆土 2層	2 点
		LH-36 覆土	3 点
		LP-95 覆土 3層	1 点
		同一個体未接合	
		LH-31 覆土	1 点
		LH-32 床面	6 点
		LH-32 覆土 1層	2 点
		LH-32 覆土 2層	15 点
LH-32 覆土 3層		22 点	
LH-32 覆土		19 点	
LH-36 覆土 1層		1 点	
LH-36 覆土 2層		14 点	
LH-36 覆土 3層		6 点	
LH-36 覆土		1 点	
LH-42 覆土		1 点	
LP-95 覆土 3層		1 点	
B2-73 III層		1 点	
E2-72 V層		1 点	
E2-72 VI層	2 点		
グリッド不明	1 点		
未注記		点	
9 LH-32	復元	IV群a類土器	合計 146 点
	接合		小計 114 点
		LH-30 覆土 1層	1 点
	LH-30 覆土	1 点	
	LH-32 床面	12 点	
	LH-32 覆土 2層	6 点	
	LH-32 覆土 3層	2 点	
	LH-32 覆土	50 点	
	Y-79 V層	1 点	
	Z-77 V層	11 点	
	Z-79 V層	2 点	
	未注記		28 点
	同一個体未接合		小計 32 点
		LH-30 覆土 2層	2 点
		LH-32 床面	4 点
		LH-32 覆土 2層	3 点
		LH-32 覆土 3層	2 点
		A2-69 V層	1 点
Z-70 VII層		1 点	
Z-73 V層		2 点	
Z-74 V層		2 点	
Z-77 V層		3 点	
未注記			12 点
10 LH-32	拓本	I群b-2類土器	合計 47 点
	同一個体未接合		小計 47 点
		LH-31 覆土	1 点
	LH-32 覆土 1層	2 点	
	LH-32 覆土 2層	6 点	
	LH-32 覆土 3層	15 点	
	LH-32 覆土	4 点	
	LH-36 覆土 1層	1 点	

掲載図番号	土器分類	層位	集計	
		LH-36 覆土 2層	13 点	
		LH-36 覆土 3層	3 点	
		LH-36 覆土	1 点	
		グリッド不明	1 点	
11 LH-32	拓本	I群b-2類土器	合計 41 点	
	接合		小計 16 点	
		LH-30 覆土 2層	1 点	
	LH-32 覆土 2層	7 点		
	LH-32 覆土 3層	5 点		
	LH-32 覆土	3 点		
	同一個体未接合		小計 25 点	
		LH-32 床面	6 点	
		LH-32 覆土 2層	3 点	
		LH-32 覆土 3層	1 点	
		LH-32 覆土	15 点	
12 LH-32	復元	IV群a類土器	合計 30 点	
	接合		小計 17 点	
		LH-30 覆土 1層	1 点	
	LH-30 覆土	1 点		
	Y-79 V層	1 点		
	Z-77 V層	11 点		
	Z-79 V層	2 点		
	不明	不明	1 点	
	未接合		小計 13 点	
		LH-30 覆土 2層	2 点	
		LH-32 覆土 2層	1 点	
		A2-69 V層	1 点	
		Z-70 VII層	1 点	
		Z-73 V層	2 点	
		Z-74 V層	2 点	
Z-77 V層		3 点		
不明		不明	1 点	
図IV-22 1 LH-33	拓本	I群b-2類土器	合計 47 点	
	接合		小計 23 点	
		LH-32 床面	4 点	
	LH-32 覆土	10 点		
	LH-33 覆土 3層	1 点		
	未注記		8 点	
	同一個体未接合		小計 24 点	
		LH-32 覆土	1 点	
		LH-33 覆土 3層	21 点	
		未注記		2 点
		2 LH-33	拓本	I群b-2類土器
	接合		小計 12 点	
		LH-33 覆土 3層	12 点	
	同一個体未接合		小計 12 点	
	LH-33 覆土 3層	12 点		
	図IV-23 1 LH-34	復元	I群b-2類土器	合計 74 点
	接合		小計 42 点	
		LH-29 覆土	点	
	LP-89 覆土	11 点		
	LP-91 覆土 3層	23 点		
	LP-91 覆土	1 点		
	A2-74 V層	3 点		
	B2-72 V層	1 点		
	X-74 V層	3 点		
	同一個体未接合		小計 32 点	
		LH-30 覆土 2層	1 点	
		LH-30 覆土 3層	2 点	
		LH-34 覆土 1層	1 点	
		LH-36 覆土 3層	2 点	
LP-91 覆土 3層		3 点		
A2-73 V層		1 点		
A2-74 V層		12 点		

V 包含層の遺物

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	B2-74	V層	1点
	B2-75	V層	2点
	B2-76	V層	1点
	F2-71	V層	1点
	X-76	V層	1点
	Y-71	III層	1点
	Z-77	V層	2点
	未注記		1点
2 LH-34	拓本 I群b-2類土器	合計	7点
	接合	小計	3点
	LH-34	覆土	2点
	LP-89	覆土	1点
	同一個体未接合	小計	4点
	LH-34	覆土1層	2点
	LH-34	覆土	1点
	未注記		1点
図IV-27 1 LH-35	拓本 I群b-2類土器	合計	30点
	接合	小計	19点
	LH-35	床面	1点
	LH-35	覆土3層	18点
	同一個体未接合	小計	11点
	LH-35	床面	1点
	LH-35	覆土3層	7点
	LH-38	覆土1層	2点
	A2-73	V層	1点
図IV-30 1 LH-36	復元 I群b-2類土器	合計	74点
	接合	小計	42点
	LH-29	覆土	1点
	LP-89	覆土	11点
	LP-91	覆土3層	23点
	LP-91	覆土	1点
	A2-74	V層	3点
	B2-72	V層	1点
	X-74	V層	3点
	同一個体未接合	小計	32点
	LH-30	覆土2層	1点
	LH-30	覆土3層	2点
	LH-34	覆土1層	1点
	LH-36	覆土3層	2点
	LP-91	覆土3層	3点
	A2-73	V層	1点
	A2-74	V層	12点
	B2-74	V層	1点
	B2-75	V層	2点
	B2-76	V層	1点
	F2-71	V層	1点
	X-76	V層	1点
	Y-71	III層	1点
	Z-77	V層	2点
	未注記		1点
2 LH-36	拓本 I群b-2類土器	合計	14点
	接合	小計	7点
	LH-36	床面	2点
	LH-36	覆土3層	4点
	LH-36	層不明	1点
	同一個体未接合	小計	7点
	LH-36	覆土3層	7点
3 LH-36	拓本 I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LH-36	覆土	1点
4 LH-36	拓本 I群b-2類土器	合計	33点
	接合	小計	16点
	LH-36	V層	3点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	LP-81	覆土1層	1点
	D2-74	VI層	5点
	F2-78	V層	4点
	Z-73	V層	2点
	Z-74	V層	1点
	同一個体未接合	小計	17点
	LH-43	床面	5点
LH-43	覆土1層	3点	
LH-43	覆土	9点	
5 LH-36	拓本 I群b-2類土器	合計	64点
	接合	小計	7点
	LH-36	覆土1層	1点
	LH-36	覆土2層	2点
	LH-36	覆土	2点
	LH-36	層位不明	1点
	LP-95	覆土3層	1点
	同一個体未接合	小計	57点
	LH-31	覆土	1点
	LH-32	覆土1層	2点
	LH-32	覆土2層	6点
	LH-32	覆土3層	15点
	LH-32	覆土	4点
	LH-36	覆土1層	1点
	LH-36	覆土2層	14点
	LH-36	覆土3層	6点
	LH-36	覆土	1点
	LH-42	覆土	1点
	LP-95	覆土3層	1点
	B2-73	III層	1点
	E2-72	V層	1点
	E2-72	VI層	2点
	グリッド不明		1点
	未注記		1点
6 LH-36	拓本 I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LH-36	覆土	1点
7 LH-36	拓本 I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LH-36	層位不明	1点
8 LH-36	拓本 I群b-2類土器	合計	2点
	接合	小計	1点
	LH-36	層位不明	1点
	同一個体未接合	小計	1点
	LH-36	層位不明	1点
9 LH-36	拓本 I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LH-36	覆土3層	1点
10 LH-36	拓本 I群b-2類土器	合計	51点
	接合	小計	26点
	LP-93	覆土2層	25点
	LP-93	覆土3層	1点
	同一個体未接合	小計	25点
	LH-36	覆土2層	2点
	LP-93	覆土2層	10点
	LP-93	覆土3層	1点
	LP-93	覆土	5点
	G2-78	V層	3点
	グリッド不明		1点
	未注記		3点
図IV-34 1 LH-37	拓本 I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LH-37	覆土1層	1点
2 LH-37	拓本 III群b類土器	合計	70点

掲載図番号	土器分類	層位	集計				
	接合		小計 4 点				
		LH-39 床面	2 点				
		LH-39 覆土 1 層	2 点				
	同一個体未接合		小計 66 点				
		LH-31 覆土	1 点				
		LH-37 覆土 1 層	3 点				
		LH-39 床面	43 点				
3 LH-37	拓本	IV群 a 類土器	合計	1 点			
			接合	小計 1 点			
				LH-37 覆土 1 層	1 点		
			4 LH-37	拓本	III群 b 類土器	合計	15 点
			接合			小計 2 点	
		LH-39 床面	2 点				
		同一個体未接合	小計 13 点				
		LH-37 覆土	1 点				
		LH-39 床面	11 点				
		LH-39 覆土 1 層	1 点				
図IV-37	1 LH-38	復元	I 群 b-2 類土器	合計	298 点		
		接合		小計	218 点		
			LH-38 床面	147 点			
			LH-38 覆土	2 点			
			未注記	69 点			
		同一個体未接合		小計 80 点			
			LH-38 床面	21 点			
			未注記	59 点			
2 LH-38	拓本	I 群 b-2 類土器	合計	1 点			
			接合	小計 1 点			
			LH-38 覆土	1 点			
3 LH-38	拓本	I 群 b-2 類土器	合計	36 点			
			接合	小計 16 点			
			LH-38 床面	1 点			
			D2-81 V層	15 点			
		同一個体未接合		小計 20 点			
			LH-38 床面	1 点			
			LH-38 覆土 2 層	1 点			
			D2-80 V層	2 点			
			D2-81 III層	1 点			
			D2-81 V層	10 点			
			E2-80 V層	2 点			
			E2-81 V層	3 点			
図IV-39	1 LH-39	拓本	III群 b 類土器	合計	70 点		
		接合		小計	4 点		
			LH-39 床面	2 点			
			LH-39 覆土 1 層	2 点			
		同一個体未接合		小計 66 点			
			LH-31 覆土	1 点			
			LH-37 覆土 1 層	3 点			
			LH-39 床面	45 点			
			LH-39 覆土 1 層	17 点			
2 LH-39	拓本	III群 b 類土器	合計	15 点			
			接合	小計 2 点			
			LH-39 床面	2 点			
		同一個体未接合		小計 13 点			
			LH-37 覆土	1 点			
			LH-39 床面	11 点			
			LH-39 覆土 1 層	1 点			
3 LH-39	復元	I 群 b-2 類土器	合計	57 点			
			接合	小計 37 点			
			LH-31 覆土	1 点			
			LH-39 床面	1 点			
			E2-73 VI層	35 点			

掲載図番号	土器分類	層位	集計		
		同一個体未接合	小計 20 点		
			LH-31 覆土 1 層	1 点	
			LH-31 覆土	1 点	
			E2-73 VI層	18 点	
図IV-43	1 LH-40	拓本	IV群 a 類土器	合計	500 点
		接合		小計	2 点
			LH-40 覆土	2 点	
		同一個体未接合		小計 498 点	
			LH-40 覆土	498 点	
図IV-44	1 LH-41	拓本	IV群 a 類土器	合計	14 点
		接合		小計	4 点
			LH-41 覆土 1 層	4 点	
		同一個体未接合		小計 10 点	
			LH-41 覆土 1 層	10 点	
図IV-46	1 LH-42	拓本	I 群 b-2 類土器	合計	1 点
		接合		小計	1 点
			LH-42 覆土	1 点	
2 LH-42	拓本	I 群 b-2 類土器	合計	1 点	
			接合	小計 1 点	
			LH-42 床面	1 点	
3 LH-42	拓本	I 群 b-2 類土器	合計	45 点	
			接合	小計 19 点	
			LH-42 覆土 1 層	1 点	
			LH-42 覆土 2 層	1 点	
			LH-42 覆土 3 層	6 点	
			LH-42 覆土	2 点	
			LH-43 覆土 1 層	1 点	
			F2-78 V層	2 点	
			G2-78 V層	2 点	
			H2-78 V層	2 点	
			未注記	2 点	
		同一個体未接合		小計 26 点	
			LH-42 覆土 1 層	4 点	
			LH-42 覆土 2 層	2 点	
			LH-42 覆土	4 点	
			LH-43 覆土 1 層	9 点	
			LH-43 覆土	1 点	
			F2-75 VI層	1 点	
			F2-76 V層	2 点	
			F2-77 V層	2 点	
			F2-78 V層	1 点	
4 LH-42	拓本	I 群 b-2 類土器	合計	64 点	
			接合	小計 7 点	
			LH-36 覆土 1 層	1 点	
			LH-36 覆土 2 層	2 点	
			LH-36 覆土	2 点	
			LH-36 層位不明	1 点	
			LP-95 覆土 3 層	1 点	
		同一個体未接合		小計 57 点	
			LH-31 覆土	1 点	
			LH-32 覆土 1 層	2 点	
			LH-32 覆土 2 層	6 点	
			LH-32 覆土 3 層	15 点	
			LH-32 覆土	4 点	
			LH-36 覆土 1 層	1 点	
			LH-36 覆土 2 層	14 点	
			LH-36 覆土 3 層	6 点	
			LH-36 覆土	1 点	
			LH-42 覆土	1 点	
			LP-95 覆土 3 層	1 点	
			B2-73 III層	1 点	
			E2-72 V層	1 点	
			E2-72 VI層	2 点	

V 包含層の遺物

掲載図番号	土器分類	層位	集計
		グリッド不明	1 点
		未注記	
5 LH-42	拓本	I群b-2類土器	合計 7 点
	接合		小計 7 点
		LH-42 覆土 2層	3 点
		LH-42 覆土	4 点
6 LH-42	拓本	I群b-2類土器	合計 21 点
	接合		小計 10 点
		LH-42 覆土	10 点
	同一個体未接合		小計 11 点
		LH-42 覆土 2層	1 点
		LH-42 覆土	10 点
7 LH-42	拓本	I群b-2類土器	合計 14 点
	接合		小計 14 点
		LH-30 覆土 1層	4 点
		LH-30 覆土 2層	9 点
		LH-42 覆土	1 点
8 LH-42	復元	I群b-2類土器	合計 16 点
	接合		小計 15 点
		LH-42 覆土 2層	15 点
	同一個体未接合		小計 1 点
		LH-42 覆土 2層	1 点
図IV-48 1 LH-43	復元	IV群a類土器	合計 140 点
	同一個体未接合		小計 140 点
		LH-43 層不明	140 点
2 LH-43	拓本	IV群a類土器	合計 122 点
	接合		小計 3 点
		LH-43 層不明	3 点
	同一個体未接合		小計 119 点
		LH-43 床面	2 点
		LH-43 覆土 1層	3 点
		LH-43 覆土	1 点
		LH-43 層不明	15 点
		未注記	98 点
3 LH-43	拓本	IV群a類土器	合計 1 点
	接合		小計 1 点
		LH-43 覆土 3層	1 点
4 LH-43	拓本	IV群a類土器	合計 1 点
	接合		小計 1 点
		LH-43 覆土 1層	1 点
5 LH-43	拓本	I群b-2類土器	合計 33 点
	接合		小計 33 点
		LH-36 V層	3 点
		LH-43 床面	5 点
		LH-43 覆土 1層	3 点
		LH-43 覆土	9 点
		LP-81 覆土 1層	1 点
		D2-74 VI層	5 点
		F2-78 V層	4 点
		Z-73 V層	2 点
		Z-74 V層	1 点
6 LH-43	拓本	I群b-2類土器	合計 1 点
	接合		小計 1 点
		LH-43 覆土	1 点
7 LH-43	拓本	I群b-2類土器	合計 38 点
	接合		小計 12 点
		LH-42 覆土 1層	1 点
		LH-42 覆土 2層	1 点
		LH-42 覆土 3層	6 点
		LH-42 覆土	2 点
		LH-43 覆土 1層	1 点
		F2-78 V層	1 点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
		同一個体未接合	小計 26 点
		LH-42 覆土 1層	4 点
		LH-42 覆土 2層	2 点
		LH-42 覆土	4 点
		LH-43 覆土 1層	9 点
		LH-43 覆土	1 点
		F2-75 VI層	1 点
		F2-76 V層	2 点
		F2-77 V層	2 点
		F2-78 V層	1 点
8 LH-43	拓本	I群b-2類土器	合計 3 点
	接合		小計 3 点
		LH-43 床面	2 点
		LH-43 覆土	1 点
9 LH-43	拓本	I群b-2類土器	合計 64 点
	同一個体未接合		小計 64 点
		LH-43 床面	2 点
		LH-43 覆土 1層	3 点
		LH-43 覆土	1 点
		G2-78 V層	2 点
		G2-79 III層	2 点
		G2-79 V層	8 点
		G2-79 VI層	2 点
		H2-78 V層	40 点
		H2-78 VI層	1 点
		未注記	3 点
10 LH-43	拓本	I群b-2類土器	合計 2 点
	接合		小計 2 点
		LH-43 覆土 1層	1 点
		H2-78 V層	1 点

(2)……LP

掲載図番号	土器分類	層位	集計	
図IV-53	1 LP-81 復元 I群b-2類土器	合計	68点	
		小計	37点	
	接合	LP-81 床面	22点	
		LP-81 覆土1層	15点	
	同一個体未接合	小計	31点	
		LP-81 床面	10点	
		LP-81 覆土1層	21点	
	2 LP-81 拓本 I群b-2類土器	合計	合計	33点
			小計	33点
		接合	LH-36 V層	3点
LH-43 床面			5点	
LH-43 覆土1層			3点	
LH-43 覆土			9点	
LP-81 覆土1層			1点	
D2-74 VI層			5点	
F2-78 V層			4点	
Z-73 V層			2点	
Z-74 V層	1点			
3 LP-81 拓本 III群b類土器	合計		1点	
	小計	1点		
接合	LP-81 覆土1層	1点		
	4 LP-81 拓本 IV群a類土器	合計	1点	
接合	小計	1点		
	LP-81 覆土1層	1点		
図IV-54	1 LP-82 拓本 I群b-2類土器	合計	9点	
		小計	4点	
	接合	LP-82 覆土	4点	
		同一個体未接合	小計	5点
		LP-82 覆土	5点	
	2 LP-82 拓本 IV群a類土器	合計	合計	58点
小計			21点	
接合		LP-82 覆土	21点	
		同一個体未接合	小計	37点
		LP-82 覆土	17点	
		未注記	20点	
図IV-55	1 LP-83 復元 IV群c類土器	合計	17点	
		小計	17点	
	接合	LP-83 覆土	13点	
		未注記	4点	
1 LP-84 拓本 IV群b類土器	合計	合計	91点	
		小計	54点	
	接合	LH-28 V層	6点	
		LP-84 V層	5点	
		A2-78 V層	1点	
		V-78 III層	3点	
		V-78 V層	5点	
		W-79 III層	20点	
		X-78 III層	1点	
		X-78 V層	2点	
		X-79 V層	2点	
		グリッド不明	2点	
		未注記	7点	
		同一個体未接合	小計	37点
		接合	LH-28 V層	30点
			LH-34 覆土1層	1点
	LP-84 V層		3点	
	LP-85 V層		2点	
	V-67 V層		1点	
	2 LP-84 拓本 IV群b類土器		合計	14点
接合	小計	3点		
	LH-28 V層	3点		
同一個体未接合	小計	11点		

掲載図番号	土器分類	層位	集計		
		LH-28 覆土1層	3点		
		LH-28 V層	2点		
		LP-84 V層	1点		
		T-73 V層	1点		
		V-66 V層	1点		
		W-77 III層	2点		
		Z-80 III層	1点		
		図IV-56	1 LP-85 拓本 IV群b類土器	合計	91点
		接合		小計	54点
				LH-28 V層	6点
LP-84 V層	5点				
A2-78 V層	1点				
V-78 III層	3点				
V-78 V層	5点				
W-79 III層	20点				
X-78 III層	1点				
X-78 V層	2点				
X-79 V層	2点				
グリッド不明	2点				
未注記	7点				
同一個体未接合		小計	37点		
		LH-28 V層	30点		
		LH-34 覆土1層	1点		
		LP-84 V層	3点		
		LP-85 V層	2点		
		V-67 V層	1点		
図IV-59	1 LP-89 復元 I群b-2類土器	合計	74点		
接合		小計	42点		
		LH-29 覆土	点		
		LP-89 覆土	11点		
		LP-91 覆土3層	23点		
		LP-91 覆土	1点		
		A2-74 V層	3点		
		B2-72 V層	1点		
		X-74 V層	3点		
		同一個体未接合	小計	32点	
		接合		LH-30 覆土2層	1点
LH-30 覆土3層	2点				
LH-34 覆土1層	1点				
LH-36 覆土3層	2点				
LP-91 覆土3層	3点				
A2-73 V層	1点				
A2-74 V層	12点				
B2-74 V層	1点				
B2-75 V層	2点				
B2-76 V層	1点				
F2-71 V層	1点				
X-76 V層	1点				
Y-71 III層	1点				
Z-77 V層	2点				
未注記	1点				
2 LP-89 拓本 I群b-2類土器	合計	合計	7点		
		小計	3点		
	接合	LP-89 覆土	3点		
		同一個体未接合	小計	4点	
	接合		LH-34 覆土1層	2点	
			LH-34 覆土	1点	
未注記			1点		
3 LP-89 拓本 I群b-2類土器	合計	合計	3点		
		小計	3点		
接合		LH-34 覆土	2点		
		LP-89 覆土	1点		
4 LP-89 拓本 I群b-2類土器	合計	合計	2点		
		小計	2点		
接合					

V 包含層の遺物

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	LP-89	覆土	2点
5 LP-89	拓本 I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LP-89	覆土	1点
図IV-61	1 LP-91	復元 I群b-2類土器	合計 74点
	接合	小計	42点
	LH-29	覆土	1点
	LP-89	覆土	11点
	LP-91	覆土3層	23点
	LP-91	覆土	1点
	A2-74	V層	3点
	B2-72	V層	1点
	X-74	V層	3点
	同一個体未接合	小計	32点
	LH-30	覆土2層	1点
	LH-30	覆土3層	2点
	LH-34	覆土1層	1点
	LH-36	覆土3層	2点
	LP-91	覆土3層	3点
	A2-73	V層	1点
	A2-74	V層	12点
	B2-74	V層	1点
	B2-75	V層	2点
	B2-76	V層	1点
	F2-71	V層	1点
	X-76	V層	1点
	Y-71	III層	1点
	Z-77	V層	2点
	未注記		1点
2 LP-91	拓本 I群b-2類土器	合計	30点
	接合	小計	4点
	LP-91	覆土3層	4点
	同一個体未接合	小計	26点
	LP-91	覆土3層	26点
3 LP-91	拓本 I群b-2類土器	合計	18点
	接合	小計	3点
	LP-91	覆土3層	2点
	LP-91	覆土	1点
	同一個体未接合	小計	15点
	LP-91	覆土3層	14点
	LP-91	覆土	1点
4 LP-91	拓本 I群b-2類土器	合計	3点
	接合	小計	3点
	LP-91	覆土3層	3点
5 LP-91	復元 I群b-2類土器	合計	16点
	接合	小計	16点
	LP-91	覆土3層	16点
	未注記		0点
6 LP-91	復元 I群b-2類土器	合計	52点
	接合	小計	42点
	LP-91	覆土3層	35点
	LP-91	覆土	1点
	未注記		6点
	同一個体未接合	小計	10点
	LP-91	覆土3層	5点
	未注記		5点
図IV-63	1 LP-93	拓本 I群b-2類土器	合計 51点
	接合	小計	26点
	LP-93	覆土2層	25点
	LP-93	覆土3層	1点
	同一個体未接合	小計	25点
	LH-36	覆土2層	2点
	LP-93	覆土2層	10点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	LP-93	覆土3層	1点
	LP-93	覆土	5点
	G2-78	V層	3点
	グリッド不明		1点
	未注記		3点
図IV-65	1 LP-94	復元 IV群b類土器	合計 34点
	接合	小計	34点
	LP-94	覆土	9点
	T-72	V層	10点
	U-72	IV層	2点
	U-72	V層	2点
	U-72	VI層	3点
	U-73	V層	8点
図IV-66	1 LP-95	拓本 I群b-2類土器	合計 64点
	接合	小計	7点
	LH-36	覆土1層	1点
	LH-36	覆土2層	2点
	LH-36	覆土	3点
	LP-95	覆土3層	1点
	同一個体未接合	小計	57点
	LH-31	覆土	1点
	LH-32	覆土1層	2点
	LH-32	覆土2層	6点
	LH-32	覆土3層	15点
	LH-32	覆土	4点
	LH-36	覆土1層	1点
	LH-36	覆土2層	14点
	LH-36	覆土3層	6点
	LH-36	覆土	1点
	LH-42	覆土	1点
	LP-95	覆土3層	1点
	B2-73	III層	1点
	E2-72	V層	1点
	E2-72	VI層	2点
	グリッド不明		1点
	未注記		0点
2 LP-95	拓本 I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LP-95	覆土1層	1点
図IV-67	1 LP-96	拓本 I群b-2類土器	合計 10点
	接合	小計	2点
	LP-96	覆土2層	2点
	同一個体未接合	小計	8点
	LP-96	覆土1層	2点
	LP-96	覆土2層	6点
2 LP-96	拓本 I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LP-96	覆土1層	1点
図IV-69	1 LP-97	拓本 I群b-2類土器	合計 49点
	接合	小計	27点
	LP-97	覆土2層	27点
	同一個体未接合	小計	22点
	LP-97	覆土2層	19点
	G2-78	V層	2点
	H2-76	V層	1点
2 LP-97	拓本 I群b-2類土器	合計	18点
	接合	小計	14点
	LP-97	覆土2層	14点
	同一個体未接合	小計	4点
	LP-97	覆土2層	4点
3 LP-97	覆土2層	合計	9点
	接合	小計	9点
	LP-97	覆土2層	9点

(3)……LF

掲載図番号	土器分類	層位	集計
4 LP-97 拓本	I群b-2類土器	合計	5点
	接合	小計	4点
	LP-97	覆土2層	4点
	同一個体未接合	小計	1点
	D2-70	攪乱	1点
5 LP-97 拓本	I群b-2類土器	合計	25点
	接合	小計	11点
	LH-31	覆土1層	1点
	LH-31	覆土1層	1点
	LP-97	覆土2層	2点
	LP-99	覆土	1点
	F2-74	VI層	2点
	H2-76	V層	1点
	H2-78	V層	1点
	未注記		2点
	同一個体未接合	小計	14点
	LH-31	覆土1層	4点
	LH-31	覆土1層	2点
	LP-99	覆土	1点
	A2-69	V層	3点
	H2-78	V層	4点
6 LP-97 拓本	I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LP-97	覆土2層	1点
7 LP-97 拓本	I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LP-97	覆土2層	1点
図IV-70 1 LP-99 拓本	I群b-2類土器	合計	25点
	接合	小計	11点
	LH-31	覆土1層	1点
	LH-31	覆土1層	1点
	LP-97	覆土2層	2点
	LP-99	覆土	1点
	F2-74	VI層	2点
	H2-76	V層	1点
	H2-78	V層	1点
	未注記		2点
	同一個体未接合	小計	14点
	LH-31	覆土1層	4点
	LH-31	覆土1層	2点
	LP-99	覆土	1点
	A2-69	V層	3点
	H2-78	V層	4点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
図IV-75 1 LF-265 拓本	I群b-2類土器	合計	2点
	接合	小計	2点
	LH-265	覆土	2点
図IV-76 1 LF-272 拓本	I群b-2類土器	合計	42点
	接合	小計	5点
	Y-71	V層	1点
	Y-74	V層	3点
	未注記		1点
	同一個体未接合	小計	37点
	LF-272	覆土	1点
	C2-70	V層	1点
	U-71	V層	1点
	V-70	V層	1点
	Y-74	V層	22点
	Z-73	V層	1点
	未注記		10点

表V-7 遺構掲載石器・石・土製品一覧

掲載図版番号	分類	遺構名	層位	数量	形式及び形状	長さ	幅	厚さcm	重量g	石材	備考
図IV-8	4 断面三角形すり石	LH-29-12	覆土	1		13.4	8.7	4.9	690.0	凝灰岩	
	5 台石	LH-29-12	床面	13		26.0	19.7	8.0	4310.0	砂岩	HF-1
図IV-11	11 石鏃	LH-30-70	覆土2層	1		(3.6)	3.1	0.4	(3.1)	黒曜石	
	12 ポイント	LH-30-67	覆土3層	1	破損品	2.7	2.0	0.7	3.1	黒曜石	
	13 スクレイパー	LH-30-29	覆土2層	1		3.3	2.5	0.5	3.3	黒曜石	
	14 つまみ付ナイフ	LH-30-26	覆土2層	1	破損品	(4.0)	3.8	1.0	(19.1)	頁岩	
	15 たたき石	LH-30-69	覆土3層	1		14.3	8.0	3.8	417.0	泥岩	
	16 すり石	LH-30-83	覆土	1		10.9	8.6	3.8	485.0	閃緑岩	
	17 砥石	LH-30-40	覆土2層	1	破損品	4.2	8.8	3.1	73.0	砂岩	
図IV-13	11 石鏃	LH-31-54	覆土1層	1	未製品	2.3	1.7	0.3	1.4	頁岩	
	12 石鏃	LH-31-1	覆土1層	1		2.2	1.7	0.3	0.9	黒曜石	
	13 石鏃	LH-31-210	覆土	1		2.5	1.1	0.5	0.9	黒曜石	
	14 ドリル	LH-31-65	覆土1層	1		7.3	1.3	0.4	1.6	黒曜石	
	15 ポイント	LH-31-191	覆土	1		3.4	1.6	0.7	2.7	黒曜石	
	16 ポイント	LH-31-175	覆土	1		4.4	1.5	0.8	3.3	黒曜石	
	17 ポイント	LH-31-302	覆土1	1		5.2	1.8	0.9	5.7	黒曜石	
	18 ポイント	LH-31-25	覆土1層	1	未製品	5.4	2.1	0.9	6.8	黒曜石	
	19 つまみ付ナイフ	LH-31-161	覆土	1		6.2	4.5	0.6	10.6	黒曜石	
	20 スクレイパー	LH-31-10	覆土1層	1		3.9	3.1	0.9	8.1	黒曜石	
	図IV-14	21 スクレイパー	LH-31-6	覆土1層	1		3.1	2.8	0.7	5.4	黒曜石
22 スクレイパー		LH-31-23	覆土1層	1		3.4	1.6	1.1	5.0	黒曜石	
23 石斧		LH-31-317	覆土	1	破損品	(4.0)	2.4	1.2	(176.0)	泥岩	
25 たたき石		LH-31-33	覆土1層	1		5.0	3.5	1.5	46.0	片岩	
26 たたき石		LH-31-84	覆土1層	1		5.8	4.7	2.5	88.0	片岩	
27 たたき石		LH-31-321	覆土	1		6.6	7.8	3.5	225.0	泥岩	
28 断面三角形すり石		LH-31-305	覆土1	1		12.4	6.6	5.4	649.0	安山岩	
24 土製円盤		LH-31-56	覆土1層	1		3.7	4.0	1.0	13.8	泥岩	
図IV-20	13 ポイント	LH-32-3	覆土1層	1		5.3	1.7	0.9	0.7	黒曜石	
	14 つまみ付ナイフ	LH-32-135	覆土3層	1		4.4	1.9	0.5	4.3	頁岩	
	15 スクレイパー	LH-32-41	覆土2層	1		7.0	4.0	1.2	35.6	頁岩	
	16 スクレイパー	LH-32-38	覆土2層	1		(4.8)	2.1	0.6	(5.1)	黒曜石	
	17 エンドスクレイパー	LH-32-223	床面	1		(3.5)	2.8	1.2	(13.2)	黒曜石	
	18 石斧	LH-32-283	床面	1		12.6	6.6	2.6	306.0	蛇紋岩	
	19 すり石	LH-32-238	覆土	1		9.6	10.6	3.1	50.3	安山岩	
	20 たたき石	LH-32-281	覆土	1		5.8	13.11	3.5	349.0	砂岩	
	21 台石	LH-32-302	覆土3層	1		47.0	22.1	6.0	8000.0	砂岩	
	22 台石	LH-32-301	覆土3層	1		32.3	24.2	7.1	7600.0	安山岩	
	23 石製品	LH-32-230	覆土	1		(2.9)	0.9	0.9	(3.0)	—	
図IV-22	3 ドリル	LH-33-31	覆土1層	1		3.0	0.8	0.5	0.7	黒曜石	
	4 石斧	LH-33-24	覆土3層	1		13.6	7.0	1.6	250.0	蛇紋岩	
	5 台石	LH-33-6	覆土1層	1		10.2	10.7	5.7	626.0	砂岩	
	3 ポイント	LH-34-29	覆土1層	1		3.6	1.6	0.4	2.3	黒曜石	
	4 ポイント	LH-34-24	覆土1層	1		4.1	1.8	0.7	4.6	黒曜石	
図IV-25	5 ポイント	LH-34-12	覆土1層	1		4.8	1.7	0.8	5.3	黒曜石	
	6 ポイント	LH-34-20	覆土1層	1	未製品	5.8	2.3	0.9	11.8	黒曜石	
	7 つまみ付ナイフ	LH-34-8	覆土1層	1		4.5	2.0	0.8	4.2	黒曜石	
	8 石斧	LH-34-75	覆土1層	1		9.1	4.0	2.3	133.0	緑色泥岩	
	9 石斧	LH-34-10	覆土1層	1		11.4	8.0	1.7	213.0	片岩	
	10 たたき石	LH-34-184	覆土	1		12.2	14.8	8.5	2127.0	泥岩	
	11 たたき石	LH-34-105	覆土	1		4.5	3.8	3.1	76.0	片岩	

掲載図版番号	分類	遺構名	層位	数量	形式及び形状	長さ	幅	厚さcm	重量g	石材	備考
	12	すり石	LH-34-151	覆土	1	焼け		14.3 × 9.3 × 5.3	1005.0	片磨岩	
	13	砥石	LH-34-116	覆土	1			8.4 × 7.7 × 1.9	171.0	砂岩	
	14	台石	LH-34-153	覆土	1			9.9 × 13.5 × 3.0	448.0	砂岩	
図IV-27	2	ポイント	LH-35-43	覆土3層	1			(5.1) × 3.1 × 1.1	(20.6)	頁岩	
	3	つまみ付ナイフ	LH-35-52	覆土1層	1			(4.6) × 2.6 × 0.6	(7.6)	頁岩	
	4	Rフレイク	LH-35-46	覆土3層	1			3.8 × 3.4 × 1.4	17.2	黒曜石	
	5	スクレイパー	LH-35-30	覆土1層	1			4.9 × 2.1 × 0.6	6.2	黒曜石	
	6	Rフレイク	LH-35-38	覆土3層	1			2.9 × 4.0 × 1.4	14.2	黒曜石	
	7	スクレイパー	LH-35-35	覆土3層	1			4.3 × 3.7 × 0.5	6.3	頁岩	
	8	スクレイパー	LH-35-54	覆土1層	1			2.7 × 1.6 × 0.4	2.1	頁岩	
	9	石斧	LH-35-14	覆土2層	1			6.3 × 5.5 × 0.9	56.0	蛇紋岩	
図IV-31	11	ポイント	LH-36-121	覆土2	1			(4.4) × 2.7 × 0.9	(10.3)	頁岩	
	12	ドリル	LH-36-63	覆土3層	1			6.0 × 1.8 × 0.9	5.8	頁岩	
	13	スクレイパー	LH-36-122	覆土1層	1			4.4 × 4.4 × 1.2	18.1	黒曜石	
	14	断面三角形すり石	LH-36-70	覆土3層	1			7.6 × 15.9 × 5.0	713.0	砂岩	
	15	石斧	LH-36-2	覆土	1			15.2 × 6.1 × 3.4	434.0	緑色泥岩	
	16	たたき石	LH-36-60	覆土3層	1			10.8 × 4.8 × 4.4	220.0	砂岩	
	17	台石	LH-36-61	覆土3層	1			10.9 × 16.3 × 6.8	1348.0	砂岩	
	18	砥石	LH-36-84	覆土3層	1			5.9 × 9.9 × 3.1	182.0	砂岩	
	19	砥石	LH-36-4	覆土	2	破片		13.3 × 7.9 × 3.0	340.0	砂岩	
図IV-34	5	石鏃	LH-37-97	覆土1層	1			2.6 × 1.2 × 0.4	1.0	黒曜石	
	6	ポイント	LH-37-57	覆土1層	1			4.6 × 2.0 × 0.6	4.3	黒曜石	
	7	つまみ付ナイフ	LH-37-88	覆土1層	1			3.8 × 2.3 × 0.4	4.1	頁岩	
	8	Uフレイク	LH-37-134	覆土1層	1			4.0 × 2.8 × 0.6	6.9	黒曜石	
	9	石刃	LH-37-94	覆土1層	1			10.1 × 3.9 × 1.5	45.2	頁岩	
	10	石斧	LH-37-140	覆土1層	1			4.1 × 2.5 × 1.04	11.9	泥岩	
	11	すり石	LH-37-26	覆土1層	1			8.6 × 10.6 × 2.9	416.0	安山岩	
	12	すり石	LH-37-119	床面	1	焼け		13.4 × 10.6 × 4.0	840.0	花崗岩	
	13	台石	LH-37-83	覆土1層	1	焼け		17.9 × 25.6 × 7.4	3773.0	安山岩	
	14	土製円盤	LH-37-40	覆土1層	1			1.9 × 2.0 × 0.7	2.8	—	
	15	土製円盤	LH-37-144	覆土1層	1			3.3 × 3.41 × 0.8	7.8	—	
	16	土製円盤	LH-37-92	覆土1層	1			3.8 × 3.9 × 1.1	16.5	—	
	17	土製円盤	LH-37-105	覆土1層	2			(4.6) × 5.7 × (1.1)	(25.9)	—	
図IV-37	4	スクレイパー	LH-38-4	覆土1層	1			4.6 × (5.6) × 1.1	(23.3)	黒曜石	
図IV-41	4	石鏃	LH-39-63	床面	1			2.6 × 1.0 × 0.3	0.9	黒曜石	
	5	ポイント	LH-39-87	床面	1			5.1 × 2.6 × 0.8	7.2	黒曜石	
	6	ドリル	LH-39-129	床面	1			1.8 × 0.6 × 0.3	0.3	黒曜石	
	7	スクレイパー	LH-39-83	床面	1			4.3 × 3.2 × 1.1	9.0	黒曜石	
	8	スクレイパー	LH-39-138	床面	1			3.6 × 2.3 × 0.6	2.9	黒曜石	
	9	スクレイパー	LH-39-92	床面	1			3.2 × 1.3 × 0.6	2.3	黒曜石	
	10	スクレイパー	LH-39-195	床面	1			4.0 × 3.0 × 0.9	7.0	黒曜石	
	11	スクレイパー	LH-39-86	床面	1			5.5 × 4.5 × 1.3	25.4	黒曜石	
	12	石斧	LH-39-101	床面	2			7.4 × 6.3 × 1.9	210.0	蛇紋岩	
	13	石斧	LH-39-148	床面	1	未製品		8.1 × 4.3 × 1.5	60.3	泥岩	
	14	矢柄研磨器	LH-39-13	床面	1			9.9 × 5.7 × 3.4	35.7	軽石	
	15	矢柄研磨器	LH-39-78	床面	1			9.9 × 5.7 × 3.4	54.1	軽石	
	16	台石	LH-39-123	床面	1			10.9 × 6.5 × 4.9	1755.0	片磨岩	
	17	土製円盤	LH-39-183	床面	1			11.5 × 15.0 × 7.5	31.8	軽石	
	18	土製円盤	LH-39-114	床面	1			5.4 × 5.3 × 1.2	21.1	軽石	
	19	土製円盤	LH-39-166	床面	1			4.9 × 5.1 × 1.1	13.3	軽石	
	20	石製品	LH-39-169	床面	1			3.9 × 3.3 × 1.1	3.7	泥岩	
図IV-43	2	スクレイパー	LH-40-23	床面	1			3.6 × 1.5 × 0.4	524.0	黒曜石	

V 包含層の遺物

掲載図版番号	分類	遺構名	層位	数量	形式及び形状	長さ	幅	厚さcm	重量g	石材	備考
	3 砥石	LH-40-22	床面	1	破片	16.2	14.0	2.3	474	閃緑岩	
	4 台石	LH-40-6		1	破片焼け	7.76	15.56	4.02	547.0	安山岩	HF-1
図IV-46	9 石鏃	LH-42-143	床面	2		(2.3)	0.9	0.35	(0.5)	黒曜石	
	10 石鏃	LH-42-78	覆土1層	1		2.5	1.1	0.4	0.6	黒曜石	
	11 スクレイパー	LH-42-141	床面	1		5.0	2.8	1.2	12.5	黒曜石	
	12 ポイント	LH-42-67	床面	1		4.8	2.5	1.1	10.9	黒曜石	
	13 Rフレイク	LH-42-68	床面	1		2.5	2.7	0.7	4.3	黒曜石	
	14 たたき石	LH-42-113	覆土	1		14.0	6.0	2.7	332.0	蛇紋岩	
	15 たたき石	LH-42-76	覆土1層	1		11.6	9.5	5.1	647.0	砂岩	
	16 たたき石	LH-42-72	床面	1		6.4	6.5	5.2	325.0	泥岩	
	17 たたき石	LH-42-66	床面	1		6.5	7.8	5.1	407.0	閃緑岩	
	18 たたき石	LH-42-69	床面	1		6.3	8.6	3.9	320.0	閃緑岩	
	19 すり石	LH-42-135	覆土	1		7.1	6.8	3.8	253.0	砂岩	
	20 すり石	LH-42-103	覆土2層	1		10.0	13.0	5.0	923.0	安山岩	
図IV-50	11 ポイント	LH-43-89	覆土	1		6.1	2.3	1.0	11.0	黒曜石	
	12 ポイント	LH-43-107	覆土	1		5.7	2.9	0.7	8.3	黒曜石	
	13 つまみ付ナイフ	LH-43-169	覆土	1		5.2	2.1	0.9	7.1	黒曜石	HP-1
	14 くさび形石器	LH-43-165	覆土1層	1		4.2	1.6	1.0	4.8	黒曜石	
	15 たたき石	LH-43-146	覆土1層	1		8.3	6.2	6.0	460.0	砂岩	
	16 たたき石	LH-43-71	覆土	1	焼け	17.4	12.6	5.8	1498.0	砂岩	
	17 砥石	LH-43-14	覆土1層	1		(6.3)	5.6	2.1	(81.7)	砂岩	
図IV-63	2 石鏃	LP-93-17	覆土2層	1		2.7	10.0	0.4	0.9	黒曜石	
	3 台石	LP-93-58	覆土2層	2	焼け	19.5	24.6	10.6	5000.0	砂岩	
図IV-66	3 石鏃	LP-95-3	覆土	1		2.9	1.8	0.5	1.9	黒曜石	
	4 エンツスクレイパー	LP-95-12	覆土1層	1		4.7	2.9	1.0	6.9	黒曜石	
	5 たたき石	LP-95-5	覆土1層	1		16.6	5.3	2.9	342.0	砂岩	
	6 たたき石	LP-95-15	覆土2層	1		15.6	4.7	2.8	383.0	泥岩	
	7 たたき石	LP-95-6	覆土1層	1		12.4	5.9	3.7	374.0	安山岩	
図IV-75	1 つまみ付ナイフ	LF-264-1	覆土	1		5.0	2.3	1.0	6.9	頁岩	
図IV-77	1 石鏃	LF-275-7	覆土	1		1.9	1.0	0.4	0.5	黒曜石	
図IV-79	1 砥石	LC-6-2		1		7.7	7.2	2.2	200.0	砂岩	

表V-8 包含層掲載土器一覽

掲載図番号	土器分類	層位	集計
図V-5 1 拓本	I群b-2類土器		合計 105点
	接合		小計 19点
	D2-79	V層	1点
	T-70	V層	17点
	X-74	V層	1点
	同一個体未接合		小計 86点
	T-65	V層	2点
	T-65	VI層	1点
	T-70	V層	67点
	T-70	VI層	4点
	U-69	VI層	2点
	U-72	VI層	1点
	V-69	V層	2点
	V-71	V層	2点
	V-72	III層	1点
V-72	V層	1点	
	未注記	3点	
図V-5 2 拓本	I群b-2類土器		合計 3点
	接合		小計 3点
	LH-30	覆土1層	3点
図V-5 3 拓本	I群b-2類土器		合計 1点
	接合		小計 1点
	T-73	VI層	1点
図V-5 4 拓本	I群b-2類土器		合計 3点
	接合		小計 3点
	H2-77	V層	3点
図V-5 5 拓本	I群b-2類土器		合計 10点
	接合		小計 2点
	LP-96	覆土2層	2点
	同一個体未接合		小計 8点
	LP-96	覆土1層	2点
	LP-96	覆土2層	6点
図V-5 6 拓本	I群b-2類土器		合計 3点
	接合		小計 2点
	LH-43	覆土1層	1点
	H2-78	V層	1点
	同一個体未接合		小計 1点
	H2-78	V層	1点
図V-5 7 復元	I群b-2類土器		合計 68点
	接合		小計 37点
	LP-81	床面	22点
	LP-81	覆土1層	15点
	同一個体未接合		小計 31点
	LP-81	床面	10点
	LP-81	覆土1層	21点
図V-5 8 拓本	I群b-2類土器		合計 51点
	接合		小計 25点
	U-71	V層	6点
	V-71	V層	15点
	V-71	VI層	2点
	グリッド不明		2点
	同一個体未接合		小計 26点
	U-71	V層	7点
	V-71	V層	19点
図V-5 9 拓本	I群b-2類土器		合計 3点
	接合		小計 3点
	LH-32	覆土2層	1点
	LH-32	覆土	2点
図V-5 10 拓本	I群b-2類土器		合計 1点
	接合		小計 1点
	LH-32	覆土	1点
図V-5 11 拓本	I群b-2類土器		合計 30点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	接合		小計 4点
	LP-91	覆土3層	4点
	同一個体未接合		小計 26点
	LP-91	覆土3層	26点
図V-5 12 拓本	I群b-2類土器		合計 59点
	接合		小計 49点
	LH-32	床面	6点
	LH-32	覆土2層	3点
	LH-32	覆土3層	1点
	LH-32	覆土	25点
	未注記		14点
	同一個体未接合		小計 10点
	LH-32	床面	2点
	LH-32	覆土2層	1点
	LH-32	覆土3層	1点
	未注記		6点
	図V-5 13 拓本	I群b-2類土器	
接合		小計 1点	
	T-68	V層	1点
図V-5 14 拓本	I群b-2類土器		合計 45点
	接合		小計 19点
	LH-42	覆土1層	1点
	LH-42	覆土2層	1点
	LH-42	覆土3層	6点
	LH-42	覆土	2点
	LH-43	覆土1層	1点
	F2-78	V層	2点
	G2-78	V層	2点
	H2-78	V層	2点
	未注記		2点
	同一個体未接合		小計 26点
	LH-42	覆土1層	4点
	LH-42	覆土2層	2点
	LH-42	覆土	4点
	LH-43	覆土1層	9点
	LH-43	覆土	1点
	F2-75	VI層	1点
	F2-76	V層	2点
F2-77	V層	2点	
F2-78	V層	1点	
図V-5 15 拓本	I群b-2類土器		合計 14点
	接合		小計 7点
	LH-36	床面	2点
	LH-36	覆土3層	4点
	LH-36	層不明	1点
同一個体未接合		小計 7点	
	LH-36	覆土3層	7点
図V-5 16 拓本	I群b-2類土器		合計 7点
	接合		小計 1点
	LH-32	床面	1点
	同一個体接合		小計 6点
	LH-32	覆土2層	3点
	LH-32	覆土3層	3点
図V-5 17 拓本	I群b-2類土器		合計 42点
	接合		小計 5点
	Y-71	V層	1点
	Y-74	V層	3点
	未注記		1点
	同一個体未接合		小計 37点
	LF-272	覆土	1点
C2-70	V層	1点	
U-71	V層	1点	
V-70	V層	1点	

V 包含層の遺物

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	Y-74	V層	22点
	Z-73	V層	1点
	未注記		10点
図V-6 18 復元	I群b-2類土器		合計 16点
	接合		小計 15点
	LH-42	覆土2層	15点
	同一個体未接合		小計 1点
	LH-42	覆土2層	1点
図V-6 19 拓本	I群b-2類土器		合計 32点
	接合		小計 7点
	E2-73	VI層	2点
	F2-71	VI層	1点
	F2-75	VI層	1点
	G2-74	V層	1点
	Y-73	V層	1点
	グリッド不明		1点
	同一個体未接合		小計 25点
	LH-30	覆土2層	1点
	LH-30	覆土3層	1点
	LH-30	覆土	1点
	A2-71	V層	1点
	A2-72	V層	7点
	B2-70	V層	2点
	B2-74	V層	1点
	E2-71	V層	1点
	E2-72	VI層	1点
	E2-73	V層	2点
	E2-73	VI層	1点
	T-61	V層	2点
	T-61	VI層	1点
	Y-73	V層	3点
図V-6 20 拓本	I群b-2類土器		合計 1点
	接合		小計 1点
	LH-30	覆土2層	1点
図V-6 21 拓本	I群b-2類土器		合計 1点
	接合		小計 1点
	LH-36	覆土	1点
図V-6 22 拓本	I群b-2類土器		合計 1点
	接合		小計 1点
	LH-42	覆土	1点
図V-6 23 拓本	I群b-2類土器		合計 6点
	接合		小計 4点
	Y-76	V層	4点
	同一個体未接合		小計 2点
	Y-76	V層	2点
図V-6 24 拓本	I群b-2類土器		合計 9点
	接合		小計 1点
	T-60	V層	1点
	同一個体未接合		小計 8点
	T-61	V層	1点
	T-62	VI層	2点
	T-63	V層	1点
	T-63	VI層	1点
	T-70	VI層	2点
	U-64	VI層	1点
図V-6 25 拓本	I群b-2類土器		合計 1点
	接合		小計 1点
	LH-42	床面	1点
図V-6 26 拓本	I群b-2類土器		合計 7点
	接合		小計 3点
	T-61	VI層	3点
	同一個体未接合		小計 4点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	T-61	VI層	1点
	T-63	V層	1点
	T-70	VI層	2点
図V-6 27 拓本	I群b-2類土器		合計 49点
	接合		小計 27点
	LP-97	覆土2層	27点
	同一個体未接合		小計 22点
	LP-97	覆土2層	19点
	G2-78	V層	2点
	H2-76	V層	1点
図V-6 28 拓本	I群b-2類土器		合計 9点
	接合		小計 9点
	LP-97	覆土2層	9点
図V-6 29 拓本	I群b-2類土器		合計 53点
	接合		小計 24点
	LH-32	床面	17点
	LH-32	覆土3層	6点
	未注記		1点
	同一個体未接合		小計 29点
	LH-32	床面	6点
	LH-32	覆土2層	1点
	LH-32	覆土3層	11点
	LH-32	覆土	1点
	未注記		10点
図V-6 30 拓本	I群b-2類土器		合計 30点
	接合		小計 19点
	LH-35	床面	1点
	LH-35	覆土3層	18点
	同一個体未接合		小計 11点
	LH-35	床面	1点
	LH-35	覆土3層	7点
	LH-38	覆土1層	2点
	A2-73	V層	1点
図V-6 31 拓本	I群b-2類土器		合計 4点
	接合		小計 4点
	LH-31	覆土1層	4点
図V-6 32 拓本	I群b-2類土器		合計 4点
	接合		小計 4点
	LP-97	覆土2層	4点
図V-6 33 拓本	I群b-2類土器		合計 14点
	接合		小計 10点
	LP-97	覆土2層	10点
	同一個体未接合		小計 4点
	LP-97	覆土2層	4点
図V-6 34 拓本	I群b-2類土器		合計 47点
	接合		小計 23点
	LH-32	床面	4点
	LH-32	覆土	10点
	LH-33	覆土3層	1点
	未注記		8点
	同一個体未接合		小計 24点
	LH-32	覆土	1点
	LH-33	覆土3層	21点
	未注記		2点
図V-6 35 拓本	I群b-2類土器		合計 18点
	接合		小計 3点
	LP-91	覆土3層	2点
	LP-91	覆土	1点
	同一個体未接合		小計 15点
	LP-91	覆土3層	14点
	LP-91	覆土	1点
図V-6 36 拓本	I群b-2類土器		合計 1点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	接合		小計 1点
		D2-70 V層	1点
図V-6 37 拓本	I群b-2類土器		合計 1点
	接合		小計 1点
		LH-36 覆土	1点
図V-7 38 復元	I群b-2類土器		合計 74点
	接合		小計 42点
		LP-89 覆土	11点
		LP-91 覆土 3層	23点
		LP-91 覆土	1点
		A2-74 V層	3点
		B2-72 V層	1点
		X-74 V層	3点
	同一個体未接合		小計 32点
		LH-29 覆土	1点
		LH-30 覆土 2層	1点
		LH-30 覆土 3層	2点
		LH-34 覆土 1層	1点
		LH-36 覆土 3層	2点
		LP-91 覆土 3層	3点
		A2-73 V層	1点
		A2-74 V層	12点
		B2-74 V層	1点
		B2-75 V層	2点
		B2-76 V層	1点
		F2-71 V層	1点
		X-76 V層	1点
		Y-71 III層	1点
		Z-77 V層	2点
		未注記	1点
図V-7 39 拓本	I群b-2類土器		合計 1点
	接合		小計 1点
		LH-29 覆土	1点
図V-7 40 拓本	I群b-2類土器		合計 183点
	接合		小計 12点
		T-66 VI層	8点
		未注記	4点
	同一個体未接合		小計 171点
		T-65 VI層	2点
		T-66 VI層	19点
		T-69 V層	2点
		T-70 V層	11点
		T-70 VI層	6点
		未注記	131点
図V-7 41 拓本	I群b-2類土器		合計 7点
	接合		小計 3点
		LH-34 覆土	2点
		LP-89 覆土	1点
	同一個体未接合		小計 4点
		LH-34 覆土 1層	2点
		LH-34 覆土	1点
		未注記	1点
図V-7 42 拓本	I群b-2類土器		合計 4点
	接合		小計 4点
		LP-89 覆土	4点
図V-7 43 拓本	I群b-2類土器		合計 3点
	接合		小計 3点
		A2-73 V層	1点
		B2-70 V層	2点
図V-7 44 拓本	I群b-2類土器		合計 2点
	接合		小計 2点
		LP-89 覆土	2点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
図V-7 45 拓本	I群b-2類土器		合計 11点
	接合		小計 5点
		A2-72 V層	3点
		A2-73 V層	2点
	同一個体未接合		小計 6点
		A2-72 V層	5点
		H2-74 VI層	1点
図V-7 46 拓本	I群b-2類土器		合計 4点
	接合		小計 4点
		E2-76	4点
図V-7 47 拓本	I群b-2類土器		合計 20点
	接合		小計 6点
		G2-78 V層	1点
		G2-79 V層	4点
		H2-78 V層	1点
	同一個体未接合		小計 14点
		G2-75 V層	1点
		G2-78 VI層	2点
		G2-79 V層	10点
		H2-79 V層	1点
図V-7 48 拓本	I群b-2類土器		合計 5点
	接合		小計 4点
		LP-97 覆土 2層	4点
	同一個体未接合		小計 1点
		D2-70 攪乱	1点
図V-7 49 拓本	I群b-2類土器		合計 69点
	接合		小計 5点
		H2-78 V層	5点
	同一個体未接合		小計 64点
		LH-43 床面	2点
		LH-43 覆土 1層	3点
		LH-43 覆土	1点
		G2-78 V層	2点
		G2-79 III層	2点
		G2-79 V層	8点
		G2-79 VI層	2点
		H2-78 V層	40点
		H2-78 VI層	1点
		未注記	3点
図V-7 50 拓本	I群b-2類土器		合計 12点
	接合		小計 10点
		V-78 V層	5点
		V-79 V層	5点
	同一個体未接合		小計 2点
		V-79 V層	2点
図V-7 51 拓本	I群b-2類土器		合計 45点
	接合		小計 7点
		Y-76 V層	7点
	同一個体未接合		小計 38点
		Y-76 V層	38点
図V-7 52 拓本	I群b-2類土器		合計 7点
	接合		小計 7点
		LH-42 覆土 2層	3点
		LH-42 覆土	4点
図V-8 53 復元	I群b-2類土器		合計 52点
	接合		小計 42点
		LP-91 覆土 3層	35点
		LP-91 覆土	1点
		未注記	6点
	同一個体未接合		小計 10点
		LP-91 覆土 3層	5点
		未注記	5点

V 包含層の遺物

掲載図番号	土器分類	層位	集計
図V-8 54 復元 I群b-2類土器			合計 57点
	接合		小計 37点
	LH-31	覆土	1点
	LH-39	床面	1点
	E2-73	VI層	35点
	同一個体未接合		小計 20点
	LH-31	覆土1層	1点
	LH-31	覆土	1点
	E2-73	VI層	18点
図V-8 55 復元 I群b-2類土器			合計 58点
	接合		小計 45点
	LH-32	覆土2層	36点
	LH-32	覆土	9点
	同一個体未接合		小計 13点
	LH-32	床面	2点
	LH-32	覆土2層	4点
	LH-32	覆土	7点
図V-9 56 復元 I群b-2類土器			合計 298点
	接合		小計 218点
	LH-38	床面	147点
	LH-38	覆土	2点
	未注記		69点
	同一個体未接合		小計 80点
	LH-38	床面	21点
	未注記		59点
図V-9 57 復元 I群b-2類土器			合計 25点
	接合		小計 25点
	LH-32	覆土3層	19点
	未注記		6点
図V-10 58 拓本 I群b-2類土器			合計 49点
	接合		小計 27点
	LP-97	覆土2層	27点
	同一個体未接合		小計 22点
	LP-97	覆土2層	19点
	G2-78	V層	2点
	H2-76	V層	1点
図V-10 59 拓本 I群b-2類土器			合計 41点
	接合		小計 16点
	LH-30	覆土2層	1点
	LH-32	覆土2層	7点
	LH-32	覆土3層	5点
	LH-32	覆土	3点
	同一個体未接合		小計 25点
	LH-32	床面	6点
	LH-32	覆土2層	3点
	LH-32	覆土3層	1点
	LH-32	覆土	15点
図V-10 60 拓本 I群b-2類土器			合計 64点
	接合		小計 7点
	LH-36	覆土1層	1点
	LH-36	覆土2層	2点
	LH-36	覆土	2点
	LH-36	層位不明	1点
	LP-95	覆土3層	1点
	同一個体未接合		小計 57点
	LH-31	覆土	1点
	LH-32	覆土1層	2点
	LH-32	覆土2層	6点
	LH-32	覆土3層	15点
	LH-32	覆土	4点
	LH-36	覆土1層	1点
	LH-36	覆土2層	14点
	LH-36	覆土3層	6点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	LH-36	覆土	1点
	LH-42	覆土	1点
	LP-95	覆土3層	1点
	B2-73	III層	1点
	E2-72	V層	1点
	E2-72	VI層	2点
	グリッド不明		1点
図V-10 61 拓本 I群b-2類土器			合計 54点
	接合		小計 6点
	D2-81	V層	5点
	D2-82	V層	1点
	同一個体未接合		小計 48点
	D2-81	III層	1点
	D2-81	V層	42点
	D2-82	V層	2点
	グリッド不明		3点
図V-10 62 拓本 I群b-2類土器			合計 51点
	接合		小計 26点
	LP-93	覆土2層	25点
	LP-93	覆土3層	1点
	同一個体未接合		小計 25点
	LH-36	覆土2層	2点
	LP-93	覆土2層	10点
	LP-93	覆土3層	1点
	LP-93	覆土	5点
	G2-78	V層	3点
	グリッド不明		1点
	未注記		3点
図V-10 63 拓本 I群b-2類土器			合計 36点
	接合		小計 16点
	LH-38	床面	1点
	D2-81	V層	15点
	同一個体未接合		小計 20点
	LH-38	床面	1点
	LH-38	覆土2層	1点
	D2-80	V層	2点
	D2-81	III層	1点
	D2-81	V層	10点
	E2-80	V層	2点
	E2-81	V層	3点
図V-10 64 拓本 I群b-2類土器			合計 3点
	接合		小計 3点
	LH-43	床面	2点
	LH-43	覆土	1点
図V-11 65 復元 I群b-2類土器			合計 135点
	接合		小計 114点
	LH-32	床面	2点
	LH-32	覆土2層	7点
	LH-32	覆土3層	9点
	LH-32	覆土	96点
	同一個体未接合		小計 21点
	LH-32	床面	3点
	LH-32	覆土2層	3点
	LH-32	覆土3層	3点
	LH-32	覆土	12点
図V-11 66 拓本 I群b-2類土器			合計 38点
	接合		小計 14点
	LH-28	床面	6点
	Y-76	V層	8点
	同一個体未接合		小計 24点
	LH-28	床面	2点
	E2-81	V層	1点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	G2-77	V層	1点
	H2-77	V層	1点
	X-76	V層	2点
	Y-76	V層	3点
	未注記		14点
図V-11 68 拓本	I群b-2類土器	合計	11点
	接合	小計	2点
	Y-76	V層	2点
	同一個体未接合	小計	9点
	E2-81	V層	1点
	G2-72	V層	1点
	H2-77	V層	1点
	Y-76	III層	2点
	Y-76	V層	2点
	未注記		2点
図V-11 69 拓本	I群b-2類土器	合計	5点
	接合	小計	4点
	LH-30	覆土2層	4点
	同一個体未接合	小計	1点
	LH-30	覆土2層	1点
図V-11 70 拓本	I群b-2類土器	合計	25点
	接合	小計	11点
	LH-31	覆土1層	1点
	LH-31	覆土1層	1点
	LP-97	覆土2層	2点
	LP-99	覆土	1点
	F2-74	VI層	2点
	H2-76	V層	1点
	H2-78	V層	1点
	未注記		2点
	同一個体未接合	小計	14点
	LH-31	覆土1層	4点
	LH-31	覆土1層	2点
	LP-99	覆土	1点
	A2-69	V層	3点
	H2-78	V層	4点
図V-11 71 拓本	I群b-2類土器	合計	21点
	接合	小計	10点
	LH-42	覆土	10点
	同一個体未接合	小計	11点
	LH-42	覆土2層	1点
	LH-42	覆土	10点
図V-11 72 拓本	I群b-2類土器	合計	14点
	接合	小計	14点
	LH-30	覆土1層	4点
	LH-30	覆土2層	9点
	LH-42	覆土	1点
図V-12 73 拓本	I群b-2類土器	合計	110点
	接合	小計	25点
	C2-80	V層	5点
	C2-80	VI層	20点
	同一個体未接合	小計	85点
	C2-80	V層	21点
	C2-80	VI層	32点
	D2-81	V層	7点
	D2-82	V層	2点
	未注記		23点
図V-12 74 拓本	I群b-2類土器	小計	33点
	接合	小計	16点
	LH-36	V層	3点
	LP-81	覆土1層	1点
	D2-74	VI層	5点
	F2-78	V層	4点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	Z-73	V層	2点
	Z-74	V層	1点
	同一個体未接合	小計	17点
	LH-43	床面	5点
	LH-43	覆土1層	3点
	LH-43	覆土	9点
図V-12 75 拓本	I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LH-38	覆土	1点
図V-12 76 拓本	I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LH-43	覆土	1点
図V-12 77 拓本	I群b-2類土器	合計	2点
	接合	小計	2点
	C2-79	V層	2点
図V-12 78 拓本	I群b-2類土器	合計	2点
	接合	小計	2点
	LH-31	覆土	2点
図V-12 79 拓本	I群b-2類土器	合計	24点
	接合	小計	12点
	LH-33	覆土3層	12点
	同一個体未接合	小計	12点
	LH-33	覆土3層	12点
図V-12 80 拓本	I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LH-37	覆土1層	1点
図V-12 81 拓本	I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LP-97	覆土2層	1点
図V-12 82 拓本	I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LP-97	覆土2層	1点
図V-12 83 復元	I群b-2類土器	合計	16点
	接合	小計	16点
	LP-91	覆土3層	16点
図V-12 84 拓本	I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LH-29	覆土	1点
図V-12 85 拓本	I群b-2類土器	合計	9点
	接合	小計	4点
	LP-82	覆土	4点
	同一個体未接合	小計	5点
	LP-82	覆土	5点
図V-12 86 拓本	I群b-2類土器	合計	9点
	接合	小計	7点
	LH-28	V層	7点
	同一個体未接合	小計	2点
	LH-28	V層	1点
	LH-30	覆土2層	1点
図V-12 87 拓本	I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LH-36	層位不明	1点
図V-12 88 拓本	I群b-2類土器	合計	1点
	接合	小計	1点
	LP-95	覆土1層	1点
図V-12 89 拓本	I群b-2類土器	合計	2点
	接合	小計	1点
	LH-36	層位不明	1点
	同一個体未接合	小計	1点
	LH-36	層位不明	1点

V 包含層の遺物

掲載図番号	土器分類	層位	集計
図V-12 90 拓本 I群b-2類土器			合計 1点
	接合		小計 1点
	LH-36	覆土3層	1点
図V-12 91 拓本 I群b-2類土器			合計 1点
	接合		小計 1点
	LP-96	覆土1層	1点
図V-12 92 拓本 I群b-2類土器			合計 7点
	接合		小計 3点
	LH-28	床面	1点
	LH-28	V層	1点
	W-79	V層	1点
	同一個体未接合		小計 4点
	LH-28	床面	2点
LH-28	覆土2層	1点	
LH-28	V層	1点	
図V-12 93 拓本 I群b-2類土器			合計 2点
	接合		小計 2点
	LH-265	覆土	2点
図V-12 94 拓本 I群b-2類土器			合計 3点
	接合		小計 3点
	LP-91	覆土3層	3点
図V-12 95 拓本 I群b-2類土器			合計 14点
	接合		小計 1点
	W-78	V層	1点
	同一個体未接合		小計 13点
	V-78	III層	2点
	V-78	V層	2点
	V-79	V層	2点
	W-77	III層	1点
	W-78	V層	1点
	W-79	III層	1点
	X-74	V層	1点
	X-80	V層	1点
	Y-76	V層	1点
	Z-71	V層	1点
図V-13 1 拓本 III群b類土器			合計 1点
	接合		小計 1点
	LP-81	覆土1層	1点
図V-13 2 拓本 III群b類土器			合計 2点
	接合		小計 2点
	T-58	V層	1点
	未注記		1点
図V-13 3 拓本 III群b類土器			合計 7点
	接合		小計 3点
	LH-30	覆土2層	2点
	LH-30	覆土	1点
同一個体未接合		小計 4点	
	LP-93	覆土2層	1点
	W-77	V層	1点
	X-72	V層	2点
図V-13 4 拓本 III群b類土器			合計 2点
	接合		小計 2点
	G2-72	V層	2点
図V-13 5 拓本 III群b類土器			合計 3点
	接合		小計 3点
	E2-77	V層	1点
	E2-78	V層	2点
図V-13 6 拓本 IV群a類土器			合計 3点
	接合		小計 3点
	B2-78	V層	1点
	D2-79	V層	1点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
		D2-80 V層	1点
		未注記	
図V-13 7 拓本 III群b類土器			合計 1点
	接合		小計 1点
	Z-79	III層	1点
図V-13 8 拓本 III群b類土器			合計 70点
	接合		小計 4点
	LH-39	床面	2点
	LH-39	覆土1層	2点
	同一個体未接合		小計 66点
	LH-31	覆土	1点
	LH-37	覆土1層	3点
LH-39	床面	45点	
LH-39	覆土1層	17点	
図V-13 9 拓本 III群b類土器			合計 15点
	接合		小計 2点
	LH-39	床面	2点
	同一個体未接合		小計 13点
	LH-37	覆土	1点
	LH-39	床面	11点
	LH-39	覆土1層	1点
図V-13 10 拓本 III群b類土器			合計 9点
	接合		小計 8点
	U-74	V層	1点
	V-77	V層	6点
	Z-79	V層	1点
	同一個体未接合		小計 1点
	T-70	V層	1点
図V-14 1 復元 IV群a類土器			合計 160点
	接合		小計 20点
	LH-43	層不明	20点
	同一個体未接合		小計 140点
	LH-43	層不明	140点
図V-14 2 復元 IV群a類土器			合計 30点
	接合		小計 17点
	LH-30	覆土1層	1点
	LH-30	覆土	1点
	Y-79	V層	1点
	Z-77	V層	11点
	Z-79	V層	2点
	グリッド不明	V層	1点
	同一個体未接合		小計 13点
	LH-30	覆土2層	2点
	LH-32	覆土2層	1点
	A2-69	V層	1点
	Z-70	VII層	1点
	Z-73	V層	2点
Z-74	V層	2点	
Z-77	V層	3点	
グリッド不明	V層	1点	
図V-14 3 拓本 IV群a類土器			合計 1点
	接合		小計 1点
	LH-28	覆土1層	1点
図V-14 4 拓本 IV群a類土器			合計 1点
	接合		小計 1点
	LH-43	覆土3層	1点
図V-14 5 拓本 IV群a類土器			合計 500点
	接合		小計 2点
	LH-40	層位不明	2点
	同一個体未接合		小計 498点
	LH-40	層位不明	498点
図V-14 6 拓本 IV群a類土器			合計 26点
	接合		小計 5点
	X-69	V層	5点
同一個体未接合		小計 21点	

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	D2-80	V層	1点
	T-62	V層	1点
	U-70	V層	1点
	W-68	V層	1点
	X-69	V層	13点
	未注記		4点
図V-14	7 拓本 IV群a類土器		合計 123点
	接合		小計 4点
	LH-43	覆土3層	1点
	LH-43	層不明	3点
	同一個体未接合		小計 119点
	LH-43	床面	2点
	LH-43	覆土1層	3点
	LH-43	覆土	1点
	LH-43	層不明	15点
	未注記		98点
図V-14	8 拓本 IV群a類土器		合計 14点
	接合		小計 4点
	LH-41	覆土1層	4点
	同一個体未接合		小計 10点
	LH-41	覆土1層	10点
図V-14	9 拓本 IV群a類土器		合計 67点
	接合		小計 4点
	W-70	V層	4点
	同一個体未接合		小計 63点
	T-72	V層	1点
	U-74	V層	1点
	V-65	V層	1点
	V-67	V層	1点
	W-67	V層	1点
	W-70	V層	41点
	W-70	VI層	1点
	X-69	V層	1点
	グリッド不明		1点
	未注記		14点
図V-14	10 拓本 IV群a類土器		合計 1点
	接合		小計 1点
	LP-81	覆土1層	1点
図V-14	11 拓本 IV群a類土器		合計 23点
	接合		小計 4点
	H2-78	V層	4点
	同一個体未接合		小計 19点
	D2-71	V層	2点
	F2-71	V層	1点
	F2-80	V層	1点
	G2-79	VI層	1点
	H2-74	V層	1点
	H2-78	V層	13点
図V-14	12 拓本 IV群a類土器		合計 1点
	接合		小計 1点
	LH-43	覆土1層	1点
図V-14	13 拓本 IV群a類土器		合計 1点
	接合		小計 1点
	V-75	V層	1点
図V-14	14 拓本 IV群a類土器		合計 58点
	接合		小計 21点
	LP-82	覆土	21点
	同一個体未接合		小計 37点
	LP-82	覆土	17点
	未注記		20点
図V-15	1 拓本 IV群b類土器		合計 7点
	接合		小計 7点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	LH-28	V層	7点
図V-15	2 拓本 IV群b類土器		合計 3点
	接合		小計 3点
	LH-28	V層	3点
図V-15	3 拓本 IV群b類土器		合計 14点
	接合		小計 3点
	LH-28	V層	3点
	同一個体未接合		小計 11点
	LH-28	覆土1層	3点
	LH-28	V層	2点
	LP-84	V層	1点
	T-73	V層	1点
	V-66	III層	1点
	W-77	V層	2点
	Z-80	III層	1点
図V-15	4 拓本 IV群b類土器		合計 3点
	接合		小計 3点
	LH-31	覆土	3点
図V-15	5 拓本 IV群b類土器		合計 8点
	接合		小計 7点
	LH-28	覆土3層	1点
	LH-28	V層	2点
	LH-28	層位不明	2点
	X-79	V層	2点
	同一個体未接合		小計 1点
	LH-28	V層	1点
図V-15	6 復元 IV群b類土器		合計 8点
	接合		小計 7点
	LH-28	V層	3点
	V-76	V層	2点
	V-77	V層	2点
	同一個体未接合		小計 1点
	V-77	V層	1点
図V-15	7 復元 IV群b類土器		合計 34点
	接合		小計 34点
	LP-94	覆土	9点
	T-72	V層	10点
	U-72	IV層	2点
	U-72	V層	2点
	U-72	VI層	3点
	U-73	V層	8点
図V-15	8 拓本 IV群b類土器		合計 7点
	接合		小計 4点
	LH-31	覆土	4点
	同一個体未接合		小計 3点
	LH-31	覆土1層	2点
	LH-31	覆土	1点
図V-15	9 拓本 IV群b類土器		合計 11点
	接合		小計 8点
	LH-31	覆土1層	1点
	LH-31	覆土	7点
	同一個体未接合		小計 3点
	LH-31	覆土1層	2点
	LH-31	覆土	1点
図V-15	10 拓本 IV群b類土器		合計 91点
	接合		小計 54点
	LH-28	V層	6点
	LP-84	V層	5点
	A2-78	V層	1点
	V-78	III層	3点
	V-78	V層	5点
	W-79	III層	5点
	W-79	V層	15点

V 包含層の遺物

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	X-78	Ⅲ層	1 点
	X-78	V層	2 点
	X-79	V層	2 点
	グリッド不明		2 点
	未注記		7 点
	同一個体未接合		小計 37 点
	LH-28	V層	30 点
	LH-34	覆土1層	1 点
	LP-84	V層	3 点
	LP-85	V層	2 点
V-67	V層	1 点	
図V-15	11 拓本	IV群b類土器	合計 8 点
	接合		小計 5 点
	LH-31	覆土	5 点
	同一個体未接合		小計 3 点
	LH-31	覆土	3 点
図V-16	12 復元	IV群c類土器	合計 24 点
	接合		小計 14 点
	LH-28	V層	13 点
	X-	V層	1 点
	同一個体未接合		小計 10 点
	LH-28	V層	9 点
	W-78	Ⅲ層	1 点
図V-16	13 復元	IV群c類土器	合計 40 点
	接合		小計 35 点
	V-77	V層	35 点
	同一個体未接合		小計 5 点
	V-77	V層	5 点
図V-16	14 復元	IV群c類土器	合計 50 点
	接合		小計 43 点
	LH-28	V層	36 点
	W-77	Ⅲ層	4 点
	攪乱		3 点
	同一個体未接合		小計 7 点
	LH-28	V層	4 点
	未注記		3 点
図V-16	15 拓本	IV群c類土器	合計 14 点
	接合		小計 14 点
	A2-80	Ⅲ層	1 点
	A2-80	V層	2 点
	Z-80	IV層	11 点
図V-16	16 復元	IV群c類土器	合計 17 点
	接合		小計 17 点
	LP-83	覆土	13 点
	未注記		4 点
図V-16	17 復元	IV群c類土器	合計 26 点
	接合		小計 22 点
	Y-74	Ⅲ層	2 点
	Y-74	V層	20 点
	同一個体未接合		小計 4 点
	Y-74	V層	4 点
図V-16	18 拓本	IV群c類土器	合計 3 点
	接合		小計 3 点
	G2-79	Ⅲ層	3 点
図V-16	19 拓本	IV群c類土器	合計 2 点
	接合		小計 2 点
	G2-79	Ⅲ層	2 点
図V-16	20 拓本	IV群c類土器	合計 2 点
	接合		小計 2 点
	Z-79	V層	2 点
図V-16	21 復元	IV群c類土器	合計 20 点

掲載図番号	土器分類	層位	集計
	接合		小計 20 点
	B2-81	Ⅲ層	20 点
図V-16	22 拓本	IV群c類土器	合計 169 点
	接合		小計 6 点
	H2-74	Ⅲ層	6 点
	同一個体未接合		小計 163 点
	H2-74	Ⅲ層	84 点
	未注記		79 点
図V-16	23 拓本	IV群c類土器	合計 65 点
	接合		小計 5 点
	G2-80	Ⅲ層	5 点
	同一個体未接合		小計 60 点
	G2-79	Ⅲ層	1 点
	G2-80	Ⅲ層	59 点
図V-16	24 拓本	IV群c類土器	合計 5 点
	接合		小計 4 点
	Z-79	V層	4 点
	同一個体未接合		小計 1 点
	未注記		1 点

表V-9 復元土器規模一覽

図版番号	遺構名	口径 _{cm}	底径 _{cm}	器高 _{cm}	時期	器形	
図IV-3	1	LH-28	21.3	9.3	24.2	I b-2	深鉢形土器
	2	LH-28	—	11.8	(10.0)	I b-2	深鉢形土器・底部
図IV-4	10	LH-28	13.3	2.2	5.2	IV b	浅鉢形土器
	12	LH-28	9.5	—	(7.3)	IV b	下部单孔土器, 口縁
	13	LH-28	15.4	7.5	(14.0)	IV c	深鉢形土器
図IV-7	1	LH-29	32.1	8.8	28.2	I b-2	深鉢形土器
図IV-9	1	LH-30	32.1	8.8	28.2	I b-2	深鉢形土器
	9	LH-30	13.0	6.0	15.6	IV a	深鉢形土器
図IV-13	5	LH-31	11.8	(14.9)	(20.0)	I b-2	深鉢形土器
図IV-18	3	LH-32	43.5	—	(29.2)	I b-2	深鉢形土器
	2	LH-32	6.6	6.8	12.6	I b-2	深鉢形土器, 異形底部
	1	LH-32	24.9	—	(15.2)	I b-2	深鉢形土器
図IV-19	12	LH-32	13.0	6.0	15.6	IV a	深鉢形土器
図IV-23	1	LH-34	32.1	8.8	28.2	I b-2	深鉢形土器
図IV-30	1	LH-36	32.1	8.8	28.2	I b-2	深鉢形土器
図IV-37	1	LH-38	30.0	9.6	34.0	I b-2	深鉢形土器
図IV-39	3	LH-39	11.8	(14.9)	(20.0)	I b-2	深鉢形土器
図IV-46	8	LH-42	(12.1)	8.1	(6.4)	I b-2	深鉢形土器・底部
図IV-48	1	LH-43	28.0	9.0	36.5	I b-2	深鉢形土器
図IV-53	1	LP-81	(12.7)	9.0	(13.8)	I b-2	深鉢形土器・底部
図IV-55	1	LP-83	12.9	1.8	5.3	IV c	深鉢形土器
図IV-59	1	LP-89	32.1	8.8	28.2	I b-2	深鉢形土器
図IV-61	1	LP-91	32.1	8.8	28.2	I b-2	深鉢形土器
	5	LP-91	—	10.8	(6.65)	I b-2	深鉢形土器・底部
	6	LP-91	32.0	19.0	(20.8)	I b-2	深鉢形土器
図IV-65	1	LP-94	19.3	—	(18.3)	IV b	深鉢形土器
図V-5	1		(12.7)	9.0	(13.8)	I b-2	深鉢形土器・底部
	18		21.3	9.3	24.2	I b-2	深鉢形土器
図V-6	27		(13.3)	8.1	(12.0)	I b-2	深鉢形土器
	38		32.1	8.8	28.2	I b-2	深鉢形土器
図V-8	53		32.0	(19.0)	(20.8)	I b-2	深鉢形土器
	54		11.8	(14.9)	(20.0)	I b-2	深鉢形土器
	55		24.9	—	(15.2)	I b-2	深鉢形土器
図V-9	56		30.0	9.6	34.0	I b-2	深鉢形土器
	57		(9.6)	7.5	(12.6)	I b-2	深鉢形土器, 異形底部
図V-10	65		43.5	—	(29.2)	I b-2	深鉢形土器
	66		—	11.8	(10.0)	I b-2	深鉢形土器・底部
	67		(12.1)	8.1	(6.4)	I b-2	深鉢形土器・底部
図V-12	83		—	(10.8)	(6.65)	I b-2	深鉢形土器・底部
図V-14	1		28.0	9.0	36.5	IV a	深鉢形土器
	2		13.0	6.0	15.6	IV a	深鉢形土器
図IV-15	6		23.1	—	18.3	IV b	深鉢形土器
	7		19.3	—	(18.3)	IV	深鉢形土器
図IV-16	12		9.5	—	(7.3)	IV b	下部单孔土器, 口縁
	13		(4.2)	5.8	(10.4)	IV b	下部单孔土器
	14		15.4	7.5	14.0	IV c	深鉢形土器
	16		13.0	5.2	2.0	IV c	浅鉢形土器
	17		4.8	3.5	16.2	IV c	注口土器
21		(12.0)	7.5	7.6	VI	片口土器	

表V-10 包含層掲載石器一覧

図番号	調査区	層位	分類	細分類	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)
1	W-71-d-2	V	石鏃	4b	黒曜石	1.6×1.6×0.3	0.7
2	E ₂ -73-a-7	V	石鏃	4b	黒曜石	(2.5)×1.3×0.2	(0.7)
3	F ₂ -71-a-5	V	石鏃	4a	黒曜石	1.8×1.3×0.2	0.4
4	Y-78-c-5	V	石鏃	4a	黒曜石	1.9×1.6×0.2	0.5
5	A ₂ -76-c-1	V	石鏃	4a	黒曜石	2.5×1.8×0.3	0.8
6	V-67-c-1	III	石鏃	4a	黒曜石	(4.7)×1.5×0.3	(1.6)
7	Y-78-c-2	V	石鏃	4a	黒曜石	(3.6)×1.6×0.5	(2.0)
8	E ₂ -77-b-11	V	石鏃	4a	頁岩	4.0×1.6×0.4	1.8
9	E ₂ -72-3	VI	石鏃	3a	黒曜石	(3.2)×1.4×0.3	(1.7)
10	D ₂ -74-a-7	VI	石鏃	3a	黒曜石	(3.1)×1.1×0.2	(0.8)
11	H ₂ -78-b-7	V	石鏃	3a	黒曜石	3.3×1.0×0.3	1.2
12	D ₂ -74-c-1	V	石鏃	3a	黒曜石	2.5×0.9×0.2	0.7
13	U-66-d-1	VI	石鏃	3a	黒曜石	3.9×1.2×0.2	1.1
14	A ₂ -72-b-10	VI	石鏃	3a	黒曜石	3.2×1.3×0.3	1.3
15	F ₂ -77-a-2	V	石鏃	3a	黒曜石	3.3×1.2×0.3	1.5
16	B ₂ -72-b-4	V	石鏃	3b	黒曜石	(3.8)×1.8×0.4	(2.4)
17	Y-76-b-7	V	石鏃	3b	黒曜石	(3.8)×1.6×0.4	(2.1)
18	Y-76-b-4	V	石鏃	7	黒曜石	3.4×1.2×0.5	1.3
19	G ₂ -77-c-9	V	石鏃	7	黒曜石	3.9×1.3×0.3	1.7
20	Y-72-c-9	V	石鏃	7	黒曜石	2.3×1.4×0.4	0.6
21	U-66-c-7	V	石鏃	7	黒曜石	3.2×1.5×0.3	1.0
22	Y-72-c-7	V	石鏃	7	黒曜石	3.1×1.7×0.4	1.0
23	Y-72-c-8	V	石鏃	7	黒曜石	2.7×1.4×0.2	0.6
24	H ₂ -76-d-2	V	石槍・ナイフ	1	黒曜石	5.1×2.1×2.9	7.7
25	T-73-a-2	V	石槍・ナイフ	1	黒曜石	5.8×2.2×0.9	8.6
26	D ₂ -79-d-5	V	石槍・ナイフ	1	黒曜石	6.5×2.0×0.9	6.9
27	G ₂ -77-d-7	V	石槍・ナイフ	2	黒曜石	5.8×2.9×0.9	10.0
28	B ₂ -71-b-3	V	石錐	1	黒曜石	4.3×2.4×1.2	7.6
29	F ₂ -71-a-2	V	石錐	1	頁岩	4.7×1.8×0.9	6.2
30	T-73-b-2	V	石錐	1	黒曜石	3.8×2.9×1.0	6.0
31	Z-73-d-5	V	石錐	3	黒曜石	4.2×1.3×0.9	3.9
32	Z-73-d-5	V	石錐	3	片岩	7.6×1.3×1.3	11.1
33	X-69-d-3	V	つまみ付ナイフ	1	チャート	2.7×1.4×0.4	1.3
34	A ₂ -70-b-4	V	つまみ付ナイフ	2	頁岩	7.5×1.2×0.5	5.5
35	G ₂ -70-b-1	V	つまみ付ナイフ	2	頁岩	7.7×3.4×0.9	28.7
36	E ₂ -72-d-3	V	つまみ付ナイフ	3	黒曜石	5.2×3.3×0.7	11.1
37	X-71-d-4	V	つまみ付ナイフ	3	黒曜石	5.2×4.0×0.8	12.8
38	C ₂ -72-b-2	V	つまみ付ナイフ	3	黒曜石	4.3×3.7×0.9	10.7
39	Z-73-b-7	V	つまみ付ナイフ	3	黒曜石	5.9×3.4×0.9	18.0
40	X-71-b-4	V	つまみ付ナイフ	4	黒曜石	6.5×2.4×0.8	11.7
41	E ₂ -79-d-4	V	スクレイパー	1	珪岩	5.3×2.9×1.0	16.7
42	W-77-d-7	V	スクレイパー	1	頁岩	5.2×4.2×1.5	36.6
43	X-72-c-6	V	スクレイパー	1	頁岩	6.4×3.0×1.5	23.9
44	U-71-b-7	III	ラウンドスクレイパー	2	黒曜石	2.0×2.2×0.7	3.1
45	F ₂ -80-a-3	III	ラウンドスクレイパー	2	黒曜石	2.4×2.7×0.9	5.4
46	T-57-d-1	III	ラウンドスクレイパー	2	黒曜石	1.9×2.1×0.5	2.2
47	G ₂ -79-c-1	III	ラウンドスクレイパー	2	黒曜石	2.6×2.4×0.7	5.4
48	G ₂ -79-d-2	V	ラウンドスクレイパー	2	黒曜石	2.5×3.4×1.0	7.5
49	W-72-a-5	V	スクレイパー	5	片岩	7.2×3.3×1.3	30.2
50	E ₂ -70-d-3	V	スクレイパー	5	頁岩	7.7×3.7×1.3	38.1
51	V-78-c-4	V	スクレイパー	5	黒曜石	4.8×2.3×0.7	6.2
52	U-71-c-4	V	スクレイパー	6	頁岩	5.6×2.2×1.1	7.7
53	X-74-d-1	V	スクレイパー	5	黒曜石	5.1×2.1×0.7	4.8
54	A ₂ -74-b-6	III	楔形石器		黒曜石	2.4×1.5×0.9	3.0
55	G ₂ -79-c-5	V	楔形石器		黒曜石	2.9×3.3×1.4	15.3
56	Z-70-c-9	V	Rフレイク		黒曜石	2.9×3.7×0.5	3.6
57	X-73-b-5	V	Rフレイク		黒曜石	2.1×4.2×0.8	5.9
58	D ₂ -78-c-3	V	Uフレイク		黒曜石	4.9×2.9×1.2	11.8
59	H ₂ -77-a-5	V	石核		黒曜石	2.6×3.3×1.2	9.2
60	Y-69-a-1	V	石核		黒曜石	2.9×4.8×1.6	15.5

図番号	調査区	層位	分類	細分類	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)
61	A ₂ -81-c-3	V	石斧	1	蛇紋岩	15.3×5.4×2.0	293.5
62	U-71-b-8	V	石斧	1	蛇紋岩	11.8×5.2×1.7	11.1
63	V-73-b-9	V	石斧	2	泥岩	8.5×3.6×1.4	59.3
64	E ₂ -76-a-2	V	石斧	2	泥岩	9.7×4.2×1.4	79.7
65	Y-75-a-2	V	石斧	3	粘板岩	8.2×3.3×1.1	55.6
66	H ₂ -73-b-3	VI	石斧	3	泥岩	8.3×3.1×1.4	55.1
67	Y-73-c-4	V	石斧	3	泥岩	(17.7)×5.8×3.4	(637.5)
68	Y-67-d-1	V	石斧	8	泥岩	17.5×4.5×1.9	128.9
69	U-73-b-5	V	石斧	8	泥岩	12.4×6.2×2.5	264.0
70	D ₂ -70-d-5	V	すり切り残片		蛇紋岩	7.8×1.8×1.4	20.9
71	A ₂ -81-b-5	V	たたき石	2	安山岩	16.1×7.4×3.6	687.0
72	X-70-b-1	V	たたき石	2	片岩	10.0×6.0×4.6	384.0
73	V-72-c-5	V	たたき石	3	砂岩	6.7×5.5×5.2	268.0
74	G ₂ -80-a-10	IV	たたき石	3	安山岩	8.6×6.6×7.1	546.0
75	G ₂ -80-a-11	IV	たたき石	3	砂岩	9.4×5.7×5.8	393.0
76	G ₂ -83-a-2	III	たたき石	3	カンラン岩	7.9×6.7×4.8	470.2
77	G ₂ -83-a-3	III	たたき石	3	チャート	7.4×7.5×4.2	248.0
78	V-77-a-1	V	たたき石	4	砂石	11.1×5.7×2.9	207.0
79	F ₂ -76-b-2	III	たたき石	4	砂石	15.1×5.7×2.5	354.0
80	X-67-a-1	III	たたき石	4	砂石	15.4×6.8×3.0	405.0
81	E ₂ -70-d-7	VI	すり石	1	泥岩	10.4×15.5×5.0	924.0
82	T-70-d-3	V	すり石	1	砂石	7.3×17.7×4.6	687.0
83	Z-71-d-2	V	すり石	1	砂石	8.2×11.1×5.8	684.0
84	H ₂ -74-b-8	V	すり石	1	安山岩	6.4×11.6×3.1	333.0
85	D ₂ -78-b-3	V	すり石	2	カンラン岩	4.5×11.9×2.1	149.7
86	V-66-a-2	V	すり石	2	安山岩	11.4×10.5×5.2	935.0
87	U-75-a-1	V	砥石	2	凝灰岩	(10.3×12.0×1.3)	(145.7)
88	W-72-b-1	V	砥石	2	砂石	7.5×7.1×2.3	116.0
89	A ₂ -77-d-3	V	砥石	2	砂石	(6.3×8.6×1.7)	(97.3)
90	D ₂ -77-a-5	V	砥石	2	砂石	9.1×8.7×2.1	193.0
91	X-69-c-3	V	台石		安山岩	15.9×10.4×3.1	648.0
92	Z-77-d-8	V	台石		砂岩	18.7×11.7×6.3	1,818.0

VI 自然科学分析

1. キウス遺跡：放射性炭素年代測定結果報告書

(株)地球科学研究所

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

報告内容の説明

14C age (y BP) : 14C年代測定値

試料の14C/12C比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。
半減期として5568年を用いた。

補正14C age : 補正14C年代値

(y BP) 試料の炭素安定同位体比(13C/12C)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り14C/12Cの測定値に補正值を加えた上で、算出した年代。

 δ 13C (permil) : 試料の測定14C/12C比を補正するための13C/12C比。

この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表現する。

$$\delta 13C (\text{‰}) = \frac{(13C/12C) \text{【試料】} - (13C/12C) \text{【標準】}}{(13C/12C) \text{【標準】}} \times 1000$$

ここで、13C/12C【標準】=0.0112372である。

暦年代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気中14C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の14Cの詳細な測定値により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。(Stuiver et al, 1993,; Talma and Vogel, 1993) ただし、この補正は約10,000yBPより古い試料には適用できない。

測定方法などに関するデータ

測定方法 AMS : 加速器質量分析

Radiometrio : 液体シンチレーションカウンタによる β -線計数法

処理・調製・その他 : 試料の前処理、調製などの情報

前処理 aoid-alkali-aoid : 酸-アルカリ-酸洗浄

aoid washes : 酸洗浄

aoid etoh : 酸によるエッチング

調製、その他

Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物処理

Bone Collagen Extraotion : 骨、歯などのコラーゲン抽出

Cellulose Extraotion : 木材のセルロース抽出

Extended Counting : Radiometrioのよる測定の際、測定時間を延長する

graphite : AMS測定の際、最終的に試料を石墨に調製する

benzene : Radiometrioによる測定の際、最終的に試料をベンゼンに調製する

分析機関 : BETA ANALYTIC INC.

4985 SW 74Court, Mlami, FI. 33155, U. S. A.

測定番号	試料名	試料種	^{14}C age (y BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	補正 ^{14}C age (y BP)	暦年代	
Beta-112925	K17-1	charred material	6900±90	-26.8	6870±90	交点	BC 5700
採取遺構名		土層				2SIGMA	BC 5935 TO 5910 BC 5880 TO 5580
LH-28		床面				95% probability	
						1SIGMA	BC 8775 TO 5620
						68% probability	
整理番号7116	測定方法	AMS	処理・調製・その他		aoid-alkali-aoid graphite		
Beta-112926	K17-2	charred material	3050±50	-25.4	3040±50	交点	BC 1285
採取遺構名		土層				2SIGMA	BC 1410 TO 1130 95%
LH-29		床面				probability	
						1SIGMA	BC 1385 TO 1215 68%
						probability	
整理番号7117	測定方法	AMS	処理・調製・その他		aoid-alkali-aoid graphite		
Beta-112927	K17-3	charred material	6950±60	-27.5	6910±60	交点	BC5725
採取遺構名		土層				2SIGMA	BC 5860 TO 5625
LH-32		床面				95% probability	
						1SIGMA	BC 5785 TO 5685
						68% probability	
整理番号7118	測定方法	AMS	処理・調製・その他		aoid-alkali-aoid graphite		
Beta-112928	K17-4	charred material	4190±50	-27.4	4150±50	交点	BC2860,2815,2680
採取遺構名		土層				2SIGMA	BC 2885 TO 2575
LH-35		床面				95% probability	
						1SIGMA	BC 2875 TO 2790 BC 2780 TO 2605
						68% probability	
整理番号7119	測定方法	AMS	処理・調製・その他		aoid-alkali-aoid graphite		
Beta-112929	K17-5	charred material	6930±50	-26.1	6910±50	交点	BC5725
採取遺構名		土層				2SIGMA	BC 5845 TO 5650
LH-38		床面				95% probability	
						1SIGMA	BC 5775 TO 5690
						68% probability	
整理番号7120	測定方法	AMS	処理・調製・その他		aoid-alkali-aoid graphite		
Beta-112930	K17-6	charred material	4500±50	-25.9	4490±50	交点	BC 3285,3245,3105
採取遺構名		土層				2SIGMA	BC 3350 TO 3015 BC 2985 TO 2935
LH-42		床面				95% probability	
						1SIGMA	BC 3335 TO 3070
						68% probability	
整理番号7121	測定方法	AMS	処理・調製・その他		aoid-alkali-aoid graphite		

2. キウス7遺跡出土の黒曜石製遺物の原産地分析

藁科 哲男 (京都大学原子炉実験所)

はじめに

石器石材の産地を自然科学的手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている^{1,2,3)}。

黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して産地を推定する。この際多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。蛍光X線分析法は試料を破壊せずに分析することができて、かつ、試料調整が単純、測定の手続きも簡単である。石器のような古代人の日用品で多数の試料を分析しなければ遺跡の正しい性格が分からないという場合にはことさら有利な分析法である。今回分析を行なった試料は、千歳市キウス7遺跡出土の石鏃5個、石錐1個、つまみ付きナイフ2個、スクレイパー3個、Rフレイク2個、石核2個、細石刃が15個の合計30個の黒曜石製遺物の産地分析および水和層厚さの結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の風化面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。主に分析した元素はK、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの各元素である。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量をそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図VI-2-1に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成によってこれら原石を分類し表VI-2-1に示す。この原石群に原産地は不明の遺物で作った遺物群を加えると123個の原石群になる。

ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿砦北方2kmの採石場の赤石山の露頭、鹿砦東方約2kmの幌加沢地点、また白土沢、八号沢などより転礫として黒曜石が採取できる。赤石山の産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群(旧白滝第1群)にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい群を作った(旧白滝第2群)、また、八号沢の黒曜石原石と白土沢の転礫は梨肌の黒曜石で組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。幌加沢よりの転礫の中で70%は幌加沢群になりあじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。置戸産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取され、この原石の元素組成は置戸群にまとまる。この原産地は、常呂川に通じる流域にあり、この常呂川流域で黒曜石の円礫が採取されるが現在まだ調査していない。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三の沢から音更川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫

の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上士幌町のサンケオルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、この遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考えなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美蔓台地から産出する黒曜石から2個の美蔓原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。旭川市の近文台、嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第一群、69%が近文台第二群、11%が近文台第三群それぞれ分類された。また、滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまとまり、21%が近文台第二、三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、北竜市恵袋別川培本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況とか礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致しさらに近文台第二群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。ここの原石には、少球果の列が何層にも重なり石器の原材として良質とはいえない原石で赤井川第1群を、また、球果の非常に少ない握り拳半分大の良質な原石などで赤井川第2群を作った。これら第1、2群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。豊泉産原石は豊浦町から産出し、組成によって豊泉第1、2群の2群に区別され、豊泉第2群の原石は斑晶が少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れ鱒ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽郡森田村鶴ばみ地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸とか同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群をまた、八森山産出の原石で八森山群をそれぞれ作った。深浦の両群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群、成田群、浪岡町県民の森地区より産出の浪岡群は赤井川産原石の第1、2群と弁別は可能であるが原石の組成は比較的似ている。戸門、浪岡産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石鏃が作れる程度がみられる程度であるが、鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石の中には5cm大のものもみられる。また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は風化しているが、黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析で水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合、また除かずに産地分析を行った場合同定される原産地に差はない。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析したキウス7遺跡出土の黒曜石製石器の分析結果を表VI-2-2に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Zrの一変量だけを考えると、表2の試料番号52708番の遺物ではRb/Zrの値は1.329で、赤石山群の[平均値]±[標準偏差値]は、 1.340 ± 0.059 である。遺物と原石群の差を標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群から 0.2σ 離れている。ところで白滝原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.2\sigma$ のずれより大きいものが84個ある。すなわち、この遺物が、赤石山の原石から作られていたと仮定しても、 0.2σ 以上離れる確率は84%であると言える。だから、赤石山群の平均値から 0.2σ しか離れていないときには、この遺物が赤石山群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を置戸群に比較すると、置戸群の平均値からの隔たりは、約 15σ である。これを確率の言葉で表現すると、置戸群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 15σ 以上離れている確率は、千兆分の一であると言える。このように、千兆個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、置戸群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は赤石山群に84%、置戸群に十兆分の一の確率でそれぞれ帰属される」。各遺跡の遺物について、この判断を表VI-2-1のすべての原石群について行ない、低い確率で帰属された原石群を消していくと残るのは、赤石山群だけとなり、白滝産地の石材が使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯一ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA産地のA群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT2検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する⁴⁵⁾。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では122個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、これら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる、すなわち、白滝の赤石山産原石と判定された遺物について、信州和田峠産の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみの結果を表3に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには原石群の元素組成のパラツキの範囲を越て大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地(確率)の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D2の値を記した。この遺物については、記入されたD2の値が原石群の中で最も小さなD2値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低い、その原石産地と考えてほゞ間違いないと判断されたものである。赤井川および十勝産原石を使用した遺物の判定は複雑である。これは青森市戸門、成田地区、浪岡町より産出する黒曜石の組成は赤井川産原石および十勝三股群に似る組成の戸門第一、成田、浪岡の各群で構成されているために、統計処理により同定される原石群が戸門原産地と赤井川または十勝産地、またこれら3ヶ所の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を

分析し戸門第1群と第2群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第1群(50%)と第2群(50%)の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。今回分析した遺物のなかに全く戸門第2群に帰属される遺物が見られないことから戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。また浪岡産原石は非常に小さく分析した遺物よりも小さい原石で本遺跡で使用された可能性は低いと推測された。成田産地の原石、赤井川産原石と十勝産原石を使用した遺物の産地分析では、これら産地に同定された遺物の帰属確率の差が十分の一～百分の一がほとんどで、遺物の中には、赤井川、十勝、成田の群の帰属確率の差がほとんどない遺物があり原石産地の特定に苦慮するときがあり、この場合は、客観的な産地分析法により赤井川産、十勝産、成田産と限定したうえで、肉眼観察により遺物と似た原石が赤井川産地、十勝産地、成田産地のいずれに多かを考慮して原石産地を判定した遺物も一部ある。さらに、今回分析を行なった遺物30個のなかで、1cm以上の大きな遺物では原石群への同定確率は高く、小さい細石刃などの遺物は低くなっている。特に、遺物の平均厚さが1.5mm以下の薄い試料では、Mn/Zr、Fe/Zrの比値が大きく分析され、1mm厚でFe/Zr比は約15%程度大きく分析される。しかし、1mm厚あればRb/Zr、Sr/Zr、Y/Zrについては分析誤差範囲で産地分析結果への影響は小さく、Mn/Zr、Fe/Zrの影響で推定確率は低くなるが原産地の同定は可能と思われる。

キウス7遺跡出土の石鏃5個には赤井川産が3個、十勝産、赤石山産がそれぞれ1個、石錐には十勝産1個が使用され、つまみ付きナイフ2個には赤井川産と赤石山産が使用され、スクレイパーには、赤井川産、十勝産と風化層が厚く産地が特定できなかったものの3個で、Rフレイク2個と石核2個には赤井川産が使用され、また、15個の細石刃は肉眼観察で同じ原石から作られ様に石の模様が似ている。この細石刃の様に中で分析番号52719番の遺物は薄く産地が特定できなかったが、他の遺物は十勝産と推測した。

非破壊分析による黒曜石製遺物の水和層測定

分析は黒曜石遺物の表面の微小な部分に顕微鏡を通して光を照射したときに、黒曜石の表面で反射する光と、水和層と新鮮部の境界面で反射する光りで生じるの干渉波の波長から水和層の厚さを求める方法で、完全な非破壊分析である。光りの反射を利用するため、遺物の表面にできた使用痕および埋土中にできた摩耗傷などが水和層測定の障害になり測定できない場合が多々あり、分析番号52701番の石鏃の表面は異常に風化し水和層の測定はできず、刃部の光沢部を測定した。一般的に、水和層と新鮮面との境界面での反射光が非常に弱いので、境界面が明確に発達した部分を探して測定しなければならない。従って、傷のない場所を顕微鏡下で探して分析を行うため、試料によっては1個に三時間以上かかることもある。今回、分析した遺物について3ヶ所以上を分析し、分析値の最大、中間、最小値を選んで表VI-2-3に記した。水和層厚さを経過年代に換算するには、千年間で発達する水和層厚さを示す水和速度($\mu\text{m}^2/1000\text{年}$)を求めて行う。この水和速度は黒曜石の埋土中に受ける温度によって異なるため、黒曜石が環境から受けた温度を正確に求めなければ、正確な年代の換算はできない。これは、水和層を分析した黒曜石の経過年代を炭素-14法、フィッシュトラック法で求めた絶対年代を基準にして、水和速度($\mu\text{m}^2/1000\text{年}$)を求めて行う。今回は、黒曜石遺物が環境から受けた温度を千歳地方における効果温度を 8.5°C としたときの水和速度を十勝三股産1.8、赤井川産2.1、白滝産1.6($\mu\text{m}^2/1000\text{年}$)とすると、⁷⁾

例えば、分析番号52728番の細石刃水和層厚さ $4.539\mu\text{m}$ の推定換算年代は、

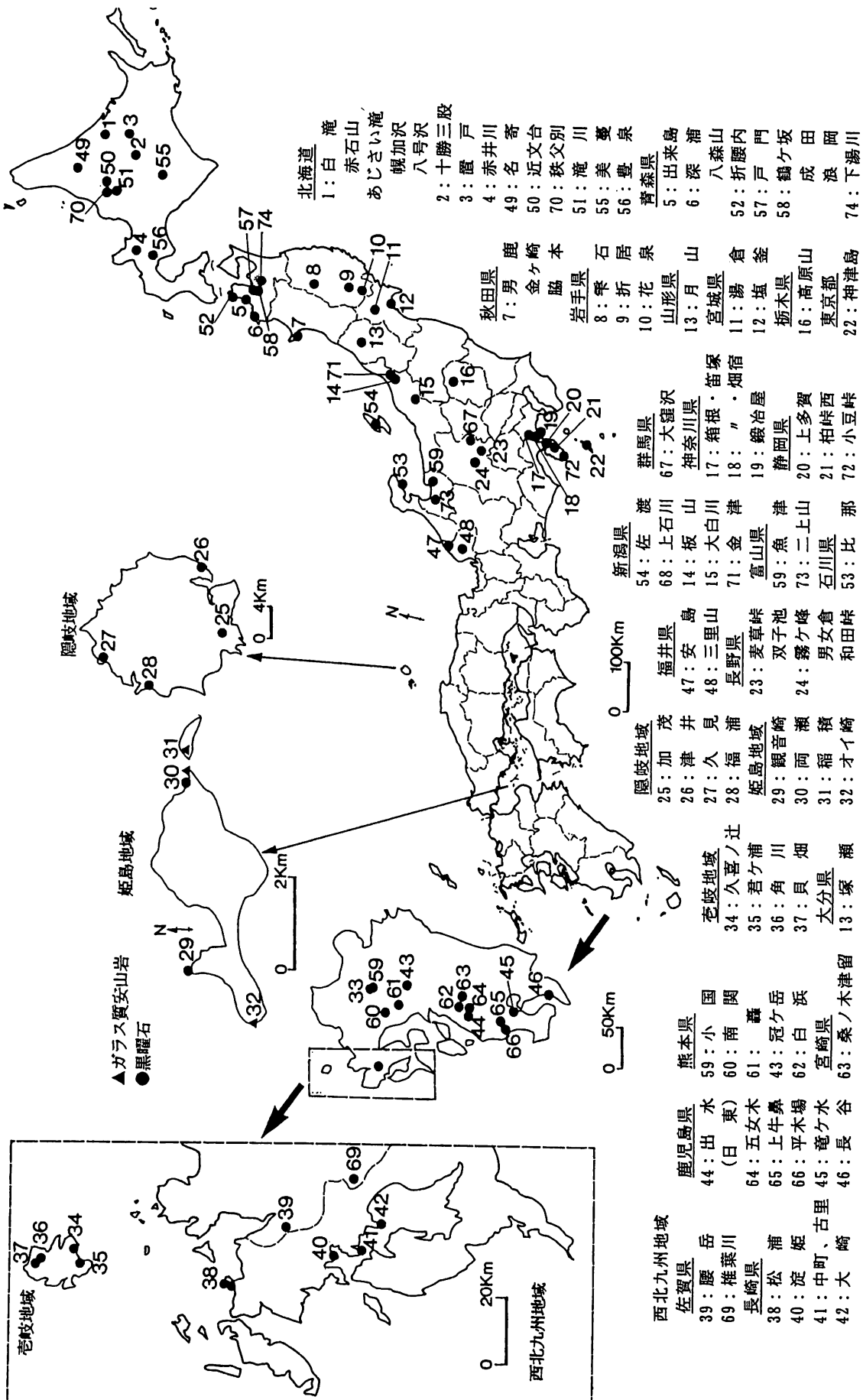
$$\text{推定換算年代 (千年)} = \frac{\text{測定水和層厚 } (\mu\text{m}) \times \text{測定水和層厚 } (\mu\text{m})}{\text{水和速度 } (\mu^2 / 1000\text{年})}$$

$$11.446 \text{ (千年)} = 4.539 \times 4.539 / 1.8$$

となり推定換算年代は11,446年になる。他の遺物についても上記の式で試算できる。

参考文献

- 1) 藁科哲男・東村武信 (1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (II)。考古学と自然科学, 8: 61-69
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌 (1977), (1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (III)。 (IV)。考古学と自然科学, 10, 11: 53-81: 33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信 (1983), 石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16: 59-89
- 4) 藁科哲男 (1993), 男女倉遺跡出土の黒曜石製遺物の石材産地分析。
長野県黒曜石原産地遺跡分布調査報告書 (和田峠・男女倉谷) III, 和田村教育委員会: 218-231
- 5) 東村武信 (1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9: 77-90
- 6) 東村武信 (1980), 考古学と物理化学。学生社
- 7) 近堂祐弘市 (1986), 北海道における黒曜石年代測定法について。
北海道考古学, 22, 1-15。



北海道
 1: 白滝
 2: 十勝三股
 3: 置戸
 4: 赤井川
 49: 名寄
 50: 近文台
 51: 秩父別
 55: 滝川
 56: 蔓泉
 57: 豊
 58: 美
 70: 青森県
 71: 出来島
 72: 深浦
 73: 八森山
 74: 折腰内門坂田岡浪下湯川

秋田県
 7: 男鹿
 8: 金ケ崎
 9: 本駒
 10: 石居
 11: 泉
 12: 折花
 13: 山形県
 14: 月山
 15: 湯倉
 16: 釜釜
 17: 塩釜
 18: 高木山
 19: 高木山
 20: 高木山
 21: 高木山
 22: 高木山

新潟県
 54: 佐渡
 55: 上石川
 56: 板山
 57: 板山
 58: 板山
 59: 板山
 60: 板山
 61: 板山
 62: 板山
 63: 板山
 64: 板山
 65: 板山
 66: 板山
 67: 板山
 68: 板山
 69: 板山
 70: 板山
 71: 板山
 72: 板山
 73: 板山
 74: 板山

豊後地域
 25: 加茂
 26: 津井
 27: 久見
 28: 福浦
 29: 福浦
 30: 福浦
 31: 福浦
 32: 福浦

壱岐地域
 34: 久喜ノ辻
 35: 君ヶ浦
 36: 角川
 37: 貝畑
 38: 貝畑
 39: 貝畑
 40: 貝畑
 41: 貝畑
 42: 貝畑

豊前地域
 43: 水尾
 44: 水尾
 45: 水尾
 46: 水尾
 47: 水尾
 48: 水尾
 49: 水尾
 50: 水尾
 51: 水尾
 52: 水尾
 53: 水尾

西北九州地域
 39: 佐賀県
 40: 佐賀県
 41: 佐賀県
 42: 佐賀県
 43: 佐賀県
 44: 佐賀県
 45: 佐賀県
 46: 佐賀県
 47: 佐賀県
 48: 佐賀県
 49: 佐賀県

図VI-2-1 黒曜石原産地

表VI-2-1 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	元 素 比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Str/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
北海道	名寄第一	0.478±0.011	0.121±0.005	0.035±0.007	2.011±0.063	0.614±0.032	0.574±0.022	0.120±0.017	0.024±0.016	0.033±0.002	0.451±0.010	
	名寄第二	0.309±0.015	0.103±0.005	0.021±0.006	1.774±0.055	0.696±0.044	0.265±0.011	0.301±0.022	0.026±0.020	0.028±0.007	0.394±0.010	
	白石	0.173±0.014	0.061±0.003	0.079±0.013	2.714±0.142	1.340±0.059	0.283±0.019	0.341±0.030	0.073±0.026	0.028±0.002	0.374±0.010	
	滝八	0.138±0.010	0.022±0.002	0.105±0.017	3.123±0.127	1.846±0.065	0.105±0.019	0.475±0.045	0.076±0.046	0.027±0.008	0.359±0.042	
	滝地	0.139±0.009	0.023±0.001	0.099±0.015	2.975±0.102	1.794±0.077	0.104±0.010	0.470±0.037	0.103±0.027	0.027±0.002	0.369±0.007	
	区あじい、滝	0.142±0.010	0.023±0.001	0.101±0.014	3.038±0.125	1.787±0.076	0.115±0.015	0.457±0.035	0.076±0.044	0.027±0.005	0.365±0.011	
	近文台第一	0.819±0.013	0.165±0.006	0.081±0.010	3.266±0.117	0.604±0.031	0.941±0.030	0.165±0.020	0.039±0.016	0.039±0.002	0.457±0.008	
	近文台第二	0.517±0.011	0.099±0.005	0.067±0.009	2.773±0.097	0.812±0.037	0.818±0.034	0.197±0.024	0.041±0.019	0.035±0.002	0.442±0.009	
	近文台第三	0.514±0.012	0.098±0.005	0.066±0.014	2.765±0.125	0.814±0.068	0.815±0.042	0.199±0.039	0.078±0.008	0.034±0.002	0.443±0.011	
	秩父別第一	0.249±0.017	0.122±0.006	0.078±0.011	1.614±0.068	0.995±0.037	0.458±0.023	0.235±0.024	0.023±0.021	0.022±0.004	0.334±0.013	
	秩父別第二	0.506±0.016	0.098±0.005	0.070±0.011	2.750±0.099	0.805±0.042	0.808±0.032	0.197±0.026	0.027±0.003	0.027±0.003	0.371±0.010	
	滝川第一	0.253±0.018	0.122±0.006	0.077±0.009	1.613±0.090	1.017±0.045	0.459±0.025	0.233±0.029	0.038±0.018	0.025±0.003	0.370±0.023	
	滝川第二	0.510±0.015	0.098±0.005	0.068±0.009	2.740±0.072	0.802±0.019	0.812±0.019	0.192±0.026	0.032±0.023	0.030±0.004	0.393±0.031	
	置戸	0.326±0.008	0.128±0.005	0.045±0.008	1.813±0.062	0.824±0.034	0.454±0.020	0.179±0.023	0.044±0.020	0.030±0.002	0.412±0.010	
	十勝	0.256±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.281±0.087	1.097±0.055	0.434±0.023	0.334±0.029	0.064±0.025	0.029±0.002	0.396±0.013	
	美蔓第一	0.499±0.020	0.124±0.007	0.052±0.010	2.635±0.181	0.802±0.061	0.707±0.044	0.199±0.029	0.039±0.023	0.033±0.002	0.442±0.015	
	美蔓第二	0.593±0.036	0.144±0.012	0.056±0.010	3.028±0.251	0.762±0.040	0.764±0.051	0.197±0.026	0.038±0.022	0.034±0.002	0.449±0.009	
	赤井川第一	0.254±0.029	0.070±0.004	0.086±0.010	2.213±0.104	0.969±0.060	0.428±0.021	0.249±0.024	0.058±0.023	0.027±0.002	0.371±0.009	
	赤井川第二	0.258±0.065	0.072±0.002	0.080±0.010	2.207±0.083	0.970±0.045	0.436±0.026	0.245±0.021	0.021±0.029	0.025±0.007	0.371±0.007	
	豊泉第一	0.473±0.019	0.148±0.007	0.060±0.015	1.764±0.072	0.438±0.027	0.607±0.028	0.157±0.020	0.025±0.017	0.032±0.002	0.469±0.013	
	豊泉第二	0.377±0.009	0.133±0.006	0.055±0.008	1.723±0.066	0.516±0.019	0.513±0.018	0.177±0.016	0.007±0.015	0.030±0.005	0.431±0.010	
	青森県	折腰内	0.190±0.015	0.075±0.003	0.040±0.008	1.575±0.066	1.241±0.046	0.318±0.014	0.141±0.033	0.076±0.021	0.024±0.002	0.348±0.010
		出米島	0.346±0.022	0.132±0.007	0.231±0.019	2.268±0.085	0.865±0.044	1.106±0.056	0.399±0.038	0.179±0.031	0.038±0.003	0.499±0.013
		六角沢	0.080±0.008	0.097±0.011	0.013±0.002	0.697±0.021	0.128±0.008	0.002±0.002	0.064±0.007	0.035±0.004	0.026±0.002	0.379±0.010
		八森山	0.077±0.005	0.098±0.003	0.013±0.002	0.701±0.018	0.134±0.005	0.002±0.002	0.070±0.005	0.034±0.006	0.027±0.005	0.384±0.009
		戸門第一	0.250±0.024	0.069±0.003	0.068±0.012	2.358±0.257	1.168±0.062	0.521±0.063	0.277±0.065	0.076±0.025	0.026±0.002	0.362±0.015
		戸門第二	0.084±0.006	0.104±0.004	0.013±0.002	0.691±0.021	0.123±0.006	0.002±0.002	0.069±0.010	0.033±0.005	0.025±0.002	0.369±0.007
		森ヶ坂	0.344±0.017	0.132±0.007	0.232±0.023	2.261±0.143	0.861±0.052	1.081±0.060	0.390±0.039	0.186±0.037	0.037±0.002	0.496±0.018
		成田	0.252±0.017	0.068±0.009	0.079±0.033	2.548±0.131	1.149±0.069	0.568±0.108	0.288±0.037	0.049±0.036	0.028±0.005	0.383±0.018
市下湯川		9.673±0.479	2.703±0.149	3.267±0.217	1.648±1.500	0.090±0.021	1.708±0.102	0.155±0.015	0.169±0.031	0.053±0.042	0.858±0.088	
浪岡		0.253±0.016	0.067±0.008	0.077±0.029	2.519±0.148	1.147±0.065	0.558±0.087	0.286±0.035	0.047±0.040	0.028±0.003	0.385±0.018	
秋田県		金ヶ崎	0.294±0.009	0.087±0.004	0.220±0.018	1.644±0.081	1.493±0.081	0.930±0.043	0.287±0.039	0.098±0.040	0.029±0.002	0.368±0.008
		男鹿	0.295±0.008	0.087±0.004	0.219±0.017	1.671±0.077	1.503±0.072	0.939±0.054	0.286±0.045	0.108±0.034	0.028±0.006	0.367±0.009

表VI-2-1-2 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	元 素 比									
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
岩手県	25	0.636±0.033	0.187±0.012	0.052±0.007	1.764±0.061	0.305±0.016	0.431±0.021	0.209±0.016	0.045±0.014	0.041±0.003	0.594±0.014
	22	0.615±0.055	0.180±0.016	0.058±0.007	1.751±0.062	0.306±0.033	0.421±0.051	0.228±0.079	0.045±0.011	0.041±0.005	0.594±0.055
	30	0.596±0.046	0.177±0.018	0.056±0.008	1.742±0.072	0.314±0.019	0.420±0.025	0.220±0.016	0.044±0.013	0.041±0.003	0.586±0.030
山形県	44	0.285±0.021	0.123±0.007	0.182±0.016	1.906±0.096	0.966±0.069	1.022±0.071	0.276±0.036	0.119±0.033	0.033±0.002	0.443±0.014
宮城県	21	2.174±0.068	0.349±0.017	0.057±0.005	2.544±0.149	0.116±0.009	0.658±0.024	0.138±0.015	0.020±0.013	0.073±0.003	0.956±0.040
	37	4.828±0.395	1.630±0.104	0.178±0.017	11.362±1.150	0.168±0.018	1.298±0.063	0.155±0.016	0.037±0.018	0.077±0.002	0.720±0.032
新潟県	34	0.228±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.288±0.018	0.142±0.018	0.049±0.017	0.024±0.004	0.338±0.013
	12	0.263±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.501±0.053	0.717±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.026±0.002	0.338±0.009
	45	0.321±0.007	0.070±0.003	0.069±0.011	2.051±0.070	0.981±0.042	0.773±0.034	0.182±0.023	0.038±0.027	0.026±0.007	0.359±0.009
	44	0.232±0.011	0.068±0.003	0.169±0.017	2.178±0.110	1.772±0.098	0.772±0.046	0.374±0.047	0.154±0.034	0.027±0.002	0.359±0.009
	22	0.569±0.012	0.142±0.007	0.033±0.005	1.608±0.049	0.261±0.012	0.332±0.011	0.150±0.015	0.033±0.011	0.036±0.003	0.491±0.014
	46	0.331±0.011	0.097±0.037	0.030±0.007	1.711±0.066	0.618±0.027	0.283±0.012	0.181±0.016	0.035±0.018	0.027±0.009	0.402±0.012
栃木県	40	0.738±0.067	0.200±0.010	0.044±0.007	2.016±0.110	0.381±0.025	0.502±0.028	0.190±0.017	0.023±0.014	0.036±0.002	0.516±0.012
東京都	56	0.381±0.014	0.136±0.005	0.102±0.011	1.729±0.079	0.471±0.027	0.689±0.037	0.247±0.021	0.090±0.026	0.036±0.003	0.504±0.012
	23	0.317±0.016	0.120±0.008	0.114±0.014	1.833±0.069	0.615±0.039	0.656±0.050	0.303±0.034	0.107±0.026	0.033±0.002	0.471±0.009
	40	0.318±0.020	0.120±0.005	0.118±0.014	1.805±0.096	0.614±0.036	0.664±0.045	0.291±0.029	0.093±0.039	0.034±0.006	0.476±0.012
神奈川県	30	6.765±0.254	2.219±0.057	0.228±0.019	9.282±0.622	0.048±0.017	1.757±0.061	0.252±0.017	0.025±0.019	0.140±0.008	1.528±0.046
	41	2.056±0.064	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.104	0.062±0.007	0.680±0.029	0.202±0.011	0.011±0.010	0.080±0.005	1.126±0.031
	31	1.663±0.071	0.381±0.019	0.056±0.007	2.139±0.097	0.073±0.008	0.629±0.025	0.154±0.009	0.011±0.009	0.067±0.005	0.904±0.020
静岡県	31	1.329±0.078	0.294±0.018	0.041±0.006	1.697±0.068	0.087±0.009	0.551±0.023	0.138±0.011	0.010±0.009	0.059±0.004	0.856±0.018
	35	1.213±0.164	0.314±0.028	0.031±0.004	1.699±0.167	0.113±0.007	0.391±0.022	0.143±0.007	0.009±0.009	0.047±0.004	0.663±0.020
	40	0.110±0.008	0.052±0.004	0.297±0.038	3.211±0.319	0.829±0.089	0.154±0.030	0.547±0.054	0.087±0.057	0.025±0.014	0.429±0.016
	12	0.278±0.013	0.065±0.004	0.064±0.008	2.084±0.095	0.906±0.057	0.641±0.046	0.194±0.014	0.102±0.021	0.027±0.002	0.372±0.009
富山県	36	0.319±0.017	0.113±0.006	0.040±0.008	1.720±0.080	0.740±0.052	0.665±0.029	0.121±0.026	0.047±0.031	0.015±0.014	0.392±0.018
	40	0.710±0.017	0.202±0.008	0.054±0.011	1.994±0.152	0.413±0.028	0.840±0.050	0.118±0.025	0.051±0.031	0.020±0.020	0.599±0.024
	45	0.441±0.052	0.108±0.014	0.079±0.021	2.251±0.138	0.794±0.155	1.222±0.088	0.127±0.041	0.067±0.053	0.015±0.014	0.412±0.025
石川県	17	0.370±0.014	0.087±0.004	0.060±0.009	2.699±0.167	0.639±0.028	0.534±0.023	0.172±0.028	0.052±0.018	0.032±0.002	0.396±0.017
福井県	21	0.407±0.007	0.123±0.005	0.038±0.006	1.628±0.051	0.643±0.041	0.675±0.030	0.113±0.020	0.061±0.016	0.032±0.002	0.450±0.010
	21	0.350±0.018	0.123±0.008	0.036±0.006	1.561±0.081	0.608±0.031	0.798±0.039	0.069±0.020	0.062±0.013	0.028±0.002	0.381±0.008
群馬県	42	1.481±0.117	0.466±0.021	0.042±0.006	2.005±0.135	0.182±0.011	0.841±0.044	0.105±0.010	0.009±0.008	0.033±0.005	0.459±0.012

表VI-2-1-3 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	元 素 比									
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
長野県	霧ヶ峰	0.138±0.009	0.066±0.003	0.104±0.011	1.339±0.057	1.076±0.047	0.360±0.023	0.275±0.030	0.112±0.023	0.026±0.002	0.361±0.013
	和田峠第一	0.167±0.028	0.049±0.008	0.117±0.011	1.346±0.085	1.853±0.124	0.112±0.056	0.409±0.048	0.139±0.026	0.025±0.002	0.355±0.016
	第二	0.146±0.003	0.032±0.003	0.151±0.010	1.461±0.039	2.449±0.135	0.036±0.012	0.517±0.044	0.186±0.025	0.027±0.002	0.368±0.007
	第三	0.248±0.048	0.064±0.012	0.114±0.011	1.520±0.182	1.673±0.140	0.274±0.104	0.374±0.048	0.122±0.024	0.025±0.003	0.348±0.017
	第四	0.144±0.017	0.063±0.004	0.094±0.009	1.373±0.085	1.311±0.037	0.206±0.030	0.263±0.038	0.090±0.022	0.023±0.002	0.331±0.019
	第五	0.176±0.019	0.075±0.010	0.073±0.011	1.282±0.086	1.053±0.196	0.275±0.058	0.184±0.042	0.066±0.023	0.021±0.002	0.306±0.013
	第六	0.156±0.011	0.055±0.005	0.095±0.012	1.333±0.064	1.523±0.093	0.134±0.031	0.279±0.039	0.101±0.017	0.021±0.002	0.313±0.012
	鷹山・和田	0.138±0.004	0.042±0.002	0.123±0.010	1.259±0.041	1.978±0.067	0.045±0.010	0.442±0.039	0.142±0.022	0.026±0.002	0.360±0.010
鳥取県	男倉	0.223±0.026	0.102±0.010	0.059±0.008	1.169±0.081	0.701±0.109	0.409±0.052	0.128±0.024	0.053±0.017	0.026±0.002	0.354±0.008
	草峠	0.263±0.020	0.138±0.011	0.049±0.008	1.403±0.069	0.532±0.048	0.764±0.031	0.101±0.018	0.056±0.016	0.029±0.002	0.401±0.017
	双子	0.252±0.027	0.129±0.007	0.059±0.010	1.630±0.179	0.669±0.052	0.802±0.058	0.111±0.024	0.037±0.032	0.027±0.007	0.401±0.011
	加茂	0.154±0.008	0.092±0.009	0.018±0.003	0.943±0.029	0.289±0.016	0.006±0.003	0.047±0.010	0.144±0.019	0.022±0.001	0.269±0.017
	津井	0.150±0.008	0.100±0.003	0.015±0.002	0.919±0.033	0.305±0.010	0.013±0.003	0.046±0.013	0.132±0.007	0.022±0.001	0.258±0.006
	久見	0.142±0.004	0.061±0.002	0.020±0.003	0.981±0.048	0.398±0.013	0.001±0.002	0.093±0.015	0.229±0.010	0.023±0.002	0.317±0.006
大分県	観音崎	0.216±0.017	0.045±0.003	0.428±0.057	6.897±0.806	1.829±0.220	1.572±0.180	0.325±0.088	0.622±0.099	0.035±0.002	0.418±0.011
	両瀬第一	0.221±0.021	0.045±0.003	0.450±0.061	7.248±0.668	1.917±0.194	1.660±0.173	0.355±0.057	0.669±0.105	0.035±0.002	0.419±0.009
	第二	0.634±0.047	0.140±0.013	0.194±0.026	4.399±0.322	0.614±0.077	3.162±0.189	0.144±0.031	0.240±0.041	0.038±0.002	0.451±0.011
	第三	1.013±0.140	0.211±0.026	0.126±0.016	3.491±0.231	0.305±0.067	4.002±0.174	0.109±0.021	0.137±0.028	0.040±0.004	0.471±0.017
	イ崎	1.074±0.110	0.224±0.024	0.122±0.012	3.460±0.301	0.286±0.048	4.010±0.022	0.101±0.022	0.133±0.025	0.040±0.003	0.469±0.014
	才稲積	0.653±0.066	0.141±0.016	0.189±0.030	4.398±0.425	0.605±0.096	3.234±0.264	0.151±0.033	0.245±0.050	0.037±0.002	0.448±0.015
佐賀県	塚瀬	0.313±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.600±0.051	0.686±0.082	0.175±0.018	0.102±0.020	0.028±0.002	0.371±0.009
	腰岳	0.214±0.015	0.029±0.001	0.076±0.012	2.694±0.110	1.686±0.085	0.441±0.030	0.293±0.039	0.257±0.029	0.027±0.002	0.356±0.008
	椎葉川	0.414±0.009	0.071±0.003	0.101±0.017	2.947±0.142	1.253±0.081	2.015±0.099	0.147±0.035	0.255±0.040	0.030±0.007	0.388±0.009
長崎県	久喜ノ辻	0.165±0.002	0.066±0.002	0.034±0.003	1.197±0.030	0.403±0.012	0.005±0.004	0.114±0.012	0.326±0.008	0.024±0.002	0.294±0.008
	君ヶ浦	0.161±0.011	0.064±0.002	0.034±0.003	1.209±0.032	0.405±0.008	0.005±0.004	0.119±0.016	0.322±0.010	0.025±0.002	0.294±0.006
	角川	0.138±0.010	0.037±0.002	0.056±0.007	1.741±0.083	1.880±0.076	0.012±0.012	0.303±0.038	0.652±0.036	0.026±0.002	0.358±0.010
	松浦第一	0.218±0.010	0.029±0.002	0.085±0.013	2.682±0.125	1.674±0.064	0.439±0.027	0.284±0.047	0.266±0.028	0.027±0.002	0.359±0.012
	第二	0.176±0.016	0.030±0.004	0.062±0.022	2.364±0.389	1.607±0.245	0.308±0.074	0.277±0.056	0.210±0.050	0.026±0.002	0.361±0.010
	第三	0.245±0.019	0.060±0.006	0.045±0.012	1.975±0.240	0.878±0.099	0.421±0.081	0.130±0.030	0.145±0.023	0.026±0.002	0.358±0.013
長崎県	第四	0.287±0.019	0.067±0.004	0.044±0.007	1.906±0.106	0.765±0.074	0.484±0.034	0.115±0.023	0.117±0.018	0.028±0.001	0.367±0.007
	姫	0.329±0.014	0.080±0.005	0.042±0.007	1.804±0.065	0.539±0.022	0.504±0.035	0.077±0.018	0.117±0.014	0.029±0.002	0.374±0.009
	淀町第一	0.248±0.017	0.058±0.008	0.057±0.007	1.884±0.085	0.832±0.092	0.403±0.026	0.112±0.021	0.152±0.017	0.026±0.002	0.363±0.007
	第二	0.327±0.030	0.080±0.017	0.045±0.007	1.832±0.074	0.653±0.088	0.488±0.030	0.090±0.030	0.093±0.023	0.027±0.002	0.358±0.012
	古里	0.192±0.020	0.027±0.003	0.080±0.016	2.699±0.215	1.780±0.164	0.413±0.065	0.312±0.056	0.259±0.040	0.027±0.002	0.358±0.008
	第三	0.414±0.012	0.073±0.006	0.102±0.015	2.898±0.204	1.221±0.094	1.951±0.124	0.133±0.047	0.261±0.034	0.031±0.002	0.383±0.010
長崎県	大崎	0.257±0.035	0.062±0.009	0.054±0.009	1.939±0.131	0.812±0.113	0.436±0.052	0.101±0.029	0.145±0.037	0.028±0.002	0.364±0.011
	大崎	0.161±0.011	0.051±0.002	0.037±0.006	1.718±0.056	0.948±0.030	0.179±0.018	0.191±0.026	0.137±0.019	0.024±0.002	0.340±0.006

表VI-2-1-4 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	元 素 比									
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
熊本県	小 国	0.317±0.023	0.127±0.005	0.063±0.007	1.441±0.070	0.611±0.032	0.703±0.044	0.175±0.233	0.097±0.017	0.023±0.002	0.320±0.007
	南 関	0.261±0.016	0.214±0.007	0.034±0.003	0.788±0.033	0.326±0.012	0.278±0.015	0.069±0.012	0.031±0.009	0.021±0.002	0.243±0.008
	嶺 岳	0.258±0.009	0.214±0.006	0.033±0.005	0.794±0.078	0.329±0.017	0.275±0.010	0.066±0.011	0.033±0.009	0.020±0.003	0.243±0.008
	冠 岳	0.261±0.012	0.211±0.008	0.032±0.003	0.780±0.038	0.324±0.011	0.279±0.017	0.064±0.011	0.037±0.006	0.025±0.002	0.277±0.009
	白 浜	0.208±0.021	0.101±0.009	0.024±0.006	1.382±0.086	1.021±0.099	0.351±0.037	0.162±0.027	0.027±0.022	0.022±0.007	0.317±0.009
宮崎県	桑ノ木津留										
	” 第一群	0.207±0.015	0.094±0.006	0.070±0.009	1.521±0.075	1.080±0.048	0.418±0.020	0.266±0.034	0.063±0.024	0.020±0.003	0.314±0.011
	” 第二群	0.261±0.015	0.094±0.006	0.066±0.010	1.743±0.095	1.242±0.060	0.753±0.039	0.205±0.029	0.047±0.036	0.022±0.002	0.323±0.019
鹿児島県	日 東	0.262±0.018	0.143±0.006	0.022±0.004	1.178±0.040	0.712±0.028	0.408±0.025	0.100±0.018	0.029±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006
	五 木	0.266±0.021	0.140±0.006	0.019±0.003	1.170±0.064	0.705±0.027	0.405±0.021	0.108±0.015	0.028±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006
	上 牛 鼻	1.629±0.098	0.804±0.037	0.053±0.006	3.342±0.215	1.188±0.013	1.105±0.056	0.087±0.009	0.022±0.009	0.036±0.002	0.391±0.011
	平 木 場	1.944±0.054	0.912±0.028	0.062±0.005	3.975±0.182	1.184±0.011	1.266±0.049	0.093±0.010	0.021±0.010	0.038±0.003	0.408±0.010
	竜 水	0.514±0.032	0.167±0.008	0.063±0.009	1.524±0.079	0.619±0.038	0.719±0.054	0.115±0.019	0.082±0.016	0.037±0.003	0.523±0.009
	長 谷	0.553±0.032	0.137±0.006	0.065±0.010	1.815±0.062	0.644±0.028	0.553±0.029	0.146±0.021	0.066±0.020	0.037±0.003	0.524±0.012
台湾		0.510±0.010	0.198±0.007	0.038±0.007	1.862±0.079	0.353±0.019	0.519±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010
長野県	NK遺物群	0.566±0.019	0.163±0.007	0.086±0.011	1.822±0.084	0.467±0.031	1.691±0.064	0.102±0.021	0.041±0.028	0.038±0.003	0.500±0.014
	H Y 遺物群	0.238±0.011	0.131±0.006	0.048±0.008	1.636±0.066	0.418±0.028	1.441±0.015	0.482±0.024	0.029±0.028	0.020±0.015	0.481±0.068
青森県	SN 1 遺物群	0.287±0.006	0.087±0.004	0.033±0.005	1.597±0.037	0.244±0.011	0.258±0.011	0.281±0.012	0.009±0.012	0.021±0.006	0.329±0.006
	SN 2 遺物群	0.209±0.006	0.116±0.006	0.076±0.008	1.571±0.082	0.716±0.035	0.292±0.017	0.264±0.029	0.028±0.030	0.023±0.009	0.383±0.015
北朝鮮	会寧城外遺物群	0.135±0.012	0.062±0.006	0.017±0.003	1.118±0.051	0.585±0.036	0.068±0.019	0.150±0.022	0.372±0.035	0.025±0.004	0.319±0.012
	跡遺物群										
ロシア	イリスタヤ遺物群	8.888±2.100	6.088±0.868	0.293±0.032	7.963±2.608	0.055±0.017	2.716±0.162	0.163±0.019	0.036±0.030	0.173±0.029	1.674±0.240
標準試料	JG - 1 ^{a)}	0.755±0.010	0.202±0.005	0.076±0.011	3.759±0.111	0.993±0.036	1.331±0.046	0.251±0.027	0.105±0.017	0.028±0.002	0.342±0.004

平均値と標準偏差値、* : ガラス質安山岩 NK遺物 (NK) 群 : 中ッ原遺跡、HY遺物 (HY) 群 : 日和山遺跡出土の産地不明の原石群

a) : Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974). 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol.8, 175-192.

表VI-2-2 キウス7遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果

分析 番号	元 素 比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
52701	0.099	0.033	0.083	3.098	1.504	0.321	0.343	0.000	0.019	0.240
52702	0.235	0.069	0.085	2.343	0.899	0.450	0.261	0.000	0.027	0.375
52703	0.260	0.070	0.089	2.573	1.120	0.522	0.273	0.000	0.030	0.361
52704	0.272	0.071	0.082	2.260	0.983	0.442	0.270	0.049	0.027	0.373
52705	0.263	0.070	0.052	2.304	1.018	0.411	0.339	0.065	0.029	0.394
52706	0.250	0.062	0.069	2.286	1.085	0.457	0.356	0.000	0.030	0.395
52707	0.259	0.073	0.095	2.307	1.058	0.434	0.238	0.000	0.030	0.373
52708	0.184	0.062	0.084	2.821	1.329	0.294	0.322	0.047	0.027	0.346
52709	0.243	0.069	0.090	2.141	0.937	0.425	0.220	0.000	0.027	0.370
52710	0.135	0.056	0.060	2.230	1.106	0.442	0.314	0.000	0.027	0.318
52711	0.260	0.075	0.079	2.286	1.142	0.461	0.336	0.000	0.027	0.365
52712	0.251	0.067	0.088	2.190	0.954	0.493	0.207	0.030	0.026	0.371
52713	0.248	0.073	0.087	2.430	0.961	0.459	0.243	0.000	0.027	0.370
52714	0.259	0.079	0.081	2.068	0.965	0.417	0.241	0.000	0.000	0.346
52715	0.182	0.052	0.079	2.246	1.114	0.454	0.159	0.000	0.024	0.271
52716	0.271	0.075	0.045	2.395	1.034	0.437	0.231	0.098	0.029	0.388
52717	0.267	0.069	0.086	2.536	1.088	0.463	0.351	0.039	0.031	0.401
52718	0.217	0.063	0.092	2.611	1.159	0.457	0.352	0.043	0.026	0.334
52719	0.148	0.043	0.061	2.513	1.067	0.404	0.313	0.000	0.017	0.263
52720	0.277	0.080	0.068	2.769	1.247	0.525	0.292	0.035	0.000	0.369
52721	0.258	0.077	0.076	2.475	1.074	0.416	0.321	0.035	0.031	0.397
52722	0.273	0.074	0.062	2.593	1.065	0.420	0.340	0.000	0.000	0.382
52723	0.270	0.082	0.047	2.238	1.076	0.485	0.337	0.000	0.033	0.403
52724	0.253	0.073	0.078	2.661	1.142	0.447	0.311	0.034	0.031	0.406
52725	0.249	0.070	0.085	2.675	1.155	0.505	0.345	0.041	0.030	0.403
52726	0.249	0.074	0.082	2.276	1.131	0.456	0.286	0.000	0.028	0.411
52727	0.270	0.067	0.052	3.110	1.128	0.540	0.341	0.086	0.032	0.414
52728	0.266	0.074	0.066	2.386	1.049	0.478	0.329	0.000	0.000	0.369
52729	0.230	0.069	0.073	2.515	1.027	0.405	0.332	0.042	0.027	0.354
52730	0.275	0.073	0.059	2.662	1.096	0.477	0.355	0.000	0.027	0.403
JG-1	0.768	0.228	0.077	3.674	1.002	1.320	0.261	0.058	0.016	0.226

JG-1: 標準試料-Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol.8 175-192 (1974)

表VI-2-3-1 キウス7遺跡出土の黒曜石製遺物の原材産地推定および水和層結果 (北海道千歳市)

分析番号	遺物番号, 出土区, 層	遺物	原産地(確率)	判定	遺物の3ヶ所 水和層厚さ(μm)	分類-形態 (備考)
52701	2, A2-81-a, V層	赤石山(D2=105)	赤石山	+	2.104 2.170 2.225	石鏃-1a類
52702	12, Y-74-d, V層	赤井川第2群(9%), 赤井川第1群(1%)	赤井川	+	3.909 4.081	石鏃-4類
52703	2, F2-80-d, V層	浪岡(54%), 成田(22%), 赤井川第1群(7%)	赤井川	+	4.237 4.511	石鏃-4類
52704	1, U-74-a, V層	赤井川第1群(98%), 赤井川第2群(51%), 十勝三股(7%)	赤井川	+	表面傷反射光不足測定不能	石鏃-2類
52705	7, B2-69-d, V層	十勝三股(7%), 戸門第1群(4%)	十勝	+	2.610 2.648 2.795	石鏃-6類
52706	15, B2-72-d, V層	浪岡(12%), 十勝三股(7%), 成田(10%)	十勝	+	3.564 3.617 3.671	石鏃-3類
52707	5, E2-76-c, V層	赤井川第2群(38%), 赤井川第1群(27%)	赤井川	+	4.249	つまみ付ナイフ-1類
52708	8, X-71-a, V層	赤石山(82%)	赤石山	+	4.370 4.560 4.792	つまみ付ナイフ-2類
52709	61, LH-30, 覆土3層	赤井川第1群(31%), 赤井川第2群(17%)	赤井川	+	4.400 4.505 4.596	スクレイパー-1類
52710	2, D2-72-d, V層	風化層厚い			表面傷反射光不足測定不能	スクレイパー-1類
52711	2, X-76-a, V層	十勝三股(45%), 戸門第1群(15%), 赤井川第1群(1%)	十勝	+	3.816 3.858 3.958	スクレイパー-1類
52712	3, W-73-d, V層	成田(9%), 浪岡(4%), 赤井川第1群(1%)	赤井川	+	表面傷反射光不足測定不能	Rフレイク
52713	1, C2-77-a, V層	赤井川第2群(38%)	赤井川	+	3.784 3.849 4.015	Rフレイク
52714	236, LH-28, 床面	赤井川第2群(54%), 赤井川第1群(3%)	赤井川	+	4.374 4.553 5.408	石核
52715	1, X-73-c, VI層	成田(3%), 浪岡(1%), 赤井川第1群(1%)	赤井川	+	3.618 3.629 4.220	石核
52716	88, LH-36, 覆土3層	成田(1%), 十勝三股(0.2%)	十勝	+	4.734 4.739 5.132	細石刃
52717	7, D2-73-b, VI層	戸門第1群(19%), 十勝三股(4%), 浪岡(1%)	十勝	+	4.594 4.599 4.677	Rフレイク
52718	32, D2-73-b, VI層	浪岡(0.5%), 十勝三股(0.3%)	十勝	+	4.745 4.904 4.936	Rフレイク
52719	77, D2-73-b, VI層	試料薄い、風化層厚い			?3.085 ?3.793 ?3.801	石核
52720	79, D2-73-b, VI層	戸門第1群(2%), 十勝三股(D2=57), 赤井川第1群(D2=68)	十勝	+	4.069 4.812 4.890	石核
52721	86, D2-73-b, VI層	十勝三股(3%)	十勝	+	4.705 4.789 4.921	細石刃
52722	105, D2-73-b, VI層	戸門第1群(4%), 十勝三股(D2=33), 赤井川第1群(D2=42)	十勝	+	4.901 4.945 5.071	細石刃

表VI-2-3-2 キウス7遺跡出土の黒曜石製遺物の原産地推定および水和層結果(北海道千歳市)

分析番号	遺物番号, 出土区, 層	原石産地(確率)	判定	遺物の3ヶ所水和層厚さ(μm)		分類-形態(備考)	
				4.057	4.130		4.474
52723	6, E2-71-d, VI層	十勝三股(5%)	十勝	4.057	4.130	4.474	細石刃
52724	16, E2-71-d, VI層	戸門第1群(4%), 十勝三股(0.2%), 赤井川第1群(0.06%)	十勝	5.388	5.423	5.467	細石刃
52725	22, E2-71-d, 攪乱	浪岡(12%), 戸門第1群(22%), 十勝三股(0.2%)	十勝	4.038	4.074	4.374	細石刃
52726	19, E2-73-a, VI層	十勝三股(24%), 戸門第1群(28%), 赤井川第1群(4%)	十勝	6.453	6.475	6.622	細石刃
52727	63, E2-73-a, VI層	十勝三股(1%), 戸門第1群(1%)	十勝	5.150	5.357	5.389	細石刃
52728	13, E2-73-c, VI層	戸門第1群(18%), 十勝三股(6%), 浪岡(4%)	十勝	4.539	4.542	4.733	細石刃
52729	14, E2-73-d, VI層	戸門第1群(1%), 十勝三股(D2=45), 赤井川第1群(D2=56)	十勝	4.109	4.190	4.572	細石刃
52730	29, E2-73-d, VI層	浪岡(12%), 戸門第1群(22%), 十勝三股(0.2%)		4.529	4.790	4.841	細石刃

表VI-2-4 黒曜石原産地分析・年代測定試料

試料No.	分類	形態	グリット	遺物No.	層位	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g
1	石鏃	4b	A2-81-a	2	V層	2.40	1.18	0.24	0.60
2	石鏃	3a	Y-74-d	12	V層	(2.06)	1.01	0.27	0.50
3	石鏃	3a	F2-80-d	2	V層	(2.98)	1.01	2.80	0.80
4	石鏃	2	U-74-a	1	V層	(4.39)	1.13	0.50	2.50
5	石鏃	7	B2-69-d	7	V層	3.50	1.45	0.55	2.20
6	石鏃	1	B2-72-d	15	V層	3.83	1.47	1.06	4.30
7	つまみ付ナイフ	4	E2-76-c	5	V層	(3.40)	3.47	1.18	14.9)
8	つまみ付ナイフ	3	X-71-a	8	V層	3.39	3.64	0.78	8.30
9	スクレイパー	6	LH-30	61	覆土3層	4.43	2.81	1.29	14.80
10	スクレイパー	5	D2-72-d	2	V層	3.26	2.68	0.82	7.00
11	スクレイパー	6	X-76-a	2	V層	4.16	2.27	0.97	10.30
12	Rフレイク	—	W-73-d	3	V層	4.22	2.65	1.46	14.70
13	Rフレイク	—	C2-77-a	1	V層	2.90	3.40	9.0	9.70
14	石核	—	LH-28	236	床面	(1.76)	1.72	1.19	2.00)
15	石核	—	X-73-c	1	IV層	(2.43)	3.64	1.24	10.6)
16	細石刃	—	LH-36	88	覆土3層	(2.33)	0.71	0.20	0.30
17	細石刃	—	D2-73-b	7	VI層	(2.44)	9.1	2.0	0.40
18	細石刃	—	D2-73-b	32	VI層	(2.47)	0.72	0.16	0.20
19	細石刃	—	D2-73-b	77	VI層	(2.71)	0.65	0.23	0.40
20	細石刃	—	D2-73-b	79	VI層	(2.12)	0.82	0.19	0.40
21	細石刃	—	D2-73-b	86	VI層	(2.43)	0.92	0.25	0.50
22	細石刃	—	D2-73-b	105	VI層	(2.73)	0.67	0.20	0.40
23	細石刃	—	E2-71-d	6	V層	(2.98)	0.67	0.37	0.60
24	細石刃	—	E2-72-d	16	VI層	(3.26)	0.70	0.22	0.50
25	細石刃	—	E2-72-d	22	攪乱	(3.28)	0.64	0.20	0.50
26	細石刃	—	E2-73-a	19	VI層	(3.36)	0.76	0.31	0.50
27	細石刃	—	E2-73-a	63	VI層	(2.51)	0.54	0.17	0.20
28	細石刃	—	E2-73-c	13	VI層	(2.29)	0.62	0.27	0.40
29	細石刃	—	E2-73-d	14	VI層	(2.14)	0.86	0.20	0.40
30	細石刃	—	E2-73-d	29	VI層	(2.97)	0.86	0.20	0.40

欠損品は () 付きで計測。

3. キウス7遺跡から出土した炭化植物種子について

吉崎昌一・椿坂恭代

1) 遺跡と調査の概要

遺跡の名称：キウス7遺跡

遺跡の所在：千歳市中央852-75ほか

調査の機関：財団法人北海道埋蔵文化財センター

調査担当者：財団法人北海道埋蔵文化財センター 熊谷仁志、皆川洋一、笠原 興

調査期間：平成9年5月6日～10月25日

遺跡の年代：縄文時代早期～続縄文時代

検出遺構：縄文時代早期後半のコッタロ式土器を伴う住居跡、縄文時代後期初頭の余市式土器を伴う住居跡、縄文時代後期後半の柏木川式土器を伴う住居跡、ならびに後期中葉の手稲式土器を伴う住居跡と土壇、墓と考えられる土壇、縄文時代晩期の土壇墓、続縄文時代後半の焼土。

2) 扱った資料

調査者によれば、調査地区はキウス川左岸の段丘を含む緩斜面上に位置する。発掘調査で検出された縄文時代早期後半、縄文時代後期初頭、縄文時代後期後半の各時期住居跡からそれぞれに土壌が採取されている。土壌は、調査班の手でフローテーション処理がなされ、そこから抽出された植物遺体について第一次選別作業後、資料が送付されてきた。資料は実体顕微鏡を使用して同定と撮影を行った。検出された種子の種類、数量、層準と遺構名、時期についての一覧表として作成しておいた(表VI-3-1)。

3) 検出された種子

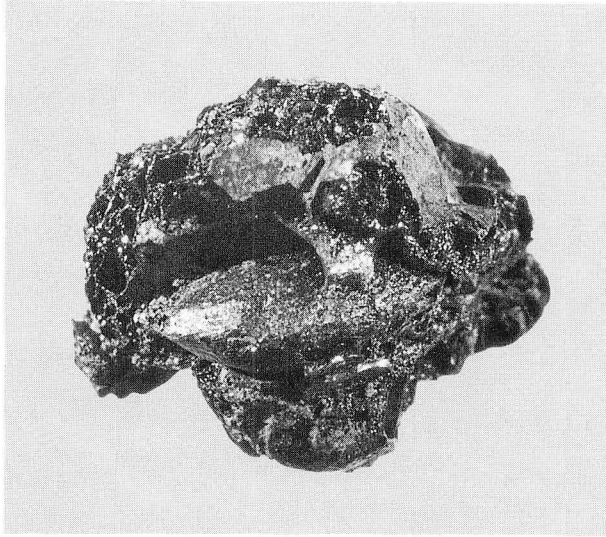
縄文時代早期後半の住居跡の堀込み面と生活面の間から炭化したキハダ属*Phellodendron* Rupr.の種子が1粒と、ミズキ属*Cornus* L.の種子破片が1片出土している(図版VI-3-2・3)。

縄文時代後期初頭の住居跡床付近の覆土1層から、キハダ属*Phellodendron* Rupr.の果実が1個出土した。(図版VI-3-1)

縄文時代後期後半の住居跡床面からクルミ属*Juglans* L.が破片で1.0g出土(図版VI-3-4a,b)。その他不明種子が1粒出土しているが資料のダメージが大きく同定できなかった。種子の形態からはヒルガオ属*Calystegia* R.Brに類似する。

4) 若干のコメント

検出された植物種子は、ごく僅かであった。そのどれもが、北海道の縄文時代遺跡に普遍的に見られる種類である。余市式土器を伴った住居からは、種子を内包したままのキハダの果実が炭化して出土している。この種類の出土状態も、良く知られるものである。アイヌ民族は、この実をシケレペとよび、乾燥して保管、ラタシケプ(rataskep)などの煮物に入れて使用していた。キハダの実が果肉付きでよく出土する理由として、縄文時代にもアイヌ民族例に見られるのと同様な利用方法があり、竪穴住居の炉の上の設置された棚などで乾燥させていた可能性が強いと考える。



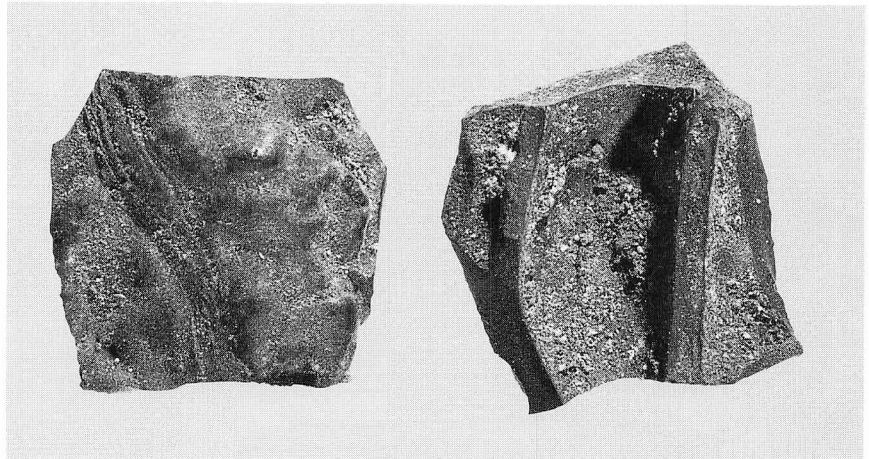
1 キハダ属果実



2 キハダ属種子



3 ミズキ属



4 a クルミ属表面

4 b 内面

図版 VI-3-1 炭化種子

表 VI-3-1 キウス7 遺跡出土炭化種子一覧

資料 No.	遺構名	土壌採取位置 (グリッド)	層位	時期	キハダ属果実 (個)	種子 (粒)	ミズキ属 (片)	クルミ属 (g)	不明 (粒)	伴出土器型式
1	住居跡 (LH-29)	A2-81-a-4	床面下 (3~5cm)	縄文時代早期後半			1			コッタロ式
4	住居跡 (LH-29)	Z-81-b-2	床面下 (3~5cm)	縄文時代早期後半		1				コッタロ式
5	住居跡 (LH-34)	HF-1周辺	床付近覆土1層	縄文時代後期初頭	1					余市式
6・7・8	住居跡 (LH-39)	F2-73-d-3	床面	縄文時代後期後半				1.00	1	柏木川式
合計					1	1	1	1.00	1	

VII ま と め

1. 遺 構

見つかった遺構の時期は縄文時代早期後半のものを主体に、中期後半、後期前～末葉、晩期末葉などである。

a 早期

縄文時代早期後半のコッタロ式土器を伴う時期の遺構には竪穴式住居跡9軒、土壇6箇所、焼土などがある。さらに、それ以外では同時期の可能性をもつものに土壇11箇所もある。これらはコッタロ式という一つの土器型式の時間幅の中で所謂「集落」を構成すると考えられる。

この時期の住居跡と考えられるのは、LH-28・29・30・32・33・35・36・38・42の9軒である。平面形は円もしくは楕円で規模的には径が約8～9mに達する大型のもの（LH-28・28・30・32）と径約5～7mに収まる中型のもの（LH-33・35・36・38・42）とがある。深さは推定される掘り込み面から、約0.4～0.5mが平均的な中でLH-28だけが約0.7mに達しており、時期がやや異なるか何らかの特殊な機能もしくは位置づけにあった可能性が考えられる。ほとんどのものには床面中央付近に炉跡と考えられる焼土が位置している。柱穴が最も良好に検出されたのは床面がⅧ層に達していたLH-28である。Ⅷ層のEn-Pに作られた柱穴には土質の異なる腐植土やローム質土などの土壌がはいっており、床面に配置された柱穴に関しては完全に調査された良好な資料である。他の住居の床はⅦ～Ⅷ層の境界辺りに作られており、なおかつ柱穴覆土に明瞭な腐植土が入るものが少なく検出状況は極めて悪いものであるが、僅かに検出された柱穴の配置から考えて、これらもLH-28と同様の柱穴群を有していたものと考えられる。また、入り口部と考えられる遺構の構造はどの住居跡からも検出されていない。

9軒の住居跡には特徴的な配置をもつものが見られる。LH-28・38は2軒が「串団子」の様に連なって作られている。また、LH-35・42・30・32・36・33、そして竪穴状の遺構であるLP-93を含めると、各遺構が間隔の密な馬蹄形に配置されている。当然、新旧の遺構が偶然にこのような配置を生んだ可能性は否定されるものではない。しかし、遺構内の遺物の出土状況から見て、各遺構にそれほど大きな時期差があるとは考えられず、また、古い住居を避けて再度竪穴を掘り直す理由や意味は別の解釈が必要となる。縄文時代早期後半の住居配置には一部が重複して連なっていたり（金子遺跡：標茶町教育委員会（1976）、複数の住居が接近して立てられていたり（美沢2遺跡：北海道教育委員会（1978）、美沢3遺跡：北海道埋蔵文化財センター（1988）、川上B遺跡：同（1980、1982）、環状に配置されるもの（納内6丁目付近遺跡：同（1989））などの類例が多く、これらが全て新旧の住居跡が重複する現象とするには無理があるように思える。これらの竪穴住居がほぼ同じ時代のものとした場合、民族例から考えて、これら各遺構の配置は独立した核家族によって共有される施設構成の一形態を表している可能性が高いといえる（図VII-1）。そして、これら複数の核家族が一定の独立空間を有しながらもお互いの生活が伺える距離にあるとき、これらは生活領域を共有する単位集団（血縁的な世帯共同体、または血縁的集団、あるいはバンド）を構成するといえるのではないだろうか。また、配置されたと考えられる遺構でLH-38・LP-93に関しては床面に炉跡がなことから、これらが貯蔵や収蔵といった機能を有する付帯施設であった可能性がある。

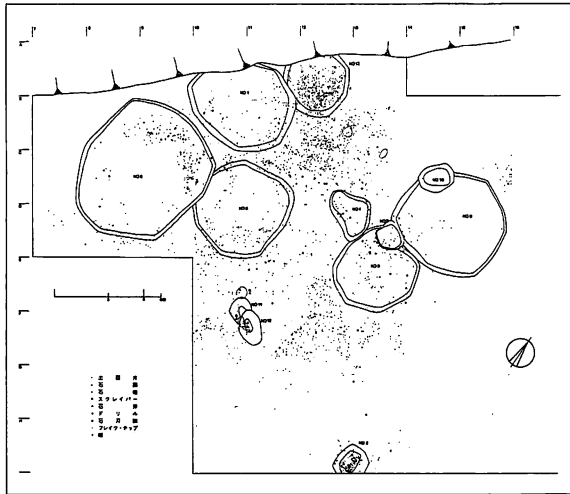
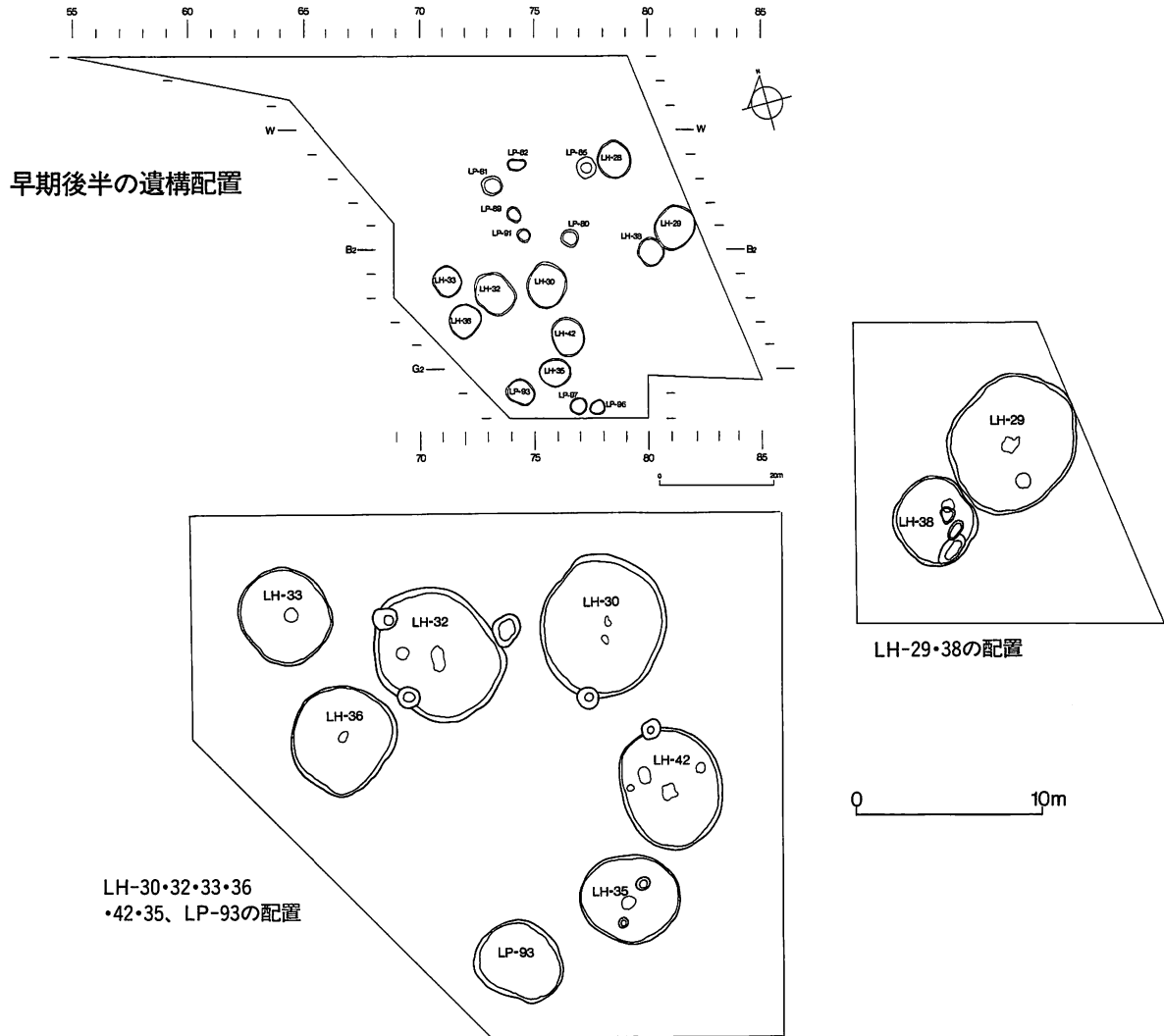
次に一部の住居の覆土と遺物出土状況には数次に渡って竪穴を利用したと考えられる痕跡が認められることについて述べる。各竪穴の覆土は大きく見た場合上位にⅤ層の腐植土を主体とするものが堆

積しており、下位には En-a を主体とするものが床面までを埋めている。遺物は主に厚く堆積する下位の En-a を主体とする覆土に含まれている。これらの覆土の観察から考えられる上屋の構造は、屋根に En-a を主体とする土を盛った「土被覆式」の住居である（渡辺 仁 1981）。それゆえに、住居を放棄後屋根が朽ち崩落した En-a を主体とする大量の盛り土で竪穴内が埋没するのが、推定される En-a を主体とする覆土形成のプロセスである。En-a を主体とする覆土の層厚が中央部で薄くなるのは、出入り口が屋根の中央に作られていたのかもしれないが、いずれにせよ断面が中央に向かって緩やかなスロープを描く堆積状況のものが多く、この覆土中に含まれる遺物は壁にあったものが、盛り土の崩落とともに落ちたと考えられるものも多い。調査の段階ではこの覆土中に不明瞭ながら壁状の立ち上がりが認められ、その形状に沿って遺物が流れ込んでいる例もある。床面の遺物も掘り込みの面から上のレベルで面をなして出土する場合も見られ、出土する土器から見ても床面に同じ I 群 b-2 類の中でも新旧のものがほぼ同じレベルで出土していることなどから、これらは一度埋没した竪穴を再構築した痕跡ではなかろうかと云う疑問が生じる。このような観点で見ると、ほぼ掘り込み面まで En-a を主体とする覆土が堆積する LH-43、LP-93 の覆土断面は、他のものと状況が異なり、場合によっては再構築されずに埋没したとも捉えられ、それを反映したものか V 層上面で確認された掘り上げ土の広がり LH-43、LP-93 付近では見られない。つまり、この V 層上面で確認された掘り上げ土の広がりも数次にわたる住居の再構築の結果として捉えられるのだ。

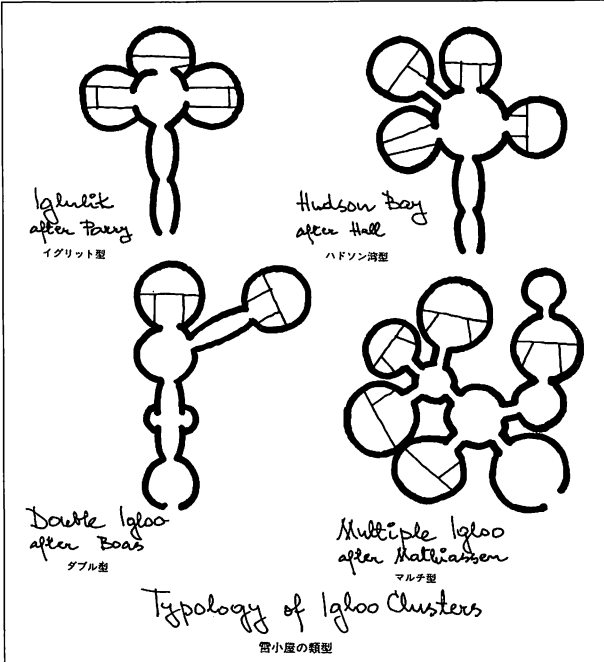
さて、これらの事象が意味するところは、季節など一定の周期でこの場所に戻ってくる生活（集団移動）を行っていた可能性があるということだろう。これに関連すると考えられる遺構・遺物の特徴

表VII-1 早期後半住居の出土遺物点数

		床			覆土				
		I 群土器	剥片石器	礫石器	I 群土器	剥片石器	礫石器	石・土製品	
1	LH-28	118	0	2	6	0	0	0	床の土器が多い。覆土の土器は新手のものである。
2	LH-29	2	0	1	8	2	2	0	床・覆土とも遺物は少ないが、礫石器に特徴を有す。
3	LH-30	0	0	0	63	9	8	0	覆土にだけ遺物が出土しているが、その中でも床に近い覆土 2・3 層出土の割合が高い。再構築の可能性がある。
4	LH-32	80	1	2	538	8	11	3	床・覆土とも多数の遺物が出土しているが、礫石器が多く覆土 3 層とそれに相当する覆土のものが突出している。再構築と遺物廃棄の可能性がある。
5	LH-33	0	0	0	235	2	3	0	覆土から多数の遺物が出土しているが、礫石器が顕著であり床に近い覆土 3 層のものが多く、再構築による床面があった可能性がある。
6	LH-35	7	0	0	60	8	5	0	遺物は床で少なく覆土で多く出土している。床に近い覆土 3 層のものが多く、再構築の可能性がある。剥片石器が多い。
7	LH-36	2	0	0	81	6	11	0	遺物は床で少なく覆土で多く出土している。床に近い覆土 3 層のものが多く、再構築の可能性がある。礫石器が多い。
8	LH-38	297	0	0	13	1	0	0	床で土器 1 個体が潰れた状態で出土している。
9	LH-42	1	6	2	214	5	5	0	床で剥片・礫石器が出土する。覆土は主に覆土 2・3 層から出土している。剥片石器が多い。



上：金子遺跡（1976）で検出された遺構の配置
 右：エスキモーの雪小屋の配置
 （ノーバート・ショウナワー1985から抜粋）



図VII-1 早期後半の遺構配置と類例他

が一つある。各遺構内で復元に耐えうる土器の出土は1個体(LH-38)だけであるが、これは、廃絶した住居から使える土器は大方持ち出したと考えるなら当然のことである。しかし、一方で石斧、たたき石、すり石、台石など礫石器類に関しては思いのほか残存しており、これらは意図して置いていったと考えられるのだ。この場合更に進めるなら、匂のある植物質の食料の加工を目的とした施設でその季節以外は他の場所に移動し、その季節になると帰ってきて再び残していった礫石器を使用すると云ったことや、狩猟漁猟を主軸に置いた生活と貯蔵可能な植物質の食料を中心にした生活とを時期的に分けて営んでおり、これもその時期になると帰ってきて置いてあった礫石器類を再度使用するといった様なことも考えられる。

早期後半の土壌はLP-81・82・89・91・93・96・97の6個所である。この他にその可能性のあるものがLP-82・85・86・100~107の11個所である。LP-81・93は所謂「竪穴状遺構」である。LP-81は組紐圧痕文の施されるI群b-2類の古手土器が床から出土しており、早期の中では最も古いと考えられる。LP-89・91・96・97は平坦な床面に単独の小ピットをもつ小型竪穴状の土壌である。埋め戻しと考えられるEn-a主体の覆土断面には陥没の痕跡が認められ、この覆土上面からは複数の個体からなる土器片が出土する。上屋構造を有する作業場とすることもできるが、覆土と遺物の出土状況から墓的な性格も伺えもする。特にLP-89・91は同じ個体の土器が分けて入れられており、これらが並んで作られた点を考えても作業場以上の意味を有する可能性が高い。

早期遺構群の南と北にある焼土は、同時期の土器分布と重なる傾向にある。I群b-2類の土器はキウス7遺跡全体の中でも極めて限定された範囲でしか出土しておらず、これらと重複する遺構に関しても同じ時期の所産である可能性が高い。例えば夏季の居住区であったり作業空域であったり集団の共有空間であったりしたと考えられる。

LP-86・100~107などのIX層にまで達する大型の柱穴状ピットに関しては、更に検討を加える余地が残るものの、住居内では壁際に位置するものもあり、全体的には早期後半の遺構群の分布とほぼ重なる傾向にあるため、前述の同時期の可能性を持つLH-28・29・30・32・35・38・42などの床面で検出された土壌も含めてこの時期の遺構群に関する可能性がある。

この各遺構内で見つかるものと類似する大型の柱穴状ピットが、遺構外でどのような出土状況を見せるかに目的を絞り調査を実施した。特に遺構に隣接した部分を含む範囲のVIII層(En-P)上面までを重機で除去し大型柱穴状ピットのプラン検出に努めた結果、特に図示した区画で集中して検出されたものである。調査の方法はプランの記録後、全てに対して、VIII層(En-P)を含むIX層までの半切を行い、覆土と周囲の地層の堆積状況を観察した(図VII-2・3)。

個々に共通する特徴は以下の通りである。検出面のVIII層上面でのプランは円形で、深さはIX層にまで達すると考えられ、上部がやや広がる円筒形ものがほとんどである。壁は堅く締まり、床および壁の周囲の土層には乱れはない。

覆土は主にEn-a(VII・VIII層)が主体となる1~3層で充填されており、上位の1層はVII層に相当するローム質土、次の2層はそのローム質土とEn-Pが混じっているもので、1・2層は堅く締まりのある堆積である。断面の形は上位で幅が広く下位に向かって先細りになるもので、土質から考えて上位堆積層からの流れ込みと考えられる。1層の上位には稀にVI層に似た薄い腐植土が入るものもある。最後の3層は弱く赤化した比較的大粒のEn-Pで、これは締まりがなく僅かな力で崩落する様に掘れる。また、下位の3層は観察者によって異なった見解があるものの、うえから崩落したと考えられるやや大粒のEn-Pが酸化で変色していることから考えて何らかの状態IX層まで達していた可能性は極めて高い。また、類似の形態と覆土とをもつLH-35HP-2の覆土3層中からは朽ちかかっ

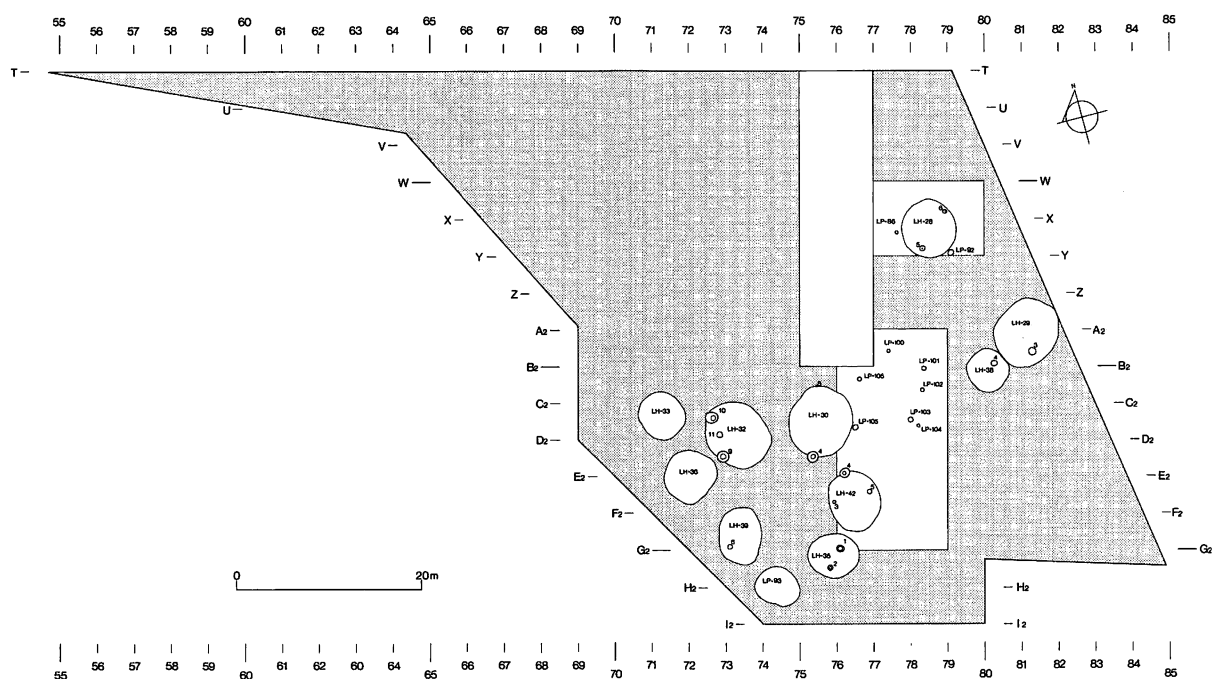
た材の痕跡が見つかったことや、いくつかの類似遺構直下のIX層上面にマイナスドライバー状の浅い溝が認められ、これらはピット内に収まっていた柱によるものの可能性が考えられる。

掘り込み面は覆土中に腐植土の顕著な混入が見られないことから考えてVI~VII層と推定される。

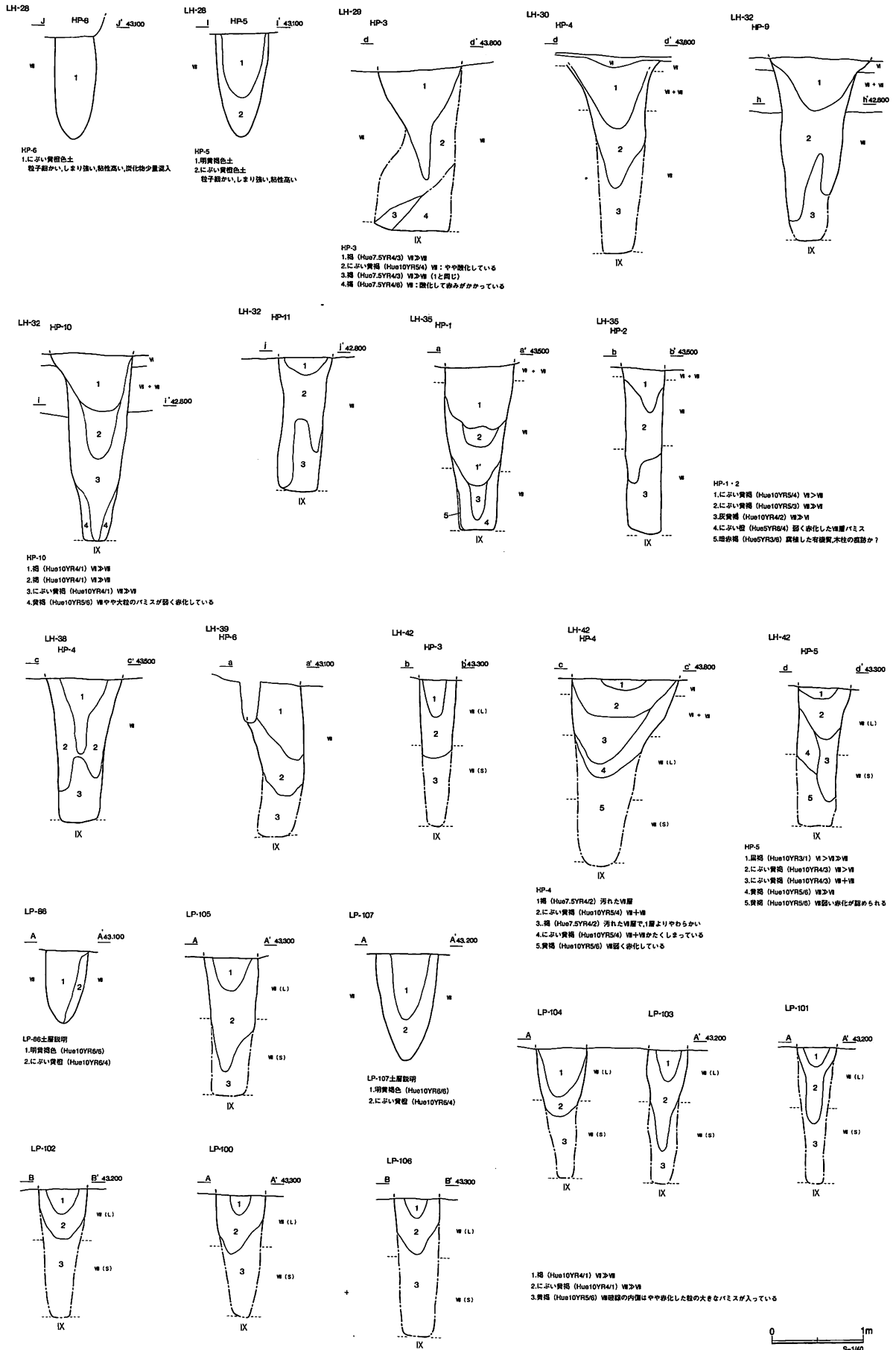
これらには意図的な配置が伺えるため、何らかの遺構に伴う柱の配列が考えられる。ただし、この部分だけで7箇所が見つかっており、他にも含めるとかなりの数量になる。また個々の規模から考えてこれらに伴う遺構規模もそれなりに大きなものと推定され、この場合、それに比定可能なのは早期の遺構群と遺物である。事実各住居跡の壁際床面やその付近、もしくは床で検出されるものが多数見られる。しかし、覆土に含まれる腐植土の割合は非常に少なく、想定される遺構の時期は常識的には更に古い時期を考えなくてはならないが、それらと比定できる遺構・遺物は存在しないように思える。

現状で、意見は大きく分かれる。一つは自然現象によるものとする意見である。En-aが降下する以前に自生していた立ち木が埋没しそれが朽ちた結果生じた現象であるとするものである。個別に見た場合、流れ込んだ遺物が見られないこと、柱が朽ちた痕跡（腐植土）が見られないこと、人為的な匂いが薄いことがなどがあげられる。また、大きく見た場合、今回と類似の遺構がキウス4遺跡でも検出されており、それらには早期の遺構・遺物は伴わない。離れた遺跡の間で類似のものが遺構・遺物を伴わないで見つかる場合、より広範囲な自然現象の一部とするのは無理のない考え方である。しかし、「日本のポンペイ」と呼ばれる鹿児島県指宿市橋牟礼川遺跡で見つかった、古墳時代の火山埋没の立木は、木の根木になるほど径が広くなり、根のはっていた下位の地層にも、その根がくちた後に上位の火山灰が落ち込んでいる状況等が調査観察されている^{#1)}。そのため、時期がやや異なるが今回検出された土壌群の断面形に下位が広がるものがほとんど無いことやIX層に木根の痕跡が見られないことなどには違和感を感じえない。

もう一方の人為的な所産とする意見には、異なる時期の見解がある。検出される位置が早期住居の壁付近からのものが多いことと、全体的な確認範囲が早期の遺構群のそれとほぼ重なることから縄文時代早期遺構群の一部とする見解と、各遺構との斬り合いが見られず覆土に腐植土がほとんど混入しないことから、それ以前の遺構とする見解である。後者の場合、唯一可能性があるのは旧石器時代と

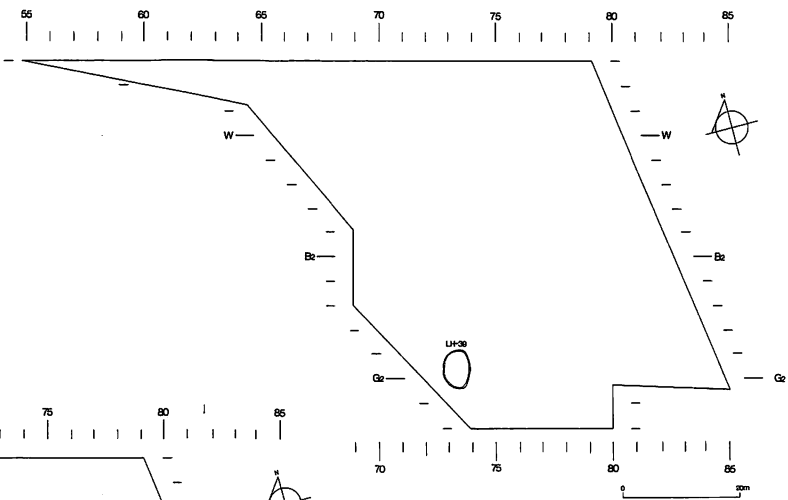


図VII-2 大型柱穴状遺構の位置と調査範囲

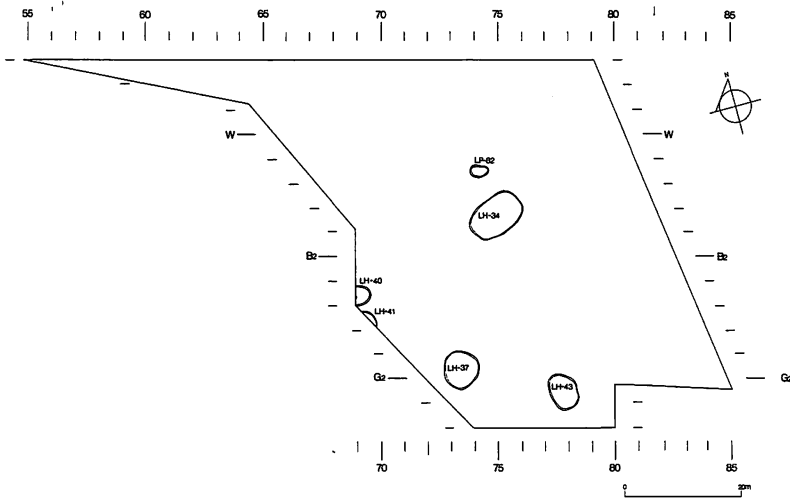


図VII-3 大型柱穴状遺構の断面図

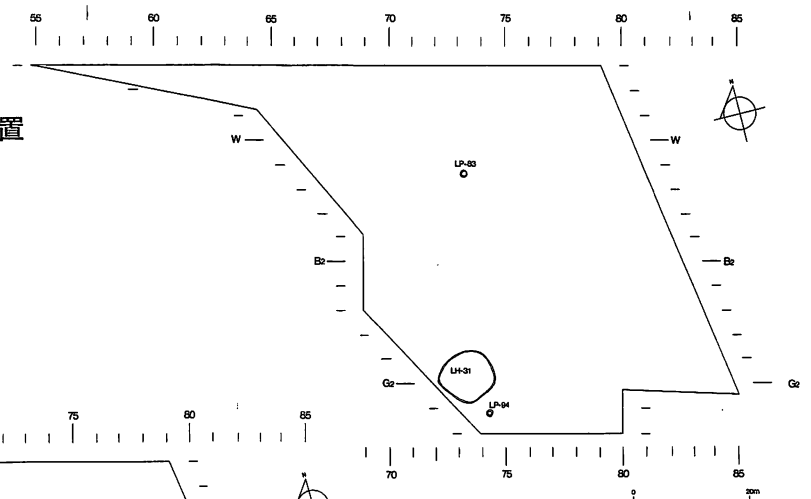
中期後半の遺構配置



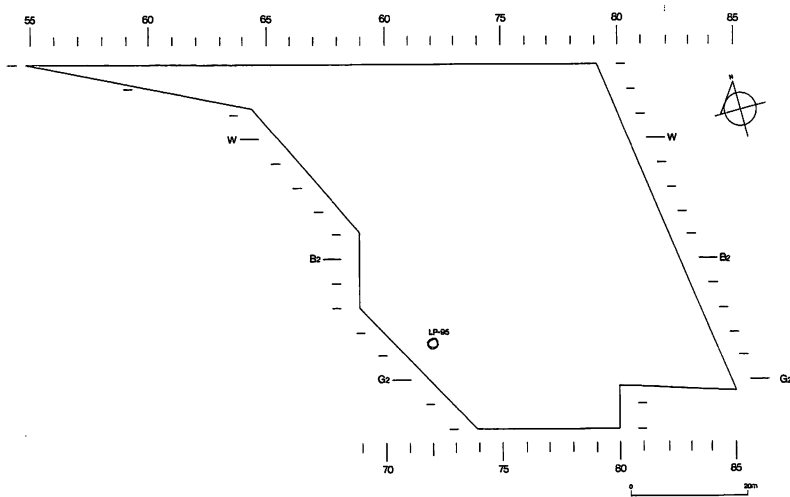
後期前葉の遺構配置



後期中～末葉の遺構配置



晩期末葉の遺構配置



図VII-4 縄文時代中～晩期の遺構配置

なるが、この時期にこれだけの大きな規模の遺構の存在を肯定するのは一般的には難しいだろう。

以上これらの見解で、現在もっとも妥当と考えられるのは早期の遺構群に伴うという考えである。ただしこの場合は覆土に腐植土の混入が少ない点と何らかの理由で埋め戻しを行ったことも考慮にいれた埋没のシステムについてのより妥当な裏付けが必要である。

ここまで調査の結果得られた事項について述べてきたが、今後も類例を待って検討を進める必要がある。個別に見た場合、今回包含層から検出したLP-100～106に関しては一定区域に集中しておりそれらの位置関係に配列らしきものがかいま見えることから、住居もしくは、囲いなどの構築物、また、その他に関してはトーテムポール状の構築物の可能性が考えられる。

なお、LP-105に関してはLH-30の壁に近い位置にあり、この住居に強く関る可能性がある。

注1)平成10年3月24日現在、鹿児島県指宿市考古博物館「時遊館COCOはしむれ」にて展示中。

b 中期 (図VII-4)

縄文時代中期後半はLH-39の竪穴式住居一軒が検出されている。遺構の上部をLH-31・37に破壊された焼失家屋で、上屋を構築していた材の一部が炭化して残っている。床面からは土器、石器などとともに土製円盤や矢柄研磨器が出土している。

c 後期 (図VII-4)

縄文時代後期前葉の遺構は竪穴式住居が5軒と墓と考えられる土壇3箇所が見つまっている。

住居はLH-34・37・40・41・43の5軒である。LH-34・37・43は竪穴の掘り込みが浅いタイプのものでLH-40・41はやや掘りが深く小型であるようだ。LH-34・37には大型礫を使った石囲い炉、LH-43には土器囲い炉が検出されている。LH-40・41に関しても床から炉跡と考えられる焼土が見つまっている。

土壇はLP-88・98・99の3箇所である。いずれもLH-37の周辺に位置しており、LP-98・99は遺構の上部をLH-31によって失われているが、本来的にはLP-88と同じ規模を有していたものと考えられる。覆土は埋め戻し土と考えられ、遺体は残っていないが土壇墓の可能性が高いと考えられる。LP-88・98・99の土壇3箇所はLH-37の下位に重複するLH-39の周囲に位置することにもなり、これらの時期はLH-39の縄文時代中期後半になる可能性もある。

縄文時代後期中～末葉の遺構は竪穴住居跡1軒と土壇2箇所が見つまっている。住居はLH-31で、大型の平面形と浅いプランを持ち、下位には重複するLH-37・39が位置しておりそれらの遺物がかかなりの数で混入している。土壇はLP-83・94の2箇所である。いずれも円形のプランを有する小型の土壇で覆土は埋め戻しの可能性が高い。LP-83はプランに近い掘り込みと同じレベルの包含層中にIV群b類の浅鉢形土器が一個体出土し、LP-94は覆土上位からT・U-72グリッドのものと接合するIV群b類の深鉢形土器が出土している。これらは規模が小型であるが、覆土と遺物から墓的な性格を有すと考えられる。

また、後期前～末葉の遺物は埋没しつつある各住居の竪穴の窪みで出土する傾向が認められる。特に、LH-28はV層上面においても大きく窪んでおり、その内部や周りの包含層からは多数のIV群b・c類土器が出土していることから、それらの窪みを利用した作業が行われていた可能性がある。

d 晩期 (図VII-4)

縄文時代晩期末葉の遺構はLP-95が見つまっている。LH-36の覆土と床を切って掘り込んだ円形プランを有する大型の土壇で、覆土は埋め戻しが行われ、その上位からは大量の黒曜石フレイク・チップと長楕円のたたき石が出土している。土壇墓と考えられる。

e フローテーションの成果 (図VII-5、表VII-2)

今回検出された各遺構については、必要性に応じて床などの土壌を対象にしたウォーターセパレーションによる資料の抽出を行っている。主眼に置いたのは礫石器の類が多数出土した縄文時代早期後半の住居群から炭化種子等を見つけだすことである。

住居(LH)・土壌(LP)の対象となる土壌は、かかる各グリッドの小グリッドを更に四分割した1m毎のメッシュを基本に取り上げを行った。遺構床面の炉跡を中心にその周辺と床全域に渡って床～掘り込みの面までの土壌を数回に分けて採取して(図VII-5)、焼土(LF)は赤化した部分を採取した。

採取した土壌は容積測定後に数日間乾燥させウォーターセパレーションによる選別を行った。得られた浮遊物と残渣は実体顕微鏡とルーペによる選別作業を経て炭化種子、炭化物、土器片、チップ、礫などに分けて記録した(表VII-2)。

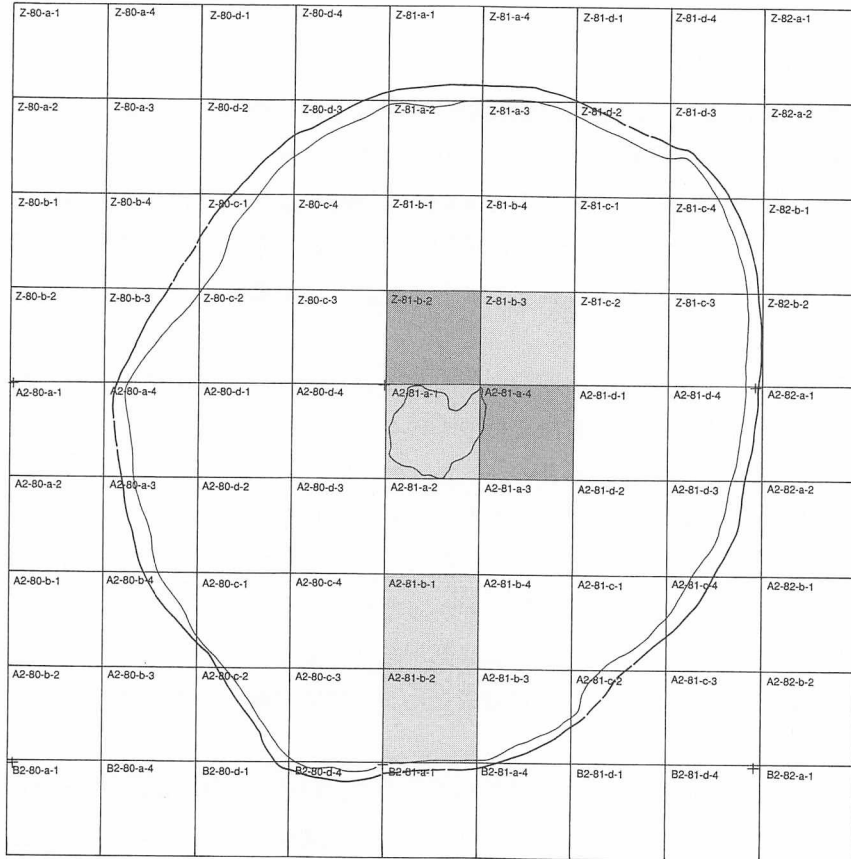
炭化種子が検出された住居はLH-29(縄文時代早期後半)、LH-34(縄文時代後期前葉)、LH-39(縄文時代中期後半)の3軒である。なお、得られた炭化種子に関しては札幌国際大学吉崎昌一教授、北海道大学椿坂恭代女史に鑑定をお願いした(VI章1節)。

早期の住居からは期待した程の成果が得られなかったと言うのが正直なところである。原因としては各住居に対して再構築を繰り返している可能性を踏まえた土壌採取を行えなかった点が上げられる。これに関連して、安定した遺物配置が見られるLH-29で幾許かの資料が得られたのは偶然では無いと考えられる。しかし、以上の成果は縄文時代早期後半の住居群の礫石器類を優位とする遺物出土状況と炭化種子の検出状況の関連を知る上で一つの事例とできよう。

表VII-2 フローテーション成果資料一覧

	採取土壌容 容量	水洗土壌容 容量	選別土壌容 容量	炭化種子	炭化物の有無と 採取土壌容量	チップの有無と 採取土壌容量	採取土壌位置	選別資料の位置
LH-29	1,743.1	1,743.1	505.7	キハダ・ ミズキ	有り/495.7	有り/36.0	炉跡・炉跡周辺 床・床全域	炉跡・炉跡周辺 床・床全域
LH-30	3,337.2	1,122.2	989.0		有り/800.5	有り/45.0	炉跡・炉跡周辺 床・床全域	炉跡・炉跡周辺 床・床全域
LH-32	3,444.5	414.5	6.0		有り/6.0		炉跡・炉跡周辺 床・床全域	炉跡・炉跡周辺 床
LH-33	64.0	55.0	9.0		有り/9.0		炉跡・炉跡周辺 床	炉跡・炉跡周辺 床
LH-34	64.0	28.9	10.0	キハダ	有り/10.0	有り/10.0	炉跡・炉跡周辺 床	炉跡・炉跡周辺 床
LH-35	282.0	282.0	118.0		有り/118.0	有り/5.0	炉跡・炉跡周辺 床・床全域	炉跡・炉跡周辺 床・床全域
LH-36	18.5	15.0	5.0		有り/5.0	有り/2.5	炉跡・炉跡周辺 床	炉跡
LH-37	29.5	24.5	13.0		有り/13.0	有り/13.0	炉跡・炉跡周辺 床	炉跡
LH-38	64.4	64.4	0.0				炉跡・炉跡周辺 床	
LH-39	260.0	255.0	90.0	クルミ ヒルガオ	有り/58.0	有り/45.0	炉跡・炉跡周辺 床・床全域	炉跡・炉跡周辺 床・床全域
LH-42	330.0	325.5	297.0		有り/287.0	有り/28.5	炉跡・炉跡周辺 床・床全域	炉跡・炉跡周辺 床・床全域
LH-43	41.5	37.0	18.5		有り/185.0	有り/18.5	炉跡・炉跡周辺 床	炉跡・炉跡周辺 床
LP-88	7.0	7.0	0.0				床	
LP-90	7.0	7.0	0.0				床	
LP-95	4.0	4.0	0.0				覆土	
LF-255	4.3	0.0	0.0				焼土	
LF-257	4.0	4.0	4.0		有り	有り/4.0	焼土	焼土
LF-258	6.0	6.0	6.0		有り	有り/3.0	焼土	焼土
LF-260	1.1	1.1	1.1		有り		焼土	焼土
LF-261	4.5	4.5	4.5		有り	有り/0.45	焼土	焼土
LF-264	94.4	78.5	78.5		有り	有り/33.0	焼土	焼土
LF-265	20.5	15.5	15.5		有り		焼土	焼土
LF-266	14.5	14.5	0.0				焼土	
LF-267	26.5	26.5	19.0		有り		焼土	焼土
LF-268	30.0	30.0	30.0		有り	有り/7.0	焼土	焼土
LF-269	0.5	0.5	0.5		有り		焼土	焼土
LF-270	5.0	5.0	5.0		有り		焼土	焼土
LF-271	11.0	11.0	11.0		有り	有り/6.0	焼土	焼土
LF-272	25.0	25.0	25.0		有り	有り/8.0	焼土	焼土
LF-273	1.5	1.5	0.0				焼土	
LF-274	8.0	8.0	8.0		有り		焼土	焼土
LF-275	35.5	35.5	35.5		有り	有り/23.5	焼土	焼土
LF-276	0.5	0.5	0.5		有り		焼土	焼土
LF-277	6.0	6.0	6.0		有り	有り/6.0	焼土	焼土
LF-278	4.0	4.0	4.0		有り		焼土	焼土
LF-279	1.5	1.5	1.5		有り		焼土	焼土
LF-280	1.0	1.0	1.0		有り		焼土	焼土
LF-282	2.5	2.5	0.0				焼土	
LF-283	2.5	2.5	0.0				焼土	
LF-284	14.5	14.5	0.0				焼土	
LF-285	14.0	14.0	0.0				焼土	
不明	22.4	0.0	0.0					
	10,057.8	4,698.6	2,317.7					

LH-29

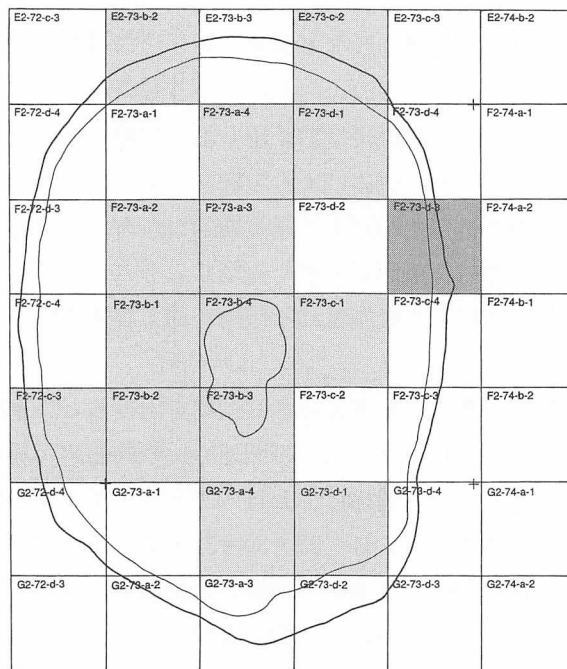


0 2m

LH-39

凡例

- : 炭化種子採取グリッド
- : 撰別実施グリッド



0 2m

図VII-5 炭化種子を採取した住居と土壌サンプルメッシュ

2. 遺物

a 遺構と包含層の土器 (図VII-6)

遺構及び包含層から最も多く出土した早期後半のものを主体に述べる。

V層の早期遺構と包含層から多数出土したI群b-2類(コッタロ式)に相当する土器群は、この遺跡の主体となる時期のもので、いくつかの特徴から時期的な差異を内包すると考えられる。時期的な差異いわばコッタロ式と言う土器の一形式の期間と考えられ、本遺跡の主体をなす早期後半の集落はこの期間に営まれたと考えられ、後続すると考えられる中茶路式の成立直前には廃棄されたと推定できる。

時間幅を示す特徴には、コッタロ式の前段に成立していたとされる東釧路Ⅲ式的な特徴を持つものや後続すると考えられる中茶路式的な特徴を持つものなどが見られ、なおかつその間を埋める様な形態や特徴の変化が追える点などが上げられる。

今回出土した土器群に見られる東釧路Ⅲ式的な特徴をまず以下に述べる。

口縁～底部の径が大きく懸け離れない器形で、器壁は比較厚手く内面には手づくねの様な指の跡が多く見られ、口唇断面は角形で口唇の端が外側に向かって張り出す。底部は下端部が張り出すと言えるが、口縁部で広がり底部で窄まる器形に備わる底部下端部の張り出しについては、やや過度に張り出す傾向が見られ、これについてはコッタロ式の成立において別系統の影響が存在した痕跡を示す可能性がある。

器面の貼付帯は、太い粘土紐が疎密に付けられるもので、粘土紐の断面は盛り上がりの大きな蒲鉾型を呈する傾向がある。文様は太い原体が使われる短縄文、縄線文、組紐圧痕文、縄文などが施される。

次に中茶路式的な特徴を以下に述べる。

器形は胴部に膨らみ加わる深鉢形のもので占められており、これに口縁部や底部が異形を呈すもの、小型の器形を呈するものなども見られる。

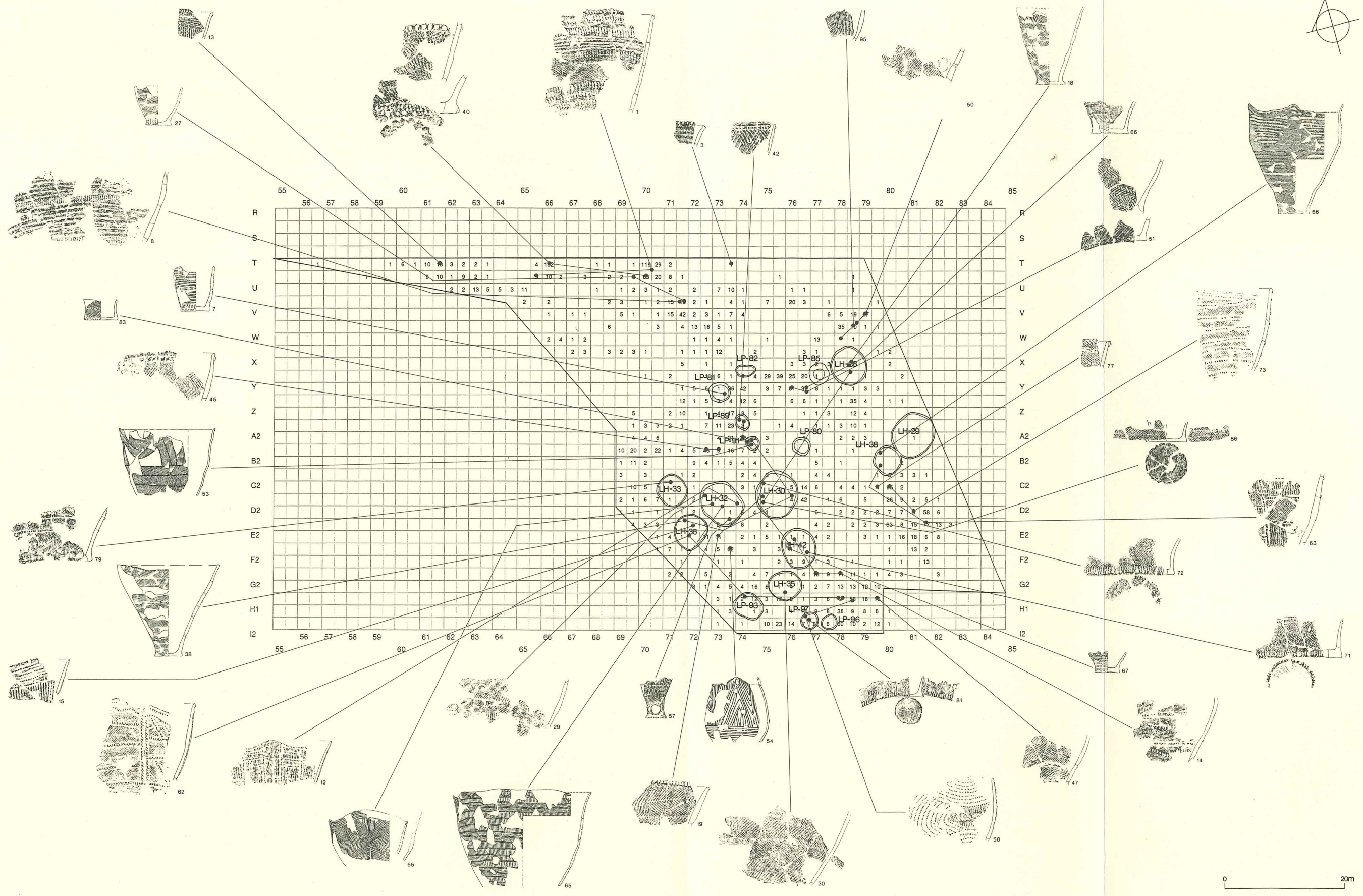
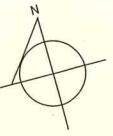
器壁は薄く、口唇部の断面は丸形、先細り形などが多くあり、口縁部は波状や山形突起が付くものなどが多く、更に断面の傾きが外に広がるもの、内側に向かうものなども見られる。底部は径が比較的大きく下端部の張り出しは弱い。器面の貼付帯は粘土紐も細く比較的密に施される。方向も縦横斜目に付けられ区画の意匠も強い。文様は細い原体による短縄文、絡条体圧痕文、縄文などが施される。

これらの間を埋める様な形態やその変化が追える過渡期的な点を以下に述べる。

器壁は薄くなり、それにとまって口唇断面が丸形や先細りのものが多くなる傾向にある。底部の張り出しは弱くなり、器面の貼付帯は細く密に施される傾向が伺え施文原体は次第に細かいものが仕様される。

次に、この特徴をふまえて強く関連すると考えられる遺構を上げると、東釧路Ⅲ式的な特徴を示す土器群と関連するのはLP-81で、LH-28・30との関連も比較的強い可能性がある。中茶路式的な特徴を示す土器群と関連すると考えられる遺構は、LH-29・38・30・32・42、過渡期的な特徴を示す土器群と関連すると考えられる遺構は、LH-28・30・32・33・35・36・LP-93である。

これらと、包含層の土器との接合関係を見ると各住居の遺物はその周辺のものと同接合する傾向が伺え、また同じ土器群の特徴をもつものがその近くに纏まる傾向も見られる。破損した土器などは住居周辺に廃棄されたと考えて良いだろう。また、これらの土器群は過年度の調査でも極めて限定された区域でのみ確認されており、「記憶」を共有する人々により継続的な生活が営まれた可能性が高いと考えられる。



図VII-6 I群b-2類土器の出土位置

以上のことから、土器の新旧である程度の遺構の新旧関係の傾向をつかむことが可能である。しかし、複数の土器群が同じ遺構から出土する事象などは、移動や定住的な生活に伴う住居の再構築や再回帰など当時の社会生活に強く関連すると考えられ、土器の一形式の中での新旧関係や遺構の消長を押しえた上でより具体的な検討が必要である。

b 遺構の石器

縄文時代早期後半（コッタロ式期）

まず、大きな傾向として上げられるのは住居から出土する礫石器類の出現率の高さである。壁に付近の床やそれに近い覆土から蛇紋岩製の石斧、たたき石、扁平礫を使ったすり石、断面三角形のすり石、台石などが出土する。これらはいずれも良く使い込んだ痕跡が見られるもので、出土状況や位置から考えて愛用のものがそのままの状態に残された印象が強い（LH-29・30・32・33・36・42）。この傾向は植物性の食料の摂取率が高かった可能性を示すと考えられる。

剥片石器類は覆土中から出土するものが多く、そのほとんどに破損部が認められる。これらの出土状況は土器のそれに似ており、土器と同じく最終的には遺棄もしくは廃棄されたものと考えられる。機种的には石鏃などポイント類が少ないのも特徴の一つである。ただし、LH-35・42などは剥片石器そのものの割合が高くその中にポイント類も含まれている。これは、剥片石器の割合が多いもの（LH-35・42）と礫石器の割合が高いもの（LH-29・32・33・36）とに別れる傾向と合わせて、核家族の中に置ける役割の違いやSEXによる居住の区域を表している可能性が考えられる。

また、遺構内で出土する剥片石器と礫石器のちぐはぐな出土傾向は、この「集落」の持つ役割に関連する可能性が高い。

石・土製品はLH-32だけで出土している。LH-32は竪穴内で出土する遺物量が突出して多く、少なくとも一時期周囲の遺構から「ごみ捨て場」的な扱われ方がなされていたとも考えられるが、貴少品の異形土器や石・土製品の存在はLH-32の位置づけに特別なものが存在した可能性を示していると考えられる。

中期後半（柏木川式期）

LH-39は意図的に焼失された住居と考えられるが、遺物に関しては良好な石器類のセット資料が得られている。ポイント、スクレイパー、石斧、すり石、矢柄研磨器、土製品はいずれも床で見つまっている。

後期前葉（余市式期）

各遺構内では、ポイント、スクレイパーなど黒曜石製の縦長薄片を素材とした石器が多数出土している。礫石器では砂岩製の砥石が比較的多く出土している。

c 包含層の石器

平成9年度包含層出土の石器総数は3,634点(旧石器時代の遺物を除く)である。内訳は剝片石器(剝片・破片含む)1,961点、礫石器(礫・礫片含む)1,673点である。剝片・破片、礫・礫片を除く石器の合計は557点で剝片石器250点(45%)、礫石器307点(55%)である。

器種別に見ると石鏃が10%、石槍4%、石錐4%、つまみ付ナイフ4%、スクレイパー9%、楔形石器3%、Rフレイク6%、Uフレイク3%、石核2%、石斧・擦り切り残片17%、たたき石9%、すり石7%、砥石17%、石皿・台石5%である。

【剝片石器群】

剝片石器群の石材には、過年度までのキウス7遺跡のものとはほぼ同様で、黒曜石が主に用いられており、全体の約88%を占める。その他には頁岩、片岩、チャート、珪岩等がある。

包含層出土の石鏃は55点である。長身のもの(2類)2%、柳葉形(3a類)約16%、五角形(3b類)約4%、三角形凹基(4a類)約11%、三角形平基(4b類)約5%、有茎形(7類)約38%、細分の困難な破片や未成品(8類)約24%となっている。層位別にみるとⅢ層出土のものは9点、Ⅴ層41点、Ⅵ層5点となる。本遺跡の主体となる縄文時代早期後半コッタロ式に伴うものは柳葉形(3a類)と考えられ、Ⅲ層1点、Ⅴ層5点、Ⅵ層3点となっている。有茎形のはⅢ層2点、Ⅴ層18点、Ⅵ層1点である。いずれも調査区の中央から南側にかけての出土が目立つ。

石槍・両面加工ナイフは破損しているものが多いため、特徴がつかみにくい。出土資料の大半は両面加工が施され、断面はレンズ状を呈している。明らかに茎をもつもの(1類)は3点、茎が明瞭にみられないものは5点、破片・未製品等(8類)16点となっている。

石錐は、剝片の一部に刺突部を作りだしたものが多く、定形的なものは認められない。

つまみ付ナイフは片面周縁加工のもの(3類)が主体で、欠損後も再加工を施したと思われるものが認められる。

スクレイパーは比較的出土比率の高い器種で、約18%を占めている。不定形で、素材を大きく変ることなく片側側縁または周辺に刃部を作りだしたものが多く、なかでも、縦長剝片の両側縁に刃部をもつものが比較的多く認められた。

【礫石器群】

礫石器群の主要な石器の出土数は、石斧124点、たたき石88点、すり石57点、砥石118点、石皿・台石59点である。

石斧の組成は次の通りである。擦り切り技法(1類)14%、部分的に磨かれているもの(2類)4%、ほぼ全面が磨かれているもの(3類)5%、粗割・敲打により整形されるもの(4類)8%、破片・未成品等(8類)約69%となっている。1類の素材には蛇紋岩が用いられている。

たたき石は、棒状礫を素材にしたもの(1類)17%、偏平礫を素材にしたもの(2類)22%、円礫を素材にしたもの(3類)53%、くぼみ石と称されるもの(4類)3%、破片・未成品等(8類)5%である。特に3類は100g未満のものが最も多く使われている。また、4類は主に縦長の偏平な礫を使用しており、幅広の先端部のより平坦な面に使用痕が集中している。これらは、手にもって加撃具として使用された「ハンマータイプ」のものと考えられる。形態的には握り易く、使い勝手の良いものを素材に選んでいると思われる。

すり石は、断面形が三角形状を呈するもの(1類)約23%、偏平礫を素材にしたもの(2類)32%、偏平礫を半円状に打ち欠き弦をすったもの(3類)4%、円礫を素材にしたもの(4類)33%、破片・未成品等(8類)8%となっている。また、すり石にはたたき石と機能が複合するものが比較的多く

認められた。

砥石は出土比率の高い器種であるが、不定形なものが多く、破損の認定が難しい。完形個体を基準とする記述や計測が徹底できなかった。そのため個体数との間には隔たりがあると思われる。素材は砂岩が最も多く、次いで安山岩である。板状で機能部がU字状になるものがほとんどである。

台石・石皿も砥石と同様に砂岩と安山岩が多い。破損品も多く、これらを砥石に転用していると考えられるものがある。

【旧石器時代の遺物】

(発見の経緯)

平成5年度より実施してきたキウス遺跡群の発掘調査では、旧石器時代の遺物は出土しておらず、今年度(平成9年度)調査の際に初めて確認された。当初の包含層調査終了後、III層(第1黒色土)からの出土遺物中に彫刻刃形石器と、細石刃の破片が混じっていることがわかり、その出土グリッドを精査したが、他の遺物はまったく発見されなかった。その後、調査が進行するにつれて、E2-73とD2-73グリッドが接するラインを中心としたV層(第2黒色土層)、VI層(V層とVII層の漸移層)、VII層中から旧石器時代の遺物が集中して確認された。また、縄文時代の竪穴住居跡からも旧石器時代の遺物が出土した。本来の包含層はVI~VII層(暗褐~黄褐色土層)と思われる。

【石器群の特色】

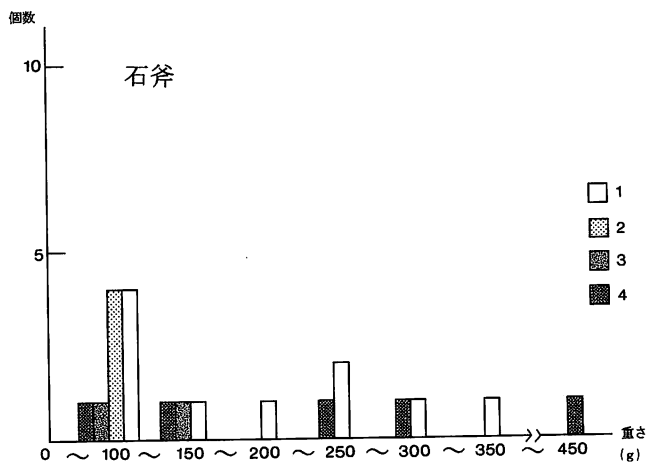
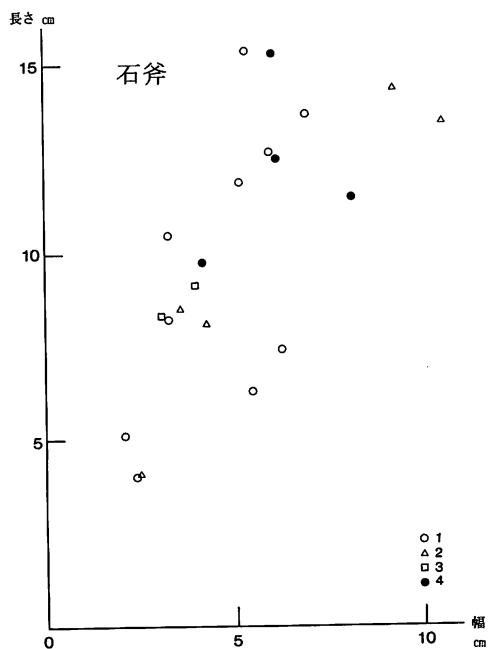
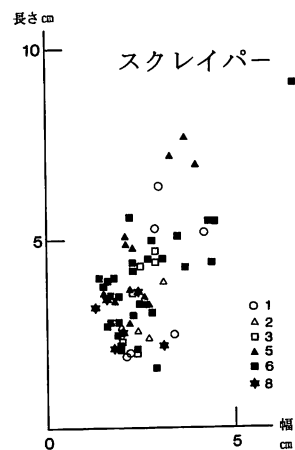
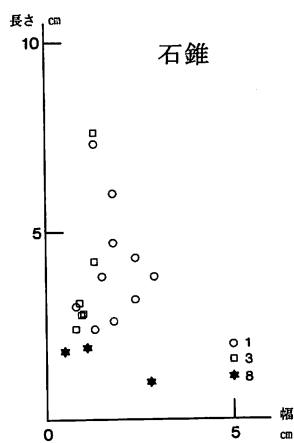
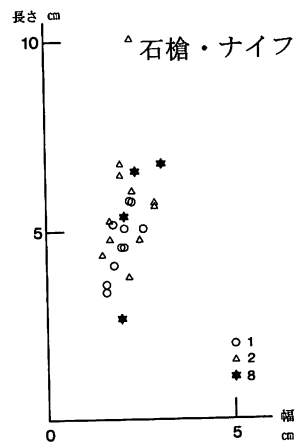
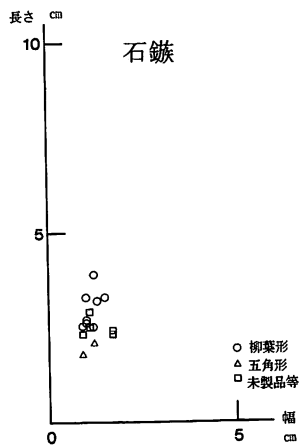
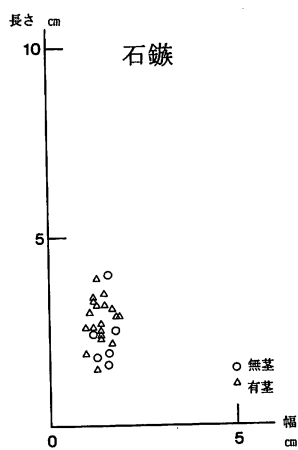
石器総数は396点。内訳は細石刃71点(18%)、細石刃核4点(1%)、彫刻刃形石器9点(2%)、打面再生剥片3点(0.8%)、石刃4点(1%)、スポール2点(0.5%)、石槍・両面加工ナイフ1点(0.2%)、石錐3点(0.8%)、スクレイパー6点(2%)、Uフレイク(使用痕付剥片)2点(0.5%)、石核1点(0.2%)、フレイク・チップ(剥片・碎片)290点(73%)である。

本石器群は、細石刃石器群である。出土層位は、遺構内から出土したものが7点、III層4点、V層4点、VI~VII層56点である。出土した細石刃はそのほとんどが頭部、中間部、末端部の破片で完形品は少ない。比率は、完形品8点(約11%)、頭部39点(約55%)、中間部8点(約11%)、末端部16点(約23%)となっている。幅の平均値は完形品が0.7cm、頭部0.8cm、中間部0.6cm、末端部0.3cmである。一部接合を試みたが、接合するには至っていない。

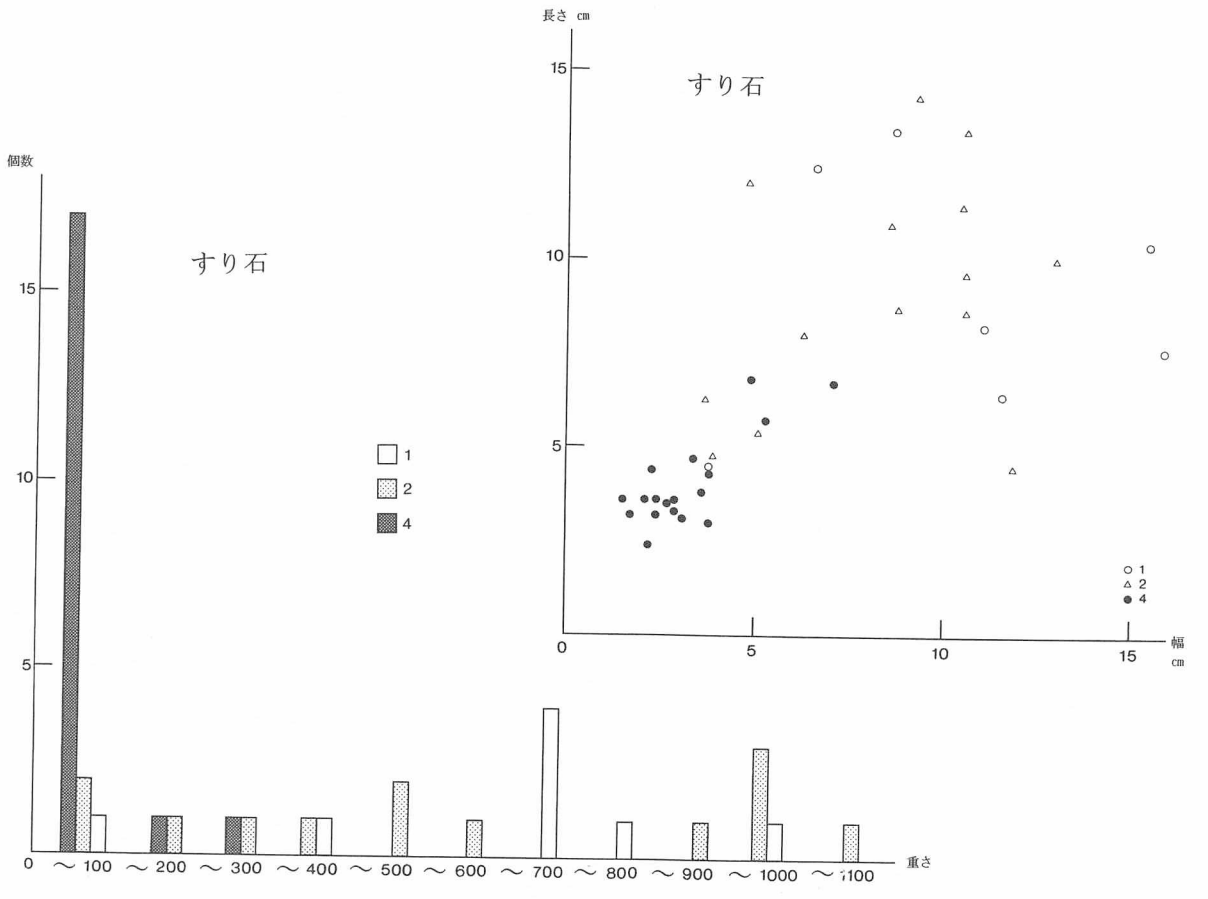
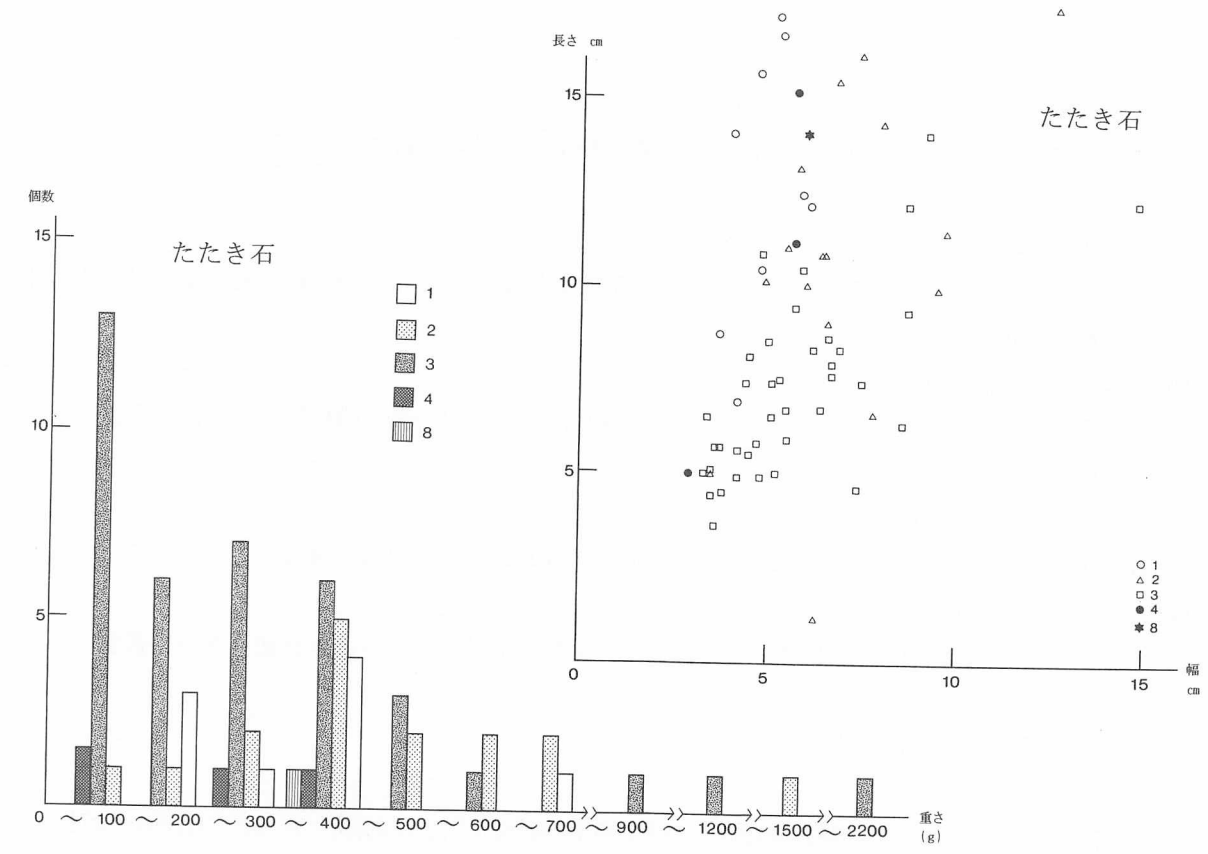
次に細石刃核は、いずれもほぼ片面加工で、細石刃剥離がかなり進行しているものの、断面形は半円筒形またはD字形に近い形状である。細石刃剥離面はいずれも未調整面側にまわりこむように剥離が行われている。出土した4点の細石刃核はおおかた峠下形細石刃核の範疇に属するものと考えられる。

彫刻刃形石器は9点出土した。このうち2点は他器種の可能性もある。出土層位は縄文時代の竪穴住居跡から1点、III層1点、V層4点、VI~VII層3点となっている。主に頁岩の縦長剥片を素材として、左肩に彫刻刀面をもつ。彫刻刀面と右側縁の角度は80°~120°でいずれも先端部は急斜度に調整され、先端が角をなして尖るように仕上げられている。さらに、石器の周縁にも調整が施されている。本遺跡から見つかった彫刻刃形石器7点は、荒屋型彫刻刃形石器の範疇に含まれるものと考えられる。剥片・碎片(フレイク、チップ)の出土資料は約290点を数えた。VI~VII層出土のものが284点を占める。定形的な石器の主な出土地点は前述したとおり、調査区中央よりやや南西側のD2・E2-73付近を中心として、ほぼ南西~北東方向に広がっていた。剥片・碎片(フレイク・チップ)の出土状況にもおおかた違いは認められないが、特にD2-72・73、E2-72・73の4グリッドから238点集中して出土している。

(笠原)



図VII-7 石器属性グラフ(1)



図VII-8 石器属性グラフ(2)

参考文献

財団法人北海道埋蔵文化財センター (1988)

美沢川流域の遺跡群Ⅷ，新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘報告書，第58集。財団法人北海道埋蔵文化財センター。

財団法人北海道埋蔵文化財センター (1989)

深川市納内6丁目付近遺跡Ⅱ，北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘報告書，第63集。財団法人北海道埋蔵文化財センター。

財団法人北海道埋蔵文化財センター (1980・1982)

川上B遺跡，北海道縦貫自動車道登別地区埋蔵文化財発掘報告書，第13集。財団法人北海道埋蔵文化財センター。

標茶町教育委員会 (1976)

釧路川中流域の縄文早期遺跡，金子遺跡。北海道川上郡標茶町教育委員会

北海道教育委員会 (1978)

美沢川流域の遺跡群Ⅱ，新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘報告書。北海道教育委員会。

ノーバート・ショウナワー (1985)

先都市時代の住居。彰国社

渡辺 仁 (1981)

竪穴住居の体系的分類：食物採集民の住居生態学的研究(Ⅰ)。北海道大学北方文化研究，第14号，1-108。

報告書抄録

ふりがな	ちとせしきうす いせき							
書名	千歳市 キウス7遺跡(5)							
副書名	北海道横断自動車道(千歳～夕張)建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第127集							
編著者名	皆川洋一、笠原 興							
編集機関	財団法人北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目							
発行年月日	平成10年3月31日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
キウス7	北海道千歳市 中央852-75ほか	01224	A-03-265	42° 52' 31"	141° 43' 52"	1997.05.06 ～10.25	3,316㎡	道路建設に伴う事前発掘調査。
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
キウス7	・集落跡	・縄文時代 早～晩期 ・統縄文時代 ・旧石器	竪穴住居跡 16軒 土壇(墓を含む)33基 焼土 37か所 集石 1か所 炭化物集中 8か所	○土器 コッタロ式・柏木川式・余市式・手稲式・堂林式・後北C ₂ -D式 ○石器 石鏃、ポイント、ドリル、つまみ付ナイフ、スクレイパー、くさび形石器、石斧、たたき石、すり石、砥石、台石、矢柄研磨器 ○旧石器 細石刃、細石刃核、彫器		○コッタロ式期の集落 ○コッタロ式異形土器 ○柏木川式焼失家屋 ○細石刃、細石刃核、彫器のブロック		

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第127集

千 歳 市

キウス7遺跡(5)

平成10年3月31日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒064-0926 北海道札幌市中央区南26条西11丁目

TEL. 011-561-3131 FAX. 011-561-0458

印 刷 三陽印刷株式会社

〒063-0061 札幌市西区西町北15丁目

TEL. 011-661-2311

